

---

# JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 8.11 SP1 PeopleBook

---

2005 年 8 月

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 8.11 SP1 PeopleBook  
SKU E1\_APPS811SP1AGA-B JPN  
Copyright © 2005, Oracle. All rights reserved.

本プログラム（ソフトウェアおよび文書）には、知的財産が含まれています。本プログラムは、使用および公開に関する制約が明記されたライセンス契約に従うことを条件として提供され、著作権、特許権などの知的財産権法および産業財産権法により保護されています。本プログラムのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは、他の独立したソフトウェアとの相互運用性の確保に必要とされる範囲または法的に規定された範囲を除き、禁じます。

本書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあります。本書の内容に問題があった場合は、当社まで書面によりご通知ください。また、当社は、本書の内容に全く誤りがないことを保証するものではありません。ライセンス契約に明示的に規定された場合を除き、形式、手段（電子的、機械的など）、および目的の如何にかかわらず、本プログラムを複写、複製、または転送することを禁じます。

本プログラムが、アメリカ合衆国政府、またはその代理として本プログラムを使用する者に提供される場合には、以下の条項が適用されます。

## U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software—Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

本プログラムは、原子力、航空、大量輸送、医療などの本質的に危険を伴う用途を目的として作成されていません。危険を伴う用途に本プログラムを使用する場合の障害対策、バックアップ、および冗長構成などの適切な措置を講じた安全性の確保は、ライセンス供与を受けた者の責任とし、これらの用途に使用された場合のいかなる損失や障害について、当社は一切責任を負いません。

本プログラムには、Web サイトへのリンクが含まれており、サードパーティのコンテンツ、製品、およびサービスへのアクセスが発生する場合があります。サードパーティの Web サイトの運用およびそのコンテンツについて、Oracle は一切責任を負いません。これらのコンテンツの使用上の全ての責任は、使用者が負うこととします。サードパーティから製品またはサービスを購入する場合は、その購入者とサードパーティの間の直接取引になります。(a) サードパーティの製品またはサービスに関する品質、(b) サードパーティとの契約におけるいかなる条件の遵守（製品またはサービスの提供、また、購入された製品またはサービスに関する保証義務など）について、Oracle は一切責任を負いません。サードパーティとの取引に伴ういかなる損失や障害について、Oracle は一切責任を負いません。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Retek は米国 Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。その他の会社名および製品名は所有各社の商標です。

## オープン ソースの利用について

Oracle は、オープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアの使用または配布について責任を負いません。また、これらのソフトウェアまたはドキュメンテーションの使用によるいかなる損失や障害についても一切責任を負いません。Oracle の PeopleSoft 製品には以下のオープンソースソフトウェアが使用される場合があります、これらには下記の免責条項が適用されます。

この製品には、Apache Software Foundation 社 (<http://www.apache.org/>) によって開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは現状のまま提供されており、商品性や特定の目的への適合性に対する保証はもとより、明示的にも暗示的にも、一切の保証はありません。Apache Software Foundation 社およびその共同提供者は、いかなる損害に対しても責任を負いません。これは、その損害が、直接的、間接的、付随的、特殊、典型的、または必然的であるか否かを問いません。また、代替品の購入や代替サービスの利用、有用性およびデータや利益の損失、業務の中断に対する保証もいたしません。本ソフトウェアの使用によるあらゆる損害の発生に対して、契約の記載や、重大な過失などによる権利侵害の有無にかかわらず、また、そのような損害の可能性について報告を受けていたとしても、Apache Software Foundation 社は一切責任を負いません。



# 目次

## はじめに

この PeopleBook について .....	xxxvii
JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識.....	xxxvii
JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎.....	xxxvii
印刷・製本されたドキュメンテーションの入手.....	xxxviii
印刷・製本されたドキュメンテーションの注文.....	xxxviii
追加情報.....	xxxix
表記規則.....	xxxix
表記規則.....	xl
注意事項の表示.....	xl
国、地域、業種の表記.....	xli
通貨コード.....	xli
ご意見・ご要望をお寄せください.....	xlii
全ての PeopleBook で使用する共通フィールド.....	xlii

## まえがき

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 - まえがき.....	xlvi
対象の製品.....	xlvi
アプリケーションの基礎.....	xlvi
この PeopleBook で使用する共通フィールド.....	xlvi

## 第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 - はじめに.....	1
一般会計システムの概要.....	1
一般会計のビジネス プロセス.....	1
一般会計のインテグレーション.....	2
(Rapid Start) General Accounting Business Processes.....	4
一般会計システムの導入.....	5
グローバル導入ステップ.....	6
一般会計システムの導入ステップ.....	6

**第 2 章**

一般会計システムの機能について.....	9
一般会計システムの機能.....	9

**第 3 章**

一般会計システムのセットアップ.....	13
一般会計システムのセットアップについて.....	13
事前設定.....	14
一般会計固定情報の設定.....	14
一般会計固定情報について.....	14
事前設定.....	15
一般会計固定情報の設定に使用するフォーム.....	16
一般会計固定情報の設定.....	16
一般会計のユーザー定義コードの設定.....	18
(RUS) Setting Up User-Defined Codes for Russia.....	19
一般会計システムの元帳タイプの設定.....	22
一般会計システムの元帳タイプ規則の設定.....	24
元帳タイプ規則について.....	24
元帳タイプ規則の設定に使用するフォーム.....	24
元帳タイプ規則の設定.....	24
一般会計システムの AAI の設定.....	27
一般目的勘定科目について.....	27
繰越利益に対する勘定科目について.....	28
財務諸表合計について.....	30
スピードコードについて.....	31
勘定集計について.....	31
調整可能範囲について.....	32
前年度の勘定科目の除去について.....	32
ビジネスユニット補足データの設定.....	32
事前設定.....	33
Vertex Sales Tax の設定.....	33

**第 4 章**

勘定残高調整の設定.....	35
勘定残高調整について.....	35
勘定残高調整の AAI の設定.....	35
残高調整コードの設定.....	36

**第 5 章**

<b>自動銀行残高照合表処理の設定</b> .....	<b>37</b>
自動銀行残高照合表処理のインテグレーション オプションの設定.....	37
銀行残高照合表インテグレーション オプションについて.....	37
変換フローのインテグレーション オプションの設定.....	37
日付パターンのインテグレーション オプションの設定.....	38
自動銀行残高照合表処理の UDC の設定.....	38
自動銀行残高照合表処理の UDC の設定について.....	38
自動銀行残高照合表の UDC の設定.....	39
相互参照の設定.....	44
相互参照について.....	44
相互参照の設定に使用するフォーム.....	45
銀行口座相互参照の設定.....	45
取引タイプ相互参照の設定.....	46
自動銀行勘定残高調整の設定.....	47
自動銀行勘定残高調整について.....	47
自動銀行勘定残高調整の設定に使用するフォーム.....	48
自動残高調整ルールの設定.....	48
自動残高調整ルールのグループへの割り当て.....	51
グループの自動銀行残高照合表勘定への割り当て.....	52

**第 6 章**

<b>予算の予測と計画の設定</b> .....	<b>55</b>
予算の予測と計画設定について.....	55
成長パターンの設定.....	55
成長パターンについて.....	55
成長パターンの設定に使用するフォーム.....	56
成長パターンの設定.....	56
ビジネスユニットへの成長パターンの割り当て.....	57

**第 7 章**

<b>資金予測の設定</b> .....	<b>59</b>
資金予測の設定について.....	59
資金タイプ コードについて.....	59
資金タイプ規則の設定.....	60
資金タイプ規則について.....	60
資金タイプ予測の設定に使用するフォーム.....	61
売掛管理と買掛管理の資金タイプ規則の設定.....	61

一般会計の資金タイプ規則の設定.....	63
資金予測レポート構造の定義.....	64
資金予測レポート構造について.....	65
事前設定.....	65
資金予測レポートに使用するフォーム.....	66
資金予測レポート構造の設定プログラム (P09523) の処理オプションの設定.....	66
資金予測レポート構造の定義.....	66

## 第 8 章

キャッシュフロー計算書の設定.....	69
資金管理について.....	69
キャッシュフロー計算書について.....	69
キャッシュフロー活動コードの設定.....	70
通常残高コードの設定.....	70
キャッシュフロー規則の設定.....	71
キャッシュフロー規則について.....	71
キャッシュフロー規則の設定に使用するフォーム.....	72
キャッシュフロー規則の設定.....	72

## 第 9 章

現金主義会計の設定.....	75
現金主義会計の設定について.....	75
現金主義会計伝票タイプの設定.....	75
現金主義会計伝票タイプの設定に使用するフォーム.....	76
現金主義会計仕訳の伝票タイプの設定.....	76
現金主義会計仕訳を除外する伝票タイプの設定.....	76
AA 元帳への現金主義伝票タイプの割り当て.....	77
現金主義会計用 AAI の設定.....	77
未充当入金 of AAI の設定.....	77
残高調整勘定の AAI の設定.....	78

## 第 10 章

52 期間会計の設定.....	79
52 期間会計の会計期間パターンの設定.....	79
52 期間会計の会計期間パターンについて.....	79
52 期間会計の会計期間パターンの設定に使用するフォーム.....	80
52 期間会計の会計期間パターンの定義.....	80

52 期間会計の報告日付の設定.....	80
52 期間会計の報告日付について.....	80
52 期間会計の報告日付の設定に使用するフォーム.....	80
会社への 52 期間会計の報告日付の割り当て.....	80
52 期間会計への変更.....	81
52 期間用再転記プログラム (R0902B) について.....	81
事前設定.....	81
52 期間用再転記プログラムの実行.....	81
52 期間用再転記プログラムのデータ選択の設定.....	81

## 第 11 章

<b>仕訳の処理.....</b>	<b>83</b>
仕訳の処理について.....	83
その他の仕訳入力の方法について.....	84
仕訳入力の処理.....	84
仕訳入力プログラムについて.....	85
仕訳の種類について.....	85
仕訳入力の機能について.....	86
未登録勘定科目コードの一時入力許可について.....	87
仕訳入力に使用するフォーム.....	88
仕訳入力 (P0911) の処理オプションの設定.....	88
仕訳入力マスター ビジネス関数 (P0900049) の処理オプションの設定.....	89
基本仕訳の入力.....	90
仕訳への添付の追加.....	91
未登録勘定科目コードを使用した仕訳入力.....	91
パーセント仕訳の入力.....	92
未転記仕訳の改訂.....	93
仕訳のコピー.....	93
未転記仕訳の削除.....	94
逆仕訳の処理.....	94
逆仕訳の入力.....	94
逆仕訳の確認.....	94
転記済み仕訳の逆仕訳への変更.....	95
モデル仕訳の処理.....	95
モデル仕訳について.....	95
モデル仕訳の作成.....	96
既存の仕訳からのモデル仕訳の作成.....	96
モデルを使用した仕訳の入力 - モデルのコピー.....	96
モデルを使用した仕訳の入力 - モデルの選択.....	97

仕訳の検討.....	97
仕訳の検討に使用するフォーム.....	97
仕訳の検討 (P0011) の処理オプションの設定.....	97
仕訳の検討.....	98
仕訳の転記.....	98
総勘定元帳への転記処理について.....	98
総勘定元帳への転記 (R09801) の処理オプションの設定.....	99
仕訳の転記.....	102
転記済み仕訳の改訂と無効化.....	103
転記済み仕訳の改訂について.....	103
転記済み逆仕訳の無効化について.....	103
転記済み仕訳の改訂と無効化に使用するフォーム.....	104
転記済み仕訳の改訂.....	104
転記済み仕訳の無効化.....	104
転記済み逆仕訳の無効化.....	105
(Rapid Start) Entering, Reviewing, and Approving Journal Entries and Posting Journal Entries.....	105
Entering, Reviewing, Approving and Posting Journal Entries.....	105
Preconfigured Processing Options for Journal Entries (P0911).....	106
Preconfigured Processing Options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049).....	106
Preconfigured Processing Options for Journal Entries with Debit/Credit Format (P0911).....	107
Preconfigured Processing Options for France Journal Entry with VAT (P09106).....	108
Preconfigured Processing Options for Great Britain VAT Journal Entry (P09106).....	108
Preconfigured Processing Options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011).....	109
Preconfigured Processing Options for General Journal by Batch (R09301).....	109
Preconfigured Processing Options for General Journal by Object Account (R09311).....	109
Preconfigured Processing Options for General Journal Post (R09801).....	110
 <b>第 12 章</b>	
<b>仕訳のバッチ処理.....</b>	<b>113</b>
仕訳のバッチ処理について.....	113
仕訳のアップロードのバッチ処理.....	114
仕訳のアップロードのバッチ処理について.....	114
仕訳のバッチ処理の実行.....	115
仕訳のバッチ処理 (R09110Z) の処理オプションの設定.....	115
バッチ仕訳処理.....	116
仕訳の改訂プログラムについて.....	116
バッチ仕訳処理に使用するフォーム.....	117
仕訳の改訂 (P0911Z1) の処理オプションの設定.....	117
処理済みバッチ仕訳の転記.....	117

処理済みバッチ仕訳の除去.....	118
-------------------	-----

## 第 13 章

<b>オフライン仕訳の処理.....</b>	<b>119</b>
オフライン処理について.....	119
オフライン処理のためのマスター テーブルのダウンロード.....	119
マスター テーブルのダウンロードについて.....	119
事前設定.....	120
オフライン マスター テーブルのダウンロード.....	120
オフライン処理用の仕訳作成.....	121
仕訳の作成について.....	121
オフライン仕訳の作成に使用するフォーム.....	121
オフライン仕訳の追加.....	121
オフライン仕訳のアップロード.....	122
オフライン仕訳のアップロード処理について.....	122
オフライン仕訳のサーバーへのアップロード.....	122
オフライン仕訳の処理.....	122
オフライン処理について.....	122
オフライン仕訳バッチ処理の実行.....	123
オフライン仕訳バッチ処理 (R09110ZS) の処理オプションの設定.....	123
取引制御レコードの更新.....	124
取引制御レコード更新プログラムについて.....	124
制御レコードの更新.....	124
オフライン仕訳の除去.....	124
処理済みオフライン仕訳の除去.....	124

## 第 14 章

<b>配賦の処理.....</b>	<b>125</b>
配賦について.....	125
配賦作成の処理について.....	126
多階層配賦について.....	127
この章で使用する共通フィールド.....	127
定期仕訳の処理.....	129
定期仕訳について.....	129
定期仕訳の計算および印刷プログラムについて.....	129
事前設定.....	130
定期仕訳処理に使用するフォーム.....	130
定期仕訳の作成.....	130

定期仕訳の計算および印刷プログラムの実行.....	131
定期仕訳の計算および印刷のデータ選択の設定.....	131
定期仕訳の計算および印刷 (R09302) の処理オプションの設定.....	132
インデックス配賦の処理.....	132
インデックス配賦について.....	132
インデックス計算および印刷プログラムについて.....	134
事前設定.....	134
インデックス配賦の作成に使用するフォーム.....	134
インデックス配賦の作成.....	135
インデックス計算および印刷プログラムの実行.....	136
インデックス計算および印刷プログラムのデータ選択とデータ順序の設定.....	137
インデックス計算および印刷 (R093021) の処理オプションの設定.....	137
変数配賦の処理.....	138
変数配賦について.....	138
変数配賦計算について.....	139
事前設定.....	140
変数配賦の処理に使用するフォーム.....	140
変数配賦の作成.....	140
変数配賦計算および印刷プログラムの実行.....	142
変数配賦計算および印刷のデータ選択の設定.....	142
変数配賦計算および印刷 (R093022) の処理オプションの設定.....	142

## 第 15 章

銀行勘定科目の残高調整.....	145
銀行勘定残高調整について.....	145
無効な支払および入金 of 残高調整.....	145
無効な支払/入金の自動残高調整プログラムについて.....	145
無効な支払の残高調整.....	146
無効な入金の残高調整.....	146
勘定科目の残高調整情報の更新.....	146
残高調整テーブルの再作成プログラムについて.....	146
事前設定.....	147
残高調整テーブルの再作成プログラムの実行.....	147
残高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定.....	147
残高調整テーブルの再作成 (R09130) の処理オプションの設定.....	147
銀行勘定科目の手動残高調整.....	148
銀行勘定科目の手動残高調整について.....	148
残高調整レポートについて.....	148
勘定科目の手動残高調整に使用するフォーム.....	149



残高調整 (P09131) の処理オプションの設定.....	149
銀行勘定科目の手動残高調整.....	149
調整済み取引の未調整取引への変更.....	151
(Rapid Start) Reconciling Bank Account Transactions Manually.....	152
Reconciling Bank Account Transactions.....	152
Preconfigured Processing Options for Rapid Start Refresh Reconciliations File (R09130).....	153
Preconfigured Processing Options for Manual Reconciliation (P09131).....	153

## 第 16 章

<b>借方と貸方の調整.....</b>	<b>155</b>
借方と貸方の調整処理について.....	155
事前設定.....	155
借方取引と貸方取引の調整.....	155
借方取引と貸方取引の残高調整に使用するフォーム.....	156
手動残高調整 (P09131) の処理オプションの設定.....	156
借方取引と貸方取引の手動残高調整.....	156

## 第 17 章

<b>銀行テープによる残高調整.....</b>	<b>159</b>
銀行テープによる残高調整処理について.....	159
銀行テープの再フォーマット.....	161
銀行テープの再フォーマットに使用するプログラムについて.....	161
カスタム再フォーマット UBE プログラムの実行.....	161
カスタム再フォーマット UBE (R09501) の処理オプションの設定.....	161
勘定科目の残高調整情報の更新.....	162
銀行テープと残高調整ワークファイルの照合.....	162
取引の残高調整に使用するプログラムについて.....	162
テープ ファイルと残高調整テーブルの照合プログラムの実行.....	162
テープ ファイルと残高調整テーブルの照合 (R09510) の処理オプションの設定.....	163
銀行テープによる残高調整の検証.....	163

## 第 18 章

<b>銀行残高照合表の処理.....</b>	<b>165</b>
銀行残高照合表の処理について.....	165
この章で使用する共通フィールド.....	165
取引コードについて.....	166
仮勘定について.....	167

銀行残高照合表取引の入力.....	168
銀行残高照合表取引について.....	168
銀行残高照合表取引に使用するフォーム.....	168
銀行残高照合表の入力 (P09160) の処理オプションの設定.....	169
銀行残高照合表取引の入力.....	172
勘定科目の残高調整情報の更新.....	174
残高調整テーブルの再作成プログラムについて.....	174
事前設定.....	174
残高調整テーブルの再作成プログラムの実行.....	174
残高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定.....	174
残高調整テーブルの再作成 (R09130) の処理オプションの設定.....	174
銀行取引明細処理プログラムの実行.....	175
銀行取引明細処理プログラムについて.....	176
事前設定.....	177
銀行取引明細処理プログラムの実行.....	177
銀行取引明細処理のデータ順序の設定.....	177
銀行取引明細処理 (R09170) の処理オプションの設定.....	177
銀行残高照合表処理レポートの検討.....	179
入金バッチ取引の処理.....	179

## 第 19 章

EnterpriseOne 一般会計における Enterprise の銀行残高照合表の処理.....	181
Enterprise 財務管理と EnterpriseOne 一般会計の統合について.....	181
Enterprise の銀行残高照合表の処理.....	182
Enterprise の会計取引の処理.....	182
会計取引の F0911Z1 テーブルへの変換.....	182
会計取引の F0911 テーブルへの転送.....	182
会計取引の F0902 テーブルへの転記.....	183

## 第 20 章

銀行残高照合表の自動処理.....	185
自動銀行残高照合表処理について.....	185
自動銀行残高照合表処理の変換フローの実行.....	186
銀行残高照合表処理の変換フローについて.....	187
事前設定.....	187
銀行残高照合表変換フローの実行.....	187
経由保管場所テーブルのデータの改訂.....	188
経由保管場所テーブルのデータの改訂について.....	188

經由保管場所テーブルのデータ改訂に使用するフォーム.....	189
電子銀行残高照合表の改訂 (P09610) の処理オプションの設定.....	189
電子銀行残高照合表の改訂.....	189
銀行残高照合表テーブルへのデータのロード.....	191
銀行残高照合表のロード プログラムについて.....	191
銀行残高照合表のロード プログラムの実行.....	192
銀行残高照合表のロード (R09612) の処理オプションの設定.....	192
銀行残高照合表テーブルのデータの改訂.....	192
銀行残高照合表テーブルのデータの改訂について.....	192
銀行残高照合表テーブルのデータの改訂に使用するフォーム.....	193
自動銀行残高照合表の改訂プログラム (P09616) の処理オプションの設定.....	193
銀行残高照合表データの改訂.....	194
顧客番号のない取引の改訂.....	195
自動銀行残高照合表処理.....	196
自動銀行残高照合表プログラムについて.....	196
自動銀行残高照合表レポートおよびメッセージについて.....	197
自動銀行残高照合表の処理プログラムの実行.....	198
自動銀行残高照合表の処理 (R09616) の処理オプションの設定.....	198
銀行残高照合表の未調整取引の残高調整.....	199
手動銀行残高照合表の残高調整プログラムについて.....	199
手動銀行残高照合表取引の残高調整に使用するフォーム.....	200
手動銀行残高照合表の残高調整 (P09631) の処理オプションの設定.....	200
未調整銀行取引の残高調整.....	200
銀行残高照合表テーブルの除去.....	204
銀行残高照合表の除去プログラムについて.....	204
經由保管場所テーブルの除去.....	204
經由保管場所テーブルの除去 (R09610) の処理オプションの設定.....	204
自動銀行残高照合表テーブルの除去プログラム.....	205
自動銀行残高照合表テーブルの除去プログラム (R09615) の処理オプションの設定.....	205

## 第 21 章

予算の作成.....	207
予算について.....	207
予算パターンについて.....	208
予算パターン コードの作成.....	210
予算パターン コードの作成に使用するフォーム.....	210
予算パターン コードの作成.....	210
勘定科目グループの予算パターン コードの変更.....	211
予算パターン コードの変更について.....	211

勘定科目グループの予算パターンコードの変更に使用するフォーム.....	211
勘定科目グループの予算パターンコードの変更.....	211
年間予算の入力.....	212
年間予算について.....	213
予算サイクルについて.....	213
事前設定.....	214
年間予算金額の入力に使用するフォーム.....	214
ビジネスユニット別申請済み予算 (P14102) と勘定科目別申請済み予算 (P14103) の処理オプションの設定.....	214
ビジネスユニット別の年間予算金額の入力.....	215
勘定科目別の年間予算金額の入力.....	217
年間予算金額の各期間への配賦.....	218
年間予算の配賦方法について.....	218
システムによる年間予算金額の配賦方法について.....	219
予算入力時の年間予算金額の各期間への配賦.....	219
年間予算の期間配賦プログラムの実行.....	220
年間予算の期間配賦 (R14801) の処理オプションの設定.....	220
予算ワークシートの作成.....	220
予算ワークシートについて.....	220
予算ワークシートの実行.....	221
予算ワークシートのデータ選択とデータ順序の設定.....	221
予算ワークシート (R14113) の処理オプションの設定.....	222
予算/実績のオンライン比較の検討.....	223
オンライン予算比較プログラムについて.....	223
予算/実績のオンライン比較の検討に使用するフォーム.....	224
オンライン予算比較 (P09210A) の処理オプションの設定.....	224
予算/実績のオンライン比較の検討.....	225
予算超過の管理.....	226
予算超過の管理について.....	226
予算チェック計算について.....	226
G/L 予算チェックレポートの実行.....	227
G/L 予算チェックレポート (R14115) の処理オプションの設定.....	227
予算明細金額の入力.....	228
勘定科目別予算明細プログラムについて.....	228
予算明細金額の入力に使用するフォーム.....	229
勘定科目別の予算明細金額の入力.....	229
予算仕訳の入力.....	230
予算仕訳について.....	230
事前設定.....	230
予算仕訳の入力に使用するフォーム.....	230

予算仕訳の入力.....	230
(Rapid Start) Enter Annual Budgets, Enter Detail Budgets, Enter Journalized Budgets, Process PC Upload, and Review Budgets.....	231
Entering Annual Budgets, Entering Detail Budgets, Entering Journalized Budgets, Processing PC Upload, and Reviewing Budgets.....	231
Preconfigured Processing Options for Requested Budgets (P14102).....	233
Preconfigured Processing Options for Requested Budgets (P14103).....	233
Preconfigured Processing Options for Spread Annual Budget to Periods (R14801).....	234
Preconfigured Processing Options for Detailed Budget by Account (P14101).....	234
Preconfigured Processing Options for Journal Entries– Budgeting (P0911).....	234
Preconfigured Processing Options for Budget Journal Entry (P0900049).....	235
Preconfigured Processing Options for Great Britain Load Spreadsheet Budgets (P0902Z1).....	236
Preconfigured Processing Options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011).....	236
Preconfigured Processing Options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200).....	236
Preconfigured Processing Options for BA Ledger (P0902P1).....	237
Preconfigured Processing Options for Budget Worksheet (R14113).....	238
Preconfigured Processing Options Australia and New Zealand for G/L Budget Checking Report (R14115).....	239

## 第 22 章

<b>予算データのアップロード</b> .....	241
予算のアップロード処理について.....	241
スプレッドシートからの予算データのインポート.....	241
スプレッドシートからの予算のインポート処理について.....	242
スプレッドシートからの予算データのインポートに使用するフォーム.....	242
アップロード/変換の改訂 (P0902Z1) の処理オプションの設定.....	242
スプレッドシートからの予算データのインポート.....	243
テキスト ファイルからの予算データのインポート.....	244
テキスト ファイルからの予算のインポート処理について.....	244
事前設定.....	244
F0902Z2 テキスト ファイルへの予算データのコピー.....	244
予算インポート フィールドのマッピング プログラムの実行.....	245
予算インポート フィールドのマッピング (R14110M) の処理オプションの設定.....	246
インポートされた予算データの改訂.....	246
インポートされた予算データの改訂について.....	247
インポートされた予算データの改訂に使用するフォーム.....	247
インポートされた予算データの改訂.....	247
F0902 テーブルへの予算データのアップロード.....	248
アップロード/変換プログラムについて.....	248
アップロード/変換プログラムの実行.....	249

アップロード/変換 (R14110) の処理オプションの設定.....	249
F0902Z1 テーブルの処理済みレコードの除去.....	251
処理済みアップロードの除去プログラムについて.....	252
処理済みアップロードの除去プログラムの実行.....	252
 <b>第 23 章</b>	
<b>予算の予測と計画.....</b>	<b>253</b>
予算の予測と計画について.....	253
勘定科目の定義と基準金額の取り込み.....	254
勘定科目定義と基準金額について.....	255
手作業による勘定科目の定義と基準金額の取り込みに使用するフォーム.....	256
手作業による勘定科目の定義と基準金額の取り込み.....	256
勘定科目と基準金額の自動作成.....	257
予測基準の自動作成 (R1403) の処理オプションの設定.....	257
勘定科目と基準金額の改訂.....	258
勘定科目と基準金額の改訂について.....	258
勘定科目と基準金額の改訂に使用するフォーム.....	258
勘定科目と基準金額の改訂.....	258
予算予測金額の作成.....	260
予算予測金額の作成について.....	260
事前設定.....	261
予測結果の自動作成プログラムの実行.....	261
予測結果の自動作成プログラムのデータ選択の設定.....	261
予測結果の自動作成 (R1404) の処理オプションの設定.....	261
予算予測金額の改訂.....	261
予算予測金額の改訂について.....	261
予算予測金額の改訂に使用するフォーム.....	262
予算予測金額の改訂.....	262
予算予測レコードの更新.....	263
予算予測の更新プログラムについて.....	264
事前設定.....	264
予算への予測の適用プログラムの実行.....	264
予算への予測の適用プログラムのデータ選択の設定.....	264
予算への予測の適用 (R1407) の処理オプションの設定.....	264
予算予測レコードの除去.....	265
予算予測の除去プログラムについて.....	265
予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムの実行.....	265
予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムのデータ選択の設定.....	265

**第 24 章**

<b>資金予測データの処理</b> .....	<b>267</b>
資金予測データのリフレッシュ.....	267
資金予測データのリフレッシュ プログラムについて.....	267
資金予測データのリフレッシュ.....	269
資金予測データのリフレッシュ (R00522) の処理オプションの設定.....	269
資金予測情報の分析.....	270
資金予測情報について.....	270
銀行勘定科目開始残高について.....	270
事前設定.....	271
資金予測情報の分析に使用するフォーム.....	271
資金予測分析 (P09522) の処理オプションの設定.....	271
資金予測情報の分析.....	272
予測データの除去.....	273
資金予測の除去について.....	273
資金予測データの除去.....	274
資金予測データの除去 (R09522B) の処理オプションの設定.....	274

**第 25 章**

<b>現金主義会計仕訳の作成</b> .....	<b>275</b>
現金主義会計について.....	275
発生主義会計の仕訳について.....	275
現金主義会計仕訳について.....	276
メニューからの現金主義会計プログラムの実行.....	280
メニューから現金主義会計プログラムを実行するタイミングについて.....	280
マルチスレッド ジョブ待ち行列について.....	280
メニューからの仕訳の作成プログラムの実行.....	281
仕訳の作成プログラム (R11C850) の処理オプションの設定.....	281
転記プログラムからの現金主義会計プログラムの実行.....	281
転記プログラムから現金主義会計プログラムを実行するタイミングについて.....	281
総勘定元帳への転記プログラム (R09801) からの仕訳の作成プログラムの実行.....	282
総勘定元帳への転記 (R09801) の処理オプションの設定.....	282
例外レポートの検討.....	282
現金主義会計仕訳の検討.....	283
未転記レポートのデータ選択の設定.....	283
未転記レポートの印刷.....	283
現金主義会計仕訳の転記.....	283

**第 26 章**

<b>52 期間会計の使い方</b> .....	<b>285</b>
52 期間会計仕訳の転記.....	285
52 期間会計転記プログラムについて.....	285
52 期間会計転記 (R098011) の処理オプションの設定.....	286
52 期間会計転記プログラムの実行.....	286
52 期間の年度締め.....	286
52 期間用年度締めプログラムについて.....	286
事前設定.....	286
52 期間用年度締め (R09820B) のデータ選択の設定.....	287
52 期間用年度締めプログラムの実行.....	287
52 期間損益計算書の作成.....	287
事前設定.....	287
52 期間損益計算書のデータ選択とデータ順序の設定.....	287
52 期間損益計算書 (R10252) の処理オプションの設定.....	288
52 期間損益計算書の作成.....	288

**第 27 章**

<b>勘定科目の集計について</b> .....	<b>289</b>
勘定科目の集計.....	289
オンライン集計方法.....	289
バッチ集計方法.....	290
複数サイト集計方法.....	291

**第 28 章**

<b>オンライン集計の処理</b> .....	<b>293</b>
会計レポート構造について.....	293
事前設定.....	294
階層型会計レポート構造の作成.....	294
会計レポート構造の定義方法と作成方法について.....	294
階層型会計レポート構造の作成に使用するフォーム.....	295
会計レポート構造の定義.....	295
会計レポート構造の作成.....	295
ビジネスユニット構造の作成 (R10450) の処理オプションの設定.....	295
カテゴリコードを使用しない会計レポート構造の追加.....	296
カテゴリコードを使用しない会計レポート構造について.....	296
カテゴリコードを使用しない会計レポート構造の追加に使用するフォーム.....	296
カテゴリコードを使用しない会計レポート構造の追加.....	296



会計レポート構造の確認と再編成.....	296
会計レポート構造の改訂について.....	297
会計レポート構造の確認と再編成に使用するフォーム.....	297
会計レポート構造の確認と再編成.....	297
ビジネスユニットの追加作成とレポート構造のコピー.....	297
ビジネスユニットの追加作成とレポート構造のコピーに使用するフォーム.....	298
組織構造の照会/改訂 (P0050) の処理オプションの設定.....	298
子ビジネスユニットの追加作成.....	298
会計レポート構造のコピー.....	299
オンライン集計の作成.....	300
オンライン集計の作成について.....	300
オンライン集計の作成に使用するフォーム.....	302
ビジネスユニットの集計.....	302
オンライン集計の検討.....	304
オンライン集計の検討に使用するフォーム.....	304
オンライン集計 (P09218) の処理オプションの設定.....	304
オンライン集計財務諸表の検討.....	306

## 第 29 章

<b>バッチ集計の処理.....</b>	<b>307</b>
バッチ集計の処理について.....	307
前のバッチ集計の削除.....	307
前の集計の削除プログラムについて.....	308
前の集計の削除.....	308
前の集計の削除 (R10861) の処理オプションの設定.....	308
バッチ集計の作成.....	308
集計データの再作成プログラムについて.....	309
架空ビジネスユニットの構造について.....	309
集計データの再作成プログラムで作成されるレコードについて.....	309
事前設定.....	310
バッチ集計の検討に使用するフォーム.....	310
集計データの再作成プログラムの実行.....	310
集計データの再作成のデータ選択およびデータ順序の設定.....	310
集計データの再作成 (R10862) の処理オプションの設定.....	310
バッチ集計の検討.....	311
バッチ集計の検討について.....	311
集計の検討 (P09210A) の処理オプションの設定.....	311
バッチ集計の検討.....	313

## 第 30 章

複数サイトの集計処理.....	315
ソース サイトとターゲット サイトのタスクについて.....	315
複数の集計階層について.....	316
複数サイトの集計構造およびテーブルについて.....	316
制御ファイル レポートの実行.....	317
制御ファイル レポートについて.....	317
事前設定.....	317
UDC 制御ファイルの作成レポートの実行.....	317
UDC 制御ファイルの作成 (R10005) の処理オプションの設定.....	318
主科目/補助科目制御ファイルの作成レポートの実行.....	318
主科目/補助科目制御ファイルの作成 (R10909) の処理オプションの設定.....	318
組織構造の作成.....	318
組織構造について.....	318
組織構造の作成に使用するフォーム.....	318
組織構造の定義.....	318
勘定科目構造の作成.....	319
勘定科目構造の構成要素について.....	319
勘定科目構造の定義に使用するフォーム.....	320
勘定科目構造の定義.....	320
勘定科目構造の作成.....	321
勘定科目構造の作成用のデータ順序設定.....	321
勘定科目構造の作成 (R10430) の処理オプションの設定.....	321
勘定科目構造の改訂と印刷.....	322
勘定科目構造の改訂について.....	322
勘定科目構造の改訂に使用するフォーム.....	322
勘定科目構造の改訂.....	322
勘定科目構造レポートの印刷.....	323
勘定科目構造レポート (R10445) の処理オプションの設定.....	323
複数サイトの集計規則の定義.....	323
複数サイトの集計規則の内容について.....	323
集計規則について.....	323
除外規則について.....	324
集計および除外ルールの定義に使用するフォーム.....	324
集計規則の定義.....	324
除外規則の定義.....	326
集計残高の作成.....	327
集計処理プログラムについて.....	327
集計処理.....	328
集計処理 (R10550) の処理オプションの設定.....	328

複数サイトの集計レポートの実行.....	330
複数サイト集計の整合性レポートについて.....	331
ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートについて.....	331
前期残高の整合性レポートの実行.....	332
前期残高の整合性 (R10700) の処理オプションの設定.....	332
ユーザー定義コード値制御例外レポートの実行.....	332
ユーザー定義コード値制御例外 (R107011) の処理オプションの設定.....	332
主科目/補助科目制御例外レポートの実行.....	332
主科目/補助科目制御例外 (R107021) の処理オプションの設定.....	333
ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポート (R10701) の実行.....	333
ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートのデータ選択およびデータ順序の設定.....	333
ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポート (R10701) の処理オプションの設定.....	333
集計貸借対照表レポートの実行.....	333
集計貸借対照表 (R10150) の処理オプションの設定.....	333
集計損益計算書レポートの実行.....	334
集計損益計算書 (R10250) の処理オプションの設定.....	334
集計状況の検討.....	334
集計コンソール プログラムについて.....	335
集計残高の検討に使用するフォーム.....	336
集計状況の検討.....	336
ターゲット会社への集計残高のバッチ送信.....	337
ターゲット会社への集計残高の送信処理について.....	337
集計データ送信プログラムについて.....	337
事前設定.....	337
集計データ送信プログラムの実行.....	337
集計データ送信 (R10610) の処理オプションの設定.....	338
ターゲット会社への集計残高のオンライン送信.....	339
ターゲット会社への集計残高の送信処理について.....	339
集計コンソール プログラムについて.....	339
ターゲット会社への集計残高のオンライン送信に使用するフォーム.....	340
集計コンソール (P10610) の処理オプションの設定.....	340
ターゲット会社への集計残高のオンライン送信.....	340
EnterpriseOne 以外のソース サイトから受信した集計残高の処理.....	341
受信複数サイト集計について.....	341
受信複数サイト集計の処理について.....	341
受信集計データの処理.....	342
受信集計データの処理 (R1002Z1) の処理オプションの設定.....	342
受信集計の改訂.....	342
受信集計の改訂について.....	343
受信集計の改訂に使用するフォーム.....	343

受信集計の改訂.....	343
受信集計データの除去.....	343
受信集計データの除去.....	343
複数サイトのバッチ仕訳の作成.....	343
残高集計仕訳プログラムについて.....	344
事前設定.....	344
複数サイトのバッチ仕訳の生成.....	345
残高集計仕訳のデータ選択の設定.....	345
残高集計仕訳 (R10480) の処理オプションの設定.....	345
複数サイト バッチ仕訳の処理および除去.....	346
複数サイト バッチ仕訳の処理および除去について.....	346
バッチ仕訳の処理.....	347
処理済みの複数サイト仕訳の除去.....	347

## 第 31 章

勘定残高と取引明細の検討.....	349
オンライン照会について.....	349
法定照会について.....	350
試算表の照会について.....	350
取引明細および勘定残高の照会について.....	351
試算表、元帳および補助元帳の検討.....	352
試算表と元帳の比較について.....	352
勘定残高、元帳および補助元帳の検討に使用するフォーム.....	352
試算表と元帳の比較 (P09210A) の処理オプションの設定.....	352
試算表と元帳の比較の検討.....	354
補助元帳別試算表の情報の検討.....	355
主科目別試算表の検討.....	355
主科目別試算表の検討に使用するフォーム.....	355
試算表 (主科目別) (P09214) の処理オプションの設定.....	355
主科目別残高の検討.....	356
会社別試算表の検討.....	358
会社別残高の検討に使用するフォーム.....	358
試算表 (会社別) (P09216) の処理オプションの設定.....	358
会社別残高の検討.....	358
補助元帳別試算表の検討.....	359
補助元帳別残高の検討に使用するフォーム.....	359
試算表 (補助元帳別) (P09215) の処理オプションの設定.....	359
補助元帳別残高の検討.....	359
取引明細の検討.....	360

取引明細照会について.....	360
取引明細の検討に使用するフォーム.....	361
取引明細照会 (P09200) の処理オプションの設定.....	361
取引明細レコードの検討.....	362
主科目別取引明細の検討.....	363
主科目別取引明細について.....	363
主科目別取引明細の検討に使用するフォーム.....	364
勘定科目の照会 (主科目別) (P09201) の処理オプションの設定.....	364
主科目別元帳の検討.....	364
カテゴリコード別取引明細の検討.....	365
カテゴリコード別取引明細について.....	365
カテゴリコード別取引明細の検討に使用するフォーム.....	366
勘定科目の照会 (カテゴリコード別) (P09202) の処理オプションの設定.....	366
カテゴリコード別元帳の検討.....	366
(CHL and PER) Reviewing Ledgers by Legal Number.....	366
Form Used to Review Ledgers by Legal Number.....	367
Setting Processing Options for Journal Entries Inquiry by Legal Number (P76H9002).....	367
Reviewing Ledgers by Legal Number.....	367
月別勘定残高の検討.....	367
月別勘定残高について.....	367
月別勘定残高の検討に使用するフォーム.....	368
勘定残高 (月別) (P0902P1) の処理オプションの設定.....	368
月別勘定残高の検討.....	368
補助元帳別勘定残高の検討.....	369
補助元帳別勘定残高について.....	369
補助元帳別勘定残高の検討に使用するフォーム.....	369
補助元帳別残高の検討.....	369
(CHL and PER) Reviewing Account Balances by Account and Category Code.....	370
Form Used to Review Account Balances by Account and Category Code.....	370
Setting Processing Options for Balance Inquiry by Account/Category Code (P76H9006).....	370
Reviewing Balances by Account and Category Code.....	371
(CHL and PER) Reviewing Debit and Credit Balances by Month.....	371
Form Used to Review Debit and Credit Balances by Month.....	372
Setting Processing Options for Debit/Credit Inquiry by Month (P76H9007).....	372
Reviewing Debit and Credit Monthly Balances.....	372
 <b>第 32 章</b>	
<b>財務レポートの作成.....</b>	<b>373</b>
財務レポートについて.....	373

損益計算書と貸借対照表のデータ選択とデータ順序について.....	374
損益計算書の作成.....	375
損益計算書について.....	375
事前設定.....	375
損益計算書の印刷.....	376
損益計算書のデータ選択の設定.....	376
損益計算書 (R10211B) の処理オプションの設定.....	376
貸借対照表の作成.....	377
貸借対照表について.....	377
事前設定.....	378
貸借対照表の印刷.....	378
貸借対照表 (R10111B) の処理オプションの設定.....	378
貸借対照表のデータ選択の設定.....	378
(RUS) Generating a Balance Sheet.....	379
Understanding the Balance Sheet for Russia.....	379
Prerequisite.....	379
Printing a Balance Sheet.....	379
Setting Processing Options for Balance Sheet (R74R9030).....	379
(CHN) Generating a Balance Sheet and Income Statement.....	380
Understanding the Balance Sheet and Income Statement for China.....	380
Prerequisite.....	380
Running the Sample Balance Sheet and Income Statement.....	380
(RUS) Generating the Profit and Loss Report.....	381
Understanding the Profit and Loss Report for Russia.....	381
Prerequisite.....	381
Printing the Profit and Loss Report.....	381
Setting Processing Options for Profit and Loss (R74R9010).....	381
キャッシュフロー計算書の作成.....	382
キャッシュフロー計算書について.....	382
事前設定.....	385
キャッシュフロー計算書の印刷.....	385
キャッシュフロー計算書レポートのデータ選択の設定.....	385
キャッシュフロー計算書レポート (R10521) の処理オプションの設定.....	385
(RUS) Generating a Cash Flow Statement.....	385
Understanding the Cash Flow Report.....	386
Prerequisite.....	386
Printing the Cash Flow Statement.....	386
Setting Processing Options for Cash Flow (R74R9050).....	386
(RUS) Generating the Changes in Equity Report.....	386
Understanding the Changes in Equity Report.....	386

Prerequisite.....	387
Printing the Changes in Equity Report.....	387
Setting Processing Options for Changes in Equity (R74R9040).....	387
集計財務レポートの作成.....	387
集計財務レポートについて.....	387
事前設定.....	388
集計損益計算書 - 7 桁式の印刷.....	388
集計損益計算書 - 7 桁式のデータ選択とデータ順序の設定.....	388
集計損益計算書 - 7 桁式 (R103121A) の処理オプションの設定.....	388
集計貸借対照表の印刷.....	389
集計貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定.....	389
集計貸借対照表 (R10311A) の処理オプションの設定.....	389
月別損益計算書の作成.....	389
月別損益計算書について.....	390
事前設定.....	390
月別損益計算書の印刷.....	390
月別損益計算書 (R10412A) の処理オプションの設定.....	390
差異分析レポートの作成.....	391
差異分析レポートの印刷.....	391
差異分析 (R10212A) の処理オプションの設定.....	391
差異分析 (5 か月分) の印刷.....	392
差異分析 (5 か月分) (R10411A) の処理オプションの設定.....	392
(RUS) Generating the Petty Cash Book Report.....	392
Understanding the Petty Cash Book Report.....	392
Running the Petty Cash Book Report.....	393
Setting Processing Options for Petty Cash Book (R74R5001).....	393
(ITA) Verifying Account Balances.....	394
(Rapid Start) Reviewing Financial Reports and Inquiries.....	395
Reviewing Financial Reports and Inquiries.....	396
Preconfigured Processing Options for Account Ledger Inquiry - AA Ledger (P09200).....	398
Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Object (P09214).....	399
Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Subledger (P09215).....	400
Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Company (P09216).....	400
Preconfigured Processing Options for Trial Balance / Ledger Comparison (P09210A).....	401
Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Business Unit (R09410).....	402
Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Object (R094121).....	403
(AUZ and NZL) Preconfigured Processing Options for Australia and New Zealand Trial Balance by Category Code (R09472).....	404
Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr Format) (R09473).....	404
Preconfigured Processing Options for General Ledger by Business Unit (R09420).....	405
Preconfigured Processing Options for General Ledger by Object Account (R09421).....	407

Preconfigured Processing Options for General Ledger with Subledger Totals (R09422).....	408
(AUS and NZL) Preconfigured Processing Options for Australia and New Zealand General Ledger by Category Code (R09470).....	409
Preconfigured Processing Options for Transaction Journal (R09321).....	410
Preconfigured Processing Options for Transaction by Subsidiary (R09424).....	410
Preconfigured Processing Options for Transaction by Object (R09423).....	411
Preconfigured Processing Options for Income Statement – Company 00001 (R10211B).....	411
Preconfigured Processing Options for Balance Sheet (R10111B).....	412
Preconfigured Processing Options for Variance Analysis – Company 00001 (R10212A).....	413
Preconfigured Processing Options for Variance Analysis 5 Months Actual – Company 00001 (R10411A).....	415

## 第 33 章

一般会計のデータ整合性の検証.....	417
一般会計の整合性レポートについて.....	417
取引とバッチ見出しの整合性レポートの実行.....	420
取引とバッチ見出しの整合性レポートについて.....	420
取引とバッチ見出しの整合性レポートの印刷.....	420
取引とバッチ見出しの整合性 (R007021) の処理オプションの設定.....	420
取引とバッチ見出しの不整合の修正.....	423
バッチと取引明細の整合性レポートの実行.....	423
バッチと取引明細の整合性レポートについて.....	423
事前設定.....	424
バッチと取引明細の整合性レポートの印刷.....	424
バッチと取引明細の整合性 (R007031) の処理オプションの設定.....	424
未転記バッチ レポートの印刷.....	426
未転記バッチ レポートについて.....	426
事前設定.....	426
未転記バッチ レポートの印刷.....	426
貸借不一致のバッチ レポートの実行.....	426
貸借不一致のバッチ レポートについて.....	426
貸借不一致のバッチ レポートの印刷.....	427
貸借不一致のバッチのデータ選択の設定.....	427
貸借不一致のバッチ (R007032) の処理オプションの設定.....	427
貸借不一致のバッチ レポートの不整合の修正.....	427
バッチ別貸借不一致の会社レポートの実行.....	428
バッチ別貸借不一致の会社レポートについて.....	428
事前設定.....	429
バッチ別貸借不一致の会社レポートの印刷.....	429



バッチ別貸借不一致の会社 (R09706) の処理オプションの設定.....	429
バッチ別貸借不一致の会社レポートの不整合の修正.....	429
貸借一致の会社レポートの実行.....	429
貸借一致の会社レポートについて.....	429
貸借一致の会社レポートの印刷.....	430
貸借不一致の会社の特定.....	430
貸借一致の会社レポートの不整合の修正.....	431
貸借一致の会社間勘定科目レポートの実行.....	432
貸借一致の会社間勘定科目レポートについて.....	433
貸借一致の会社間勘定科目レポートの印刷.....	433
貸借一致の会社間勘定科目 (R097011) の処理オプションの設定.....	433
貸借不一致の会社間勘定科目の特定.....	433
貸借一致の会社間勘定科目の不整合の修正.....	434
勘定残高と取引の整合性レポートの実行.....	434
勘定残高と取引の整合性レポートについて.....	434
勘定残高と取引の整合性レポートの印刷.....	435
勘定残高と取引の整合性 (R09705) の処理オプションの設定.....	435
勘定残高と取引の整合性レポートの不整合の修正.....	436
ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの実行.....	437
ビジネスユニットなしの勘定科目レポートについて.....	438
ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの印刷.....	438
ビジネスユニットなしの勘定科目 (R097041) の処理オプションの設定.....	438
勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの実行.....	438
勘定科目マスターなしの勘定残高レポートについて.....	439
事前設定.....	439
勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの印刷.....	439
勘定科目マスターなしの勘定残高 (R097031) の処理オプションの設定.....	439
勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの不整合の修正.....	439
勘定科目マスターなしの取引レポートの実行.....	440
勘定科目マスターなしの取引レポートについて.....	440
事前設定.....	440
勘定科目マスターなしの取引レポートの印刷.....	440
勘定科目マスターなしの取引 (R097021) の処理オプションの設定.....	440
勘定科目マスターなしの取引レポートの不整合の修正.....	440

## 第 34 章

バッチ見出しの管理.....	441
バッチ見出しの改訂について.....	441
事前設定.....	442

バッチ見出しの処理.....	442
バッチ見出しの処理に使用するフォーム.....	443
バッチ見出しの検討.....	443
バッチ見出しの追加と改訂.....	444
貸借不一致バッチの改訂.....	445

## 第 35 章

<b>取引明細の再転記と会計年度の再計算.....</b>	<b>447</b>
再転記プログラムについて.....	447
事前設定.....	448
取引明細の再転記.....	448
取引明細の再転記のタイミングについて.....	448
事前設定.....	449
取引明細の再転記プログラムの実行.....	449
取引明細の再転記のデータ選択と順序の設定.....	450
取引明細の再転記 (R099102) の処理オプションの設定.....	450
(CHL and PER) Reposting the Account Ledger Tag File.....	450
Running the Localization Account Repost Program.....	450
Setting Processing Options for Localization Account Repost (R76H9102).....	450
(POL) Reposting the Account Ledger Tag File.....	451
Understanding the Repost Account Ledger Tag File Program.....	451
Running the Repost Account Ledger Tag File Program.....	451
Setting Processing Options for Repost Account Ledger Tag File (R749102).....	451
会計年度と期間の再計算.....	452
会計年度と期間の再計算のタイミングについて.....	452
会計年度および期間の計算プログラムの実行.....	453
会計年度および期間の計算のデータ選択とデータ順序の設定.....	454
会計年度および期間の計算 (R099103) の処理オプションの設定.....	454

## 第 36 章

<b>組織の改訂.....</b>	<b>455</b>
組織の改訂について.....	455
勘定科目構造の改訂について.....	456
勘定科目構造の改訂により影響を受けるテーブルについて.....	456
事前設定.....	457
複数の勘定科目のビジネスユニットの変更.....	457
ビジネスユニットの変更について.....	457
事前設定.....	458

複数勘定科目のビジネスユニットの変更に使用するフォーム.....	458
複数勘定科目のビジネスユニットの変更.....	458
勘定科目の主科目の変更.....	458
勘定科目の主科目の変更について.....	458
勘定科目の主科目の変更に使用するフォーム.....	459
勘定科目の主科目の変更.....	459
勘定科目の補助科目の変更.....	459
勘定科目の補助科目の変更について.....	459
勘定科目の補助科目の変更に使用するフォーム.....	460
補助科目の変更.....	460
F0911 テーブルと F0902 テーブルの更新.....	460
F0911 テーブルと F0902 テーブルの更新処理について.....	460
事前設定.....	460
標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行.....	461
標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行後の処理.....	461
ビジネスユニットの会社番号の変更.....	461
ビジネスユニットの会社番号の変更について.....	461
別の会社へのビジネスユニットの移動.....	462
勘定科目情報の変更.....	463
勘定科目情報の変更について.....	463
勘定科目情報の変更プログラムの実行.....	464
勘定科目情報変更のデータ選択の設定.....	464
勘定科目情報の変更 (R09813) の処理オプションの設定.....	464
モデル/集計フィールドの更新.....	465
モデル/集計フィールドの更新について.....	465
モデル/集計フィールドの更新プログラムの実行.....	465
ビジネスユニットのカテゴリ コードの更新.....	466
カテゴリ コードの更新について.....	466
事前設定.....	466
カテゴリ コードの更新 F0101 -> F0006 プログラムの実行.....	466
(Rapid Start) Managing Accounting Structure.....	467
Managing the Accounting Structure.....	467
Preconfigured Processing Options for Rapid Start Address Book (no customer or supplier master) (P01012).....	468
Preconfigured Processing Options for Account Revisions (P0901).....	469
Preconfigured Processing Options for Account Master by Company (R09205P).....	469
Preconfigured Processing Options for Account Master Word Search Build (R0901WS).....	470

**第 37 章**

<b>会計期間とレポート期間の締め処理</b> .....	<b>471</b>
期末締めタスクについて.....	471
(ESP, FRA, and ITA) Running Sequential Number Reports.....	471
Running the Sequential Number Reports.....	472
(FRA and ITA) Running Trial Balance Reports.....	472
Running the Trial Balance Reports.....	472
<b>会計期間の締め処理</b> .....	<b>472</b>
会計期間の締め処理について.....	472
会計期間の締めによる影響について.....	473
会計期間とレポート期間の締めに使用するフォーム.....	474
1 つの会社の会計期間の締め処理.....	474
1 つの会社の会計期間と年度の締め処理.....	475
複数の会社の会計期間の締め処理.....	475
<b>財務レポート期間の変更</b> .....	<b>476</b>
財務報告日付について.....	476
財務レポート期間の変更.....	476

**第 38 章**

<b>会計年度の締め処理</b> .....	<b>477</b>
会計年度の締め処理について.....	477
事前設定.....	478
設定要件と一般タスクについて.....	479
会計年度の設定要件について.....	479
年度末の締め処理の一般タスクについて.....	479
<b>会計年度の締め処理</b> .....	<b>480</b>
年度締めプログラムについて.....	480
年度締めプログラムの実行.....	480
年度締めのデータ選択とデータ順序の設定.....	481
年度締め (R098201) の処理オプションの設定.....	481
<b>予算用会計年度の締め処理</b> .....	<b>482</b>
予算元帳タイプの会計年度の締めについて.....	482
(FRA) Closing a Fiscal Year.....	482
Understanding Tasks for Closing a Fiscal Year.....	482
(ITA) Closing a Fiscal Year.....	482
Understanding Tasks for Closing a Fiscal Year.....	483
Understanding Additional AAI Setup Requirements.....	483
(Rapid Start) Closing the Ledger.....	484
Prerequisites.....	484

Closing the Ledger.....	485
Preconfigured Processing Options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031).....	488
Preconfigured Processing Options for Transactions to Batch Header – GL Only (R007021).....	488
Preconfigured Processing Options for Australia and New Zealand Companies by Batch Out of Balance (R09706).....	490
Preconfigured Processing Options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032).....	490
Preconfigured Processing Options for Accounts Without Business Units (R097041).....	491
Preconfigured Processing Options for Account Balance without Account Master Report (R097031).....	491
Preconfigured Processing Options for Transactions Without Account Master (R097021).....	491
Preconfigured Processing Options for Account Balance to Transaction Report (R09705).....	491
Preconfigured Processing Options for Great Britain Monetary Account Valuation – EUR (R09415).....	492
Preconfigured Processing Options for France Journal Des Achats (R7409C5).....	494
Preconfigured Processing Options for France Journal Des Ventes (R7409C5).....	495
Preconfigured Processing Options for France Journal Des Operations Diverses (R7409C5).....	496
Preconfigured Processing Options for France Journal Des Decaissements (R7409C5).....	497
Preconfigured Processing Options for France Journal Des Encaissements (R7409C5).....	498
Preconfigured Processing Options for Journal France Des Effets A Recevoir (R7409C5).....	499
Preconfigured Processing Options for France Journal Des Mouvements De Stocks (R7409C5).....	500
Preconfigured Processing Options for France Balance De Comptabilite Generale (R70472).....	502
Preconfigured Processing Options for France Grand Livre General Des Comptes (R70470).....	502
Preconfigured Processing Options for France TVA Collectee Sur Les Debits (R0018P1).....	504
Preconfigured Processing Options for France TVA Deductible Sur Les Debits (R0018P1).....	504
Preconfigured Processing Options for France TVA Deductible Intracommunautaire (R0018P1).....	504
Preconfigured Processing Options for France TVA Sur Encaissement Aide A La Declaration (R7400CSM).....	504
Preconfigured Processing Options for Annual Close (R098201).....	505

## 第 39 章

レコードの集計と除去.....	507
集計、削除、および除去について.....	507
取引明細レコードの集計.....	507
取引の集計プログラムについて.....	507
事前設定.....	508
取引の集計.....	509
取引の集計 (R09811) の処理オプションの設定.....	509
前年度レコードの除去.....	509
前年度仕訳の除去プログラムについて.....	510
事前設定.....	511
前年度レコードの除去.....	511
前年度仕訳の除去のデータ選択の設定.....	511

前年度仕訳の除去 (R09911) の処理オプションの設定.....	511
前年度の勘定残高の除去.....	511
前年度勘定残高の除去プログラムについて.....	512
事前設定.....	512
前年度の勘定残高の除去.....	512
勘定科目マスター レコードの削除.....	512
勘定科目マスター レコードの削除について.....	512
事前設定.....	513
勘定科目マスター レコードの削除プログラムの実行.....	513
勘定科目マスター レコードの削除 (R09814) の処理オプションの設定.....	513
ビジネスユニットと会社の削除.....	513
ビジネスユニット/会社の削除プログラムについて.....	513
事前設定.....	514
ビジネスユニット/会社の削除プログラムの実行.....	514
ビジネスユニット/会社の削除 (R09925) の処理オプションの設定.....	514

## 付録 A

一般会計のテーブル.....	515
基本テーブル.....	515
補足テーブル.....	515

## 付録 B

バッチ仕訳処理のフィールドのマッピング.....	519
F0911Z1 テーブルのフィールドのマッピング.....	519
収益性分析に対する F0911Z1 テーブルのフィールドのマッピング.....	523
システム外で調整した取引に対する F0911Z1 テーブルのフィールドのマッピング.....	532
EnterpriseOne のシステム外で調整した取引について.....	533

## 付録 C

自動銀行残高照合表処理の変換フローによるフィールドのマッピング.....	535
F09610 テーブルから F09611 テーブルへの BAI2 フィールドのマッピング.....	535
レコード 01.....	536
レコード 02.....	537
レコード 03.....	538
レコード 16.....	540
レコード 88.....	542
レコード 49.....	542

レコード 98.....	542
レコード 99.....	543
F09610 テーブルから F09611 テーブルへの SWIFT フィールドのマッピング.....	544
ブロック 2.....	545
ブロック 4.....	545

## 付録 D

予算データのインポートのフィールドのマッピング.....	549
F0902Z1 テーブルのフィールドのマッピング.....	549

## 付録 E

受信複数サイト集計のフィールドのマッピング.....	553
F1001Z1 テーブルのフィールドのマッピング.....	553
F1002Z1 テーブルのフィールドのマッピング.....	556

## 付録 F

EnterpriseOne 一般会計の標準ワークフロー.....	559
EnterpriseOne 一般会計の標準ワークフロー.....	559
仕訳のバッチ承認.....	559
経費精算書の承認経路.....	560

## 付録 G

EnterpriseOne 一般会計レポート.....	561
一般会計レポート.....	561
仕訳帳レポート.....	561
試算表レポート.....	561
カテゴリコード レポート.....	562
総勘定元帳レポート.....	562
一般会計の全レポート.....	562
Localizations Reports.....	564
一般会計レポートの詳細.....	569
R00650 - ビジネスユニット別データ.....	569
ビジネスユニット別データ (R00650) の処理オプション.....	569
R09205P、R09206、R09207 - 勘定科目マスター レポート.....	569
勘定科目マスター レポート (R09205P、R09206、R09207) の処理オプション.....	570
R09301 - 仕訳帳 (未転記)、仕訳帳 (バッチ別)、現金主義会計未転記レポート.....	570

仕訳帳（未転記）と現金主義会計未転記レポート（R09301）の処理オプション.....	570
R09311 – 仕訳帳（勘定科目別）.....	571
仕訳帳（勘定科目別）（R09311）の処理オプション.....	571
R09321 – 取引仕訳.....	571
取引仕訳（R09321）の処理オプション.....	571
R09404 – (ITA) G/L Registration Report.....	572
Processing Options for G/L Registration Report–Italy (R09404).....	573
R09410 – 試算表.....	575
試算表（R09410）の処理オプション.....	575
R094121 – 試算表（主科目別）.....	577
試算表（主科目別）（R094121）の処理オプション.....	577
R09421 – 総勘定元帳（主科目別）.....	578
総勘定元帳（主科目別）（R09421）の処理オプション.....	578
R09422 – 総勘定元帳（補助元帳合計）.....	580
総勘定元帳（補助元帳合計）（R09422）の処理オプション.....	580
主科目別取引（R09423）.....	582
主科目別取引のデータ選択.....	582
主科目別取引（R09423）と補助科目別取引（R09424）の処理オプション.....	582
R09424 – 補助科目別取引.....	583
補助科目別取引のデータ選択.....	583
補助科目別取引（R09424）の処理オプション.....	583
R09451 – 勘定科目合計（仕入先/顧客別）.....	584
勘定科目合計（仕入先/顧客別）（R09451）の処理オプション.....	584
R09470 – 総勘定元帳（カテゴリコード別）.....	584
総勘定元帳（カテゴリコード別）（R09470）の処理オプション.....	584
R09472 – 試算表（カテゴリコード別） – 借方/貸方形式.....	586
試算表（カテゴリコード別） – 借方/貸方形式（R09472）の処理オプション.....	586
R09473 – (FRA, ITA, USA) Debit/Credit T/B by Object.....	587
Processing Options for Debit/Credit T/B by Object (R09473).....	587
R11C750 – 現金主義会計整合性テスト.....	589
現金主義会計整合性レポートのデータ選択とデータ順序.....	589
現金主義会計整合性テスト（R11C750）の処理オプション.....	589
R11C760 – 現金主義会計監査レポート.....	590
現金主義会計監査レポートのデータ選択とデータ順序.....	590
現金主義会計監査レポート（R11C760）の処理オプション.....	590
R70470 – (ESP, FRA, ITA) G/L by Category Code.....	590
Processing Options for G/L by Category Code (R70470).....	591
R70472 – (FRA, ITA) T/B by Category Code.....	592
Processing Options for T/B by Category Code (R70472).....	593
R7409C1 – (ESP, FRA, ITA) G/L by Object and Subsidiary.....	595



Processing Options for G/L by Object and Subsidiary (R7409C1).....	595
R7409C3 – (FRA, ITA) T/B by Object and Subsidiary.....	597
Processing Options for T/B by Object and Subsidiary (R7409C3).....	597
R7409C5 – (FRA) General Journal.....	598
Processing Options for General Journal (R7409C5).....	600
R74P9010 – (POL) Trial Balance by Object.....	601
Processing Options for GL Trial Balance by Obj (R74P9010).....	601
R74P9015 – (POL) GL Trial Balance by Category Code.....	603
Processing Options for GL Trial Balance by Category Code (R74P9015).....	603
R74P9020 – (POL) Transaction Journal.....	604
Processing Options for Transaction Journal (R74P9020).....	604
R74P9030 – (POL) Bank Register.....	605
Processing Options for Bank Register (R74P9030).....	605
R74S490 – (ESP) G/J by Cat. Code – Spain.....	608
Processing Options for G/J by Obj. Account or Cat. Code – Spain (R74S490).....	609
R74S560 – (ESP) G/L by Obj. Account – Spain.....	610
Processing Options for G/L by Obj. Account – Spain (R74S560).....	610
R74S570 – (ESP) T/B by Obj. Account.....	612
Processing Options for T/B by Obj. Account (R74S570).....	612
R74U0137 – (GBR) End of Year Return CIS36.....	613
R74U137A – (GBR) End of Year Return CIS36 – CIS4.....	613
R74U0137B – (GBR) End of Year Return CIS36 – CIS5.....	614
R74U0137C – (GBR) End of Year Return CIS36 – CIS6.....	614
Processing Options for End of Year Return CIS36 (R74U0137, R74U0137A, R74U0137B, and R74U0137C).....	614
R76321B – (BRA) Transaction Journal.....	614
Processing Options for Transaction Journal (R76321B).....	615
R76B09410 – (BRA) Four Columns Trial Balance.....	616
Processing Options for the Four Columns Trial Balance Report (R76B09410).....	616
R76B420 – (BRA) General Ledger.....	617
Processing Options for G/L by Business Unit (R76B420).....	617
R76C0911 – (COL) General Journal by Category Code 21, 22, 23.....	619
Processing Options for General Journal by Category Code 21, 22, 23 (R76C0911).....	619
R76C0911A – (COL) General Ledger with Total by Object Account.....	619
Processing Options for General Ledger with Total by Object Account (R76C0911A).....	619
R76C094 – (COL) Inventory and Balance Sheet by Category Code.....	620
Processing Options for Inventory and Balance Sheet by Category Code (R76C094).....	620
R76C094B – (COL) Inventory and Balance Sheet by Object Account.....	621
Processing Options for Inventory and Balance Sheet by Object Account (R76C094B).....	621
R76C0941 – (COL) Trial Balance by Category Code.....	621
Processing Options for Trial Balance by Category Code (R76C0941).....	621

R76C09411 – (COL) Debits and Credits T/B by Object Account.....	622
Processing Options for Debits and Credits T/B by Object Account (R76C09411).....	622
R76C094211 – (COL) G/L with Subledger Totals.....	623
Processing Options for G/L with Subledger Totals (R76C094211).....	623
R76C9415B – (COL) Daily Books by Complete Document Report.....	623
R76C9422 – (COL) G/L by Object Account with Subledger Total.....	623
Processing Options for G/L by Object Account with Subledger Total (R76C9422).....	624
R76H9003 – (CHL and PER) Print G/L Journal and Assign Legal Number.....	625
Processing Options for Print G/L Journal and Assign Legal Number (R76H9003).....	625
R76H9001 – (CHL and PER) Balance by Object Account.....	626
Processing Options for Balance by Object Account (R76H9001).....	627
R76H9005 – (CHL and PER) Print Number (folio) Blank Pages.....	628
Processing Options for Print Number (folio) Blank Pages (R76H9005).....	628
R76H9421 – (CHL and PER) Account Ledger by Object Account.....	629
Data Selection and Sequence for Account Ledger by Object Account (R76H9421).....	629
Processing Options for Account Ledger by Object Account (R76H9421).....	629
R76P9470 – (CHL and PER) Account Ledger by Category Code.....	630
Processing Options for Account Ledger by Category Code (R76P9470).....	630
 <b>EnterpriseOne 用語集.....</b>	 <b>633</b>
 <b>索引 .....</b>	 <b>645</b>

# この PeopleBook について

PeopleBook には、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

ここでは、以下の事項について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識
- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎
- 印刷・製本されたドキュメンテーションの入手
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見・ご要望について
- PeopleBook で使用する共通フィールド

---

**注:** PeopleBook には、システムで使用されている全てのフィールドについて説明されているわけではありません。アプリケーションで共通して使用される主なフィールドは、共通フィールドとしてまとめて説明しています。全てのアプリケーションで共通するフィールドはこの PeopleBook に、各アプリケーションで共通するフィールドは、それぞれの製品ライン、PeopleBook、またはその章やセクションごとに、共通フィールドとしてまとめて説明されています。それ以外に説明が必要だと思われるものについては、処理や業務を実行する具体的なページの説明と併せて、フィールドやチェック ボックスの説明をそれぞれ記載しています。

---

---

## JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識

この PeopleBook の内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基本的な使い方を熟知する必要があります。

また、JD Edwards EnterpriseOne の入門トレーニング コースを少なくとも 1 つ修了していることが推奨されます。

この PeopleBook では、ユーザーが JD Edwards EnterpriseOne システムを操作でき、メニューやページ、フォームなどを使って情報を追加、更新、削除できることを前提としています。また、Web ブラウザと、Microsoft Windows または Microsoft Windows NT の操作に習熟していることも必要です。

ここでは、JD Edwards EnterpriseOne システムを操作できることを前提としているため、操作手順についての説明は省略しています。この PeopleBook では、JD Edwards EnterpriseOne システムを効果的に使用するために必要な情報や、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを導入するために必要な情報を提供します。

---

## JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎

各アプリケーションの PeopleBook では、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

また、システムを設定したり設計するときに必要となる情報が、製品ラインで共通する『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』に書かれている場合もあります。ほとんどの製品ラインについて『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』が用意されています。それぞれの PeopleBook のまえがきに、関連する『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』の情報が記載されています。

『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』で取り上げている項目は、製品ラインのどのアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものばかりです。JD Edwards EnterpriseOne システムを導入する場合、製品ラインの中から 1 つのアプリケーションだけを導入する、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する、または製品ライン全体を導入する、といういずれの場合でも、この『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』に書かれている内容を十分に理解しておくことが必要です。基礎的な内容を理解することが、導入タスクに着手する出発点となります。

---

## 印刷・製本されたドキュメンテーションの入手

このセクションでは、印刷・製本されたドキュメンテーションの注文について説明します。

### 印刷・製本されたドキュメンテーションの注文

PeopleBooks CD-ROM に収録されているドキュメンテーションは、印刷・製本された形のものも用意されています。印刷・製本されたドキュメンテーションは、以下のいずれかの方法でご注文いただけます。

- Web サイト
- 電話（米国およびカナダのみ）
- 電子メール

#### Web サイト

PeopleSoft の Web サイトである Customer Connection から注文できます。Ordering PeopleBooks リンクをクリックすると、PeopleBooks Press の Web サイトにアクセスすることができます。このサイトは、PeopleSoft と印刷会社 MMA Partners 社が共同で運営しています。ご注文の際、クレジットカード、郵便為替、銀行小切手、または注文書をご利用いただけます。

#### 電話（米国およびカナダのみ）

877 588 2525 (MMA Partners 社) までご連絡ください。

#### 電子メール

peoplebookspress@mmapartner.com (MMA Partners 社) までご連絡ください。

#### 関連項目:

PeopleSoft Customer Connection  
<https://www.peoplesoft.com/corp/en/login.jsp>

## 追加情報

PeopleSoft Customer Connection Web サイトから、以下の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	[Updates + Fixes]
ビジネスプロセス マップ	[Support]、[Documentation]、[Business Process Maps]
データモデル	[Support]、[Documentation]、[Data Models]
エンタープライズ インテグレーション ポイント (EIP) のカタログ	[Support]、[Documentation]、[Enterprise Integration Point (EIP) Catalog]
ハードウェア要件とソフトウェア要件	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Hardware and Software Requirements]
インストール ガイド	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Installation Guides and Notes]
PeopleBook ドキュメンテーションのアップデート	[Support]、[Documentation]、[Documentation Updates]
サポート ポリシー	[Support]、[Support Policy]
製品出荷予定	[Support]、[Roadmaps + Schedules]
リリース ノート	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Upgrade Guide]、[Upgrade Documentation and Software]、[Release Notes]
テーブルのロード順序	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Table Loading Sequences]
トラブルシューティング情報	[Support]、[Troubleshooting]
アップグレード関連のドキュメンテーション	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Upgrade Guide]

## 表記規則

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

## 表記規則

PeopleBook は、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCode の関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しで、そのまま記述すべき PeopleCode の予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCode の構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー + キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら 2 番目のキーを押すという意味です。たとえば、Alt + W は、Alt キーを押しながら W キーを押すことを表します。
Monospace font (固定幅のフォント)	PeopleCode のプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
...(省略記号)	PeopleCode の構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ }(中かっこ)	PeopleCode の構文で、2 つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒 ( ) で区切られています。
[ ](角かっこ)	PeopleCode の構文で、省略できる要素を示します。
&(アンパサンド)	PeopleCode の構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。  また、PeopleCode の変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

## 注意事項の表示

PeopleBook では、注意事項が以下のような形式で示されています。

### 注

JD Edwards EnterpriseOne システムを使って作業するときに注意すべき事項が書かれています。

---

**注:** 注意事項は、このような形式で示しています。

---

システムが正しく機能するために必ず守るべき大切な事柄は、“重要:”と示されています。

---

**重要:** 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

---

## 警告

JD Edwards EnterpriseOne システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

---

**警告:** 警告は、このような形式で示しています。

---

## 相互参照

相互参照は、“参照:”、または“関連項目:”という形で示しています。すぐ前で説明した情報に関連する他のドキュメンテーションが相互参照として示されています。

## 国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常はセクションの見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています。

特定の国を対象とした見出しの例:「従業員の採用 (FRA)」

特定の地域を対象とした見出しの例:「減価償却の設定 (中南米)」

### 国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

### 地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

### 業種の表記

業種を表す名称か略称を使って表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)
- E&G (教育/公的機関)

## 通貨コード

金額は、ISO が定める通貨コードを使って表記しています。

---

## ご意見・ご要望をお寄せください

PeopleBook についてのご意見、ご要望を下記にお寄せください。

〒154-0005  
東京都世田谷区三宿 1-13-1  
東映三宿ビル 5 階

日本ピープルソフト株式会社  
エンタープライズ ランゲージ サービス マネジャー宛

TEL: 03-5251-8768

または、ETSJPN\_US@ORACLE.COM へ電子メールでご連絡ください。

いただいた電子メール全てにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

---

## 全ての PeopleBook で使用する共通フィールド

以下 Enterprise の用語です。

指定日	どの日付までのデータが、レポートまたはプロセスの対象となるかを指定します。
ビジネスユニット	業務上、区分された上位レベルの組織の ID です。ビジネスユニットを利用して、1 つの大きな組織の中に地域別または部門別に複数のユニットを定義することができます。
名称	30 文字までのテキストを入力できます。
有効日	テーブル行が有効になる日付、またはアクションが開始される日付です。たとえば、元帳を 6 月 30 日に締める場合、元帳締めの有効日は 7 月 1 日となります。データを表示、変更できる時期も有効日により管理されます。この情報を使用するページやバッチ処理では、現在行が使用されます。
1 回限り、常時、実行しない	<p>“1 回限り”を選択すると、次のバッチ処理実行時にリクエストが実行されます。バッチ処理が実行されると、処理頻度は自動的に“実行しない”に設定されます。</p> <p>“常時”を選択すると、バッチ処理が実行されるたびに毎回リクエストが実行されます。</p> <p>“実行しない”を選択すると、バッチ処理が実行されてもこのリクエストは実行されません。</p>
プロセス モニター	このリンクをクリックすると、プロセス リスト ページに移動して、送信したプロセス リクエストのステータスを確認できます。
レポート マネージャ	このリンクをクリックすると、レポート リスト ページに移動して、レポート内容の表示、レポート ステータスの確認、レポートと配信リストの詳細を表示する内容詳細メッセージの照会を行うことができます。



<b>リクエスト ID</b>	レポートまたはプロセスの選択条件のセットを表す ID です。
<b>実行</b>	このボタンをクリックしてプロセス リクエスト ページにアクセスすると、プロセスまたはジョブの実行場所、およびプロセスの出力フォーマットを指定できます。
<b>セットID</b>	コントロール テーブル情報のセット、つまり、テーブルセットを表す ID です。テーブルセットを使用すると、コントロール テーブル情報や処理オプションをビジネス ユニット間で共有できます。これにより、データの重複やシステムのメンテナンス作業を減らすことができます。ビジネスユニット内のレコード グループにセットID を割り当てると、レコード グループ内の全てのテーブルは、そのビジネスユニットと、そのレコード グループに同じセットID を割り当てているその他のビジネス ユニットとの間で共有されます。たとえば、複数のビジネスユニットで共通する職務コードのグループを定義して共有することができます。職務コードを共有する各ビジネス ユニットには、そのレコードについて同じセットID が割り当てられます。
<b>略称</b>	15 文字までのテキストを入力できます。
<b>ユーザー ID</b>	トランザクションを実行するユーザーを表す ID です。
<b>以下 EnterpriseOne の用語です。</b>	
<b>住所番号</b>	エンティティのマスター レコードを識別する固有の番号です。住所番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナント、などの ID として使用できます。アプリケーションによっては、ページ上の住所番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員番号、応募者番号、加入者番号、などに相当する場合もあります。
<b>仮定通貨コード</b>	取引金額を表示する際に使用する通貨を指定する 3 文字のコードです。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
<b>バッチ番号</b>	システムによって処理される取引のグループを識別する番号です。入力ページでは、ユーザーが手動でバッチ番号を割り当てるか、自動採番プログラム (P0002) によって自動的に割り当てることもできます。
<b>バッチ日付</b>	バッチが作成された日付です。このフィールドを空白のままにすると、自動的にシステム日付がバッチ日付として指定されます。
<b>バッチ状況</b>	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード (UDC) 98/IC の値を表示します。有効値は以下のとおりです。</p> <p>空白: バッチが転記されていないか、承認待ちです。</p> <p>A: バッチの転記が承認され、貸借も一致していますが、まだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されました。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードが E に変更されます。</p>

U: ほかのユーザーがこのバッチを使用しているか、バッチが開かれている間に電源障害が発生したために、バッチが一時的に使用できなくなっています。

事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業所、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードです。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	個別に費用がトラッキングされる各エンティティを表すコードです。システムによっては、事業所とも呼ばれます。
カテゴリ コード	各カテゴリを表すコードです。カテゴリ コードは、ユーザー定義コードで、トラッキングや申告など、組織の業務要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	組織、資金、報告主体などを識別するコードです。会社コードは、F0010 に定義済みである必要があり、このコードで表される単位ごとに、完全な貸借対照表を備えている必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す 3 文字のコードです。EnterpriseOne では、国際標準化機構 (ISO) に準拠した通貨コードを提供しています。通貨コードは F0013 テーブルに格納されています。
伝票会社	<p>伝票に関連付けられた会社番号です。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付と併せて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度によって次の番号を割り当てる場合、この会社番号に基づいて、その会社の次の番号が自動的に抽出されます。</p> <p>同じ伝票番号と伝票タイプが複数の当初伝票に割り当てられていても、伝票会社番号を使用すれば、目的の当初伝票を表示することができます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳入力、タイム シートなどの当初伝票を識別する番号です。入力ページでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、自動採番プログラムによって自動的に割り当てることもできます。
伝票タイプ	<p>取引のソースおよび目的を表すユーザー定義コード 00/DT の値 (2 文字) です。伝票、請求書、仕訳入力、タイム シートなどがあります。EnterpriseOne では、伝票タイプに以下のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛伝票</p> <p>R: 売掛伝票</p> <p>T: 時間/給与伝票</p> <p>I: 在庫伝票</p> <p>O: 購買伝票</p> <p>S: 受注伝票</p>
有効日付	<p>住所、品目、取引、レコードなどがアクティブになる日付です。このフィールドは、プログラムによって意味が変わります。たとえば、以下のような日付を表すことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 住所変更が有効になる日付</li><li>• 賃貸契約が有効になる日付</li><li>• 価格が有効になる日付</li><li>• 為替換算レートが有効になる日付</li></ul>

- 税率が有効になる日付

**会計期間、会計年度**

元帳の期間、年度を表す番号です。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社固定情報プログラム (P0010) で定義された現在の会計期間と会計年度が自動的に使用されます。

**元帳日付**

取引の転記先の会計期間を示すための日付です。取引に対してこの日付が入力されると、その会社に割り当てられている会計期間パターンと比較して、適切な会計期間および会計年度が抽出されます。日付の検証も併せて行われます。



# JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 - まえがき

この章では、以下の内容について説明します。

- 対象の製品
- アプリケーションの基礎
- この PeopleBook で使用する共通フィールド

---

## 対象の製品

この PeopleBook では、以下の製品についての情報も記載されています。

- JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理

---

## アプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、この PeopleBook の姉妹編とも言える『PeopleSoft EnterpriseOne Financial Management Solutions Application Fundamentals 8.11 SP1 PeopleBook』に記載されています。

---

## この PeopleBook で使用する共通フィールド

銀行/支店	連邦準備制度によって特定の銀行に割り当てられた番号を入力します。この番号を使用することで、入金決済を容易に処理できます。
予算パターン	季節パターンを表す 3 文字のコードを入力します。このコードは、特定の会計期間の予算額の計算に使用されます。
元帳タイプ 1、元帳タイプ 2	<p>ユーザー定義コード (UDC) テーブル 09/LT に設定済みのコードを入力して、2 つの元帳タイプを識別します。たとえば、元帳タイプ 1 フィールドに AA を入力し、元帳タイプ 2 フィールドに BA を入力すると、F0911 テーブル内の全ての AA 元帳タイプのレコードと、BA 元帳タイプに合致する全てのレコードを表示することができます。</p> <p>特定のフォームに元帳タイプ 2 フィールドを表示するには、プログラムの処理オプションを設定する必要があります。</p>
転記額	指定した期間または年度の転記額を表す累計額が表示されます。

## 取引コード

銀行残高照合表に表示され、取引の種類を識別するコードを入力します。UDC テーブル 09/BJ に設定されているコードを使用します。このコードは、仕訳入力、顧客の支払などの処理に使用されます。

# 第 1 章

## JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 – はじめに

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、以下の内容について説明します。

- 一般会計システムの概要
- 一般会計のビジネス プロセス
- 一般会計のインテグレーション
- (Rapid Start) General Accounting business processes
- 一般会計システムの導入

---

### 一般会計システムの概要

多くの企業では、財務処理の効果的な管理のために、何らかの総勘定元帳アプリケーションが使用されています。財務処理には、会社内のさまざまな部門における収益と支出の配賦、会社間取引の除外、残高の照合、予算見積の作成とそれらの実際の活動との比較検討が含まれる場合があります。

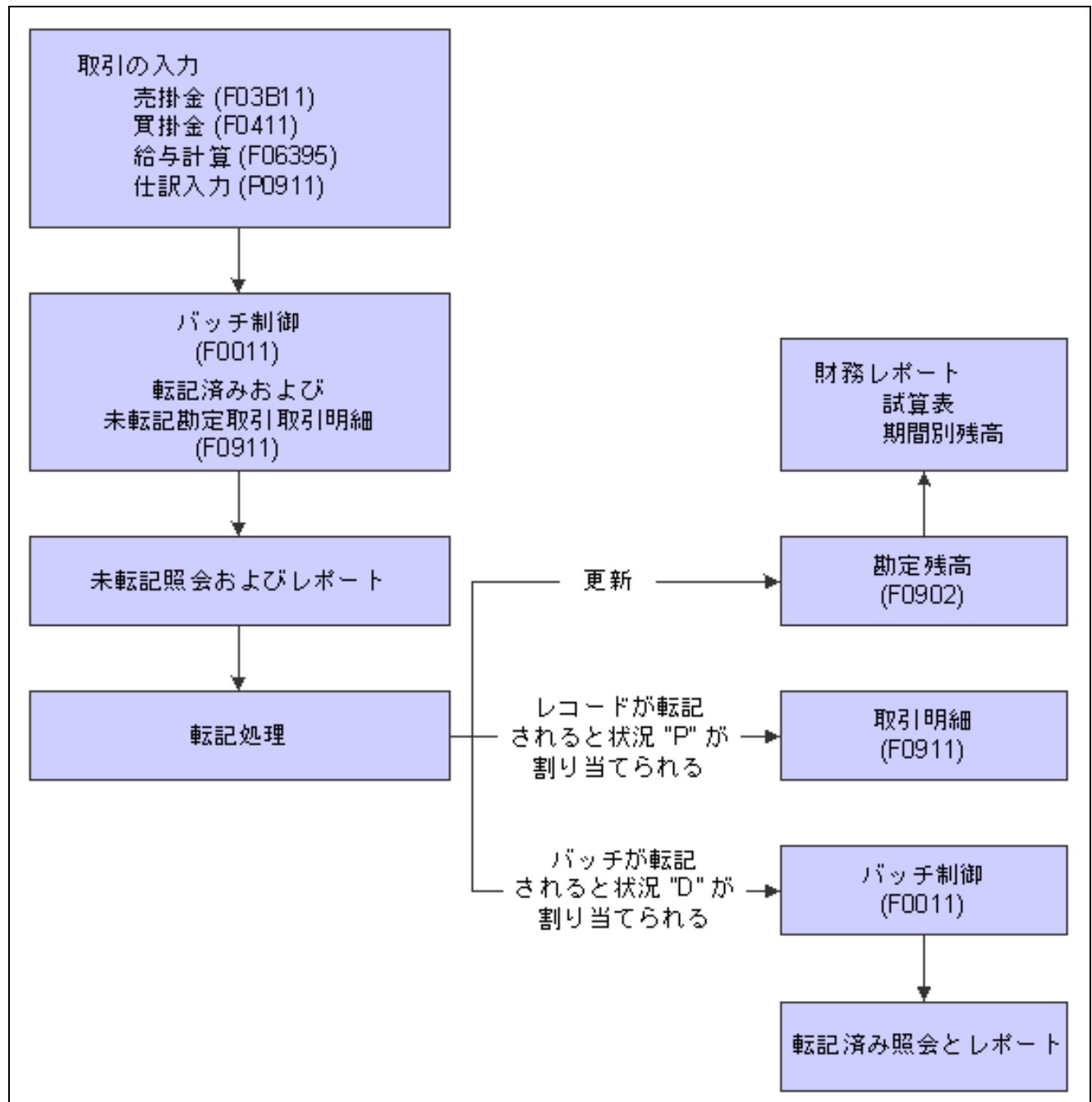
一般会計システムを使用すると、財務情報の整理、維持、記録、分析を行うことができます。たとえば、以下のような処理が可能です。

- 会計期間中のどの時点でも、勘定残高や集計情報にアクセスすることができます。
- 任意の時間枠を使用して、予算の概算見積や予算詳細を作成し、オンラインで予算対実績の比較を行うことができます。
- 15 年先までの収益/支出予算額を予測できます。
- 将来の支払予定を計画し、現金勘定を効果的に管理できます。
- 指定した過去の業務期間における現金および現金等価物の変動を示すキャッシュ フロー計算書を作成できます。
- 会社間の取引の決済を自動的に処理できます。

---

### 一般会計のビジネス プロセス

次のプロセス フローは、一般会計のビジネス プロセスを表しています。



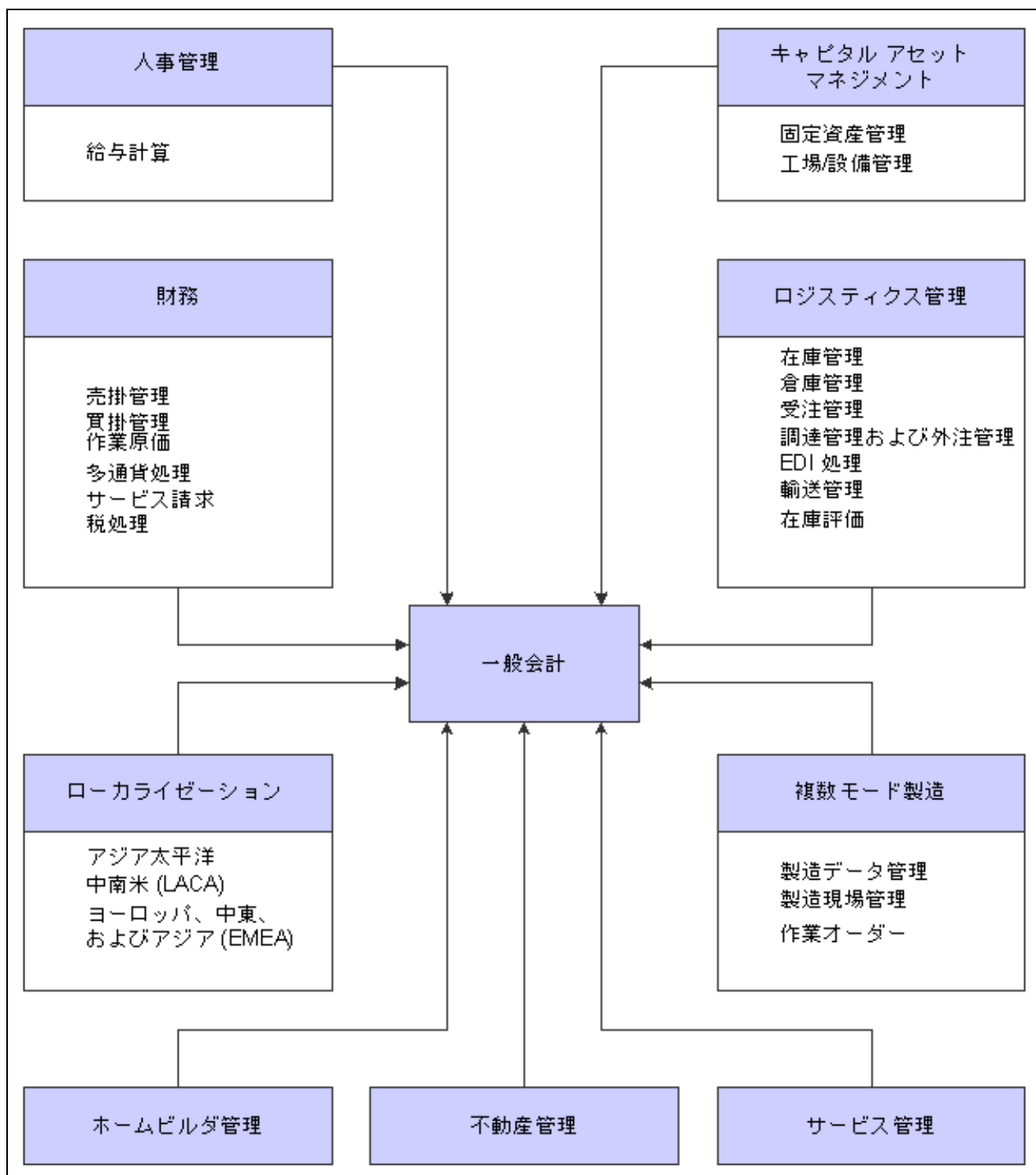
一般会計のプロセスフロー

個別のビジネス プロセスについては、この PeopleBook の各ビジネス プロセスの章で説明します。

## 一般会計のインテグレーション

次の図は、一般会計システムと JD Edwards EnterpriseOne の各種のシステムとのインテグレーションを示しています。





一般会計システムと各システムのインテグレーション

一般会計システムは、EnterpriseOne のその他のシステムと連動して機能し、全ての情報が総勘定元帳に取り込まれます。統合における留意事項については、この PeopleBook の導入に関する章で説明します。サードパーティ アプリケーションとの統合についての補足情報は、PeopleSoft Customer Connection Web サイトを参照してください。

## 人事管理

給与計算システムでは、給与計算サイクル中の労務費、労務費請求配賦、支出などに対する総勘定元帳取引が作成されます。

## 財務

財務処理に関する各システムでは、請求書、伝票、入金および支払処理などの総勘定元帳取引が作成されます。

## ローカライゼーション

ローカライゼーション用の各システムでは、各国の税制に対応した仕訳入力の総勘定元帳取引が作成されます。

## キャピタル アセット マネジメント

キャピタル アセット マネジメント用の各システムでは、減価償却、資産振替、伝票、設備、請求などに対する総勘定元帳取引が作成されます。

## ロジスティクス管理

ロジスティクス管理用の各システムでは、受注オーダー更新、購買オーダー入荷、伝票照合などの処理中に総勘定元帳取引が作成されます。

## 複数モード製造

複数モード製造を管理する各システムでは、製造会計処理中に、資材出庫、完了、労務時間、差異などに対する総勘定元帳取引が作成されます。

## ホームビルダ管理

ホームビルダ管理システムでは、ロット契約の締めと出来高払いの総勘定元帳取引が作成されます。

## 不動産管理

不動産管理システムでは、請求書や伝票の入力中に総勘定元帳取引が作成されます。

## サービス管理

サービス管理システムでは、在庫原価の総勘定元帳取引が作成されます。

---

## (Rapid Start) General Accounting Business Processes

Rapid Start for Australia, Canada, France, Great Britain, New Zealand, and the United States includes all the functionality that is available in the PeopleSoft EnterpriseOne systems to perform your business processes. For the General Accounting system, Rapid Start also includes preconfigured data that is specifically set up for these business processes:

- Capture transactions
- Determine cash
- Manage budgets
- Prepare financial reports

This table lists the business processes, scenarios, and process steps for General Accounting and refers you to the detailed information for each business process. The information in this table applies to all countries that use Rapid Start:

Business Process	Scenario	Process Steps	Reference
Capture transactions.	Manage accounting structure.	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Add a company and a business unit.</li> <li>2. Copy accounts to the business unit, and add accounts.</li> </ol>	参照: 第 36 章、「組織の改訂」、「(Rapid Start) Managing Accounting Structure」、467ページ
Capture transactions.	Enter, review, and approve journal entries and post journal entries.	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Enter journal entries.</li> <li>2. Review journal entries.</li> <li>3. Post journal entries.</li> <li>4. Revise and void journal entries and post them.</li> </ol>	参照: 第 11 章、「仕訳の処理」、「(Rapid Start) Entering, Reviewing, and Approving Journal Entries and Posting Journal Entries」、105ページ
Manage budgets.	Enter annual budgets, enter detail budgets, enter journalized budgets, process PC upload and review budgets.	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Enter budgets using different methods.</li> <li>2. Review budgets.</li> </ol>	参照: 第 21 章、「予算の作成」、「(Rapid Start) Enter Annual Budgets, Enter Detail Budgets, Enter Journalized Budgets, Process PC Upload, and Review Budgets」、231ページ
Determine cash.	Manual account reconciliation.	Manually reconcile transactions for each bank account.	参照: 第 15 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「(Rapid Start) Reconciling Bank Account Transactions Manually」、152ページ
Prepare financial reports.	Review financial reports and inquiries.	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review financial information online.</li> <li>2. Run financial reports.</li> </ol>	参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「(Rapid Start) Reviewing Financial Reports and Inquiries」、395ページ
Prepare financial reports.	Close ledger.	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Run integrity reports.</li> <li>2. Close the fiscal period.</li> <li>3. Close the fiscal year.</li> </ol>	参照: 第 38 章、「会計年度の締め処理」、「(Rapid Start) Closing the Ledger」、484ページ

## 一般会計システムの導入

このセクションでは、一般会計システムを導入するために必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール ガイドやトラブルシューティング情報など、提供されている全ての情報を活用してください。これらのリソースの一覧は、『この PeopleBook について』のまえがきに、各リソースの最新バージョンの入手方法と共に掲載されています。

## グローバル導入ステップ

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの推奨導入手順を示しています。

手順	参照
1. 会計期間パターン、会社、ビジネスユニットを設定します。	
2. 勘定科目表を作成し、勘定科目と補助元帳を設定します。	
3. 一般会計固定情報を設定します。	<a href="#">第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計固定情報の設定」、14ページ</a>
4. 多通貨処理を設定します。	
5. 元帳タイプ規則を設定します。	<a href="#">第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプ規則の設定」、24ページ</a>
6. 住所録レコードを入力します。	

## 一般会計システムの導入ステップ

次の表は、一般会計システムのアプリケーション別推奨導入手順を示しています。

手順	参照
1. ユーザー定義コード (UDC)、元帳タイプ、自動仕訳 (AAI)、ビジネスユニット補足データを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計のユーザー定義コードの設定」、18ページ</a></li> <li>• <a href="#">第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、13ページ</a></li> <li>• <a href="#">第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの AAI の設定」、27ページ</a></li> <li>• <a href="#">第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「ビジネスユニット補足データの設定」、32ページ</a></li> </ul>
2. システム別および会社/会計年度別の自動採番を設定します。	
3. 仕訳入力のバッチ承認と転記セキュリティを設定します。承認者と入力者を設定します。	
4. 勘定残高調整の AAI と残高調整コードを設定します。	<a href="#">第 4 章、「勘定残高調整の設定」、35ページ</a>
5. UDC、銀行口座参照、自動銀行残高照合表勘定、自動残高調整ルールおよびグループを設定します。	<a href="#">第 5 章、「自動銀行残高照合表処理の設定」、37ページ</a>
6. 増額(成長)パターンを設定し、ビジネスユニットに割り当てます。	<a href="#">第 6 章、「予算の予測と計画の設定」、「成長パターンの設定」、55ページ</a>
7. 売掛管理、買掛管理、および一般会計システムの資金タイプ規則を設定し、資金予測レポートの構造を定義します。	<a href="#">第 7 章、「資金予測の設定」、59ページ</a>

手順	参照
8. キャッシュフロー活動コード、通常残高コード、およびキャッシュフロー規則を設定します。	<u>第 8 章、「キャッシュフロー計算書の設定」、69ページ</u>
9. 現金主義入力の伝票タイプを設定し、実績金額 (AA) 元帳に伝票タイプを割り当て、仮受金、買掛金、および売掛金残高勘定の AAI を設定します。	<u>第 9 章、「現金主義会計の設定」、75ページ</u>
10. 52 期間の会計期間パターンを設定し、期間を会社に割り当てます。	<u>第 10 章、「52 期間会計の設定」、79ページ</u>
11. Vertex Sales Tax Q Series を使用して売上税を設定します。	



## 第 2 章

# 一般会計システムの機能について

この章では、一般会計システムの機能について説明します。

## 一般会計システムの機能

次の表は、一般会計システムで利用できる機能の一部とその説明です。

機能	説明
レポート作成	<p>一般会計システムには、集計情報を補足する各種のレポートが標準提供されています。管理者は、これらのレポートを頻繁に使用して詳細な業務分析を行います。</p> <p>追加的なレポート作成や分析のために、ビジネスユニットに割り当てるカテゴリコードに基づく組織構造(複数可)を作成して、親子関係のシミュレーションを行うことができます。提供されている GUI(グラフィカル ユーザー インターフェイス)を使用して、構造(親子関係)の検討、ノードの展開/折り畳み、構成要素のドラッグアンドドロップによる構造の再編成を行うことができます。</p> <p>親会社と子会社の両方の要件に応じて、勘定科目表を管理できます。各国の法定レポート要件に対応する多様なレポートが用意されています。</p>
勘定残高の集計	<p>会計期間中のどの時点でも、勘定残高や集計情報にアクセスすることができます。財務情報をオンラインで検討する場合も、印刷したレポートで検討する場合も、最適な詳細レベルで情報を検討できます。</p> <p>オンラインで勘定残高を検討しながら、当初の取引の明細に簡単にアクセスできます。取引に関して疑問が生じた場合は、この機能を使用して迅速に解決することができます。</p> <p>集計された財務レポートは、多通貨、多言語で、オンラインで随時検討できます。</p> <p>また、EnterpriseOne ソフトウェアを使用していない事業拠点を含む、複数のロケーションからの勘定残高情報を集計できます。</p>

機能	説明
複数の元帳による柔軟な機能	<p>複数の元帳を使用する際にも不要なデータや重複したデータを入力する必要がなく、柔軟な会計処理を行うことができます。複数の元帳を使用して、以下のような処理を行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実績元帳や予算元帳などの単位元帳や通貨元帳のタイプをいくつでも定義することができます。</li> <li>個別の勘定科目コードを作成せずに、製品別全社収益から従業員別経費まで、あらゆる切り口でデータを収集できます。</li> <li>適切な元帳で取引を管理し、集計または明細取引別に総勘定元帳に転記できます。</li> <li>2つの元帳を同時に表示できます。たとえば、オンラインで差異を計算しながら予算元帳と実績元帳を検討できます。</li> </ul>
予算作成	<p>予算に含める情報の詳細度を指定できます。たとえば、プロジェクト/ビジネスユニットレベル、資産区分別、または特定の勘定科目別で予算を作成できます。また、各勘定科目と予算の金額に関する仕訳を作成することもできます。詳細予算を作成するこの方式は、正式な監査証跡が残るため、当初予算に対する補正予算を記録する必要がある建設業者や政府機関で使用されます。</p> <p>年累計、期間累計、その他の時間枠を指定して、予算対実績をオンラインで比較できます。これにより、差異に対して迅速に対応することができます。予算が変更された場合は、変更の理由を説明する仕訳を作成して、次の年度の予算をより正確に作成することができます。</p> <p>各部門の管理者がPCのスプレッドシートで部門予算を作成し、その内容を一般会計システムにアップロードして最終予算を作成することもできます。</p>
配賦	<p>費用の配分や年次/月次予算の作成など、さまざまな目的で配賦を定義することが可能です。一度の簡単な配賦で、前年度の予算や実績の増減を反映した予算を作成できます。</p> <p>ある勘定科目から別の勘定科目への配賦を第3勘定科目に基づいて行うことができます。たとえば、毎月の水道光熱費を占有面積に基づいて間接費勘定から各部門に配賦することができます。その他の配賦に基づいて新たに配賦を作成し、それらを同時に処理することも可能です。</p> <p>一般会計システムには、定期仕訳入力、インデックス配賦、変数配賦という3つの配賦機能があります。</p>
勘定残高調整	<p>必要な初期設定をした後に、勘定科目の残高調整を定期的に行うことができます。銀行残高照合表と同様に、選択した経費勘定と銀行勘定の残高調整も可能です。一般会計システムには、手動と自動の両方による銀行残高照合のプログラムが用意されています。</p> <p>国によっては、銀行取引の慣例として、債務の決済に磁気メディア処理や電子資金決済が利用される場合や、銀行が直接関与する場合があります。このような国では、銀行残高照合表が、全ての銀行取引のソース伝票の役割を果たします。</p>



機能	説明
会社間決済	会社間決済によって、確実に各会社の正味残高をゼロにし、借方残高と貸方残高を等しくすることができます。会社間の取引を入力する場合、会社間貸借一致仕訳を作成して転記しなければ、双方の会社で貸借不一致が発生します。会社間決済は手動で作成することも、使用する会社間決済方法を選択して自動作成することもできます。
柔軟な組織再編成	<p>従来、レポート構造を変更すると、勘定科目表を修正した後の既存レコードのデータ変換に時間がかかっていました。</p> <p>一般会計システムでは、勘定科目コードを変更すると、関連する取引明細と残高履歴が自動的に更新されるため、データを変換する必要はありません。</p> <p>一般会計システムへの移行初期には、旧勘定科目コードの相互参照用として、自由形式の勘定科目コードを使用することができます。</p>



## 第 3 章

# 一般会計システムのセットアップ

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、一般会計システムのセットアップの概要と、以下の設定方法について説明します。

- 固定情報
- ユーザー定義コード
- (RUS) User-defined codes for Russia
- 元帳タイプ
- 元帳タイプ規則
- AAI (自動仕訳)
- ビジネスユニット補足データ
- Vertex sales tax

## 一般会計システムのセットアップについて

一般会計システムを使用する前に、処理に必要な情報を設定し定義する必要があります。これらの情報により、ビジネス ニーズに合わせてシステムをカスタマイズします。たとえば、仕訳入力後にバッチ合計額が検証されるように、バッチ制御を設定できます。

次の表は、一般会計システムのセットアップ機能をまとめたものです。

機能	説明
固定情報	<p>固定情報では、以下のようなシステムの基本情報を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 仕訳入力のバッチ内の金額および伝票数と、ユーザーが入力した実際の金額および伝票数との比較検証を実行するかどうか</li><li>• バッチを転記する前に、管理者の承認を必須とするかどうか</li><li>• 現行年度内の前会計期間に対して、バッチを転記できるかどうか</li><li>• 仕訳入力で、未登録の勘定科目コードをシステムでどのように管理するか</li><li>• 入力する勘定科目コードのフォーマットを識別するのに使用する記号は何か</li><li>• 多通貨を使用するかどうか</li><li>• 会社間決済の仕訳入力をシステムでどのように処理するか</li></ul>

機能	説明
ユーザー定義コード	ユーザー定義コードは、ビジネスニーズに応じてカスタマイズできるコードです。一般会計システムおよびその他の EnterpriseOne システムのさまざまなプログラムで、これらのコードは使用されています。
自動採番	入力する伝票番号の自動採番システムを設定します。
元帳タイプ	一般会計で管理する元帳を定義します。元帳タイプには、AA(実績金額)およびBA(予算金額)があります。
元帳タイプ規則	元帳タイプ設定後、各元帳タイプの会計規則を設定します。
AAI(自動仕訳)	勘定科目表の規則を定義し、自動仕訳の作成方法を設定します。多言語環境で作業している場合は、AAI の記述を翻訳することができます。

## 事前設定

会社、会計期間パターン、ビジネスユニット、および勘定科目を設定します。

## 一般会計固定情報の設定

このセクションでは、一般会計固定情報の概要と、その設定方法について説明します。

### 一般会計固定情報について

固定情報では、一般会計システムの基本的な枠組みを設定します。通常、1 人のユーザーが一般会計固定情報の設定を行います。いったん設定した固定情報は変更しないことをお勧めします。変更すると、予期せぬ結果が生じる可能性があります。

固定情報はキャッシュされます。固定情報の設定を変更した場合、システム管理者に連絡して、変更結果が有効になるように必要な追加ステップを確認する必要があります。

一般会計固定情報は、会社固定情報 (F0010) および一般会計固定情報 (F0009) テーブルに保存されます。

固定情報	説明
バッチ制御必須	仕訳などの伝票バッチを作成する際、バッチの伝票の合計数と合計金額を検証する場合があります。バッチ制御必須機能を設定すると、入力前に予測した合計金額とバッチを入力した直後の実際の合計金額とを比較検証することができます。
管理者承認	管理者承認固定情報により、バッチ転記前に管理者のバッチ承認が必須かどうかを指定することができます。

固定情報	説明
PBCO (過去期間) 転記の許可	<p>特に導入の際に、前会計期間へのバッチの転記が必要な場合があります。これが実行できるかどうかは、固定情報により制御されます。</p> <p>固定情報で前期間への転記の許可が設定されていない場合でも、前期間へ転記する方法があります。会社の現行期間を前期間に変更して、その期間に転記します。いずれの場合も、前期間を再度締めて、その期間以降について更新された期末財務レポートを処理をする必要があります。</p>
未登録勘定科目の許可	<p>仕訳入力で、未登録勘定科目コードを入力できるようにするかどうかを制御します。未登録勘定科目コードとは、ビジネスユニット マスター (F0006) に既に存在しているビジネスユニットに対して、まだシステムに設定されていない勘定科目のことです。未登録勘定科目コードを入力できるようにすると、入力を終了したりデータを失うことなくバッチを完了することができます。</p> <p>未登録勘定科目コードを許可した場合、以下のことが実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未登録勘定科目コードが修正されるまで、バッチをエラー状態で未転記のまま維持する。</li> <li>自動作成が設定されている場合は、新しい勘定科目を自動的に作成する。</li> </ul>
会社間決済	<p>組織で会社間取引がある場合、会社間で貸借が一致する仕訳を作成して転記しなければ貸借不一致が発生します。確実に各会社の正味残高をゼロにし、借方残高と貸方残高を等しくなるように、会社間決済を作成します。会社間決済は手入力で作成することも、システムにより自動作成することもできます。使用する会社間決済方式は次のいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハブ方式</li> <li>詳細方式</li> <li>構成ハブ方式</li> </ul>
勘定科目記号	<p>データ入力で勘定科目コードを入力する際、次の 3 つの形式のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスユニット.主科目.補助科目</li> <li>略式 ID (システムによって自動的に割り当てられる 8 桁のコード)</li> <li>第 3 勘定科目コード</li> </ul> <p>勘定科目コードの前に形式を区別する記号を付けることで、使用する形式を指定します。通常、よりすばやくデータ入力ができるように、最もよく使用される形式の勘定科目記号は指定しません。また、ビジネスユニット.主科目.補助科目の各コンポーネントを区切る記号を定義することもできます。</p>

## 事前設定

権限のある担当者以外は一般会計固定情報へのアクセスと変更ができないようにしてください。

## 一般会計固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[システム・セットアップ]	W0000A	[一般会計システム・セットアップ](G0941)、[一般会計固定情報]	一般会計システムまたはその他のシステムの固定情報にアクセスします。
[一般会計固定情報]	W0000B	[システム・セットアップ] フォームの [一般会計固定情報] をクリックします。	一般会計システムの固定情報を設定します。

## 一般会計固定情報の設定

[一般会計固定情報] フォームにアクセスします。

[一般会計固定情報] フォーム

### [バッチ制御必須]

バッチ制御を必須とするかどうか指定します。

このチェック ボックスをオンにすると、バッチ入力の際に追加フォームが表示されます。バッチに含まれると予測される伝票総数および合計金額を入力します。各バッチの入力が完了してプログラムを終了すると、予測値と実際に入力した値が異なる場合には、その差異が表示されます。

### [管理者承認]

バッチ転記前に、管理者による一般会計バッチの承認を必須とするかどうかを指定します。

このチェック ボックスをオンにすると、管理者によるバッチの承認が必須となります。バッチには保留の状況が割り当てられ、バッチが転記される前に管理者による承認が必要となります。

このチェック ボックスをオフにすると、バッチには承認済みの状況が割り当てられ、管理者承認は不要となります。

### [PBCO(過去期間)転記の許可]

前期間への転記を許可するかどうかを指定します。このチェック ボックスをオンにすると、過去の期間へ転記しようとしたときに、誤って転記しないように警告メッセージが表示されます。

### [未登録勘定科目の許可]

伝票や請求書、仕訳の入力時に、未登録の勘定科目コードを入力できるようにするかどうかを指定します。このチェック ボックスをオンにすると、未

登録勘定科目記号として # を前に付けて、未登録勘定科目コードを入力することができます。

未登録勘定科目コードを実際に入力した場合、バッチを転記する前に有効な勘定科目コードに変更するか、入力した勘定科目コードを新規に設定する必要があります。

勘定科目コードは、勘定科目マスター (F0901) にあるかどうか検証されます。

#### [略式IDの識別記号]

データ入力時に、略式 ID (8 桁のコード) の前に入力する、“\*” または “/” などのコードを指定します。

通常使用する略式 ID が 1 つの場合、このフィールドはブランクにします。ほとんど使用しない場合は、システムで識別できるように記号を入力します。

勘定科目記号に使用する 3 つのフィールドのうち、1 つだけブランクにできます。通常使用する勘定科目コードのタイプをブランクにします。他の 2 つのフィールドにはそれぞれ固有な値を使用してください。ピリオドやカンマなどの記号が、システム内で別の目的に使用されていないことを確認する必要があります。

#### [標準勘定科目(BU.主.補助)識別記号]

データ入力時に、標準勘定科目 (ビジネスユニット.主.補助) の前に入力する、“\*” または “/” などのコードを指定します。

勘定科目コード、“ビジネスユニット.主.補助” は最も頻繁に使用されます。通常使用する勘定科目コードがこのタイプの場合、このフィールドはブランクにします。ほとんど使用しない場合は、システムで識別できるように記号を入力します。

勘定科目記号に使用する 3 つのフィールドのうち、1 つだけブランクにできます。他の 2 つのフィールドにはそれぞれ固有な値を使用してください。ピリオドやカンマなどの記号が、システム内で別の目的に使用されていないことを確認する必要があります。

#### [第3勘定科目コードの識別記号]

データ入力時に、第 3 勘定科目コード (自由形式勘定科目コード) の前に入力する、“\*” または “/” などのコードを指定します。

第 3 勘定科目コードが通常使用するコードの場合、このフィールドはブランクにします。ほとんど使用しない場合は、システムで識別できるように記号を入力します。

勘定科目記号に使用する 3 つのフィールドのうち、1 つだけブランクにできます。他の 2 つのフィールドにはそれぞれ固有な値を使用してください。ピリオドやカンマなどの記号が、システム内で別の目的に使用されていないことを確認する必要があります。

#### [勘定科目区切り文字]

フォームやレポートで勘定科目コードのビジネスユニット、主科目、補助科目の各要素、または任意の勘定科目コード要素を区切るための文字を入力します。無効な勘定科目記号 “#” または作業オーダー プレフィックス “¥” 以外の特殊文字を区切り文字として入力してください。英数字は使用できません。ブランクの場合、デフォルト文字の “.” (ピリオド) が使用されます。

#### [会社間決済]

組織内の会社間取引 (会社間決済) での仕訳自動作成に使用される方式を指定します。有効値は以下のとおりです。

1: ハブ方式。ハブ会社を使用して会社間決済を作成します。

2: 詳細方式。ハブ会社なしで会社間決済を作成します。

この方式は多通貨処理に有効です。

3: 構成ハブ方式。構成ハブを使用して会社間決済を作成します。

この方式は多通貨処理に有効です。

N: 会社間決済を作成しません。会社間取引を含む場合、バッチは転記されません。

\*: 会社間決済を作成しません。会社間取引を含んでいても、バッチは転記されます。

---

## 一般会計のユーザー定義コードの設定

レコードが自動作成される取引を入力する際は、多くの場合フィールドにユーザー定義コードを入力する必要があります。たとえば、配賦を作成する際は、配賦元勘定と配賦先勘定の元帳タイプを識別するユーザー定義コードを入力する必要があります。

一般会計システムでは、元帳タイプコードの他に、次のユーザー定義コードが使用されます。

- ビジネスユニット カテゴリ コード
- 勘定科目カテゴリ コード
- ビジネスユニット タイプ コード
- 補助元帳タイプ コード
- 残高調整コード
- 取引コード

### ビジネスユニット カテゴリ コード (00/01-30)

財務レポート用に、ビジネスユニットをグループに分類することができます。グループと、各グループに属するビジネスユニットを指定します。各グループに対して、UDC テーブル 00/01 から 30 にビジネスユニット カテゴリ コードを設定します。以下のように、ビジネスユニットに必要な文字数によってコードは異なります。

- コード タイプ 01 から 20 を使用 (3 文字のコード)
- コード タイプ 21 から 30 を使用 (10 文字のコード)

ビジネスユニット カテゴリ コードは、ビジネスユニット マスター (F0006) に保存されます。

### 勘定科目カテゴリ コード (09/01-43)

財務レポート用に、主科目をグループにまとめることができます。各グループに対して、UDC テーブル 09/01 から 43 に勘定科目カテゴリ コードを設定します。これらのコードは企業幹部向けレポート作成のために組織構造を示すものです。

勘定科目カテゴリ コードは通常、第 2 の勘定科目表を提供するために使用されます。たとえば、社内用の勘定科目表の他に、政府に対するレポート用の法定勘定科目表が必要な場合などです。システムでは 43 のカテゴリ コードが提供されています。そのうちの 23 のコードには、第 2 の勘定科目コードを含めることができます。

以下のように、勘定科目に必要な文字数によってコードは異なります。

- タイプ 01 から 20 を使用 (3 文字のコード)
- タイプ 21 から 43 を使用 (10 文字のコード)



国によっては、法定レポートの作成に 10 文字のカテゴリコードを使用します。(CHL and PERU) Chili and Peru use category codes 21–23 for statutory reporting.

勘定科目カテゴリコードは、勘定科目マスター (F0901) に保存されています。

### ビジネスユニット タイプ コード (00/MC)

UDC テーブル 00/MC にビジネスユニット タイプ コードを割り当てて、類似したビジネスユニットをグループにまとめることができます。これらのコードは、勘定科目を自動作成したり、ビジネスユニットをコピーする際に便利です。たとえば、同じビジネスユニット タイプ コードを持つ勘定科目は、モデル ビジネスユニットから新しいビジネスユニットのグループに自動的にコピーできます。

また、ビジネスユニット タイプ コードを使用して、ビジネスユニットが請求可能かどうかを指定することができます。請求可能な場合は、コードの特殊取扱フィールドに「10」と入力します。

経費精算管理システムでは、請求可能なビジネスユニット タイプを使用して、経費精算規則や割り当てる経費勘定、税の種類が決定されます。

### 補助元帳タイプ コード (00/ST)

UDC テーブル 00/ST の補助元帳タイプ コードを使用すると、勘定科目の中により詳しい構造を設定することができます。住所録を表す A などの補助元帳タイプは、従業員番号などの番号と関連しています。また、補助元帳タイプは、仕訳の作成時にシステムが補助元帳の値をどのように検証するかも制御します。

### 残高調整コード (09/RC)

残高調整手順で標準とは異なる条件を使用している場合、手動または自動による銀行残高調整を行う際に、R (ハードコード) 以外の残高調整コードを使用する場合があります。UDC テーブル 09/RC に必要な調整コードを追加できます。

### 取引コード (09/BJ)

取引コードは、銀行残高照合表処理に使用されます。銀行残高照合表上の取引をシステムに入力する際、UDC テーブル 09/BJ の取引コードをその取引に割り当てます。取引コードにより、仕訳入力や顧客支払などの取引タイプが識別され、その取引タイプの残高調整に必要な明細情報が指定されます。

### 関連項目:

EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Foundation

---

## (RUS) Setting Up User-Defined Codes for Russia

These user-defined codes in the General Accounting system are used by Russia:

- Amount Difference Document Type
- Amount Correspondences
- Account Type
- Correspondence Batch Status
- Code Type
- Factor Row
- Formula Type

- Correspondence Methods
- Correspondence Print Options
- Correspondence Result Code
- Record Type
- Section Number
- Scale Factor
- Visible Row

### **Amount Difference Document Type (74R/AD)**

The General Accounting system provides hard-coded values for this UDC. Additionally, you must add the code PD to this UDC table for returned good for which payments have been received. You use these values when you set up amount difference accounting. Verify that these values exist in your system:

- CI: Credit Invoice
- CV: Credit Voucher
- DI: Debit Invoice
- DV: Debit Voucher

### **Amount Correspondences (74R/AG)**

The General Accounting system provides hard-coded values for this UDC. You use these values when you set up account correspondence in the Correspondence Account Setup (P74R9001) program. Verify that these values exist in your system:

- – Minus Amount
- + Plus Amount

### **Account Type (74R/AT)**

The General Accounting system provides hard-coded values that the system uses when you set up general ledger report formats by using the G/L Reports Setup program (P74R9020). The system uses the values in the 74R/AT UDC table to determine if the account is an object/subsidiary account, or if the account is set up in a category code.

### **Correspondence Batch Status (74R/CS)**

The General Accounting system provides hard-coded values for this UDC. You use these values when you change batch statuses in the Review Correspondence Batches (P74R0011) program. Verify that these values exist in your system:

- Blank: Generating Corresp. Pending
- GE: Corresp. Generated Successfully
- PO: Correspondence Posted
- EG: Error Generating Correspondence

### Code Type (74R/CT)

The General Accounting system provides hard-coded values that the system uses when you set up general ledger report formats by using the G/L Reports Setup program (P74R9020). The system uses these values to determine the type of row. Some row types determine the tables the system reads to obtain balances. Other row types specify whether the system calculates values or prints a title for the row.

### Factor Row (74R/FA)

The General Accounting system provides hard-coded values that the system uses when you set up general ledger report formats by using the G/L Reports Setup program (P74R9020). The system uses the values in the 74R/FA UDC table to determine whether the system changes the sign of the amount from positive to negative, negative to positive, or leaves the original sign.

### Formula Type (74R/FT)

The General Accounting system provides hard-coded values that the system uses when you set up Changes in Equity report formats by using the G/L Reports Setup program (P74R9020). The system uses the values in the 74R/FT UDC table to determine the time period for which to report.

### Correspondence Methods (74R/MH)

The General Accounting system provides hard-coded values for this UDC. You use these values when you associate batch types to correspondence methods in the Correspondence Account Setup (P74R9001) program. Verify that these values exist in your system:

Code	Description
01	Direct between two concurrent lines.
02	Direct between debit and credit.
03	One debit, multiple credits.
04	Several debits, several credits.

### Correspondence Print Options (74R/PO)

The General Accounting system provides hard-coded values for this UDC. You use these values when you set up accounts in the Correspondence Account Setup (P74R9001) program. Verify that these values exist in your system:

Code	Description
Blank	.
HI	Hide
RV	Red void

### Correspondence Result Code (74R/RC)

Use this UDC to set up values that the system displays in the Correspondence Batch Revision program to specify the status of the correspondence record. For example, you might set up these values:

- E: Error

- G: Generated
- I: Ignore
- P: Posted

### Record Type (74R/RT)

The General Accounting system provides hard-coded values that the system uses when you set up general ledger reports by using the G/L Reports Setup program (P74R9020). The system uses these values to determine what types of rows, accounts, and other criteria are applicable for the reports you create.

### Section Number (74R/SE)

The General Accounting system provides hard-coded values that the system uses when you set up general ledger reports by using the G/L Reports Setup program (P74R9020). The system uses these values to determine the section in which to print the rows.

### Scale Factor (74R/SF)

The system uses the Scale Factor UDC table (74R/SF) to determine how to print numerical values on general ledger reports. You specify in a processing option the scaling factor, if any, that you want the system to use.

When you choose to scale numerical values, the system divides the numerical values on the report by the scaling amount that you specify. For example, suppose that the amount in an account is 23,929. If you choose to scale the amount by a factor of 1000, the system divides 23,929 by 1000, rounds to the nearest whole number, and prints 24 on the report.

### Visible Row (74R/VI)

The General Accounting system provides hard-coded values that the system uses when you set up general ledger report formats by using the G/L Reports Setup program (P74R9020). The system uses the values in the 74R/VI UDC table to determine whether the row you define is printed on the report. Generally, you indicate that rows that contain formulas do not print on the report.

---

## 一般会計システムの元帳タイプの設定

UDC テーブル 09/LT の総勘定元帳で管理する元帳を定義します。元帳には以下の項目を管理および制御する情報が含まれています。

- 統計または数量
- 予算
- 予測
- 発生主義金額
- 現金主義金額

一般会計システムの元帳タイプには次のものがあります。

- AA (実績金額)
- AU (実績数量)
- BA (予算金額)

- BU (予算数量)

数量元帳はシステムにより基本金額元帳と関連付けられています。たとえば、AU (実績数量) 元帳は、AA (実績金額) 元帳に関連付けられている数量元帳で、BU (予算数量) 元帳は、BA (予算金額) 元帳に関連付けられている数量元帳です。

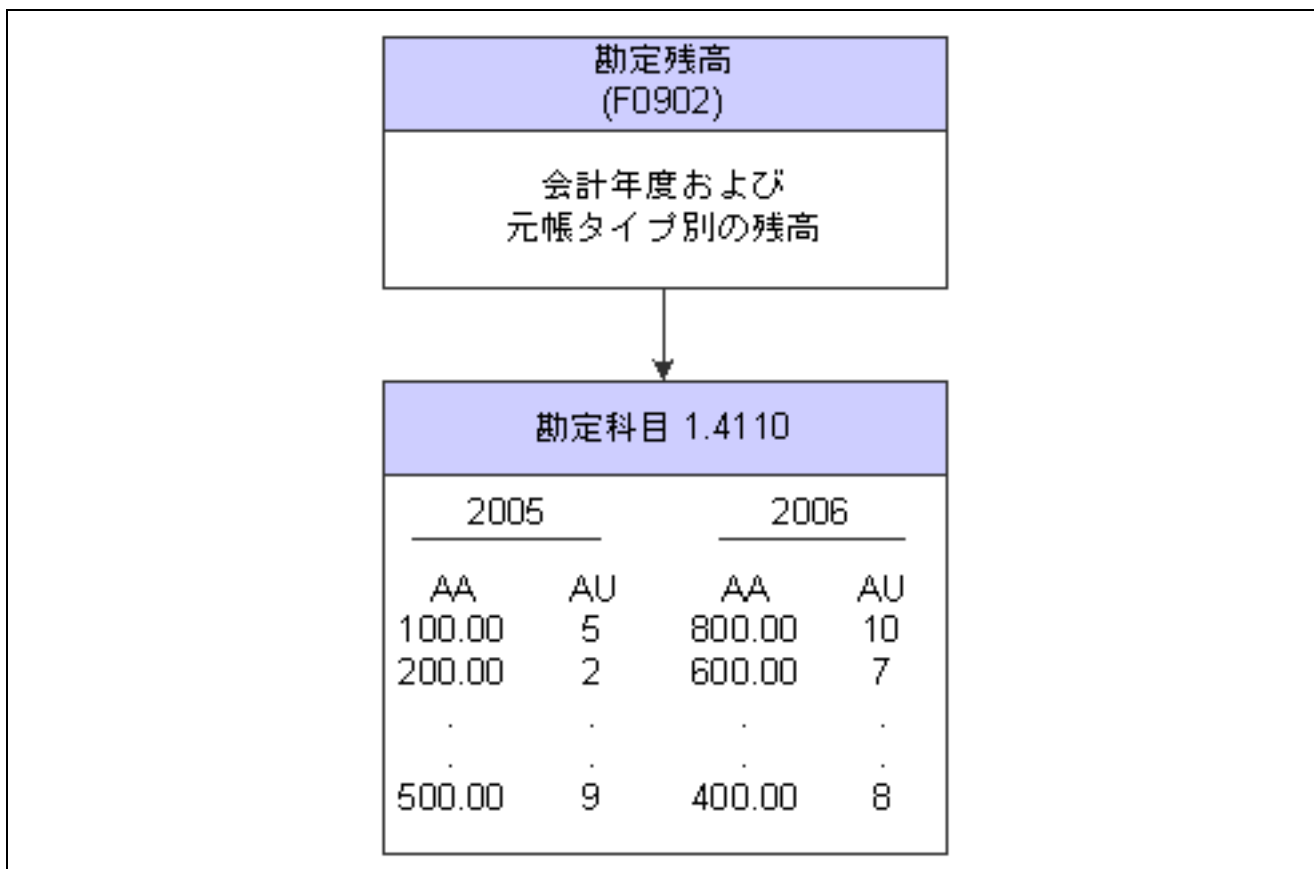
数量を持つ仕訳を入力する際、F0911 テーブルに追加レコードは作成されず、別のフィールドに数量が保存されるだけです。ただし、数量を持つ仕訳を転記する際には、金額元帳に関連付けられている数量元帳に数量を記録するために使用される、個別の F0902 レコードが作成されます。たとえば、金額が AA 元帳に転記される場合、数量は AU 元帳に転記されます。

新しい元帳タイプを作成することもできます。元帳タイプ U1 から U9 および UA から UZ までが、ビジネス ニーズに応じて使用できるよう提供されています。これらの元帳タイプは各ユーザー専用として使用されるもので、EnterpriseOne ソフトウェアの将来のリリースで上書きをしたり、その他の目的に使用することはできません。

元帳タイプの情報は、元帳タイプ マスター (F0025) に保存されています。

### 例: 元帳タイプ

次の図は、F0902 テーブルで、各会計年度について実績金額 (AA) と実績数量 (AU) が元帳タイプ別にどのように分類されるかを示しています。



AA 元帳と AU 元帳

## (CHL and PER) Ledger Types for Chile and Peru Reporting

For Chile and Peru reporting, you must set up UDCs for product code 76H and associate each UDC with one or more ledger types. For example, UDC table 76H/LL can be associated with ledger type AA and UDC table 76H/L1 can be associated with ledger type AA and ledger type A1, which stores actual values plus tax general ledger adjustments.

Set up your report versions by ledger type to allow for efficient reporting.

## 一般会計システムの元帳タイプ規則の設定

このセクションでは、元帳タイプ規則の概要と、それらの設定方法について説明します。

### 元帳タイプ規則について

一般会計システムにはさまざまな元帳タイプがあり、数量をトラッキングしたり、予算を管理したり、年度締めを制御するなどの統計的な目的で使用されます。UDC 09/LT で定義する各元帳の会計規則を設定する必要があります。設定する規則は 1 つのフォームにまとめられており、元帳タイプ マスターの設定プログラム (P0025) からアクセスできます。

元帳タイプの会計規則は、元帳タイプ マスター ファイル (F0025) に保存されています。

### 元帳タイプ規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[元帳タイプ規則の設定]	W0025FR	[一般会計システム・セットアップ] (G0941)、[元帳タイプ・マスターの設定]  [元帳タイプの処理] フォームで元帳を選択して、[選択] をクリックします。	元帳タイプ規則を設定します。

### 元帳タイプ規則の設定

[元帳タイプ規則の設定] フォームにアクセスします。

**元帳タイプ規則の設定**

元帳タイプの処理 元帳タイプ規則の設定

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) 前へ 次へ ツール(T)

元帳タイプ ★ AA 実績金額

数量元帳タイプ AU General Ledger Units

**会計規則**

☒ 繰越利益の計算 ☐ 当初予算の次年度繰越

☒ 元帳の貸借一致必須 ☐ DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更

☒ 会社間決済の作成 ☐ 換算先元帳として使用

☒ 残高を直接更新しない ☐ 仕訳を作成しない

**元帳比較カラム・タイトル**

上

下

**元帳通貨**

指定通貨コード

[元帳タイプ規則の設定] フォーム

**[数量元帳タイプ]**

数量元帳タイプの値を入力します。数量元帳は金額元帳に関連付けられています。最初の文字はいずれの元帳でも同じです。数量元帳の 2 番目の文字は U です。

この規則の 1 つの例外は、AZ (現金主義) 金額元帳です。AZ 金額元帳に対する数量元帳を入力しないと、デフォルトの数量元帳 ZU が転記で使用されます。数量元帳は有効な元帳タイプである必要があります。

AZ 元帳は例外ですが、通常は適用する実際の金額元帳タイプの最初の文字と同じ文字で数量元帳タイプを設定します。たとえば、AA の数量元帳は AU です。数量元帳を設定して、UDC 09/LT で設定した元帳と共に使用できます。ただし、数量元帳タイプ FU、HU、および IU はそれぞれ FA、HA、および IA 元帳とのみしか使用できません。たとえば、実績金額の FX 元帳を設定して、数量の FU 元帳と共に使用することはできません。

**[繰越利益の計算]**

このチェック ボックスをオンにすると、年度締め時にこの元帳の繰越利益が計算されます。元帳タイプが AA および AZ の場合に、このチェック ボックスをオンにする必要があります。

このオプションでは、年度締めプログラム (R098201) で繰越利益勘定に対してこの元帳の勘定を締めるかどうかを指定します。

**[元帳の貸借一致必須]**

この元帳に貸借一致 (残高ゼロ) が必須かどうかを指定します。このチェック ボックスの指定では、[会社間決済の作成] チェック ボックスとは異なり、この元帳内での会社の貸借が一致しているかどうかは確認されません。この元帳の仕訳の貸借が一致していることのみが確認されます。

**[会社間決済の作成]**

このチェック ボックスをオンにすると、この元帳に会社間取引を入力する際に、貸借一致仕訳が作成されます。このチェック ボックスは、[一般会計固定情報] フォームの会社間決済方式と共に使用されます。オンにした場合、転記時にこの元帳の仕訳の貸借が会社別に一致しているかどうかを検証されます。会社の貸借が不一致の場合、会社間決済方式が使用されて、貸借一致仕訳が作成されます。このチェック ボックスがオンで、会社間決済方式が N (会社間取引なし) に設定されているときに、会社の貸借が不一致の場合、会社間取引は転記されません。オフの場合は、この元帳内の会社の貸借が一致しているかどうかは検証されません。

**[残高を直接更新しない]**

このチェック ボックスをオンにすると、ユーザーが勘定残高テーブル (F0902) にこの元帳の金額を直接入力できなくなります。

---

注: 元帳タイプが AA、CA、AZ の場合、このチェック ボックスをオンにしておく必要があります。オフになっていると、エラー メッセージが表示されます。ある金額元帳に関連付けられている数量元帳がある場合は、数量元帳タイプのチェック ボックスの値はその金額元帳と同じである必要があります。ユーザーが予算プログラムにアクセスできないように、このチェック ボックスは元帳タイプ AA に対してはオンにする必要があります。これにより、元帳タイプや勘定残高の変更などができなくなります。ただし、AC 元帳は再換算残高の計算プログラム (R11414) によって直接更新されるため、AC 元帳に対してはこのチェック ボックスをオンにする必要はありません。

---

たとえば、BA 元帳に対して金額を入力する場合、予算プログラムを使用して金額を入力できるように、このチェック ボックスをオフにします。金額の入力が終わったら、F0902 テーブルへの更新を防ぐためにオンにしてください。

**[当初予算の次年度繰越]**

予算元帳タイプに対して、年度締めプログラムで当初予算を次年度に繰り越すかどうかを指定します。

作業原価システムでこの機能が使用されます。

**[DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更]**

予算元帳タイプに対して、このチェック ボックスをオンにすると、年間予算の期間配賦プログラム (R14801) で DNS (配賦なし) コードが一時的に変更され、DNS コードが割り当てられた勘定科目の各期間に年間金額が均等に配賦されます。

オフの場合、年間予算の期間配賦プログラムにより、DNS コードが割り当てられた勘定科目に対して年間予算金額は配賦されません。金額は手動で配賦する必要があります。

**[仕訳を作成しない]**

この元帳の仕訳を作成できないようにするかどうかを指定します。AA、CA、AZ 元帳に対して仕訳を作成できないようにすると、エラー メッセージが表示されます。

**[上]**

レポートまたはフォームのカラム見出しに使う記述の 1 行目を入力します。この記述は、できるだけデータ項目サイズを超えないようにしてください。カラム見出しが 1 行のみの場合は、このカラムに入力します。1 行目だけでは不十分な場合は、カラム タイトルの 2 行目を使用してください。

**[下]**

レポートまたはフォームのカラム見出しに使う記述の 2 行目を入力します。この記述は、できるだけデータ項目サイズを超えないようにしてください。カラム見出しが 1 行のみの場合は、最初のカラムに入力します。



## 一般会計システムの AAI の設定

自動仕訳 (AAI) 項目の名称 (GLG など) はハードコード化されています。AAI 項目の勘定科目コードは、ビジネスユニット、主科目、および補助科目から成り、勘定科目表にマッピングされています。

一般会計システムでは、自動生成される仕訳の処理方法が AAI によって決定されます。一般会計システムの AAI は、次の項目を定義するのに使用されます。

- 一般目的勘定科目
- 繰越利益
- 財務諸表合計
- スピード コード
- 勘定集計
- 調整可能範囲
- 前年度の勘定科目の除去

AAI 項目についての情報は、AAI マスター (F0012) に保存されます。

### 一般目的勘定科目について

GLGx という AAI は、勘定科目表内のさまざまなカテゴリの勘定科目範囲を定義します。たとえば、資産の勘定科目範囲 (GLG2) は主科目 1000 から、負債の勘定科目範囲 (GLG3) は主科目 2000 から開始するなど定義できます。AAI 項目 GLGx は主に財務諸表に使用されます。

次の表に、AAI 項目 GLG1 の設定に必要な情報を示します。

AAI 項目	説明	会社	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序 No.
GLG1	一般目的勘定科目	00000	未使用	必須	任意	1.010

AAI 項目 GLGx は、会社 00000 に対してのみ設定します。(システムは全ての会社で同じ勘定科目構造を使用していると見なします。)ただし、繰越利益勘定を定義するため会社ごとに設定する必要のある AAI 項目 GLG4 は例外です。

次の表には、AAI 項目 GLGx の設定時に考慮する事項が示されています。

AAI	設定に関する考慮事項
GLG2	資産の開始勘定科目。主科目のみを入力します。
GLG3	負債と資本の開始勘定科目。主科目のみを入力します。 この AAI 項目は、財務レポートの符号を反転するために使用できます。
GLG4	繰越利益用の勘定科目コード。ビジネスユニットおよび主科目を入力します。全ての会社でビジネスユニットが会社番号と同一の場合、会社 00000 に対する主科目のみを入力してください。それ以外の場合は、会社ごとに GLG4 を設定し、ビジネスユニットと主科目を指定してください。

AAI	設定に関する考慮事項
GLG5	<p>年累計損益に対する終了勘定科目コード。主科目のみを入力します。</p> <p>この勘定科目コードは、貸借対照表用の勘定科目範囲の最後の勘定科目です。非転記勘定科目として設定してください。この AAI 項目を使用して、貸借対照表の負債と資本の合計（計算値）が資産と等しいかが確認されます。</p>
GLG6	<p>収益の開始勘定科目。主科目のみを入力します。</p> <p>この AAI 項目は、自動的にレポートの符号を反転し、レポートに記載する収益率や年度締め時の繰越利益を計算するために使用されます。</p>
GLG7	<p>収益の終了勘定科目。主科目を入力し、必要に応じて補助科目を入力します。</p> <p>この AAI 項目は、自動的に符号を反転し、レポートに記載する収益率を計算するために使用されます。</p>
GLG8	<p>売上原価の開始勘定科目。主科目のみを入力します。この AAI 項目は、財務レポートの経費勘定の符号を反転するために使用できます。</p>
GLG9	<p>売上原価の終了勘定科目。主科目を入力し、必要に応じて補助科目を入力します。</p>
GLG11	<p>営業外収益の開始勘定科目。主科目のみを入力します。</p> <p>この項目は、財務レポートの収益勘定の符号を反転するために使用できます。</p>
GLG12	<p>利益および損失（損益計算書）の終了勘定科目で、年度締め時の繰越利益を計算するために使用されます。主科目を入力し、必要に応じて補助科目を入力します。主科目を入力しない場合は、勘定科目 999999 が使用されます。</p> <p>収益 (GLG6) + 費用 (GLG12) = 繰越利益 (GLG4)</p>
GLG13	<p>営業外費用の開始勘定科目。主科目のみを入力します。</p> <p>この AAI 項目は、財務レポートの営業外費用勘定の符号を反転するために使用できます。</p>

注: GLG11（営業外収益）の開始勘定科目を空白にしないでください。有効な勘定科目を入力しない場合は、GLG13（営業外費用）の開始勘定科目と同じ勘定科目コードを入力します。

GLG11 または GLG13 の開始勘定科目に有効な勘定科目コードを入力しない場合は、GLG12（終了損益勘定）の開始勘定科目と同じ勘定科目コードを入力します。

## 繰越利益に対する勘定科目について

AAI 項目 GLG4 は、会社の繰越利益に対する勘定科目を定義します。この勘定科目は、自動作成された仕訳を許可する転記勘定科目である必要があります。年度締めの際に、AAI 項目 GLG4 に割り当てられた勘定科目に繰越利益が転記されます。

通常、貸借対照表のビジネスユニットと会社番号は一致しています。たとえば、会社 00100 にはビジネスユニット 100 が使用されます。会社とビジネスユニットが一致するように設定され、全ての会社で繰越利益の主科目が同じ場合、会社 00000 に対して 1 つの GLG4 項目のみを設定し、主科目を割り当てます。

以下の例では、繰越利益金額を転記するために、会社 00000 の GLG4 に割り当てられた主科目 (4980) が使用されています。次の表に示されているように、会社番号と貸借対照表のビジネスユニットは全ての会社で同じです。

会社	ビジネスユニット	繰越利益の主科目
00100	100	4980
00200	200	4980
00300	300	4980

貸借対照表勘定でビジネスユニットと会社番号が異なる場合、会社ごとに AAI 項目 GLG4 を設定し、貸借対照表のビジネスユニットと主科目を指定する必要があります。

以下の例では、繰越利益金額を転記するために、会社固有の GLG4 が使用されています。次の表に示されているように、全ての会社で会社番号と貸借対照表のビジネスユニットが異なります。

会社	ビジネスユニット	繰越利益の主科目	会社固有の GLG4
00100	110	4980	00100.110.4980
00200	210	4980	00200.210.4980
00300	310	4980	00300.310.4980

1 つの会社で貸借対照表のビジネスユニットが複数ある場合、その会社に対して AAI 項目 GLG4 を設定し、貸借対照表の勘定科目を 1 つ指定する必要があります。次に、年度末処理のために、その会社の GLG4 に指定された貸借対照表のビジネスユニットに、貸借対照表のビジネスユニット全てを割り当てる必要があります。割り当てなかった場合、会社は貸借不一致になります。これは、貸借対照表のビジネスユニット全てにではなく、その会社の GLG4 に指定された貸借対照表のビジネスユニット 1 つに対する勘定科目が当期利益の相殺金額に反映されるからです。

以下の例では、繰越利益金額を転記するために、会社固有の GLG4 が使用されています。次の表に示されているように、全ての会社で会社番号と貸借対照表のビジネスユニットが異なり、会社 00100 には貸借対照表のビジネスユニットが複数あります。

会社	ビジネスユニット	繰越利益の主科目	会社固有の GLG4
00100	110	4980	00100.110.4980
	210		
	310		
00400	410	4980	00400.410.4980
00500	510	4980	00500.510.4980

**注:** GLG4 は、会社別に設定できる唯一の一般目的勘定科目に対する AAI 項目です。その他全ての一般目的勘定科目の項目は、会社 00000 用いのみ設定されます。

## 財務諸表合計について

財務諸表を作成する際、レポートの小計は AAI 項目 FSxx に基づいて作成されます。これらの AAI 項目は損益勘定科目にのみ使用するもので、任意です。AAI 項目 FSxx は損益勘定科目以外の勘定科目に使用しないでください。使用した場合、財務諸表に予期せぬ結果をもたらす可能性があります。意味のあるレポートにするためには、全ての会社で勘定科目コードが一致している必要があります。

財務諸表合計で指定された勘定科目範囲より前に、各 AAI 項目 (FS01 から FS98) の小計が印刷されます。以下の小計が損益計算書に表示されます。

- 粗利益
- 営業利益
- 税引前純利益
- 当期利益 (損失)

[単一AAI項目の設定] フォームの [勘定科目の用途] で、1 行目に表示される各小計のテキストを指定することができます。

次の表に、AAI 項目 FS01 の設定に必要な情報を示します。

AAI 項目	説明	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序 No.
FS01	財務諸表合計	未使用	必須	任意	1.130

AAI 項目 FSxx を設定する際、次のガイドラインに従ってください。

- 会社 00000 にのみ AAI 項目 FSxx を設定します。
- ビジネスユニットは入力しないでください。
- 予期せぬ結果が生じないように、取引が転記される主科目は入力しないでください。
- 貸借対照表勘定に AAI 項目 FSxx を設定しないでください。

一般会計システムでは、各財務諸表合計に対して、AAI 項目 FSxx に基づいた小計を持つレポートバージョンが設定されています。小計を含んだレポートバージョンを選択する必要があります。たとえば、損益計算書 (R10211B) の AAI 項目 FSxx の小計を印刷するためには、事業所別損益計算書ではなく、AAI 小計を持つ事業所別損益計算書のレポートバージョンを選択します。

### AAI 項目 FS99

AAI 項目 FS99 には財務諸表の当期利益についての説明が含まれ、レポート合計の前後に 1 行または 2 行を印刷するかどうかを指定します。AAI 項目 FS99 について、[単一AAI項目の設定] フォームの [勘定科目の用途] の 1 行目に入力するテキストは、財務諸表の最後の行に印刷される説明です。他の AAI とは異なり、AAI 項目 FS99 には勘定科目情報は必要ありません。

**注:** 財務諸表には、当期利益を計算するかどうかを指定することができる処理オプションがあります。当期利益を計算し、AAI 項目 FS99 も設定すると、財務諸表に 2 行の当期利益が印刷されます。財務諸表に 2 行の当期利益が印刷されないようにするには、AAI 項目 FS99 を設定するか、処理オプションで当期利益を計算しないように指定してください。

レポート合計の前後に 1 行または 2 行を印刷するには、[単一AAI項目の設定] フォームの [勘定科目の用途] の 4 行目または 5 行目に、次の値のいずれかを入力します。

値	説明
*BEFORE(-)	合計の前に 1 行印刷されます。
*BEFORE(=)	合計の前に 2 行印刷されます。
*AFTER(-)	合計の後に 1 行印刷されます。
*AFTER(=)	合計の後に 2 行印刷されます。

## スピード コードについて

AAI 項目 SPx は、勘定科目のビジネスユニット、主科目、補助科目といった標準的な組み合わせの代わりに使用可能な 1 文字のスピード コードを定義します。

スピード コードを使用して、ビジネスユニット、主科目、補助科目全体、主科目コードと補助科目、または主科目コードのみを差し換えることができます。スピード コードを設定して補助科目だけを差し換えることはできません。

次の表に、AAI 項目 SPx の設定に必要な情報を示します。

AAI 項目	説明	会社	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序 No.
SPx	スピードコード		任意	必須	任意	1.289

AAI 項目にビジネスユニットを指定すると、会社固有のスピード コードを使用できます。

スピード コード項目に含まれる x は、ユーザー定義された 1 つの文字です。ビジネスユニットが数値の場合は、このフィールドには英字 (A~Z) のみを使用することをお勧めします。

AAI 項目 SPB を設定し、スピード コードとして主科目 (1110) のみを定義したとします。データ入力の際に、ビジネスユニットと、必要に応じて補助科目を入力します。たとえば 1.B と入力すると、1.1110 と解釈されます。

勘定科目コードの代わりにスピード コードを入力するには、スピード コードを設定した後で、一度終了して再度サインオンする必要があります。

勘定科目表で任意形式を使用している場合、スピード コードは使用できません。

## 勘定集計について

AAI 項目 GLSMxx は、集計を行わない勘定科目範囲を定義します。たとえば、流動資産の勘定科目を集計しない場合、勘定科目範囲を次のように設定します。

- GLSM01: 主科目 1000
- GLSM02: 主科目 1199、補助科目 99999999

開始と終了の両方の AAI 項目を定義する必要があります。最初の範囲は、必ず GLSM01 で開始するようにします。また、次に続く番号 GLSM02 で最初の範囲を終了することをお勧めします。次の範囲が必要な場合は、GLSM03 で始めて GLSM04 で終わるように定義してください。

次の表に、AAI 項目 GLSMxx の設定に必要な情報を示します。

AAI 項目	説明	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序 No.
GLSMxx	集計しない勘定科目	未使用	必須	任意	1.300

## 調整可能範囲について

AAI 項目 GLRCxx は勘定残高調整処理の一貫として調整を行う勘定科目の範囲を定義します。集計を行う前に、これらの勘定科目を調整する必要があります。

開始と終了の両方の AAI 項目を定義してください。最初の範囲は、必ず GLRC01 で開始するようにします。また、次に続く番号 GLRC02 で最初の範囲を終了することをお勧めします。次の範囲が必要な場合は、GLRC03 で始めて GLRC04 で終わるように定義してください。

次の表に、AAI 項目 GLRCxx の設定に必要な情報を示します。

AAI 項目	説明	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序 No.
GLRCxx	調整可能範囲	未使用	必須	任意	1.400

## 前年度の勘定科目の除去について

AAI 項目 GLPRxx は、除去を行わない勘定科目範囲を定義します。

開始と終了の両方の AAI 項目を定義する必要があります。最初の範囲は、必ず GLPR01 で開始するようにします。また、次に続く番号 GLPR02 で最初の範囲を終了することをお勧めします。次の範囲が必要な場合は、GLPR03 で始めて GLPR04 で終わるように定義してください。

次の表に、AAI 項目 GLPRxx の設定に必要な情報を示します。

AAI 項目	説明	ビジネスユニット	主科目	補助科目	順序 No.
GLPRxx	除去しない勘定科目	未使用	必須	任意	1.440

## ビジネスユニット補足データの設定

標準のマスター テーブルにないビジネスユニットに関する情報を検証、トラッキング、レポートする必要がある場合があります。このタイプの情報は補足データと呼ばれます。

補足データには、業務固有の情報が含まれます。たとえば、建設会社では補足データを使用して、各作業（ビジネスユニット）の進捗をトラッキングします。補足データには、作業現場、地質、作業日報などの法的記述を含めることができます。

補足データ タイプの設定やフォーマットの指定など補足データベースの設定をしたら、使用するデータを入力し、特定の業務に合わせてデータをカスタマイズできます。標準のマスター テーブルにない情報をトラッキングするには、テキスト データ タイプおよびコード データ タイプを使用してください。

## 事前設定

補足データのトラッキングが必要なビジネスユニットを設定します。

---

## Vertex Sales Tax の設定

売上税を自動的に適用する場合、Vertex Sales Tax Q Series システムを、他の EnterpriseOne システムと同様、一般会計システムと連動して使用することができます。





## 第 4 章

# 勘定残高調整の設定

この章では、勘定残高調整の概要と、以下の設定方法について説明します。

- 勘定残高調整の AAI
- 残高調整コード

---

## 勘定残高調整について

期末処理の一環として、システム内にある特定のタイプの勘定科目の調整が必要になる場合があります。たとえば、銀行勘定科目の残高を銀行残高照合表の残高と調整することがあります。または、取引や仮勘定での貸借を調整する場合があります。

一般会計システムでは、以下の 4 つの勘定残高調整方法が用意されています。

- 銀行勘定科目の残高調整  
銀行勘定科目を手動で調整します。
- 借方と貸方の調整  
決済勘定または仮勘定のような勘定科目の貸借を手動で調整します。
- 銀行テープによる残高調整  
銀行勘定科目を自動で調整します。銀行が取引情報を磁気メディアで提供する場合のみ、この方法を使用できます。
- 銀行残高照合表の処理  
銀行残高照合表から直接 EnterpriseOne ソフトウェアに取引情報を入力します。磁気メディアによる処理や電子資金決済が一般的で、未払債務の処理に銀行が直接関与するケースが多い国では通常、この方法を使用します。

---

## 勘定残高調整の AAI の設定

勘定残高調整処理を開始する前に、AAI 項目 GLRCxx を設定する必要があります。これらの AAI は調整する勘定科目の範囲を定義するもので、勘定残高調整の 4 つの方法全てで必要になります。調整する勘定科目が GLRCxx AAI 範囲に含まれていない場合は、残高調整ファイルのリフレッシュプログラム (R09130) でその勘定科目の WF 取引明細調整ワークテーブル (F0911R) が作成されず、その勘定科目の調整を行うことはできません。

開始と終了の両方の AAI 項目を定義する必要があります。最初の範囲は、必ず GLRC01 で開始するようにします。また、次に続く番号 GLRC02 で最初の範囲を終了することをお勧めします。次の範囲が必要な場合は、GLRC03 で始めて GLRC04 で終わるように定義してください。

次の例は、GLRCxx の AAI の設定方法を示しています。

項目番号	記述行 1	記述行 2	会社	ビジネスユニット	主科目	補助科目
GLRC01	調整可能範囲	開始範囲 1	00000		1110	
GLRC02	調整可能範囲	終了範囲 1	00000		1110	99999999
GLRC03	調整可能範囲	開始範囲 2	00000		4110	
GLRC04	調整可能範囲	終了範囲 2	00000		4110	99999999

## 残高調整コードの設定

勘定残高調整の“銀行勘定科目の残高調整”および“借方と貸方の調整”方法の設定の一環として、取引の調整状況を示すために使用される残高調整コードを変更することができます。勘定科目内の取引を調整する際には、この残高調整コードで WF 取引明細調整ワークテーブル (F0911R) と取引明細テーブル (F0911) の取引が更新されます。残高調整ファイルのリフレッシュ プログラム (R09130) では、残高調整コードを使用して、F0911R ワークテーブルの再作成時に調整済みの取引を特定します。残高調整コードのデフォルトは R です。ただし、調整に関して組織独自の条件があり、それに対応したコードにする場合は、新規の残高調整コードを追加できます。

新しい残高調整コードを追加する場合は、UDC テーブル 09/RC で新規コードを定義する必要があります。任意の英数字を入力できます。フィールドの長さは 1 です。ただし、銀行残高照合表を使用している場合、A または D は銀行残高照合表プログラムで使用されているため使用できません。

**注:** 無効支払の自動残高調整プログラム (R09551) および無効入金 of 自動残高調整プログラム (R09552) では、デフォルトの残高調整コード R が使用されます。これらのプログラム用に残高調整コードを変更することはできません。

## 第 5 章

# 自動銀行残高照合表処理の設定

自動銀行残高照合表処理は、一般会計システムの取引に対して銀行残高照合表の取引を調整する有効な方法です。

この章では、以下の方法について説明します。

- 自動銀行残高照合表処理のインテグレーション オプションの設定
- 自動銀行残高照合表処理のユーザー定義コード (UDC) の設定
- 銀行口座相互参照の設定
- 自動銀行勘定残高調整の設定

**関連項目:**

第 20 章、「銀行残高照合表の自動処理」、185ページ

---

## 自動銀行残高照合表処理のインテグレーション オプションの設定

このセクションでは、銀行残高照合表インテグレーション オプションの概要と以下の方法について説明します。

- 変換フローのインテグレーション オプションの設定
- 日付パターンのインテグレーション オプションの設定

### 銀行残高照合表インテグレーション オプションについて

銀行フラット ファイルから EnterpriseOne の経由保管場所テーブルにデータを転送する変換フローを実行する前に、インテグレーション オプションを設定する必要があります。インテグレーション オプションにより、日付パターンの他に、BAI (Bank Administration Institute) または SWIFT (国際銀行間データ通信システム) のフラット ファイルの名前と位置を指定します。

**関連項目:**

PeopleSoft EnterpriseOne Tools Web Services Gateway 8.95 PeopleBook: Configuration Editor

### 変換フローのインテグレーション オプションの設定

Configuration Editor アプリケーションで、Integration Options、Family、Financials、OneWorld、PSFT EnterpriseOne AutoBankStatement の順にクリックします。

Key	Description	Value	Data Type
d7b734135616092e:46...	BAI2 File Name	BAI2.txt	String
d7b734135616092e:46...	BAI2 File Path	C:\B9\STAGING\Import	String
d7b734135616092e:46...	Delete Text File	0	String
d7b734135616092e:46...	Swift File Name	Swift.txt	String
d7b734135616092e:46...	Swift File Path	C:\B9\STAGING\Import	String

インテグレーション オプション フォーム

一方または両方の銀行フォーマットの銀行フラット ファイルを毎月 1 つだけ受信する場合、一度だけインテグレーション オプションを設定し、変換フロー実行後フラット ファイルを削除するようオプション（行 3）が設定されていることを確認します。毎月複数の銀行フラット ファイルを受信する場合は、各変換フローを実行する前にインテグレーション オプションを設定して、別のファイル名と位置を指定します。

**[Value]** BAI2 の場合は行 1 と 2 に、SWIFT の場合は行 4 と 5 に、テキスト ファイル（銀行フラット ファイル）の名前と位置を入力します。行 3 で、経由保管場所テーブルにデータを転送した後テキスト ファイルを削除するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

0: テキスト ファイルを削除しない。

1: テキスト ファイルを削除する。

## 日付パターンのインテグレーション オプションの設定

Configuration Editor アプリケーションで、Integration Options、System、OneWorld の順にクリックします。

Key	Description	Value	Data Type
00a59876d7bbab58:64...	E1 Date Pattern	MM/dd/yyyy	String
27877e0052819bde:50...	ERROR: Invalid Action ...	ERROR: Invalid Action ...	String
27877e0052819bde:a3...	Phone Number Delimiter		String
8663c9b363fab17d:4c4...	Program Id	XPI	String

システム インテグレーション オプション フォーム

**[Value]** “E1 Date Pattern” の行にアクセスして、このフィールドに日付フォーマットを入力します。

## 自動銀行残高照合表処理の UDC の設定

このセクションでは、自動銀行残高照合表処理の UDC の設定の概要を示し、その設定方法について説明します。

### 自動銀行残高照合表処理の UDC の設定について

自動銀行残高照合表処理の取引の入力と残高調整を容易にするために、UDC を設定します。UDC によって、例外処理の金額が最小限に抑えられ、銀行勘定科目の取引の作成と残高調整を自動的に行う機能が最大限に高められます。自動銀行残高照合表プログラムでは、11 UDC テーブルの値が使用されます。

警告: UDC テーブルにはコードを追加しないでください。自動銀行残高照合表プログラムのプログラム ロジックは、情報を正しく処理するために、特定のコードおよび特殊取扱コードの値に依存しています。ハードコード化されていない UDC の記述とコードは変更できます。ただし、コードの説明や特殊取扱コードがある場合その値は変更できません。

たとえば、UDC テーブル 09/DT のコード 2 はハードコード化されていませんが、特殊取扱コード 20 が含まれます。この場合、コードを 2 から 4 に、記述を今日の日付から現行の日付に変更できます。ただし、コードの説明にある日付や特殊取扱コード 20 については変更できません。

## 自動銀行残高照合表の UDC の設定

このセクションでは、自動銀行残高照合表の UDC の設定方法について説明します。

### 00/DT - 伝票タイプ

UDC 00/DT には、ハードコード化された伝票タイプ TM が含まれています。この伝票タイプは、Enterprise 財務管理システムで作成され、自動銀行残高照合表処理中に残高調整が行われる仕訳入力取引を識別します。TM 仕訳入力取引には銀行手数料、振込手数料、および発生した利息が含まれます。

### 09/TT - 自動銀行残高照合表取引タイプ

UDC テーブル 09/TT には銀行口座取引の取引タイプが含まれます。

UDC テーブル 09/TT の取引タイプはユーザー定義が可能であり、以下のようなコードで識別されます。

コード	記述	特殊取扱コード
CK	支払決済	08
CR	入金決済	04
DP	支払済手形決済	07
JE	仕訳入力	01
RJE	仕訳のみ調整	02

注: 取引タイプ コード RJE (または特殊取扱コード 02 が付いたその他の UDC) は、一般会計システムの仕訳入力として既に存在する銀行取引に使用されます。これらの取引では、自動銀行残高照合表処理で重複した取引は作成せず、代わりに、総勘定元帳に対して既存の仕訳を調整します。この取引タイプコードは、銀行手数料や振込手数料などの銀行取引に使用することができます。

Enterprise 財務管理システムで作成された電子銀行残高照合表を EnterpriseOne で残高調整する場合、この取引タイプ コードを設定する必要があります。この取引タイプの仕訳は財務管理システムで作成され、一般会計システムに転送された後、総勘定元帳に対して調整が行われます。

### 09/DT - デフォルト日付

UDC テーブル 09/DT には、取引タイプに使用されるデフォルト日付を指定するコードが含まれます。UDC テーブル 09/DT のデフォルト日付コードはユーザー定義が可能であり、以下のようなコードで識別されます。

コード	記述	特殊取扱コード
1	銀行残高照合表日付	10
2	今日の日付	20
3	決済日付	30

### 09/FT - 電子銀行残高照合表フォーマット

UDC テーブル 09/FT には、電子銀行残高照合表に使用できる 2 つのフォーマットのコード、および EnterpriseOne 一般会計で調整される Enterprise 仕訳のフォーマットのコードが含まれます。

UDC テーブル 09/FT のフォーマット コードはハードコード化されています。

コード	記述	特殊取扱コード
SWIFT	Swift MT 940	1
BAI2	BAI2	2
PSFT	Enterprise	3

### 09/TD - 取引借方/貸方インジケータ

UDC テーブル 09/TD には、取引金額の符号を指定する借方/貸方インジケータが含まれます。

UDC テーブル 09/TD の取引借方/貸方インジケータ コードはハードコード化されています。

コード	記述
C	貸方
D	借方
RC	取消貸方
RD	取消借方

### 09/RR - 残高調整済み理由コード

UDC テーブル 09/RR には、特定の取引が調整された理由を説明する理由コードが含まれています。たとえば、金額が予測と異なっても許容限度額内である場合、理由コード VWT が使用されます。[自動銀行残高照合表の改訂] フォームおよび [銀行残高照合表明細と取引明細の調整] フォームに、これらのコードの記述が表示されます。

UDC テーブル 09/RR の残高調整済み理由コードはハードコード化されています。

コード	記述	特殊取扱コード
ABR	自動バッチ入金作成済み	10
DPC	支払済み手形決済	20

コード	記述	特殊取扱コード
CR	集計入金	30
VWT	許容限度内の差異	40

### 09/RU - 調整コード

UDC テーブル 09/RU には、取引が調整済みであるかどうかを示すコードが含まれています。調整コードを指定することによって、[銀行残高照会表明細と取引明細の調整] フォームに表示する取引を選択できます。

UDC テーブル 09/RU の調整コードはユーザー定義が可能であり、以下のコードで識別されます。

コード	記述	特殊取扱コード
1	未調整	10
2	調整済み	20
3	全て	30

### 09/UR - 残高未調整理由コード

UDC テーブル 09/UR には、特定の取引が調整された理由を説明する理由コードが含まれています。[自動銀行残高照合表の改訂] フォームおよび [銀行残高照会表明細と取引明細の調整] フォームに、これらのコードとその記述が表示されます。コードは F09617 テーブルに保存されます。

UDC テーブル 09/UR の残高未調整理由コードはハードコード化されています。

コード	記述	特殊取扱コード
ANC	自動バッチ入金を作成されていない	20
ANE	金額が等しくない	30
CLD	決済日付が元帳日付より前	40
CNV	顧客/仕入先が無効	50
DPN	F0411 に支払済み手形がない	120
IAC	勘定科目が無効	60
IGO	元帳クラス勘定科目が無効	160
IVA	差異勘定科目が無効	150
JE	JE 作成に失敗	70
NMJ	元帳に一致する仕訳がない	80

コード	記述	特殊取扱コード
NMP	元帳に一致する支払がない	90
NMR	元帳に一致する入金がない	100
OEN	相殺入力を作成されていない	140
PEC	転記編集コードが無効	110
VNT	差異が許容限度を超えている	130

### 09/BA - BAI2 取引タイプ

UDC テーブル 09/BA には、BAI で定義される取引タイプが含まれます。BAI2 フォーマットは銀行の電子決済に使用する北米フォーマットです。PSFT フォーマットは、BAI2 フォーマットと類似しています。

BAI2 フォーマットと PSFT フォーマットの取引タイプは、F09611 経由保管場所テーブルに自動入力されます。銀行口座相互参照プログラムを使用して、BAI2 と PSFT の取引タイプを UDC テーブル 09/TT の EnterpriseOne 取引タイプにマッピングします。

次の表に示される範囲で BAI2 取引のタイプが識別されます。

取引タイプ範囲	記述
001-099	勘定科目レベル状況コード
100	貸方集計合計
101-399	貸方集計と貸方詳細コード
400	借方集計合計
401-699	借方集計と借方詳細コード
700-899	範囲が BAI で使用されていない
900-919	勘定科目レベル状況コード (カスタマイズ UDC)
920-959	貸方集計と貸方詳細コード (カスタマイズ UDC)
960-999	借方集計と借方詳細コード (カスタマイズ UDC)

UDC テーブル 09/BA にあるコードは全てハードコード化されています。BAI で提供されている伝票のコード一覧を表示することができます。また、EnterpriseOne ソフトウェアにも BAI2 コードが含まれています。BAI で取引タイプに変更があった場合、手動で UDC テーブルを確実に更新してください。

BAI2 取引タイプの一部を以下に示します。



コード	記述 01	記述 02	特殊取扱コード
010	処理中の元帳	状況	なし
105	貸方要約	集計	CR
224	コミッション	詳細	CR
400	借方合計	集計	DB
506	帳簿振替借方	詳細	DB
622	ブローカー借方	詳細	DB

### 09/ST – SWIFT 取引タイプ

UDC テーブル 09/ST には、国際銀行間電気通信協会 (SWIFT) で定義される取引タイプが含まれます。SWIFT フォーマットは銀行の電子決済に使用する欧州フォーマットです。これらの取引タイプは F09611 経由保管場所テーブルに自動入力されます。銀行口座相互参照プログラム (P09621) を使用して、SWIFT 取引タイプを UDC テーブル 09/TT の取引タイプにマッピングします。

UDC テーブル 09/ST にあるコードは全てハードコード化されています。SWIFT で提供されている伝票のコード一覧を表示することができます。また、EnterpriseOne ソフトウェアにもコードが含まれています。SWIFT で取引タイプに変更があった場合は、必ず手動で UDC テーブルを更新してください。

SWIFT 取引タイプには次のものがあります。

コード	記述 01	記述 02
BOE	為替手形	なし
COL	回収	元本金額と共に使用
SEC	証券	元本金額と共に使用
001	個人小切手	ユーロ小切手以外
076	電話注文	なし
204	信用状	なし

### 09/BU – 相殺ビジネスユニット

UDC テーブル 09/BU には、自動銀行残高照合表処理プログラムで仕訳を作成する際に、勘定科目の相殺に使用するビジネスユニットを特定するコードが含まれます。取引コード JE (仕訳) の相互参照を作成する際に、そのビジネスユニットが銀行勘定科目または代替相殺勘定科目のいずれに使用されるかを指定します。

コード	記述	特殊取扱コード
1	銀行勘定科目のビジネスユニット	10
2	代替相殺ビジネスユニット	20

## 相互参照の設定

このセクションでは、相互参照の概要と以下の方法について説明します。

- 銀行口座相互参照の設定
- 取引タイプ相互参照の設定

### 相互参照について

電子銀行残高照合表に表示する銀行口座番号と取引タイプは、一般会計システムの口座番号と取引タイプにマッピングする必要があります。

銀行口座相互参照プログラム (P09621) を使用して、電子銀行残高照合表の口座番号を EnterpriseOne 口座番号に相互参照 (またはマッピング) します。情報を追加または改訂すると、銀行口座相互参照テーブル (F09621) が更新されます。

取引タイプ相互参照プログラム (P09622) を使用して、取引タイプを EnterpriseOne 取引タイプに相互参照します。情報を追加または改訂すると、取引タイプ相互参照テーブル (F09622) が更新されます。

F09621 および F09622 テーブルには、トラッキングおよびセキュリティ目的に使用される監査フィールドが含まれています。これらのフィールドによって、ユーザー ID、プログラム ID、マシン名、日時のトラッキングが行われます。

## 相互参照の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[銀行勘定相互参照の処理]	W09621A	[自動銀行残高照合表の設定] (G09214)、[銀行口座相互参照]	銀行口座の電子銀行情報を確認したり、銀行口座を選択して、改訂または削除を行います。
[銀行勘定相互参照の改訂]	W09621B	[銀行勘定相互参照の処理] で、[追加] をクリックします。  このフォームで、[フォーム] メニューから [銀行勘定科目] を選択して、既存の銀行勘定科目の検索または新規銀行勘定科目の設定を行うことができます。	銀行口座の相互参照を設定します。
[取引タイプ相互参照の処理]	W09622A	[自動銀行残高照合表の設定] (G09214)、[取引タイプ相互参照]	電子銀行残高照合表に表示する取引タイプを確認します。
[取引タイプ相互参照の改訂]	W09622C	[取引タイプ相互参照の処理] で、[追加] をクリックします。	取引タイプの相互参照を設定します。

## 銀行口座相互参照の設定

[銀行勘定相互参照の改訂] フォームにアクセスします。

**銀行口座相互参照 - 銀行勘定相互参照の改訂**

銀行勘定相互参照の処理 | **銀行勘定相互参照の改訂**

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) 前へ 次へ ツール(T)

電子銀行口座番号 425

電子フォーマット・インジケータ ★ SWIFT Swift MT 940

EnterpriseOne 勘定科目コード ★ 1.1105 Petty Cash

代替相殺ビジネスユニット 6

[銀行勘定相互参照の改訂] フォーム

**[電子銀行口座番号]** 電子銀行残高照合表に表示されている銀行口座番号を入力します。

**[電子フォーマット・インジケータ]** UDC テーブル 09/FT のフォーマット コードを入力します。有効値は以下のとおりです。

BAI2

SWIFT

PSFT

フォーマット コードはハードコード化されています。

[EnterpriseOne勘定科目コード]

電子銀行残高照合表の銀行勘定の勘定科目コードを入力します。

[代替相殺ビジネスユニット]

相殺勘定科目の仕訳の作成に使用するビジネスユニットを入力します。このビジネスユニットは銀行勘定科目または代替相殺勘定科目に使用されます。([取引タイプ相互参照の改訂] フォームで主科目および補助科目と共に使用する相殺ビジネスユニットを特定します。)

このフィールドを使用して、各取引タイプに相殺ビジネスユニットを割り当てることができます。このフィールドを空白にすると、銀行勘定科目のビジネスユニットがデフォルト値として使用されます。

自動銀行残高照合表の処理プログラムでは、JE (仕訳) 取引の相殺勘定科目のみが作成されます。

## 取引タイプ相互参照の設定

[取引タイプ相互参照の改訂] フォームにアクセスします。

[取引タイプ相互参照の改訂]

[電子フォーマット・インジケータ]

取引タイプに UDC テーブル 09/FT のフォーマット コードを入力します。

[外部取引タイプ]

[電子フォーマット・インジケータ] フィールドに入力したフォーマットに対して、UDC テーブル 09/ST (SWIFT) または 09/BA (BAI2) の取引タイプ コードを入力します。これら 2 つのフィールドは連動します。

[借方/貸方インジケータ]

BAI2 または PSFT にフォーマットおよび外部取引タイプ コードを入力すると、フォームに [借方/貸方インジケータ] フィールドが表示されます。取引タイプの [特殊取扱コード] フィールドの値で、金額が借方 (D) または貸方 (C) のいずれであるかが判別されます。

SWIFT のフォーマットを入力すると、SWIFT の銀行フラット ファイルに既に借方/貸方インジケータが含まれているため、[借方/貸方インジケータ] フィールドはフォームに表示されません。

<b>[取引コード]</b>	UDC テーブル 09/TT の値を入力します。このフィールドに「JE」を入力すると、フォームに [相殺ビジネスユニット]、[主科目]、および [補助科目] フィールドが表示されます。
<b>[相殺ビジネスユニット]</b>	<p>UDC テーブル 09/BU の値を入力して、相殺勘定科目の仕訳の作成に使用するビジネスユニットを指定します。有効値は以下のとおりです。</p> <p>1: 銀行勘定科目のビジネスユニット 2: 代替相殺ビジネスユニット</p> <p>「2」を入力すると、[銀行勘定相互参照の改訂] フォームで代替相殺ビジネスユニットを指定する必要があります。「2」を入力しなかった場合は、銀行勘定科目のビジネスユニットが使用されます。</p>
<b>[主科目]、[補助科目]</b>	相殺仕訳の主科目および補助科目を入力します。補助科目の入力は必須ではありません。

---

## 自動銀行勘定残高調整の設定

このセクションでは、自動銀行勘定残高調整の概要と以下の方法について説明します。

1. 自動残高調整ルールの設定
2. 自動残高調整ルールのグループへの割り当て
3. グループの自動銀行残高照合表勘定への割り当て

### 自動銀行勘定残高調整について

電子銀行残高照合表の自動残高調整を行うために、自動銀行残高照合表の処理プログラムでは以下の情報が使用されます。

- 残高調整ルール
- 残高調整グループ
- 銀行残高照合表の勘定科目

#### 残高調整ルール

残高調整ルールによって、システムで自動残高調整される取引数を最大限にし、手動処理を最小限にすることができます。自動銀行残高照合表の処理プログラムではデフォルトルールが使用され、銀行勘定が決済済みの F0911 テーブルの入金、支払、および手形が調整されます。

各残高調整ルールには最大 5 つまで取引タイプを設定できます。[自動残高調整ルールの改訂] のタブはそれぞれ取引タイプに対応しています。各取引タイプに UDC テーブル 09/RC の残高調整コードを割り当てるか、それ以外の場合は、デフォルト値 R (残高調整済み 1 対 1) が割り当てられます。取引タイプに定義する残高調整ルールには、差異勘定科目、伝票タイプ、許容限度額などが含まれます。残高調整ルールは、F09626 テーブルに保存されます。

#### 残高調整グループ

残高調整ルールを設定したら、残高調整グループを設定し、グループにルールを割り当てます。1 つのグループに 1 つの残高調整ルールのみ割り当てることができますが、同じ残高調整ルールを複数のグループに使用することも可能です。

自動銀行残高照合表の処理プログラムでは、グループに割り当てられた残高調整ルールにアクセスし、銀行残高照合表勘定科目を取得します。残高調整グループは、F09627 テーブルに保存されます。

## 自動銀行残高照合表

次に、残高調整グループを銀行勘定科目に割り当てます。1 つの勘定科目に 1 つの残高調整グループのみ割り当てることができますが、同じグループを複数の銀行勘定科目に使用することも可能です。自動銀行残高照合表の勘定科目の設定時に情報を上書きしない限り、グループの残高調整ルールが銀行勘定科目に適用されます。自動銀行残高照合表の勘定科目は、F09628 テーブルに保存されます。

## 自動銀行勘定残高調整の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[自動残高調整ルールの処理]	W09626A	[自動銀行残高照合表の設定](G09214)、[自動残高調整ルールの設定]	残高調整ルールを確認したり、既存ルールを選択して改訂したり、既存ルールのコピーや削除を行います。
[自動残高調整ルールの改訂]	W09626D	[自動残高調整ルールの処理]で[追加]をクリックするか、既存のルールを選択して改訂します。	残高調整ルールを設定します。
[自動残高調整グループの処理]	W09627A	[自動銀行残高照合表の設定](G09214)、[自動残高調整グループ]	残高調整グループを確認したり、既存グループを選択して改訂したり、既存グループのコピーや削除を行います。
[自動残高調整グループの改訂]	W09627B	[自動残高調整グループの処理]で[追加]をクリックするか、既存のグループを選択して改訂します。	残高調整グループを設定します。
[自動銀行残高照合表勘定の処理]	W09628A	[自動銀行残高照合表の設定](G09214)、[自動銀行残高照合表勘定の設定]	自動銀行残高照合表勘定を確認したり、既存勘定を選択して改訂したり、既存勘定のコピーや削除を行います。
[自動銀行残高照合表勘定の設定の改訂]	W09628B	[自動銀行残高照合表勘定の処理]フォームで[追加]をクリックするか、既存の勘定を選択して改訂します。	自動銀行残高照合表勘定を設定します。

## 自動残高調整ルールの設定

[自動残高調整ルールの改訂] フォームにアクセスします。

**自動残高調整ルールの設定 - 自動残高調整ルールの改訂**

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

残高調整ルール ★ RR#2 RVS RULE #2

支払決済 入金決済 仕訳入力作成 仕訳入力残高調整 支払済み手形

☒ 支払差異 ☒ 支払残高調整日付の例外

残高調整コード R 残高調整済み(1対1)

差異勘定科目 1.1110.BEAR Bear Creek National Bank

差異日付モード 1 銀行残高照合表日付

許容限度額 1%

差異伝票タイプ JE 仕訳

[自動残高調整ルールの改訂] フォーム

**[残高調整ルール]** 取引タイプ ルールを割り当てる残高調整ルールの名前を入力します。

### [支払決済]

銀行による決済済みの支払に対して残高調整ルールが適用される場合に使用します。

### [支払差異]

支払差異のためのチェック ボックスです。このチェック ボックスをオンにすると、必須の [差異勘定科目]、[差異日付モード]、[許容限度額]、および [差異伝票タイプ] フィールドが表示されます。

### [支払残高調整日付の例外]

F09617 テーブルの決済日付が F0911 テーブルの元帳日付より前の場合、支払調整を行うために、このチェック ボックスをオンにします。

### [残高調整コード]

UDC テーブル 09/RC の値を入力します。この値は自動銀行残高照合表の処理プログラムで使用され、銀行残高照合表が承認済みまたは処理済みか、支払が無効かなどが示されます。このフィールドをブランクにすると、R (残高調整済み 1 対 1) がデフォルト値として使用されます。

### [差異勘定科目]

この取引タイプと残高調整ルールの差異金額の記録に使用される勘定科目を入力します。[支払差異] チェック ボックスがオンの場合にのみ、このタブのこのフィールドと残りのフィールドが表示されます。

### [差異日付モード]

UDC テーブル 09/DT の値を入力して、差異の仕訳が自動的に作成される際に使用するデフォルト日付を指定します。有効値は以下のとおりです。

1: 銀行残高照合表日付

2: 今日の日付

3: 決済日付

**[許容限度額]**

自動少額消込レコードの作成に許容される最大金額または最高のパーセントを入力します。

**[差異伝票タイプ]**

自動銀行残高照合表の処理プログラム実行時に、支払の差異仕訳の作成に使用するための値を UDC テーブル 00/DT から入力します。このフィールドをブランクにすると、デフォルト値として PN (手入力支払) が使用されます。

**[入金決済]**

銀行による決済済みの入金に対して残高調整ルールが適用される場合に使用します。[残高調整コード]、[差異日付モード]、および [許容限度額] フィールドは、[支払決済] タブのフィールドと同様に機能します。

**[入金差異]**

入金差異のためのチェック ボックスです。このチェック ボックスをオンにすると、必須の [差異勘定科目]、[差異日付モード]、[許容限度額]、および [差異伝票タイプ] フィールドが表示されます。

**[入金残高調整日付の例外]**

F09617 テーブルの決済日付が F0911 テーブルの元帳日付より前の場合、入金調整を行うために、このチェック ボックスをオンにします。

**[自動バッチ入金の作成]**

バッチ入金を自動的に作成する場合に、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、必須の [自動バッチ入金日付モード] フィールドが表示されます。自動バッチ入金を作成され、顧客番号のある取引に関してのみそれらの入金が請求書に消し込まれます。顧客番号がブランクの場合は、仮入金が作成されますが、請求書には消し込まれません。

自動バッチ入金を作成されるのは、入金する通貨と請求書の通貨が同じ場合のみです。代替通貨は、自動バッチ入金に消し込むことはできません。

**[自動バッチ入金日付モード]**

UDC テーブル 09/DT の値を入力して、バッチ入金自動作成時に使用するデフォルト日付を指定します。値は [差異日付モード] フィールドと同じです。[自動バッチ入金] チェック ボックスをオンにした場合のみ、このフィールドは必須です。

**[差異勘定科目]**

この取引タイプと残高調整ルールの差異金額の記録に使用される勘定科目を入力します。[入金差異] チェック ボックスがオンの場合にのみ、このタブのこのフィールドと残りのフィールドが表示されます。

**[差異伝票タイプ]**

自動銀行残高照合表の処理プログラム実行時に、入金の差異仕訳の作成に使用するための値を UDC テーブル 00/DT から入力します。このフィールドをブランクにすると、デフォルト値として RC (入金) が使用されます。

**[仕訳入力の作成]**

銀行手数料、振込手数料、発生した利息などの仕訳入力に対して残高調整ルールが適用される場合に使用します。このタブの [残高調整コード] および [元帳日付モード] フィールドは、[支払決済] タブのフィールドと同様に機能します。

**[伝票タイプ]**

自動銀行残高照合表の処理プログラム実行時に、仕訳の作成に使用するための値を UDC テーブル 00/DT から入力します。このフィールドをブランクにすると、デフォルト値として JE (仕訳入力) が使用されます。



## [仕訳入力の残高調整]

UDC テーブル 09/TT の取引タイプ RJE (または特殊取扱コード 02 の付いたその他のユーザー指定取引コード) に対して、残高調整ルールが適用される場合に使用します。

この取引タイプは、一般会計システムで仕訳として既に存在する銀行取引に使用されます。これらの取引では、自動銀行残高照合表処理で重複した取引は作成されず、代わりに、既存の仕訳と総勘定元帳が調整されます。

Enterprise 財務システムで作成された電子銀行残高照合表を EnterpriseOne で残高調整する場合、財務管理システムで作成され、一般会計システムに転送された後、総勘定元帳に対する調整が行われる仕訳に対して、この取引タイプ コードを使用する必要があります。

**[仕訳入力残高調整差異]** 仕訳入力差異のためのチェック ボックスです。このチェック ボックスをオンにすると、必須の [差異勘定科目]、[差異日付モード]、[許容限度額]、および [差異伝票タイプ] フィールドが表示されます。

**[仕訳入力残高調整日付の例外]** F09617 テーブルの決済日付が F0911 テーブルの元帳日付より前の場合、仕訳入力の調整を行うために、このチェック ボックスをオンにします。

**[差異勘定科目]** この取引タイプと残高調整ルールの差異金額の記録に使用する勘定科目を入力します。[仕訳入力残高調整差異] チェック ボックスがオンの場合にのみ、このタブのこのフィールドと残りのフィールドが表示されます。

**[差異伝票タイプ]** 自動銀行残高照合表の処理プログラム実行時に、仕訳入力の差異の作成に使用するための値を UDC テーブル 00/DT から入力します。このフィールドをブランクにすると、デフォルト値として JE (仕訳入力) が使用されます。

## [支払済み手形]

銀行による支払済みの手形に対して残高調整ルールが適用される場合に使用します。

**[元帳日付モード]** UDC テーブル 09/DT の値を入力して、銀行勘定科目と支払手形勘定との仕訳が自動的に作成される際に使用するデフォルト日付を指定します。このフィールドは必須フィールドです。




**[暫定伝票タイプ]** 自動銀行残高照合表の処理プログラム実行時に、仕訳入力の作成に使用するための値を UDC テーブル 00/DT から入力します。このフィールドをブランクにすると、デフォルト値として JE (仕訳入力) が使用されます。

## 自動残高調整ルールのグループへの割り当て

[自動残高調整グループの改訂] フォームにアクセスします。

**自動残高調整グループ - 自動残高調整グループの改訂**

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

残高調整グループ ★

残高調整グループ記述

残高調整ルール ★

☒ 参照 3 フィールドの銀行残高照合表番号を更新

[自動残高調整グループの改訂] フォーム

**[残高調整グループ]** 残高調整グループを特定するための名前を入力します。

**[残高調整ルール]** 残高調整ルールの名前を入力します。

**[参照 3 フィールドの銀行残高照合表番号を更新]** このチェック ボックスをオンにすると、F0911 テーブルの GLR3 フィールドに銀行残高照合表番号が自動入力されます。残高調整グループではデフォルト値が指定されます。このチェック ボックスは、[自動銀行残高照合表勘定の設定の改訂] フォームにも表示されます。

## グループの自動銀行残高照合表勘定への割り当て

[自動銀行残高照合表勘定の設定の改訂] フォームにアクセスします。

**自動残高調整グループ - 自動銀行残高照合表勘定の設定の改訂**

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

勘定科目コード ★  *Auto Bank Statement Bank*

残高調整グループ ★

残高調整ルール

会社  *Financial/Distribution Company*

**税**

☐ 税トラッキング

税率/税域  税目コード

☒ 参照 3 フィールドの銀行残高照合表番号を更新

[自動銀行残高照合表勘定の設定の改訂] フォーム

**[勘定科目コード]** 銀行の勘定科目コードを入力します。

[残高調整グループ]	この銀行勘定の自動銀行残高照合表を処理する際に使用される、残高調整グループを特定するコードを入力します。
[残高調整ルール]	<p>この銀行勘定の自動銀行残高照合表を処理する際に使用される、残高調整ルールを特定するコードを入力します。このフィールドに入力するルールは、前のフィールドで入力したグループの一部である必要があります。[残高調整グループ]と[残高調整ルール]フィールドは連動します。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、前のフィールドで入力したグループに割り当てられている残高調整ルールが使用されます。</p>
[税トラッキング]	このチェック ボックスをオンにすると、この銀行勘定科目の税のトラッキングが行われます。F0911 テーブルの税目コード、税率/税域、および課税対象品目 No. のフィールドを更新するためには、残りの 2 つの税フィールドに値を入力して、このチェック ボックスをオンにする必要があります。
[税率/税域]	<p>[税トラッキング] チェック ボックスをオンにした場合、このフィールドは必須です。</p> <p>この銀行勘定科目の税率/税域のコードを入力します。このコードには、F4008 テーブルに設定されているものを入力してください。この銀行勘定の全ての取引の元帳日付が、このフィールドに入力する税率/税域の有効日付以降で、失効日付以前である必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、F0901 テーブルの勘定科目コードに指定した税率/税域が使用されます。指定されていない場合、エラー メッセージが表示されます。</p>
[税目コード]	<p>[税トラッキング] チェック ボックスをオンにした場合、このフィールドは必須です。</p> <p>V (消費税コード) で始まる値を UDC テーブル 00/EX から入力します。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせ、税額の計算方法が決まります。[税率/税域] フィールドに値が入力されている場合、このフィールドは常に必須です。</p>



## 第 6 章

# 予算の予測と計画の設定

この章では、予算の予測と計画の概要、および成長パターンの設定方法について説明します。

---

## 予算の予測と計画設定について

予測および計画プログラムを使用すると、最大 15 年間の収益および費用の予算金額を予測できます。収益および費用の予算金額を予測するには、事前に次の設定を完了しておく必要があります。

- 成長パターンの設定

成長パターンには、固定金額またはパーセントのいずれかを設定することができます。

- ビジネスユニットへの成長パターンの割り当て

成長パターンは、必要に応じて勘定レベルで変更できます。

予算金額を予測するために、成長パターンが勘定残高テーブル (F0902) の転記額から取得された基準額に適用されます。

### 関連項目:

[第 23 章、「予算の予測と計画」、253 ページ](#)

---

## 成長パターンの設定

このセクションでは、成長パターンの概要および以下の方法について説明します。

- 成長パターンの設定

- ビジネスユニットへの成長パターンの割り当て

## 成長パターンについて

成長パターンを使用して、予算金額の計算時に収益および費用の勘定に適用される増加額または増加率を指定します。

成長パターン タイプ (UDC テーブル 14/GP) を成長パターン コードに割り当てて、固定金額またはパーセントで予算金額を指定します。たとえば、成長金額に「1.00」を入力すると、以下の処理が行われます。

- 成長パターン タイプに FIX (固定金額) を使用した場合は、勘定残高に 1 が追加されます。

- 成長パターン タイプに PCT (パーセント) を使用した場合は、勘定残高に 1.01 が乗算されます。これは、勘定残高に 1 パーセントを乗算して、その結果を勘定残高に追加した値に等しくなります。

成長パターンには、固定金額またはパーセント金額を、最大 15 年間年度ごとに個別に指定できます。各年度に入力する成長金額は合算されます。たとえば、成長パターンのパーセントとして年度 1 に 1.0%、年度 2 に 2.0% を入力すると、最初の年度は勘定残高に 1.01 が乗算され、その次の年度は、その金額に 1.02 が乗算されます（合計で 3.02%）。

成長パターン コードを設定したら、そのコードをビジネスユニットに割り当てて改訂番号を指定します。改訂番号を使用すると、同じビジネスユニットに対して複数の予算を作成することができます。

成長パターン情報は、予測成長パターン テーブル (F1406) に保管されます。

## 成長パターンの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[予測成長パターンの処理]	W1406A	[予測および計画] (G1411)、 [予測成長パターン]	既存の成長パターンを 検討します。
[予測成長パターンの改訂]	W1406B	[予測成長パターンの処理] フォームで、[追加] をク リックします。	成長パターンを追加および 改訂します。
[ビジネスユニット成長パ ターンの処理]	W1405A	[予測および計画] (G1411)、[ビジネスユニット 成長パターン]	ビジネスユニットへ割り 当てた成長パターンを 検討します。
[ビジネスユニット成長パ ターンの改訂]	W1405C	[ビジネスユニット成長パ ターンの処理] フォームで、 [追加] をクリックします。	ビジネスユニットへの成長 パターンコードと改訂番号 の割り当ておよび改訂 を行います。

## 成長パターンの設定

[予測成長パターンの改訂] フォームにアクセスします。

予測成長パターン - 予測成長パターンの改訂

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

成長パターン・コード ★ 10PCT5YR Ten Percent Over 5 Years

成長パターン・タイプ PCT パーセンテージ金額

予測金額 - 年度 1	1.00 %
予測金額 - 年度 2	2.00 %
予測金額 - 年度 3	2.00 %
予測金額 - 年度 4	2.00 %
予測金額 - 年度 5	2.00 %
予測金額 - 年度 6	4.00 %

[予測成長パターンの改訂] フォーム

**[成長パターン・コード]** 予算金額の計算時に収益および費用の勘定に適用される増加額または増加率を指定するコードを入力します。

**[成長パターン・タイプ]** ユーザー定義コードを UDC テーブル 14/GP から割り当てて、予測する予算金額の表示に固定金額 (FIX) とパーセント (PCT) のいずれを使用するかを指定します。

**[予測金額 - 年度 1] ~ [予測金額 - 年度 15]** 予算金額を予測を立てる年度ごとに、予測される増額率を入力します。

## ビジネスユニットへの成長パターンの割り当て

[ビジネスユニット成長パターンの改訂] フォームにアクセスします。

**ビジネスユニット成長パターン - ビジネスユニット成長パターンの改訂**

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

ビジネスユニット: 5 Western Branch

改訂No.: 1

ビジネスユニットの改訂 | **成長パターン** | 予算コード

ビジネスユニット \*: 5 Western Branch

改訂No. \*: 1

成長パターン・コード: 10PCT5YR Ten Percent Over 5 Years

成長パターン・タイプ: PCT Percentage Amount

[ビジネスユニット成長パターンの改訂] フォーム

### [ビジネスユニットの改訂]

[ビジネスユニットの改訂] タブを選択します。

**[改訂No.]** 予算改訂を識別する番号を入力します。予算の予測を立てるさまざまなシナリオに対していくつでも予算改訂番号を作成できます。

**[成長パターン・タイプ]** 成長パターン コードに割り当てられたコード (PCT または FIX) が表示されます。

### [成長パターン]

[成長パターン] タブを選択します。

**[予測金額 - 年度 1] ~ [予測金額 - 年度 15]** 予算パターンに設定された金額が表示されます。

**[予算コード]**

[予算コード] タブおよび関連のフィールドは、将来使用するために用意されています。



## 第 7 章

# 資金予測の設定

この章では、資金予測の設定と資金タイプコードの概要、および以下の方法について説明します。

- 資金タイプ規則の設定
- 資金予測レポート構造の定義

---

## 資金予測の設定について

EnterpriseOne 資金予測プログラムを使用すると、将来の支払予定の予測、および現金勘定の効果的な管理ができます。資金予測を行うことにより、1 つまたは複数の銀行勘定を分析して、計画された日付に基づいて毎日または定期的に資金状況を予測することができます。

資金予測の初期設定では、以下の設定を行います。

- 資金タイプコード
- 資金タイプ規則
- 資金タイプ予測構造

初期設定後、売掛管理、買掛管理、一般会計システムからデータを取り出してリフレッシュし、資金予測データテーブル (F09522) を更新します。データをリフレッシュしたら、照会とレポートの各プログラムを使用して資金状況の分析と予測を行います。処理を再実行してデータをリフレッシュする場合は、その前に F09522 テーブルの既存データを除去する必要があります。

---

## 資金タイプコードについて

[資金予測分析] フォームと資金予測レポート (R095221) の見出しと詳細ローの記述に表示する資金タイプコードを、UDC テーブル 09/CT に設定します。

一般会計ソフトウェアには、見出し資金タイプコードが 5 つあります。これらの見出しのコードは変更できませんが記述は変更できます。特殊取扱フィールドに数値 10 が設定されている資金タイプコードが、見出し資金タイプコードです。

次の表は、ソフトウェアに含まれる見出し資金タイプコードを示しています。

コード	コード記述	特殊取扱
1_TOTCF	資金予測	10

コード	コード記述	特殊取扱
1_BAL	期首残高	10
1_NETOP	純営業利益/費用予測	10
1_IN	現金収入	10
1_OUT	現金支出	10

追加の見出し資金タイプコードを設定することができます。たとえば、INVOPN（未決済請求書）の見出しコードを設定して、現金収入の見出しの下に表示することができます。

見出し資金タイプコードに金額をロールアップする詳細ローの資金タイプコードを設定する必要があります。たとえば、見出し“未決済請求書”には、INVCK（未決済請求書 - 小切手）または INVEFT（未決済請求書 - EFT）の詳細コードを設定できます。

上の例では、[資金予測分析] フォームと資金予測レポートに以下の項目が表示されます。

現金収入

未決済請求書

未決済請求書 (EFT)

1.1110.FIB

請求書 (小切手)

1.1110.BEAR

詳細資金タイプコードには規則を設定する必要があります。規則には銀行勘定科目コードなどの情報が含まれます。見出し資金タイプコードには規則を設定する必要はありません。

## 資金タイプ規則の設定

このセクションでは、資金タイプ規則の概要と、以下の設定方法について説明します。

- 売掛管理と買掛管理の資金タイプ規則
- 一般会計の資金タイプ規則

### 資金タイプ規則について

資金タイプコードを設定したら、詳細ローの記述の資金タイプコードに対応する規則を UDC テーブル 09/CT に設定する必要があります。見出し資金タイプコードの規則は設定しません。この詳細資金タイプ規則を使用して、売掛管理、買掛管理、一般会計システムからのデータの取得と資金予測の分析が行われます。

詳細コードごとに、その資金タイプ規則を適用するシステムを指定します。規則に対する要件は、システムによって異なります。たとえば、一般会計システムの詳細コードの資金タイプ規則で必要な銀行勘定は複数ですが、売掛管理および買掛管理システムの詳細コードの規則で必要な銀行勘定は 1 つです。これらの規則によって、キャッシュフローデータのリフレッシュ時に、該当する詳細テーブルからレコードが選択されます。

詳細コードごとに、加重係数を指定することにより、金額をより現実に即した予測値に補正することができます。たとえば、未決済請求書の詳細コードの場合は、未決済請求書の約 80 パーセントが期日までに支払われると予測すると、加重係数に 80 パーセントを設定します。また、資金タイプコードはアクティブまたは非アクティブに指定することができます。キャッシュフローデータをリフレッシュすると、アクティブなコードに関連した金額のみが含まれます。

資金タイプ規則は、F09521 テーブルに保管されます。

## 資金タイプ予測の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[資金タイプ規則の処理]	W09521A	[資金予測] (G09319)、[資金タイプ規則の設定]	資金タイプ規則の一覧を検討します。
[資金タイプ規則の改訂]	W09521B	[資金タイプ規則の処理] フォームで [追加] をクリックします。	売掛管理、買掛管理、一般会計システムに資金タイプ規則を設定します。

## 売掛管理と買掛管理の資金タイプ規則の設定

[資金タイプ規則の改訂] フォームにアクセスします。[A/R] または [A/P] タブを選択します。

資金タイプ規則の設定 - 資金タイプ規則の改訂
OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

データ・ソース

☒ A/R
☐ A/P
☐ G/L

資金タイプ
INVCK
未決済請求書(小切手)
☒ 状況
加重係数 ★
0.800

ノード通貨
USD
U.S. Dollar
☒ 期限超過資金タイプ

A/R
A/P
G/L

銀行勘定科目コード
8.1110.BEAR
Bear Creek National Bank

伝票タイプ
RI
Invoice
支払手段
\*

基本通貨
USD
U.S. Dollar
発生元モジュール

期限超過

期限超過日数 - 開始
1

期限超過日数 - 終了
7

表示モード

☒ 最初の日付カラムに期限超過金額を表示
☐ 期限超過カラムに期限超過金額を表示

[資金タイプ規則の改訂] - [A/R] タブ

[資金タイプ規則の改訂] フォームの見出し域、および [A/R] と [A/P] タブに表示されるフィールドは同じです。

### 見出し域フィールド

[A/R] または [A/P]                      [データ・ソース] 見出し下の [A/R] または [A/P] オプションを選択します。

[資金タイプ]	<p>資金の流入や流出（未決済請求書、未払伝票、銀行勘定など）の起因を示すコードを UDC テーブル 09/CT から入力します。</p> <p>見出し用の資金タイプ（UDC テーブル 09/CT の特殊取扱フィールドに 10 が設定されているコード）を入力すると、エラー メッセージが表示されます。見出し用の規則は設定しません。</p>
[状況]	<p>資金タイプ規則をアクティブに指定する場合に、このチェック ボックスをオンにします。状況がアクティブの資金タイプ規則のみ、この資金タイプの資金予測データのリフレッシュに使用されます。</p>
[期限超過資金タイプ]	<p>期限超過の資金タイプを指定する場合に、このチェック ボックスをオンにします。</p> <p>このチェック ボックスをオンにして資金予測データをリフレッシュすると、リフレッシュの日付より前の期日範囲が選択されます。日付は、この資金タイプ規則に指定された開始/終了期限超過日数に基づいて設定されます。</p> <p>このチェック ボックスをオフにして資金予測データをリフレッシュすると、リフレッシュの日付以降の期日範囲が選択されます。</p>
[加重係数]	<p>取引の実績金額の回収見込みレベルを乗数として入力します。たとえば、未決済請求書の約 80 パーセントが期日までに支払われると予測した場合は、このフィールドに「0.80」と入力します。想定外の事象を調整する場合は、一定のパーセントの金額を増やすことができます。たとえば、このフィールドに「1.10」を入力すると、未払伝票金額を 10% 増加することができます。デフォルト値は 1（加重係数なし）です。</p>
[ノード通貨]	<p>複数の詳細レコードの金額を再評価する場合に使用する共通通貨を入力します。このフィールドをブランクにすると、会社 00000 に割り当てられた通貨が使用されます。</p>
[A/R] または [A/P]	
[銀行勘定科目コード]	<p>総勘定元帳の銀行勘定科目コード（勘定科目 ID ではない）を識別する値を入力します。</p> <p>資金タイプが売掛管理の場合は、特定の銀行勘定科目コードを入力します。入金が入力されるまでは銀行勘定を決定できないため、この特定の銀行勘定科目コードを入力して、指定した請求書に使用する必要があります。「*」を入力して全ての銀行勘定科目を指定することはできません。資金予測データをリフレッシュすると、F09522 テーブルの銀行勘定科目コードが、このフィールドに入力した値で更新され、資金タイプ規則の他の条件に一致する F03B11 詳細レコードから資金予測レコードが作成されます。</p> <p>資金タイプが買掛管理の場合は、特定の銀行勘定科目に関連付けられている伝票のみを選択するために、その銀行勘定科目コードを入力します。資金予測データをリフレッシュすると、この勘定科目コードを使用して、同じ銀行勘定科目コードを持つ F0411 詳細レコードが選択され、同じ勘定科目コードに対してその資金タイプ規則の資金予測レコードが作成されます。また、「*」を入力すると、全ての銀行勘定科目を指定することができます。</p>
[伝票タイプ]	<p>UDC テーブル 00/DT から特定の伝票タイプを入力します。または、全ての伝票タイプを指定する場合は「*」を入力します。</p>

注: [基本通貨]、[支払手段]、[発生元モジュール] フィールドは、「\*」を入力して全ての値を含めることができます。これら 3 つのフィールドのいずれかを空白にすると、空白の詳細レコードのみが選択され、その資金タイプ規則の資金予測データが作成されます。

- [発生元モジュール]** 売掛管理の場合は、このフィールドに UDC テーブル 03B/OS のシステムコード「0」、「1」、「2」、「3」、または「4」を入力します。
- 買掛管理の場合は、このフィールドにソフトウェア モジュール コード「P」、「R」、「C」、「M」、または「L」を入力します。
- 売掛管理と買掛管理の [発生元モジュール] にはそれぞれ、異なるエイリアス (OMOD と RP3) が指定されます。
- [期限超過日数 - 開始]** 資金予測データの更新日前の開始日数を入力します。この日数によって、期日範囲を選択でき、特定の期限超過金額を資金予測に含めることができます。たとえば、このフィールドに「1」を入力して、[期限超過日数 - 終了] フィールドに「7」を入力すると、最大 1 週間期限が超過した資金予測金額を表示することができます。
- [期限超過日数 - 終了]** 資金予測データの更新日前の終了日数を入力します。この日数によって、期日範囲を選択でき、特定の期限超過金額を資金予測に含めることができます。たとえば、このフィールドに「7」、[期限超過日数 - 開始] フィールドに「1」を入力すると、最大 1 週間期限が超過した資金予測金額を表示することができます。
- [最初の日付カラムに期限超過金額を表示] または [期限超過カラムに期限超過金額を表示]** 期日超過資金タイプの場合にのみ、この 2 つのオプションから 1 つを選択します。この 2 つのオプションを使用して、この資金タイプ規則の期限超過金額を [資金予測分析] フォームに表示するカラムを指定します。
- いずれかのオプションを選択して、期限超過金額を最初の日付範囲カラムに表示するか、別の期限超過カラムに表示するかを指定します。

## 一般会計の資金タイプ規則の設定

[資金タイプ規則の改訂] フォームにアクセスします。[G/L] タブを選択します。

資金タイプ規則の設定 - 資金タイプ規則の改訂

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

データソース

☐ A/R ☐ A/P ☒ G/L

資金タイプ  銀行口座預金 ☒ 状況 加重係数

ノード通貨  U.S. Dollar

A/R A/P G/L

開始主科目  開始補助科目

終了主科目  終了補助科目

[資金タイプ規則の改訂] フォーム - [G/L] タブ

## 見出しフィールド

- [G/L] [データ・ソース] 見出し下のこのオプションを選択します。
- [資金タイプ] 見出し用の資金タイプ (UDC テーブル 09/CT の特殊取扱フィールドが 10 のコード) を入力すると、エラー メッセージが表示されます。見出し用の規則は設定しません。

## 開始/終了主科目と開始/終了補助科目のフィールド

所定の一般会計資金タイプに適用される全ての銀行勘定科目が含まれていることを確認します。指定範囲に含まれない勘定科目は、[資金予測分析] フォームに表示される、その資金タイプの純営業利益/費用予測金額には含まれないため、開始残高が不正確になります。

- [開始主科目] 勘定科目範囲の開始主科目を入力します。開始主科目と開始補助科目を組み合わせ、銀行勘定科目を指定します。開始主科目は終了主科目と同じ値か、終了主科目より小さい値にする必要があります。
- [開始補助科目] 勘定科目範囲の開始補助科目を入力します。開始補助科目と開始主科目を組み合わせ、銀行勘定科目を指定します。開始補助科目は終了補助科目と同じ値か、終了補助科目より小さい値にする必要があります。
- [終了主科目] 勘定科目範囲の終了主科目を入力します。終了主科目と終了補助科目を組み合わせ、銀行勘定科目を指定します。終了主科目は開始主科目と同じ値か、開始主科目より大きい値にする必要があります。
- [終了補助科目] 勘定科目範囲の終了補助科目を入力します。終了補助科目と終了主科目を組み合わせ、銀行勘定科目を指定します。終了補助科目は開始補助科目と同じ値か、開始補助科目より大きい値にする必要があります。

---

注: [開始補助科目] と [終了補助科目] フィールドへの値の入力方法は次のとおりです。

特定の補助科目を入力する場合は、[開始補助科目] と [終了補助科目] フィールドの両方に有効な補助科目を入力します。たとえば、1110.BEAR ~ 1110.FIB を指定すると、BEAR から FIB までの補助科目のみが含まれます。

特定の開始補助科目以降の全ての補助科目を含める場合は、[開始補助科目] に有効な補助科目を入力して、[終了補助科目] フィールドに「\*」を入力します。たとえば、1110.BEAR ~ 1110.\* を指定すると、BEAR 以降の全ての補助科目が含まれます。

特定の開始補助科目までの全ての補助科目を含める場合は、[開始補助科目] に「\*」を入力して、[終了補助科目] フィールドに有効な補助科目を入力します。たとえば、1110.\* ~ 1110.FIB を指定すると、FIB までの全ての補助科目が含まれます。

主科目の全ての補助科目を含める場合は、[開始補助科目] と [終了補助科目] の両方に「\*」を入力します。たとえば、1110.\* ~ 1110.\* を指定すると、主科目 1110 の全ての補助科目が含まれます。

---

## 資金予測レポート構造の定義

このセクションでは、資金予測レポート構造の概要と、以下の方法について説明します。

- 資金予測レポート構造の設定プログラムの処理オプションの設定
- 資金予測レポート構造の定義

## 資金予測レポート構造について

資金タイプコードとコードに対応する規則を設定したら、資金予測のレポート構造、つまりレポートのフォーマットを定義する必要があります。レポート構造は、親子ツリー構造内のレポート階層に資金タイプコードを配置して定義します。

レポート構造を使用して、[資金予測分析] フォームと資金予測レポート (R095221) がフォーマットされます。

資金予測レポート構造の設定プログラム (P09523) の処理オプションを設定することにより、UDC テーブル 09/CT に設定されている中から以下の標準レポート見出しを、レポート構造に自動的に含めることができます。

- 資金予測 (1\_TOTCF)
- 期首残高 (1\_BAL)
- 純営業利益/費用予測 (1\_NETOP)
- 現金収入 (1\_IN)
- 現金支出 (1\_OUT)

これらのデフォルト見出しを含めることにより、親子ツリー構造定義時に他のユーザー定義の見出しおよび詳細の資金タイプコードを追加する枠組みができます。

ツリー構造の各ローは UDC テーブル 09/CT の見出しまたは詳細の資金タイプコードに対応し、見出し以外の各資金タイプコードには資金タイプ規則が関連付けられています。ツリー構造内に資金タイプコードを追加、移動することにより、レポート構造を定義することができます。複数のレポート構造を定義することができます。

“当座”などの詳細ローの記述を表示する詳細資金タイプコードは、ツリー構造の資金タイプコードの下に表示されます。ツリー構造を展開すると、その詳細資金タイプコードに対して選択されている勘定科目データが詳細ローの記述の下に表示されます。詳細ローの金額が見出しローにロールアップされます。たとえば、詳細ローの当座金額は、見出しの開始残高にロールアップされます。

許可されていない親子ツリー構造内に資金タイプコードを追加または移動すると、詳細エラーメッセージが表示されます。詳細資金タイプコードに関連付けられた資金タイプ規則を改訂すると、その規則を使用する全てのレポート構造が影響を受けるという警告が表示されます。

## 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- UDC テーブル 09/CT へ詳細資金タイプコード、および見出し資金タイプコード (任意) を設定します。
- 詳細資金タイプコードの資金タイプ規則を設定します。
- 資金予測レポート構造の設定プログラムの処理オプションを設定して、標準レポート セクションを含めます。

## 資金予測レポートに使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[資金予測レポート構造の処理]	W09523E	[資金予測](G09319)、[資金予測レポート構造の設定]	レポート構造の一覧を検討します。
[レポート構造名の改訂]	W09523C	[資金予測レポート構造の処理]で、[追加]をクリックします。	レポート構造と記述を入力します。
[資金予測レポート構造の改訂]	W09523A	[資金予測レポート構造の処理]で[選択]をクリックします。	レポートの構造を定義します。

## 資金予測レポート構造の設定プログラム (P09523) の処理オプションの設定

次の処理オプションを使用して、資金予測レポート構造のデフォルトにレポート見出しを含めるかどうかを指定します。

### デフォルト

1. 標準レポート セクション      資金予測レポート構造に UDC テーブル 09/CT の以下のレポート見出しを含めるかどうかを指定します。

資金予測 (1\_TOTCF)

期首残高 (1\_BAL)

純営業利益/費用予測 (1\_NETOP)

現金収入 (1\_IN)

現金支出 (1\_OUT)

有効値は以下のとおりです。

ブランクまたは 0: レポート見出しを省略する。

1: レポート見出しを追加する。

資金予測レポート構造定義時に、これらの見出しに詳細資金タイプコードを追加することができます。

## 資金予測レポート構造の定義

[資金予測レポート構造の改訂] フォームにアクセスします。



資金予測レポート構造の設定 - 資金予測レポート構造の改訂

検索(I) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

レポート構造 ★  Automatisch

ノードの削除(D) ノードの追加(A)

レコード 1 - 6

レポート構造:	
<input checked="" type="radio"/>	Automatisch
<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>	

[資金予測レポート構造の改訂] フォーム

資金予測レポート構造の定義は、以下の手順で行います。

1. [レポート構造名の改訂] で、階層レポート構造を一意に識別する名前を入力します。レポート構造によって、資金予測データの表示方法が決まります。レポート構造は F09523 テーブルに設定されている必要があります。
2. ツリー構造を展開します。  
処理オプションの設定で標準レポート セレクションを含めるとした場合は、見出し資金タイプ コード (UDC テーブル 09/CT) が階層順に表示されます。
3. 詳細資金タイプ コードを既存のレポート構造に追加する場合は、追加先のノードを選択して、[ノードの追加] をクリックします。  
たとえば、現金収入の見出しコードに未決済請求書 (小切手) の資金タイプコードを追加する場合は、[現金収入] を選択します。
4. [使用言語の資金タイプUDCの選択] で、次のオプションの 1 つを選択して [検索] をクリックします。
  - [明細]
  - [見出し]
5. 詳細グリッドで、必要に応じてスクロール ダウンして、追加するコードに対応したローを選択します。
6. [OK] をクリックして、データベースを更新します。
7. ノードを移動 (切り取りと貼り付け) する場合は、ノードを選択して [切り取り] (はさみボタン) をクリックします。
8. 切り取ったノードを移動する先のノードを選択して、[貼り付け] をクリックします。
9. 移動先のノードとその子を見る場合は、ツリー構造を展開します。

10. [保存] をクリックして、データベースを更新します。
11. [資金予測レポート構造の改訂] で、追加、削除、または移動を行って、レポート構造を完成させます。  
許可されていない親子ツリー構造内に資金タイプコードを追加または移動すると、エラー メッセージが表示されます。
12. フォームを終了せずに資金タイプ規則の検討や改訂を行う場合は、ステップ 13 に進みます。それ以外は、[キャンセル] をクリックします。

---

**重要:** [キャンセル] をクリックして [資金予測レポート構造の改訂] フォームを終了すると、“このレポート構造で行われた変更を検証するために資金タイプ規則に自動的に接続しますか？” というメッセージ ウィンドウが表示されます。

[はい] をクリックして、レポート構造で指定した資金タイプ規則を検証し、オーバーラップした勘定科目範囲または値がないか確認します。資金タイプ規則を追加した場合は、勘定科目範囲と値は確認できません。代わりに、レポート構造の作成または改訂時に規則を検証する必要があります。範囲および値が正しくない場合は、分析で示される資金予測データが不正確な結果になる可能性があります。

---

13. 資金タイプ規則を検討または改訂する場合は、次のステップを実行します。
  - プログラムを終了せずに資金タイプ規則を改訂する場合は、ステップ 14 と 15 を実行します。
  - レポート構造内の複数の資金タイプ規則を検討する場合は、ステップ 16 と 17 を実行します。
  - レポート構造内の複数の資金タイプ規則を改訂する場合は、ステップ 16 から 19 を実行します。
14. [資金予測レポート構造の改訂] で、詳細の資金タイプを選択した後 [ロー] メニューから [資金タイプ規則] を選択します。
15. [資金予測タイプ規則の改訂] で、必要なフィールドを変更して [OK] をクリックします。
16. [資金予測レポート構造の改訂] で、[フォーム] メニューから [レポート構造規則] を選択します。
17. [レポート構造資金タイプ規則の改訂] で、[データ・ソース] のオプションの中から次の資金タイプグループの 1 つを選択して、[検索] をクリックします。
  - [すべて]
  - [A/R]
  - [A/P]
  - [G/L]

[資金予測レポート構造の改訂] フォームを使用して、レポート構造内のグループの複数の資金タイプ規則を検討して、規則にオーバーラップした勘定科目がないか、銀行勘定科目コードが正確かなどを検証します。
18. 特定のレポート構造内の複数の資金タイプコードを改訂する場合は、QBE (例示照会プログラム) ローに新しい値を入力して [OK] をクリックします。
19. メッセージ フォームで、[OK] をクリックして改訂を反映させます。

---

**重要:** このレポート構造の資金タイプ規則の基準を変更すると、この資金タイプ規則を使用する全てのレポート構造の基準が変更されます。

---

## 第 8 章

# キャッシュ フロー計算書の設定

この章では、資金管理とキャッシュ フロー計算書の各概要と以下の方法について説明します。

- キャッシュ フロー活動コードの設定
- 通常残高コードの設定
- キャッシュ フロー規則の設定

---

## 資金管理について

EnterpriseOne 一般会計システムの資金管理機能を使用して、キャッシュ フローを定期的に予測し、現金勘定をより効率的に管理することができます。資金管理機能は、売掛管理、買掛管理、一般会計の各システム間でデータが重複することなく、キャッシュ フローを正確に予測できるように完全に統合されています。自動銀行残高照合表処理は、残高調整済みの取引から自動で入金、伝票および仕訳を作成しますが、この処理は、資金管理およびキャッシュ フロー予測と統合されています。現金勘定の開始残高と終了残高だけでなく、未決済の請求書と伝票の合計金額を見積もることにより、短期資金の予測管理全体を改善することができます。

---

## キャッシュ フロー計算書について

国際会計基準 (IAS) により、欧州連合 (EU) の会社は、会社の指定した業務期間における現金および現金等価物の変動を示すキャッシュ フロー計算書の作成が義務付けられています。一般会計システムの資金管理機能を使用すると、規定に準拠した、営業、投資、財務の活動別のキャッシュ フロー計算書を作成できます。

- 営業 - 商品やサービスの売上や、投資および財務活動以外の活動による入金など、主たる収益活動に伴うキャッシュ フロー。
- 投資 - 現金等価物に含まれない長期資産などの投資の取得および売却に伴うキャッシュ フロー。
- 財務 - 自己資本と借入れの規模および構成の変化に伴うキャッシュ フロー。

これら 3 つの活動は資金に影響を与えるため、IAS-7 の規定に従って活動ごとにキャッシュ フロー計算書で分析を行い、業務の資金に関連する活動を示す必要があります。

キャッシュ フロー計算書によって、次のことが分かります。

- 業務におけるキャッシュ フローの主な資金源についての概要
- 業務の現在の流動資金の評価
- 過去の変動を基準とした今後のキャッシュ フローの予測

- ・取引やその他の財務活動により生成されるキャッシュフローに関する情報

キャッシュフロー計算書を使用して、キャッシュフローを分析し、会社の 1 つまたは複数の銀行勘定に対する会計期間のレポートを作成することができます。

## キャッシュフロー活動コードの設定

ユーザー定義コード (UDC) テーブル 10/CF で定義されている活動コードは、国際会計基準 (IAS) 7 に準拠しており、ハードコード化されています。

活動コードの一覧およびコードに関連した勘定科目タイプについては、次の表を確認してください。

コード	コード記述	説明
10	税引前純利益	AAI 項目 FSxx に割り当てられた勘定科目を含みます。
20	営業資本前営業利益	減価償却累計額、非流動資産の売却による損益、支払利息など、営業資本前営業利益への補正を含みます。
30	営業より得た資金	在庫、売掛金、買掛金などの営業資本を含みます。
40	営業活動より得たキャッシュフロー	支払利息、配当、納税などの流出を含みます。
50	投資活動より得たキャッシュフロー	非流動資産、および資産の売却による収入を含みます。
60	財務活動より得たキャッシュフロー	株式の発行と融資による収入、および特定の株式と融資金額の回収を含みます。
70	現金および現金等価物	現金と銀行勘定を含みます。

活動コード記述は参考用の情報で、キャッシュフロー計算書レポートには印刷されません。活動コードの記述は変更可能ですが、目的を変更することはできません。たとえば、活動コード 10 の記述を“税引前純利益”から“純損益”に変更することはできますが、この活動コードがキャッシュフロー計算書レポートで使用される目的を変更することはできません。

[キャッシュフロー活動] フォームで勘定科目を活動コードに割り当てます。このフォームの見出し領域に表示される活動コードと記述を使用して、活動に割り当てられている勘定科目を容易に追跡することができます。

## 通常残高コードの設定

UDC テーブル 10/NB (通常残高) のコードにより、以下の勘定残高が識別されます。

- ・借方

- 貸方

これらのコードにはそれぞれ特殊取扱フィールドがハードコード化されており、D (借方) または C (貸方) が設定されています。キャッシュ フロー規則を設定する場合は、D または C の値を各ローに割り当てて、そのローの勘定科目の通常残高に借方と貸方のいずれかを指定します。キャッシュ フロー計算書を印刷すると、通常残高に基づいて、勘定科目の記述の前に“増加”または“減少”が挿入されます。

---

## キャッシュ フロー規則の設定

このセクションでは、キャッシュ フロー規則の概要と、キャッシュ フロー規則の設定方法について説明します。

### キャッシュ フロー規則について

UDC テーブル 10/CF の活動コードを確認したら、キャッシュ フロー規則を設定する必要があります。これらの規則により、各活動コードに関連付けられている勘定科目、キャッシュ フロー計算書に表示される勘定科目の順序、および記述が指定されます。

たとえば、キャッシュ フロー計算書上の活動コード 30 は、“営業より得た資金”の小計に含まれる全ての勘定科目を表します。活動コード 30 のキャッシュ フロー規則を設定する場合は、勘定科目ごとに個別の行と記述を作成します。たとえば、活動コード 30 に以下の行を作成することができます。

- 取引およびその他の売掛金
- 在庫
- 買掛金

キャッシュ フロー規則レポート プログラム (P10520) を使用して、活動コード 20 から 70 までのキャッシュ フロー規則を設定して、キャッシュ フロー計算書レポート (R10521) に表示する各行に勘定科目と記述を割り当てます。また、行の勘定科目に、通常残高として借方と貸方のいずれかを指定します。活動コード 10 の場合のみ、使用するプログラムは同じですが、税引前純利益に AAI 項目 FSxx を割り当て、その金額を取り込みます。

レポートに印刷される小計の記述は、活動コードによって異なります。小計の記述は、IAS 7 に準拠しており、レポートにハードコード化されています。

キャッシュ フロー計算書の規則は、キャッシュ フロー計算書の規則テーブル (F10520) に保存されます。

## キャッシュフロー規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[キャッシュフロー規則の処理]	W10520A	[キャッシュ・フロー計算書] (G1031)、[キャッシュ・フロー規則レポート]	キャッシュフロー活動コードのリストを検討します。
[キャッシュフロー活動]	W10520D	[キャッシュフロー規則の処理] フォームで [追加] をクリックします。	キャッシュフロー規則を設定します。
[キャッシュフロー勘定科目の選択]	W10520E	[キャッシュフロー活動] フォームで、[勘定科目選択] フィールドの [勘定科目の選択] リンクをクリックします。	勘定科目をキャッシュフロー活動コードに割り当てます。

## キャッシュフロー規則の設定

[キャッシュフロー活動] フォームにアクセスします。

**[キャッシュフロー活動]**      キャッシュフロー計算書レポートに特定の活動を指定する活動コードを UDC テーブル 10/CF から入力します。この UDC テーブルの値は IAS 7 に準拠しており、ハードコード化されています。

次のタスクは、活動コード 10 と活動コード 20～70 のキャッシュフロー規則の設定方法を説明しています。[キャッシュフロー活動] フォームに表示されるフィールドは、活動コードが 10 の場合異なります。

### 活動コード 10

[キャッシュフロー活動] フィールドに「10」を入力します。

[キャッシュフロー活動] フォーム

**[FS AAI]**      会社の税引前純利益の AAI 項目 FSxx を入力します。

**[記述]**      必要に応じて、記述を入力します。

この記述は、キャッシュ フロー計算書に印刷されます。デフォルト値は、前のステップで入力した AAI 項目の記述です。記述を変更すると、F10520 テーブルが更新され、キャッシュ フロー計算書のみに記述が印刷されます。

活動コード 20～70

[キャッシュフロー活動] フィールドに「20」～「70」の値を入力します。

キャッシュ・フロー規則レポート - キャッシュフロー活動

OK(O) 検索(I) 削除(D) キャンセル(L) ロー(R) ツール(T)

キャッシュフロー活動 \*

20

営業資本前営業利益

レコード 1-2

グリッドのカスタマイズ

	記述	通常残高	勘定科目選択
	Depreciation Expense	C	勘定科目の選択

[キャッシュフロー活動] フォーム

活動コード 20 および減価償却のローの場合は、減価償却費勘定ではなく、減価償却累計勘定を入力します。減価償却累計は、貸方勘定です。この勘定金額は逆仕訳されて、税引前純利益行に追加されます。

活動コード 20～70 の場合は、複数の行、記述、および勘定科目を入力できます。

- [記述]

キャッシュ フロー計算書の 1 行として印刷する記述を入力します。
- [通常残高]

このフィールドには「C」または「D」を入力して、この行の勘定の通常残高に貸方と借方のいずれかを指定します。これらの値は UDC テーブル 10/NB にハードコード化されています。
- [勘定科目選択]

[勘定科目の選択] リンクをクリックして、[キャッシュフロー勘定科目の選択] フォームにアクセスし、主科目および補助科目の範囲を指定して割り当てます。

[キャッシュフロー勘定科目の選択] フォーム

このフォームを使用して、主科目と補助科目の開始科目と終了科目を割り当てます。

キャッシュ・フロー規則レポート - キャッシュフロー勘定科目の選択

OK(O) 検索(I) 削除(D) キャンセル(L) フォーム(E) ツール(T)

キャッシュフロー活動

20

営業資本前営業利益

行No.

1.00

記述

Depreciation Expense

レコード 1 - 2

グリッドのカスタマイズ

開始 \*

開始

終了 \*

終了

主科目

補助科目

主科目

補助科目

2130

2130

[キャッシュフロー勘定科目の選択] フォーム

[開始主科目]、[開始補助科目]

[開始主科目] フィールドに勘定科目を入力します。  
その主科目の全ての補助科目を指定するには、[開始補助科目] フィールドに「\*」を入力します。このフィールドをブランクにすると、“開始” 主科目または指定範囲の科目に関連付けされている最初の空白の補助科目が使用されます。

[終了主科目]、[終了補助科目]

これらのフィールドの値は、[開始主科目] と [開始補助科目] 各フィールドの値に等しいか、または大きい必要があります。複数の行に重複する勘定科目は指定できません。“開始および終了の値が無効です” というエラーメッセージが表示されます。



## 第 9 章

# 現金主義会計の設定

この章では、現金主義会計の設定の概要と、以下の方法について説明します。

- 現金主義会計伝票タイプの設定
- 現金主義会計用の AAI の設定

---

## 現金主義会計の設定について

現金主義会計を使用すると、AA (実績金額) 元帳の発生主義会計仕訳に基づいて AZ 元帳に現金主義仕訳が作成されます。現金主義会計のシステムを設定するには、現金主義仕訳を使用する伝票タイプを決めて、必要に応じて、伝票タイプを設定して UDC テーブルに割り当てます。また、現金主義仕訳の作成から除外する伝票タイプを指定する必要があります。

現金主義会計のシステムを設定する場合、現金主義会計用の AAI が適切に設定されていることを確認してください。現金主義会計では、買掛管理および売掛管理の各システムで、税や多通貨、割引の計算で生じる四捨五入差異をトラッキングする AAI 項目が使用されます。また、現金主義会計では、現金主義会計仕訳用の仮収益勘定が指定された AAI 項目が未充当入金に対して使用されます。

---

## 現金主義会計伝票タイプの設定

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 現金主義会計仕訳の伝票タイプの設定
- 現金主義会計仕訳で除外する伝票タイプの設定
- AA 元帳への現金主義伝票タイプの割り当て

## 現金主義会計伝票タイプの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[ユーザー定義コードの処理]	W0004AA	[現金主義会計](G09314)、 [有効な伝票タイプ]または [除外する伝票タイプ]	UDC テーブル 00/DT に設定されている現金主義仕訳の対象となる伝票タイプを確認します。  UDC テーブル 00/DX に設定されている現金主義仕訳の対象外となる伝票タイプを確認します。
[ユーザー定義コード]	W0004A1	[ユーザー定義コードの処理] フォームで、[追加]をクリックします。	現金主義仕訳に含める伝票タイプを UDC テーブル 00/DT に追加します。または、現金主義仕訳から除外する伝票タイプを UDC テーブル 00/DX に追加します。

## 現金主義会計仕訳の伝票タイプの設定

現金主義仕訳作成時に使用する伝票タイプを設定する必要があります。AZ 元帳と AA 元帳の両方に同じ伝票タイプは使用しません。同じ伝票タイプを使用すると、AA 元帳と AZ 元帳の両方のレコードが表示されるため、レコードの重複入力となり、仕訳検索の際に混乱が生じる可能性があります。また、F0911 テーブル内で 2 つのレコードを区別する必要があるため、処理時間が増える原因にもなります。

現金主義会計用の伝票タイプが未設定の場合、当初の仕訳に基づいた伝票タイプが割り当てられます。その際、伝票タイプは、AA 元帳の仕訳の伝票タイプの先頭 1 文字の後に Z が付けられます。たとえば、AA 元帳の仕訳の伝票タイプが PT で、現金主義会計用の伝票タイプが未設定の場合は、現金主義会計仕訳の伝票タイプとして、PZ が使用されます。

買掛金支払用の全ての伝票タイプが P (PK、PN、PT) で始まるため、別の伝票タイプを設定しない限り、買掛管理システムの全ての現金主義会計仕訳には、伝票タイプ PZ が割り当てられます。現金主義会計に基づく支払が自動、手動、オンラインのどの取引であるかを区別する場合は、それぞれの取引に異なる伝票タイプを設定します。たとえば、自動支払の伝票タイプは PZ、手動は MZ、オンラインの支払は TZ などのようにします。

現金主義仕訳に使用する各伝票タイプは、UDC テーブル 00/DT に設定されている必要があります。

## 現金主義会計仕訳を除外する伝票タイプの設定

AZ 元帳に現金主義会計仕訳を生成する場合は、除外する伝票タイプを AA 元帳内で識別する必要があります。AA 元帳の仕訳の中で伝票タイプが UDC テーブル 00/DX に設定されていない仕訳が全て AZ 元帳に作成されます。

伝票タイプ PV (伝票) と RI (請求書) は除外してください。これらの伝票タイプの現金主義仕訳は実際の支払後に作成されるからです。また、現金取引として計上されない次の伝票タイプも除外伝票タイプとして設定してください。

- 自動仕訳 (AE)
- クレジット メモ (PM)
- デビット メモ (RM)
- 調整 (RA)

- 定期伝票 (PR および RR)
- 延滞利息金 (RF)
- 未払固定資産税 (JT)
- 減価償却仕訳 (DP)

ユーザー独自にカスタマイズした伝票タイプがある場合は、除外対象とするかどうか確認してください。伝票タイプ PO (無効支払) と RO (無効入金) は除外しないでください。

## AA 元帳への現金主義伝票タイプの割り当て

[ユーザー定義コード] フォームにアクセスします。

現金主義会計仕訳に使用する伝票タイプを設定したら、その伝票タイプを AA 元帳の伝票タイプに割り当てる必要があります。AA 元帳の伝票タイプを基にして現金主義会計仕訳が作成されます。

### [記述 02]

最初の 2 桁に現金主義会計伝票タイプの 2 文字のコードを入力します。

PZ、RZ、JZ など、システムにより割り当てられる伝票タイプを使用する場合は、このフィールドに入力する必要はありません。

---

## 現金主義会計用 AAI の設定

このセクションでは、以下の設定について説明します。

- 未充当入金の AAI
- 残高調整勘定の AAI

### 未充当入金の AAI の設定

現金主義会計仕訳が入金に対して作成される場合、借方が銀行勘定 (入金)、貸方が収益勘定 (支払われた請求書) になります。

ただし、未充当入金を入力する場合は、請求書との消込を行わずに入金を記録します。後で、未充当入金を該当する請求書に照合します。現金主義会計仕訳が未充当入金に対して作成される場合は、借方が銀行勘定、貸方が収益仮勘定になります。後で入金を請求書に照合するときに現金主義会計仕訳が作成される場合は、借方が収益仮勘定、貸方が請求書収益勘定になります。

収益仮勘定用の AAI を設定する場合は、ビジネスユニットを指定する必要があります。

未充当入金を入力する場合は、収益仮勘定用の AAI 項目を設定する必要があります。未充当入金の収益仮勘定を取得する場合、以下の順序で AAI 項目の 1 つが使用されます。

- CByyyy。最初に CByyyy が検索されます (yyyy は未充当入金の元帳クラス)。元帳クラスは、入金入力時に指定するか、処理オプションの設定に基づいて顧客マスター レコードから取り込むことができます。
- CBUC。CByyyy が設定されていない、または元帳クラスを使用しない場合に、CBUC が検索されます。元帳クラスを指定しないで未充当入金を入力すると、元帳クラス フィールドのデフォルト値として UC が使用されます。
- RCyyyy。CBUC が見つからない場合は、RCyyyy が検索されます (yyyy は入金入力で指定された元帳クラス)。

- RCUC。RCyyyy が設定されていない、または元帳クラスを使用しない場合に、RCUC が検索されます。元帳クラスを指定しないで未充当入金を入力すると、元帳クラス のフィールドのデフォルト値として UC が使用されます。RCUC が見つからない場合は、エラー メッセージが表示されます。

---

注: 不動産管理システムを使用している場合、未充当請求コード フィールド (GLC) は、標準、スピード、手形入力の各プログラムで使用される元帳クラス フィールドと同じです。CByyyy が検索されます (yyyy は未充当請求コード)。

---

## 残高調整勘定の AAI の設定

複数支払項目、割引、税金の計算により四捨五入差異が発生した場合、残高調整勘定が使用されます。四捨五入差異をトラッキングする場合は、次の AAI 項目を設定する必要があります。

- CBAP – 現金主義会計買掛金残高調整勘定
- CBAR – 現金主義会計売掛金残高調整勘定

## 第 10 章

# 52 期間会計の設定

この章では、52 期間会計の概要および以下の方法について説明します。

- 52 期間会計の会計期間パターンの設定
- 52 期間会計の報告日付の設定
- 52 期間会計への変更

---

## 52 期間会計の会計期間パターンの設定

このセクションでは、会計期間パターンの概要および 52 期間会計の会計期間パターンの定義方法について説明します。

### 52 期間会計の会計期間パターンについて

52 期間会計では、各週に期間終了日付を設定した会計期間パターンを使用します。監査調整には期間 53 と 54 を使用できます。

同じ会計期間パターンを使用する複数の会社がある場合は、一度に全ての会社の会計期間パターンを設定します。

52 期間パターンは、F0008B テーブルに保存されます。

現行年度、前年度、将来の年度の期間パターンを追加します。将来の年度の期間パターンを設定すると、その期間パターン内の日付の取引は入力できますが、取引が PACO (未来期間) または WACO (次年度以降) である場合は警告が表示されます。

各期間には、少なくとも 1 日を転記用に設定する必要があります。同じ終了日付や重複した日付を持つ期間を設定することはできません。

日付は正しい形式で入力する必要があります。たとえば、07/09/01 は 2007 年 9 月 1 日を示す正しい形式です。各日付は同じパターン名の標準期間パターンに対応している必要があります。

会計期間パターンは次の項目を使用して設定します。

- 各期間の日付

日付入力時にエラー メッセージが表示された場合は、期間パターンを確認します。データ入力時に期間パターンで設定されていない日付を入力すると、無効であると判断されます。

- 連番の期間番号と、標準会計年度と同じ開始および終了日付

この設定を行わない場合は、標準会計年度パターンを使用して正しい会計年度が決められます。

- 連番の会計年度

期間パターンと会計年度にギャップがあると、転記が正しく行われません。

## 52 期間会計の会計期間パターンの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[52期間会計の処理]	W0008BG	[52期間会計] (G09313)、 [52期間パターンの設定]	52 会計期間パターンのリストを検討します。
[52期間会計の設定]	W0008BF	[52期間会計の処理] で [追加] をクリックします。  [レポート] メニューから [52期間の印刷] を選択 します。	会計期間パターンを設定 します。  設定した会計期間パター ンのレポートを印刷します。

## 52 期間会計の会計期間パターンの定義

[52期間会計の設定] フォームにアクセスします。

**[会計期間パターン]** 期間パターンを識別するためのコードを入力します。15 のコードのいずれか 1 つを入力します。52 期間会計用の特殊コード (文字 A ~ N)、または、ユーザーの業務環境に固有の期間パターンを他に設定する必要があります。デフォルト コード R は、通常のカレンダー パターンを示しています。

**[会計年度開始日付]** 会計年度の初日を入力します。

**[期間終了日付]** 52 期間会計の期間終了日付を入力します。

## 52 期間会計の報告日付の設定

このセクションでは、52 期間会計を使用している会社の財務報告日付の概要、および 52 期間会計の報告日付を会社に割り当てる方法について説明します。

## 52 期間会計の報告日付について

会社に対して現行会計期間がデフォルト値として自動的に設定されることはありません。このため、会社ごとに現行の 52 期間会計の期間と年度を設定する必要があります。この情報は財務報告に使用されません。財務報告の期間が正しくない場合は、レポート期間と年度を確認して訂正します。

## 52 期間会計の報告日付の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[会社の処理]	W0010C	[組織と勘定科目の設定] (G09411)、[会社名および番号]	会社のリストを検討します。
[会社の設定]	W0010B	[会社の処理] フォームで、会社を選択します。	52 期間会計の報告日付を会社に割り当てます。

## 会社への 52 期間会計の報告日付の割り当て

[会社の設定] フォームにアクセスします。

## [52 期間会計処理]

[52期間会計処理] タブを選択します。

### [期間数]

実際の会計期間数を入力します。調整期間は含めません。

### [レポート期間]

52 期間会計の財務報告日付を指定する期間を入力します。このレポート期間は、複数の EnterpriseOne 財務報告に使用されます。

この期間は、会社の会計期間に指定する現行期間とは同じではありません。

### [レポート年度]

財務諸表の作成対象年度を入力します。

---

注: 2006 から 2007 にまたがる会計年度は 06 と表されます。

---

## 52 期間会計への変更

このセクションでは、52 期間用再転記プログラム (R0902B) の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 52 期間用再転記プログラムの実行
- 52 期間用再転記プログラムのデータ選択の設定

### 52 期間用再転記プログラム (R0902B) について

期間 12 ~ 14 の勘定残高の金額を 52 期間会計の勘定残高に変更することができます。変更するには、最初に F0902 テーブルに取引を転記してから、52 期間用再転記プログラム (R0902B) を実行します。

52 期間用再転記プログラムにより、F0911 テーブルが F0902B テーブルに再転記されます。このプログラムにより、F0008B テーブルの 54 期間終了日付が使用され、期間が決められます。このプログラムを実行すると、レポート設計ツール (RDA) を使用して残高を確認するレポートを設計できるようになります。

元帳日付または会計期間が F0008B テーブルに設定されていない場合は、F0911 テーブルからの取引で F0902 テーブルが更新されることはありません。

再転記されるのは、転記済みの非集計レコードのみです。

### 事前設定

総勘定元帳への転記プログラム (R09801) の処理オプションを 52 期間用の転記を行うように設定します。F0902 テーブルと F0902B テーブルが更新されます。

### 52 期間用再転記プログラムの実行

[52期間会計] (G09313) の [52 期間用再転記] を選択します。

### 52 期間用再転記プログラムのデータ選択の設定

データ選択に会計期間は入力しないでください。会計年度を入力します。





## 第 11 章

# 仕訳の処理

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

仕訳は、総勘定元帳の勘定科目の取引を調整または追加するために使用します。

この章では、仕訳の処理、その他の仕訳入力の方法、未登録勘定科目コードの一時入力許可の概要と、以下の方法について説明します。

- 仕訳入力の処理
- 逆仕訳入力の処理
- モデル仕訳の処理
- 仕訳の検討
- 仕訳の転記
- 転記済み仕訳の改訂と無効化
- (Rapid Start) Enter, review, and approve journal entries and post journal entries

---

## 仕訳の処理について

EnterpriseOne の全てのシステムでは、取引のバッチを 3 つのステップで処理します。仕訳の処理でも、この 3 ステップでの処理を行います。

“3 ステップ”とは、以下のように 3 段階のステップに分けて仕訳の処理を実行するという意味です。

### 1. 仕訳の入力

バッチ制御テーブル (F0011) にレコードが 1 件、F0911 テーブルにレコードが複数作成されます。

注: 多通貨を使用している場合、8.11 より前のリリースでは、F0911 テーブルと F0902 テーブルに国内通貨金額および外貨金額が作成されていました。両方のテーブルで、国内通貨金額は AA (実績金額) 元帳レコードの金額フィールド、外貨金額は CA (外貨) 元帳レコードの金額フィールドに保管されていました。

8.11 リリースでは、国内通貨金額と外貨金額の両方が F0911 テーブルの 1 つのレコードに保管されます。外貨金額は、F0911 レコードの外貨金額フィールド、および CA (外貨) 元帳の金額フィールドに保管されます。この 2 つのフィールドにはどちらも同じ金額が入ります。

今後リリースされる EnterpriseOne では、CA 元帳に外貨金額が保管される F0911 レコードは削除される予定です。全システムにおいて、外貨金額の自動入力および取得が、国内通貨金額と外貨金額の両方が保管されている共有の 1 つの AA 元帳レコードから、外貨金額が自動的に入力、取得されるようになります。この変更により、F0902 テーブルへの残高の保管方法が変更されることはありません。

## 2. バッチの検討と承認

一般会計固定情報の「管理者承認」をオンにした場合は、状況が保留のバッチレコードが作成されます。転記を行う前にバッチを承認することが必要です。状況が保留のバッチを承認すると、バッチ制御レコードのバッチ状況のみが更新されます。

## 3. 仕訳の転記

仕訳を転記すると、バッチ制御レコードの状況がD（転記済み）に更新されます。また、F0902 テーブルにレコードが作成され、F0911 テーブルの仕訳の転記状況がP（転記済み）に更新されます。

---

# その他の仕訳入力の方法について

取引の未払費用、調整、再分類などの仕訳を手入力で行う他に、売掛管理、買掛管理、または給与計算などの他のシステムでの取引を使用して仕訳を自動作成することもできます。

その他にも、次の方法でも仕訳を作成することができます。

- バッチ処理により、外部システムまたはサードパーティソフトウェア パッケージから仕訳をアップロードします。

参照: 第 12 章、「仕訳のバッチ処理」、113ページ

- PC のローカル環境で仕訳を作成し、その仕訳をオフライン仕訳処理でサーバーにアップロードします。

参照: 第 13 章、「オフライン仕訳の処理」、「オフライン処理のためのマスター テーブルのダウンロード」、119ページ

- スプレッドシートを使用して仕訳を作成する場合、F0911 テーブルに仕訳を直接インポートします。

参照: EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook:Foundation

- 財務レポート作成ツールを使用して、仕訳で作成するレポートを設計します。

参照: PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook:Development Tools:Report Design Aid

参 照: PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook:Development Tools:Report Printing Administration Technologies

- 次の配賦を作成します。

- 定期仕訳
- インデックス配賦
- 変数配賦

参照: 第 14 章、「配賦の処理」、125ページ

---

# 仕訳入力の処理

このセクションでは、仕訳入力プログラム、仕訳の種類と機能、一時的に入力可能な未登録勘定科目コードの各概要と、以下の方法について説明します。

- 仕訳入力の処理オプションの設定

- 仕訳入力マスター ビジネス関数の処理オプションの設定
- 基本仕訳の入力
- 仕訳への添付の追加
- 未登録勘定科目コードの仕訳入力
- パーセント仕訳の入力
- 未転記仕訳の改訂
- 仕訳のコピー
- 未転記仕訳の削除

## 仕訳入力プログラムについて

仕訳入力プログラム (P0911) では、入力できる明細行の数に制限はありません。さまざまな勘定科目に金額を配賦することができます。

一般会計システムでは、データ入力のたびに特定のフィールドの情報が検証され、会計データの整合性に問題がないかどうかを確認されます。仕訳入力が完了すると、自動的に割り当てられたバッチ番号と伝票番号が表示されます。仕訳に未転記のマークが付けられ、F0911 テーブルに追加されます。

何千行もの取引行から成る仕訳を検討する場合でも 1 回に 1 ページ分の取引がロードされるため、処理にかかる負荷は最小限に抑えられます。Page Up または Page Down キーを使って、取引行をスクロールできます。

仕訳バッチを転記すると、F0902 テーブルが更新され、F0911 テーブルで転記済み仕訳としてマークが付けられます。

## 仕訳の種類について

貸借一致が必須の元帳タイプの仕訳を入力する場合は、借方と貸方の金額を一致させる必要があります。

仕訳を使って、次の種類の取引を入力することができます。

- 基本仕訳

仕訳入力 (P0911) または仕訳入力 (借方/貸方) (P0911) プログラムを使用して、基本仕訳を入力します。仕訳入力 (借方/貸方) プログラムには、借方と貸方のそれぞれのカラムがあるため、貸方金額にマイナス記号を入力する必要はありません。

- 逆仕訳

逆仕訳は、未払費用や未収収益を定期的に計上するために最もよく使用されます。

- パーセント仕訳

各取引項目に対して入力したパーセントに基づき、各勘定科目に金額を配賦します。

- モデル仕訳

頻繁に使用する仕訳用にテンプレートを作成することにより、データ入力時間を短縮します。

予算や統計情報、数量などの用途向けに設定した各種元帳に対して、仕訳を入力することができます。各元帳の残高と数量を区別するために、元帳タイプ コードが使用されます。以下は、元帳タイプコードと元帳の関係の例です。

- AA:実績金額
- BA:予算金額

- AU:実績数量
- BU:予算数量

付加価値税 (VAT) などの課税対象の仕訳や外貨建ての仕訳を記録する場合にも仕訳入力を利用できます。

借方/貸方形式の仕訳入力には、メニューからアクセスでき、さらに処理オプションが用意されています。この方法では、借方と貸方のフィールドに金額を入力できます。この形式で入力する場合は、貸方金額にマイナス記号を入力する必要はありません。

## 仕訳入力の機能について

仕訳入力プログラムには、効率的に仕訳を入力できる機能があります。実行できる機能は次のとおりです。

- 勘定科目コード セグメントのコピー
- 作業オーダー用仕訳のスピード勘定科目入力

### 勘定科目コード セグメントのコピー

仕訳の入力時には、勘定科目コードをある明細行から別の明細行にコピーすることにより、時間を節約し入力ミスを減らすことができます。

次の表は、1 つの仕訳入力のコピーがどのように行われるかを示しています。入力した勘定科目コードは、それぞれシステム内で次のように認識されます。

入力した勘定科目コード	システムの結果
1.1110.FIB	1.1110.FIB
..BEAR	1.1110.BEAR
200..	200.1110.BEAR
1..	1.1110.BEAR
.1810	1.1810

それぞれの区切り文字（ここではピリオド）には、直前に入力した勘定科目コードの同じ部分がコピーされ、勘定科目コードの不足部分が補われます。

勘定科目コード フィールドにおいてセグメントをコピーするには、仕訳の次の行で、各セグメント（ビジネスユニット、主科目、および補助科目）の区切り文字を入力します。

たとえば、仕訳の最初の行に勘定科目コードとして「9.8720」と入力し、2 番目の行にビジネスユニットをコピーする場合は、「.8730」と入力すると [勘定科目No.] フィールドの勘定科目は「9.8730」となります。

### 作業オーダー用仕訳のスピード勘定科目入力

作業オーダーの仕訳入力時には、スピード勘定科目入力を使用すると、時間を節約し入力ミスを減らすことができます。[勘定科目No.] フィールドにバックスラッシュ、作業オーダー番号、ピリオド、および主科目コードを入力します。作業オーダーのビジネスユニットが検索され、次の処理が行われます。

- 作業オーダー番号がビジネスユニットに置き換えられます。[勘定科目No.] フィールドの主科目コードはそのままになります。
- [補助元帳] フィールドが作業オーダー番号に更新されます。

- [補助元帳タイプ] フィールドが W に更新されます。
- [補助科目] フィールドがこの作業オーダーの原価コードに更新されます。
- [フェーズ] フィールドがこの作業オーダーのフェーズに更新されます。
- [資産No.] フィールドがこの作業オーダーの設備番号に更新されます。

## 未登録勘定科目コードの一時入力許可について

一般会計固定情報の設定によって、未登録勘定科目コードの入力を一時的に許可することができます。これは、次のような場合に便利です。

- 正確な勘定科目コードがわからない。
- 新しい勘定科目を追加する権限がない。

未登録勘定科目コードの入力を許可することにより、勘定科目表に登録されていないビジネスユニット、主科目の仕訳を入力することができます。この勘定科目は、次の条件が満たされる場合にのみ、追加されます。

- 入力したビジネスユニットが、ビジネスユニット マスター (F0006) に存在する。
- 入力した主科目が、事前にモデルとして指定したビジネスユニットに存在する。
- 入力したビジネスユニットとモデルのビジネスユニットのタイプが同じである。

未登録勘定科目を一時的に許可して勘定科目を作成する処理を行うと、ビジネスユニットに対して勘定科目表の全てまたは一部を必要に応じて作成することができます。この方法を用いると、ビジネスユニットには使用する勘定科目のみが含まれることになります。これは、ビジネスユニットの勘定科目表の最初の枠組となります。

未登録勘定科目コードを一時的に許可するためには、[一般会計固定情報] フォームの [未登録勘定科目の許可] チェック ボックスをオンにする必要があります。仕訳入力時に未登録勘定科目を指定する場合は、勘定科目コードの先頭に「#」を付けます。仕訳に未登録勘定科目を入力すると、バッチ状況にはエラーが設定されます。転記前に、必ずバッチを確認し承認する必要があります。

仕訳バッチを転記すると、未登録勘定科目とモデル勘定科目表が比較されます。勘定科目がモデル勘定科目表にある場合は、仕訳で使用しているビジネスユニットにその勘定科目が追加され、仕訳の勘定科目に指定した未登録勘定科目の記号 (#) は削除されます。

---

**注:** 見出し勘定科目を未登録勘定科目として入力することはできません。見出し勘定科目は通常、財務レポート時に集計用として使用する勘定科目であるため、金額を転記することはできません。見出し勘定科目の作成が必要な場合は、ビジネスユニットへの勘定科目のコピー プログラム (P09804) を使用して、モデル ビジネスユニットから未転記の見出し勘定科目をコピーします。[単一勘定科目の改訂] フォームで勘定科目を手入力して、勘定科目に転記コード N を割り当てることもできます。

---

## 仕訳入力に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[仕訳入力の処理]	W0911I	[仕訳入力、レポート、照会](G0911)、[仕訳入力]	伝票番号別に集計仕訳を検討します。  バッチ内の全ての仕訳を検討する場合は、仕訳の検討プログラム (P0011) を使用します。
[仕訳入力]	W0911A	[仕訳入力の処理] で、[追加] をクリックします。  バッチ制御使用時は [バッチ制御] フォームが表示されます。[バッチ制御] フォームで、[バッチ日付] と [予想合計] を入力し、次のフォームに進みます。	仕訳の追加と改訂を行います。

## 仕訳入力 (P0911) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定することができます。

### デフォルト

- バッチ タイプ**  
システムとバッチの入力タイプを指定します。バッチ タイプには次のものがあります。  
G:仕訳  
V:伝票  
IB:請求書  
この処理オプションをブランクにすると、全てのバッチ タイプが処理されます。

### 表示

- 借方/貸方形式**  
仕訳を借方/貸方形式で表示するかどうかを指定します。

### バージョン

- 仕訳入力 MBF バージョン (P0900049)**  
仕訳入力理用に仕訳入力 MBF バージョンを変更するかどうかを指定します。P0900049 で有効なバージョンを指定する必要があります。この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。  
この処理オプションは、システムのセットアップ担当者が変更してください。

### 検証

- 固定資産 ID**  
勘定科目が資産の AAI 勘定科目範囲内にある場合、資産 ID を必須にするかどうかを指定します。  
有効値は次のとおりです。

ブランク:必須にしない。

1: 必須にする。

## 仕訳入力マスター ビジネス関数 (P0900049) の処理オプションの設定

マスター ビジネス関数 (MBF) を使用して、仕訳、伝票、請求書などの入力についての標準ビジネス ルールを一元管理します。

マスター ビジネス関数は、特定のプログラムで共有される処理オプションで構成されています。仕訳入力 MBF の処理オプションは、次の仕訳入力プログラムで使用されます。

- 仕訳入力 (P0911)
- 税付き仕訳入力 (P09106)
- 仕訳のバッチ処理 (R09110Z)
- オフライン仕訳バッチ処理 (R09110ZS)
- 定期仕訳の計算および印刷 (R09302)
- インデックス計算および印刷 (R093021)
- 変数配賦計算および印刷 (R093022)

仕訳 MBF を使用する各プログラムでは、MBF のバージョンを指定する必要があります。バージョンを指定しない場合、ZJDE0001 が使用されます。

### デフォルト

1. 元帳タイプ UDC テーブル 09/LT から、デフォルト値として使用する元帳タイプを指定します。

### 通貨

1. 有効日付 為替レートの有効日付を取引の総勘定元帳期間と比較するかどうかを指定します。有効日付は通貨金額を計算するのに使用します。有効値は次のとおりです。

Blank: 比較しない。

1: 比較する。

2. 許容限度額 入力した為替レートがこの許容限度の値を上回るか下回ると、警告メッセージが表示されます。たとえば、「15.00」を入力した場合は 15.00 パーセント上回るか下回ったときに警告メッセージが表示されます。

### 金額ゼロ

1. ゼロ金額 金額ゼロで数量ゼロの仕訳行項目を作成するかどうかを指定します。このオプションは、モデル仕訳を使って仕訳を作成する場合に便利です。有効値は次のとおりです。

ブランク: 作成する。

1: 作成しない。

2. 履歴情報 転記済みの取引明細を変更した場合に履歴情報を更新しないかどうかを指定します。

ブランク:更新する。

1: 更新しない。

## インタオペラビリティ

### 1. インタオペラビリティバージョン

F0911 インタオペラビリティ処理オプション (P0900160) のバージョンを指定します。バージョンを指定すると、送信レコードが書き込まれます。ブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

## 基本仕訳の入力

[仕訳入力] フォームにアクセスします。

仕訳入力									
OK(O) 削除(D) キャンセル(L) フォーム(E) ロー(R) ツール(T)									
バッチNo.		4360		<input type="checkbox"/> モデル		<input type="checkbox"/> 率		<input type="checkbox"/> 逆仕訳	
伝票タイプ/No./会社		JE 3314 00001		元帳日付		2004/12/31			
摘要 *		Cash Adjustment		元帳タイプ		AA USD			
通貨		USD 為替レート		基本通貨		USD <input type="checkbox"/> 外貨			
レコード 1 - 2 <span style="float:right">グリッドのカスタマイズ グリッド・フォーマット名1</span>									
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	勘定科目No. *	金額	勘定科目名	補助元帳タイプ	補助元帳			
<input type="checkbox"/>		1.1110.BEAR	267,933.00-						
<input type="checkbox"/>									

[仕訳入力] フォーム

[仕訳入力] フォームでは、何行でも取引行を入力できます。取引を表示するには、Page Up と Page Down キーを使用して 1 回に 1 ページ分の取引をロードします。これにより、処理時間は最小限に抑えられます。

## 見出し域

見出し域の次のフィールドは必須です。

[摘要] 仕訳の説明を入力します。

[元帳日付] 仕訳の元帳日付を入力します。ブランクにすると、今日の日付が使用されます。

## 詳細グリッド

詳細グリッドの次のフィールドは、金額を配賦する勘定科目ごとに指定する必要があります。

[勘定科目No.] 総勘定元帳の勘定科目コードを入力します。F0901 テーブルの勘定科目表と照合され、勘定科目名が読み込まれます。



詳細グリッドの最初の行に指定した勘定科目コードのビジネスユニットを基にして、見出し域の伝票会社や基本通貨などのその他の情報が設定されます。

仕訳入力の最初の行を基に仕訳の基本通貨のデフォルト値が設定されます。このため、入力の最初の行を削除することはできません。ただし、新たに設定する勘定科目が当初の勘定科目と同じ会社にある場合は、勘定科目コードを変更することができます。

#### [金額]

関連する勘定科目コードの勘定残高に追加する金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後に - (マイナス符号) を付けて入力します。

#### エラー メッセージ: 金額が総額と一致しません

仕訳を承諾するために [OK] をクリックしたときに差異に残高がある場合、“金額が総額と一致しません”というメッセージが表示されます。貸借不一致仕訳は、修正することも承諾することもできます。

- 貸借不一致仕訳を修正する場合は、[差異] フィールドを検討して調整が必要な金額を決めます。貸借が一致するように仕訳を修正し、[OK] をクリックします。修正せずに削除する場合は、[キャンセル] をクリックします。
- 承諾する場合は、[フォーム] メニューから [追加情報] を選択します。[追加情報] で、[貸借不一致の許可] チェック ボックスをオンにし、[OK] をクリックします。[仕訳入力] で、[OK] をクリックします。

次のような場合は、貸借不一致の仕訳を承諾する必要があります。

- 総勘定元帳への転記プログラム (R09801) が異常終了し、当初の仕訳の一部しか転記されなかった場合
- 複数の明細行から成る仕訳入力中に席を離れる必要があり、途中まで入力したデータを保存してプログラムを終了する場合

### 仕訳への添付の追加

仕訳を入力し [OK] をクリックして承諾すると、伝票番号を手入力しなかった場合はそれが自動的に割り当てられます。コメントやメモなどの添付を特定の取引や仕訳全体に対して追加することができますが、それは伝票タイプ/No./会社と元帳日付が設定されている場合に限りです。添付を仕訳に関連付けるためには、これらの情報が必要です。添付は内部参照用にのみ使用可能です。

添付を追加するには、以下の作業を行います。

- 特定の取引に添付を追加する場合は、[仕訳入力] フォームで取引を選択し、[ロー] メニューから [Attachment] (添付) を選択します。
- 仕訳全体に追加する場合は、[仕訳入力の処理] フォームに移動し、[ロー] メニューから [Attachment] (添付) を選択します。

パフォーマンス上の理由から、ロー見出しの左端のカラムにある添付ボタンをクリックしなければ、仕訳入力フォーム上にペーパー クリップ ボタンは表示されません。ペーパークリップ ボタンは、次の場合に、仕訳の左側に表示されます。

- 仕訳全体に対してテキストなどの添付を追加した場合に、[仕訳入力の処理] フォームに表示されます。
- 特定の取引に対してテキストなどの添付を追加した場合に、[仕訳入力] フォームに表示されます。

### 未登録勘定科目コードを使用した仕訳入力

[仕訳入力] フォームにアクセスします。

一般会計固定情報プログラムの「未登録勘定科目の許可」チェック ボックスがオンになっていることを確認します。

参照: 第 11 章、「仕訳の処理」、「未登録勘定科目コードの一時入力許可について」、87ページ

#### [勘定科目No.]

先頭に「#」を付けて勘定科目コードを入力します。勘定科目コードを入力する際は次の規則に従ってください。

- ビジネスユニットがビジネスユニット マスター (F0006) に存在すること。
- 主科目が、モデルとして指定するビジネスユニットに存在していること。
- 入力するビジネスユニットとモデルとして指定したビジネスユニットのタイプが同じであること。

これらの条件が満たされる場合、未登録勘定科目によってエラーが発生し、バッチは転記されないことを示す警告メッセージが仕訳入力プログラム (P0911) により表示されます。

たとえば、未登録勘定科目として 9.8115 を入力する場合は、F0006 テーブルにビジネスユニット 9 が存在し、モデル ビジネスユニットに主科目 8115 が存在している必要があります。ビジネスユニット 9 が IS (損益計算書) のビジネスユニットの場合、主科目 8115 が存在するモデル ビジネスユニットも IS である必要があります。

## パーセント仕訳の入力

[仕訳入力] フォームにアクセスします。

バッチNo.	4360			<input type="checkbox"/> モデル	<input checked="" type="checkbox"/> 率	<input type="checkbox"/> 逆仕訳
伝票タイプ/No./会社	JE	3314	00001	元帳日付	2004/12/31	
摘要 *	Percent Journal Entry			元帳タイプ	AA	USD
通貨	USD	為替レート		基本通貨	USD	<input type="checkbox"/> 外貨
				計上金額	1,500.00	

レコード 1 - 2		グリッドのカスタマイズ		グリッド・フォーマット名1		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	勘定科目No. *	%	金額	勘定科目名	補助元帳タイプ
<input type="checkbox"/>		1.1110.BEAR		267,933.00-		
<input type="checkbox"/>						

[仕訳入力] フォーム

仕訳の貸借を一致させるには、借方の合計パーセントと貸方の合計パーセントを等しくする必要があります。借方または貸方の合計パーセントは必ずしも 100% にする必要はありません。

#### [伝票タイプ]

JE (仕訳) を割り当てる場合は、ブランクにします。伝票タイプは、UDC テーブル 00/DT にあります。

#### [率]

勘定科目間の仕訳の総額をパーセントに基づいて配賦する場合に [率] チェック ボックスをオンにします。

見出し域に [計上金額] フィールドが、詳細グリッドに [%] フィールドが表示されます。

- [計上金額]** 仕訳の合計金額を入力します。パーセント仕訳の場合、[%] フィールドに入力したパーセントに基づいて配賦する詳細の金額が計算されます。
- [%]** 対象の勘定科目コードに配賦するパーセントを入力します。
- 入力する数値の小数点以下の桁数は決まっています。小数を含めてパーセントを指定する場合は、小数まで入力してください。たとえば、12% の場合は「12」、42.5% の場合は「42.5」と入力します。

## 未転記仕訳の改訂

仕訳を入力した後、仕訳の改訂が必要になる場合があります。[仕訳入力] フォームのフィールドのほとんどは変更可能ですが、未転記仕訳の場合、次のフィールドは変更できません。

- [伝票タイプ/No./会社]
- [元帳日付]
- [元帳タイプ]
- [通貨] および [為替レート]

これらのフィールドを変更するためには、次のいずれかの処理が必要です。

- 仕訳を削除して再入力します。
- 仕訳をコピーして、新たに作成した仕訳のフィールドを変更し、[OK] をクリックします。その後で、古い仕訳を削除します。

## 仕訳のコピー

[仕訳入力の処理] フォームにアクセスします。

- 既存の仕訳をコピーし、その内容を変更することで、仕訳を作成できます。この方法は次のような場合に便利です。
  - 既存の仕訳の変更できないフィールド（元帳日付など）の誤りを訂正する場合。この場合、既存の仕訳をコピーして作成した仕訳に置き換えることができます。
  - 複数の明細行を持つ既存の仕訳に類似した仕訳を作成する場合。
- 転記済みの仕訳、未転記の仕訳のどちらもコピーできます。類似した仕訳が続く場合、モデル仕訳や定期仕訳を作成すると便利です。

仕訳をコピーするには、次の手順に従います。

1. [仕訳入力の処理] で、コピーする仕訳を選択し、[コピー] をクリックします。  
仕訳のコピーが表示されます。伝票 No.、元帳日付、および為替レートの各フィールドは、ゼロまたはブランクに設定されます。
2. [仕訳入力] で、必要に応じて伝票タイプ、元帳日付を入力し、その他のフィールドに値を入力します。
3. 仕訳の明細行を検討し、必要に応じて [勘定科目No.] や [金額] などの情報を変更し、[OK] をクリックします。
4. 元の仕訳をコピーして作成した仕訳に置き換える場合は、[仕訳入力の処理] フォームで元の仕訳を選択し、削除または無効にします。

## 未転記仕訳の削除

[仕訳入力の処理] フォームにアクセスします。

未転記仕訳を削除するには、次の手順に従います。

1. 仕訳を選択し [削除] をクリックすると、削除の確認が表示されるので [OK] をクリックします。  
仕訳の明細行を削除するには、次のステップを実行します。
2. 仕訳を選択します。
3. [仕訳入力] で、明細行を選択し [削除] をクリックします。
4. 削除の確認が表示されるので [OK] をクリックします。
5. 明細行を変更または追加して、明細行を削除した仕訳の調整を行います。

---

## 逆仕訳の処理

逆仕訳の主な用途は、未払費用や未収収益を定期的に計上することです。逆仕訳の入力では、未払費用や未収収益の計上など、逆仕訳をする仕訳にマークを付けます。この仕訳を転記すると、逆仕訳が作成されて次期会計期間の第 1 日目に転記されます。

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 逆仕訳の入力
- 逆仕訳の確認
- 転記済み仕訳の逆仕訳への変更

### 逆仕訳の入力

[仕訳入力] フォームにアクセスします。

#### [逆仕訳]

取引の逆仕訳を自動作成するには、このチェック ボックスをオンにします。当初取引を転記すると、逆仕訳が作成されます。逆仕訳には、元帳日付の次期会計期間の第 1 日目が使われます。

仕訳転記後は、逆仕訳に変更することはできません。

### 逆仕訳の確認

未転記仕訳を確認する場合、検索で表示されるのは当初仕訳のみです。逆仕訳は、当初仕訳を転記するまで作成されないため、表示されません。

仕訳を転記した後、[仕訳入力の処理] フォームにアクセスします。

- 当初仕訳のみを確認する場合は、当初の元帳日付を入力します。
- 逆仕訳のみを確認する場合は、元帳日付に次期会計期間の第 1 日目を入力します。

## 転記済み仕訳の逆仕訳への変更

仕訳転記後は、[仕訳入力] フォームで逆仕訳に変更することはできません。したがって、次の処理を順に行う必要があります。

- 仕訳を無効にします。
- 転記するバッチを再投入します。
- 仕訳を逆仕訳として再入力します。

---

## モデル仕訳の処理

このセクションでは、モデル仕訳の概要と以下の方法について説明します。

- モデル仕訳の作成
- 既存の仕訳からのモデル仕訳の作成
- モデルを使用した仕訳の入力 – モデルのコピー
- モデルを使用した仕訳の入力 – モデルの選択

### モデル仕訳について

モデル仕訳を再利用可能なテンプレートとして設定することにより、未払費用を毎月計上するなど、通常取引または定期的に発生する取引をあらかじめ定義、保管しておき、取得することができます。モデルを仕訳の基準として使用することにより、入力時間を短縮し入力ミスを減らすことができます。

モデル仕訳には勘定科目情報を入力できます。モデル仕訳を再利用すると、あらかじめ勘定科目が入力されているため、入力時間を短縮できます。伝票または請求書のモデル仕訳を作成する場合は、モデルを仕入先または顧客レコードに割り当てることができます。

状況に合わせてモデルに組み込む情報を変更することができます。たとえば、次の情報を組み込むことができます。

- 勘定科目コード、金額、摘要
- 勘定科目コードと摘要のみ（金額は仕訳によって異なるため）
- 勘定科目コード、%、摘要

モデル仕訳は、モデル転記コードが M、元帳日付がブランクの状態、F0911 テーブルに保管されます。実際の仕訳は、元帳日付が指定され、転記コードが P（転記済み）またはブランク（未転記）に指定されます。

モデル仕訳作成に加えて、次の処理を実行できます。

- パーセント仕訳用モデルの入力  
金額が変わってもパーセントは固定のモデル仕訳を作成することができます。このモデルを使って総額を入力すると、そのパーセントを使って総額が配賦されます。
- 既存の仕訳からのモデル仕訳の作成  
既存の仕訳からモデル仕訳を作成できます。既存の仕訳からモデル仕訳を作成する場合は、既存の仕訳をコピーし、[仕訳入力] フォームの [モデル] チェック ボックスをオンにします。
- モデル仕訳を使用した仕訳の入力

作成したモデル仕訳は、実際の仕訳を入力する際のテンプレートとして使用することができます。基本仕訳とモデルを使用した仕訳を同時に追加する場合、モデルを選択すると時間を短縮できます。

## モデル仕訳の作成

[仕訳入力] フォームにアクセスします。

モデル仕訳作成後、次のフィールド以外は変更できます。

- [伝票タイプ/No./会社]
- [元帳タイプ]

その他に、[モデル] と [率] チェック ボックスも変更できません。

**[モデル]** モデル仕訳およびパーセント モデル仕訳の場合、このチェック ボックスをオンにします。見出し域の [元帳日付] フィールドが非表示になります。モデルから作成する日付を仕訳に入力します。

[モデル] チェック ボックスをオンにすると、[率] チェック ボックスが選択できなくなります。パーセント仕訳の入力方法の情報については、伝票タイプ フィールドの記述を確認します。

**伝票タイプ** モデル仕訳の場合、ブランクにすると JE が自動的に割り当てられます。パーセント モデル仕訳を入力する場合は、「%」を入力します。フォームの詳細グリッドに [%] フィールドが表示されます。

参照: 第 11 章、「仕訳の処理」、「パーセント仕訳の入力」、92 ページ

## 既存の仕訳からのモデル仕訳の作成

[仕訳入力の処理] フォームにアクセスします。

既存の仕訳からモデル仕訳を作成するには、次の手順に従います。

1. モデル仕訳に変更する仕訳を選び、[コピー] をクリックします。
2. [仕訳入力] で、[モデル] チェック ボックスをオンにします。
3. 必要に応じて、仕訳を改訂します。

## モデルを使用した仕訳の入力 – モデルのコピー

[仕訳入力の処理] フォームにアクセスします。

モデルをコピーして仕訳を入力するには、次の手順に従います。

1. 伝票タイプ フィールドに「JE」と入力し、[モデル] チェック ボックスをオンにします。  
または、このフィールドに「%」を入力してパーセント モデルをコピーすることもできます。
2. モデルを選択して [コピー] をクリックします。  
[仕訳入力] フォームで、[元帳日付] フィールドに日付を入力します。
3. パーセント仕訳以外は、勘定科目ごとに [金額] フィールドに金額を入力します。
4. パーセント モデルを使用するパーセント仕訳の場合は、[計上金額] フィールドに金額を入力します。  
このフィールドは、パーセント モデル仕訳を選択した場合にのみ表示されます。

5. 必要に応じて、その他のフィールドの情報を変更またはクリアします。

## モデルを使用した仕訳の入力 - モデルの選択

[仕訳入力] フォームにアクセスします。

モデルを選択して仕訳を入力するには、次の手順に従います。

1. [フォーム] メニューから、[モデル] を選択します。
2. [モデル仕訳の検索/選択] で、モデルを選択し [選択] をクリックします。  
[仕訳入力] フォームにモデル仕訳が表示されます。
3. 仕訳の元帳日付を入力します。
4. パーセント仕訳以外は、勘定科目ごとに [金額] フィールドに入力します。
5. パーセント仕訳の場合は、[計上金額] フィールドに入力します。
6. 必要に応じて、その他のフィールドの情報を変更またはクリアします。

## 仕訳の検討

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 仕訳の検討 (P0011) の処理オプションの設定
- 仕訳の検討

**関連項目:**

第 34 章、「バッチ見出しの管理」、「バッチ見出しの追加と改訂」、444ページ

## 仕訳の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[バッチの処理]	W0011A	[仕訳入力、レポート、照会](G0911)、[仕訳の検討]	バッチで仕訳を検討、承認、転記します。
[仕訳の検討]	W0911BA	[バッチの処理] フォームで検討するバッチを選択し、[選択] をクリックします。	仕訳を検討します。未転記仕訳を削除したり、転記済み仕訳を無効にすることもできます。

## 仕訳の検討 (P0011) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

**バッチ タイプ**

[仕訳の検討] フォームに表示されるデフォルトのバッチ タイプを指定します。仕訳の場合は、「G」を入力します。

## 仕訳の検討

[仕訳の検討] フォームにアクセスします。

**仕訳の検討 - 仕訳の検討**

選択(S) 検索(I) 追加(A) 削除(D) 開じる(L) ロー(R) ツール(T)

✓ 🔍 + 🗑️ ✖️ 📄 🔄

バッチNo./タイプ   一般会計

レコード 1 - 2 グリッド

	伝票 タイプ	伝票 No.	伝票 会社	元帳日付	摘要	国内通貨 金額
<input type="checkbox"/>	JE	3067	00001	2005/06/30	Reclass expenses	150.00
<input type="checkbox"/>					合計	150.00

[仕訳の検討] フォーム

## 仕訳の転記

このセクションでは、総勘定元帳への転記処理の概要とバッチの改訂、および以下の方法について説明します。

- 総勘定元帳への転記の処理オプションの設定
- 仕訳の転記

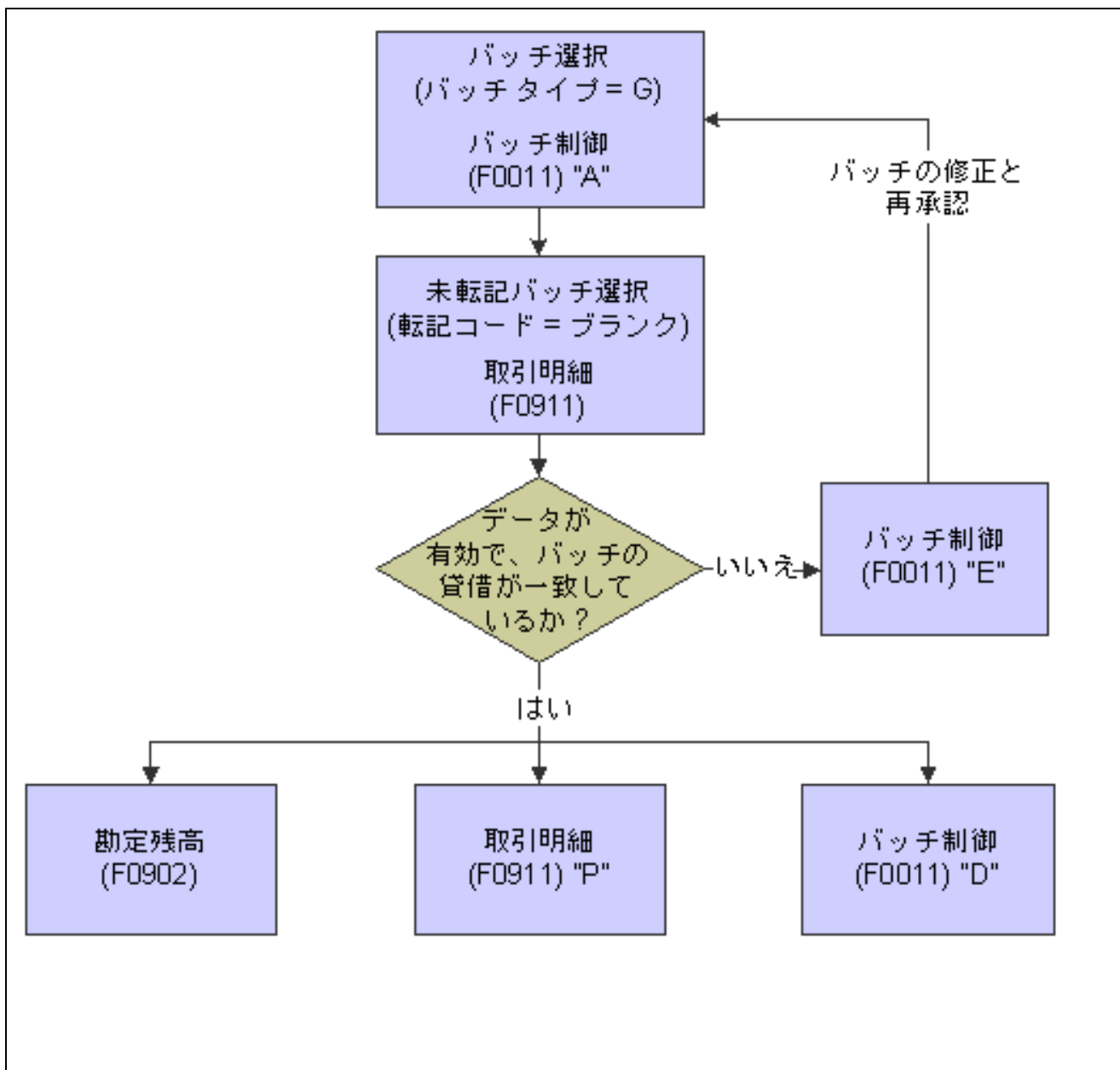
### 総勘定元帳への転記処理について

仕訳は、検討、承認した後で、総勘定元帳に転記します。総勘定元帳への転記プログラム (R09801) では、次の処理が実行されます。

- 未転記、承認済みのバッチが選択され、各取引が検証されます。
- 承認済みの取引が F0902 テーブルへ転記されます。
- 仕訳のバッチ状況が転記済みに変更されます。
- F0911 テーブルにある仕訳の明細行が転記済みに更新されます。
- エラーになった取引については、電子メール メッセージが送信されます。
- 総勘定元帳への転記レポートが作成され、正常に転記されたバッチの詳細が出力されます。

次の図は、一般会計システムにおける仕訳の転記処理を示しています。





仕訳の転記処理

## 総勘定元帳への転記 (R09801) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定することができます。

### 印刷

1. 勘定科目コード形式      総勘定元帳への転記レポートに印刷する勘定科目形式を指定します。
2. エラー メッセージの印刷      総勘定元帳への転記レポートにエラー メッセージを印刷するかどうかを指定します。この処理オプションをblankにしても、エラーが検出されると、エラー メッセージはワーク センターに表示されます。有効値は次のとおりです。

blank:印刷しない。

1: 印刷する。

## バージョン

1. 詳細再換算バージョン 仕訳を作成するために実行する詳細再換算プログラム (R11411) のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、このプログラムは実行されず詳細再換算仕訳は作成されません。
2. 固定資産転記バージョン 固定資産レコードを作成するために実行する固定資産転記プログラム (R12800) のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、このプログラムは実行されず固定資産レコードは作成されません。
3. 52 期間転記バージョン F0902 テーブルおよび 52 期間用勘定残高テーブル (F0902B) の更新に使用する 52 期間会計転記プログラム (R098011) のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、このプログラムは実行されずテーブルは更新されません。

## 編集

1. トランザクションの更新 F0911 テーブルの未転記レコードの略式 ID、会社、会計年度、期間、西暦上 2 桁、四半期を更新するかどうかを指定します。カスタム プログラムによって F0911 テーブルにレコードが作成されており、そのレコードの値が正しくない場合には、これらのフィールドを更新します。  
  
F0911 テーブルにある未転記レコードの勘定科目コード フィールドの値を使って、略式 ID および会社フィールドが更新されます。  
  
会計年度、期間、西暦上 2 桁の各フィールドの値は、F0911 テーブルの未転記レコードの元帳日付フィールドの値を使って、正しく計算されます。  
  
F0911 テーブルの未転記レコードの四半期フィールドは、blankに更新されます。

## 税

1. 税ファイルの更新 税情報を含む取引を総勘定元帳へ転記する場合、税テーブル (F0018) を更新するかどうか、更新する場合はどのような場合に更新するかを指定します。有効値は次のとおりです。  
  
blank:テーブルを更新しない。  
  
1: 税目コードが V、VT、V+、U、UT の場合のみ更新する。  
  
2: 税額が入力されている場合は全て更新する。税目コードが E (免税) の場合は、更新されません。  
  
3: 税目コードが入力されている場合 (税目コードが E (免税) の場合も含む) は、全て更新する。
2. 付加価値税割引の更新 税額フィールドを調整するかどうか、調整する場合はどのフィールドを調整するか、割引実施時期を指定します。税目コードが V の取引のみ、税額フィールドが調整されます。  
  
この処理オプションを使う場合は、割引を含んだ総額に対する税、および税額を含んだ総額に対する割引の税規則を設定する必要があります。  
  
有効値は次のとおりです。

ブランク:割引実施額に対して税額を調整しない。

1: 税額フィールド (STAM) のみ更新する。

2: STAM (税額)、ATXA (課税対象額)、AEXP (合計価格) フィールドを更新する。

割引が発生した場合、次のアルゴリズムを使って税額、課税対象額、総額 (合計価格) フィールドの調整金額の計算が行われます。

総額 (合計価格) に対する調整 = 割引実施額

課税対象額に対する調整 = (課税対象額/総額) × 割引実施額

税額に対する調整 = (税額/総額) × 割引実施額

例を参照してください。

税率 = 25 パーセント

割引実施額 = 12.50 USD

総額 (合計価格) = 1,250.00 USD

課税対象額 = 1,000.00 USD

税額 = 250.00 USD

この場合、調整アルゴリズムを使って、次のように調整金額が計算されます。

総額に対する調整 = 12.50

課税対象額に対する調整 = 10.00

税額に対する調整 = 2.50

調整金額は、当初の金額から調整後金額を引いて計算されます。

調整後総額 : 1,250.00 – 12.50 = 1,237.50

調整後課税対象額 : 1,000.00 – 10.00 = 990.00

調整後税額 : 250.00 – 2.50 = 247.50

### 3. 付加価値税入金の更新

税額フィールドを調整するかどうか、調整する場合はどのフィールドを調整するか、入金処理で少額消込が発生する時期を指定します。税目コードが V の取引のみの税額フィールドが調整されます。有効値は次のとおりです。

ブランク:少額消込に対して税額を調整しない。

1: STAM フィールドのみ更新する。

2: STAM、ATXA、AEXP フィールドを更新する。

少額消込が発生した場合、次のアルゴリズムを使って税額、課税対象額、総額 (合計価格) の調整計算が行われます。

総額 (合計価格) に対する調整 = 少額消込金額

課税対象額に対する調整 = (課税対象額/総額) × 少額消込金額

税額に対する調整 = (課税対象額/総額) × 少額消込金額

例を参照してください。

税率 = 25 パーセント

少額消込金額 = 12.50 USD

総額 (合計価格) = 1,250.00 USD

課税対象額 = 1,000.00 USD

税額 = 250.00 USD

この場合、調整アルゴリズムを使って、次のように調整金額が計算されます。

総額に対する調整 = 12.50

課税対象額に対する調整 = 10.00

税額に対する調整 = 2.50

調整金額は、当初の金額から調整後金額を引いて計算されます。

調整後総額:  $1,250.00 - 12.50 = 1,237.50$

調整後課税対象額:  $1,000.00 - 10.00 = 990.00$

調整後税額:  $250.00 - 2.50 = 247.50$

## 処理

### 1. 親品目時間の展開

親資産の時間入力を親資産の子まで展開するかどうかを指定します。

この処理オプションはバッチ タイプ T のレコードにのみ適用されます。有効値は次のとおりです。

ブランク: 展開しない。

1: 展開する。

総勘定元帳への転記プログラムにより、親資産の子に対して時間入力を作成されます。親資産と同じ時間単位および子資産の単価を使って、該当する仕訳の計算が行われます。

## 現金主義会計

### 1. 数量元帳タイプ

現金主義会計仕訳で使用する数量元帳タイプを指定します。UDC テーブル 09/LT から有効な元帳タイプを入力してください。ブランクにした場合は、デフォルトの元帳タイプ ZU が使用されます。

### 2. 現金主義会計バージョン

実行する現金主義会計プログラム (R11C850) のバージョンを指定します。転記プログラム終了後に現金主義会計プログラムが実行されます。

この処理オプションをブランクにすると、現金主義会計仕訳は作成されません。

## 仕訳の転記

[仕訳入力、レポート、照会] (G0911) の [総勘定元帳への転記] を選択します。

仕訳バッチを転記すると、F0902 テーブルが更新され、転記済み仕訳として F0911 テーブルにマークされます。また、F0011 のバッチ見出しレコードが転記済み状況に更新されます。

## 転記済み仕訳の改訂と無効化

このセクションでは、転記済み仕訳の改訂と転記済み逆仕訳の無効化の概要、および以下の方法について説明します。

- 転記済み仕訳の改訂
- 転記済み仕訳の無効化
- 転記済み逆仕訳の無効化

### 転記済み仕訳の改訂について

仕訳転記後に改訂できる情報は限られています。次のフィールドは改訂が可能です。

- [摘要]
- [備考]
- [参照 2]
- [購買オーダー]
- [購買オーダー サフィックス]
- [サービス/税日付]

元帳配賦行を追加することはできますが、既存の配賦行を改訂することはできません。

転記済み仕訳を改訂すると、監査証跡が残ります。当初バッチのバッチ状況が、転記済みから保留または承認済み（一般会計固定情報の設定による）に変更されます。バッチ状況が保留の場合は、転記前にバッチを承認する必要があります。バッチ状況が承認済みの場合は転記が可能です。

変更できない情報を修正したり、転記済みの仕訳を削除したりするには、既存の仕訳を無効にし、新規に入力する必要があります。F0911 テーブルと F0902 テーブルの両方に変更や無効を反映させるには、バッチを再度転記する必要があります。

締め前の会計期間内であれば、転記済みの仕訳を無効にすることができます。指定した元帳日付で逆仕訳が自動的に作成されます。仕訳を無効にしたら、転記して勘定残高を更新してください。

転記済みの仕訳は削除できません。

### 転記済み逆仕訳の無効化について

該当する会計期間がどちらも締め前であれば、転記済みの逆仕訳を無効にすることができます。このプロセスには 2 つの段階があります。どちらの期間も貸借一致させるためには、次の仕訳をそれぞれ無効にする必要があります。

- 逆仕訳に指定した当初仕訳
- 次期会計期間に自動的に作成される逆仕訳

各期間の貸借を一致させておくには、次の例に示すように、無効にする仕訳と同じ期間の日付を使用します。

仕訳	日付
当初仕訳	5 月 15 日
当初仕訳の無効化	5 月 15 日
自動作成される逆仕訳	6 月 1 日
逆仕訳の無効化	6 月 1 日

## 転記済み仕訳の改訂と無効化に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[仕訳入力 of 処理]	W0911I	[仕訳入力、レポート、照会](G0911)、[仕訳入力]	集計仕訳を伝票番号別に照会します。
[仕訳入力]	W0911A	[仕訳入力 of 処理] で、改訂する仕訳を選択します。	仕訳を改訂します。
[仕訳 of 無効]	W0911F	[仕訳入力 of 処理] で、無効にする仕訳を選択し [ロー] メニューの [無効] を選択します。  または、[仕訳 of 検討] フォームで転記済み仕訳を無効にすることができます。このフォームでの処理も、[仕訳入力 of 処理] での処理と同様です。	転記済み仕訳を無効にします。

## 転記済み仕訳の改訂

[仕訳入力] フォームにアクセスします。

## 転記済み仕訳の無効化

[仕訳 of 無効] フォームにアクセスします。

転記済み仕訳を無効にするには、次の手順に従います。

1. 必要に応じて、[元帳日付] フィールドを変更し、[OK] をクリックして無効処理を行います。
2. 無効を確認するには、[仕訳入力 of 処理] フォームで無効にした仕訳を選択します。
3. [仕訳入力] で、詳細グリッドの [逆仕訳/無効] フィールドを確認し、V (無効) が表示されていることを確認します。
4. 無効にした結果作成された逆仕訳を確認します。

[元帳日付]

逆仕訳を無効にする場合に各期間の貸借を一致させておくには、無効にする仕訳と同じ日付を入力します。

## 転記済み逆仕訳の無効化

[仕訳入力の処理] フォームにアクセスします。

転記済み逆仕訳を無効にするには、次の手順に従います。

1. [仕訳入力の処理] フォームで当初仕訳を選択し、仕訳を無効にするステップを実行します。
2. 当初仕訳の日付の翌月の第 1 日目が指定された逆仕訳を選択し、転記済み仕訳を無効にするステップを実行します。

---

## (Rapid Start) Entering, Reviewing, and Approving Journal Entries and Posting Journal Entries

This section discusses how to enter, review, approve and post journal entries.

### Entering, Reviewing, Approving and Posting Journal Entries

This table lists the tasks to process journal entries:

Task	Navigation	Version and Program
Enter journal entries in standard format.	Journal Entry Processing Enter, Review, and Revise Journal Entries-Standard Format	P0911/RIS0001 P0900049/RIS0001
Enter journal entries in debit/credit format.	Journal Entry Processing Enter, Review, and Revise Journal Entries-Debit/Credit Format	P0911/RIS0003 P0900049/RIS0001
(Rapid Start FRA) Enter journal entries in VAT format.	Journal Entry Processing Enter, Review, and Revise Journal Entries-VAT Format	P09106/RIS2001 P0900049/RIS0001
(Rapid Start GBR) Enter journal entries in VAT format.	Journal Entry Processing Enter, Review, and Revise Journal Entries-VAT Format	P09106/RIS1001 P0900049/RIS0001
Review journal entries online and post selected batches.	Journal Entry Processing Review and Post Journal Entry Batches	P0011/RIS0006
Review journal entries by batch using a report.	Journal Entry Processing Print General Journal by Batch	R09301/RIS0001
Review journal entries by account using a report.	Journal Entry Processing Print General Journal by Account	R09311/RIS0001

Task	Navigation	Version and Program
Post all journal entries batches.	Journal Entry Processing Post All Journal Entries	R09801/RIS0001
Revise, delete, or void journal entries.	Journal Entry Processing Enter, Review, and Revise Journal Entries-Standard Format	P0911/RIS0001 P0900049/RIS0001
Post revisions to journal entries.	Journal Entry Processing Review and Post Journal Entry Batches	P0011/RIS0006

Data reports provide additional information about data that has been preconfigured for Rapid Start.

## Preconfigured Processing Options for Journal Entries (P0911)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Defaults

Processing Option Description	Value or Status
1. Batch Type	G

### Display

Processing Option Description	Value or Status
1. Debit/Credit Format	blank

### Versions

Processing Option Description	Value or Status
1. Journal Entry MBF Version (P0900049)	RIS0001

### Edits

Processing Option Description	Value or Status
1. Fixed Asset ID	blank

## Preconfigured Processing Options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.



**Defaults**

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. Effective Date	blank
2. Tolerance	0

**Zero Amounts**

Processing Option Description	Value or Status
1. Zero Amounts	blank
2. Audit Information	blank

**Interop**

Processing Option Description	Value or Status
1. Interoperability Version	blank

## Preconfigured Processing Options for Journal Entries with Debit/Credit Format (P0911)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0003.

**Defaults**

Processing Option Description	Value or Status
1. Batch Type	G

**Display**

Processing Option Description	Value or Status
1. Debit/Credit Format	1

**Versions**

Processing Option Description	Value or Status
1. Journal Entry MBF Version (P0900049)	blank

**Edits**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fixed Asset ID	blank

**Preconfigured Processing Options for France Journal Entry with VAT (P09106)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2001.

**Addr # Required**

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a '1' if the address book number field is required to be filled in the grid. If left blank no error will be set.	blank
Address Book Number	blank

**MBF Version**

Processing Option Description	Value or Status
1. To override standard journal entry processing (version ZJDE0001 for application P0900049), enter an override version number. This should only be changed by persons responsible for system wide setup.	blank
Version	RIS0001

**Preconfigured Processing Options for Great Britain VAT Journal Entry (P09106)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS1001.

**Addr # Required**

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a '1' if the address book number field is required to be filled in the grid. If left blank no error will be set.	blank
Address Book Number	blank

**MBF Version**

Processing Option Description	Value or Status
1. To override standard journal entry processing (version ZJDE0001 for application P0900049), enter an override version number. This should only be changed by persons responsible for system wide setup.	blank
Version	RIS0001

**Preconfigured Processing Options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0006.

**Batch Type**

Processing Option Description	Value or Status
1. Batch Type	G

**Preconfigured Processing Options for General Journal by Batch (R09301)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Account Mode**

Processing Option Description	Value or Status
1	

**Units**

Processing Option Description	Value or Status
Enter '1' to print units.	blank

**Preconfigured Processing Options for General Journal by Object Account (R09311)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Account Mode**

Processing Option Description	Value or Status
1	

**Units**

Processing Option Description	Value or Status
Enter '1' to print units.	blank

**Preconfigured Processing Options for General Journal Post (R09801)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Format	blank
2. Print Error Messages	1

**Versions**

Processing Option Description	Value or Status
1. Detail Currency Restatement Version	blank
2. Fixed Asset Post Version	blank
3. 52 Period Post Version	blank

**Edits**

Processing Option Description	Value or Status
1. Update Transaction	blank

**Taxes**

Processing Option Description	Value or Status
1. Update Tax File	3
2. Update VAT Discounts	2
3. Update VAT Receipts and W/O	2

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Explode parent item time	blank

**Cash Basis**

Processing Option Description	Value or Status
1. Units Ledger Type	blank
2. Create Cash Basis Entries Version	blank



## 第 12 章

# 仕訳のバッチ処理

この章では、バッチ処理の概要と、以下の方法について説明します。

- 仕訳のアップロードのバッチ処理
- バッチ仕訳処理
- 処理済みバッチ仕訳の転記
- 処理済みバッチ仕訳の除去

---

## 仕訳のバッチ処理について

EnterpriseOne ソフトウェア以外の外部システムで仕訳を管理している場合、その仕訳を変換して EnterpriseOne で処理できるようにすることができます。PC データ入力、サードパーティ製のシステムや顧客のシステム、電子データ交換 (EDI) などの外部ソースからバッチ仕訳をアップロードすることができます。仕訳のバッチ処理では、次の処理を行います。

- 仕訳トランザクションのバッチ入力テーブルへのマッピング  
カスタム プログラムを作成し、仕訳アップロード テーブル (F0911Z1) のフィールドに適切なデータを設定します。
- 仕訳のバッチ処理  
仕訳のバッチ処理プログラム (R09110Z) を実行し、F0911Z1 テーブルから F0911 テーブルへ仕訳をアップロードします。仕訳のバッチ処理プログラムでは、F0911Z1 テーブルの情報が正しくフォーマットされているかどうかを検証され、その後で F0911 テーブルに転送されます。
- バッチ仕訳の改訂  
レコードが正常に処理されなかった場合は、仕訳の改訂 (P0911Z1) を使用して、バッチ仕訳レコードを改訂します。
- バッチ仕訳の転記  
総勘定元帳への転記プログラム (R09801) を使用して、正常に処理されたバッチ仕訳を F0902 テーブルに転記します。
- 正常に処理されたバッチ仕訳の除去  
バッチ仕訳を転記後、管理をしやすいするために F0911Z1 テーブルを除去します。バッチ仕訳の除去プログラム (R0911Z1P) を使用します。

---

**注:** 仕訳のバッチ処理を使用せずに F0911 テーブルを更新しようとすると、データの整合性に問題が生じる可能性があります。

---

## 仕訳のアップロードのバッチ処理

このセクションでは、仕訳のアップロードのバッチ処理の概要と仕訳のバッチ処理を実行する方法について説明します。

### 仕訳のアップロードのバッチ処理について

カスタム プログラムを使用して取引情報を F0911Z1 テーブルにロードしたら、仕訳のバッチ処理プログラム (R09110Z) を実行します。これにより、F0911Z1 テーブルの情報が処理され、F0911 テーブルにロードされます。

取引の処理に必要なその他の情報は、他のソースからロードされるか、既存の情報を基にして計算されます。たとえば、次のソースが使用されます。

- 伝票番号がない場合は、自動採番 (P0002) によって生成されます。
- 仕訳入力 MBF 処理オプション (P0900049) によって、デフォルトの伝票タイプが決まります。
- 会計年度と期間は、元帳日付と、会社名および番号設定プログラム (P0010) を使用して計算されます。
- F0911 テーブルの伝票会社番号は、仕訳の最初の明細行にあるビジネスユニットに基づいて割り当てられます。

仕訳のバッチ処理プログラムは、テスト モードまたは最終モードのどちらでも実行できます。

テスト モードでは、次の処理が実行されます。

- データが検証され、エラーが特定されます。  
エラーの取引数がレポートに印刷されます。エラーは、ワーク センターのワークフロー メッセージにも書き込まれます。テスト モードでの処理は、元帳には反映されません。
- 最終モードで処理する前にエラーを修正できます。

最終モードでは、次の処理が実行されます。

- F0911 テーブルに仕訳が作成されます。
- F0911Z1 テーブルの伝票番号とバッチ番号がブランクの場合は、これらが自動的に割り当てられます。
- ブランクのフィールドに情報が入力されます。
- 正常に処理された取引とエラーのあった取引の数を示すレポートが作成されます。  
特定のエラーは、ワークセンターのワークフロー メッセージに書き込まれます。
- 該当する処理オプションを設定した場合は、処理済みの仕訳が除去されます。  
バッチ仕訳を除去しないように設定してある場合は、処理済みのマークが付けられます。

### 処理中のエラー

処理中にエラーが発生した場合、そのエラーは編集レポートに表示されます。エラーを修正した後、バッチを再処理できます。バッチ内の取引にエラーがあっても、バッチ処理は停止しません。ただし、エラーのある取引は、残りのバッチの処理では処理されません。バッチ処理が正常に終了すると、VNEDSP フィールドが 0 から 1 に更新されます。これらのレコードは、除去されるまで F0911Z1 テーブルに保存されます。処理オプションで、このテーブルを自動的に除去するように設定することもできます。

次のヒントを参考にして、エラー メッセージを減らしたり、エラーを解決することができます。

- 初めに、レコードが少ないバッチから処理します。



1 つのレコードで頻繁に発生するエラーは、ほとんどの場合他のレコードでも発生します。まず、レコード件数の少ないバッチのエラーを修正してから、同じ手順でレコード件数の多いバッチを処理します。

- バッチ処理が中断されるのは、エラーの場合だけです。

仕訳が標準とは異なる場合には警告メッセージが表示されますが、処理は中断されません。警告メッセージを受け取るかどうかは、処理オプションで指定します。

- 転記前に取引を検討および削除するオプションがあるため、テスト モードのバッチ実行は必須ではありません。

ただし、エラーが 1 つでもあるとバッチ処理は続行されません。

- エラー メッセージを確認することにより、エラーの原因と解決方法を特定することができます。
- 解決できないエラーがある場合は、仕訳の改訂プログラム (P0911Z1) を使用して取引を手動で入力し、処理が正常に実行されるようにします。

その後、変換した F0911Z1 取引と仕訳の改訂プログラム (P0911Z1) を使用して入力した F0911Z1 取引を比較します。相違点を比較することにより、不一致箇所を突き止めてエラーを解決することができます。

## 仕訳のバッチ処理の実行

[バッチ仕訳処理] (G09311) の [仕訳のバッチ処理] を選択します。

## 仕訳のバッチ処理 (R09110Z) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定することができます。

### バージョン

#### 1. 仕訳入力バージョン

仕訳入力 MBF 処理オプション (P0900049) のバージョンを指定します。ブランクにすると、標準バージョン (ZJDExxxxx) が実行されます。

標準バージョンで実行すると、仕訳のバッチ処理プログラムで作成されたバッチだけではなく、バッチタイプ G の承認済みバッチが全て転記されます。バッチ タイプ G とバッチ状況 A を選択するようにデータ選択が設定されているためです。データ選択 (ユーザー ID、バッチ日付など) を追加した転記プログラムのバージョンを新たに作成することができますが、必要な結果が得られない場合もあります。

#### 2. 転記バージョン

F0902 テーブルへの自動転記に使用する総勘定元帳への転記プログラム (R09801) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、転記は実行されません。

### 処理

#### 1. 処理モード

バッチをテスト モードと最終モードのどちらで処理するかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: テスト モード。

1: 最終モード。

#### 2. 貸借不一致

貸借不一致の総勘定元帳取引の処理を許可するかどうかを指定します (金額が一致しない)。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 許可しない。

1: 許可する。

### 3. 除去

F0911Z1 テーブルから処理済取引を自動的に除去するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:処理済み取引に処理済みのマークを付け、除去はしない。

1: 処理済み取引を自動的に除去する。

## メッセージ

### 1. 警告メッセージ

ワークセンターに警告メッセージを作成するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:作成する。

1: 作成しない。

### 2. 電子メッセージ

ユーザーが電子メッセージを受け取るかどうかを指定します。この処理オプションをブランクにすると、取引を入力したユーザーのワークセンターにメッセージが送信されます。

## 検証

### 1. バッチ承認

作成した全てのバッチ状況を承認済みに更新するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:一般会計固定情報に従って状況を更新する。

1: 全バッチを承認済みに更新する。

---

## バッチ仕訳処理

このセクションでは、仕訳の改訂プログラムの概要と仕訳のバッチ処理について説明します。

### 仕訳の改訂プログラムについて

外部システムから F0911Z1 テーブルにデータをアップロードした後、仕訳の改訂プログラム (P0911Z1) を使用して、次の処理を行うことができます。

- レコードを新しいバッチに追加します。

通常は、バッチ仕訳を追加する必要はありません。例外として、取引の処理を正常に処理できない場合が挙げられます。不整合を訂正するために、手入力で仕訳を追加し取引を処理することができます。処理が成功した場合は、その成功したトランザクションと処理対象の別のレコードを比較します。

- 処理済み、未処理両方のレコードを検討します。
- 未処理レコードを改訂します。

エラー終了したレコードなど未処理のレコードを改訂することは可能ですが、スプレッドシートを改訂することをお勧めします。仕訳改訂プログラムでは、仕訳入力プログラム (P0911) と同じ編集は行われません。

- 未処理バッチ仕訳を削除します。

仕訳の改訂プログラムで仕訳を追加したり、未処理の仕訳を改訂した後は、仕訳のバッチ処理プログラムを再実行してください。

**注:** 仕訳の改訂プログラムを使用して、正常に処理されたレコードを改訂することはできません。正常に処理されたレコードは F0911 テーブルで処理されているため、改訂する場合は仕訳入力プログラムを使用してください。

仕訳の改訂プログラムを使用して、正常に処理されたバッチ仕訳を削除することはできません。正常に処理されたバッチ仕訳は、バッチ仕訳の除去プログラム (R0911Z1P) を使用して除去してください。

## バッチ仕訳処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[オフライン仕訳の処理]	W0911Z1B	[バッチ仕訳処理] (G09311)、[仕訳の改訂]	未処理の仕訳バッチの改訂と削除を行います。
[オフライン仕訳の改訂]	W0911Z1A	仕訳バッチを追加する場合は、[オフライン仕訳の処理]で[追加]をクリックします。  未処理バッチにレコードを追加し、未処理バッチ内の特定の仕訳を改訂または削除する場合は、バッチを選択して[選択]をクリックします。	F0911Z1 テーブルへのレコードの追加、未処理バッチの追加、未処理仕訳の改訂、および未処理仕訳の削除を行います。  [オフライン仕訳の改訂]フォームで未処理レコードを改訂することはできませんが、このフォームでは実行されない編集もあるため、スプレッドシートを改訂することをお勧めします。
[仕訳入力]	W0911A	[仕訳入力、レポート、照会]、[仕訳入力の処理]、[仕訳入力]	正常に処理されたレコードを改訂します。

## 仕訳の改訂 (P0911Z1) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定することができます。

### 入力タイプ

#### 1. 入力タイプ

オフライン取引で制御レコードが F0041Z1 テーブルに書き込まれるかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:書き込む。

1: 書き込まない。

## 処理済みバッチ仕訳の転記

[仕訳入力、レポート、照会] (G0911) の [総勘定元帳への転記] を選択します。

仕訳バッチを正常に処理したら、それを転記する必要があります。総勘定元帳への転記プログラムにより、F0911 テーブルの各バッチ仕訳の転記コードが P (転記済み) に更新され、バッチ仕訳が F0902 テーブルに反映されます。

---

## 処理済みバッチ仕訳の除去

[バッチ仕訳処理] (G09311) の [バッチ仕訳の除去] を選択します。

バッチ仕訳を正常に処理し転記したら、F0911Z1 テーブルからそのバッチ仕訳を除去します。バッチ仕訳の除去プログラム (R0911Z1P) を実行すると、F0911Z1 テーブルから正常に処理された仕訳が除去されます。ただし、プログラムを実行している環境からのみ除去されます。

または、処理後自動的に処理済み仕訳が除去されるように、仕訳のバッチ処理プログラムで処理オプションを設定することもできます。

## 第 13 章

# オフライン仕訳の処理

このセクションでは、オフラインの処理の概要と以下の方法について説明します。

- オフライン処理のためのマスター テーブルのダウンロード
- オフライン処理用の仕訳作成
- オフライン仕訳のアップロード
- オフライン仕訳の処理
- 取引制御レコードの更新
- 処理済みオフライン仕訳の除去

---

## オフライン処理について

オフライン仕訳の処理を利用すると、一般会計システムで処理する前に、大量の仕訳の入力と管理を効率的に行うことができます。たとえば、リモート サイトで作業を行っており、サーバーへのアクセス専用回線がない場合、通常の業務時間には PC のローカル環境で仕訳を作成し、オフピーク時に仕訳をサーバーにアップロードして処理することができます。

オフライン仕訳を処理するためには、最初にサーバーからマスター テーブルをダウンロードする必要があります。その後、オフライン処理を使用してクライアント側で EnterpriseOne 仕訳を作成し、後でサーバーにアップロードして処理することができます。テスト モードで仕訳を処理した後は、必要に応じて、仕訳の改訂や削除を行うことができます。最終モードで処理した後は、PC 上の仕訳の取引制御状況をそれぞれ更新し、サーバー上の値に合わせます。この結果、F0911 テーブルの仕訳を F0902 テーブルに転記することが可能になります。

---

## オフライン処理のためのマスター テーブルのダウンロード

このセクションでは、オフライン処理のマスター テーブルのダウンロードの概要とその方法について説明します。

### マスター テーブルのダウンロードについて

クライアント側でオフライン仕訳を処理する前に、サーバーからテーブルをダウンロードする必要があります。このテーブルは、取引を作成および検証するために必要なものです。たとえば、仕訳作成に必要な勘定科目情報を取得するためには、F0101 テーブルと F0901 テーブルをダウンロードする必要があります。

テーブルは、個別にダウンロードする必要があります。データ選択またはカテゴリ コードを使用して、各テーブルからダウンロードする情報を限定することができます。マスター テーブルのダウンロード プログラム (P00140) の各バージョンは、テーブルおよび関連テーブルまたはテーブル グループを示しています。

テーブルごとに、バージョンが 1 つ関連付けられています。ただし、バージョンが関連付けられていないテーブルも存在します。オフライン仕訳入力 - 改訂プログラム (P0911Z1) でこれらのテーブル用にバージョンを新規に作成することができます。

次のビジネス データ テーブルを仕訳のオフライン処理を行うローカル マシン上に置く必要があります。

- F0004 - ユーザー定義コード タイプ
- F0005 - ユーザー定義コード
- F0006 - ビジネスユニット マスター
- F0008 - 会計期間パターン
- F0009 - 一般会計固定情報
- F0010 - 会社固定情報
- F0013 - 通貨コード
- F0014 - 支払条件
- F0022 - 税規則
- F0041Z1 - 取引制御
- F0101 - 住所録マスター
- F0111 - 住所録 - 人名録
- F0116 - 日付別住所
- F0901 - 勘定科目マスター
- F0907 - 勘定科目表形式
- F0911Z1 - 仕訳アップロード テーブル
- F4008 - 税域
- F4801 - 作業オーダー マスター

ビジネス データ テーブルの他に、自動採番テーブル (F0002) や会社/会計年度別自動採番テーブル (F00021) などのテクニカル データ テーブルもダウンロードする必要があります。

ダウンロードしたテーブルごとにダウンロード レポートが作成されます。このレポートを参照して、PC にダウンロードされたレコード数を確認してください。マスター テーブルをダウンロードしたら、オフライン処理を使用して取引の入力ができるようになります。

## 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 必要なマスター テーブルをダウンロードします。
- サーバーに接続していること、および実稼働環境にサインオンしていることを確認します。

## オフライン マスター テーブルのダウンロード

[オフライン仕訳入力] (G09318) の [マスター・テーブルのダウンロード] を選択します。

## オフライン処理用の仕訳作成

このセクションでは、仕訳作成の概要とオフライン仕訳を追加する方法について説明します。

### 仕訳の作成について

マスター テーブルをダウンロードしたら、オフライン処理を使用して仕訳を作成することができます。サーバーに仕訳をアップロード（または転送）する準備ができるまで、オフライン仕訳入力 - 改訂プログラムを使用して、仕訳を作成し保存しておきます。

オフラインで仕訳を作成すると、次の処理が実行されます。

- テーブルからダウンロードした情報に基づいて、各仕訳がチェックされます。
- 仕訳ごとに取引制御レコードが作成され、状況 1（処理準備完了）が割り当てられて、取引制御テーブル（F0041Z1）に保存されます。

オフラインで仕訳を作成すると、仕訳ごとに取引番号が割り当てられます。伝票番号は、仕訳をアップロードし処理を行うまでは割り当てられません。

オフライン処理では、次の仕訳を入力することができます。

- 基本仕訳
- パーセント仕訳モデル
- パーセント仕訳
- モデル仕訳

### オフライン仕訳の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[オフライン仕訳の処理]	W0911Z1B	[オフライン仕訳入力] (G09318)、[オフライン仕 訳入力 - 改訂]	オフライン仕訳バッチのリ ストを確認します。
[オフライン仕訳の改訂]	W0911Z1A	[オフライン仕訳の処理] フォームで、[追加] をク リックします。	オフライン仕訳バッチを 追加します。  このフォームでは、最終 モードで処理する前に、オ フライン仕訳の改訂や削除 もできます。また、外部ソー スでバッチ テーブルのデー タを修正し、一般会計シス テムに再度バッチをアップ ロードすることもできます。

### オフライン仕訳の追加

[オフライン仕訳の改訂] フォームにアクセスします。

---

## オフライン仕訳のアップロード

このセクションでは、オフライン アップロード処理の概要とオフライン仕訳をサーバーにアップロードする方法について説明します。

### オフライン仕訳のアップロード処理について

ローカルで仕訳を作成した後、その仕訳を処理するためにはサーバーへアップロードする必要があります。アップロードを実行するには、サーバーに接続して実稼働環境にサインオンする必要があります。

仕訳をアップロードすると、次の処理が実行されます。

- 仕訳アップロード テーブル (F0911Z1) にレコードが作成されます。
- PC 上の各仕訳の取引制御状況が 5 (アップロード済み) に更新されます。  
状況 5 に更新された後は、PC 上でその仕訳を修正することはできません。サーバーでのみ修正できます。
- 状況が 1 (処理準備完了) または 2 (エラー) の仕訳は、PC 上で修正することができます。
- サーバー上に各仕訳の取引制御レコードが作成され、状況 1 (処理準備完了) が割り当てられます。
- アップロードした全ての仕訳について転送アップロード レポートが印刷されます。  
レポートを参照し、仕訳が正しくアップロードされたことを確認してください。

最高のシステム パフォーマンスで処理するには、ピークの時間帯を避けて仕訳をアップロードします。

### オフライン仕訳のサーバーへのアップロード

[オフライン仕訳入力] (G09318) の [オフライン仕訳入力 - 改訂] を選択します。

---

## オフライン仕訳の処理

このセクションでは、オフライン仕訳の処理の概要と以下の方法について説明します。

- オフライン仕訳バッチ処理の実行
- オフライン仕訳バッチ処理の処理オプションの設定

### オフライン処理について

仕訳をアップロードしたら、F0911 テーブルに取引を作成する処理を行う必要があります。エラー メッセージは、従業員ワーク センターに送信されます。

オフライン仕訳を処理するプログラムと仕訳のバッチ処理を行うプログラムは、処理結果は類似していますが別のプログラムです。オフライン仕訳入力用のバッチ処理プログラムを使用していることを確認してください。

仕訳を処理した後、仕訳の取引制御状況が PC 上とサーバー上で同じになるように更新してください。



## オフライン仕訳バッチ処理の実行

[オフライン仕訳入力] (G09318) の [オフライン仕訳バッチ処理] を選択します。

## オフライン仕訳バッチ処理 (R09110ZS) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムやレポートのデフォルト処理を指定できます。

### バージョン

1. 仕訳入力バージョン      仕訳入力 MBF 処理オプション (P0900049) のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、標準バージョンが実行されます。
2. 転記バージョン      総勘定元帳への転記プログラム (R09801) のバージョンを指定し、仕訳が F0902 テーブルへ自動的に転記されるようにします。指定するバージョンは、サーバーに存在している必要があります。この処理オプションをblankにすると、転記は実行されません。

### 処理

1. 処理モード      バッチをテスト モードと最終モードのどちらで処理するかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
blank: テスト モード。テーブルは更新されません。  
1: 最終モード。テーブルは更新されます。
2. 貸借不一致      貸借不一致 (金額不一致) の総勘定元帳取引の処理を許可するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
blank: 許可しない。  
1: 許可する。
3. 除去      処理済みの取引をバッチ ファイルから自動的に除去するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
blank: 除去しない。  
1: 除去する。

### メッセージ

1. 警告メッセージ      ワークセンターに警告メッセージを作成するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
blank: 作成する。  
1: 作成しない。
2. 電子メッセージ      ワーク センターの電子メッセージを受け取るユーザーを指定します。有効値は以下のとおりです。  
blank: 取引を入力したユーザー  
ユーザー ID: 指定ユーザー

## 検証

### 1. バッチ承認

全てのバッチの状況を承認済みに設定するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 一般会計固定情報の設定に従って設定される。

1: 承認済みに設定される。

---

## 取引制御レコードの更新

このセクションでは、取引制御レコード更新プログラムの概要と更新の方法について説明します。

### 取引制御レコード更新プログラムについて

オフライン仕訳を処理した後は、各仕訳の取引制御状況が、PC 上とサーバー上で異なります。PC 上の状況を更新して、サーバー上の値に合わせる必要があります。この処理を行うには、取引制御レコード更新プログラム (R0041Z1) を実行します。

また、この更新プログラムを実行すると、PC 上の仕訳をサーバーにアップロードした際にエラーとなった仕訳を見つけることもできます。PC 上の仕訳には、サーバー上のエラー状況が反映されます。PC 上でエラーの仕訳を特定して修正し、再度サーバーにアップロードすることができます。または、サーバー上で修正することもできます。

また、取引制御レコード更新プログラムを使用して、ローカル環境の F0911Z1 テーブルから処理済み取引を除去することもできます。

### 制御レコードの更新

[オフライン仕訳入力] (G09318) の [取引制御レコードの更新] を選択します。

---

## オフライン仕訳の除去

オフライン取引の除去プログラム (R0041Z1P) を実行すると、処理済み仕訳が除去され、F0911Z1 テーブルと F0041Z1 テーブルのレコードが削除されます。ただし、プログラムを実行している環境からのみ削除されます。

このセクションでは、処理済みのオフライン仕訳を除去する方法について説明します。

### 処理済みオフライン仕訳の除去

[オフライン仕訳入力] (G09318) の [オフライン取引の除去] を選択します。

## 第 14 章

# 配賦の処理

この章では、配賦、配賦作成処理、多階層配賦の各概要、および以下の方法について説明します。

- 定期仕訳の処理
- インデックス配賦の処理
- 変数配賦の処理

---

## 配賦について

配賦は、費用の分配、年間または期間予算の作成、さらに通貨換算などさまざまな目的に使用できます。配賦を行うことにより、1 つまたは複数のビジネスユニットの金額を他のビジネスユニットの勘定科目に振り替えたり、ある元帳タイプから別の元帳タイプに振り替えることができます。

金額の変更に関係なくモデル仕訳を配賦として作成したり、金額に変更がない場合に定期仕訳を作成することができます。

一般会計システムでは、次の 3 タイプの配賦を使用します。

- 定期仕訳  
定期的に発生する仕訳がある場合は、定期仕訳を作成します。
- インデックス配賦  
会社またはビジネスユニット間での振替を行ったり、年間または月間予算を作成する場合は、インデックス配賦を作成します。
- 変数配賦  
共通のカテゴリコード値を持つビジネスユニット間での振替や、人員数などの変数を基準として配賦を行う場合は、変数配賦を作成します。

次の配賦頻度は、全ての 3 タイプの配賦で使用できます。

- 週次
- 月次
- 四半期
- 半期
- 年次

どの配賦でも、発生主義会計または年累計実績の計算を行うための逆仕訳を作成できます。見積計上のために配賦を作成し、それを次の期間の第 1 日目に逆仕訳することがよくあります。配賦を逆仕訳し、最終モードで処理を行うと、当初作成された仕訳が逆仕訳されます。配賦仕訳を転記すると、次の会計期間の第 1 日目に逆仕訳が作成されます。

どのタイプの配賦でも、配賦を実行するたびに作成される仕訳に対して配賦の当初伝票番号が使用されます。仕訳の伝票番号が同じでも、各仕訳の元帳日付は異なるため重複しているとは見なされません。伝票番号を使用して、当初配賦まで監査証跡を辿ることができます。

配賦を作成する場合、次の日付によって配賦のタイプが決まります。

日付	説明
元帳日付	仕訳を転記する会計期間を決定する日付。
特別期間/年	配賦の元となる残高を決定する日付。基準期間または基準年が現行会計期間または現行会計年度と異なる場合、この日付に基づいて F0902 テーブルの金額が選択されます。
停止日付	計算プログラムで配賦の処理が行われなくなる日付。

## 配賦作成の処理について

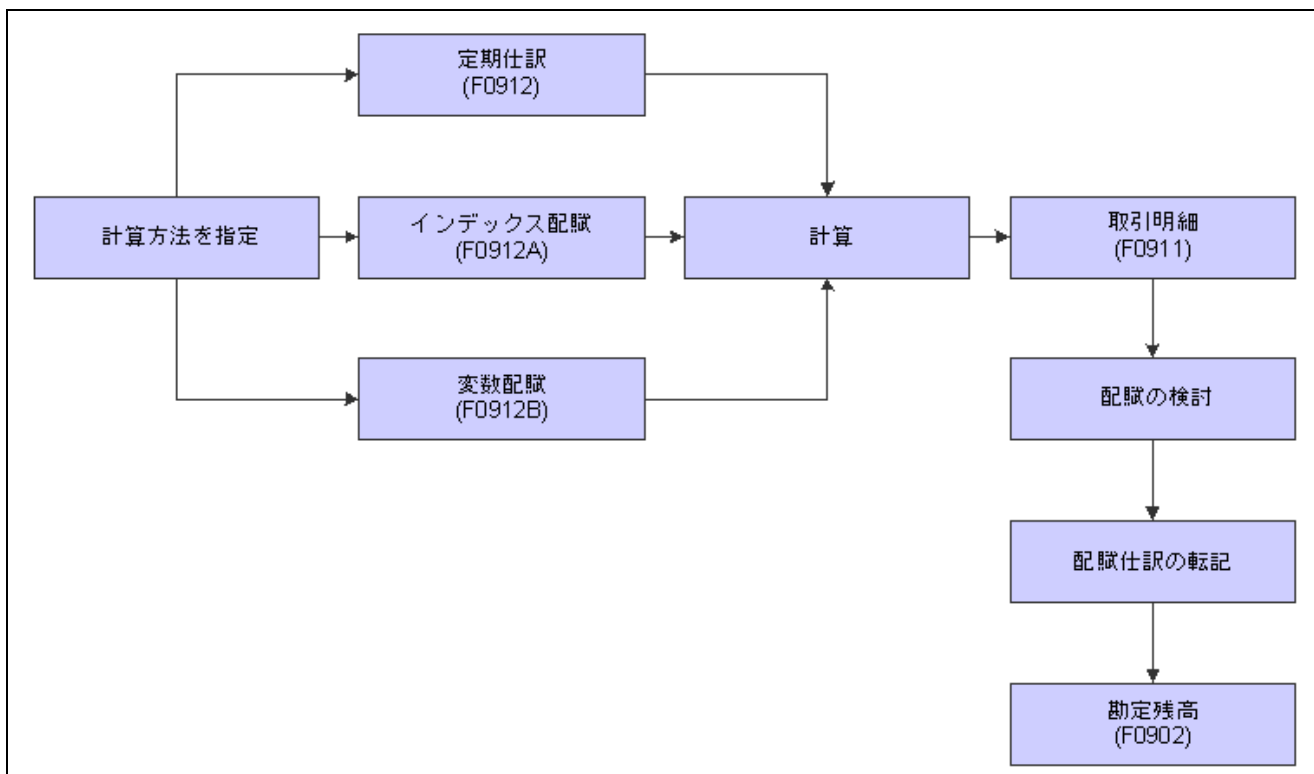
どのタイプの配賦においても、次のステップを行う必要があります。

- 配賦の入力
- 配賦の検討
- 配賦の計算

配賦の計算が終わったら、配賦によって作成された仕訳を検討し転記します。配賦プログラムによって作成された仕訳が適切であるかどうか確認し、エラーがあれば修正してください。総勘定元帳への転記プログラムによって該当するテーブルが更新され、必要な仕訳が作成されます。また、逆配賦として設定された配賦の場合は逆仕訳が作成されます。

配賦には伝票タイプ JA を使用してください。全ての配賦でバッチ タイプ D を使用します。

次の図は、配賦の計算によって AA (実績金額) 元帳の仕訳がどのように作成されるかを示します。



配賦によって作成される AA 元帳の仕訳

## 多階層配賦について

計算順序を定義する場合は、全ての配賦で多階層の配賦を作成できます。多階層配賦は、複合配賦またはカスケード配賦とも呼ばれます。上の階層の配賦金額が下の階層での計算に使用されます。最高 9 階層まで使用できます。

次の状況が 2 つとも発生する場合は、この多階層配賦を行う必要があります。

- 全ての本社経費を、倉庫に配賦してからビジネスユニットに配賦する。
- 本社経費だけでなく倉庫コストも、ビジネスユニットに配賦する。

システムが計算を順番に実行できるのは、順序内にあるすべての計算で同じタイプの配賦が使用されている場合だけです。たとえば、インデックス配賦と変数配賦を使用している場合は、順番に計算を実行できません。この計算で異なるタイプの配賦を使用する場合は、各計算を個別に、正しい順序で行う必要があります。また、各計算を個別に転記してから、次の順序の配賦を計算する必要があります。

**注:** 多階層の配賦では、定期仕訳を使用できません。

## この章で使用する共通フィールド

### 転記順序

多層配賦の順序を制御する数値を入力します。関連する仕様が複数あり、ある仕様の結果が同じバッチの後続の仕様に含まれる場合に、数値を入力します。

たとえば、電話会社から全ての長距離通話の月次請求書が送られてくる場合、以下のように階層を設定して、支社の各部門に請求書を配賦することができます。

階層 1: 支社。この階層では、比率またはパーセントを指定して、支社 A、B、C 間で請求書を配賦することができます。

階層 2: 支社 A の部門。この階層では、比率またはパーセントを指定して、支社 A の部門 X、Y、Z 間で請求書を配賦することができます。

独立型配賦の場合はこのフィールドを空白にしてください。

## 配賦率

インデックスまたは比率の数値を入力します。元の金額にこの係数を乗算して、配賦金額が求められます。プラスまたはマイナスで、小数点以下 8 桁以下の数値を指定することができます。小数点以下に 9 桁以上を入力すると、第 8 位に四捨五入されます。

整数部と小数部に大きい数値を指定すると、全桁が表示されない場合があります。小数部が全て表示されていない場合でも、テーブルには正しく保存されています（最大 8 桁まで）。

このフィールドを空白にすると、デフォルトの配賦率は 1.00000000 となります。

年間予算の場合、ゼロを指定するとすべての残高が消去され、新しく予算を作成することができます。

## 定期頻度

取引が作成される間隔を示すコードを入力します。有効な値は以下のとおりです。

空白: 定期作成しない。これは、年間予算を配賦する場合にのみ有効です。

MO: 月次

AN: 年間

WK: 週次

QT: 四半期

SA: 年 2 回

BW: 隔週

---

注: 年間予算の場合は、空白または AN のみ有効です。

---

## 逆仕訳

このチェック ボックスをオンにすると、当初仕訳を転記したときに逆仕訳が作成されます。元帳日付には次の期間の第 1 日が使用されます。

## 期間 および会計年度

基準金額に使用する総勘定元帳の期間を数値で入力します。空白の場合、会社の現行期間が使用されます。

基準金額が抽出される会計年度を入力します。このフィールドを空白にすると、会社の現行会計年度が使用されます。

## 状況

[承認済み] または [保留] を選択します。承認済みの取引に対してのみ、仕訳の作成と勘定科目の更新が行われます。

## 停止日付

配賦を停止する日付を入力します。元帳日付が停止日付より小さい場合、またはこのフィールドが空白の場合、配賦は実行されます。元帳日付が停止日付と同じかまたは大きい場合、配賦は実行されません。

## 定期仕訳の処理

このセクションでは、定期仕訳と定期仕訳の計算の概要、および以下の方法について説明します。

- 定期仕訳の作成
- 定期仕訳の計算および印刷プログラムの実行
- 定期仕訳の計算および印刷のデータ選択の設定
- 定期仕訳の計算および印刷の処理オプションの設定

### 定期仕訳について

定期仕訳を使用すると、1 つまたは複数のビジネスユニットの金額を他のビジネスユニットの勘定科目に振り替えることができます。一定の金額、パーセントまたは単位に基づいた振替が可能です。たとえば、間接費として分類される費用を各部署に配賦できます。

仕訳の金額が変わらないことがわかっている場合は、固定金額で定期仕訳を作成できます。一度仕訳を入力すれば、毎月（または必要に応じた頻度で）、新しい元帳日付で新しい仕訳が作成されます。

固定金額ではなく、パーセントに基づいた定期仕訳を設定することもできます。たとえば、複数のビジネスユニットで設備が共用されることがわかっている場合は、各ビジネスユニットの使用時間のパーセントに基づいてその設備関連の費用（修理や減価償却など）を配賦できます。毎月、設定したパーセントに基づいて修理費と減価償却費の配賦が計算されるようになります。

3 番目の定期仕訳の設定方法は、数量に基づく方法です。ある金額に指定する単位の数量がわかっている場合は、単位の数量を各勘定科目に設定できます。入力した数量に基づいて指定する額が配賦されます。たとえば、給与計算部門の管理費を各部門の人数に応じて配賦する場合は、各勘定科目で人数という単位で定期仕訳を設定できます。配賦は、総人数に対するビジネスユニットの人数の割合に配賦先勘定科目の金額を乗算して算出されます。

**注:** 既存の定期仕訳の配賦方法を金額からパーセントや数量に変更することはできません。この変更が必要な場合は、既存の定期仕訳を削除し、配賦方法にパーセントまたは数量を選択して新しい仕訳を追加します。

### 定期仕訳の計算および印刷プログラムについて

定期仕訳を検討し問題がないことを確認したら、定期仕訳の計算および印刷プログラム (R09302) を実行し、定期仕訳を処理します。

このプログラムをテスト モードで実行すると、仕訳は作成されず、レポートが生成されます。このレポートには、プログラムを最終モードで実行した場合に F0911 に作成される仕訳が記載されます。また、エラーの発生した定期仕訳に関するエラー メッセージも記載されます。無効の勘定科目は \*\*\* で示されます。レポートを検討し、最終モードでプログラムを実行する前に仕訳を変更する必要があるか判断します。

最終モードでは、F0911 テーブルに仕訳が作成され、定期頻度および停止日付に応じて元帳日付が更新されます。これにより、定期仕訳を配賦する準備が完了します。バッチ タイプ D が定期仕訳に割り当てられます。

定期仕訳の計算および印刷プログラムは、定期頻度、会社、伝票タイプに応じて、バージョンを分けて作成してください。バージョンを分けることにより、定期仕訳をグループ化することができます。

このプログラムを最終モードで実行した後、仕訳の検討および転記を行います。

## 事前設定

定期仕訳の計算および印刷プログラムによって日付が正しく使用されるように、次年度の期間パターンが設定されていることを確認します。

## 定期仕訳処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[定期仕訳入力の処理]	W0912D	[配賦](G0923)、[定期仕訳の計算]	既存の定期仕訳を検索し、検討します。
[定期仕訳入力]	W0912A	[定期仕訳入力の処理] フォームで、[追加]をクリックします。	定期仕訳を作成します。

## 定期仕訳の作成

[定期仕訳入力] フォームにアクセスします。

定期仕訳の計算 - 定期仕訳入力

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) ロー(R) ツール(T)

オプション

計算基準

伝票タイプ \*

JA

3026

会社

00001

元帳タイプ

AA

元帳日付

2005/07/31

停止日付

2006/06/30

状況コード \*

A

摘要 \*

Accrual of Vacation and Sick M

定期頻度

MO

☐ 逆仕訳

配賦方法

&

レコード 1 - 3

グリッドのカスタマイズ

	勘定科目コード	金額	勘定科目名	補助元帳タイプ	補助元帳
<input type="checkbox"/>	9.8130	1,500.00			
<input type="checkbox"/>	1.4205	1,500.00-			
<input type="checkbox"/>					

[定期仕訳入力] フォーム

### [摘要]

配賦により作成される各仕訳の 2 つの記述行の 1 行目に表示される記述を入力します。このフィールドは必須フィールドです。

### [配賦方法]

配賦仕訳の計算方法を示すコードを入力します。このコードは、[金額] フィールドの値と組み合わせて使用されます。有効な値は以下のとおりです。

&: 固定金額

[金額] フィールドに指定した金額が配賦されます。この方法は、定期仕訳を作成するのに使用できます。

?: パーセント

[金額] フィールドに指定したパーセントを使用して、配賦が実行されます。



U:数量

[金額] フィールドに指定した数量からパーセントを作成して、配賦が実行されます。次に、そのパーセントを使用して、勘定科目の範囲内で金額が配賦されます。使用する数量の例としては、面積や従業員数などがあります。

注: パーセントまたは数量を指定すると、[計算基準] タブが有効になります。この場合、金額の配賦元の元帳タイプまたは勘定科目の通貨は、計算の基になる元帳タイプまたはビジネスユニット会社の通貨と同じである必要があります。

[主科目/補助科目範囲]

勘定科目の開始科目と終了科目を入力します。指定した範囲に含まれる勘定科目に転記された金額のみが配賦されます。

[月累計/年累計/予算  
(M/Y/B)]

配賦の基準を、月累計、年累計、最終予算金額の中から、コードで入力します。配賦方法にパーセントまたは数量を指定した場合、このフィールドは必須です。有効な値は以下のとおりです。

M:月累計

月単位（その月に転記する月次計上額）が基準となります。

月累計を基準にした配賦の場合、前の月の修正は含まれませんが、年累計の場合は含まれます。

Y:年累計

期末残高が基準となります。損益勘定の場合は、その年の全転記額の合計が基準となります。貸借対照表勘定の場合は、累計（開始日以降累計）残高です。見越し定期仕訳の場合は、[逆仕訳] チェック ボックスをオンにします。

B:最終予算

一般会計システムおよび作業原価システムでは、当初予算とも呼ばれています。仕訳は作成されません。予算元帳タイプのみ使用します。

[期間]

基準金額に使用する総勘定元帳の期間を数値で入力します。ブランクの場合、現行期間が使用されます。

[金額]

関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス (-) の符号を付けて入力します。

配賦方法がパーセントの場合は、特定の勘定科目に配賦するパーセントを入力します。合計パーセントは必ずしも 100 にする必要はありませんが、元帳タイプ マスターの設定プログラム (P0025) で元帳の貸借一致を必須にするオプションを選択している場合は、借方と貸方が一致している必要があります。

配賦方法が数量の場合は、勘定科目の数量を入力します。金額は、総数量に対する勘定科目の数量の割合（パーセント）に基づいて配賦されます。

## 定期仕訳の計算および印刷プログラムの実行

[配賦] (G0923) の [定期仕訳の計算および印刷] を選択します。

## 定期仕訳の計算および印刷のデータ選択の設定

データ選択で伝票番号と定期頻度を使用して、処理対象の仕訳を指定します。

## 定期仕訳の計算および印刷 (R09302) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムやレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 終了日付

1. 終了日付 配賦の終了日付を入力します。空白にすると、現在の日付が使用されます。

### モード

1. 処理モード 処理モードを入力します。有効な値は以下のとおりです。  
1: テスト モード (レポートの作成)。  
2: 最終モード (取引の作成)。

---

## インデックス配賦の処理

このセクションでは、インデックス配賦と“インデックス計算および印刷”プログラムの概要、および以下の方法について説明します。

- インデックス配賦の作成
- インデックス計算および印刷プログラムの実行
- インデックス計算および印刷プログラムのデータ選択とデータ順序の設定
- インデックス計算および印刷の処理オプションの設定

### インデックス配賦について

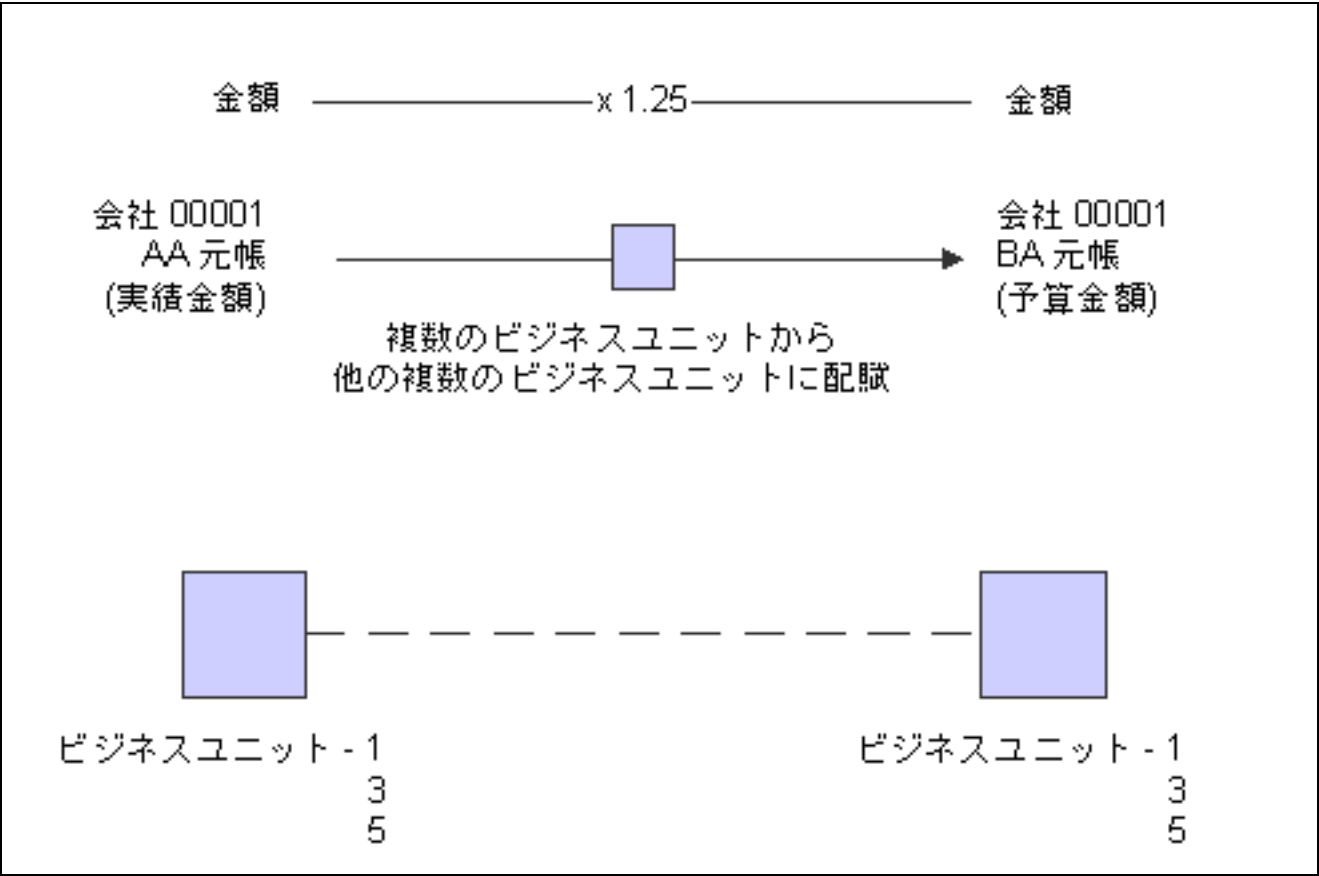
インデックス配賦を使用して、1 つまたは一連のビジネスユニットを別の 1 つのビジネスユニットまたは一連のビジネスユニットに金額を振り替えることができます。インデックス配賦にはコピー機能があるため、柔軟性に優れた、最もよく使用される配賦方法です。たとえば、今年の実績金額を来年の予算にコピーすることができます。インデックス配賦は、以下の用途にも使用できます。

- 間接費として分類された費用を組織内のビジネスユニットまたは会社へ配賦
  - ある会社から別の会社への配賦
  - 金額にマイナスまたはプラスの係数を乗算してから配賦
  - 実績金額に一定のパーセントを掛けて、その金額を予算金額元帳へ配賦
  - 別の勘定科目へ予算金額を配賦
  - 予算フィールド (BORG、BREQ、BAPR) に配賦またはゼロを入力
  - 年次または月次予算を設定
  - 勘定科目にゼロを設定
  - F0911 テーブルに各取引を基準として配賦を作成、または F0902 テーブルの勘定残高を直接更新
- インデックス計算は、インデックス配賦入力ファイル テーブル (F0912A) で管理されます。

1 つの勘定科目または特定範囲の勘定科目の残高に対して、インデックスまたは比率を適用できます。計算の結果得られた残高は、別の勘定、期間、元帳に対して配賦されます。

インデックス配賦を使用して予算を作成するには、残高方式を使用して [インデックス配賦] フォームの詳細グリッドにある各予算フィールドに値を入力します。

次の図は、インデックス配賦を使用して AA 元帳から BA 元帳へ金額を配賦して予算を作成する方法を示します。



インデックス配賦の使用

**例：インデックス配賦**

次の例では、AA 元帳の勘定科目 6110 ～ 6320 の年度末残高にそれぞれ 1.1（現行年度の残高の 10% 増）が乗算されます。計算結果は、翌年の BA 元帳の同じ勘定科目コードに記載されます。

記述	値
年累計勘定残高	50,000
インデックスまたは比率	1.1
次年度に配賦される予算	55,000

## インデックス計算および印刷プログラムについて

インデックス配賦を検討し問題がないことを確認したら、インデックス計算および印刷プログラム (R093021) を実行します。

このプログラムをテスト モードで実行すると、最終モードで作成される仕訳を示したレポートが出力されます。レポートを検討して最終モードでプログラムを実行する前に配賦を変更する必要があるかを判断します。

最終モードでは、次の処理が実行されます。

- 配賦方式に応じて、1 つまたは複数の勘定科目から、残高または取引が読み込まれます。
- 指定された率で各残高または取引が乗算されます。
- F0911 テーブルにバッチ タイプ D で仕訳が作成されます。

残高配賦方式の場合は、仕訳の結果が他の 1 つの勘定科目または特定範囲内の各勘定科目に配賦されます。取引配賦方式の場合は、読み込まれる取引と同額の仕訳が作成されます。

- 必要に応じて仕訳の貸借を一致させるために差額が計算され、勘定科目に配賦されます。
- 配賦の定期頻度に基づいて元帳日付が変更されます。これにより、将来の配賦処理が実行できるようになります。
- 更新の配賦方式の場合は、元帳タイプが AA 以外の F0902 テーブルの残高のみが更新されます。
- インデックス計算仕訳レポートが印刷されます。

このレポートには、配賦に関する詳細情報や、無効な勘定科目や過去期間 (PBCO) の仕訳などのエラーが表示されます。無効の勘定科目は \*\*\* で示されます。

インデックス仕訳の計算および印刷プログラムでは、定期頻度、会社、伝票タイプごとにバージョンを分けて作成してください。バージョンを分けることにより、配賦をグループ化することができます。

このプログラムを最終モードで実行した後、仕訳の検討および転記を行います。

## 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 日付が正しく設定されるように、次の月または次年度の会計期間パターンが設定されていることを確認します。
- 多階層計算プログラムを実行する前に、配賦が正確な順序で実行されるように、[インデックス配賦] フォームの転記順序が正しいことを確認します。

## インデックス配賦の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[インデックス計算の処理]	W09121C	[配賦] (G0923)、[インデックス計算]	既存のインデックス配賦を検索し、検討します。
[インデックス配賦]	W09121A	[インデックス計算の処理] フォームで、[追加] をクリックします。	インデックス配賦を作成します。

## インデックス配賦の作成

[インデックス配賦] フォームにアクセスします。

**インデックス計算 - インデックス配賦**

伝票タイプ/No. JA 19 会社 00001 ☒ 逆仕訳

元帳日付 ★ 2006/02/28 摘要 ★ Allocate Advertising Expense

定期頻度 MO 転記順序 停止日付

勘定科目 9.8605 Advertising

**計算基準** **期間の指定** **状況** **方式**

☒ 期間計上額 ☐ 年累計額

期間 2 承認済み 残高 取崩 更新

会計年度

保留

レコード 1-4 グリッドのカスタマイズ グリッド・フォーマット名1

配賦元 ビジネスユニット	配賦元 主科目	終了 主科目	配賦元 元帳タイプ *	配賦率	配賦先 ビジネスユニット *	配賦先 主科目	配賦先 元帳タイプ *	備考
9	8605	8605	AA	0.35000000	3	8605	AA	Allocate Advertising Expense
9	8605	8605	AA	0.20000000	4	8605	AA	

[インデックス配賦] フォーム

### [会社]

会社番号を入力します。この会社の現行の期間、会計年度、元帳日付を使用して、計算と[元帳日付]フィールドを基にしたエラーの特定が行われます。この会社番号は、作成される仕訳には影響しません。

### [摘要]

配賦についての説明を入力します。入力した内容は、計算により作成される各仕訳の2つの記述行の2行目に表示されます。このフィールドは必須フィールドです。

### [勘定科目]

仕訳の貸借一致または相殺に使用する勘定科目を入力します。このフィールドは、貸借一致が必要な全ての元帳タイプで必須です。ビジネスユニット・主科目・補助科目の形式で入力してください。

予算など貸借が一致しない元帳タイプの場合は、このフィールドを空白にし、[インデックス配賦] フォームの詳細グリッドの各年間予算フィールドを使用します。

### [期間計上額] および [年累計額]

配賦の基準を月累計にするか年累計にするかをコードで入力します。有効な値は以下のとおりです。

M:月累計

月単位(その月に転記する月次計上額)が基準となります。配賦基準に前の月の修正は含まれません。

Y:年累計

期末残高が基準となります。損益勘定の場合は、その年の全転記額の合計が基準となります。貸借対照表勘定の場合は、累計(開始日以降累計)残高です。配賦基準には前の月の修正が含まれます。定期の年配賦を行う場合は、[逆仕訳] チェック ボックスをオンにすると逆仕訳が自動的に設定されます。

[残高]、[取引]、および [更新]

配賦仕訳の作成または更新方式を次のオプションの中から 1 つ選択します。

残高方式。F0902 テーブルの 1 つの勘定科目または特定範囲内の各勘定科目の残高に基づいて仕訳を作成します。年間予算の場合は、この方式を使用してください。その場合、仕訳は作成されません。

取引方式。F0911 テーブルの転記済み取引のうち、指定した範囲の勘定科目の各取引に対して 1 件ずつ仕訳を作成します。

更新方式。F0902 テーブルの AA 元帳タイプ以外の勘定残高を更新します。仕訳は作成されません。

[配賦元ビジネスユニット]

特定のビジネスユニットを入力します。または「\*xxxxx」(アスタリスクおよび会社番号)を入力すると、会社のビジネスユニットを全て指定できます。「\*xxxxx」を入力した場合は、その会社のビジネスユニット全てが使用され、設定されているビジネスユニット セキュリティは無視されます。たとえば、「\*00001」を指定した場合、会社 00001 の全てのビジネスユニットに対して配賦が行われます。通常アクセス権限がビジネスユニット 3 に制限されている場合でも、ビジネスユニット セキュリティは無視されます。

「\*00000」を入力して、全ての会社の全てのビジネスユニットを指定することはできません。

[配賦先ビジネスユニット]

特定のビジネスユニットを入力します。または「\*」を入力すると、[配賦元ビジネスユニット] フィールドに入力したビジネスユニットに転記されます。

[配賦元予算コード]

年間予算の場合にのみ、値を入力します。有効な値は以下のとおりです。

- 1: 申請予算
- 2: 承認予算
- 3: 最終予算

---

注: この 3 つのコードは、残高方式を指定し、定期頻度に AN (年次) を指定した場合にのみ有効です。

---

ブランクは無効です。

[配賦先主科目]

特定の勘定科目を入力します。または「\*」を入力すると、[配賦元主科目] フィールドの勘定科目と同じ勘定科目に転記されます。

[配賦先補助科目]

「\*」を入力すると、[配賦元主科目] フィールドの補助元帳が[終了主科目] フィールドに適用されます。この場合は、[配賦先主科目] フィールドにも「\*」を指定してください。

[配賦先補助元帳タイプ]

元帳タイプを入力します。年間予算の場合、このフィールドをブランクにすると、デフォルトは BA になります。他の元帳タイプの場合、このフィールドをブランクにすると、デフォルトは AA になります。

[備考]

配賦についての説明を入力します。入力した内容は、計算により作成される各仕訳の 2 つの記述行の 2 行目に表示されます。

## インデックス計算および印刷プログラムの実行

[配賦] (G0923) の [インデックス計算および印刷] を選択します。

## インデックス計算および印刷プログラムのデータ選択とデータ順序の設定

伝票番号を使用して処理対象の配賦を指定します。

多階層配賦を行う場合は、階層に含める配賦伝票番号を全て指定します。たとえば、多階層配賦が伝票 JA 1000、JA 1001、JA 1002 から成る場合は、データ選択に伝票 1000、1001、1002 を含めます。

このプログラムのデモ バージョンで設定されているデータ順序は変更しないでください。

## インデックス計算および印刷 (R093021) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムやレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

1. 処理モード
- 処理モードを入力します。有効な値は以下のとおりです。
- 1: テスト モード (レポートの作成)。
  - 2: 最終モード (取引の作成)。

### 監査証跡

1. 監査証跡の印刷
- 監査証跡を印刷するかどうかを指定します。有効な値は以下のとおりです。
- blank: 仕訳のみ印刷する。
- 1: 各仕訳の全ての取引または勘定科目の監査証跡を印刷する。

### 配賦の設定

1. 終了日付
- 配賦の終了日付を入力します。この処理オプションをblankにすると、配賦を処理した日付が使用されます。

### 多階層

1. 多階層処理
- 多階層を含めるかどうかを指定します。有効な値は以下のとおりです。
- blank: このバッチの前に作成された転記済み取引のみ含める。
- R: このバッチで作成された取引の金額を多階層の合計に含める。

### 摘要

1. 仕訳の摘要
- 仕訳の摘要の処理方法を指定します。有効な値は以下のとおりです。
- blank: 詳細情報の 1 行目の説明が入ります。
- 1: 計算の基になる取引明細から新規の取引の 1 行目の説明が入ります。
- この処理オプションは、取引配賦方法にのみに適用されます。

### エラー

1. エラー
- エラー メッセージの送信先を指定します。
- blank: ワーク センターに送信する。
- 1: レポートにエラーを印刷する。

## ログの警告

1. 警告 エラーと警告を記録するかどうかを指定します。有効な値は以下のとおりです。  
ブランク: 全てのエラーと警告を記録する。  
1: 警告を記録しない。

---

## 変数配賦の処理

このセクションでは、変数配賦と計算の概要、および以下の方法について説明します。

- 変数配賦の作成
- 変数配賦計算および印刷プログラムの実行
- 変数配賦の計算および印刷のデータ選択の設定
- 変数配賦の計算および印刷の処理オプションの設定

### 変数配賦について

変数配賦は、柔軟性は低いですが動的な処理が可能な配賦方法です。変数配賦を使用すると、次の処理ができます。

- 共通のカテゴリコード値を使用して、1つのビジネスユニットから他の複数のビジネスユニットに金額を配賦します。

この機能は、変数配賦に固有の機能です。

- 人数や床面積、使用率などの変数を配賦の基準とします。

変数を変更されると、配賦率も自動的に変更されます。この機能も、変数配賦に固有の機能です。

- 予算金額を設定します。

1つの勘定科目または指定した範囲の勘定科目の残高に適用されるパーセントが計算され、変数配賦が計算されます。金額は特定の主科目だけに割り当てられます。ただし、基準項目の定義を適切に設定すれば、その主科目に対して指定した範囲の補助科目および補助元帳に割り当てることができます。ビジネスユニットや勘定範囲別ではなく、ビジネスユニットのカテゴリコード別に勘定科目を指定することができます。パーセントは、指定した勘定科目の合計残高に対する割合を示します。この割合は、残高合計を分母、各勘定残高を分子として計算されます。

変数配賦の計算時には、次の処理が実行されます。

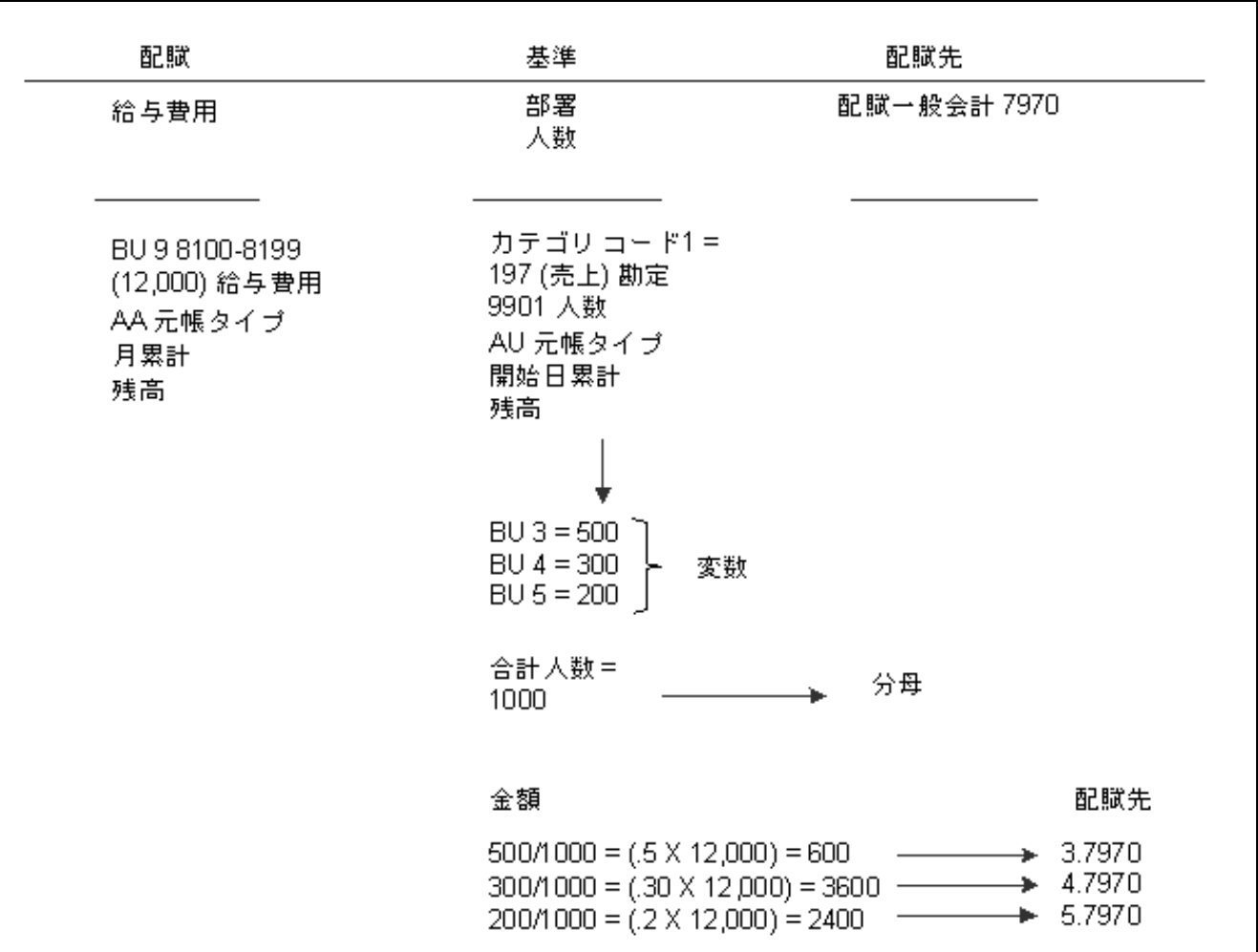
1. 勘定科目範囲の残高が合計されます（基準勘定）。
2. 各勘定残高の合計に対するパーセントが計算されます。
3. 1つの勘定科目または指定した範囲の勘定科目（配賦勘定）の残高に、該当するパーセントが適用されます。
4. 仕訳が作成され、計算された金額が複数のビジネスユニットにある特定の勘定科目（配賦先勘定）に配賦されます。
5. 仕訳の貸借を一致させる必要がある場合は、差額が計算され、指定した勘定科目に計上されます。



変数配賦にバッチ タイプ D が割り当てられ、変数配賦ファイル テーブル (F0912B) に計算の詳細情報が保管されます。

例: 変数配賦

この例では、年累計給与費用金額 (12,000) を複数のビジネスユニット (元帳タイプ BU) に配賦します。各ビジネスユニットに対する配賦額の基準として各部署の従業員数を使用します。



費用勘定の配賦

変数配賦計算について

変数配賦を検討して正しいことを確認した後、変数配賦計算および印刷プログラム (R093022) を実行して、配賦処理を行い、変数配賦仕訳レポートを印刷します。

このプログラムをテスト モードで実行すると、最終モードで作成される仕訳を示したレポートが出力されます。最終モードでプログラムを実行する前に、レポートを参照して必要な修正を行います。

最終モードでは、次の処理が実行されます。

- F0911 テーブルに仕訳が作成されます。
- 配賦の定期頻度に応じて配賦の元帳日付が変更されます。  
これにより、将来の配賦処理が実行できるようになります。

- 変数配賦仕訳レポートが印刷されます。  
次の情報がレポートに記載されます。
  - 配賦する合計金額が配賦合計金額の横に記載されます。
  - 基準金額カラムの金額は分子であり、計算の基準となります。
  - 基準合計の横の金額は、計算の分母です。
  - 計算の結果はレポート下部の配賦金額の下に記載されます。
  - 勘定科目もレポートの一番下に印刷されます。

また、このレポートには配賦に関する詳細情報や、無効な勘定科目や過去期間 (PBCO) の仕訳などのエラーも表示されます。定期頻度、会社、伝票タイプごとに別々のバージョンを作成してください。バージョンを分けることにより、配賦をグループ化することができます。

このプログラムを最終モードで実行した後、仕訳の検討および転記を行ってください。

## 事前設定

多階層計算が含まれるバージョンを実行する場合は、事前に [変数配賦計算の指定] フォームの転記順序が正しいことを確認します。

## 変数配賦の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[変数配賦の処理]	W09122B	[配賦] (G0923)、[変数配賦]	既存の変数配賦を検索し、検討します。
[変数配賦計算の指定]	W09122C	[変数配賦の処理] フォームで、[追加] をクリックします。	変数配賦を作成します。

## 変数配賦の作成

[変数配賦計算の指定] フォームにアクセスします。

**変数配賦 - 変数配賦計算の指定**

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

伝票タイプ/No. \* JA 3150 会社 \* 00001 Financial/Distribution Company

**基本情報** **詳細情報**

配賦元		基準(比率)	
開始ビジネスユニット	9	カテゴリ・コードNo.	01 値 197
カテゴリ・コードNo.	値	主科目	9901 ~ 9901
主科目	8100 ~ 8199	補助科目	~
補助科目	~	補助元帳タイプ	~
補助元帳タイプ	~	補助元帳	~
元帳タイプ	AA	元帳タイプ	AU
特別期間/年度	~	特別期間/年度	~
<b>使用する金額</b> <input type="radio"/> 月累計 <input checked="" type="radio"/> 年累計 <input type="radio"/> 開始累計		<b>使用する金額</b> <input type="radio"/> 月累計 <input type="radio"/> 年累計 <input checked="" type="radio"/> 開始累計	

**配賦先**

主科目 *	7970	補助科目	
タイプ/補助元帳		元帳タイプ	AA

[変数配賦計算の指定] フォーム - [詳細情報] タブ

## [基本情報]

[基本情報] タブを選択します。

### [摘要]

配賦についての説明を入力します。入力した内容は、配賦により作成される各仕訳の 2 つの記述行の 1 行目に表示されます。

### [勘定科目コード]

元帳の貸借一致が必須の場合に勘定科目コードを入力します。

### [タイプ/補助元帳]

全ての補助元帳を指定する場合は、「\*」を入力します。空白にすると、空白の補助元帳の転記済み取引のみが含まれます。

## [詳細情報]

[詳細情報] タブを選択します。

### [開始ビジネスユニット] または、[カテゴリ・コード No.] および[値]

指定範囲のビジネスユニット番号の最初のビジネスユニット、またはビジネスユニット カテゴリ コードを示す 1 から 30 の数値を入力します。カテゴリコードを使用すると複数のビジネスユニットをグループ化し、全てのビジネスユニットの合計金額を配賦できます。たとえば、01 を使って地域別にグループ化することができます。ビジネスユニット カテゴリ コードには、対応する特定の値を入力します。たとえば、カテゴリ コード 01 に値 WES を指定して、西部地域のビジネスユニットのみを表すことができます。

### [補助科目]

補助科目を入力します。または「\*」を入力すると、[配賦先] の [主科目] フィールドが異なっても、基準フィールドの補助科目と同じ補助科目に転記されます。

### [月累計]、[年累計]、[開始累計]

月累計、年累計、開始累計のどの金額を使用して配賦を行うかを指定します。

月累計の場合、その月に転記する月次計上額（会計期間）が基準となります。配賦基準に前の月の修正は含まれません。

年累計の場合、期末残高が基準となります。損益勘定の場合は、その年の指定した月末までの全転記額の合計が基準となります。貸借対照表勘定の場合は、指定した月末までの累計残高です。配賦基準には前の月の修正が含まれます。

開始累計の場合は、指定した月末までの累計残高が基準となります。この配賦には、前の月の修正と前の年からの転記全てが含まれます。

#### [補助元帳タイプ]

金額の転記先補助元帳を指定するコードを入力します。

補助科目、基準のビジネスユニット、配賦先の主科目、配賦先の補助元帳、配賦先の元帳タイプ、および補助元帳タイプの勘定科目の各フィールドによって、配賦を転記する勘定科目が決まります。

## 変数配賦計算および印刷プログラムの実行

[配賦] (G0923) の [変数配賦計算および印刷] を選択します。

## 変数配賦計算および印刷のデータ選択の設定

伝票番号を使用して処理対象の配賦を指定します。

多階層配賦を行う場合は、階層に含める配賦伝票番号を全て指定します。たとえば、多階層配賦が伝票 JA 1000、JA 1001、JA 1002 から成る場合は、データ選択に伝票 1000、1001、1002 を含めます。

## 変数配賦計算および印刷 (R093022) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムやレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 有効日付

1. 有効日付 配賦の終了日付を入力します。空白にすると、現在の日付が使用されます。

### モード

1. 処理モード 処理モードを入力します。有効値は以下のとおりです。  
1: テスト モード（レポートの作成）。  
2: 最終モード（取引の作成）。

### 多階層

1. 多階層処理 多階層を含めるかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
空白: このバッチの前に作成された転記済み取引のみ含める。  
1: このバッチで作成された取引の金額を多階層の合計に含める。

### ゼロ省略

1. ゼロ金額を印刷しない ゼロの金額を印刷するかどうかを指定します。

ブランク:印刷する。

1: 配賦元と基準の金額がゼロの場合は、その金額を印刷しない。

## エラー

### 1. エラーの印刷

エラー メッセージの送信先を指定します。

ブランク:ワーク センターに送信する。

1: レポートにエラーを印刷する。



## 第 15 章

# 銀行勘定科目の残高調整

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、銀行勘定科目の残高調整、無効な支払および入金の残高調整の概要、および以下の方法について説明します。

- 無効な支払および入金の残高調整
- 勘定科目の残高調整情報の更新
- 銀行勘定科目の手動残高調整
- 調整済み取引の未調整への変更
- (Rapid Start) Reconcile bank account transactions

---

## 銀行勘定残高調整について

期末処理の一環として、銀行勘定科目の残高と銀行残高照合表の調整が必要な場合があります。

初期設定実行後は、手動残高調整プログラム (P09131) を使用して、月ごとに銀行勘定の残高を簡単に調整することができます。

**関連項目:**

第 4 章、「勘定残高調整の設定」、35ページ

---

## 無効な支払および入金の残高調整

このセクションでは、自動残高調整プログラムの概要と以下の方法について説明します。

- 無効な支払の残高調整
- 無効な入金の残高調整

### 無効支払/入金の自動残高調整プログラムについて

無効な支払および入金の残高を手動で調整する代わりに、次のプログラムを実行することにより、勘定科目の残高調整にかかる時間を節約できます。

- 無効支払の自動残高調整 (R09551)
- 無効入金の自動残高調整 (R09552)

これらのプログラムを使用すると、F0911 テーブル内の取引の GLRCND フィールドがデフォルトの残高調整コード R に更新され、無効な支払と入金（および残高ゼロの支払と入金）が自動的に調整されます。支払の残高調整時には、無効支払の自動残高調整プログラムにより、手動で無効にした支払、および自動支払処理中に無効処理された支払が選択されます。

これらのプログラムは、残高調整テーブルの再作成プログラム (R09130) の実行前に実行して、無効および残高ゼロの支払と入金 F0911R ワークファイルに含まれないようにする必要があります。

無効支払の自動残高調整プログラムと無効入金の自動残高調整プログラムには、処理オプションがありません。

## 無効な支払の残高調整

[銀行テープの残高調整] (G09213) の [無効な支払の自動残高調整] を選択します。

## 無効な入金の残高調整

[銀行テープの残高調整] (G09213) の [無効な受領の自動残高調整] を選択します。

---

## 勘定科目の残高調整情報の更新

このセクションでは、残高調整テーブルの再作成プログラムの概要と以下の方法について説明します。

- 残高調整テーブルの再作成プログラムの実行
- 残高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定
- 残高調整テーブルの再作成 (R09130) の処理オプションの設定

## 残高調整テーブルの再作成プログラムについて

勘定科目の残高調整前に、残高調整テーブルの再作成プログラム (R09130) を実行してください。通常は、会計期間の最後にこのプログラムを実行してその期間内の取引を調整します。残高調整テーブルの再作成プログラムにより、調整可能な全勘定科目の未調整の取引明細が、F0911 テーブルから F0911R 調整ワークファイルにコピーされます。

F0911R ワークファイルが更新されるたびに、テーブル内の調整済み取引が全て取り除かれ、残高調整テーブルの再作成プログラムの処理オプションとデータ選択の条件に一致する新しい取引に置き換えられます。たとえば、このプログラムを 1 月に実行してその月の全取引を調整後、2 月に再びこのプログラムを実行すると、F0911R ワークファイルから 1 月の調整済み取引が全て取り除かれ、2 月の未調整取引に置き換えられます。

残高調整テーブルの再作成プログラムでは、次の基準を満たす取引のレコードが選択されます。

- 調整する勘定科目が、AAI 項目 GLRCxx の範囲内にある。
- 取引の元帳日付が、処理オプションの開始日付と終了日付で指定された範囲内にある。
- 取引の GLRCND フィールドがブランク（未調整）である。

残高調整テーブルの再作成プログラム実行時には、AAI 項目 GLRCxx の範囲内の全勘定科目の情報を一度に更新できます。また、データ選択を使用して特定の勘定科目を更新することも可能です。



残高調整テーブルの再作成プログラムで作成される F0911R ワークファイルは 1 つのみです。ただし、CNC 機能を使用して F0911R ワークファイルをローカルで指定し、勘定科目ごとにワークファイルを作成することができます。

## 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- AAI 項目 GLRCxx の AAI 範囲を設定し、残高調整の対象とする勘定範囲を指定します。
- デフォルトの残高調整コード R を使用しない場合は、UDC テーブル 09/RC の残高調整コードを設定します。

## 残高調整テーブルの再作成プログラムの実行

[手動残高調整] (G09209) の [残高調整テーブルの再作成] を選択します。

## 残高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定

処理を高速化するには、データ選択を使用して、残高調整を行う勘定科目を指定します。

1 つの勘定科目に対して F0911R ワークファイルを 1 つ作成する場合は、データ選択に略式 ID を指定します。ある勘定科目に対して残高調整テーブルの再作成プログラムを実行し、次に別の勘定科目に対して再びプログラムを実行した場合、最初に調整された勘定科目の取引は取り除かれませんが、代わりに、最初に調整された勘定科目の取引に 2 つ目の勘定科目のレコードが追加されます。同じ勘定科目に対して続けてプログラムを実行した場合のみ、F0911R ワークファイル内の調整済み取引が全て取り除かれます。

## 残高調整テーブルの再作成 (R09130) の処理オプションの設定

処理オプションで、日付、残高調整状況、元帳タイプ、伝票タイプが AE の取引、および印刷するメッセージを選択します。

### 選択

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| <b>1. 開始日付 および 2. 終了日付</b> | F0911 テーブルからレコードを選択するときに使用される開始日付と終了日付を指定します。   |
| <b>3. 調整済み状況</b>           | 有効値は以下のとおりです。<br>ブランク: 調整済みレコードのみ選択する。<br>1: 調整済みと未調整両方のレコードを選択する。<br>調整済みと未調整両方の取引を常に選択していると、F0911R が非常に大きくなる可能性があります。これは処理時間に大きく影響します。既に残高調整を行ったレコードを訂正する必要がある場合のみ、調整済みレコードを含めるようにしてください。 |

### デフォルト

- |                 |   |
|-----------------|---|
| <b>1. 元帳タイプ</b> | F0911 テーブルからレコードを選択する場合は、元帳タイプ (UDC テーブル 09/LT) を指定します。ブランクにした場合、全ての伝票タイプが選択されます。 |
|-----------------|---|

## 表示

1. 伝票タイプ AE      F0911 テーブルからレコードを選択するときに、伝票タイプ AE の取引を含めるかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
- ブランク: 含めない。
- 1: 含める。

## 印刷

1. メッセージ      残高調整テーブルの再作成レポート (R09130) に印刷するメッセージを指定します。有効値は以下のとおりです。
- ブランク: 再作成された勘定科目に対するメッセージのみ印刷する。
- 1: 全勘定科目に対するメッセージを印刷する。

---

# 銀行勘定科目の手動残高調整

このセクションでは、銀行勘定科目の手動残高調整と残高調整レポートの概要、および以下の方法について説明します。

- 手動残高調整 (P09131) の処理オプションの設定
- 勘定科目の手動残高調整

## 銀行勘定科目の手動残高調整について

[銀行勘定科目の残高調整] フォームで残高調整すると、デフォルトの残高調整コード R または選択した残高調整コードがフォームの取引に表示されます。取引を調整すると、[未調整借方金額] と [未調整貸方金額] フィールドの額が更新されます。[調整金額] フィールドの値も、次の式により更新されます。

$(\text{銀行残高} + \text{未調整借方金額} + \text{未調整貸方金額}) - \text{帳簿残高} = \text{調整金額}$

- 銀行残高 = 銀行残高照合表の金額
- 未調整借方金額および未調整貸方金額 = F0911 ワークファイル内の調整済みマークのないレコード
- 銀行残高 = F0902 テーブルの勘定残高 (貸借対照表勘定の繰越残高を含む)

## 残高調整レポートについて

銀行勘定科目取引の残高を調整したら、残高調整レポートの印刷 (R09132P) を実行し、未調整項目のリストを出力します。

レポートに使用される日付範囲は、残高調整テーブルの再作成プログラムの処理オプションに入力した範囲と同じです。別の日付範囲に対して残高調整レポートの印刷を実行するには、処理オプションの日付範囲を変更して残高調整テーブルの再作成プログラムを再実行する必要があります。

## 勘定科目の手動残高調整に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[残高調整]	W09131D	[手動残高調整] (G09209)、 [手動残高調整]	残高調整のタイプを選択します。
[銀行勘定科目の残高調整]	W09131A	[残高調整] フォームで [銀行勘定科目の残高調整] を選択します。	銀行勘定残高の調整、または未調整への変更を手動で行います。

## 残高調整 (P09131) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、デフォルト値を選択します。

### デフォルト

1. 元帳タイプ UDC テーブル 09/LT から元帳タイプ コードを指定します。空白にした場合、デフォルトの元帳タイプ AA が使用されます。
2. 参照 3 F0911 テーブル内のレコードの参照 3 フィールドを残高調整番号で更新するかどうかを指定します。残高調整番号は、自動採番プログラム (P0002) によって自動的に採番されます。この残高調整番号は、残高調整時に変更することができます。空白にすると、参照 3 フィールドは更新されません。

### 貸借の検証

このタブの処理オプションは、借方と貸方の調整プログラムでのみ使用します。

参照: [第 4 章、「勘定残高調整の設定」、35 ページ](#)

## 銀行勘定科目の手動残高調整

[銀行勘定科目の残高調整] フォームにアクセスします。

**手動残高調整 - 銀行勘定科目の残高調整**

検索(I) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) レポート(P) ツール(T)

勘定科目コード: 1.1110.BEAR 終了日付: 2005/12/31

☒ 未調整のみ 開始日付: \* オプション

銀行残高: 12,599.00

未調整借方金額: 5,838,298.77

未調整貸方金額: 4,306,764.13-

帳簿残高: 2,428,332.31

調整金額: 884,198.67-

[銀行勘定科目の残高調整] フォーム (1/2)

レコード 201 - 323 / 323 グリッドのカスタマイズ

	調整	金額	摘要 名称	支払 No.	元帳日付	参照 1	参照
<input type="checkbox"/>		1,980.00-	Bank Deposit	05004410	06/30/05	00128111	0
<input type="checkbox"/>		4,950.00-	Bank Deposit	05004411	06/30/05	00128113	0
<input type="checkbox"/>		132,162.50	June Activity		06/30/05		
<input type="checkbox"/>		1,500.00-	Bank Service Charge		06/30/05		

[銀行勘定科目の残高調整] フォーム (2/2)

- [勘定科目コード] フィールドに、残高調整テーブルの再作成プログラムを実行した勘定科目の銀行勘定科目コードを入力します。
- 未調整項目と調整済み項目の両方を表示する場合は、[未調整のみ] チェック ボックスをオフにします。  
残高調整テーブルの再作成プログラムの [調整済み状況] 処理オプションに 1 を入力した場合のみ、調整済み項目を表示することができます。
- [開始日付] フィールドに元帳日付を入力すると、表示される取引が限定されます。  
残高調整テーブルの再作成プログラムの [開始日付] および [終了日付] 処理オプションに指定した範囲内の日付を入力してください。[開始日付] 処理オプションに入力した日付より前の取引を表示する場合は、この処理オプションの日付を変更して残高調整テーブルの再作成プログラムを再実行する必要があります。
- 銀行残高照合表に記載されている残高を [銀行残高] フィールドに入力し、[検索] をクリックします。
- 勘定科目に表示する取引をさらに絞り込む場合は、[フォーム] メニューから [オプション] を選択します。
- [オプション] で、フィールドに値を入力します。  
たとえば、[伝票No.] フィールドに値を入力すると、その番号の伝票のみが表示されます。この機能は、特定の取引を検索する場合に便利です。

- [参照1]  
入力の場合は、入力のバッチ番号を入力します。  
支払の場合は、支払番号を入力します。
  - [参照2]  
入力の場合は、入力の伝票番号を入力します。  
支払の場合は、支払の仕入先番号を入力します。
7. [銀行勘定科目の残高調整] で、[検索] をクリックします。  
[オプション] チェック ボックスがオンになります。これは、[オプション] フォームで指定した条件に合致する取引のみが表示されていることを示します。
  8. 1 件の取引に残高調整済みのマークを付ける場合は、取引をダブルクリックするか、または取引を選択して [ロー] メニューから [調整の切替] を選択します。
  9. 複数の取引 (または全ての取引) に残高調整済みのマークを付ける場合は、該当する取引を選択した後、[ロー] メニューから [調整の切替] を選択します。  
取引に残高調整済みのマークを付けると、以下の処理が実行されます。
    - 手動残高調整プログラムの [参照3] 処理オプションに 1 が設定されている場合は、[参照3の選択] フォームが表示され、自動採番により使用可能な次の番号が表示されます。全ての取引で同じ調整番号を使用しない場合は、[参照3の選択] フォームの [フォーム] メニューから [単一項目を更新] を選択します。取引調整時に毎回このフォームが表示されるので、取引ごとに新しい番号を入力できます。
    - [銀行勘定科目の残高調整] フォームの [調整] フィールドに R (または選択した残高調整コード) が入力されます。
  10. 残高調整済み取引を未調整に変更する場合は、取引をダブルクリックするか、または取引を選択して [ロー] メニューから [調整の切替] を選択します。
  11. 残高調整処理を完了するには、[フォーム] メニューから [F0911更新] を選択します。次の処理が行われます。
    - F0911R ワークファイルの GLR3 フィールドに残高調整番号が新たに入力されます。
    - 全調整済み取引に対して、F0911 テーブルの GLRCND フィールドが F0911R ワークファイルの情報で更新されます。
    - 残高調整プログラムの [参照3] 処理オプションに 1 が設定されている場合は、F0911 テーブルの GLR3 フィールドが F0911R ワークファイルの残高調整番号で更新されます。
  12. レポートを印刷するには、[レポート] メニューから [残高調整表の印刷] を選択します。

---

## 調整済み取引の未調整取引への変更

残高調整処理を終了した後に、調整済み取引を未調整取引に変更できます。取引を未調整に変更すると、F0911R ワークファイルから R (または選択した残高調整コード) が削除されます。残高調整プログラムの [参照3] 処理オプションを 1 に設定した場合は、割り当てられた残高調整番号も取引から削除されます。調整済み取引を未調整に変更したら、F0911 テーブルを更新して残高調整コードを取引から削除してください。

取引を調整した後に残高調整テーブルの再作成プログラムを実行した場合は、このプログラムを再実行し、[調整済み状況] 処理オプションを 1 に設定して調整済み取引を選択対象に含める必要があります。

現行会計期間以外の期間について、調整済み取引を未調整に変更する必要がある場合は、残高調整テーブルの再作成プログラムを実行する必要があります。

- [調整済み状況] 処理オプションを 1 に設定し、調整済み取引を選択対象に含めます。
- [開始日付] および [終了日付] 処理オプションを変更し、変更する取引の元帳日付がその範囲内になるようにします。

## (Rapid Start) Reconciling Bank Account Transactions Manually

This section discusses:

- How to reconcile bank account transactions manually.
- Preconfigured processing options for Refresh Reconciliations File (R09130).
- Preconfigured processing options for Manual Reconciliation (P09131).

### Reconciling Bank Account Transactions

This table lists the tasks for reconciling bank account transactions manually.

Task	Navigation	Program and Version	Preconfigured Data
Reconcile voided payments.	Process Account Reconciliation Reconcile Void Payments	R09551/RIS0001	None
Reconcile voided receipts.	Process Account Reconciliation Reconcile Void Receipts	R09552/RIS0001	None
Generate the reconciliation work table.	Process Account Reconciliation Refresh Reconciliation Table	R09130/RIS0001	AAI account ranges: • GLRC01 – 1100 • GLRC02 – 1100.9999
Reconcile accounts.	Process Account Reconciliation Reconcile Transactions Manually	P09131/RIS0001	None
Print reconciliation report.	Process Account Reconciliation Print Reconciliation Report	R09132P/RIS0001 R09132P/RIS0002 R09132P/RIS0003	Bank accounts: • 1.1110.OPER1 • 1.1110.OPER2 • 1.1110.OPER3

Data reports provide additional information about data that has been preconfigured for Rapid Start.

## Preconfigured Processing Options for Rapid Start Refresh Reconciliations File (R09130)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Select

Processing Option Description	Value or Status
1. Beginning Date	1/1/2004
2. Ending Date	12/31/2005
3. Reconciled Status	blank

### Default

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type	AA

### Display

Processing Option Description	Value or Status
1. Document Type Filter	blank

### Print

Processing Option Description	Value or Status
1. Messages	blank

## Preconfigured Processing Options for Manual Reconciliation (P09131)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Defaults

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type	AA
2. Reference 3	blank

### Debit/Credit Edits

Processing Option Description	Value or Status
NOTE: Only use these processing options, if using Debit/Credit Match	blank

Processing Option Description	Value or Status
1. Debit/Credit Balance	1
2. Tolerance Limit Enter a tolerance limit amount for matching debits and credits. If left blank, debits and credits must balance.	0
3. Sort By	blank



## 第 16 章

# 借方と貸方の調整

この章では、借方と貸方の調整処理の概要と、借方取引と貸方取引の手動調整の方法について説明します。

---

## 借方と貸方の調整処理について

借方と貸方の調整プログラム (P09131) を使用して、取引勘定または仮勘定などの特定の勘定科目の借方と貸方を調整することができます。たとえば、ある売掛金勘定が貸借不一致の場合に、このプログラムを使用して借方取引と貸方取引を照合し、貸借不一致の原因となっている取引を見つけます。

借方取引と貸方取引の調整処理は次のステップから構成されます。

1. 無効な支払および入金を調整します。

参照: 第 15 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「無効な支払および入金の残高調整」、145ページ

2. 勘定科目情報を更新します。

参照: 第 15 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「勘定科目の残高調整情報の更新」、146ページ

3. 借方取引と貸方取引の調整、または未調整への変更を行います。

---

## 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 無効支払の自動残高調整プログラムの実行
- 無効入力の自動残高調整プログラムの実行
- 残高調整テーブルの再作成プログラムの実行

---

## 借方取引と貸方取引の調整

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 借方と貸方の調整プログラムの処理オプションの設定
- 借方取引と貸方取引の手動残高調整

## 借方取引と貸方取引の残高調整に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[残高調整]	W09131D	[手動残高調整] (G09209)、 [手動残高調整]	残高調整のタイプを選択します。
[銀行勘定科目の残高調整]	W09131A	[残高調整] フォームで [借方と貸方の調整] を選択します。	借方と貸方の金額の調整と未調整への変更を手動で行います。

## 手動残高調整 (P09131) の処理オプションの設定

借方と貸方の調整プログラムの処理オプションは、手動残高調整プログラムの [貸借の検証] タブに表示されます。この処理オプションを使用して、手動残高調整処理前に貸借を一致させる必要があるかどうかを指定します。

### 貸借の検証

このタブの処理オプションは、借方と貸方の調整プログラムのみで使用されます。

#### 1. 貸借の一致

貸借一致を必須にするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 必須にしない。

1: 必須にする。

この処理オプションに「1」を入力し、[許容限度額] 処理オプションをブランクにすると、貸借の完全な一致が必須となり、一致しない場合はエラーとなります。

#### 2. 許容限度額

貸借不一致が可能な許容限度額を指定します。この処理オプションは、[貸借の一致] 処理オプションに「1」を入力した場合にのみ使用します。

[貸借の一致] 処理オプションに「1」を入力し、この処理オプションをブランクにした場合は、貸借の完全な一致が必須となり、一致しない場合はエラーとなります。

[貸借の一致] 処理オプションに「1」を入力してこの処理オプションで金額を指定した場合、借方/貸方の金額の差異はこの許容限度額以下である必要があります。貸借不一致の金額が許容限度額に等しい場合は、調整済みと見なされ、エラー メッセージは生成されません。たとえば、この処理オプションに 5.00 を入力した場合、5.00 の貸借不一致は許容されます。許容限度額を超えた場合は、エラー メッセージが生成されます。

#### 3. ソート順

取引のソート方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 元帳日付でソートする。

1: 金額でソートする。借方であるか貸方であるかに関係なく、取引は金額でソートされます。このとき、借方と貸方の金額が一緒に表示されます。元帳日付でソートする場合は、相殺金額が検索されます。

## 借方取引と貸方取引の手動残高調整

[銀行勘定科目の残高調整] フォームにアクセスします。

借方取引と貸方取引の手動残高調整のステップは、以下のステップを除き銀行勘定科目の手動残高調整と同じです。

借方取引と貸方取引の手動残高調整を行うには、次の手順に従います。

1. F0911R ワークテーブル内の取引に残高調整済みのマークを付ける場合は、取引をダブルクリックまたは選択した後、[フォーム] メニューから [借方/貸方の残高調整/未調整] を選択します。

取引に残高調整済みのマークを付けると、[借方合計額] と [貸方合計額] フィールドが更新されます。

2. 残高調整済み取引を未調整に変更する場合は、取引をダブルクリックまたは選択した後、[フォーム] メニューから [借方/貸方の残高調整/未調整] を選択します。

参照: 第 15 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「調整済み取引の未調整取引への変更」、151 ページ

3. 調整処理を完了するには、[フォーム] メニューから [F0911 更新] を選択します。

次の条件を満たす場合のみ、F0911R ワークファイルの GLRCND フィールドが R (または指定した調整コード) に更新されます。

- 残高調整プログラムの [借貸の一致] 処理オプションが 1 の場合に、借方/貸方の差異がゼロであるか、借方/貸方の金額が [許容限度額] 処理オプションで指定した範囲内である。
- 残高調整プログラムの [借貸の一致] 処理オプションがブランクになっている。

これらの条件が満たされない場合は、エラー メッセージが表示され、F0911R ワークファイル内の取引は調整済みに更新されません。

4. 未調整項目のレポートを印刷する場合は、[レポート] メニューから [残高調整表の印刷] を選択します。



## 第 17 章

# 銀行テープによる残高調整

この章では、銀行テープによる残高調整処理の概要および以下の方法について説明します。

1. 銀行テープの再フォーマット
2. 無効な支払および入金の高調整
3. 勘定科目の高調整情報の更新
4. 銀行テープと高調整ワークファイルの照合
5. 銀行テープによる高調整の検証

### 関連項目:

第 15 章、「銀行勘定科目の高調整」、「無効な支払および入金の高調整」、145ページ

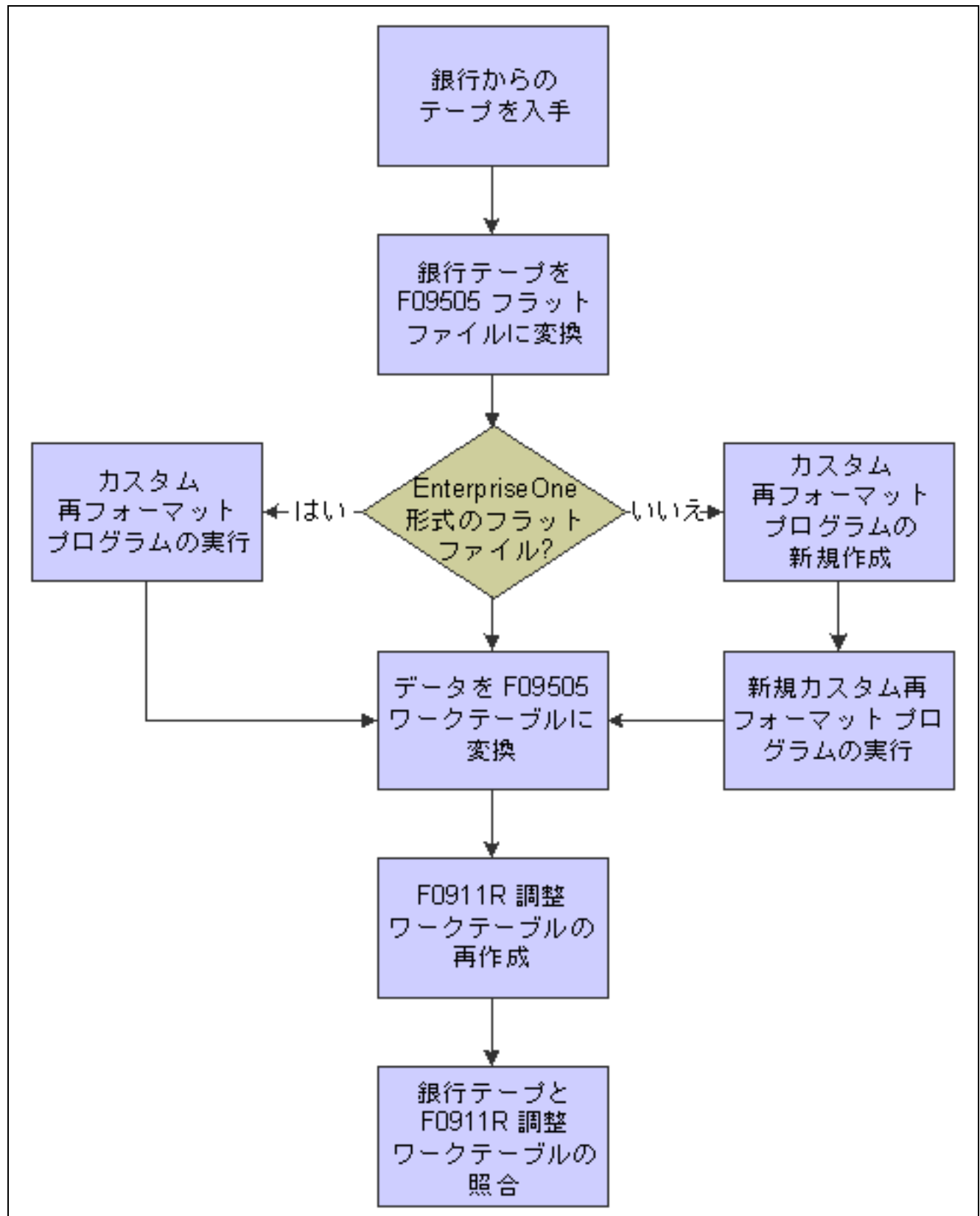
---

## 銀行テープによる高調整処理について

銀行勘定科目が決済済みの取引のテープを銀行から入手した場合、一般会計システムを使用して、勘定科目の自動高調整ができます。銀行からは、磁気メディアのテープを入手する必要があります。

取引の自動高調整を行うには、あらかじめ銀行テープのデータをフラット ファイル F095051 に変換する必要があります。その後、カスタム再フォーマット UBE プログラム (R09501) を実行します。このプログラムは、F095051 のデータを F09505 ワークファイルに変換します。カスタム再フォーマット UBE プログラムでデータ変換を行うためには、データが F095051 ワークファイルの特定の位置にマッピングされている必要があります。マッピングされていない場合は、カスタム再フォーマット プログラムを新規に作成する必要があります。

次の図は、銀行テープによる高調整処理を示しています。



調整処理

## 銀行テーブルの再フォーマット

このセクションでは、銀行テーブルの再フォーマットに使用するプログラムの概要と以下の方法について説明します。

- カスタム再フォーマット UBE プログラムの実行
- カスタム再フォーマット UBE (R09501) の処理オプションの設定

### 銀行テーブルの再フォーマットに使用するプログラムについて

銀行テーブルを F095051 フラット ファイルに変換したら、カスタム再フォーマット UBE プログラムを実行し、F09505 ワークファイルに情報を変換します。

カスタム再フォーマット UBE プログラムでデータが F09505 ワークファイルに変換されるには、F095051 ワークファイルの次の位置にデータが格納されている必要があります。

位置	情報	仕様
位置 1 ～ 8	略式 ID	ID は、先頭のゼロを省いても、右揃えでも左揃えでも入力できます。
位置 9 ～ 16	支払番号	先頭にゼロを置き、右揃えで支払番号を入力します。
位置 17 ～ 46	摘要	支払の概要を入力します。
位置 47 ～ 61	金額	通貨に小数点を使用している場合は、小数点とそれ以下の金額を全て入力するか、整数部分のみを入力します。たとえば、200.00 CAD は「200」または「200.00」と入力します。「200000」と入力すると、システムは 200000.00 と認識します。
位置 62 ～ 67	支払日付	グレゴリアンフォーマット

F095051 ワークファイルのデータが指定位置にない場合は、カスタム再フォーマット プログラムを新規に作成する必要があります。カスタム プログラムを作成するためのテンプレートとしてカスタム再フォーマット UBE プログラムを使用します。

### カスタム再フォーマット UBE プログラムの実行

[銀行テーブルの残高調整] (G09213) の [カスタム再フォーマット UBE] を選択します。

### カスタム再フォーマット UBE (R09501) の処理オプションの設定

ワークファイルを除去する場合に、この処理オプションを使用します。

#### 除去

1. 処理の前に F09505 テーブルを除去する  
カスタム再フォーマット UBE プログラム実行前に F09505 ワークファイルを除去するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 除去しない。

1: 除去する。F095051 ワークファイルの更新前に F09505 ワークファイルが除去されます。

## 2. 処理の前に F095051 テーブルを除去する

カスタム再フォーマット UBE プログラムの実行後に F095051 ワークファイルを除去するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 除去しない。

1: 除去する。

---

## 勘定科目の残高調整情報の更新

銀行テープのデータと総勘定元帳の照合と、銀行勘定残高の調整を自動的に行うには、先に残高調整テーブルの再作成プログラム (R09130) を実行する必要があります。通常は、会計期間の最後にこのプログラムを実行してその期間内の取引を調整します。残高調整テーブルの再作成プログラムを実行すると、全ての調整可能な勘定科目の未調整の取引明細が、F0911 テーブルから F0911R 調整ワークファイルにコピーされます。

### 関連項目:

第 15 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「残高調整テーブルの再作成プログラムについて」、146ページ

---

## 銀行テープと残高調整ワークファイルの照合

このセクションでは、残高調整に使用されるプログラムの概要と以下の方法について説明します。

- テープ ファイルと残高調整テーブルの照合プログラムの実行
- テープ ファイルと残高調整テーブルの照合 (R09510) の処理オプションの設定

### 取引の残高調整に使用するプログラムについて

カスタム再フォーマット UBE プログラムを実行して、銀行テープを F095015 ワークファイルから F09505 ワークファイルに変換したら、テープ ファイルと残高調整テーブルの一致プログラム (R09510) を実行し、銀行勘定科目が決済済みの取引を調整します。

テープ ファイルと残高調整テーブルの照合プログラムでは、次のステップで取引が調整されます。

1. 銀行テープから作成された F09505 の決済済み取引と F0911R 調整ワークファイルの未調整取引が比較されます。
2. 伝票番号と金額が一致し、決済日付が F0911R ワークファイルおよび F0911 テーブルの伝票日付以降の取引に残高調整済みのマークが付けられます。
3. 比較結果および自動調整中に発生したエラーの一覧を示す 4 つのレポートが印刷されます。

### テープ ファイルと残高調整テーブルの照合プログラムの実行

[銀行テープの残高調整] (G09213) の [テープ・ファイルと残高調整テーブルの一致] を選択します。



## テープ ファイルと残高調整テーブルの照合 (R09510) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、略式 ID を指定し、必要に応じて残高調整番号を割り当てます。

### 選択

1. 略式 ID      監査証跡を管理するために各勘定科目に自動的に割り当てる略式 ID を指定します。略式 ID は、固有の番号（勘定科目キー）とチェック デジットから構成されます。勘定科目シリアル番号、略式勘定科目コード、ID 番号とも呼ばれます。
2. 参照 3      残高調整番号を参照 3 フィールドに自動的に割り当てるかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
 ブランク: 参照 3 フィールドを更新しない。  
 1: 参照 3 フィールドを残高調整番号で更新する。
3. [参照3] フィールドの値      参照 3 フィールドに入力する残高調整番号を指定します。ブランクにすると、自動採番プログラム (P0002) を使用して、残高調整番号が自動的に割り当てられます。

## 銀行テープによる残高調整の検証

以下のレポートを使用して、銀行テープによる残高調整が正確であるかどうかを検証し、エラーがある場合はその原因を特定することができます。エラーが発生した場合、取引に残高調整済みマークは付きません。残高調整プログラム (P09131) を使用して、手動で残高調整する必要があります。

テープ ファイルと残高調整テーブルの照合プログラムを実行すると、次の 4 つのレポートが作成されます。

レポート	説明
残高調整レポート	<p>各取引の明細行が出力され、エラーがある場合は次のようなメッセージが出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 支払は決済済みだが、まだ引き落とされていない。</li> <li>• 支払は引き落とし前に決済済み。</li> <li>• 決済金額と引落とし金額が不一致。</li> </ul>
決済済み - 未引き落としレポート	<p>銀行の決済は済んでいても F0911 テーブルには存在しない支払が集計されます。次のような支払がレポートに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 手動で入力された支払番号に誤りがある。</li> <li>• 手書きで小切手が発行されたが、システムに入力されていない。</li> <li>• 小切手の MICR (磁気インク文字認識) コードが読めず、銀行テープに正しくない情報が入っている。</li> </ul>

レポート	説明
引き落とし前決済済みレポート	<p>決済日付が支払日付より前の小切手が集計されます。次のような支払がこのレポートに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 入力した日付に誤りがある。</li><li>• 銀行が先日付の小切手を現金化した。</li><li>• 小切手が予定前に送付された。</li></ul>
金額不一致レポート	<p>銀行で決済された金額と実際の支払金額が異なる支払が集計されます。次のような支払がこのレポートに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 入力した金額に誤りがある。</li><li>• 銀行の手違いで、誤った金額が現金化された。</li></ul>

## 第 18 章

# 銀行残高照合表の処理

この章では、銀行残高照合表の処理、取引コード、仮勘定の概要、および以下の方法について説明します。

1. 銀行残高照合表取引の入力
2. 勘定科目の残高調整情報の更新
3. 銀行取引明細処理プログラムの実行

---

## 銀行残高照合表の処理について

磁気メディアによる処理や電子資金決済が一般的で、未払債務の処理に銀行が直接関与するケースが多い国では、銀行残高照合表の処理を使用して、銀行残高照合表から EnterpriseOne ソフトウェアに取引情報を直接手動で入力することにより、銀行勘定科目の残高を調整できます。

取引ごとに、取引コードを入力して残高調整の方法を指定します。その際、EnterpriseOne にあらかじめ用意されている取引コードを使用することもできますし、自分でコードを定義することもできます。

取引のタイプによっては、残高調整テーブルの再作成プログラム (R09130) の実行前に、入金、支払、および仕訳の転記などのタスクの実行が必要な場合があります。そのような場合は、このプログラムの実行前にバッチを転記し、WF - 取引明細調整ワークテーブル (F0911R) に全レコードが保管されるようにしてください。

銀行処理で全ての取引を 1 つの銀行勘定で決済してから銀行残高照合表の処理を使用して特定の勘定科目に取引を割り当てる場合には、仮勘定を使用することができます。

---

**注:** 電子データ交換 (EDI) メディアを使用して、銀行残高照合表の情報を処理することができます。EDI により特定の銀行勘定科目に関する情報を受け取り、EnterpriseOne に保管されている銀行残高照合表の残高を調整することができます。

---

## この章で使用する共通フィールド

### 顧客の銀行口座番号

会社の口座を識別するために銀行により割り当てられる番号。

---

**注:** 北欧諸国のユーザーの場合は、取引銀行、Bankgiro、または Postgiro の口座番号です。

---

### 銀行/支店

資金決済を管理するため連邦準備制度により特定の銀行へ割り当てられる番号。

## 取引コードについて

銀行残高照合表に記載されている各項目に対して、取引コードを割り当てる必要があります。取引コードは、仕訳や顧客の支払などの取引のタイプを示し、仕訳調整に必要な詳細情報を指定します。

取引が正しく識別されるように、各取引と UDC テーブル 09/BJ の取引コードを関連付ける必要があります。EnterpriseOne にあらかじめ用意されているコードは、組織の要件に合わせて変更することができます。ただし、コードと各コードの記述は変更できますが、取引タイプの機能を示す記述 02 フィールドの先頭 2 文字は変更できません。たとえば、取引タイプ 02 の（入金決済 - バッチ）の取引コードおよび記述は変更できます。しかし、記述 02 フィールドの先頭 2 文字を、たとえば 03 に変更することはできません。

入力した取引は、次の 2 つのカテゴリに分類されます。

- 銀行勘定科目が決済済みで、システムに入力済みの取引
- 銀行勘定科目が決済済みで、システムに未入力の取引

### 銀行勘定科目が決済済みで、システムに入力済みの取引

次の表は、銀行勘定科目が決済済みで、システムに入力済みの取引の設定情報を示しています。

取引コード	記述 01	記述 02	説明
CR	入金決済	04 入金決済	この取引コードは、預け入れなどシステムに入力済みの入金の記録に使用します。
CK	支払決済	08 支払決済	この取引コードは、取消小切手やシステムに入力済みの支払の記録に使用します。

### 銀行勘定科目が決済済みで、システムに未入力の取引

次の表は、銀行勘定科目が決済済みで、システムに未入力の取引の設定情報を示しています。

取引コード	記述 01	記述 02	説明
JE	仕訳入力	01 仕訳入力	この取引コードは、振込手数料など、銀行によって行われた調整を記録するのに使用します。この取引には、消費税が含まれる場合があります。
CRE	入金 - バッチ	02 入金 - バッチ	この取引コードは、銀行振込など顧客によって直接銀行に振り込まれた、売掛管理システムに未入力の支払の記録に使用します。  銀行取引明細処理プログラム (R09170) を実行すると、入金見出しの更新 (R03B551) および請求書自動突合せ (R03B50) プログラムにより入金と請求書の消込が自動的に行われます。

取引コード	記述 01	記述 02	説明
CRI	入金 - 対話型	03 入金 - 対話型	この取引コードは、銀行振込など顧客によって直接振り込まれた、売掛管理に未入力の支払の記録に使用します。  取引入力時にこのコードを指定すると、銀行残高照合表の入力プログラム (P09160) により入金入力プログラム (P03B102) が呼び出され、入金と対応する請求書を手動で消し込むことができます。
DP	仕入先への支払手形	07 支払手形	この取引コードは、仕入先が引き落としのため銀行に持ち込んだ手形の記録に使用します。
PWM	支払 (伝票突合せあり)	10 支払 (伝票突合せあり)	この取引コードは、支払の記録に使用します。取引入力時にこのコードを指定すると、支払入力 (伝票突合せあり) プログラム (P0413M) が呼び出されます。
PWO	支払 (伝票突合せなし)	11 支払 (伝票突合せなし)	この取引コードは、支払の記録に使用します。取引入力時にこのコードを指定すると、支払入力 (伝票突合せなし) プログラム (P0411) が呼び出されます。
BK	自動調整	09 自動調整	この取引コードは、自動調整項目の記録に使用します。自動調整項目は残高調整の必要がなく、プログラムの呼び出しもありません。

## 仮勘定について

全ての支払と入金を 1 つの銀行勘定で決済してから、銀行残高照合表の処理を使用して特定の勘定科目に割り当てる場合は、仮勘定を使用することができます。仮勘定を使用するには、銀行残高照合表の入力プログラムの処理オプションで仮勘定を指定します。銀行取引明細処理プログラム実行時に、仕訳が作成され仮勘定から銀行勘定へ金額が再配賦されます。仮勘定は次の取引コードでのみ使用できます。

- CR
- CRE
- CRI
- CK

仮勘定を使用する場合は、残高調整テーブルの再作成プログラム (R09130) を実行して F0911R テーブルを更新する必要はありません。ただし、F0911R テーブルが更新されないため、銀行取引明細処理プログラムでは F0911R テーブルと F0917 テーブルの情報の比較は行われず、項目の調整が必要かどうかの判断も行われません。F0917 テーブルに入力した情報は正しいと見なされます。このため、仮勘定を調整して、銀行残高照合表に入力された情報が常に正確であるようにする必要があります。

取引を調整すると、銀行勘定には残高調整済みのマークが付きますが、仮勘定には付きません。

## 銀行残高照合表取引の入力

このセクションでは、銀行残高照合表取引の概要と以下の方法について説明します。

- 銀行残高照合表の入力 (P09160) の処理オプションの設定
- 銀行残高照合表取引の入力

### 銀行残高照合表取引について

銀行残高照合表情報を入力する際は、照合表日付や開始残高などの見出し情報を入力し、次に取引コードや金額など照合表の各取引に固有の情報を入力します。取引コードによっては、勘定科目コードや支払番号など取引の詳細情報の入力が必要な場合もあります。

銀行残高照合表の入力プログラムを使用して各取引を入力すると、銀行残高照合表見出しテーブル (F0916) と銀行残高照合表明細テーブル (F0917) にレコードが作成されます。F0917 テーブルには、銀行残高照合表に対して取引を入力するごとに 1 つのレコードが保管されます。F0916 テーブルには通常、銀行残高照合表ごとに見出しレコードが 1 つ保管されます。この見出しレコードには、銀行残高照合表番号、勘定科目コード、および開始残高などの情報が含まれます。銀行による照合表の作成方法によっては、1 つの照合表に対して複数の見出しレコードが F0916 テーブルに保管される場合もあります。たとえば、銀行が複数の銀行勘定科目に対して照合表を 1 つ発行する場合、F0916 テーブルには各勘定科目に 1 つずつの見出しレコードが保管されます。

銀行残高照合表の入力プログラムの処理オプションの [検証モード] を設定して、取引コードと金額を入力したときに取引の種類に応じた明細のフォームが表示されるようにすることができます。

取引を入力すると、[銀行残高照合表入力] フォームの [差額] フィールドが更新されます。差額がゼロの場合、照合表の貸借は一致しています。また、取引 (行) の合計数、未完了取引数、引き出し金額合計、預け入れ金額合計も更新されます。照合表の貸借が不一致の場合は、未完了取引の行のみを表示して、不足している情報を修正できます。

処理済みの取引の横に処理済みである旨が表示されます。

### 銀行残高照合表取引に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[銀行残高照合表の処理]	W09160B	[銀行残高照合表の処理] (G09211)、[銀行残高照合表の入力]	各銀行勘定科目の銀行残高照合表の一覧を検討します。  全ての取引が未処理の場合にのみ、銀行残高照合表全体を削除できます。
[銀行残高照合表入力]	W09160A	[銀行残高照合表の処理] フォームで、[追加] をクリックし、取引を入力します。または、照合表を選択し、既存の照合表の取引にアクセスします。	銀行残高照合表取引を入力します。  銀行残高照合表が未処理の場合のみ、取引の追加や改訂ができます。
[入金の決済]	W09160J	[銀行残高照合表入力] フォームで、[取引コード] フィールドに「CR」を入力し、[OK] をクリックします。	決済済みの入金の詳細情報を追加します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
[仕訳入力]	W09160E	[銀行残高照合表入力] フォームで、[取引コード] フィールドに「JE」を入力し、[OK]をクリックします。	仕訳入力の詳細情報を追加します。
[支払の決済]	W09160G	[銀行残高照合表入力] フォームで、[取引コード] フィールドに「CK」を入力し、[OK]をクリックします。	支払決済の詳細情報を追加します。
[自動入金入力]	W09160I	[銀行残高照合表入力] フォームで、[取引コード] フィールドに「CRE」を入力し、[OK]をクリックします。	入金バッチの詳細情報を追加します。
[入金入力]	W03B102E	[銀行残高照合表入力] フォームで、[取引コード] フィールドに「CRI」を入力し、[OK]をクリックします。	対話型の入金の詳細情報を追加します。
[手形支払の決済]	W09160H	[銀行残高照合表入力] フォームで、[取引コード] フィールドに「DP」を入力し、[OK]をクリックします。	仕入先への支払手形の詳細情報を追加します。
[伝票入力 - 支払情報]	W0411A	[銀行残高照合表入力] フォームで、[取引コード] フィールドに「PWO」を入力し、[OK]をクリックします。	支払入力(伝票突合せなし)の詳細情報を追加します。
[手動支払入力]	W0413MA	[銀行残高照合表入力] フォームで、[取引コード] フィールドに「PWM」を入力し、[OK]をクリックします。	支払入力(伝票突合せあり)の詳細情報を追加します。
[オプション]	W09160D	[銀行残高照合表入力] フォームで、[フォーム] メニューの[オプション]を選択します。	検討または改訂する取引の検索条件を指定します。

## 銀行残高照合表の入力 (P09160) の処理オプションの設定

次の処理オプションを使用して、銀行残高照合表の入力プログラムのデフォルト値を設定します。

### 基準

#### 1. デフォルト銀行勘定の略式 ID

QBE (例示照会) に銀行勘定を事前ロードするかどうかを指定します。銀行勘定の略式 ID を入力してください。空白にすると、銀行勘定は事前ロードされません。

#### 2. ユーザー ID の事前ロード

QBE にユーザー ID を事前ロードするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白:事前ロードしない。

1: 事前ロードする。

**3. 転記コード**

QBE に転記コードを事前ロードするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

A: 転記コード A (承認済み) を事前ロードする。

D: 転記コード D (処理済み) を事前ロードする。

**4. レコードの事前ロード**

QBE に全てのレコードを事前ロードするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:事前ロードしない。事前ロードしない場合は、[銀行残高照合表の処理] フォームで [検索] をクリックして、レコードをロードする必要があります。

1: 事前ロードする。

**デフォルト****1. 預入れのデフォルト取引タイプ、2. 引出しのデフォルト取引タイプ**

預け入れ金額および引き出し金額のデフォルト取引タイプを UDC テーブル 09/BJ から指定します。

**3. 資金移動のデフォルト勘定 (略式 ID)**

前の処理オプションで指定した取引タイプの略式 ID を入力します。

**自動入金入力、入金決済、入金入力、入金決済**

各処理オプションにデフォルト仮勘定の略式 ID を入力します。

**仕訳入力****1. 仕訳入力のデフォルト略式 ID**

仕訳入力のデフォルト勘定の略式 ID を入力します。

**日付****1. 決済日付 (GDVLDT)、2. 元帳日付 (GDDGJ)**

決済日付と元帳日付に使用するデフォルト日付を指定します。決済日付は、支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付です。元帳日付は、取引を転記する会計期間を決めるのに使われます。有効値は以下のとおりです。

0: 元帳日付を使用する。

1: 計算書日付を使用する。

**伝票タイプ****1. 取引コードのデフォルト伝票タイプ。BK - 自動調整、CK - 支払 - 決済、CR - 入金 - 決済、CRE - 入金 - バッチ、CRI - 入金 - 対話型、DP - 仕入先に支払済みの手形、JE - 仕訳入力、PWM - 支払入力 (照合あり)、PWO - 支払入力 (照合なし)**

処理オプションおよび対応する取引コードごとに、デフォルト伝票タイプを UDC テーブル 00/DT から指定します。



## 表示 1

総額 (GDAG)、備考  
(GDRMK)、銀行/支店  
(GDTNST)、決済日付  
(GDVLDT)、参照 (GDR1)、  
摘要 (GDEXA)

各処理オプションに関連するフィールドへのアクセスを制限するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 制限しない。

1: 制限する。

## 表示 2

勘定科目 (GDANI)、元帳  
日付 (GDDGJ)

各処理オプションに関連するフィールドへのアクセスを制限するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 制限しない。

1: 制限する。

## 2. 参照用ビジネスユニット

参照用ビジネスユニット フィールドへのアクセスを制限するかどうか、またはフォームでフィールドを非表示にするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 通常のアクセスを認める。

1: アクセスを制限する。

2: フィールドを表示しない。

## 3. デフォルト銀行勘定 ([基準] タブで指定)

デフォルト銀行勘定のユーザーによる変更を許可するかどうか指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 変更可。

1: 変更不可。

## バージョン

1. 入金入力処理の一時変更、  
2. 伝票突合せを伴う  
支払入力の一時的変更、  
3. 伝票照合なし支払  
入力の一時的変更

入金入力プログラム (P03B102)、支払入力 (伝票突合せあり) (P0413M)、  
支払入力 (伝票突合せなし) (P0411) の各プログラムの使用バージョンを  
指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001  
が使用されます。

## 入力モード

## 1. 検証モード

[銀行残高照合表入力] フォームで実行される検証タイプを指定します。有効値は以下のとおりです。

0: 明細フォームを表示せず、検証しない。

1: 明細フォームを表示するが、フォームに入力した情報が正しいか、必須フィールドがブランクではないかなどの検証はしない。

2: 明細フォームを表示し、フォームに入力した情報が正しいか、必須フィールドがブランクではないかなどの検証をする。

## 2. 貸借不一致で保存

[銀行残高照合表入力] フォームを貸借不一致での保存を可能にするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 貸借不一致での保存を可能にする。

- 1: 保存不可のエラーを表示する。
- 2: 警告を表示する。保存可。

## 前の残高

### 1. 銀行残高照合表の開始残高

銀行残高照合表の開始残高の入力モードを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 手入力を許可する。

1: 前の銀行残高照合表の終了残高をロードする。この処理オプションを指定する場合は、銀行残高照合表を正しい順序で入力して、次の銀行残高照合表を入力する前に前の照合表の残高調整を完了する必要があります。

2: 銀行残高照合表日付と一致する勘定残高をロードする。転記済み取引のみを含めます。

3: 銀行残高照合表日付と一致する合計勘定残高をロードする。転記済み取引と未転記取引の両方を含めます。

---

注: この処理オプションに 1、2、3 のいずれかを入力すると、[銀行残高照合表入力] フォームの[開始残高] フィールドには入力ができなくなります。

---

## 取引コード

BK - 自動調整、CK - 支払 - 決済、CR - 入金 - 決済、CRE - 入金 - バッチ、CRI - 入金 - 対話型、DP - 仕入先に支払済みの手形、JE - 仕訳入力、PWM - 支払入力 (照合あり)、PWO - 支払入力 (照合なし)

各取引コードの使用を許可するかどうか指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 許可する。

1: 許可しない。

## 銀行残高照合表取引の入力

[銀行残高照合表入力] フォームにアクセスします。

### 見出し域に表示されるフィールド

[照合表日付]

銀行残高照合表の日付を入力します。銀行残高照合表の処理時には、元帳日付として使用されます。

[計算書 No.]

銀行によって割り当てられる照合表番号を入力します。

### 詳細グリッドに表示されるフィールド

[取引コード]

有効なコードを UDC テーブル 09/BJ から入力し、銀行残高照合表の取引のタイプを指定します。

[決済日付]

入金または支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付を入力します。銀行が支払を決済した日付ではありません。自動支払の場合は、自動的に値が入力されます。

決済日付の処理オプションが 0 の場合は、見出し域の [デフォルト元帳日付] の値が使用されます。1 の場合は、[照合表日付] の値が使用されます。

**[元帳日付]**

元帳日付または銀行残高照合表の日付を入力します。

元帳日付の処理オプションが 0 の場合は、見出し域の [デフォルト元帳日付] の値が使用されます。1 の場合は、[照合表日付] の値が使用されます。

**[支払/入金 No.]**

[取引コード] フィールドの値に応じて、次の処理を行います。

CR: 入金のバッチ番号を入力します。この番号が存在するかどうか自動的に検証されます。

CK: 支払番号を入力します。取引を調整する際に、この番号が銀行取引明細処理プログラムで使用され、F0911 テーブルの支払レコードが検索されます。

JE: ブランクにします。

CRE または CRI: 銀行残高照合表の入金番号を入力します。EnterpriseOne では、どちらの番号も他のテーブルと照合されません。

DP: 仕入先に支払済みの手形の支払番号を入力します。

PWM または PWO: ブランクにします。支払時に入力した番号が使用されます。

**[タイプ]**

コードを UDC 00/DT から入力し、当初伝票の照合に使用する伝票の種類を指定します。処理オプションの取引コードのデフォルト伝票タイプを入力した場合は、その伝票タイプがデフォルトとして使用されます。

**[転記コード]**

銀行残高照合表の処理済み状況および残高調整済み状況を指定するコードです。このコードは、F0917 レコードの転記コード状況、および F0917 レコードと F0911 レコードの残高調整状況を表します。

未処理または未調整のレコードの場合、F0917 テーブルの転記コードフィールドは A、調整済みフィールドはブランクです。

処理済みまたは調整済みのレコードについては、有効なコードを銀行取引明細処理プログラム (R09170) の処理オプションで指定します。これらのコードは UDC テーブル 09/RC と照合されます。調整済みのレコードの場合、[転記コード] フィールドの値は、F0917 テーブルと F0911 テーブルの調整済みフィールドのコードと同じです。

[銀行残高照合表入力] フォームで取引を入力し [OK] をクリックするか、または [ロー] メニューから [明細] を選択すると、処理オプションの設定に従って、次のいずれかが表示されます。

- [検証モード] 処理オプションが 1 または 2 の場合、入力した取引コードに対応する明細フォームが表示されます。CR を入力した場合は、[入金の決済] フォームが表示されます。CK を入力した場合は、[支払の決済] フォームが表示されます。

[検証モード] 処理オプションが 2 の場合はさらに、明細フォームで無効な値を入力したり必須フィールドをブランクにしていないかどうかの検証が行われます。

明細フォームの一部のフィールドのデフォルト値は、銀行残高照合表の入力プログラムの処理オプションで指定します。

- ・ [検証モード] 処理オプションが 0 の場合、明細フォームは表示されません。代わりに、“不完全な取引が存在します” という警告が表示されます。[OK] をクリックし、続いて [キャンセル] をクリックします。後で再度画面を開いて、明細を入力する必要があります。

---

## 勘定科目の残高調整情報の更新

このセクションでは、残高調整テーブルの再作成プログラムの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- ・ 残高調整テーブルの再作成プログラムの実行
- ・ 残高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定
- ・ 残高調整テーブルの再作成 (R09130) の処理オプションの設定

### 残高調整テーブルの再作成プログラムについて

銀行残高照合表の取引を入力したら、残高調整テーブルの再作成プログラム (R09130) を実行する必要があります。このプログラムによって、F0911R テーブルが銀行残高照合表を受け取る前に記録した取引で更新されます。銀行取引明細処理プログラムを実行すると、F0911R テーブルの取引情報と、銀行残高照合表の入力プログラムを使用して入力した F0917 テーブルの情報が比較されます。2 つのテーブルの取引情報が一致すると、その取引の残高調整が行われます。

---

注: 仮勘定を使用しない取引に対してのみ、このプログラムを実行します。銀行残高照合表の全取引で仮勘定を使用している場合は、このプログラムを実行しないでください。

---

残高調整テーブルの再作成プログラムは、銀行勘定残高を手動で調整する場合にも使用します。

参照: 第 15 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「勘定科目の残高調整情報の更新」、146 ページ

### 事前設定

未転記バッチを転記します。

### 残高調整テーブルの再作成プログラムの実行

[銀行残高照合表の処理] (G09211) の [残高調整テーブルの再作成] を選択します。

このプログラムにより、転記済みバッチの F0911R テーブルのみが更新されます。

### 残高調整テーブルの再作成のデータ選択の設定

処理を高速化するには、データ選択を使用して、残高調整する勘定科目を指定します。

1 つの勘定のみに対して F0911R テーブルを作成する場合は、データ選択に略式 ID を指定します。この後、データ選択で特定の勘定科目コードを使用して F0911R テーブルを再作成すると、以前のレコードに新しいレコードが追加され、F0911R テーブルはクリアされません。

### 残高調整テーブルの再作成 (R09130) の処理オプションの設定

次の処理オプションを使用して、F0911R テーブルに保管するレコードを指定します。

## 選択

1. 開始日付、2. 終了日付 F0911R テーブルを再作成する開始日付と終了日付を指定します。
3. 調整済み状況 F0911R テーブルに含める取引を選択します。有効値は以下のとおりです。  
blank:調整済み取引のみ。  
1: 調整済み取引と未調整取引の両方。  
調整済み取引と未調整取引の両方を常に保管する設定にしていると、F0911R テーブルが非常に大きくなり、処理時間に影響する可能性があります。前の調整済みレコードを訂正する必要がある場合のみ、調整済みと未調整のレコードを含めるようにします。

## デフォルト

1. 元帳タイプ F0911 テーブルからレコードを選択するときに使用される元帳タイプを指定します。この処理オプションをblankにすると、全ての元帳タイプが選択されます。

## 表示

1. 伝票タイプ AE F0911 テーブルからレコードを選択するときに、調整仕訳 (AE) の取引を含めるかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
blank:含めない。  
1: 含める。

## 印刷

1. メッセージ 残高調整テーブルの再作成レポート (R09130) で印刷するメッセージの対象を、全ての勘定科目とするか、再作成された勘定科目のみとするかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
blank:再作成された勘定科目に対するメッセージのみ印刷する。  
1: 全てのメッセージを印刷する。

---

# 銀行取引明細処理プログラムの実行

このセクションでは、銀行取引明細処理プログラムの概要と、以下の方法について説明します。

- 銀行取引明細処理プログラムの実行
- 銀行取引明細処理のデータ順序の設定
- 銀行取引明細処理 (R09170) の処理オプションの設定
- 銀行残高照合表処理レポートの検討
- 入金バッチ取引の処理

## 銀行取引明細処理プログラムについて

銀行取引明細処理プログラム (R09170) では、次の処理が行われます。

- 取引情報の比較

このプログラムでは、F0911R テーブルの各取引と F0917 テーブルの対応する取引が比較され、金額や日付などの情報が各テーブルで同じかどうかを検証されます。

仮勘定を使用した場合、この 2 つのテーブルの比較は行われません。F0917 テーブルに入力した情報が正しいと見なされます。仮勘定を調整して、常に正しい情報が入力されているようにする必要があります。

- 入金見出しの更新プログラム (R03B551) および請求書自動突合せプログラム (R03B50) の実行

CRE 取引を入力した場合は、銀行取引明細処理プログラムにより、この 2 つのプログラムが実行され、入金の作成と、その入金と請求書の消込が行われます。

- 仕訳の作成

仮勘定を使用した場合は、銀行取引明細処理プログラムにより仕訳が作成され、金額が仮勘定から銀行勘定へ再配賦されます。

---

**注:** 銀行取引明細処理プログラム実行後に、作成された仕訳バッチを転記する必要があります。

---

- 調整レポートの生成

銀行取引明細処理プログラムにより、次のレポートが生成されます。これらのレポートには、F0911R テーブルと F0917 テーブルの比較結果が記載されます。

- 銀行残高照合表の処理
- 銀行残高調整
- 銀行決済済み - 未引落し
- 銀行決済済み - 引落し前
- 金額不一致
- 未調整項目

- 取引の調整

テストモードと最終モードのどちらでプログラムを実行するかを処理オプションで指定します。テストモードでは、調整レポートが印刷され、取引の調整は行われません。

最終モードでは、F0911R テーブルと F0917 テーブルの情報が一致した取引ごとに、F0911 テーブルの GLRCND (調整済みコード) フィールドが R に更新されます。R 以外の調整コードを使用する場合は、銀行取引明細処理プログラムの処理オプションで別のコードを入力します。仮勘定を使用した場合は、2 つのテーブルの比較を行わずに GLRCND フィールドが更新されます。

また、F0911 テーブルの取引の参照 3 フィールドを銀行残高照合表番号で更新するかどうかを、処理オプションで指定します。次のプログラムにより、参照 3 フィールドの情報が表示または印刷されます。

- 取引明細の処理 (P09200)
- カテゴリコード別取引明細の処理 (P09202)
- 取引仕訳 (R09321)

## 事前設定

残高調整テーブルの再作成プログラムを実行し、F0911R テーブルの更新情報を更新します。

## 銀行取引明細処理プログラムの実行

[銀行残高照合表の処理] (G09211) の [銀行取引明細処理] を選択します。

## 銀行取引明細処理のデータ順序の設定

銀行取引明細のデータ順序は、次の順序で設定してください。

1. 銀行残高照合表 No.
2. 照合表日付
3. 銀行勘定科目

## 銀行取引明細処理 (R09170) の処理オプションの設定

次の処理オプションを使用して、銀行取引明細に含めるレコードを指定します。

### テスト/最終

1. 処理モード  
銀行取引明細処理のモードを指定します。有効値は以下のとおりです。  
ブランク: テスト モード。F0911 テーブルを更新しない。  
1: 最終モード。F0911 テーブルを更新する。

### 伝票タイプ

1. 伝票タイプ  
Uで始まるコードを UDC テーブル 00/DT から入力します(U1 ~ U9 および UA ~ UZ が、クライアント用に予約されています)。ブランクの場合、デフォルトの伝票タイプとして JE が使用されます。  
伝票タイプが JE の場合、取引の伝票番号は、仕訳入力の自動採番によって自動的に割り当てられます。JE 以外の場合は、銀行取引の自動採番によって自動的に割り当てられます。

### 差異

1. 差異許容限度  
自動少額消込の許容限度額を入力します。％記号を付けて比率を入力することもできます。ブランクにすると、許容限度は使用されません。
2. 仕訳の作成  
許容限度以内の差異を消し込む仕訳を自動作成するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
ブランク: 仕訳を自動作成しない。差額は個別に表示されます。  
1: 仕訳を自動作成する。
3. 仕訳入力で使用する日付を指定してください。  
仕訳入力に使用する日付を指定します。有効値は以下のとおりです。  
0: システム日付。  
1: 元帳日付。  
2: 決済日付。

**ビジネスユニット**

仕訳を行う勘定科目のビジネスユニットを入力します。ブランクの場合、銀行残高照合表に記載されている銀行勘定のビジネスユニットが使用されます。

**主科目、補助科目**

仕訳を行う勘定科目の主科目と補助科目を入力します。

**実現為替差損益****1. 実現為替差損益仕訳の作成**

実現為替差損益の仕訳を作成するかどうか指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:作成しない。

1: 作成する。

**2. 使用する日付**

実現為替差損益の仕訳に使用する日付を指定します。有効値は以下のとおりです。

0: システム日付。

1: F0911R テーブルの元帳日付。

2: F0917 テーブルの決済日付。

**日付****1. 決済日付の取引モード**

決済日付が F0911 テーブルの元帳日付より前の場合の取引の処理方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:残高を調整しないが、レポートに印刷する。

1: 残高を調整し、レポートに印刷する。

2: 残高を調整するが、レポートには印刷しない。

**残高調整**

次の処理オプションをブランクにすると、最初の条件の値が使用されます。各処理オプションには、UDC テーブル (09/RC) からコードを入力します。

**合算または許容規則を使用しないで 1 対 1 で一致するレコード (デフォルト R)**

1 対 1 で一致するコードを入力します。

**総勘定元帳の取引が貸借一致して銀行レコードがない合算レコード**

貸借一致して銀行レコードがない合算レコードのコードを入力します。

**銀行取引の残高が一致して元帳に金額がない合算レコード**

貸借一致して元帳額がない合算レコードのコードを入力します。

**取引を一致させるために合算処理が行われたレコード (総勘定元帳と銀行残高照合表に取引あり)**

合算処理のコードを入力します。

**金額は一致しないが許容範囲内のレコード**

金額は一致しないが許容範囲内のレコードのコードを入力します。



銀行残高照合表にのみある取引で自己調整レコード

自己調整レコードのコードを入力します。

## 残高照合表

1. F0911 の GLR3 参照フィールドに F0917 の銀行残高照合表番号を入力するモードを指定してください。

GLR3 (参照 3) フィールドを対応するレコードの F0911 テーブルの銀行残高照合表番号で更新するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:更新しない。

1: 更新する。最終モードを指定した場合、GLR3 フィールドの前の値は上書きされます。

## 銀行残高照合表処理レポートの検討

銀行取引明細処理プログラムにより、次のレポートが生成されます。レポートには、銀行残高照合表取引の残高調整状況に関する情報が記載されます。

レポート	内容
銀行残高照合表の処理	各バッチの概要の一覧。プログラムにより取引が調整されると、“エラーなし”というメッセージが印刷されます。調整できなかった場合は、“** 残高調整レポートを参照してください**”というメッセージが印刷されます。
銀行残高調整	銀行残高照合表の各取引の明細情報の一覧。引落としの金額と日付、および決済の金額と日付が別々のカラムに記載されます。引落としの金額と日付カラムには、F0911R テーブルの情報が使用されます。決済の金額と日付カラムには、F0917 テーブルの情報が使用されます。このレポートには、残高調整処理後の各取引の状況も記載されます。
銀行決済済み - 未引落し	F0917 テーブルに存在するが F0911R テーブルには存在しない取引の一覧。
銀行決済済み - 引落とし前	F0917 テーブルの取引の中で、決済日付が F0911R テーブル内の元帳日付より前の取引の一覧。
金額不一致	F0917 と F0911R テーブルで金額が異なる取引の一覧。
未調整項目	F0917 テーブル内の全ての未調整項目の一覧。

注: レポートのカラム C (合算) にアスタリスクが表示されている場合、その行には合算されている複数の取引が含まれています。

## 入金バッチ取引の処理

CRE 取引は、銀行取引明細処理プログラム実行後に作成されます。プログラム実行後に取引を残高調整するには、さらに次のステップを実行する必要があります。

1. 入金バッチを転記します。
2. 残高調整テーブルの再作成プログラムを実行します。
3. [銀行勘定科目の残高調整] フォームで取引の残高調整を手動で実行します。このフォームは、残高調整プログラム (P09131) からアクセスします。



## 第 19 章

# EnterpriseOne 一般会計における Enterprise の銀行残高照合表の処理

この章では、Enterprise 財務管理と EnterpriseOne 一般会計の統合の概要と以下の方法について説明します。

- Enterprise の銀行残高照合表の処理
- Enterprise の会計取引の処理

---

## Enterprise 財務管理と EnterpriseOne 一般会計の統合について

Enterprise 財務管理システムと EnterpriseOne 一般管理システムを統合することにより、正常な資金運用のための資金とリスクの管理、および法的規制への対応には財務管理システムを使用し、勘定科目情報の管理には一般会計システムを使用することができます。

財務管理システムには、銀行振替、取引、ファーム バンキング (FB) などの資金管理活動のビジネス プロセスが提供されています。統合により、Enterprise 財務管理の銀行残高照合表が EnterpriseOne 一般会計に転送されます。一般会計システムでは、銀行のフラット ファイルから銀行勘定科目の残高調整を自動化する自動銀行勘定処理を利用できます。

銀行勘定科目に影響を与える取引では、Enterprise 財務管理の全ての銀行残高照合表データが、当初の銀行フォーマットから PSFT 銀行フォーマットにマッピングされます。PSFT 銀行残高照合表は、Web Services Gateway を経由して、一般会計システムの銀行残高照合表の経由保管テーブル (F09610 および F09611) に転送されます。銀行残高照合表のロード プログラムにより、照合表が銀行残高照合表テーブル (F09616 および F09617) にアップロードされ、自動銀行残高照合表の処理プログラムにより、F0911 テーブルの取引の処理および調整が行われます。

銀行勘定科目に影響する元帳取引では、会計取引が財務管理システムで作成され、その後、Web Services Gateway 経由で一般会計システムの F0911Z1 テーブルに転送されます。作成される取引の伝票タイプは TM (財務管理) となります。F0911Z1 テーブルから、仕訳バッチ処理プログラム (R09110Z) により、F0911 テーブルに取引がアップロードされ、プログラムが正常終了したかどうかを示すメッセージが財務管理に送られます。自動銀行残高照合表処理プログラムにより、F0911 テーブルの RJE 取引に対して会計取引の処理および調整が行われます。

取引が F0911 テーブルに書き込まれたら、仕訳の転記プログラム (R09801) を使用して F0902 テーブルにその取引を転記することができます。会計取引の転記が正常終了すると、メッセージが財務管理に送られます。

---

## Enterprise の銀行残高照合表の処理

銀行残高照合表が Enterprise 財務管理システムで作成された場合、EnterpriseOne 一般会計システムを使用して銀行勘定科目の残高調整を実行するには、インテグレーション フローを実行し Enterprise から EnterpriseOne へ銀行残高照合表データを転送する必要があります。

Enterprise の PSFT 銀行残高照合表を EnterpriseOne で処理する用意が整うと、財務管理システムにより、BANK\_STATEMENT\_LOAD メッセージが Web Services Gateway へ送られます。このメッセージは XML 形式で、中に銀行残高照合表が含まれています。

Web Services Gateway がメッセージを受け取ると、insert\_E\_Treasury\_to\_E1\_BankStatementStaging インテグレーション サービス フローが自動実行されます。このインテグレーション フローにより、PSFT フォーマットの銀行勘定残高照合表のデータが EnterpriseOne の経由保管テーブルに転送されます。経由保管テーブルに転送された後の銀行勘定の残高調整処理は、銀行勘定残高照合表が Enterprise 財務管理で作成されている場合もされていない場合も同じです。

参照: 第 20 章、「銀行残高照合表の自動処理」、「経由保管場所テーブルのデータの改訂」、188ページ

---

## Enterprise の会計取引の処理

銀行手数料、振替手数料、利息などの銀行残高照合表取引の仕訳が財務管理システムで作成された場合に、一般会計システムを使用して銀行勘定残高調整を実行するには、自動銀行残高照合表処理の中で、仕訳の変換と残高調整を行う必要があります。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 会計取引の F0911Z1 テーブルへの変換
- 会計取引の F0911 テーブルへの転送
- 会計取引の F0902 テーブルへの転記

### 会計取引の F0911Z1 テーブルへの変換

Enterprise の会計取引を EnterpriseOne で処理する用意が整うと、Enterprise 財務管理により、SYNC\_TR\_ACCTG\_TXN メッセージが Web Services Gateway へ送られます。このメッセージには、会計取引が含まれています。

Web Services Gateway がメッセージを受け取ると、insert\_E\_Treasury\_to\_E1\_GeneralLedger インテグレーション サービス フローが自動的に実行されます。このインテグレーション フローにより、Enterprise の会計取引は、Enterprise の会計入力フィールドを EnterpriseOne バッチ仕訳テーブル (F0911Z1) のフィールドにマッピングするフォーマットに変換されます。

### 会計取引の F0911 テーブルへの転送

[バッチ仕訳処理] (G09311) の [仕訳のバッチ処理] を選択します。

銀行残高照合表の残高調整を自動的に行うために、F0911Z1 テーブルから F0911 テーブルへ会計取引を転送するには、仕訳のバッチ処理 (R09110Z) を実行する必要があります。このプログラムを最終モードで実行すると、伝票タイプ TM の取引を含むバッチが処理されます。このプログラムでは、次の処理が実行されます。

- 会計取引が正常に処理されたことを示すように、F0911Z1 テーブルの状況フラグが仕訳ごとに更新されます。
- 各会計取引が正常に処理された場合は、その仕訳に対して EnterpriseOne の伝票番号および元帳日付が作成されます。
- 会計取引が F0911 テーブルに正常に書き込まれた場合は、Enterprise 財務管理に状況メッセージが送信されます。

会計取引が F0911 テーブルで正常に処理されると、自動銀行残高照合表処理プログラムにより、会計取引と F0911 テーブルの RJE 取引が残高調整されます。RJE 取引は、Enterprise 財務システムの電子銀行残高照合表から取り込まれます。

## 会計取引の F0902 テーブルへの転記

[仕訳入力、レポート、照会] (G0911) の [総勘定元帳への転記] を選択します。

Enterprise の会計取引を F0911 テーブルへ転送したら、他の取引と同じように転記する必要があります。総勘定元帳への転記を実行すると、伝票タイプ TM の取引を含むバッチが処理されます。このプログラムでは、次の処理が実行されます。

- F0902 テーブルへの転記が成功に行われた各バッチの状況フラグが更新されます。
- 会計取引の F0902 テーブルへの転記が成功した場合、Enterprise 財務管理に状況メッセージが送信されます。

参照: 第 11 章、「仕訳の処理」、「総勘定元帳への転記 (R09801) の処理オプションの設定」、99ページ



## 第 20 章

# 銀行残高照合表の自動処理

この章では、自動銀行残高照合表処理の概要および以下の方法について説明します。

- 自動銀行残高照合表処理の変換フローの実行
- 経由保管場所テーブルのデータの改訂
- 銀行残高照合表テーブルへのデータのロード
- 銀行残高照合表テーブルのデータの改訂
- 自動銀行残高照合表処理
- 銀行残高照合表の未調整取引の残高調整
- 銀行残高照合表テーブルの除去

### 関連項目:

第 5 章、「自動銀行残高照合表処理の設定」、37ページ

---

## 自動銀行残高照合表処理について

自動銀行残高照合表処理は、銀行から受け取った銀行勘定科目情報と一般会計システムの銀行勘定科目情報の残高調整を行うために、資金管理処理で使用します。この自動処理を使用すると、銀行残高照合表と総勘定元帳の調整時に売掛金取引と総勘定元帳取引が作成されるため、時間を節約することができます。自動銀行残高照合表処理で作成される取引は、以下のとおりです。

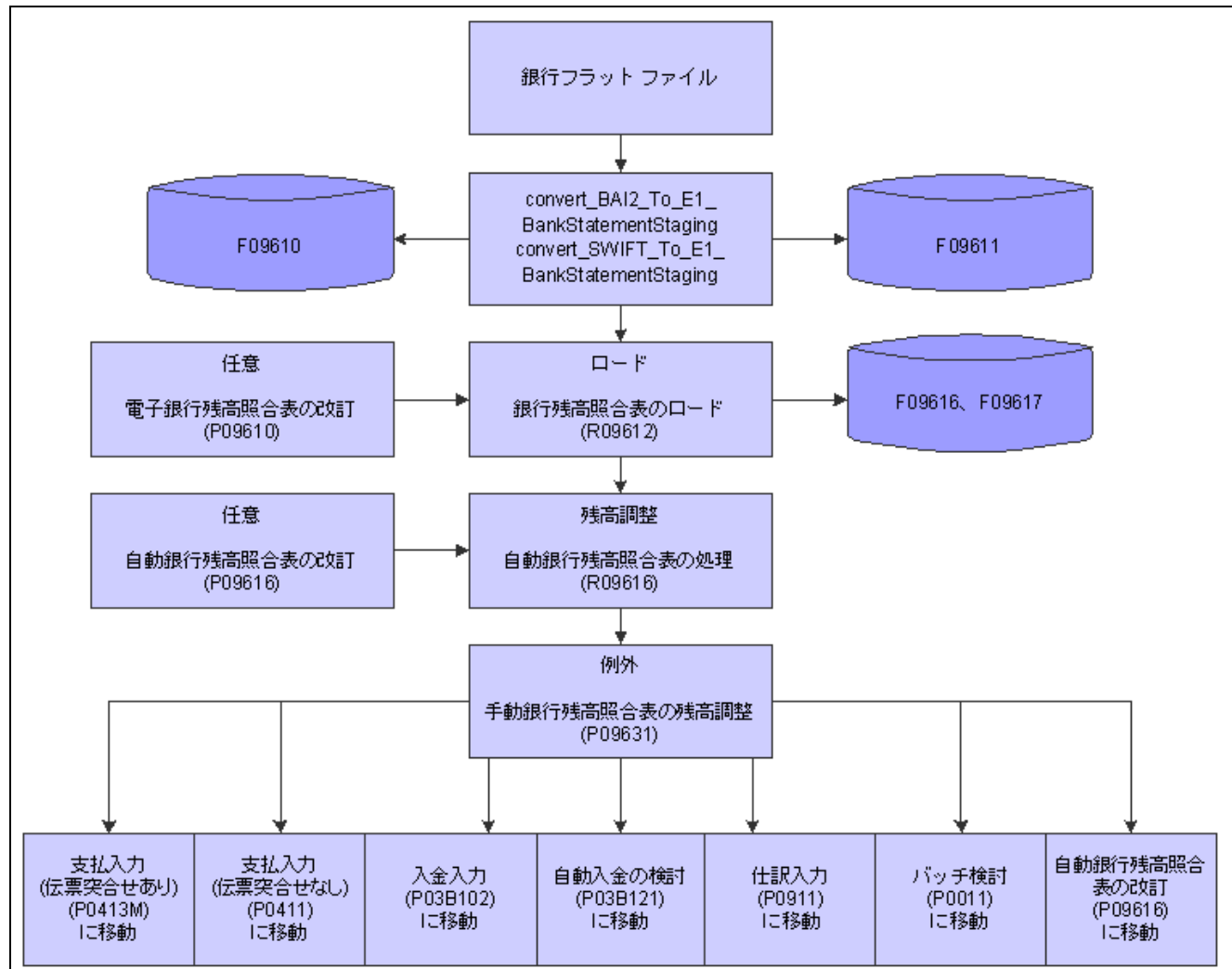
- 入金入力（入金項目が銀行で決済されているが、まだシステムに入力されていない場合）
- 入金と支払の差異、税金、銀行手数料、および振替手数料の各仕訳
- 銀行勘定科目または相手勘定科目の相殺仕訳
- 支払手形勘定の仕訳

自動銀行残高照合表処理を使用する場合は、銀行からフラット ファイルを使用して電子的に銀行残高照合表データを送信してもらう必要があります。フラット ファイルから一般会計システムへのデータ変換を行うには、Integration Server から変換フローを実行する必要があります。この変換フローにより、データが経由保管場所テーブル (F0910 および F09611) に転送されます。

次に、銀行残高照合表のロード プログラム (R09612) を実行し、銀行残高照合表テーブル (F09616 および F09617) にデータを転送します。データを改訂する場合は自動銀行残高照合表の改訂プログラム (P09616) を使用します。次に自動銀行残高照合表の処理プログラム (R09616) を実行し、電子銀行残高照合表のデータと総勘定元帳の銀行勘定科目情報を自動調整します。自動調整されない取引がある場合は、処理オプションの設定に応じて、未調整レポートが印刷されます。未調整の例外は、手動銀行残高照合表の残高調整プログラム (P09631) を使用して修正することができます。

**注:** Enterprise 財務管理システムを使用している場合に EnterpriseOne 一般会計システムを使用して会計処理を行うには、自動銀行残高照合表処理用に Enterprise から EnterpriseOne の銀行残高照合表經由保管場所テーブルへ銀行残高照合表のデータを転送する必要があります。

参照: 第 19 章、「EnterpriseOne 一般会計における Enterprise の銀行残高照合表の処理」、181 ページ  
次の図は、自動銀行残高照合表処理を示しています。



自動銀行残高照合表処理

## 自動銀行残高照合表処理の変換フローの実行

このセクションでは、銀行残高照合表処理の変換フローの概要と、銀行残高照合表処理の変換フローの実行方法について説明します。



## 銀行残高照合表処理の変換フローについて

自動銀行残高照合表処理を使用する場合は、銀行からフラット ファイルを使用して電子的にデータを送信してもらう必要があります。データを銀行から EnterpriseOne 経由保管場所テーブルに転送し、そのデータを処理で使えるようにするために、変換フローを実行する必要があります。銀行のフラット ファイルから経由保管場所テーブルのフィールドにデータをマッピングするには、次の変換フローの 1 つを使用します。

- BAI2\_To\_E1\_BankStatementStaging
- Swift\_To\_E1\_BankStatementStaging

これらの変換フローは、Bank Administration Institute (BAI) と国際銀行間通信協会 (SWIFT) が定めた電子銀行フォーマットに従って設計されています。

変換フローでは、設定したインテグレーション オプションを基に情報が検索されます。インテグレーション オプションでは、EnterpriseOne 経由保管場所テーブルに変換されるデータ、およびデータ変換時に使用するデータ フォーマットが保管されている銀行フラット ファイルのロケーションを指定します。

ほとんどの場合、銀行が使用する特定の銀行フォーマットがプログラムで処理されるように、変換フローを修正する必要があります。銀行がテストする場合は、フィールド スキーマとサンプル データ セットが必要です。

参照: PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Integration Development Methodology

## 事前設定

銀行フラット ファイルを複数処理する場合は、各変換フローを実行する前にインテグレーション オプション フォームの [Value] フィールドのパス ロケーションを変更します。

参照: 第 5 章、「自動銀行残高照合表処理の設定」、「変換フローのインテグレーション オプションの設定」、37 ページ

## 銀行残高照合表変換フローの実行

Integration Server で、[Packages]、[Management]、[PSFT EnterpriseOne Interfaces]、[Browse services in PSFT EnterpriseOne Interface] の順にクリックします。

変換フローの 1 つを実行し、銀行から EnterpriseOne 経由保管場所テーブルにデータを転送します。

<b>BAI2ElectronicFormat.BAI2 To E1 BankStatementStaging.maps:map BAI2 To E1 BankStatementStaging</b>
<b>BAI2ElectronicFormat.BAI2 To E1 BankStatementStaging:convert BAI2 To E1 BankStatementStaging</b>
<b>SwiftElectronicFormat.Swift To E1 BankStatementStaging.maps:map Swift To E1 BankStatementStaging</b>
<b>SwiftElectronicFormat.Swift To E1 BankStatementStaging:convert Swift To E1 BankStatementStaging</b>

自動銀行残高照合表の変換フローが表示された [Services] (サービス) フォーム

**注:** インテグレーション オプションを、前に作成したテキスト ファイルを削除するように設定した場合は、以下のステップを行う前に、インテグレーション オプション フォームの [Value] フィールドのパス ロケーションを新しいパスに変更します。

1. [Services] (サービス) フォームで、PSFT EnterpriseOne Interfaces.Financials.AutoBankStatement にスクロール ダウンします。
2. 次のうち 1 つを選択します。
  - convert\_BAI2\_To\_E1\_BankStatementStaging

- convert\_Swift\_To\_E1\_BankStatementStaging
3. 前のステップで選択した変換フローに従って、次の中から 1 つ選択します。
    - Test\_convert\_BAI2\_To\_E1\_BankStatementStaging
    - Test\_convert\_Swift\_To\_E1\_BankStatementStaging
  4. [Assign Input Values] (入力値割り当て) フォームで、[Test (without inputs)] (テスト (入力なし)) をクリックし、変換フローを実行します。

---

注: インテグレーション オプションを、前に作成したテキスト ファイルをデータ変換後に削除するように設定した場合は、変換フローによりインテグレーション オプション フォームで指定したパスを使用してテキストファイルが新規に作成されます。

---

5. 監査ログにアクセスするには、Integration Server に戻り、[Logs] 見出しから [Server] を選択します。
6. 変換フローが失敗した場合は、Integration Server に戻り、[Logs] 見出しから [Error] を選択します。

---

## 経由保管場所テーブルのデータの改訂

このセクションでは、経由保管場所テーブルのデータの改訂の概要と、以下の方法について説明します。

- 電子銀行残高照合表の改訂 (P09610) の処理オプションの設定
- 経由保管場所データの改訂

### 経由保管場所テーブルのデータの改訂について

銀行残高照合表変換フローを実行したときにフラット ファイルから経由保管場所テーブル (F09610 および F09611) に正常にマッピングされなかったデータがある場合は、次のタスクの 1 つを実行します。

- 該当する変換フローのマッピングを修正し、再実行します。
- 電子銀行残高照合表の改訂プログラムを使用して、経由保管場所テーブルのデータを改訂します。

経由保管場所テーブルには、使用不可に設定されているためデータの改訂ができないフィールドがあります。それ以外のフィールドは、改訂できます。改訂を許可するフィールドの制御には、処理オプションを使用します。

経由保管場所テーブルではデータの改訂のみを行うことができます。レコードの追加または削除はできません。エラーのデータを改訂すると、電子銀行残高照合表の改訂プログラムによってデータが検証され、銀行残高照合表の開始残高と取引金額の合計が終了残高に等しいかどうかの確認が行われます。

経由保管場所テーブルには、トラッキングおよびセキュリティ目的に使用される監査フィールドが含まれています。経由保管場所テーブル内の改訂されたレコードは、内部監査用にトラッキングされます。

## 経由保管場所テーブルのデータ改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[電子銀行残高照合表の処理]	W09610C	[自動銀行残高照合表処理] (G09212)、[電子銀行残高照合表の改訂]  レコードを除去する場合は、[電子銀行残高照合表の処理] フォームで、[経由保管場所の除去] を選択し、経由保管場所テーブルの除去プログラム (R09610) にアクセスします。	銀行残高照合表の一覧を表示したり、条件を指定して特定の銀行残高照合表を検索します。
[電子銀行残高照合表の改訂]	W09610A	[電子銀行残高照合表の処理] フォームで、改訂する銀行残高照合表を選択します。	エラーのデータを改訂します。このフォームではデータの削除または追加はできません。削除または追加を行う場合は、変換フローの1つのマッピングを修正し、再実行する必要があります。

## 電子銀行残高照合表の改訂 (P09610) の処理オプションの設定

以下の処理オプションを使用して、[電子銀行残高照合表の改訂] フォームの特定のフィールドの改訂を許可するかどうかを指定します。

### フィールドの更新

このタブ上の各処理オプションの有効な値は次のとおりです。

- ブランク: フィールドの改訂を許可しない。
- 1: フィールドの改訂を許可する。

このプログラムの処理オプションは、[電子銀行残高照合表の改訂] フォームの次のフィールドに対応しています。

- [取引値日付]
- [取引借方/貸方インジケータ]
- [取引金額]
- [電子商取引タイプ]
- [顧客参照]
- [銀行参照]
- [サブフィールド 9]
- [その他の情報]

## 電子銀行残高照合表の改訂

[電子銀行残高照合表の改訂] フォームにアクセスします。

電子銀行残高照合表の改訂 - 電子銀行残高照合表の改訂

OK(O) 検索(I) キャンセル(L) ツール(T)

銀行残高照合表番号 1234 開始残高 1,000.00

銀行残高照合表日付 2005/07/15 終了残高 2,000.00

銀行口座番号 45866 残額

銀行残高照合表ID 143 ☐ 未ロード ☐ ロード済み ☒ すべて

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

電子商取引 タイプ	顧客 参照	取引値 日付	取引 金額	取引借方/貸方 インジケータ	取引 通貨コード	銀行 参照	残高 コー
115	1155	2005/07/20	1,000.00	C	USD		

[電子銀行残高照合表の改訂] フォーム

このフォームでは、残高調整済みレコードを改訂することはできません。

## 見出しフィールド

### [終了残高]

このフィールドは SWIFT フォーマットの場合に必須です。SWIFT の銀行フラット ファイルには必ず終了残高額が含まれており、このフィールドに表示されます。

終了残高が BAI2 または PSFT フォーマットの銀行フラット ファイルに含まれていない場合は、自動的に計算された終了残高がこのフィールドに表示されますが、テーブルは一切更新されません。これにより、経由保管場所テーブルを元の状態のまま、銀行フラット ファイル内のデータと同じ状態に保つことができます。

### [未ロード]、[ロード済み]、[すべて]

表示する取引をこれらのオプションから 1 つ選択します。

経由保管場所テーブルから銀行残高照合表にまだロードされていないレコードを改訂する場合は、銀行残高照合表に改訂が反映されるように、銀行残高照合表のロード プログラムを再実行します。

## 詳細グリッド フィールド

このフォームの詳細グリッドのフィールドを改訂できるかどうかは、処理オプションで制御します。

### [電子商取引タイプ]

UDC テーブル 09/BA (BAI2 フォーマット) または 09/ST (SWIFT フォーマット) の取引タイプ コードが表示されます。

### [顧客参照]

電子銀行残高照合表に表示される参照を指定します。このフィールドに参照番号を入力すると、銀行残高照合表が一般会計システムに関連付けられます。顧客参照には、入金を保証金番号や支払番号などを使用します。

### [取引値日付]

入金または支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付が表示されます。取引値日付は銀行が支払を決済した日付ではありません。

### [取引借方/貸方インジケータ]

取引が借方であるか、貸方であることを示します。有効値は以下のとおりです。

D:借方

	C:貸方
	RC:貸方取り消し
	RD:借方取り消し
	[電子商取引タイプ] フィールドを変更し、銀行フォーマットが BAI2 または PSFT の場合、このフィールドにはデフォルト値がロードされます。銀行フォーマットが SWIFT の場合は、インジケータを入力する必要があります。
[取引通貨コード]	銀行勘定科目の取引通貨コードが表示されます。 多通貨環境で銀行勘定通貨が外貨の場合は、その外貨が取引通貨になります。
[銀行参照]	銀行が電子銀行残高照合表に割り当てた参照を指定します。
[残高調整コード]	残高調整済みの取引かどうかを示すコードが UDC テーブル 09/RC から表示されます。このフィールドは、変更はできません。
[サブフィールド 9]	電子銀行残高照合表に記載されている情報が表示されます。
[その他の情報]	電子銀行残高照合表に記載されているその他の情報が表示されます。

## 銀行残高照合表テーブルへのデータのロード

このセクションでは、銀行残高照合表のロード プログラムの概要と、以下の方法について説明します。

- 銀行残高照合表のロード プログラムの実行
- 銀行残高照合表のロードの処理オプションの設定

### 関連項目:

[付録 C、「自動銀行残高照合表処理の変換フローによるフィールドのマッピング」535ページ](#)

## 銀行残高照合表のロード プログラムについて

銀行残高照合表のロード プログラムにより、F09610 および F09611 経由保管場所テーブルから一般会計システムの F0916 および F0917 銀行残高照合表テーブルにデータが転送されます。このプログラムにより、使用される電子フォーマットのタイプ (BAI2、PSFT、SWIFT) に応じてデータがフォーマットされ、銀行残高照合表テーブルの値が有効であるかどうか検証されます。銀行残高照合表のロード レポート (R09612) に、ロード済み数、および必要に応じて未ロード数が出力されます。

入金、支払、振込手数料などの参照番号に対応して、F09611 テーブルには顧客参照 (CUSTREF) フィールドがあります。このフィールドは、最大 16 文字の英数字を入力可能で、F09617 テーブルの入金番号 (CKNU) フィールドにマッピングされます。また CUSTREF フィールドの内容は、伝票番号 (DOCM) および参照 1 (REF1) フィールドにマッピングされます。F09617 テーブルでは制限文字数を超える入力は切り捨てられます。

データが銀行残高照合表テーブルに正しくマッピングされた場合は、F09610 テーブルの見出しレコードにレコードの除去が可能であることを示すフラグが設定されます。処理オプションを設定して銀行残高照合表のロード プログラム実行時に経由保管場所テーブルからデータを除去するか、または後でデータを除去します。

銀行残高照合表に取引が含まれていない場合は、詳細レコードがないため、この銀行残高照合表は銀行残高照合表テーブルにマッピングされません。しかし、経由保管場所テーブルにはマッピングされ、銀行フラット ファイルのコピーが作られます。

## 銀行残高照合表のロード プログラムの実行

[自動銀行残高照合表処理] (G09212) の [銀行残高照合表のロード] を選択します。

## 銀行残高照合表のロード (R09612) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、銀行残高照合表のロード プログラム実行後にレコードを除去するかどうかを指定します。

### プロセス

#### 中間レコードの除去

銀行残高照合表テーブルへのロードに成功した中間レコードを除去するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 除去しない。

1: 除去する。

中間レコードが銀行残高照合表に正常にロードされた後、電子銀行残高照合表の経由保管場所テーブルの除去プログラムが自動的に実行されます。

---

## 銀行残高照合表テーブルのデータの改訂

このセクションでは、銀行残高照合表テーブルのデータ改訂の概要と、以下の方法について説明します。

- 自動銀行残高照合表の改訂プログラム (P09616) の処理オプションの設定
- 銀行残高照合表データの改訂
- 顧客番号のない取引の改訂

## 銀行残高照合表テーブルのデータの改訂について

銀行残高照合表のロード プログラムの実行時にエラーが発生した場合は、自動銀行残高照合表の改訂プログラムを使用して、銀行残高照合表テーブル (F09616 および F09617) のエラーを修正できます。

銀行残高照合表テーブルの使用不可に設定されているフィールドについては、データの改訂ができません。それ以外のフィールドは、改訂できます。改訂を許可するフィールドの制御には、処理オプションを使用します。

データの改訂のみを行えます。レコードの追加または削除はできません。

銀行残高照合表テーブルには、トラッキングおよびセキュリティ目的に使用される監査フィールドが含まれています。銀行残高照合表テーブル内の改訂されたレコードは、内部監査用にトラッキングされます。

## 銀行残高照合表テーブルのデータの改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[自動銀行残高照合表の処理]	W09616A	<p>[自動銀行残高照合表処理] (G09212)、[自動銀行残高照合表の改訂]</p> <p>[自動銀行残高照合表の処理] フォームで、[フォーム] メニューから [顧客/仕入先] を選択し、顧客番号のない取引を改訂します。</p>	銀行残高照合表の一覧を表示したり、条件を指定して特定の銀行残高照合表を検索します。このフォームで銀行残高照合表がハイライトされている場合、その照合表にはデータエラーが含まれています。
[自動銀行残高照合表の改訂]	W09616C	<p>[自動銀行残高照合表の処理] フォームで、改訂する銀行残高照合表を選択します。</p> <p>[ロー] メニューから [銀行残高照合表] を選択し、経由保管場所テーブルのデータを改訂します。</p> <p>[フォーム] メニューから [銀行残高照合表の除去] を選択し、自動銀行残高照合表テーブルの除去プログラム (R09615) にアクセスし、F09616 および F09617 テーブルを除去します。</p>	エラーのデータを修正します。このフォームではレコードの削除または追加はできません。
[銀行残高照合表の顧客/仕入先入力の処理]	W09617A	[自動銀行残高照合表処理] (G09212)、[自動銀行残高照合表の顧客/仕入先入力]	顧客番号のない自動バッチ入金取引を特定します。
銀行残高照合表の顧客/仕入先入力の改訂	W09617B	[銀行残高照合表の顧客/仕入先入力の処理] フォームで、取引を選択します。	自動バッチ入金取引の顧客番号を入力します。このフォームには、銀行残高照合表取引に関連する詳細情報が含まれています。[顧客/仕入先番号] フィールド以外は全て参照用であり、変更できません。

## 自動銀行残高照合表の改訂プログラム (P09616) の処理オプションの設定

以下の処理オプションを使用して、[自動銀行残高照合表の改訂] フォームの特定のフィールドの改訂を許可するかどうかを指定します。このフォームから、銀行残高照合表テーブルのレコードにアクセスします。

### フィールドの改訂

このタブ上の各処理オプションの有効な値は次のとおりです。

- ブランク: フィールドの改訂を許可しない。
- 1: フィールドの改訂を許可する。

このプログラムの処理オプションは、[自動銀行残高照合表の改訂] フォームの次のフィールドに対応しています。

- [決済日付]
- [支払/入金No.]
- [銀行残高照合表取引コード]
- [備考]
- [サブフィールド 9]
- [その他の情報]

## 銀行残高照合表データの改訂

[自動銀行残高照合表の改訂] フォームにアクセスします。

自動銀行残高照合表の改訂 - 自動銀行残高照合表の改訂

OK(O) 検索(D) キャンセル(L) ロー(R) ツール(T)

自動銀行残高照合表番号 \* 4566 開始残高 1,000.00

銀行勘定科目コード \* 1.1110.AUTOBKST Auto Bank Statement Bank 借方合計 1,300.00

照合表日付 \* 2005/06/01 貸方合計

バッチNo. \* 7387 終了残高 2,000.00

電子フォーマット・インジケータ \* BAI2 BAI2

電子銀行口座番号 45866

銀行残高照合表ID 146 ☐ 自動バッチ入金で顧客/仕入先番号のない取引を表示する

☒ すべて表示 ☐ 残高調整済み取引を表示する ☐ 残高未調整取引を表示する

レコード 1/3

	決済 日付	支払/入金 No.	残高調整 コード	通貨コード フォーム	借方 金額	貸方 金額	顧客/仕入先 No.	顧客/仕入先 フラグ
<input checked="" type="radio"/>	2005/06/23			USD		20.00	0	1
<input type="radio"/>	2005/06/23			USD		100.00	0	1
<input type="radio"/>	2005/06/23			USD		15.28	0	1

[自動銀行残高照合表の改訂] フォーム

取引は、最新の取引を先頭にして決済日付の降順で表示されます。データ エラーがある場合は、[自動銀行残高照合表の改訂] フォームの最上部に警告メッセージが表示されます。

BAI2 および PSFT 電子フォーマットの場合は、整合性チェックが実行され、このフォームで改訂したデータが検証されます。整合性チェックにより、電子銀行残高照合表の開始残高、借方金額および貸方金額の合計が終了残高と等しいかどうかを確認されます。等しくない場合は、“終了残高が正しくありません”などの警告メッセージが表示されます。銀行残高照合表に終了残高が含まれていない場合は、[終了残高] フィールドの金額が計算され、終了残高となります。

### 見出しフィールド

[電子銀行口座番号]

F09610 経由保管場所テーブルから銀行口座番号が表示されます。必要に応じて、改訂できます。



- [自動バッチ入金で顧客/仕入先番号のない取引を表示する]

このチェック ボックスをオンにすると、顧客番号のない CR の取引が表示されます。自動銀行残高照合表を処理する場合は、自動バッチ入金を作成し請求書との消込を行うために顧客番号が必要になります。顧客番号がブランクの場合は、自動バッチ入金が仮入金として作成されます。この入金と請求書の消込は行われません。
- [すべて表示]、[残高調整済み取引を表示する]、[残高未調整取引を表示する]

残高調整済み取引のみを表示するか、残高未調整取引のみを表示するか、または両方の取引を表示するかを、このオプションで選択します。

詳細グリッド フィールド

このフォームの詳細グリッドのフィールドを改訂できるかどうかは、処理オプションで制御します。

- [決済日付]

入金または支払金額が銀行勘定の借方または貸方に計上された日付が表示されます。決済日付は銀行が支払を決済した日付ではありません。
- [支払/入金No.]

最大 16 文字の英数字の参照番号が表示されます。通常は、入金、支払、振込手数料に使用されます。  
  
F09611 経由保管場所テーブルの顧客参照 (CUSTREF) フィールドが、F09617 テーブルのこのフィールド (CKNU) にマッピングされます。
- [電子銀行取引タイプ]

取引タイプ コードとして、UDC テーブル 09/BA (BAI2 銀行フォーマット) または 09/ST (SWIFT 銀行フォーマット) のユーザー定義コードが表示されます。
- [銀行残高照合表取引コード]

CK、CR、DP、JE、RJE などのユーザー定義の取引コードが表示されます。

顧客番号のない取引の改訂

[銀行残高照合表の顧客/仕入先入力の処理] フォームにアクセスします。

自動銀行残高照合表の顧客/仕入先入力 - 銀行残高照合表の顧客/仕入先入力の処理

選択(S) 検索(I) 閉じる(C) ツール(T)

自動銀行残高照合表番号

銀行勘定科目コード

照合表日付

\*

\*

\*

☒ 自動バッチ入金の顧客/仕入先No.のない取引を表示

☐ すべての取引を表示

レコード 1/3

	銀行残高照合表ID	自動銀行残高照合表番号	銀行勘定科目コード	照合日付	電子銀行取引タイプ	銀行残高照合表取引コード	顧客仕入先番号
<input checked="" type="radio"/>	3091	190	1.1110.BEAR	2005/06/23	108	CR	
<input type="radio"/>	3091	190	1.1110.BEAR	2005/06/23	108	CR	
<input type="radio"/>	3091	190	1.1110.BEAR	2005/06/23	108	CR	

[銀行残高照合表の顧客/仕入先入力の処理] フォーム

このフォームには、CR の取引のみが表示されます。顧客番号は、自動バッチ入金を作成と請求書の消込を行う場合に必要です。全ての CR 取引で必要というわけではありません。顧客番号がblankで、残高調整ルールが自動バッチ入金を作成するように設定されている場合は、仮入金が作成され、請求書の消込は行われません。

**[自動バッチ入金の顧客/仕入先No.のない取引を表示する]** 顧客番号のない CR の取引を表示する場合に、このオプションを選択します。取引の番号がなく、その取引が自動バッチ入金にマークされている場合、このフォームの [顧客/仕入先フラグ] フィールドの値は 1 となります。

**[すべての取引を表示]** 顧客番号あり、なし両方の CR 取引を表示する場合に、このオプションを選択します。

取引の番号があり、その取引が自動バッチ入金にマークされている場合、このフォームの [顧客/仕入先フラグ] フィールドはblankになります。

---

## 自動銀行残高照合表処理

このセクションでは、自動銀行残高照合表プログラム、自動銀行残高照合表レポートおよびメッセージの各概要と、以下の方法について説明します。

- 自動銀行残高照合表の処理 (R09616) の処理オプションの設定
- 自動銀行残高照合表の処理プログラムの実行

### 自動銀行残高照合表プログラムについて

銀行残高照合表のロード プログラムを実行し、必要に応じて銀行残高照合表テーブルのデータを改訂したら、自動銀行残高照合表の処理プログラムを実行できます。このプログラムにより、銀行が決済したデータと一般会計システムに入力されているデータが比較され、残高調整が行われます。自動銀行残高照合表の処理プログラムによって、以下の処理が行われます。

- 取引タイプ (UDC テーブル 09/TT) に設定した残高調整ルールに基づいてデータが残高調整されます。
- [取引タイプ相互参照の改訂] フォームにおいて取引コード JE に割り当てられた相殺ビジネスユニット (UDC テーブル 09/BU) を使用し、相手勘定科目または銀行勘定科目のビジネスユニットを使用して相殺仕訳を作成するかどうかが決まります。
- F09616 および F09617 テーブルの取引が処理され、F0911 テーブルの取引に対して調整されます。

---

**注:** 自動銀行残高照合表の処理プログラムにより、一般会計システムに入力されている手入力の仕訳が自動調整されることはありません。これらの仕訳は、手動で調整する必要があります。F09616 および F09617 テーブルから F0911 テーブルにこれらの取引を関連付ける参照番号フィールドはありません。

---

- 自動バッチ入金プログラム (R03B551) が実行され、自動バッチ入金に指定された CR 取引のバッチ入金が作成されます。

顧客番号が取引に割り当てられている場合は、自動バッチ入金が作成され、入金と請求書の消込が行われます。顧客番号がblankの場合は、仮入金が作成され、請求書との消込は行われません。

自動銀行残高照合表の処理プログラムにより、銀行残高照合表のバッチ番号が F0911 テーブルの GLR3 (参照 3) フィールドにロードされます。入金のバッチ番号または保証金番号はロードされません。銀行残高照合表番号を取引上に表示させる場合は、[自動残高調整グループの改訂] フォームの残高調整ルールのチェック ボックスをオンにする必要があります。

多通貨処理の場合は、入金と請求書の通貨が同じ場合のみ、バッチ入金が作成されます。

- 顧客番号のある取引の場合は、請求書自動突合せプログラム (R03B50) を実行して、バッチ入金と請求書の消込が行われます。

照合する請求書がない場合は、タイプ RU の請求書が作成されます。

- 経由保管場所テーブルのレコードは、既に除去済みでない限り、調整済みとして更新されます。  
多通貨環境では、銀行勘定科目フォーマットに取引通貨が使用されます。銀行勘定の通貨が外貨（会社の基本通貨以外）の場合は、その外貨が取引通貨となります。自動銀行残高照合表処理プログラムでは、取引に国内通貨金額が存在しないため、外貨建ての銀行勘定の損益は計算されません。

自動銀行残高照合表処理プログラムの実行後、[銀行残高照会表明細と取引明細の調整] フォームで取引を検討して、未調整取引を手動で調整したり、必要に応じて調整済みの取引を未調整に変更することができます。

## 仕訳のみ調整

UDC テーブル 09/TT の取引タイプ RJE（または特殊取扱コード 02 が付いたユーザー指定コード）は、一般会計システムに仕訳取引として既に存在する銀行残高照合表取引に使用されます。これらの取引の場合、自動銀行残高照合表処理では重複した取引は作成されず、代わりに、既存の仕訳と総勘定元帳が調整されます。通常この取引タイプコードは、銀行手数料、振込手数料などの銀行取引に使用されます。

電子銀行残高照合表を Enterprise システムで作成する場合、これらの銀行残高照合表取引の仕訳は伝票タイプ TM で財務管理システムで作成された後、EnterpriseOne に転送されます。自動銀行残高照合表処理プログラムを実行すると、伝票タイプ TM の取引と RJE（またはその他のユーザー指定コード）の取引が調整されます。このプログラムでは、これらの取引の仕訳は作成されないため、Enterprise から EnterpriseOne に重複する仕訳が作成されることはありません。

## 自動銀行残高照合表レポートおよびメッセージについて

処理オプションの設定に応じて、自動銀行残高照合表処理プログラムにより、自動銀行残高照合表処理レポート (R09616) が生成されます。生成されるレポートは次のとおりです。

- 集計レポート - 調整済みと未調整の取引の数、および作成された新規バッチについての集計情報を出力する集計レポート
- 調整済み取引レポート - 調整済み取引の合計数、および各調整済み取引について出力する詳細レポート
- 未調整取引レポート - 未調整取引の合計数、および各未調整済み取引について出力する詳細レポート

未調整メッセージの理由コードと対応するテキストは、UDC テーブル 09/UR に設定されています。

次の表は、[銀行残高照会表明細と取引明細の調整] フォーム、または自動銀行残高照合表処理プログラムによって生成される未調整取引レポートに出力される未調整メッセージの例を示しています。

メッセージ	記述
金額が等しくない	<p>プログラムにより銀行残高照合表と総勘定元帳金額の間の差異が検出され、次のいずれかに該当する場合に出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>残高調整ルールに許容限度額が設定されていない。</li> <li>残高調整ルールで設定された金額が、許容限度額の設定範囲内に収まっていない。</li> </ul>
元帳に一致する支払がない	<p>F0911 テーブルに一致する支払がない場合に出力されます。手入力での支払を作成し、総勘定元帳に転記する必要があります。</p>

メッセージ	記述
総勘定元帳に一致する入金がない	F0911 テーブルに一致する入金がなく、残高調整ルールが自動バッチ入金を作成するように設定されていない場合に出力されます。次のいずれかの処理を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>手動入金を作成して総勘定元帳に転記し、自動銀行残高照合表処理プログラムを再実行します。</li> <li>残高調整ルールを改訂して自動バッチ入金を作成し、自動銀行残高照合表処理プログラムを再実行します。</li> </ul>
元帳クラス勘定科目が無効	取引の相手勘定科目が有効でない場合に出力されます。
自動バッチ入金が作成されていない	CR 取引の残高調整ルールにバッチ入金の自動作成が設定されていない場合に出力されます。

## 自動銀行残高照合表の処理プログラムの実行

[自動銀行残高照合表処理] (G09212) の [自動銀行残高照合表の処理] を選択します。

自動銀行残高照合表の処理プログラムでは、データ選択を使用しません。代わりに、処理オプションで銀行残高照合表番号、銀行勘定科目コード、日付範囲別のデータを選択します。

## 自動銀行残高照合表の処理 (R09616) の処理オプションの設定

次の処理オプションを使用して、残高調整する銀行残高照合表と印刷するレポートを選択します。

### 選択

銀行残高照合表番号	調整する銀行残高照合表番号を指定します。ブランクにすると、F09616 テーブルの全ての銀行残高照合表が処理されます。
銀行勘定科目コード	調整する総勘定元帳の銀行勘定科目コードを指定します。ブランクにすると、F09616 テーブルにある全ての総勘定元帳の銀行勘定科目が処理されます。
開始日付	レコードの調整を開始する日付を指定します。ブランクにすると、終了日付までの F09616 テーブルの全てのレコードが処理されます。終了日付処理オプションをブランクにすると、テーブル内の全てのレコードが処理されます。
終了日付	レコードの調整を終了する日付を指定します。ブランクにすると、開始日付以後の F09616 テーブルの全てのレコードが処理されます。開始日付処理オプションをブランクにすると、テーブル内の全てのレコードが処理されます。

### 印刷

この処理オプションの有効値は以下のとおりです。

ブランク:印刷する。

1: 印刷しない。

未調整レポートを印刷しない、調整済みレポートを印刷しない、集計レポートを印刷しない

レポートを印刷するかどうかを指定します。全てのレポートを印刷する場合は、ブランクにします。

## 銀行残高照合表の未調整取引の残高調整

このセクションでは、手動銀行残高照合表の残高調整プログラムの概要と、以下の方法について説明します。

- 手動銀行残高照合表の残高調整 (P09631) の処理オプションの設定
- 銀行残高照合表の未調整取引の残高調整

### 手動銀行残高照合表の残高調整プログラムについて

自動銀行残高照合表の処理プログラムの実行後に、手動銀行残高照合表の残高調整 (P09631) を使用して未調整および調整済みの取引を改訂することができます。このプログラムでは、[銀行残高照合表明細と取引明細の調整] フォームにアクセスします。このフォームの [銀行残高照合表明細] 領域で、F09617 テーブルの銀行残高照合表の詳細情報を調整することができます。また、F0911 テーブルの対応する元帳情報を [取引明細] 領域に表示し、調整することもできます。[取引明細] 領域に表示されるのは、転記済み取引のみです。

自動銀行残高照合表処理プログラムで取引を処理できない場合、その取引は [銀行残高照合表明細] 領域に未調整 ([調整済みコード] フィールドがブランクになります) として表示され、調整されなかった理由が表示されます。

参照: 第 20 章、「銀行残高照合表の自動処理」、「自動銀行残高照合表プログラムについて」、196 ページ

未調整取引を修正する場合は、[銀行残高照合表明細と取引明細の調整] フォームからさまざまなフォームに移動できます。これらのフォームで、以下の作業を行うことができます。

- 手動入金を作成、および伝票付き/伝票なしの手動支払の作成

手動の入金または支払を作成すると、支払 ID が F09617 テーブルに保管され、対応する銀行残高照合表取引に調整済みのマークが付けられます。銀行残高照合表のバッチ番号が、手動の支払および入金バッチに割り当てられます。入金または支払を転記すると、RCND (未調整) フィールドが更新され、自動銀行残高照合表処理プログラムの処理オプションが設定されている場合は、F0911 テーブルの GLR3 (参照 3) フィールドが更新されます。

- 自動銀行残高照合表処理プログラムによって作成された自動入金の改訂
- 仕訳の作成

仕訳を作成すると、自動採番によってバッチ番号が割り当てられます。

- 未転記取引の転記

未調整取引を修正した後、[銀行残高照合表明細と取引明細の調整] フォームの [銀行残高照合表明細] 領域で銀行残高照合表明細の取引を手動調整するか、自動銀行残高照合表処理プログラムを再実行して自動調整します。取引が調整されると、対応する F0911 取引が [取引明細] 領域に表示されます。

[銀行残高照合表明細] 領域では、未調整取引の調整のほか、必要に応じて調整済み取引を未調整に変更することができます。

銀行残高照合表の全ての取引が F09617 テーブルで調整されると、F09611 経由保管場所詳細テーブル内の対応する中間レコードに調整済みのマークが付けられます。ただし、次の場合を除きます。

- レコードが F09610 および F09611 経由保管場所テーブルから除去された場合。
- レコードがエラーのため、F09611 経由保管場所詳細テーブルにロードされなかった場合。

F09611 テーブルの全ての取引が調整されると、F09610 テーブルの見出しレコードが調整済みに更新されます。

## 手動銀行残高照合表取引の残高調整に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[銀行残高照会表明細と取引明細の調整]	W09631A	[自動銀行残高照合表処理] (G09212)、[手動銀行残高照合表の残高調整]	銀行残高照合表の未調整取引を調整し、必要な場合は調整済み取引を未調整に変更します。

## 手動銀行残高照合表の残高調整 (P09631) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、[銀行残高照会表明細と取引明細の調整] フォームのデフォルト値を指定します。

### デフォルト

#### 参照 3 更新

F0911 テーブルの参照 3 (GLR3) フィールドを自動採番された番号で更新するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:更新する。

1: 更新しない。

注: この処理オプションの値は、[銀行残高照会表明細と取引明細の調整] フォームで変更することができます。

#### 調整済みコード

調整コードを UDC テーブル 09/RC から指定し、[銀行残高照会表明細と取引明細の調整] フォームのデフォルト値に使用します。ブランクにすると、R (残高調整済み (1 対 1)) がデフォルト値として使用されます。

## 未調整銀行取引の残高調整

[銀行残高照会表明細と取引明細の調整] フォームにアクセスします。

### 銀行残高照合表の検索

[銀行残高照合表の検索] 領域にアクセスします。

[銀行残高照会表明細と取引明細の調整] フォーム - [銀行残高照合表の検索] 領域

**[勘定科目コード]** 銀行勘定の勘定科目コードを入力します。

**[開始日付]**、**[終了日付]** 表示する銀行勘定取引の開始と終了の日付を入力します。

### [表示]

フォームの見出し域の [表示] 領域にアクセスします。

**[調整状況]** ドロップダウン メニューの [未調整]、[調整済み]、[すべて] の中から検索条件に合うものを選択します。

## 銀行残高照合表明細

[銀行残高照合表明細] 領域にアクセスします。

[銀行残高照合表明細と取引明細の調整] フォーム - [銀行残高照合表明細] 領域

F09617 テーブルから、このフォームの [銀行残高照合表の検索] で指定した勘定科目コードと日付範囲に一致する銀行残高照合表の取引が表示されます。

**注:** [ロー] メニューから選択できるプログラムに移動して入金または支払を手動で作成すると、作成したバッチに銀行残高照合表バッチ番号が自動的に割り当てられます。手動で仕訳を行うと、自動的に新規のバッチ番号が割り当てられます。

未調整取引を修正するには、次の手順に従います。

1. [銀行残高照合表明細] 領域で取引を選択します。
2. [銀行残高照合表明細と取引明細の調整] フォームの最上部を表示します。
3. [ロー] メニューから該当するプログラムを選択します。

たとえば、未転記の支払の取引を修正する場合は、[銀行残高照合表明細] 領域で取引を選択し、[ロー] メニューから [バッチの検討] を選択します。[バッチの処理] フォームで未転記バッチを選択した後、[ロー] メニューから [バッチ別の転記] を選択します。

**[照合表日付]、[照合表日付]**

このフォームの [銀行残高照合表の検索] 領域に入力した開始日付と終了日付に基づいて、銀行残高照合表取引が表示されます。

[銀行残高照合表の検索] 領域の日付を変更する場合は、これらのフィールドに日付を入力し、[検索] をクリックします。F09617 テーブルの取引の中から、入力した日付範囲内の照合表日付に一致する取引が表示されます。表示される取引数を絞り込む場合は、QBE 行に値を入力します。

元帳日付に基づいて、F0911 情報を表示する場合は、[取引明細] 領域の [元帳日付] と [元帳日付] フィールドをブランクにするか、必要であれば日付範囲を広げて、[検索] をクリックします。

**[銀行残高照合表の未調整取引数]**

F09617 テーブルの未調整取引の中で指定した検索条件に合う取引の数が表示されます。

**[調整コード]**

UDC テーブル 09/RC にあるコードの中から、取引を手動で調整する場合に使用されるコードが表示されます。デフォルト値は、自動銀行残高照合表の処理プログラムの処理オプションで設定します。このデフォルト値は変更できます。

**[支払/入金No.]**

F09611 テーブルの CUSTREF フィールドに保存され、F09617 テーブルの CKNU (チェック番号) フィールドにマッピングされている値が表示されます。最大 16 文字の英数字が表示可能で、入金、支払、振込手数料などの参照番号が入ります。

**[参照 3 フィールドの更新]**

手動調整する仕訳の [参照 3] フィールドを任意で更新する場合は、このチェック ボックスをオンにします。[調整/未調整] をクリックして仕訳を更新すると、参照 3 フォームに自動採番により生成された参照番号が表示されます。この番号は、銀行残高照合表番号などの番号に変更することができます。その後、F0911 レコードを 1 つずつ選択し、同じまたは異なる参照番号に更新することができます。異なる参照番号を選択すると、取引ごとに参照 3 フォームが表示されます。

**[調整/未調整]**

調整する取引を選択し、[調整/未調整] ボタンをクリックして、調整と未調整を切り替えます。取引を手動調整した場合は、次のテーブルのいずれか、または両方が更新されます。

F09617: 調整コードが更新され、このフォームの [銀行残高照合表明細] 領域に調整済み取引が表示されます。取引が F09611 経由保管場所テーブルにそのまま保存される場合は、調整済みに更新されます。

F0911: 調整コード、および必要に応じて [参照 3] フィールドが更新され、このフォームの [取引明細] 領域に調整済み取引が表示されます。

F09617 テーブルと F0911 テーブルの未調整取引を全て調整すると、F09616 テーブルの見出しレコードが D (調整済み) にマークされます。F09611 テーブルの全ての取引を調整すると、F09610 テーブルの見出しレコードが D に更新されます。

**[取引明細]**

[取引明細] 領域にアクセスします。



**取引明細**

元帳日付  元帳日付

未調整会計取引数

レコードが取り込まれていません

	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	調整 コード	参照1	金額	外貨金額
<div> <div></div> <div></div> </div>						

**未調整**

借方	<input type="text"/>
貸方	<input type="text"/>

**残高**

帳簿残高	<input type="text"/>
銀行残高	<input type="text"/>

[銀行残高照会表明細と取引明細の調整] フォーム - [取引明細] 領域

F0911 テーブルから、このフォームの見出し域で指定した勘定科目コードと日付範囲に一致する元帳取引が表示されます。

**[元帳日付]、[元帳日付]**

このフォームの[銀行残高照合表の検索]領域に入力した開始日付と終了日付に基づいて、元帳取引が表示されます。

見出し域の日付を変更する場合は、これらのフィールドに日付を入力し、[検索]をクリックします。F0911 テーブルの取引の中から、入力した日付範囲内の元帳日付に一致する取引が表示されます。

表示される取引数を絞り込む場合は、QBE 行に値を入力します。

**[未調整会計取引数]**

F0911 テーブルの未調整取引の中で指定した検索条件に合う取引の数が表示されます。

**[借方]、[貸方]**

F0911 テーブルに保管されている銀行勘定科目の未調整の借方と貸方の金額が表示されます。

**[帳簿残高]**

F0902 テーブルに保管されている年累計金額が表示されます。

**[銀行残高]**

F09616 テーブルに保管されている勘定科目の最新の銀行残高照合表の終了残高が表示されます。処理オプションの設定に応じて、この終了残高は、勘定科目の資金予測を計算する場合に、資金予測分析プログラムで、その勘定科目の開始残高として使用されます。

参照: 第 24 章、「資金予測データの処理」、「銀行勘定科目開始残高について」、270ページ

## 銀行残高照合表テーブルの除去

このセクションでは、銀行残高照合表除去プログラムの概要と、以下の方法について説明します。

- 経由保管場所テーブルの除去
- 経由保管場所テーブルの除去の処理オプションの設定
- 自動銀行残高照合表テーブルの除去
- 自動銀行残高照合表テーブルの除去の処理オプションの設定

## 銀行残高照合表の除去プログラムについて

銀行残高照合表レコードの残高を調整した後、以下のプログラムを実行してレコードを除去できます。

- 経由保管場所テーブルの除去 (R09610)
- 自動銀行残高照合表テーブルの除去 (R09615)

### 経由保管場所テーブルの除去

経由保管場所テーブルの除去プログラムでは、F09160 および F09611 経由保管場所テーブルのデータが除去されます。データが銀行残高照合表テーブルに正しくマッピングされている場合は、銀行残高照合表のロード プログラムにより、F09610 テーブルの見出しレコードに、両方のテーブルのレコードの削除が可能であることを示すフラグが設定されます。その他の方法として、銀行残高照合表のロード プログラムの処理オプションを設定して、これらのテーブルを除去することもできます。

### 自動銀行残高照合表テーブルの除去

自動銀行残高照合表テーブルの除去プログラムでは、F09616 および F09617 銀行残高照合表テーブルのデータが除去されます。データが正しく調整されると、F09616 テーブルの見出しレコードの RECCODE フィールドが D (残高調整済み) に設定され、両テーブルのレコードの削除が可能になります。その他の方法として、[自動銀行残高照合表の改訂] フォームの [フォーム] メニューから [銀行残高照合表の除去] を選択することもできます。

## 経由保管場所テーブルの除去

[除去] (G09215) の [経由保管場所テーブルの除去] を選択します。

## 経由保管場所テーブルの除去 (R09610) の処理オプションの設定

次の処理オプションを使用して、日付範囲を選択し、レポートに印刷する情報のタイプを指定します。

### 選択

銀行残高照合表開始日付  
、銀行残高照合表終了日付

F09610 および F09611 経由保管場所テーブルから除去するレコードの日付範囲を指定します。これらの処理オプションを使用して、除去可能なレコードが検索されます。

開始日付を空白にすると、照合表日付が終了日付以前のレコードが全て除去されます。終了日付を空白にすると、照合表日付が開始日付以後のレコードが全て除去されます。開始日付と終了日付の両方を空白にすると、全てのレコードが除去されます。

## 印刷

### レポート出力

経由保管場所テーブルの除去レポート (R09610) に除去済みレコードを印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:レコードを印刷しない。レポートには、銀行残高照合表番号、元帳勘定科目コード、照合表日付、明細レコード数、除去済みレコードの合計数が印刷されます。

1: レコードを印刷する。レポートには、除去済みレコードの詳細情報が印刷されます。

## 自動銀行残高照合表テーブルの除去プログラム

[除去] (G09215) の [自動銀行残高照合表テーブルの除去] を選択します。

### 自動銀行残高照合表テーブルの除去プログラム (R09615) の処理オプションの設定

次の処理オプションを使用して、日付範囲を選択し、除去レポートに印刷する情報のタイプを指定します。

#### 選択

##### 銀行残高照合表開始日付、銀行残高照合表終了日付

F09616 および F09617 銀行残高照合表テーブルから除去するレコードの日付範囲を指定します。これらの処理オプションを使用して、除去可能なレコードが検索されます。

開始日付をブランクにすると、照合表日付が終了日付以前のレコードが全て除去されます。終了日付をブランクにすると、照合表日付が開始日付以後のレコードが全て除去されます。開始日付と終了日付の両方をブランクにすると、全てのレコードが除去されます。

## 印刷

### レポート出力

自動銀行残高照合表テーブルの除去レポート (R09615) に除去済みレコードを印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:レコードを印刷しない。レポートには、銀行残高照合表番号、元帳勘定科目コード、照合表日付、明細レコード数、除去済みレコードの合計数が印刷されます。

1: レコードを印刷する。レポートには、除去済みレコードの詳細情報が印刷されます。



## 第 21 章

# 予算の作成

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、予算および予算パターンの概要と、以下の方法について説明します。

- 予算パターン コードの作成
- 勘定科目グループの予算パターン コードの変更
- 年間予算の入力
- 年間予算金額の各期間への配賦
- 予算ワークシートの作成
- 予算/実績のオンライン比較の検討
- 予算超過の管理
- 予算明細金額の入力
- 予算仕訳の入力
- (Rapid Start) Enter annual budgets, enter detail budgets, enter journalized budgets, process PC upload, and review budgets

### 関連項目:

第 23 章、「予算の予測と計画」、253ページ

---

## 予算について

予算を作成することで、将来の経費と収益を見積もることができます。また、予算履歴を使用して見積金額と実績金額を比較し、その情報に基づいてより正確な予算を作成できます。

年間予算金額は、ビジネスユニット別または勘定科目別に入力できます。ビジネスユニット別の予算入力では、部署、所在地、プロジェクトなどを基準とした予算が作成されます。勘定科目別の予算入力では、ビジネスユニットの枠を越えて予算が作成されます。

予算の検討には、オンライン検討または予算ワークシートを使用します。オンラインの検討では、予算金額と実績金額を比較できます。予算ワークシート レポートでは、以下の作業が行えます。

- 次年度用の申請済み予算、承認済み予算、および最終予算の検討
- 予算金額と、現行年度の実績金額/見積金額および前年度の実績金額との比較
- 見積金額、および予算金額と見積金額の差異パーセントの表示

## 予算作成方法

予算の作成には、以下のいずれかの方法を使用します。

方法	説明
ビジネスユニット別または勘定科目別の年間予算	年間予算金額を入力します。配賦プログラムを使用して、割り当てた予算パターンコードに基づいた予算金額が各期間に配賦されます。この方法では、勘定残高テーブル (F0902) が直接更新されます。
勘定科目別予算明細	各期間の選択した勘定科目、または選択した期間と勘定科目について、予算金額を入力します。この方法では正式な監査証跡は作成されず、F0902 テーブルの各期間の予算が直接更新されます。
予算仕訳	<p>正式な監査証跡を作成するため、予算元帳に仕訳を入力します。この方法では、F0911 テーブルが更新されます。仕訳を転記して、F0902 テーブルを更新する必要があります。</p> <p>一般的に、原価計算を使用する建設会社や当初予算に対する補正予算を記録する政府機関などでは、正式な監査証跡が必要です。</p> <p>予算仕訳による予算作成には、予算仕訳の入力、検討、および転記が含まれます。</p>
スプレッドシートからのインポート	スプレッドシートプログラムを使用して予算を作成し、F0902 テーブルに作成した予算を転送します。その後、一般会計のプログラムで予算データを処理します。たとえば、年間予算を各会計期間に配賦できます。
配賦	<p>配賦を使用して予算を作成します。</p> <p>参照: 第 15 章、「銀行勘定科目の残高調整」、「無効な支払および入金 の残高調整」、145 ページ</p>

### 関連項目:

第 38 章、「会計年度の締め処理」、「予算元帳タイプの会計年度の締めについて」、482 ページ

## 予算パターンについて

勘定科目グループの予算に予測可能なパターンがある場合、予算パターン コードを使用して年間予算金額を各期間に配賦する比率の定義が可能です。各会計年度について、季節パターンの改訂プログラム (P09001) を使用して、以下の処理を実行できます。

- 複数期間への金額の均等配賦
- 季節パターン コードの作成 (無制限)
- 金額の非配賦

次の表は、この 3 つの予算パターンについて説明したものです。

予算パターン	説明
均等配賦	収益と経費が会計年度を通じて均等に発生する場合、年間予算を各期間に同額ずつ配賦できます。
季節パターン配賦	収益と経費が予測可能なパターンで発生する場合、各パターンを記述する季節パターンコードを設定できます。各コードに、各期間に配賦する年間予算合計のパーセントを入力します。
非配賦	勘定科目について、年間金額の各期間への配賦を行わないように設定できます。

予算パターンのデフォルトコード（blank）は年間予算の各期間への均等配賦ですが、この設定は変更可能です。

blank コードには、最も一般的な予算パターンを割り当ててください。たとえば、年間予算の均等配賦をほとんど行わない場合は、頻繁に使用する季節パターンコードをblankに設定しておく、データ入力時間を短縮できます。

以下のいずれかを行う場合は、予算パターンコードを定義する必要はありません。

- 年間予算のみの作成（月次予算の作成なし）
- 全勘定科目の月次予算の手入力での作成
- 全ての勘定科目について各期間に同額ずつ配賦を行う年間予算の作成

### 例: デフォルト パターン

あるコーヒー ショップでは、年間を通じて収益が平均しています。収益と経費の比率を示す季節パターンコードを作成する必要はありません。予算パターンコードをデフォルト（blank）にすると、年間予算が各期間に均等に配賦されます。

勘定科目に年間予算金額 120,000 を入力し、予算パターンコードをblankのままプログラムを実行すると、金額が各期間に配賦されます。プログラムは、会計期間の総数が 12 に設定されていることを識別します。各期間に配賦される予算は、10,000 ( $1/12 = 8.33\%$ ) です。

### 例: 季節パターン

あるスポーツ用品店で、季節パターンコード “WIN” を作成して、冬期のスキー用品の収益と経費の比率を指定します。夏場にはスキー用品の需要がほとんどないため、予算金額は冬期のみ配賦します。冬期の各月のパーセントは、以下のとおりです。

- 11 月 - 10%
- 12 月、1 月 - それぞれ 25%
- 2 月、3 月 - それぞれ 20%

該当する各勘定科目について年間予算金額を作成し、その勘定科目に季節パターンコード “WIN” を割り当てます。パターンコード “WIN” の勘定科目に予算 120,000 を入力してプログラムを実行すると、金額が各期間に配賦されます。予算パターンコード “WIN” のパーセントに基づいて、11 月には 12,000、12 月と 1 月には各 30,000、2 月と 3 月には各 24,000 が配賦されます。

通常は予算の各期間への配賦を行っている場合でも、勘定科目によっては予算パターンが予測できないことがあります。このような勘定科目には、年間予算を入力し、予算パターンコード“DNS”（非配賦）を割り当てます。年間金額の各期間への配賦を行うプログラムを実行しても、DNSコードが割り当てられた勘定科目は対象になりません。

このセクションでは、予算パターンコードの作成方法について説明します。

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[予算パターンの処理]	W09001B	[予算作成](G1412)、[改訂済み季節パターン]	既存の予算パターンコードの一覧を検討します。
[予算パターンの改訂]	W09001A	[予算パターンの処理]フォームで、[追加]をクリックします。	予算パターンコードを作成します。

[予算パターンの改訂] フォームにアクセスします。

「予算パターンの改訂」フォーム



**[予算パターン]**

季節予算パターンを識別する 3 文字の固有のコードを入力します。このコードを使用して、会計期間の予算額が計算されます。たとえば、季節パターンコードを識別する「SUM」や「WIN」などを入力したり、ブランクのままにして各期間に金額を均等に配賦したりできます。

**[期間01] – [期間14]**

季節パターンコードまたは DNS 予算パターンコードについて、その期間に対して割り当てる年間予算のパーセントを識別する数字を入力します。入力可能な値は以下のとおりです。

整数:たとえば、20 パーセントの場合は「20」と入力します。

小数 (4 桁まで):たとえば、33.33 パーセントの場合は「.3333」と入力します。小数点第 5 位以下は、四捨五入されます。

0: その期間への割り当てなし。

DNS 予算パターンコードと各季節パターンコードでは、全てのパーセントの合計が 100 になる必要があります。

注: 会計年度のデフォルトの期間は、[会計期間パターンの設定] フォームで会社 00000 に対して設定されています。

## 勘定科目グループの予算パターンコードの変更

このセクションでは、予算パターンコード変更の概要と、勘定科目グループの予算パターンコードの変更方法について説明します。

### 予算パターンコードの変更について

ビジネスユニットや会社の勘定科目グループに割り当てられている既存の予算パターンコードを変更するには、予算パターンコードの変更プログラム (P1441) を使用します。その際、以下のガイドラインに従ってください。

- 年間予算金額を入力する前に、コードを変更します。
- 年間予算金額の各期間への配賦を計画します。

新しく割り当てたコードにより、既存のコードが上書きされます。この新しいコードで、勘定科目マスター (F0901) が更新されます。

### 勘定科目グループの予算パターンコードの変更に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[予算パターンの一括更新]	W1441A	[予算作成] (G1412)、[予算パターン・コードの変更]	ビジネスユニットや会社の勘定科目グループに割り当てられている既存の予算パターンコードを変更します。

### 勘定科目グループの予算パターンコードの変更

[予算パターンの一括更新] フォームにアクセスします。

予算パターン・コードの変更 - 予算パターンの一括更新

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

会社 00001 OR ビジネスユニット

勘定科目範囲 8701 ~ 8799

旧パターン	新パターン
EQL	SUM

[予算パターンの一括更新] フォーム

**[勘定科目範囲] (開始勘定科目、終了勘定科目)**

主勘定科目の範囲を指定します。

開始勘定科目を指定した場合は、終了勘定科目も指定する必要があります。

ブランクにした場合のデフォルト値は、開始勘定科目が 0000、終了勘定科目が 9999 です。

**[旧パターン]、[新パターン]**

[旧パターン] フィールドには、変更対象の季節パターンを識別する 3 文字のコードを入力します。

[新パターン] フィールドには、[旧パターン] のコードと置き換える季節パターンを識別する 3 文字のコードを入力します。

3 つのアスタリスク (\*\*\*) は、ブランク値を意味します。ブランク値を新しい値に変更するには、[旧パターン] フィールドに「\*\*\*」を入力します。また、[新パターン] フィールドに「\*\*\*」を入力すると、既存の値をブランク値に変更できます。

[旧パターン] フィールドに「\*」(1 つのアスタリスク) を入力すると、全ての既存予算パターンコードを [新パターン] フィールドに入力した値に変更できます。

[旧パターン] に「DNS」と入力すると、非配賦の予算パターンコードを変更できます。また、[新パターン] に「DNS」と入力すると、予算パターンコードを非配賦に変更できます。

## 年間予算の入力

このセクションでは、年間予算および予算サイクルの概要と、以下の方法について説明します。

- ビジネスユニット別の年間予算金額の入力
- 勘定科目別の年間予算金額の入力

## 年間予算について

年間予算方法を使用すると、各会計期間の予算金額入力に要する時間を短縮しながら、期間別に明細金額を設定できます。割り当てた予算パターンコードに従って、年間予算金額が各会計期間に配賦されます。年間予算プロセスの任意のサイクルで予算パターンコードを割り当てることができます。金額だけでなく、数量についても年間予算を入力できます。

以下のいずれかの入力タイプで年間予算計画を行います。

入力タイプ	説明
ビジネスユニット	特定の組織単位(部署や倉庫など)と関連する勘定科目について予算を作成します。
勘定科目	ビジネスユニットや会社の枠を越えて予算を作成します。たとえば、全てのビジネスユニットの給与や賃金の予算を作成する場合などです。

## 予算サイクルについて

ビジネス ニーズに応じて、以下の予算サイクルのいずれかまたは組み合わせを使用できます。

- 申請済み (サイクル 1): 当初の予算金額を入力します。この予算は承認済み予算と最終予算にコピーされます。
- 承認済み (サイクル 2): 承認済み予算金額を入力または変更します。この予算は最終予算にコピーされます。申請済み予算は変更されません。
- 最終 (サイクル 3): 最終予算金額を入力または変更します。申請済み予算と承認済み予算は変更されません。

3 つのサイクルを使用することで、非公式の監査証跡を残すことができます。予算金額は自動的に次のサイクルに繰り越されるので、複数のサイクルを使用しても必要な時間はほとんど変わりません。

処理オプションの設定により、現行の入力に使用するサイクルを定義します。その後の予算入力プロセスで、必要に応じて処理オプションを再設定し、別のサイクルを使用するように変更できます。

F0902 テーブルの以下のフィールドが更新されます。

- BREQ: 申請済み予算金額
- BAPR: 承認済み予算金額
- BORG: 最終予算金額

### 例: 年間予算サイクルの使用

以下の予算例では、3 つのサイクルを全て使用します。

サイクル	更新
申請済み (サイクル 1)	申請済み予算、承認済み予算、最終予算が更新されます。
承認済み (サイクル 2)	承認済み予算と最終予算が更新されます。
最終 (サイクル 3)	最終予算が更新されます。

次の表は、各サイクルにおける F0902 テーブルの金額の更新について説明したものです。

サイクル	申請済み (BREQ)	承認済み (BAPR)	最終 (BORG)	更新の説明
サイクル 1	7,000	7,000	7,000	申請済み予算、承認済み予算、最終予算の金額が更新されます。
サイクル 2	該当なし	6,000	6,000	承認済み予算と最終予算の金額が更新されます。
サイクル 3	該当なし	該当なし	5,000	最終予算の金額が更新されます。 これが配賦される年間金額です。

## 事前設定

予算入力をビジネスユニット別に行うか、勘定科目別に行うかを決定します。

## 年間予算金額の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[予算の処理]	W14102A	[予算作成] (G1412)、[ビジネスユニット別申請済み予算] または [ビジネスユニット別承認済み予算] または [ビジネスユニット別最終予算]	会社のビジネスユニットの一覧を検討します。
[ビジネスユニット別予算]	W14102B	[予算の処理] フォームでビジネスユニットを選択します。	ビジネスユニット別に予算を入力し、各勘定科目に予算パターンコードを割り当てます。
[予算勘定科目の処理]	W14103B	[予算作成] (G1412)、[勘定科目別申請済み予算] または [勘定科目別承認済み予算] または [勘定科目別最終予算]	会社別の勘定科目の一覧を検討します。
[勘定科目別予算]	W14103A	[予算勘定科目の処理] フォームで勘定科目を選択します。	勘定科目別に予算を入力または改訂し、各勘定科目に予算パターンコードを割り当てます。対話形式で年間予算金額を各期間に配賦することもできます。  参照: 第 21 章、「予算の作成」、「年間予算金額の各期間への配賦」、218 ページ

## ビジネスユニット別申請済み予算 (P14102) と勘定科目別申請済み予算 (P14103) の処理オプションの設定

ビジネスユニット別の申請済み予算、承認済み予算、最終予算および勘定科目別の申請済み予算、承認済み予算、最終予算の処理オプションは、最初のタブ名を除いて全て同じです。

## ビジネスユニット別予算

1. 元帳タイプ  
UDC テーブル (09/LT) の予算元帳タイプを指定します。有効値は以下のとおりです。  
BA: 予算金額  
BU: 予算数量
2. 会計年度  
会計年度の下 2 桁を入力します。
3. 予算サイクル  
更新する予算サイクルを指定します。有効値は以下のとおりです。  
1: 申請済み  
2: 承認済み  
3: 最終

## 予算配賦

4. 丸めの増分値  
金額に使用する丸めの増分値を指定します。たとえば、以下のようになります。  
ブランク: 金額を会社の最小通貨単位に丸めます。  
1.00: 金額を 1 の単位に丸めます。  
10.00: 金額を 10 の単位に丸めます。  
丸めの結果は、この処理オプションで指定した値で割り切れます。
5. 残高調整方法  
残高調整方法を指定します。有効値は以下のとおりです。  
ブランク: 丸めを行った期間金額の合計と年間予算金額を一致させる調整を行いません。  
1: 最終予算金額を丸めることにより金額を一致させます。  
2: 最後に計算した期間金額を丸めないことにより金額を一致させます。

## ビジネスユニット別の年間予算金額の入力

[ビジネスユニット別予算] フォームにアクセスします。

ビジネスユニット別申請済み予算 - ビジネスユニット別予算

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

ビジネスユニット  Information Technologies

西暦上2桁/会計年度   元帳タイプ  勘定科目詳細レベル

補助元帳タイプ

☐ 期間を表示
 ☐ オプション
 ☒ 申請済み
 ☐ 承認済み
 ☐ 最終

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

	主科目	補助科目	勘定科目名	詳細	転記	予算パターン	申請金額	承認金額	最終金額
<input type="checkbox"/>	6021		COGS - Branch Tran	6	M				
<input type="checkbox"/>	7100		Computer Costs	6	N				
<input type="checkbox"/>	7110		Desktop Computers	8			288,000.00	288,000.00	288,000.00
<input type="checkbox"/>	7120		Laptop Computers	8			132,000.00	132,000.00	132,000.00
<input type="checkbox"/>	7130		Servers	8			240,800.00	240,800.00	240,800.00
<input type="checkbox"/>	7140		PC Support	8			264,000.00	264,000.00	264,000.00
<input type="checkbox"/>	7200		Salaries	6			428,000.00	428,000.00	428,000.00
<input type="checkbox"/>	7300		Software Maintenan	6			80,000.00	80,000.00	80,000.00
<input type="checkbox"/>	7400		Leased Lines	6			56,000.00	56,000.00	56,000.00

[ビジネスユニット別予算] フォーム

### [期間を表示]

このチェック ボックスをオンにすると、期間金額のフィールドが表示されるので、各期間の予算金額を手入力できます。必要に応じて右にスクロールし、期間フィールドにアクセスします。

このチェック ボックスがオフになっていると、各会計期間のフィールドに金額が自動配賦されます。

### [オプション]

予算配賦の処理オプションを対話的に変更するには、このチェック ボックスをオンにします。その後、[フォーム] メニューの [オプション] をクリックします。

### [申請済み]、[承認済み]、[最終]

値を入力または更新するフィールド ([申請金額]、[承認金額]、または [最終金額]) に応じて、いずれか 1 つを選択します。

[申請済み] オプションを選択すると、F0902 テーブルの "BREQ" フィールドが更新されます。最終予算の入力時間を短縮するため、"BAPR" フィールドと "BORG" フィールドも更新されます。

[承認済み] オプションを選択すると、F0902 テーブルの "BAPR" フィールドが更新されます。最終予算の入力時間を短縮するため、"BORG" フィールドも更新されます。

## [予算パターン]

予算金額の配賦方法を指定するコードを入力します。

「DNS」を入力した場合は、各期間の金額を手入力する必要があります。[期間を表示] チェック ボックスをオンにして、右スクロールで期間フィールドにアクセスします。または、[ロー] メニューの [明細] をクリックして [勘定科目別予算明細] フォームにアクセスし、金額を手入力します。

## [申請金額]、[承認金額]、[最終金額]

いずれかのフィールドに値を入力します。[申請済み]、[承認済み]、[最終] オプションの選択に応じて、入力可能なフィールドは異なります。

[予算パターン] フィールドに「DNS」と入力した場合は、これらのフィールドに入力することはできません。

## 勘定科目別の年間予算金額の入力

[勘定科目別予算] フォームにアクセスします。

勘定科目別申請済み予算 - 勘定科目別予算 i ?

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

主科目/補助科目   会社

西暦上2桁/会計年度   元帳タイプ

補助元帳タイプ

☐ 期間を表示 ☐ オプション ☒ 申請済み ☐ 承認済み ☐ 最終

レコード 1 - 19 グリッドのカスタマイズ   

		ビジネス ユニット	主 科目	補 助 科	記述	詳 細	転 記	予算 パタ ーン	申請 金額	承認 金額	最終 金額
<input type="checkbox"/>			3	8720	Office Supplies Expen	6			30,000.00	27,000.00	27,000.00
<input type="checkbox"/>			4	8720	Office Supplies Expen	6					
<input type="checkbox"/>			5	8720	Office Supplies Expen	6					
<input type="checkbox"/>			6	8720	Office Supplies Expen	6		<input type="text"/>			
<input type="checkbox"/>			9	8720	Office Supplies Expen	6			15,000.00	15,000.00	15,000.00
<input type="checkbox"/>			30	8720	Office Supplies Expen	6					
<input type="checkbox"/>			32	8720	Office Supplies Expen	6					
<input type="checkbox"/>			34	8720	Office Supplies Expen	6					
<input type="checkbox"/>			40	8720	Office Supplies Expen	6					

[勘定科目別予算] フォーム

---

## 年間予算金額の各期間への配賦

このセクションでは、年間予算金額の各期間への配賦方法の概要とシステムによる配賦方法、および以下の方法について説明します。

- 予算入力時の年間金額の各期間への配賦
- 年間予算の期間配賦プログラムの実行
- 年間予算の期間配賦 (R14801) の処理オプションの設定

### 年間予算の配賦方法について

以下の方法で、年間予算金額を配賦できます。

- 予算入力時の対話形式での配賦
- プログラム実行による自動配賦

#### 予算入力時の対話形式での配賦

年間予算金額の入力時、各勘定科目の予算パターンコードに基づいて、期間に金額を配賦できます。

予算入力時の配賦では、以下のことが可能です。

- 改訂を行うことにより、予算入力プログラムを終了せずに結果を変更できます。
- 処理オプションで指定されている丸め増分値や残高調整方法を変更できます。
- 同じサイクルまたは別のサイクルの年間金額を変更できます。
- 必要なだけ配賦金額を再計算できます。

---

**注:** 予算パターンコードに“DNS”を入力した場合は、[ビジネスユニット別予算] または [勘定科目別予算] フォームの各期間フィールドに金額を手入力する必要があります。勘定科目の年間合計金額は、各期間の金額を累計して自動的に表示されます。

---

#### プログラム実行による自動配賦

予算入力時に年間金額を配賦する代わりに、年間予算の期間配賦プログラム (R14801) を実行して金額を自動的に配賦します。自動配賦のほうが効率的な場合があります。

配賦する金額が多い場合や以下の状況に該当する場合は、年間予算の期間配賦プログラムを実行することをお勧めします。

- 1 つ以上のスプレッドシートから年間予算金額をアップロードする場合
- ブランクの予算パターンコードをパーセントで設定 (または既存のパーセントを変更) して、全ての勘定科目の配賦を更新する場合

[元帳タイプ規則の設定] フォームの [DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更] チェックボックスがオンになっている場合、年間予算の期間配賦プログラムは予算金額を各期間に均等に配賦します。オンになっていない場合、金額は配賦されません。[ビジネスユニット別予算] または [勘定科目別予算] フォームで、期間ごとに金額を手動で配賦する必要があります。



## システムによる年間予算金額の配賦方法について

金額を手入力するか年間予算の期間配賦プログラム (R14801) を実行するかにかかわらず、各勘定科目に割り当てられた予算パターンコードによって、金額の配賦方法が決定されます。ただし、予算パターンコードが“DNS”の場合は除きます。

次の表は、システムによる金額の配賦方法を示したものです。

予算パターンコード	説明
ブランク	<p>デフォルト値で、年間金額は均等に配賦されます。勘定科目の年間予算金額が、各期間に均等に配賦されます。カレンダー年(12 か月)の場合、各期間への割り当ては 1/12 (8.33%) です。</p> <p>注: ブランクの予算パターンコードの設定を変更した場合には、指定したパーセントに基づいて年間金額が配賦されます。</p> <p>年間金額の各期間への配賦には、予算パターン (F1401)、勘定科目マスター (F0901)、勘定残高 (F0902) の各テーブルの情報が使用されます。</p>
季節	<p>季節予算パターンコードに指定したパーセントと期間に従って、年間金額が配賦されます。</p>
DNS	<p>予算を手入力した場合、予算パターンコード“DNS”が割り当てられた勘定科目には年間金額は配賦されません。[ビジネスユニット別予算]または[勘定科目別予算]フォームで、各期間の金額を手入力する必要があります。</p> <p>[元帳タイプ規則の設定]フォームの [DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更] チェックボックスがオンになっている場合のみ、年間予算の期間配賦プログラムの実行によって、年間金額が各期間に均等に配賦されます。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、年間予算金額は配賦されません。代わりに、各期間の金額を手入力する必要があります。</p>

## 予算入力時の年間予算金額の各期間への配賦

[ビジネスユニット別予算] または [勘定科目別予算] フォームにアクセスします。

注: 転記編集コードが“N” (非転記) または“I” (非アクティブ) の場合、勘定科目の年間予算金額を入力することはできません。

1. [期間を表示] チェック ボックスをオンにします。
2. [予算パターンコード] に値を入力します。
3. 以下のいずれかのフィールドに金額を入力します。
  - [申請金額]
  - [承認金額]
  - [最終金額]
4. [ロー] メニューの [配賦] をクリックして、入力した金額を均等に配賦します。
5. 自動配賦される金額を変更するには、[ロー] メニューの [明細] をクリックして [勘定科目別予算明細] フォームにアクセスします。

6. 処理オプションで設定した丸め増分値や残高調整方法を変更するには、[オプション] チェック ボックスをオンにします。その後、[フォーム] メニューの [オプション] をクリックします。
7. [OK] をクリックして、予算の入力を保存します。

## 年間予算の期間配賦プログラムの実行

[予算作成] (G1412) メニューで [年間予算の期間配賦] をクリックします。

このプログラムはレポートを作成しません。自動配賦される金額を検討するには、[勘定科目別予算明細] フォームにアクセスしてください。

## 年間予算の期間配賦 (R14801) の処理オプションの設定

予算金額の配賦方法を指定します。

このプログラムのデータ順序は変更しないでください。

### 予算の配賦

1. **丸めの増分値**

金額に使用する丸めの増分値を指定します。たとえば、以下のようになります。

空白: 金額を会社の最小通貨単位に丸めます。

1.00: 金額を 1 の単位に丸めます。

10.00: 金額を 10 の単位に丸めます。

丸めの結果は、この処理オプションで指定した値で割り切れます。
2. **調整方法**

残高調整方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: 丸めを行った期間金額の合計と年間予算金額を一致させる調整を行いません。

  - 1: 配賦を行う前に、年間予算金額を丸めることにより金額を一致させます。
  - 2: 最後に計算した期間金額を丸めないことにより金額を一致させます。

---

## 予算ワークシートの作成

このセクションでは、予算ワークシートの概要と以下の方法について説明します。

- 予算ワークシートの実行
- 予算ワークシートのデータ選択とデータ順序の設定
- 予算ワークシート (R14113) の処理オプションの設定

### 予算ワークシートについて

予算ワークシート (R14113) は、申請済み予算、承認済み予算、および最終予算を表示するレポートです。予算ワークシートには、以下の機能が提供されています。

- 詳細レベル、比較対象の会計年度、レポートフォーマット、計算方法、金額の合計方法の指定

- 選択した会社、ビジネスユニット、ビジネスユニット カテゴリ コードのレポートの印刷
- 情報の連結（全ての会社/ビジネスユニットで一貫した勘定科目構造と詳細レベルを使用している場合）

予算ワークシート プログラムは、AAI 項目 “FSxx” を使用して、中間計の出力先を決定します。たとえば、以下の項目を使用します。

- FS04:粗利益
- FS05:営業利益
- FS99:当期利益（損失）

処理オプションの設定によって、予算ワークシート レポートに表示される情報は異なります。

レポート タイプ	説明
比較	<p>任意の詳細レベルの金額を比較します。たとえば、以下のような金額が比較されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 前年度の元帳タイプ AA (実績金額)</li> <li>• 現行年度の実績金額と見積金額</li> <li>• 現行年度の実績年累計金額と予算年累計金額、および前年度の実績年累計金額</li> </ul>
見積	<p>年度末の残高を計算します。たとえば、以下のような残高が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実績金額 + 予算残高</li> <li>• 予算残高</li> <li>• 実績金額 / 完了率 (作業原価)</li> </ul> <p>次年度の年間予算を見積もります。たとえば、前年度の実績金額と現行年度の見積金額を印刷し、年間予算金額カラムは手入力できるようにブランクにすることが可能です。</p>
差異	<p>実績金額と予算金額の差異または変更のパーセントを表示します。見積予算金額に基づいて計算を行います。</p>

## 予算ワークシートの実行

[予算作成] (G1412) メニューの [予算ワークシート] をクリックします。

## 予算ワークシートのデータ選択とデータ順序の設定

データ選択で、主科目の範囲を指定する必要があります。F0902 テーブルに通貨別に転記を行う場合は、特定または全ての通貨コードを選択します。

このレポートでは、データ順序で主科目の直前に設定されているデータ項目に基づいて、合計の印刷と改ページが行われます。データ順序では、以下のデータ項目が使用可能です。

- 会社
  - 報告日付を会社固有の日付にするには、レポートの順序を会社別にする必要があります。
- ビジネスユニット カテゴリ コード 1-30
- 勘定科目マスター カテゴリ コード 1-23

- ビジネスユニット
- 主科目（必須）
- 補助科目（必須）

データ順序の最初の項目として会社やビジネスユニットを指定しない場合、会社 00000 の現行会計期間が使用されます。

単独のビジネスユニットや連結ビジネスユニット、連結会社などのレポートを印刷するには、以下のデータ順序のいずれかを入力してください。

レポート タイプ	データ順序
ビジネスユニット	ビジネスユニット、主科目、補助科目
ビジネスユニット連結	会社、主科目、補助科目
会社連結	主科目、補助科目

**重要:** 上記以外の順序にデータ順序を変更すると、問題が起こる可能性があります。

## 予算ワークシート (R14113) の処理オプションの設定

日付、元帳タイプ、詳細レベルなどを指定します。

### 日付

- 会計期間、会計年度** 会計期間と会計年度を入力します。空白にした場合、会社の財務報告日付が使用されます。報告日付を会社固有のものにするには、データ順序でレポートの順序を会社別にする必要があります。

### 元帳タイプ

- 実績元帳タイプ** UDC テーブル (09/LT) から、実績カラムに使用する元帳タイプを指定します。空白にした場合、元帳タイプ "AA" が使用されます。
- 予算元帳タイプ** UDC テーブル (09/LT) から、予算カラムに使用する元帳タイプを指定します。空白にした場合、元帳タイプ "BA" が使用されます。

### LOD (詳細レベル)

- 詳細レベル** 印刷する勘定科目の最も詳細なレベル (3 ~ 9) を指定します。空白にした場合、9 が使用されます。

### 符号

- 符号の逆転** 金額の印刷方法を指定します。有効値は以下のとおりです。  
0: 当初の借方/貸方形式で金額を印刷します。  
1: 損益計算書勘定の金額の符号を反転します。収益はプラス、経費はマイナスで印刷されます。

2: 貸借対照表勘定の金額の符号を反転します。全ての勘定科目がプラスで印刷されます。

3: 収益と経費の金額の符号を反転します。収益と経費がプラスで印刷されます。

このプログラムでは、AAI 項目 “GLGx” を使用して、負債勘定と経費勘定にマイナス符号を付けて印刷するかどうかを決定します。

## 計算

### 1. 当期利益の計算

当期利益の計算方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 当期利益を計算しません。

1: 貸借対照表の当期利益を計算します。

2: 損益計算書の当期利益を計算します。

### 2. 見積計算方法

見積予算の計算方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 見積予算を計算しません。

1: 実績金額 + 予算残高

2: 実績金額 / 完了率

3: 予算残高

## 見出し

### 見出しの印刷

ワークシートへの見出しの印刷方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 最初のページにのみ見出しを印刷します。

1: 各ページに、ページ番号と実行日付を含む見出しを印刷します。

2: 各ページに、ページ番号と実行日付を除いた見出しを印刷します。

### 日付タイトルのタイプ

見出しに印刷する日付タイトルのタイプを入力します。ブランクにした場合、日付タイトルは印刷されません。

---

## 予算/実績のオンライン比較の検討

このセクションでは、オンライン予算比較プログラム (P09210A) の概要と、以下の方法について説明します。

- オンライン予算比較 (P09210A) の処理オプションの設定
- 予算/実績のオンライン比較の検討

### オンライン予算比較プログラムについて

年間予算金額を各会計期間に配賦した後、予算金額と他の元帳の金額を比較することができます。2 つの元帳の金額比較は、予算金額と実績金額の検討や予算差異の分析が必要な場合に特に役立ちます。

オンライン比較では、F0902 テーブルの情報が表示されます。

## オンライン予算比較で使用する AAI

オンライン予算比較プログラムでは、以下の 2 つの AAI を使用します。

- GLG6:開始収益勘定
- GLG12:終了損益勘定

これらの AAI は、貸借対照表勘定と損益計算書勘定を区別して、累計残高を正確に計算するために使用されます。貸借対照表勘定では、累計残高に前年度の累計金額が含まれます。損益計算書勘定では、期首残高金額は含まれません。

### 関連項目:

第 31 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「試算表、元帳および補助元帳の検討」、352 ページ

## 予算/実績のオンライン比較の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試算表/元帳比較]	W09210AA	[予算作成](G1412)、[オンライン予算比較]	<p>予算/実績のオンライン比較を検討します。</p> <p>異なる 2 つの元帳および、あるビジネスユニット内の特定または全ての勘定科目の試算表の集計情報を検討します。</p>

## オンライン予算比較 (P09210A) の処理オプションの設定

予算比較に使用する元帳タイプや計算方法などのデフォルト値を指定します。

### デフォルト

1. 元帳タイプ 1、2. 元帳タイプ 2  
オンラインで比較する 2 つの元帳タイプを指定します。“元帳タイプ 1”を空白にした場合、“BA” がデフォルト値として使用されます。“元帳タイプ 2”を空白にした場合は、“AA” が使用されます。
3. 他のアプリケーションで使用する元帳タイプ  
有効値は以下のとおりです。  
空白または 1:元帳タイプ 1  
2: 元帳タイプ 2

### 表示

1. 残高がゼロの勘定科目の非表示  
残高ゼロの勘定科目を表示するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
空白または N:非表示にしません。つまり、残高ゼロの勘定科目は表示されます。  
Y:非表示にします。つまり、残高ゼロの勘定科目は表示されません。
2. 計算方法  
2 つの元帳の差異を計算する方法を指定します。  
空白または S:減算  
A: 加算

M: 乗算

D: 除算

**3. 追加元帳タイプ 1、4. 追加元帳タイプ 2**

元帳タイプ 1 と元帳タイプ 2 の追加元帳を指定します。blankにした場合、追加元帳タイプは表示されません。

**5. 補助元帳、6. 補助元帳タイプ**

残高を表示する補助元帳と補助元帳タイプを指定します。blankにした場合、blankの補助元帳と補助元帳タイプが使用されます。

**7. 勘定科目の詳細レベル**

表示する勘定科目の最も詳細なレベル (3 ~ 9) を指定します。blankにした場合、詳細レベル 9 が表示されます。

**通貨****1. 通貨コード**

表示するデフォルトの通貨コードを指定します。blankにした場合、全ての通貨が表示されます。

**選択****1. 有効日付オプション**有効日付残高に使用する日付を指定します。有効値は以下のとおりです。  
blankまたは N :期間終了日付を使用します。

Y: 指定した有効日付の残高を計算します。

**2. デフォルトで表示する項目**

日付と期間のどちらを表示するか指定します。

blankまたは N :終了日付を表示します。

Y: 終了期間を表示します。

**予算/実績のオンライン比較の検討**

[試算表/元帳比較] フォームにアクセスします。

オンライン予算比較 - 試算表/元帳比較

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

一致する勘定科目 \* 2.8355 ☒ 一致する勘定科目

元帳タイプ1 BA USD 予算金額 詳細レベル 9 ☐ 期間/日付

元帳タイプ2 AA USD 実績金額 元帳タイプ1終了日付 2005/06/30

タイプ補助元帳 \* 元帳タイプ2終了日付 2005/06/30

通貨コード \*

レコード 1-3 グリッドのカスタマイズ

勘定科目名	予算金額 当月計上額	実績金額 当月計上額	当月計上額 差異	当月計上額 差異%
<input type="checkbox"/> Other General & Administrative				
<input type="checkbox"/> Repair and Maintenance				
<input type="checkbox"/> Other General & Administrative				

[試算表/元帳比較] フォーム

## 予算超過の管理

このセクションでは、予算超過の管理と予算チェック計算の概要、および以下の方法について説明します。

- G/L 予算チェック レポートの実行
- G/L 予算チェック レポート (R14115) の処理オプションの設定

### 予算超過の管理について

取引を勘定科目に転記する前に、実際の支出額と予定支出額が予算内かどうかを確認することをお勧めします。たとえば、伝票のバッチを入力したとします。このバッチを転記する前に、影響を受ける勘定科目の合計が予算を超過していないかどうかをチェックします。

G/L 予算チェック レポート (R14115) を使用して、予算超過の原因となる取引を特定することができます。組織内の責任者は、予算超過を承認するか、これらの勘定科目の取引を転記前に変更または削除するよう関連部署に通知できます。

G/L 予算チェック レポートでは、F0911 テーブルから未転記のレコードが選択されます。計算の基準には、F0902 テーブルの情報が使用されます。このレポートでは、事前定義された計算により、以下の処理が行われます。

- 指定した各勘定科目または詳細レベルの使用可能な予算の計算
- 新しい未転記取引の転記合計への追加
- 新しい取引の転記により予算超過が発生するかどうかの判断
- 予算超過の原因となる F0911 テーブルの未転記取引を一覧表示した例外レポートの作成

この例外レポートは参照専用で、会社、勘定科目、詳細の順に表示されます。

G/L 予算チェック レポートでは、テーブルの更新は行われません。

### 予算チェック計算について

G/L 予算チェック レポートでは、事前定義された以下の計算を使用します。

基本元帳 - (第 2 元帳 + 第 3 元帳) = 使用可能予算金額

#### 例: 予算チェック計算

勘定科目 3.8605 のデフォルトの元帳とその合計は以下のとおりです。

- BA (予算金額) 年間: 1,000
- PA (債務金額) 累計残高: 320
- AA (実績金額) 累計残高: 420

この元帳の合計を使用すると、計算は以下のようになります。

$$1,000 - (320 + 420) = 260$$

F0911 テーブルの未転記取引が勘定科目の使用可能予算金額 (260) の超過を引き起こす場合、その取引がレポートに表示されます。

処理オプションの設定により、デフォルトの元帳を他の元帳に変更できます。また、残高の累計に使用する詳細レベルと予算総額の決定に使用する計算方法も選択します。



予算の差異計算には、購買オーダーによって既に債務となっている伝票金額が含まれます。この金額が未転記金額として AA 元帳に記載されていても、二重にカウントされることはありません。

注: このプログラムは、できるだけピーク時を避けて実行するようにしてください。F0911 テーブルのレコード数によっては、処理時間が非常に長くなる可能性があります。

## 金額と債務

次の表は、G/L 予算チェック レポートによる金額と債務の処理方法について示したものです。

項目	説明
予算金額なし	予算(基本)元帳に勘定科目のレコードがない場合、予算はゼロと見なされます。第2元帳と第3元帳から金額が差し引かれ、例外レポートにマイナスの金額が記載されます。
外貨建て金額	予算金額には、国内通貨のみが使用されます。このため、F0911 テーブルにある CA(外貨)元帳の取引は選択されません。
債務	この予算金額には、コミットメントや契約(購買オーダーなど)があります。

## G/L 予算チェック レポートの実行

[予算作成] (G1412) メニューの [G/L 予算チェック・レポート] をクリックします。

## G/L 予算チェック レポート (R14115) の処理オプションの設定

計算に使用する元帳や計算方法などを指定します。

### 元帳タイプ

1. 基本となる元帳  
計算に使用する予算元帳または基本元帳を入力します。空白にした場合、“BA” が使用されます。
2. 第 2 元帳  
計算に使用する第 2 元帳を入力します。空白にした場合、“PA” が使用されます。
3. 第 3 元帳  
計算に使用する第 3 元帳を入力します。空白にした場合、“AA” が使用されます。

### 予算年度

1. 会計年度  
予算年度を入力します。空白にした場合、現行会計年度が使用されます。

### 計算方式

1. 予算合計方式  
使用する予算合計方式を指定します。  
空白または 1: 当初予算、年間期間金額、および前年度末転記額の合計  
2: 年間の期間金額の合計

### 3: 当初予算と現行期間までの累計額の合計

方式 1 と 3 は、当初予算を各期間に配賦していない場合のみ指定してください。

## 詳細レベル

### 1. 詳細レベル

勘定科目の最も詳細なレベル (3 ~ 9) を指定します。空白にした場合、“9” が使用されます。

指定したレベルより詳細なレベルでの勘定科目分析は行われません。たとえば、詳細レベルに “5” を指定すると、全ての予算はレベル 5 までであると見なされます。例外はレベル 9 です。レベル “9” を指定すると、勘定科目分析には全てのレベルが含まれます。

## 補助元帳

### 1. 補助元帳、2. 補助元帳タイプ

特定の補助元帳を入力するか、「\*」で全ての補助元帳を指定します。特定の補助元帳を入力した場合、補助元帳タイプも入力します。

## 予算明細金額の入力

このセクションでは、勘定科目別予算明細プログラムの概要と、勘定科目別の予算明細金額入力方法について説明します。

### 勘定科目別予算明細プログラムについて

ほとんどの予算を年間ベースで作成していても、以下のような場合には、勘定科目別予算明細プログラム (P14101) を使用する必要があります。

- 予測不能な季節パターンを持つ特定の勘定科目に対する期間別予算の設定
- 年間予算の期間配賦プログラムによる配賦結果の変更
- 年間予算配賦前後の期間別予算金額の検討

また、勘定科目別予算明細プログラムを使用して、各勘定科目の各期間に予算を入力できます。この方法で予算金額を入力すると、F0911 テーブルにはレコードは作成されません。代わりに以下の更新が行われます。

- F0902 テーブルにある予算元帳レコードの最終予算金額と転記額の更新
- F0901 テーブルの予算パターン コードの “DNS” への変更

このコードにより、入力した金額が配賦プログラムによって上書きされることはなくなります。

**注:** [勘定科目別予算明細] フォームの代わりに、[ビジネスユニット別予算] フォームを使用して月次金額を入力することもできます。[期間を表示] オプションをオンにすると、詳細グリッドに各期間のカラムが表示されます。

## 予算明細金額の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[予算勘定科目の処理]	W14101C	[予算作成](G1412)、[勘定科目別予算明細]	勘定科目別の予算を検討します。
[勘定科目別予算明細]	W14101A	[予算勘定科目の処理] フォームで勘定科目を選択します。	勘定科目別に予算明細金額を入力します。他の予算作成方法で作成された既存の予算を改訂します。

## 勘定科目別の予算明細金額の入力

[勘定科目別予算明細] フォームにアクセスします。

**勘定科目別予算明細 - 勘定科目別予算明細**

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

勘定科目コード

3.8355

Maintenance and Repair

補助元帳タイプ

西暦上2桁/会計年度

20

05

元帳タイプ

BA

	期間終了日付	予算金額	累計額
期間 1	2005/01/31	417.00	417.00
期間 2	2005/02/28	417.00	834.00
期間 3	2005/03/31	417.00	1,251.00
期間 4	2005/04/30	417.00	1,668.00
期間 5	2005/05/31	417.00	2,085.00
期間 6	2005/06/30	416.00	2,501.00
期間 7	2005/07/31	417.00	2,918.00
期間 8	2005/08/31	416.00	3,334.00
期間 9	2005/09/30	417.00	3,751.00
期間10	2005/10/31	416.00	4,167.00
期間11	2005/11/30	417.00	4,584.00
期間12	2005/12/31	416.00	5,000.00

[勘定科目別予算明細] フォーム

## 予算仕訳の入力

このセクションでは、予算仕訳の概要と入力方法について説明します。

### 予算仕訳について

ほとんどの組織では予算作成の正式な監査証跡は不要ですが、組織によっては必要な場合もあります。たとえば、原価計算を使用する建設会社や当初予算に対する補正予算を記録する政府機関などでは、正式な監査証跡が必要です。このような組織では、予算仕訳を使用して正式な監査証跡を作成します。

予算仕訳の予算入力は、予算元帳タイプの割り当てを除いて、仕訳入力と同じです。予算金額を仕訳として入力し、予算を作成します。これは、他の仕訳と同じように検討や転記ができます。予算仕訳のバッチタイプは、他の仕訳と同じバッチタイプ "G" です。F0911 テーブルの予算仕訳が更新されます。バッチの転記を行うと、F0902 テーブルが更新されます。ただし、F0902 テーブルの予算金額フィールド (BREQ、BAPR、BORG) は更新されません。

予算仕訳として入力した予算を変更するには、[仕訳入力] フォームを使用する必要があります。予算仕訳の変更には、年間予算方法や明細予算方法は使用しないでください。通常、予算仕訳では貸借を一致させる必要はありません。元帳タイプ マスターの設定プログラム (P0025) で、予算元帳での貸借一致を必須にするかどうかを指定します。

### 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 処理オプションでの予算元帳タイプ (BA など) の指定
- 会計期間パターンが設定済みであることの確認
- (推奨) 予算仕訳のための伝票タイプ ("BX" など) の設定 (伝票タイプ "JE" は使用しない)

#### 関連項目:

[第 11 章、「仕訳の処理」、「基本仕訳の入力」、90ページ](#)

### 予算仕訳の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[仕訳入力の処理]	W0911I	[その他の予算作成方式] (G1421)、[予算の入力]	予算仕訳入力の既存バッチの一覧を検討します。
[仕訳入力]	W0911A	[仕訳入力の処理] フォームで、[追加]をクリックします。	予算金額の仕訳入力を追加します。

### 予算仕訳の入力

[仕訳入力] フォームにアクセスします。

## (Rapid Start) Enter Annual Budgets, Enter Detail Budgets, Enter Journalized Budgets, Process PC Upload, and Review Budgets

This section discusses:

- How to enter and review budgets.
- Preconfigured processing options for Requested Budgets (P14102).
- Preconfigured processing options for Requested Budgets (P14103).
- Preconfigured processing options for Spread Annual Budget to Periods (R14801).
- Preconfigured processing options for Detailed Budget by Account (P14101).
- Preconfigured processing options for Journal Entries– Budgeting (P0911).
- Preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049).
- Preconfigured processing options for Great Britain Load Spreadsheet Budgets (P0902Z1).
- Preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011).
- Preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200).
- Preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1).
- Preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113).
- Preconfigured processing options Australia and New Zealand for G/L Budget Checking Report (R14115).

### Entering Annual Budgets, Entering Detail Budgets, Entering Journalized Budgets, Processing PC Upload, and Reviewing Budgets

This table lists the tasks to enter and review budgets:

Task	Navigation	Program and Version	Preconfigured Data
Create budget pattern code.	Budget Processing Create Budget Pattern Codes	P09001/No version	None.
Enter annual budget by business unit.	Budget Processing Enter Annual Budgets by Business Units	P14102/RIS0001	None.
Enter annual budget by account.	Budget Processing Enter Annual Budgets by Account	R14103/RIS0001	None.

Task	Navigation	Program and Version	Preconfigured Data
Spread annual budgets to periods.	Budget Processing Spread Annual Budget to Periods	R14801/RIS0001	Budget Pattern Code SUM (summer) <ul style="list-style-type: none"> <li>• Period 05 = 10%</li> <li>• Period 06 = 20%</li> <li>• Period 07 = 30%</li> <li>• Period 08 = 30%</li> <li>• Period 09 = 10%</li> </ul> Budget Pattern Code WIN (winter) <ul style="list-style-type: none"> <li>• Period 10 = 5%</li> <li>• Period 11 = 15%</li> <li>• Period 12 = 35%</li> <li>• Period 01 = 25%</li> <li>• Period 02 = 15%</li> <li>• Period 03 = 5%</li> </ul>
Enter period budget.	Budget Processing Enter Period Budgets by Account	P14101/RIS0001	None.
Enter budget using journal entries.	Budget Processing Enter Budget Journal Entries	P0911/RIS0002 P0900049/RIS0002	None.
(Rapid Start GBR) Upload budget from spreadsheet.	Budget Processing Upload Budgets from a Spreadsheet	P0902Z1/RIS1001	None.
(Rapid Start GBR) Upload budget to Account Balances table.	Upload Budget to Account Balances	R14110	None.
Review budget journal entries.	Budget Processing Review and Post Budget Journal Entry Batches	P0011/RIS0006	None.
Review budget online.	Budget Processing Account Ledger Inquiry	P09200/RIS0002	None.
Review budget online.	Budget Processing Account Balance by Period	P0902P1/RIS0002	None.

Task	Navigation	Program and Version	Preconfigured Data
Review budget using a report.	Budget Processing Budget Worksheet and Comparison Report	R14113/RIS0001	None.
(Rapid Start AUS and NZL) Review budget by printing a report.	Budget Processing Budget Checking Report	R14115/RIS0001	None.

Data reports provide additional information about data that has been preconfigured for Rapid Start.

## Preconfigured Processing Options for Requested Budgets (P14102)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Budget by BU

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type	BA
2. Fiscal Year	6
3. Enter value for budget cycle you wish to update.	blank
Budget Cycle	1

### Spread Budget

Processing Option Description	Value or Status
ROUNDING CONTROL:	blank
4. Rounding Increment	0
5. Identify the Balancing Method: '	blank
Balancing Method	blank

## Preconfigured Processing Options for Requested Budgets (P14103)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Budget by Acct

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type	BA
2. Fiscal Year	6

Processing Option Description	Value or Status
3. Enter value for the budget cycle you wish to update.	blank
Budget Cycle	1

### Spread Budget

Processing Option Description	Value or Status
ROUNDING CONTROL:	blank
4. Rounding Increment	0
5. Identify the Balancing Method: '	blank
Balancing Method	blank

## Preconfigured Processing Options for Spread Annual Budget to Periods (R14801)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Budget Spread

Processing Option Description	Value or Status
1. Rounding Increment	blank
Rounding Increment	blank
2. Identify Balancing Method: ' ' Do NOT force amounts, '1' Changes Final amount, '2' Force but put remainder in last calc per amt	blank
Balancing Method	blank

## Preconfigured Processing Options for Detailed Budget by Account (P14101)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Selections

Processing Option Description	Value or Status
LEDGER TYPE: 1. Enter the budget amounts ledger:	blank

## Preconfigured Processing Options for Journal Entries– Budgeting (P0911)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0002.



**Defaults**

Processing Option Description	Value or Status
1. Batch Type	G

**Display**

Processing Option Description	Value or Status
1. Debit/Credit Format	blank

**Versions**

Processing Option Description	Value or Status
1. Journal Entry MBF Version (P0900049)	RIS0002

**Edits**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fixed Asset ID	blank

**Preconfigured Processing Options for Budget Journal Entry (P0900049)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0002.

**Defaults**

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type	BA

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. Effective Date	blank
2. Tolerance	0

**Zero Amounts**

Processing Option Description	Value or Status
1. Zero Amounts	1
2. Audit Information	1

**Interop**

Processing Option Description	Value or Status
1. Interoperability Version	blank

## Preconfigured Processing Options for Great Britain Load Spreadsheet Budgets (P0902Z1)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS1001.

**Default**

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type	BA
2. UserId field	blank

**Account Number**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Number	blank

## Preconfigured Processing Options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0006.

**Batch Type**

Processing Option Description	Value or Status
1. Batch Type	G

## Preconfigured Processing Options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0002.

**Defaults**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Number	blank
2. From Date	blank
3. Through Date	blank

Processing Option Description	Value or Status
4. Ledger Type	BA
5. Subledger – G/L	*
6. Subledger Type	blank
7. Currency Code	*

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. From Date Method	1

**Display**

Processing Option Description	Value or Status
1. Second Ledger Type	blank
2. Ledger Type	blank

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Exit for PK or PN document type	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency	blank
2. Exchange Rate Date	blank

**Preconfigured Processing Options for BA Ledger (P0902P1)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0002.

**Defaults**

Processing Option Description	Value or Status
Fiscal Year	blank
Ledger Type	BA
Subledger	*

Processing Option Description	Value or Status
Subledger Type	blank
Currency Code	*

## Preconfigured Processing Options for Budget Worksheet (R14113)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Date

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter the fiscal year and period. If left blank, the financial reporting date will be used. For the reporting date to be company specific you must sequence by company.	blank
Period Number	0
Fiscal Year	blank

### Ledger Types

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter the ledger type to be used for the actual columns. If left blank, ledger type AA will be used.	blank
Actual Ledger Type	AA
2. Enter the ledger type to be used for the budget columns. If left blank, ledger type BA will be used.	blank
Budget Ledger Type	BA

### LOD

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter the lowest account level of detail to be printed (3–9). If left blank level of detail 9 will be used.	blank
Account Level Of Detail	9

## Signs

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a zero to print amounts in their original debit and credit format. Enter a 1 to reverse the signs on Income Statement Accounts (revenues will print as positive and expenses as negative). Enter a 2 to reverse sign for Balance Sheet accounts (all accounts will print as positive). Enter a 3 t	blank
Reverse Sign	3

## Computations

Processing Option Description	Value or Status
1. Select one of the following to compute Net Income:	blank
Net Income Computation	2
2. Select projected budget calculation:	blank
Projected Calculation	1

## Headings

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a 1 to print page headings with page number and run date on each page, enter a 2 to print page headings without page number and run date on each page, if left blank headings will print on first page only.	blank
Print Headings	blank
2. Enter the date title type to print in the page header. If left blank, no date title will print.	blank
Date Title Type	blank

## Preconfigured Processing Options Australia and New Zealand for G/L Budget Checking Report (R14115)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### LEDGER TYPE

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter the budget or primary ledger to be used for calculations. Blanks will default to budget ledger ('BA').	blank
Primary Ledger	BA
2. Enter the second ledger to be used for calculations. Blanks will default to encumbrance ledger or commitment ledger ('PA').	blank

Processing Option Description	Value or Status
Secondary Ledger	PA
3. Enter the third ledger to be used for calculations. Blanks will default to actual amounts ledger ('AA').	blank
Third Ledger	AA

## BUDGET YEAR

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter the budget year. Default is the current fiscal year.	blank
Fiscal Year	blank

## CALC METHODS

Processing Option Description	Value or Status
1. Specify the Budget Totaling Method to be used (1–3). Default of blank will use method 1.	blank
1) Sum of original budget, period amounts for the year, and prior year end posting amount.	blank
2) Sum of period amounts for the year.	blank
3) Sum of original budget and period amounts through current period.	blank
Use option 1 or 3 only if the original budget has not been spread to periods.	blank
Budget Totaling Method	2

## LOD

Processing Option Description	Value or Status
1. Specify the lowest level of detail to be used in budgeting (e.g., 7).	blank
Level of Detail	9

## SUBLEDGER

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a specific subledger or '*' for all subledgers.	blank
Subledger	*
2. Enter a subledger type if you have selected a specific subledger above.	blank
Subledger Type	blank

## 第 22 章

# 予算データのアップロード

この章では、以下の方法について説明します。

- スプレッドシートからの予算データのインポート
- テキスト ファイルからの予算データのインポート
- インポートされた予算データの改訂
- F0902 テーブルへの予算データのアップロード
- F0902Z1 テーブルの処理済みレコードの除去

## 予算のアップロード処理について

次の表は、2 種類の予算アップロード方法と、それぞれの手順をまとめたものです。後半の 3 つの手順は共通していることに注意してください。2 つの方法で異なるのは、予算データの EnterpriseOne テーブルへのインポート方法だけです。

方法	手順
スプレッドシートからの予算のインポート	<ol style="list-style-type: none"><li>1. アップロード/変換の改訂プログラムを使用して、予算データをインポートします。</li><li>2. インポートしたデータを検討、改訂します。</li><li>3. 予算データを F0902 テーブルにアップロードします。</li><li>4. 処理済みレコードを除去します。</li></ol>
テキストファイルからの予算のインポート	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 予算データをテキストファイルにコピーします。</li><li>2. 予算インポートフィールドのマッピングプログラムを実行して、データを変換します。</li><li>3. インポートしたデータを検討、改訂します。</li><li>4. 予算データを F0902 テーブルにアップロードします。</li><li>5. 処理済みレコードを除去します。</li></ol>

## スプレッドシートからの予算データのインポート

このセクションでは、スプレッドシートからの予算のインポート処理の概要と、以下の方法について説明します。

- アップロード/変換の改訂 (P0902Z1) の処理オプションの設定
- スプレッドシートからの予算データのインポート

## スプレッドシートからの予算のインポート処理について

スプレッドシート プログラムによって予算を作成する場合、アップロード/変換の改訂プログラムを使用して、予算データを勘定残高 - バッチ テーブル (F0902Z1) に直接インポートできます。

F0902Z1 テーブルにレコードをインポートする前に、スプレッドシートと [F0902Z1へのアップロード] フォームのカラムを比較してください。[F0902Z1へのアップロード] フォームでグリッドのカスタマイズを行い、表示されるカラムがスプレッドシートと一致するようにします。

スプレッドシートの各レコードには、最低限、勘定科目コードが必要です。他のフィールドは必須ではありません。アップロード/変換の改訂プログラムの [勘定科目コード] 処理オプションで、勘定科目コードの形式を指定できます。[勘定科目コード] 処理オプションの設定を変更すると、指定した勘定科目コード形式に対応するフィールドが、詳細グリッドに新たに表示されます。

予算データを F0902 テーブルにアップロードする前に、アップロード/変換の改訂プログラム (P0902Z1) を使用してデータが正しいことを確認し、必要に応じて改訂を行います。

## スプレッドシートからの予算データのインポートに使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[バッチ勘定残高の処理]	W0902Z1A	[その他の予算作成方式] (G1421)、[アップロード/変換の改訂]	F0902Z1 テーブルにアップロード済みの既存バッチの一覧を検討します。
[F0902Z1へのアップロード]	W0902Z1D	[バッチ勘定残高の処理] フォームで、[フォーム] メニューの [アップロード] をクリックします。  必要に応じて、[フォーム] メニューの [すべて削除] をクリックし、処理済みかどうかにかかわらず、全てのレコードを削除することができます。	スプレッドシートから予算データをインポートします。予算データが F0902Z1 テーブルにアップロードされます。

## アップロード/変換の改訂 (P0902Z1) の処理オプションの設定

[F0902Z1へのアップロード] フォームのデフォルト値を指定します。

### デフォルト

1. 元帳タイプ UDC テーブル (09/LT) から、予算金額に使用する元帳タイプを指定します。
2. ユーザー ID フィールド [ユーザーID] フィールドを入力可にするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
 ブランク: 入力不可  
 1: 入力可



## 勘定科目コード

### 1. 勘定科目コード形式

勘定科目コードに使用する形式を指定します。有効値は以下のとおりです。

- 1: 略式 ID
- 2: 第 3 勘定科目コード
- 3: 標準勘定科目コード
- ブランクまたは 4: ビジネスユニット、主科目、補助科目

## スプレッドシートからの予算データのインポート

[F0902Z1へのアップロード] フォームにアクセスします。

[F0902Z1へのアップロード] フォームは、最初にアクセスしたときと、以下のステップ 1 を実行したときの 2 回、表示されます。以下の画面は、ステップ 1 の実行後に表示されます。

アップロード/変換の改訂 - F0902Z1へのアップロード

続行

キャンセル




インポート・アシスタント

インポート・オプションを指定してセル範囲を定義してからプレビューをクリックし、それから続行をクリックしてデータをインポートしてください。

オプション

☒ Excelからインポート

Excelファイル: 

表示...

ワークシート名:  Sheet1

☐ カンマ区切り値(CSV)からインポート

セル範囲の設定

" size=6

カラム

ロー

開始セル:

終了セル:

プレビュー

	A	B	C	D	E	F	G
	勘定科目コード	補助タイプ	補助元帳	転記額 01	転記額 02	転記額 03	転記額 04

[F0902Z1へのアップロード] フォーム

1. [F0902Z1へのアップロード] フォームで、[ツール] メニューの [グリッド・データのインポート] をクリックします。
2. [オプション] で、インポートのオプションを選択します。Excel からインポートする場合は、ステップ 3 を実行します。Excel を使用しない場合は、ステップ 4 に進みます。
3. [表示...] をクリックして Excel ファイルを検索し、データのインポート元のワークシート名を入力します。
4. [セル範囲の設定] で、データのインポート元のセル範囲（たとえば A1:B10）を指定します。
5. [プレビュー] をクリックした後、[続行] をクリックして、データをインポートします。

## テキスト ファイルからの予算データのインポート

このセクションでは、予算インポート フィールドのマッピング プログラムの概要と、以下の方法について説明します。

- F0902Z2 テキスト ファイルへの予算データのコピー
- 予算インポート フィールドのマッピング プログラムの実行
- 予算インポート フィールドのマッピング (R14110M) の処理オプションの設定

### テキスト ファイルからの予算のインポート処理について

スプレッドシートを使用する代わりに、F0902Z2 テキスト ファイルに予算データをコピーして予算インポート フィールドのマッピング プログラム (R14110M) を実行し、データをインポートすることができます。このテーブル変換プログラムはテキスト ファイルからデータを取得し、勘定残高 - バッチ テーブル (F0902Z1) のフィールドに合わせて変換します。F0902Z1 テーブルのフィールドの形式は、F0902 テーブルのフィールドと同じです。

予算データを F0902 テーブルにアップロードする前に、アップロード/変換の改訂プログラム (P0902Z1) を使用してデータが正しいことを確認し、必要に応じて改訂を行います。

### 事前設定

B9/PROD ディレクトリ (または EnterpriseOne ディレクトリのある場所) に、“Import” という名前のフォルダを作成します。

### F0902Z2 テキスト ファイルへの予算データのコピー

テキスト ファイルに予算データをコピーするには、次の手順に従います。

1. テキスト ファイルを作成し、予算データをファイルに直接コピーします。  
PC 上でテキスト ファイルを作成するには、[スタート]、[プログラム]、[アクセサリ]、[メモ帳] の順にクリックしてください。  
予算データがスプレッドシート内にある場合は、まずスプレッドシートを .csv 形式で保存してからテキスト ファイルにコピーします。
2. テキスト ファイルを “F0902Z2.txt” という名前で保存します。  
どのプラットフォームでも変換が実行できるように、デフォルト パスが割り当てられます。デフォルト パスは、“パス コード¥Import¥ファイル名” (例: xxxx¥Import¥F0902Z2.txt) です。xxxx は、入力環境の名前です。予算インポート フィールドのマッピング (R14110M) を実行すると、“Import” フォルダのテキスト ファイルが検索されます。

注: iSeries プラットフォームでは、デフォルト パスは常に、入力環境のパス コードの下にある Import ディレクトリです。

### カラム見出しの追加

システムが予算データを正しく取得できるように、テキスト ファイルに以下のようなカラム見出しを追加する必要があります。

F0902Z2. txt  
勘定科目コード, 補助元帳, 補助元帳タイプ, 転記額 1,

転記額 2, 転記額 3, 転記額 4, 転記額 5, 転記額 6, 転記額 7,  
転記額 8, 転記額 9, 転記額 10, 転記額 11, 転記額 12,  
転記額 13, 転記額 14, 申請済み, 承認済み, 最終  
1. 1110. Bear, 1, A, 1000, 100, 10, 1, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 1110, 0  
1. 1110. Fib, 1, A, 2000, 200, 20, 2, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 200, 0  
1. 1110. France, , , 3000, 300, 30, 3, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 5000, 0, 0  
1. 1105, , , 0, 52, 12313, 13213, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 6589

テキスト ファイルでは、このカラム見出しの後に予算データが表示されます。

## 予算インポート フィールドのマッピング プログラムの実行

[その他の予算作成方式] (G1421) の [予算インポート・フィールドのマッピング] をクリックします。

予算インポート フィールドのマッピング プログラムを実行するには、次の手順に従います。

1. [バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン] で、該当するバージョンを選択します。
2. [テーブル変換プロンプト] で、以下の設定を行います。
  - ローカル環境で作業を行っている場合は、[プロパティ] オプションをオンにして [投入] をクリックします。
  - サーバー環境で作業を行っている場合は、[プロパティ] と [ロケーション一時変更] チェック ボックスをオンにして、[投入] をクリックします。

EnterpriseOne データ ソースでは、ローカル データ ソースを選択して、データ変換プログラムが F0902Z2.txt ファイルにコピーしたデータにアクセスできるようにします。

3. PC 予算アップロード フィールド定義で、以下の表に示したタブにアクセスし、それぞれの指示に従ってください。

タブ	指示
[Select Environments (環境の選択)]	<p>[Input Environment (入力環境)] で、F0902Z2.txt ファイルがローカルドライブにマッピングされた環境を選択します。入力環境は、クライアントマシン上のローカル データベースに対応しています。</p> <p>[Output Environment (出力環境)] で、勘定残高 - バッチ テーブル (F0902Z1) がサーバーにマッピングされた環境を選択します。出力環境は、F0902 テーブルを含むターゲット データベースに対応しています。</p>

タブ	指示
[Table Options (テーブルオプション)]	<p>多通貨処理を行っている場合のみ、[Run Currency Triggers (通貨トリガー実行)] オプションをオンにします。多通貨設定に基づいて、小数点以下桁数やその他の通貨フィールドが変換されます。</p> <p>[Clear Output Tables (出力テーブルのクリア)] オプションはオンにしないでください。オンにすると、ユーザーや処理の状況にかかわらず、F0902Z1 テーブルの全てのデータが削除されてしまいます。F0902Z1 テーブルのデータは、後の PC 予算アップロード処理で、F0902 テーブルにアップロードされます。</p> <p>[Force Row by Row (ローで強制実行)] 処理オプションは、オンにしないでください。このオプションは無視されます。</p>
[Debug Logging (ログのデバッグ)]	<p>以下の場合を除いて、[Use ini settings for trace level and number of rows to process (処理のトレースレベルとロー数に INI 設定を使用)] オプションはオフにしないでください。</p> <p>アップロード処理中にログを作成する場合。[Trace Level (トレースレベル)] フィールドを 1 ～ 10 の値に変更します。10 にすると、最も詳細なログが作成されます。</p> <p>処理しない入力ローがある場合。この場合、[Number of Rows (ロー数)] フィールドの値をゼロ以外の数字に変更します。</p>

プログラムの終了時、処理が正常終了したかどうかを示すメッセージがワーク センターに送られます。

## 予算インポート フィールドのマッピング (R14110M) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 元帳タイプ

1. 元帳タイプ 予算レコードに割り当てられる元帳タイプを指定します。元帳タイプ マスターの設定プログラム (P0025) で設定された有効な元帳タイプを入力します。ブランクにした場合、元帳タイプ "BA" が使用されます。

### 勘定科目コード

1. 勘定科目コード形式 予算テキスト ファイルで使用する勘定科目コードの形式を指定します。有効値は以下のとおりです。  
ブランクまたは 3: 標準勘定科目コード  
1: 略式 ID  
2: 第 3 勘定科目コード

## インポートされた予算データの改訂

このセクションでは、インポートされた予算データの改訂の概要と、改訂方法について説明します。

## インポートされた予算データの改訂について

予算データを F0902Z1 テーブルにインポートした後、アップロード/変換の改訂プログラム (P0902Z1) を使用してレコードの正確性を検討し、必要に応じて改訂を行います。

その後、アップロード/変換プログラム (R14110) を実行して F0902 テーブルにレコードをアップロードしたときに、エラーになるレコードがある場合もあります。たとえば、勘定科目コードが無効なレコードや、金額が正しくないレコードなどです。F0902 テーブルの整合性を保証するため、アップロード/変換の改訂プログラムを使用して全てのエラーを修正します。

また、アップロード/変換の改訂プログラムを使用して、F0902Z1 テーブルのレコードを、正常に処理されたかどうかにかかわらず、削除することもできます。

F0902Z1 テーブルのデータを改訂した後、必要に応じてアップロード/変換プログラムを実行し、F0902Z1 テーブルの予算データを F0902 テーブルにコピーします。

## インポートされた予算データの改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[バッチ勘定残高の処理]	W0902Z1A	[その他の予算作成方式] (G1421)、[アップロード/変換の改訂]	F0902Z1 テーブルにアップロード済みの既存バッチの一覧を検討します。
[バッチ勘定残高の改訂]	W0902Z1B	[バッチ勘定残高の処理] フォームで、改訂するレコードを選択します。	予算レコードを改訂します。これは、F0902Z1 テーブルにインポートされた予算レコードです。

## インポートされた予算データの改訂

[バッチ勘定残高の改訂] フォームにアクセスします。

アップロード/変換の改訂 - バッチ勘定残高の改訂

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

✖

🔍

勘定科目コード \*

9.8115

西暦上2桁/...

20

4

会社

00001

タイプ/補助元帳

元帳タイプ

BA

バッチ状況

転記額 01

1.00

転記額 06

6.00

転記額 11

11.00

転記額 02

2.00

転記額 07

7.00

転記額 12

12.00

転記額 03

3.00

転記額 08

8.00

転記額 13

転記額 04

4.00

転記額 09

9.00

転記額 14

転記額 05

5.00

転記額 10

10.00

前年度転記額

繰越残高

予算金額

申請済み

承認済み

最終/当初

[バッチ勘定残高の改訂] フォーム

## F0902 テーブルへの予算データのアップロード

このセクションでは、アップロード/変換プログラムの概要と以下の方法について説明します。

- アップロード/変換プログラムの実行
- アップロード/変換 (R14110) の処理オプションの設定

### アップロード/変換プログラムについて

[バッチ勘定残高の改訂] フォームで予算データを検討し、必要に応じて改訂した後、アップロード/変換プログラム (R14110) を実行して、勘定残高 - バッチ テーブル (F0902Z1) から F0902 テーブルにデータをコピーします。

エラーが発生しないかどうか、テスト モードで確認できます。プログラムを最終モードで実行する前に、エラーを修正する必要があります。レコードに何らかの問題があることが検出された場合、その問題と F0902Z1 テーブルの全てのレコードが処理されないことを通知するワークフロー メッセージがワーク センターに送信されます。これにより、データの整合性が保証されます。

エラーには、以下のようなものがあります。

- F0901 テーブルに設定されていない勘定科目コード
- 無効な補助元帳または補助元帳タイプ

- 会計年度に設定されていない会計期間パターン
- 無効な元帳タイプ

アップロード/変換の改訂プログラム (P0902Z1) を使用して、F0902Z1 テーブルのエラーを修正します。その後、アップロード/変換プログラムをテスト モードで再実行します。作成されたレポートにエラーがなければ、アップロード/変換プログラムを最終モードで実行します。

最終モードでは、レポートが印刷され、予算データが F0902 テーブルにアップロードされます。アップロードが成功した各レコードについて、F0902Z1 テーブルの“バッチ状況”フィールドが“D” (転記済み) に更新されます。エラーのあるレコードは処理されません。

期間別予算明細に対して最終モードでプログラムを実行すると、F0901 テーブルの該当する勘定科目の予算パターン コードが“DNS” (非配賦) に設定されます。

処理オプションの設定により、アップロード処理を制御できます。たとえば、以下のような処理が可能です。

- 期間金額のアップロードではなく年間予算のアップロードを指定  
この指定を行う場合は、全ての期間金額が追加される予算タイプ (申請済み、承認済み、または最終) も指定します。
- アップロードされた金額の F0902 テーブルの既存金額への追加  
デフォルトでは、一致する全ての勘定科目コードについて、F0902 テーブルの金額はアップロードされた金額で置き換えられます。
- 全ての収益勘定科目金額の符号の反転

予算データが F0902 テーブルに正常にロードされた後、処理済みアップロードの除去プログラム (R0902ZP) を使用して F0902Z1 テーブルからレコードを除去できます。

## アップロード/変換プログラムの実行

[その他の予算作成方式] (G1421) の [アップロード/変換] をクリックします。

## アップロード/変換 (R14110) の処理オプションの設定

更新する予算サイクル、アップロードする金額 (月次または年次)などを指定します。

### 期間

#### 1. 西暦上 2 桁、2. 会計年度

F0902 テーブルにアップロードする予算が適用される年度を識別します。たとえば、会計年度 2005 年用の予算の場合は、西暦上 2 桁として「20」、会計年度として「05」を入力します。

### 予算サイクル

任意の予算サイクル、または 3 つ全てを更新できます。

#### 1. 申請済み予算

アップロードする予算によって F0902 の“申請済み予算”フィールド (BREQ) を更新するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:フィールドを更新しません。

1: フィールドを更新します。

この処理オプションに「1」を入力して [年次/月次] 処理オプションにも「1」を入力した場合、アップロードする予算の申請済み予算金額が BREQ フィールドに入力されます。

この処理オプションに「1」を入力して [年次/月次] 処理オプションを空白にした場合、アップロードする予算の月次予算金額の合計が BREQ フィールドに入力されます。

## 2. 承認済み予算

アップロードする予算によって F0902 の “承認済み予算” フィールド (BAPR) を更新するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白:フィールドを更新しません。

1: フィールドを更新します。

この処理オプションに「1」を入力して [年次/月次] 処理オプションにも「1」を入力した場合、アップロードする予算の承認済み予算金額が BAPR フィールドに入力されます。

この処理オプションに「1」を入力して [年次/月次] 処理オプションを空白にした場合、アップロードする予算の月次予算金額の合計が BAPR フィールドに入力されます。

## 3. 最終予算

アップロードする予算によって F0902 の “最終予算” フィールド (BORG) を更新するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白:フィールドを更新しません。

1: フィールドを更新します。

この処理オプションに「1」を入力して [年次/月次] 処理オプションにも「1」を入力した場合、アップロードする予算の最終予算金額が BORG フィールドに入力されます。

この処理オプションに「1」を入力して [年次/月次] 処理オプションを空白にした場合、アップロードする予算の月次予算金額の合計が BORG フィールドに入力されます。

## 4. 年次/月次

F0902 テーブルに、年間予算金額 (申請済み、承認済み、最終) と月間予算金額 (期間 1 ~ 14) のどちらをアップロードするかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白:月間予算金額をアップロードします。

1: 年間予算金額をアップロードします。

この処理オプションに「1」を入力した場合、[予算サイクル] 処理オプションで「1」を入力した予算サイクルに対応する年間予算金額のみがアップロードされます。

空白にした場合、月間予算金額がアップロードされます。また、月間予算金額の合計額が、[予算サイクル] 処理オプションで「1」を入力した予算サイクルに対応する各年間予算金額に入力されます。

## 仕訳の置換

### 1. 仕訳の置換

アップロードする予算の仕訳で F0902 テーブルにある既存の仕訳を置換するか、追加するかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白:既存の仕訳と置き換えます。

1: 仕訳を追加します。



## 符号反転

### 1. 符号反転

アップロードする予算の収益勘定科目金額の符号を反転するかどうかを指定します。符号を反転すると、マイナスの数字はプラスの金額になり、プラスの数字はマイナスの金額になります。有効値は以下のとおりです。

空白:金額の符号を反転します。

アップロードする予算の収益勘定科目金額がプラス（借方）の場合、この処理オプションは空白のままにしてください。アップロードすると、プラスの数字は自動的にマイナスに変更されます。

1: 金額の符号を反転しません。

F0902 テーブルの収益勘定科目の金額はマイナス（貸方）です。アップロードする予算の収益勘定の金額がマイナスの場合は、この処理オプションに「1」を入力して、マイナスの数値を保持する必要があります。

## 作業原価

### 1. 作業原価

[予算サイクル] 処理オプションの設定にかかわらず、アップロードする予算の F0902 テーブルの月間予算金額（期間 1 ～ 14）のみを更新するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白:[予算サイクル] 処理オプションで指定した予算金額を更新します。

1: 月次予算金額のみを更新します。

作業原価予算の場合は、「1」を入力してください。

## モード

### 1. モード

プログラムをテスト モードまたは最終モードのどちらで実行するかを指定します。

空白:テスト モード。F0902 テーブルの金額に行われる更新を示すレポートが印刷されます。

1: 最終モード。F0902 テーブルが更新され、レポートが印刷されます。

## 除去

### 1. 除去

F0902Z1 テーブルから処理済みレコードを自動的に除去するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白:処理済みレコードを除去しません。

1: 処理済みレコードを除去します。

---

## F0902Z1 テーブルの処理済みレコードの除去

このセクションでは、処理済アップロードの除去プログラムの概要と実行方法について説明します。

## 処理済みアップロードの除去プログラムについて

複数のスプレッドシートを F0902Z1 テーブルにアップロードした場合、テーブルが非常に大きくなる場合があります。テーブル サイズを管理するため、処理済みアップロードの除去プログラム (R0902ZP) を実行して、処理済みのレコードを除去します。

プログラムを実行する前に、既にアップロード済みのレコードの改訂や再アップロードの必要がないことを確認します。処理済みアップロードの除去プログラムは、バッチ状況が "D" (レコードは F0902 テーブルに正常にアップロード済み) の全てのレコードを削除します。また、テーブルから削除されたレコードを一覧表示するレポートも印刷します。

処理済みアップロードの除去プログラムを定期的に行うことにより、F0902Z1 テーブルにはアップロード待ちの予算データのみが含まれることになります。

このプログラムには、処理オプションはありません。

## 処理済みアップロードの除去プログラムの実行

[その他の予算作成方式] (G1421) の [処理済みアップロードの除去] をクリックします。

または、アップロード/変換プログラム (R14110) の実行時に [除去] 処理オプションを設定することにより、処理済みレコードを F0902Z1 テーブルから除去することもできます。

## 第 23 章

# 予算の予測と計画

この章では、予算の予測と計画の概要、および以下の方法について説明します。

- 勘定科目の定義と基準金額の取り込み
- 勘定科目と基準金額の改訂
- 予算予測金額の作成
- 予算予測金額の改訂
- 予算予測レコードの更新
- 予算予測レコードの除去

---

## 予算の予測と計画について

予測と計画の一般会計プログラムでは、以下の処理が可能です。

- 成長パターン（固定またはパーセンテージ）の作成
- ビジネスユニットへの成長パターンの割り当て
- 予測基準の作成と検討
- 予算予測金額の自動作成
- 期待どおりの成果を得るための予測の改訂と調整
- ユーザー定義の元帳への確定予測のアップロード

予測と計画の一般会計プログラムは、標準の予算プログラムと統合されています。この統合により、予算作成プロセス全体を合理化し、詳細な短期予算と長期予算を作成できるようになります。業務を反映するように予算をカスタマイズしたり、複数バージョンの予測を管理してさまざまなシナリオを評価することも可能です。予測を修正して確定した後、ユーザー定義の元帳や予測元帳にアップロードできます。

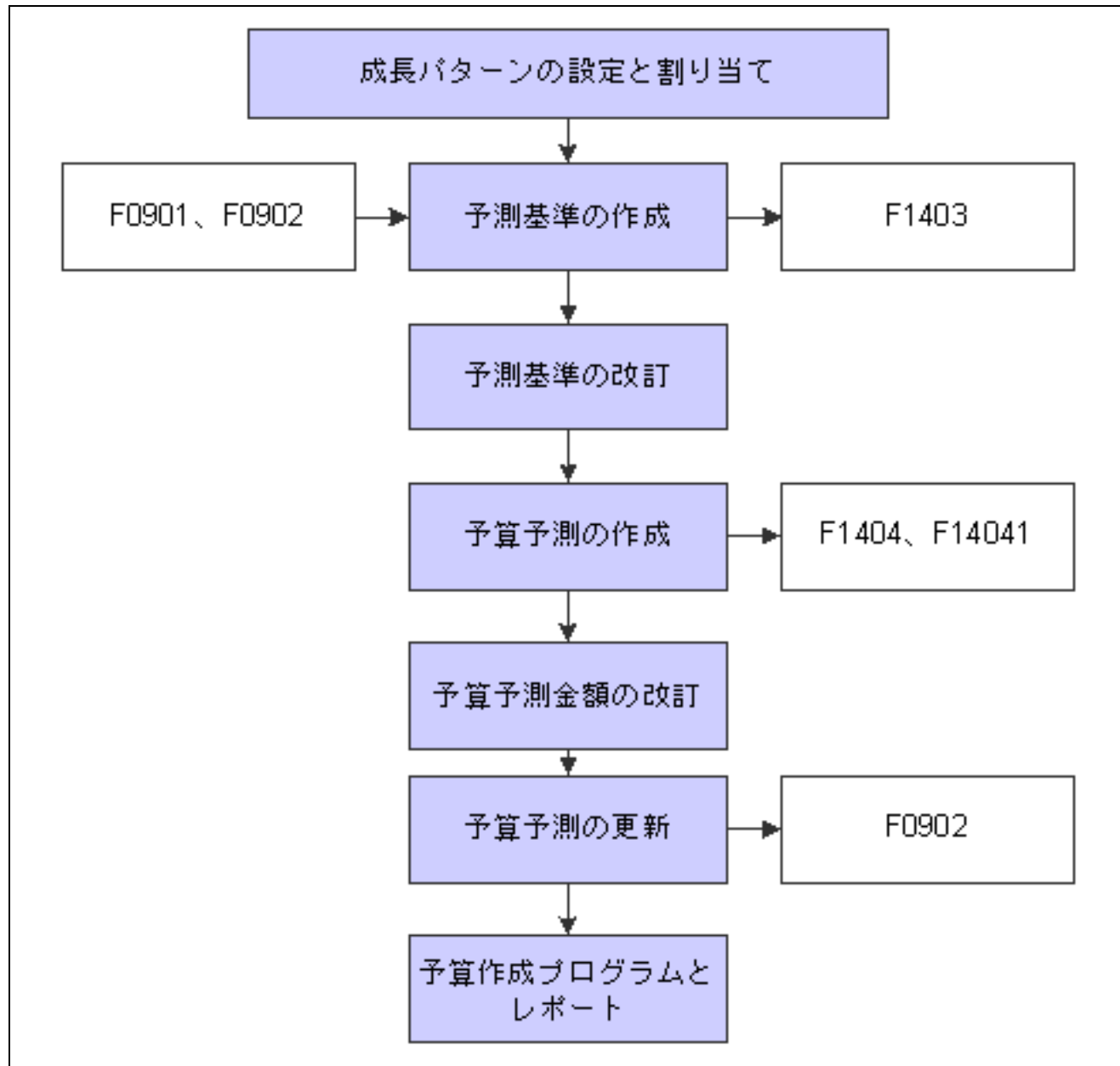
ただし、初めに成長パターンを設定して、ビジネスユニットに割り当てる必要があります。その後、異なる成長パターンを使用して必要なだけ改訂版を作成することができます。改訂番号で区別することにより、1つのビジネスユニットに複数の予算を作成して、予測を確定する前に what-if 分析を行うことが可能になります。各改訂版に対して、以下の作業を実行します。

- 予算予測に組み込む収益勘定科目と経費勘定科目の定義
- 各勘定科目の金額の取り込み
- 各改訂版の勘定科目と基準金額の検討と改訂

参照: 第 6 章、「予算の予測と計画の設定」、「成長パターンの設定」、55ページ

上記の作業を完了した後、改訂版に対する予算金額を作成し、期待どおりの結果を得るため必要に応じて改訂を行います。改訂が完了したら、確定した予算金額を各改訂版の F0902 テーブルにコピーします。F0902 テーブルのレコードは、レポート目的で他のシステムの予算に組み込むことができます。予測と計画のプログラムによる予算の予測は、標準の予算プログラムを使用する前に行う必要があります。

次の図は、予測と計画のプロセスと、プロセス内で使用されるテーブルを示したものです。



予測と計画プロセス

## 勘定科目の定義と基準金額の取り込み

このセクションでは、勘定科目定義と基準金額の概要、および以下の方法について説明します。

- 手作業による勘定科目の定義と基準金額の取り込み
- 勘定科目と基準金額の自動作成

## 勘定科目定義と基準金額について

収益勘定科目と経費勘定科目の予算金額を予測するには、予測に組み込む勘定科目を定義し、その勘定科目の基準金額を取り込む必要があります。

この作業は、検索および選択プログラムを使用して手動で実行することも、以下のいずれかのプログラムを使用してバッチで自動実行することもできます。

- 予測基準の改訂 (P1403)
- 予測基準の自動作成 (R1403)

勘定科目定義と基準金額の取り込みを手動で行うか自動で行うかにかかわらず、F0901 テーブルの勘定科目情報と F0902 テーブルの転記額がコピーされ、予測基準テーブル (F1403) が更新されます。

### 手作業による勘定科目と基準金額の取り込み

勘定科目と基準金額をシステムによって自動作成するのではなく、予測基準の改訂プログラムを使用して手作業で勘定科目情報を作成し、基準金額の取り込みを行います。定義する勘定科目の数があまり多くない場合は、勘定科目情報を手入力することをお勧めします。

予測基準の改訂プログラムを使用して、ビジネスユニットと改訂番号に関連する勘定科目範囲、元帳タイプ、会計年度、および期間を手入力します。基準金額は F0902 テーブルから取り込まれます。会計年度と元帳タイプを 2 つずつ使用して、最高で 14 の連続する期間の勘定残高を取り込めます。たとえば、会計年度 05、元帳タイプ AA の期間 07 ~ 12 の残高と、会計年度 06、元帳タイプ BA の期間 01 ~ 06 の残高が取り込めます。また、同じ元帳タイプの会計年度 05 と 06 の残高を取り込むこともできます。

予測基準の改訂プログラムを使用して、基準金額を改訂したり、勘定科目を追加または削除することもできます。

### 勘定科目と基準金額の自動作成

予算金額の予測を行う勘定科目の数によっては、予測基準の自動作成プログラム (R1403) を実行する方が、予測基準の改訂プログラムで勘定科目情報を手入力するより効率的です。

予測基準の自動作成プログラムは、経費と収益の AAI 項目 “GLGxx” に基づく勘定科目範囲と F0902 テーブルの基準金額によって、F1403 テーブルを自動的に更新します。処理オプションの設定により、改訂番号、元帳タイプ、会計年度、期間、および補助元帳残高の積み上げを行うかどうかを指定します。

また、1 つか 2 つの会計年度と元帳タイプについて、最高で 12 か 14 の連続する期間の勘定残高を取り込めます。たとえば、会計年度 05、元帳タイプ AA の期間 01 ~ 06 の残高と、会計年度 06、元帳タイプ BA の期間 07 ~ 12 の残高が取り込めます。また、同じ元帳タイプの会計年度 05 と 06 の残高を取り込むこともできます。

## 手作業による勘定科目の定義と基準金額の取り込みに使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[予測基準の処理]	W1403E	[予測および計画] (G1411)、 [予測基準の改訂]	既存の予測基準レコード の検索と選択を行います。
[予測基準の取り込み]	W1403B	[予測基準の処理] フォー ムで、[追加]をクリック します。	勘定科目を定義し、基準 金額を取り込みます。

## 手作業による勘定科目の定義と基準金額の取り込み

[予測基準の取り込み] フォームにアクセスします。

**予測基準の改訂 - 予測基準の取り込み**

OK(O) 検索(I) キャンセル(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)








会社  \* ビジネスユニット  3 改訂No.  \*

勘定科目範囲 開始  5000 終了  9999

☐ 補助元帳残高の集計

元帳タイプ  AA 会計年度  期間  1 ~  14

元帳タイプ  AA 会計年度  期間  ~

☒ 期間転記額の表示

レコード 1 - 85 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>		会社	ビジネス ユニット	主科目	補助科 目	記述	略式 ID	転 記 額	基準金額 期間 1
<input type="checkbox"/>		00001		3 5010		Store Sales	00018577		<input type="text"/>
<input type="checkbox"/>		00001		3 5015		Wholesale Sales	00018585		
<input type="checkbox"/>		00001		3 5020		Direct Ship Sales	00018593		
<input type="checkbox"/>		00001		3 5030		Contract Sales	00018606		
<input type="checkbox"/>		00001		3 5040		Deferred Revenue	00034219		
<input type="checkbox"/>		00001		3 5050		Interplant Sales	00018614		
<input type="checkbox"/>		00001		3 5060		Less Returns & Allowances	00018622		

[予測基準の取り込み] フォーム

手作業で勘定科目の定義と基準金額の取り込みを行うには、次の手順に従います。

- [予測基準の取り込み] フォームの見出しフィールドに値を入力します。
- 主科目合計に補助元帳残高を積み上げるには、[補助元帳残高の集計] オプションをオンにします。
- 1 つの元帳タイプまたは異なる元帳タイプと異なる会計期間の勘定科目を取り込むには、以下のフィールドに値を入力します。
  - 元帳タイプ

- 会計年度
- 開始期間
- 終了期間

注: 2 つの元帳タイプの開始期間と終了期間は、重複することはできません。1 番目の元帳タイプ AA の会計年度が 05、期間が 7 ~ 12 だとすると、2 番目の元帳タイプには異なる期間範囲を指定する必要があります。この場合、たとえば開始期間に 1、終了期間に 6 を入力できます。このようにして、ある年度の 7 月 ~ 次年度の 6 月、ある年度の 10 月 ~ 次年度の 9 月など、さまざまな組み合わせの期間で金額を取り込むことができます。

4. [検索] をクリックします。  
勘定科目が取り込まれ、詳細グリッドに各期間の残高が表示されます。
5. [期間転記額の表示] チェック ボックスをオンにして、各期間の期間転記額を表示します。
6. 詳細グリッドの任意の基準金額を改訂します。
7. レコードを個別に保存するには、レコードを選択して [ロー] メニューの [保存] をクリックします。
8. 全てのレコードを保存するには、[フォーム] メニューの [すべて保存] をクリックします。
9. メッセージ フォームで [OK] をクリックすると、F1403 テーブルにあるロックされていない勘定科目が置き換えられます。

## 勘定科目と基準金額の自動作成

[予測および計画] (G1411) の [予測基準の自動作成] をクリックします。

## 予測基準の自動作成 (R1403) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

- |  |  |
|--|--|
| 1. 改訂番号                                  | 予測基準金額を作成する改訂番号を指定します。F0901 テーブルの勘定科目情報と F0902 テーブルの転記額がコピーされ、この改訂番号の F1403 テーブルが更新されます。   |
| 2. 元帳タイプ 1、3. 会計年度 1、4. 開始期間 1、5. 終了期間 1 | “元帳タイプ 1” 処理オプションで、転記額を取り込む元帳タイプを指定します。この処理オプションは、“会計年度 1”、“開始期間 1”、“終了期間 1” 処理オプションと共に使用されます。   |
| 6. 元帳タイプ 2、7. 会計年度 2、8. 開始期間 2、9. 終了期間 2 | “元帳タイプ 2” 処理オプションで、転記額を取り込む 2 番目の元帳タイプを指定します (任意)。この処理オプションは、“会計年度 2”、“開始期間 2”、“終了期間 2” 処理オプションと共に使用されます。  |
| 10. 補助元帳のロールアップ                          | <p>補助元帳残高を主科目に積み上げるかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。</p> <p>ブランク: 補助元帳残高を積み上げません。</p> <p>1: 補助元帳残高を積み上げます。</p> <p>たとえば、この処理オプションに “1” を指定して、補助元帳を従業員別の出張経費のトラッキングに使用すると、全ての従業員の出張経費が主科目に積み上げられます。</p> |

## 勘定科目と基準金額の改訂

このセクションでは、勘定科目と基準金額の改訂の概要と改訂方法について説明します。

### 勘定科目と基準金額の改訂について

収益勘定科目と経費勘定科目について勘定科目の定義と基準金額の取り込みを行った後、予測基準の改訂プログラムを使用して以下の処理を実行できます。

- 勘定科目別の期間基準金額の追加または変更
- 予算パターンコードによる勘定科目への金額の配賦

予算パターンコードを設定してある場合、そのコードを割り当てて金額を一時変更できます。すると、コードに定義されたパーセントに従って、各期間の金額フィールドに一時変更した金額が配賦されます。

- 個々の勘定科目への一時変更成長パターンコードの割り当て
- レコードのロック

予測結果の自動作成プログラムでは、ロックされたレコードの金額のみが予測されます。F1403 テーブルの勘定科目のロックフラグ (LOCKFLG) が "1" になっている必要があります。

### 勘定科目と基準金額の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[予測基準の処理]	W1403E	[予測および計画] (G1411)、 [予測基準の改訂]	既存の予測基準レコードを検討します。
[予測基準の改訂]	W1403D	[予測基準の処理] フォームで、改訂を行うビジネスユニットと改訂番号を選択します。	勘定科目と基準金額の改訂を行います。

### 勘定科目と基準金額の改訂

[予測基準の改訂] フォームにアクセスします。



予測基準の改訂 - 予測基準の改訂

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

ビジネスユニット: 3 Central Branch デフォルト成長パターン:

改訂No.: 1

☒ 期間の表示  
☐ 年間合計のみ

レコード 1 - 104 グリッドのカスタマイズ グリッド・フォーマット名1

	ビジネス ユニット	主科目	補助科目	会社	記述	略式 ID	勘定科目 のロック	基準金額 期間 1	基準金額 期間 2	基準金額 期間 3	基準 期間
<input type="checkbox"/>	3	5000		00001	Revenues	00018551					
<input type="checkbox"/>	3	5005		00001	Sales-Product A	00018569					
<input type="checkbox"/>	3	5010		00001	Store Sales	00018577					
<input type="checkbox"/>	3	5015		00001	Wholesale Sales	00018585					
<input type="checkbox"/>	3	5020		00001	Direct Ship Sales	00018593					
<input type="checkbox"/>	3	5030		00001	Contract Sales	00018606					
<input type="checkbox"/>	3	5040		00001	Deferred Revenue	00034219					
<input type="checkbox"/>	3	5050		00001	Interplant Sales	00018614					
<input type="checkbox"/>	3	5060		00001	Less Returns & Allowances	00018622					
<input type="checkbox"/>	3	5070		00001	Less Sales Discounts	00034227					

[予測基準の改訂] フォーム

勘定科目と基準金額を改訂するには、次の手順に従います。

- [予測基準の改訂] フォームで、以下のオプションのいずれかを選択します。
  - [期間の表示]
  - [年間合計のみ]
- 勘定科目の期間基準金額を変更するには、[期間の表示] オプションをオンにして、該当する期間の基準金額のフィールドに値を入力します。  
それに応じて、[基準金額年間合計] フィールドの値も更新されます。
- 特定の予算パターンと金額を使用して勘定科目に金額を配賦するには、詳細グリッドの以下のフィールドに値を入力します。
  - [予算パターン]  
ブランクにした場合、年間予算金額は全ての月に均等に配賦されます。
  - [一時変更金額] (画面上では [一時変更勘定科目])  
[予算パターン] フィールドにブランク以外の値を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。
- 勘定科目の成長パターンを一時変更するには、詳細グリッドの [一時変更成長パターン] フィールドに値を入力します。  
デフォルトの成長パターンを使用しない場合のみ、勘定科目のこのフィールドに値を入力してください。  
予測結果の自動作成プログラムの実行時に、この成長パターンが適用されます。
- 勘定科目レコードをロックするには、レコードを選択して [ロー] メニューの [ロック/ロックの解除] をクリックします。

[勘定科目のロック] フィールドに、勘定科目がロックされていることを示す“1”が表示されます。ロックを解除するには、[ロー] メニューの [ロック/ロックの解除] を再度クリックします。

6. 全ての勘定科目レコードをロックするには、[フォーム] メニューの [すべてロック/すべてロック解除] をクリックします。

全ての勘定科目のロックを解除するには、[フォーム] メニューの [すべてロック/すべてロック解除] を再度クリックします。

7. [OK] をクリックして、全ての改訂を反映させます。

---

注: 予測結果の自動作成プログラムは、F1403 テーブルのロックされたレコードについてのみ、予算予測金額を作成します。

---

## 予算予測金額の作成

このセクションでは、予算予測金額の作成の概要と、以下の方法について説明します。

- 予測結果の自動作成プログラムの実行
- 予測結果の自動作成プログラムのデータ選択の設定
- 予測結果の自動作成プログラムの処理オプションの設定

### 予算予測金額の作成について

勘定科目と基準金額の改訂が完了したら、予測結果の自動作成プログラム (R1404) を実行します。F1403 テーブルのロックされたレコードが取り込まれ、以下のテーブルに予算予測金額が作成されます。

- 予測結果 - 見出し (F1404)
- 予測結果 - 詳細 (F14041)

最長で 15 年先まで、予算予測金額を作成できます。処理オプションで、金額の作成を開始する会計年度と改訂番号を指定します。データ選択で、予算予測レコードを作成する勘定科目範囲とビジネスユニットを指定します。

予測結果の自動作成プログラムでは、以下の処理を行います。

- F1403 テーブルに取り込まれて更新された基準金額を使用します。
- 転記編集コードが“N” (非転記) 以外の勘定科目の基準金額に、成長パターンを適用します。

成長パターンには、ビジネスユニットと改訂番号に関連するデフォルトのパターンと、個々の勘定科目に関連する一時変更成長パターンがあります。

- F1403 テーブルのロックされた勘定科目に対してのみ、予測金額を作成します。

F1403 テーブルの勘定科目のロック フラグ (LOCKFLG) が“1”である必要があります。このプログラムのデータ選択は、ロックされたレコードのみを選択するようにハード コードされています。

このプログラムでは、F1404 テーブルと F14041 テーブルに追加、更新されたレコード数、改訂番号、会計年度、予測を行う年数を示すレポートが作成されます。レポートには失敗したレコード数も含まれていて、必要に応じてワーク センターにエラー メッセージが送信されます。ロックされていない勘定科目は識別されないため、予測金額にはこれらの勘定科目は含まれません。

予測結果の自動作成プログラムの実行後、以下のいずれかを実行できます。

- 必要に応じて、F1403 テーブルの勘定科目と基準金額を改訂します。予測基準の改訂プログラムを使用してレコードのロックを解除し、変更を行った後で再度ロックする必要があります。その後、予測結果

の自動作成プログラムを再実行して、F1404 テーブルと F14041 テーブルのロックされていない既存レコードを上書きします。

- 予測結果の改訂プログラムを使用して、F1404 テーブルと F14041 テーブルの予算予測金額を検討し、改訂します。

## 事前設定

ビジネスユニットと改訂番号に関連する全ての勘定科目がロックされていることを確認します。

## 予測結果の自動作成プログラムの実行

[予測および計画] (G1411) の [予測結果の自動作成] をクリックします。

## 予測結果の自動作成プログラムのデータ選択の設定

改訂番号に関連する全てのビジネスユニットと勘定科目について金額を予測する必要がある場合、データ選択で対象となるビジネスユニットや勘定科目を選択できます。また、勘定科目レベルで複数の成長パターンが割り当てられていて、その全てについて金額を予測する必要がある場合にも、データ選択で特定の成長パターンを選択できます。

## 予測結果の自動作成 (R1404) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

- |           |   |
|-----------|---|
| 1. 改訂番号   | 予算予測金額を作成する改訂番号を指定します。成長パターンが基準額に適用され、F1404 テーブルの見出しレコードと F14041 テーブルの詳細レコードが更新されます。  |
| 2. 開始会計年度 | 予算予測金額を作成する最初の会計年度を指定します。たとえば、2005 年から金額の作成を開始する場合は、「05」と入力します。   |
| 3. 予測する年数 | <p>予算予測金額を作成する年数を指定します。この処理オプションは、“開始会計年度” 処理オプションと共に使用されます。</p> <p>たとえば、“開始会計年度” に「05」と入力して、この処理オプションに「10」を入力した場合、2005 ～ 2014 年の予測金額が作成されます。最長で 15 年先までの金額を予測できます。</p> |

---

## 予算予測金額の改訂

このセクションでは、予算予測金額の改訂の概要と改訂方法について説明します。

### 予算予測金額の改訂について

予算予測金額を作成した後、予測結果の改訂プログラムを使用して、任意の勘定科目、年度、期間の予測金額の検討や改訂を行うことができます。また、以下の処理も行うことができます。

- 予算パターン コードによる予測年度への金額の配賦

- 勘定科目に移動しての勘定科目詳細の検討
- 確定後の勘定科目のロック（任意）

予測結果の自動作成プログラムとは違い、予算への予測の適用プログラム (R1407) の実行前には勘定科目をロックする必要はありません。ただし、以下の理由から、勘定科目をロックすることをお勧めします。

- [予算予測結果の改訂] フォームでの予測金額の誤変更の防止
- 予測結果の自動作成プログラム再実行時の F1404 テーブルの既存レコード上書きの防止

## 予算予測金額の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[予算予測改訂の処理]	W1404D	[予測および計画] (G1411)、 [予測結果の改訂]	既存の予算予測レコードを検討します。
[予算予測結果の処理]	W1404A	[予算予測改訂の処理] フォームで、改訂を行うビ ジネスユニットと改訂番号 を選択します。	集計予算予測金額を改訂 します。
[予算予測結果の改訂 - 単一年度]	W1404B	[予算予測結果の処理] フォームで、勘定科目の 年度カラムのリンクをク リックします。	勘定科目の単一年度の予 算予測金額に対して、改 訂、ロック、ロック解除 を行います。
[予算予測結果の改訂 - 複数年度]	W1404C	[予算予測結果の処理] フォームで、改訂する勘定 科目を選択します。	勘定科目の複数年度の予 算予測金額に対して、改 訂、ロック、ロック解除 を行います。

## 予算予測金額の改訂

[予算予測結果の改訂 - 単一年度] または [予算予測結果の改訂 - 複数年度] フォームにアクセスします。

予測結果の改訂 - 予算予測結果の改訂 - 単一年度

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

勘定科目コード4.8350Rent Expense

改訂No.1

会計年度2007

☐ 勘定科目のロック

予算パターン・コード

年間予測37,000.00

差額

	期間終了日付	予測金額	累計金額
期間 1	2007/01/31	3,084.00	3,084.00
期間 2	2007/02/28	3,084.00	6,168.00
期間 3	2007/03/31	3,084.00	9,252.00

[予算予測結果の改訂 - 単一年度] フォーム

既存レコードの勘定科目コードが含まれる勘定科目範囲に新しいレコードを追加する場合、レコードの置換や削除が必要になることがあります。

予測金額期間 1 ～ 予測金額期間 12

必要に応じて、これらのフィールドの金額を変更します。金額を変更すると、[予算パターン・コード] フィールドには自動的に “DNS”（非配賦）が入力されます。

“予測金額期間 1 ～ 12” フィールドの金額の合計は、[年間予測] フィールドの金額と一致する必要があります。一致しない場合、“金額が等しくありません” というエラー メッセージが表示されます。[差額] フィールドの値を検討し、金額を適切な値に修正してください。

[すべての会計年度をロック]

全ての会計年度をロックするには、このオプションをオンにします。オフにすると、ロックを解除できます。

このオプションがオン ([勘定科目のロック] フィールドの値が “1”) になっている場合、レコードはロックされていて改訂はできません。

このオプションがオフ ([勘定科目のロック] フィールドの値が “0”) になっている場合、レコードはロックされていないので改訂することができます。

## 予算予測レコードの更新

このセクションでは、予算予測の更新の概要と以下の方法について説明します。

- 予算への予測の適用プログラムの実行
- 予算への予測の適用プログラムのデータ選択の設定
- 予算への予測の適用プログラムの処理オプションの設定

## 予算予測の更新プログラムについて

特定の改訂番号の予算予測レコードで期待どおりの結果が得られたら、予算への予測の適用プログラム (R1407) を実行して F1404 テーブルと F14041 テーブルの確定金額をコピーし、F0902 テーブルの BREQ、BAPR、BORG の各フィールドを更新することができます。F0902 テーブルを更新すると、このテーブルのレコードと標準予算作成プログラムや他のシステムの予算とをレポート目的で結合することができます。予測結果の自動作成プログラムとは違い、予算への予測の適用プログラムの実行前には勘定科目をロックする必要はありません。

予算予測レコードは改訂番号によって更新され、その改訂番号のレコードが、処理オプションで指定したユーザー定義の元帳タイプにコピーされます。この元帳タイプは、UDC テーブル (09/LT) と F0025 テーブルに設定されている必要があります。設定されていないと、F0902 テーブルの予算予測レコードは更新されません。

予算への予測の適用プログラムによる予算予測レコードのコピーと F0902 テーブルの更新が正常終了したことを確認するため、自動作成されたレポートを検討します。レポートには、F0902 テーブルに更新されたレコードの数と、エラーがあった場合はそのレコード数も表示されます。エラー レコードの詳細については、ワーク センターのメッセージを検討してください。処理オプションで入力した予算元帳タイプや改訂番号が正しくない場合は、レポートにエラー メッセージが表示され、処理は行われません。

---

**注:** 予算への予測の適用プログラムを 1 つの改訂番号に対して複数回実行すると、F1404 テーブルと F14041 テーブルの金額が F0902 テーブルにコピーされ、必要に応じて新しいレコードが追加されます。金額が変更されたレコードがあった場合、F0902 テーブルには変更された金額が反映されます。金額が二重に記録されるわけではないので、F0902 テーブルの残高は増大しません。

---

## 事前設定

予算予測レコードのコピー先の元帳タイプが、UDC テーブル (09/LT) と F0025 テーブルに設定されていることを確認します。

## 予算への予測の適用プログラムの実行

[予測および計画] (G1411) の [予算への予測の適用] をクリックします。

## 予算への予測の適用プログラムのデータ選択の設定

改訂番号に関連する全てのビジネスユニットと勘定科目について金額を予測する必要がない場合、データ選択で対象となるビジネスユニットや勘定科目を選択できます。

## 予算への予測の適用 (R1407) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 予算元帳

1. **予算元帳タイプ**  
予算予測レコードを更新する元帳タイプを指定します。この元帳タイプは、UDC テーブル (09/LT) と F0025 テーブルに設定されている必要があります。処理オプションで指定した元帳について、F1404 テーブルと F14041 テーブルの確定金額がコピーされ、F0902 テーブルが更新されます。
2. **目標予算フィールド**  
UDC テーブル (H00/BC) のコードを指定します。有効値は以下のとおりです。  
1: 申請済み予算元帳を更新します。

- 2: 承認済み予算元帳を更新します。
- 3: 最終予算元帳を更新します。

---

## 予算予測レコードの除去

このセクションでは、予算予測除去プログラムの概要と以下の方法について説明します。

- 予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムの実行
- 予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムのデータ選択の設定

### 予算予測の除去プログラムについて

異なるビジネスユニットに対して、1 つの予算の複数の改訂版が作成可能なため、以下のプログラムを実行して、予算予測データを含むテーブルのサイズを管理することをお勧めします。

- 予測基準の除去 (R1403P)  
F1403 テーブルの資金予測基準レコードを全て除去します。
- 予測結果の除去 (R1404P)  
F1404 テーブルの見出しレコードと F14041 テーブルの詳細結果レコードを全て除去します。

### 予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムの実行

[上級および技術的操作] (G14111) の [予測基準の除去] または [予測結果の除去] をクリックします。

### 予測基準の除去プログラムと予測結果の除去プログラムのデータ選択の設定

全てのレコードを除去する必要がない場合、データ選択で特定の改訂番号やビジネスユニットなどを選択します。これらの除去プログラムには、処理オプションはありません。実行モード (テスト/最終) もありません。





## 第 24 章

# 資金予測データの処理

この章では、以下の方法について説明します。

- 資金予測データのリフレッシュ
- 資金予測情報の分析
- 資金予測データの除去

**関連項目:**

第 7 章、「資金予測の設定」、59 ページ

---

## 資金予測データのリフレッシュ

このセクションでは、資金予測データのリフレッシュ プログラムの概要と以下の方法について説明します。

- 資金予測データのリフレッシュ
- 資金予測データのリフレッシュの処理オプションの設定

### 資金予測データのリフレッシュ プログラムについて

資金予測データ テーブル (F09522) のデータは必ずリフレッシュしてください。リフレッシュすることで、資金予測分析プログラム (P09522) を使用して資金勘定科目の分析または予測を行う際に、最新の情報を取得できます。データのリフレッシュは、会計期間、日次、または週次で行えます。

資金予測データのリフレッシュ プログラム (R00522) の実行時、資金予測データを作成する基準日や将来日数を処理オプションで指定します。終了日付は自動的に計算されます。売掛管理システム、買掛管理システム、一般会計システムの F09522 テーブルのデータをリフレッシュするには、以下の各プログラムのバージョンを指定します。

- 売掛管理資金予測データの抽出 (R03B522)
- 買掛管理資金予測データの抽出 (R04522)
- 一般会計資金予測データの抽出 (R09522)

抽出プログラムは、以下の処理を実行します。

- 売掛管理、買掛管理、一般会計のアクティブな資金タイプ規則を F09521 テーブルから取得します。
- F03B11、F0411、F0911 の各テーブルから資金予測詳細を抽出します。
- 新しい資金予測レコードで、F09522 テーブルをリフレッシュします。

資金予測データのリフレッシュ プログラムは、アクティブな各資金タイプの集計金額で、銀行勘定科目および期日別に F09522 テーブルを更新します。資金タイプの選択基準を満たす銀行勘定科目や期日が複数ある場合は、複数の集計金額が作成されます。このプログラムでは、F09522 テーブルの固有の銀行勘定科目 ID ごとに、F09525 テーブルに銀行勘定科目レコードが作成されます。[資金予測分析] フォームで [検索] ボタンを使用して銀行勘定科目コードを検索すると、F09525 テーブルの情報にアクセスします。F09525 テーブルに銀行勘定科目がない場合は、代わりに F0901 テーブルの勘定科目マスター情報にアクセスします。

処理オプションの設定により、基準日より前の日付を指定して既存の資金予測レコードを除去できます。F09522 テーブルのデータ除去後、新しい資金予測データでテーブルがリフレッシュされます。

資金予測データのリフレッシュ プログラムでは、レポート構造内の資金タイプ規則だけでなく、全ての元帳資金タイプ規則の銀行勘定科目で F09525 テーブルがリフレッシュされます。

**注:** データを変更したため、資金予測データのリフレッシュ プログラムを 1 日に 2 回以上実行する必要がある場合は、リフレッシュ プログラムを再実行する前に、[資金予測] メニュー (G09319) の資金予測データの除去プログラム (R09522B) を実行してください。

参照: 第 24 章、「資金予測データの処理」、「資金予測の除去について」、273 ページ

## 売掛管理と買掛管理の資金予測データの抽出プログラム

売掛管理資金予測データの抽出プログラムは、アクティブな売掛管理資金タイプ規則を持つ、金額がゼロ以外、支払状況が "A" (承認済み)、転記コードが "D" (転記済み) の未決済請求書を F03B11 テーブルから抽出します。買掛管理資金予測データの抽出プログラムは、アクティブな買掛管理資金タイプ規則を持つ、金額がゼロ以外で、支払状況が "P" (支払済み) 以外の未払伝票を F0411 テーブルから抽出します。

どの未決済請求書と未払伝票を資金予測データに含めるかを定めるには、処理オプションで基準日と将来日数を指定します。支払期日が開始日付と終了日付の間にある請求書と伝票が、資金予測データに含まれます。

資金タイプの [期限超過資金タイプ] オプションの選択に応じて、以下のいずれかの状況が適用されます。

- 資金タイプの [期限超過資金タイプ] オプションがオンになっている場合は、処理オプションで指定した基準日より前の支払期日が選択されます。

期限超過日数の開始日数と終了日数 (共にマイナス値) によって基準日が調整され、期限超過日付 (最も新しい日付と最も古い日付) がそれぞれ計算されます。この期限超過日付の範囲内に支払期日がある取引が選択され、売掛管理と買掛管理の新しい資金予測レコードが F09522 テーブルに書き込まれます。

- 資金タイプの [期限超過資金タイプ] オプションがオフになっている場合は、処理オプションで指定した基準日以降、終了日付以前の支払期日が選択され、売掛管理と買掛管理の新しい資金予測レコードが F09522 テーブルに書き込まれます。

## 一般会計資金予測データの抽出プログラム

一般会計資金予測データの抽出プログラムは、各勘定科目の F0911 テーブルと F0902 テーブルから転記済みの勘定残高を抽出します。各勘定科目は、基準日残高のアクティブな元帳資金タイプに関連付けられています。非転記や非アクティブの勘定科目は含まれません。処理オプションで指定した基準日を 1 日ずつ増分して調整を行い、この調整日付を使用して資金タイプ規則に対応する F0911 の転記済み取引を取得します。その後、この調整日付を使用して、新しい一般会計資金予測レコードで F09522 テーブルがリフレッシュされます。

基準日から終了日付までの全ての日に対する銀行勘定科目レコードが書き込まれるまで、この処理を繰り返します。その後、調整日付を基準日にリセットして、次の元帳資金タイプに対して同じ処理を行います。残高ゼロの勘定科目があった場合は、基準日の F09522 テーブルに残高ゼロが書き込まれます。

このプログラムは常に、各銀行勘定科目の基準日残高を F09522 テーブルに書き込みます。基準日残高は、ゼロの場合でも、銀行勘定科目の開始帳簿残高として使用されます。ただし、基準日より後の調整日付については、F0911 の取引が転記されていない場合、F09522 テーブルに調整日付のレコードは書き込まれません。調整日付に対する F0911 の正味金額が F09522 テーブルに書き込まれるのは、その日に F0911 に転記済み取引がある場合のみです。資金予測分析プログラムにアクセスすると、調整日付の F0911 正味金額は累計され、以下のいずれかの残高に適用されます。

- F09522 テーブルの基準日帳簿残高
- F09616、F09617 テーブルの銀行残高照合表残高

資金予測分析プログラムの処理オプションで、開始残高に使用する基準日残高を指定します。

## 資金予測データのリフレッシュ

[資金予測] (G09319) の [資金予測データのリフレッシュ] をクリックします。

## 資金予測データのリフレッシュ (R00522) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

#### 1. 基準日

F09522 テーブルに資金予測データを作成する基準日 (開始日付) を指定します。基準日のデータが既に F09522 テーブルにある場合は、資金予測データの除去プログラム (R09522B) を使用して既存のデータを除去してから、新たな資金予測データを作成します。ブランクにした場合、基準日には今日の日付が使用されます。

#### 2. 将来日数

資金予測データを作成する将来日数を指定します。たとえば "10" を指定すると、基準日とその後 9 日間 (カレンダー日数) の資金予測データが作成されます。ブランクまたは "0" にした場合、基準日とその後 6 日間 (カレンダー日数) の資金予測データが作成されます。

### バージョン

#### 1. A/R 資金予測データ (R03B522) の抽出のバージョン、2. A/P 資金予測データの抽出 (R04522) のバージョン、3. G/L 資金予測データの抽出 (R09522) のバージョン

使用する売掛管理資金予測データの抽出、買掛管理資金予測データの抽出、一般会計資金予測データの抽出のバージョンを指定します。ブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

### 除去

#### 1. さかのぼる日数

何日前の資金予測レコードから除去を開始するかを指定します。"10" を指定すると、基準日の 10 日以上前の資金予測レコードが全て除去されます。たとえば、基準日が 6 月 14 日の場合は、6 月 4 日以前の資金予測レコードが全て除去されます。"1" を指定すると、その日より前の日付のレコードが全て除去されます。ブランクまたは "0" にした場合、レコードは除去されません。

## 資金予測情報の分析

このセクションでは、資金予測情報と銀行勘定科目開始残高の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 資金予測分析の処理オプションの設定
- 資金予測情報の分析

### 資金予測情報について

F09522 テーブルのリフレッシュ後、資金予測分析プログラム (P09522) を使用して、1 つまたは全ての銀行勘定科目の資金予測金額を表示できます。このプログラムにより、F09522 テーブルのリフレッシュ済みデータと以下の情報を使用して、オンライン照会とレポート出力を行えます。

- F09523 テーブルに定義したレポート構造
- アクティブな資金タイプ規則テーブル (F09521) に設定した規則
- F09525 テーブルの銀行勘定科目コード

[資金予測分析] フォームで [検索] ボタンを使用して銀行勘定科目コードを検索すると、F09525 テーブルの情報にアクセスします。F09525 テーブルに銀行勘定科目がない場合は、代わりに F0901 テーブルの勘定科目マスター情報にアクセスします。

[資金予測分析] フォームと資金予測レポート (R095221) に表示される集計金額は、データのリフレッシュに使用した基準日に対応しています。日次、週次、または期間別に集計金額を表示できます。

期限超過項目に対する資金タイプ規則を設定してある場合、期限超過金額はその規則に従って、別のカラムに表示されるか、または最初の日付カラムの金額と合わせて表示されます。期限超過のカラムと金額を非表示にすることもできます。資金タイプ規則に加重係数を指定すると、オプション設定によって実績金額に加重係数を適用した金額を表示できます。

基本的に、[資金予測分析] フォームと資金予測レポートの内容は同じです。レポートには、[資金予測分析] フォームでツリー構造を全レベルに展開した場合の詳細情報が (実際に展開されているレベルにかかわらず) 印刷されます。フォームで期限超過金額を非表示に設定すると、レポートにも期限超過資金タイプは含まれません。[資金予測分析] フォームで、[レポート] メニューの [レポートの印刷] をクリックすると、レポートを印刷できます。このレポートは、資金予測詳細テーブル (F09UI017) から情報を取得します。実際に [レポート] メニューで [レポートの印刷] をクリックするまで、このテーブルには資金予測詳細は入力されません。そのため、メニューをクリックしてからレポートが印刷されるまでに、時間がかかる場合があります。F09UI017 テーブルのデータを使用してレポートの印刷が終了すると、このテーブルは削除されます。

### 銀行勘定科目開始残高について

自動銀行残高照合表処理を使用して銀行残高照合表の処理と調整を行っている場合、[資金予測分析] フォームで資金予測金額を分析する際に、銀行勘定科目の開始残高として照合表の最終残高を使用できます。

ある勘定科目に対して、銀行残高照合表の残高を資金予測金額の開始残高として使用するには、以下を実行する必要があります。

- 銀行残高照合表のロード プログラム (R09612) を実行して、この勘定科目に対する現在の自動銀行残高照合表をアップロードします。

このプログラムは、自動銀行残高照合表処理に含まれています。

参照: 第 20 章、「銀行残高照合表の自動処理」、「銀行残高照合表テーブルへのデータのロード」、191 ページ

- 資金予測分析プログラムの処理オプションで、[銀行口座開始残高方式] を “1” に設定します。

## 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 資金予測データのリフレッシュ プログラムによる F09522 テーブルの更新
- 資金予測分析プログラムの処理オプションでの資金分析情報を表示するレポート構造名の指定

## 資金予測情報の分析に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[資金予測分析]	W09522A	[資金予測] (G09319)、[資金予測分析]  資金予測分析レポートを印刷するには、[レポート] メニューの [レポートの印刷] をクリックします。	資金予測金額の検討と分析を行います。

## 資金予測分析 (P09522) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

- 1. レポート構造** 資金予測分析プログラムでの情報表示に使用するレポート構造を指定します。F09523 テーブルに設定されているレポート構造を指定してください。この処理オプションは必須です。空白にはしないでください。
- 2. カラム数** [資金予測分析] フォームに表示される日付範囲カラムの数 (最大 7 = デフォルト) を指定します。資金タイプ規則の設定プログラムで設定されている場合は、期限超過項目用に “期限超過” カラムが表示されます。
- 3. 再評価通貨** [資金予測分析] フォームの金額表示に使用する再評価通貨を指定します。F0013 テーブルに設定されている通貨コードを指定してください。空白にした場合、F0010 テーブルに設定されている会社 00000 の通貨コードが使用されます。
- 4. 会計期間パターンの会社** 資金予測分析プログラムの [時間 - 表示] オプションで会計期間が指定されている場合に、資金予測金額を計算するための会計期間パターンを取得する会社を指定します。空白にした場合、会社 00000 の会計期間パターンと会計年度開始日付が使用されます。

### オプション

- 1. 銀行口座開始残高方式** 銀行勘定科目の開始残高に使用する方式を指定します。  
空白: 帳簿残高  
開始残高として、F0911 テーブルと F0902 テーブルの帳簿残高が使用されます。

1: 銀行残高照合表残高  
開始残高として、F09616 テーブルの銀行残高照合表残高が使用されます。

バージョン

1. 資金予測レポート構造 (P09523)、2. 資金予測レポート (R095221)      使用する資金予測レポート構造の設定プログラムと資金予測レポートのバージョンを指定します。ブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

資金予測情報の分析

[資金予測分析] フォームにアクセスします。

資金予測分析 - 資金予測分析

検索(F) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) レポート(P) ツール(T)

選択基準

基準日2005/07/05基本通貨USDU.S. Dollar銀行勘定科目コード1.1001Current Assets

オプション - 表示

☐ 重量係数の適用☐ 過去期日カラムの非表示

日付範囲 - 表示

開始日付2005/07/05終了日付

時間 - 表示

☒ 日☐ 週☐ 期間

レコード 1 - 7

	資金予測 - 金額表示単位 USD	期限超過例外	火曜日 2005/07/05	水曜日 2005/07/06	木曜日 2005/07/07	金曜日 2005/07/08
<input checked="" type="radio"/> 資金予測						
<input type="radio"/> 期首残高						
<input type="radio"/> 純営業利益/費用予測						
<input type="radio"/> 現金収入						
<input type="radio"/> 現金支出						
<input type="radio"/> 定期預金						
<input type="radio"/> 未決済請求書(小切手)						

[資金予測分析] フォーム

このフォームに情報が表示されるまでの処理時間は、F09522 テーブルのデータ数によって異なります。

[基準日]      資金予測データをリフレッシュする日付を入力します。

[銀行勘定科目コード]      総勘定元帳の銀行勘定科目コード (勘定科目 ID ではない) を識別する値を入力します。

[検索] ボタンを使用して勘定科目を検索すると、F09525 テーブルの、全ての元帳資金タイプ規則に関連する銀行勘定科目にアクセスします。F09525 テーブルに銀行勘定科目がない場合は、代わりに F0901 テーブルの勘定科目情報にアクセスします。

[開始日付]、[終了日付]      資金予測情報を表示する開始日付と終了日付を入力します。

[重量係数の適用]      このオプションがオンになっていると、[資金予測分析] フォームに表示される実績金額に F09521 テーブルで定義された加重係数が適用されます。

**[過去期日カラムの非表示]** このオプションがオンになっていると、[資金予測分析] フォームに期限超過カラムが表示されません。オフになっていると、期限超過カラムが別に表示されます。

**[日]、[週]、[期間]** 資金予測金額が表示される時間の単位を指定します。

### エラー メッセージ: “勘定科目” の元帳資金タイプ規則が見つかりません

銀行勘定科目が有効な元帳資金タイプ規則に割り当てられていない場合に F09522 テーブルをリフレッシュすると、[資金予測分析] フォームに、“勘定科目” の元帳資金タイプ規則が見つかりません、という警告メッセージが表示されます。この資金タイプの純営業利益/費用の繰越額が銀行勘定科目に含まれないので、その結果、[資金予測分析] フォームの開始残高は不正確になります。

この問題を修正するには、資金タイプ規則の設定プログラムを使用して、既存の元帳資金タイプ規則の勘定科目範囲に銀行勘定科目を追加するか、またはこの銀行勘定科目の元帳資金タイプ規則を新規に設定します。その後、資金予測データのリフレッシュ プログラムを再実行してください。[資金予測分析] フォームに再度アクセスすると、純営業利益/費用の繰越額が銀行勘定科目に含まれるので、開始残高は正しくなっています。

---

## 予測データの除去

このセクションでは、資金予測の除去プログラムの概要と以下の方法について説明します。

- 資金予測データの除去
- 資金予測データの除去の処理オプションの設定

### 資金予測の除去について

資金予測データの除去プログラム (R09522B) は、以下のいずれかの方法で実行できます。

- メニューの [資金予測データの除去] をクリック  
処理オプションで、レコードを除去する開始基準日と終了基準日を指定します。
- 資金予測データのリフレッシュ プログラムから実行  
処理オプションで、何日以上前の資金予測レコードを除去するかを指定します。除去プログラムの実行後に、資金予測データのリフレッシュ プログラムによって、テーブルのデータがリフレッシュされます。リフレッシュ プログラムから除去プログラムを実行すると、基準日の前日までの (基準日を含まない) レコードを除去できます。

---

**注:** データを変更したため、資金予測データのリフレッシュ プログラムを 1 日に 2 回以上実行する必要がある場合は、リフレッシュ プログラムを再実行する前に、[資金予測] メニュー (G09319) で資金予測データの除去プログラムを実行してください。データの除去を行わないと、以下のエラー メッセージが表示されます。

F09522 テーブルに基準日のレコードが既に存在します。資金予測データの除去 (R09522B) を使用してこの日付のレコードを除去してから、リフレッシュを行ってください。

除去プログラムをメニューから実行する場合は、終了基準日を指定できます。資金予測データのリフレッシュ プログラムから実行する場合は、基準日の前日までのレコードのみを除去できます。

---

## 資金予測データの除去

[資金予測] (G09319) の [資金予測データの除去] をクリックします。

### 資金予測データの除去 (R09522B) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 選択

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| <b>1. 除去するレコードの開始日付</b> | F09522 テーブルで除去するレコードの開始基準日を指定します。空白にした場合、終了日付の処理オプションで指定した日付よりも前の基準日のレコードが全て除去されます。 |
| <b>2. 除去するレコードの終了日付</b> | F09522 テーブルで除去するレコードの終了基準日を指定します。開始日付と終了日付の両方を空白にすると、基準日から昨日までのレコードが全て除去されます。       |



## 第 25 章

# 現金主義会計仕訳の作成

このセクションでは、現金主義会計の概要、発生主義会計と現金主義会計の仕訳の概要、および以下の方法について説明します。

- メニューからの現金主義会計プログラムの実行
- 転記プログラムからの現金主義会計プログラムの実行
- 例外レポートの検討
- 現金主義会計仕訳の検討
- 現金主義会計仕訳の転記

---

## 現金主義会計について

現金主義会計は、入金を収益、出金を経費として認識する会計処理方法です。この会計処理では、会計期間中に実際に発生した現金の入出金だけが示されます。現金主義会計は、油田のリースやベンチャーキャピタル、パートナーシップなどにおいて必要となる場合があります。

入出金のタイミングは、営業活動期間とは異なる場合があります。そのため、現金主義会計と発生主義会計では、取引を記録する会計期間が一致しない場合があります。

発生主義会計の仕訳は、AA (実績金額) 元帳で管理されます。現金主義会計を使用する場合、AA 元帳と同じ取引が AZ (現金主義) 元帳にも作成されます。

現金主義会計仕訳を作成するには、仕訳の作成プログラム (R11C850) を実行するか、総勘定元帳への転記プログラム (R09801) で“現金主義会計”処理オプションを有効にします。業務におけるプログラム実行のベスト プラクティスを決定するには、一般会計、買掛管理、売掛管理の各システムで現金主義会計仕訳がどのように作成されるかを理解する必要があります。

---

## 発生主義会計の仕訳について

現金主義会計を使用している場合、入出金が発生した時点で AZ 元帳に取引を作成します。現金の収支を含む取引は、売掛管理システムと買掛管理システムの入金および支払として発生します。

発生主義会計の仕訳では、以下のバッチ タイプについて F0911 テーブルの銀行勘定科目に借方と貸方が作成されます。

- K:自動支払
- M:支払 (伝票照合あり)
- W:支払 (伝票照合なし)

- RB:入金

買掛管理システムでは伝票タイプ PK、PN、PT で、売掛管理システムでは伝票タイプ RC、RK で片側仕訳が作成されます。その後、売掛金勘定と買掛金勘定の貸借一致仕訳が伝票タイプ AE（自動仕訳）で作成されます。どちらの伝票も同じバッチに作成されるため、バッチの貸借は一致し、エラーなしで転記されます。

---

## 現金主義会計仕訳について

仕訳の作成プログラムでは常に、勘定元帳取引の現金主義会計仕訳が最初に作成されます。次に、別のプログラムが実行されて、バッチ K、M、W、RB について売掛金と買掛金の貸借一致仕訳が作成されます。

### 取引明細レコードの現金主義会計仕訳

仕訳の作成プログラムを実行すると、バッチ タイプに関係なく、F0911 テーブルの発生主義取引のデータで現金主義会計仕訳が作成されます。F0911 テーブルでは、以下の基準を満たす取引が検索されます。

- 伝票タイプが UDC テーブル (00/DX) (除外伝票タイプ) に含まれない。
- 元帳タイプが AA である。
- 転記コードが P である。
- GLALT6 (現金主義会計転記コード) フィールドがブランクである。

この取引は、現金主義会計で処理されていません。

仕訳の作成プログラムを実行するたびに、元帳タイプ AZ、バッチ タイプ G の現金主義会計仕訳が F0911 テーブルの 1 つのバッチに作成されます。現金主義会計仕訳の元帳日付には、当初の AA 元帳取引の元帳日付が使用されます。

現金主義会計仕訳が 1 つの取引について重複して作成されないように、F0911 テーブルの発生主義会計仕訳レコードの GLALT6 フィールドが "P" に更新されます。現金主義会計仕訳を転記前に削除すると、同じレコードに対して新しい現金主義会計仕訳は作成されないため、現金主義会計仕訳を再作成するには AZ 元帳に仕訳を手動で入力する必要があります。

仕訳に基づいて現金主義会計仕訳が作成される場合、その取引全体が AZ 元帳にコピーされ、現金主義会計の伝票タイプが割り当てられます。当初の仕訳の貸借が一致していれば、作成される現金主義会計仕訳の貸借も一致します。

### 数量の現金主義会計仕訳

数量処理の場合は、総勘定元帳への転記プログラムの処理オプションで特に元帳タイプを指定していなければ、ZU (現金主義会計数量) 元帳に数量仕訳が作成されます。発生主義取引の数量は、AU (実績数量) 元帳に作成されます。数量元帳は F0902 テーブルにのみ存在し、F0911 テーブルには存在しません。発生主義会計仕訳と現金主義会計仕訳を転記すると、数量元帳が更新されます。

### 買掛管理と売掛管理の現金主義会計仕訳

仕訳の作成プログラムは、バッチ タイプ K、M、W、RB の貸借一致仕訳を作成するために別のプログラムを実行します。このプログラムでは、伝票タイプ AE、DP、JT、PM、PR、PV、RA、RI、RM、RR の貸借一致仕訳は作成されません。

支払と入金については、F0911 の銀行勘定科目レコードが最初に処理されます。PV や RI などの伝票タイプは UDC テーブル (00/DX) に含まれるため、対応する経費勘定と収益勘定の元帳取引は除外されます。現金主義会計仕訳の貸借を一致させるために、現金主義会計仕訳の作成 - 買掛管理プログラム (R11C854) と現金主義会計仕訳の作成 - 売掛管理プログラム (R11C853) によって、自動的に経費勘定と収益勘定が取得されます。

以下の基準を満たす支払済み伝票が F0414 テーブルから、支払済み請求書が F03B14 テーブルから検索されます。

- 転記コードが D である。
- F0414 テーブルと F03B14 テーブルの RNALT6 フィールドと RZALT6 フィールドがブランクである。

基準を満たす取引があると、以下の処理が実行されます。

- F0411 テーブルと F03B11 テーブルのレコードを検索して、経費勘定と収益勘定を取得します。
- 請求書レコードや伝票レコードの RPOBJ (主科目) フィールドに値があれば、RPMCU (ビジネスユニット)、RPOBJ、および RPSUB (補助科目) フィールドの値を使用します。
- RPOBJ フィールドがブランクの場合は、関連する F0911 レコードから経費勘定と収益勘定を検索します。
- F0911 の支払レコードと入金レコードに基づいて、銀行勘定に既に作成済みの現金主義会計仕訳に、経費勘定と収益勘定の情報を追加します。
- 現金主義会計伝票の元帳日付として、入金または支払の元帳日付を使用します。

以下の場合、支払金額と入金額は比例配分されます。

- 伝票の支払金額や請求書の入金額が全額に満たない場合
- 複数の伝票や請求書に対する支払や入金の場合
- 複数の経費勘定が指定された伝票や請求書に対する入金の場合

1 つの伝票や請求書に現金主義会計仕訳が重複して作成されないように、F0414 テーブルと F03B14 テーブルの RNALT6 フィールドと RZALT6 フィールドが "P" に更新されます。

現金主義会計仕訳を転記前に削除すると、同じレコードに対して新しい現金主義会計仕訳は作成されないため、現金主義会計仕訳を再作成するには AZ 元帳に仕訳を手動で入力する必要があります。

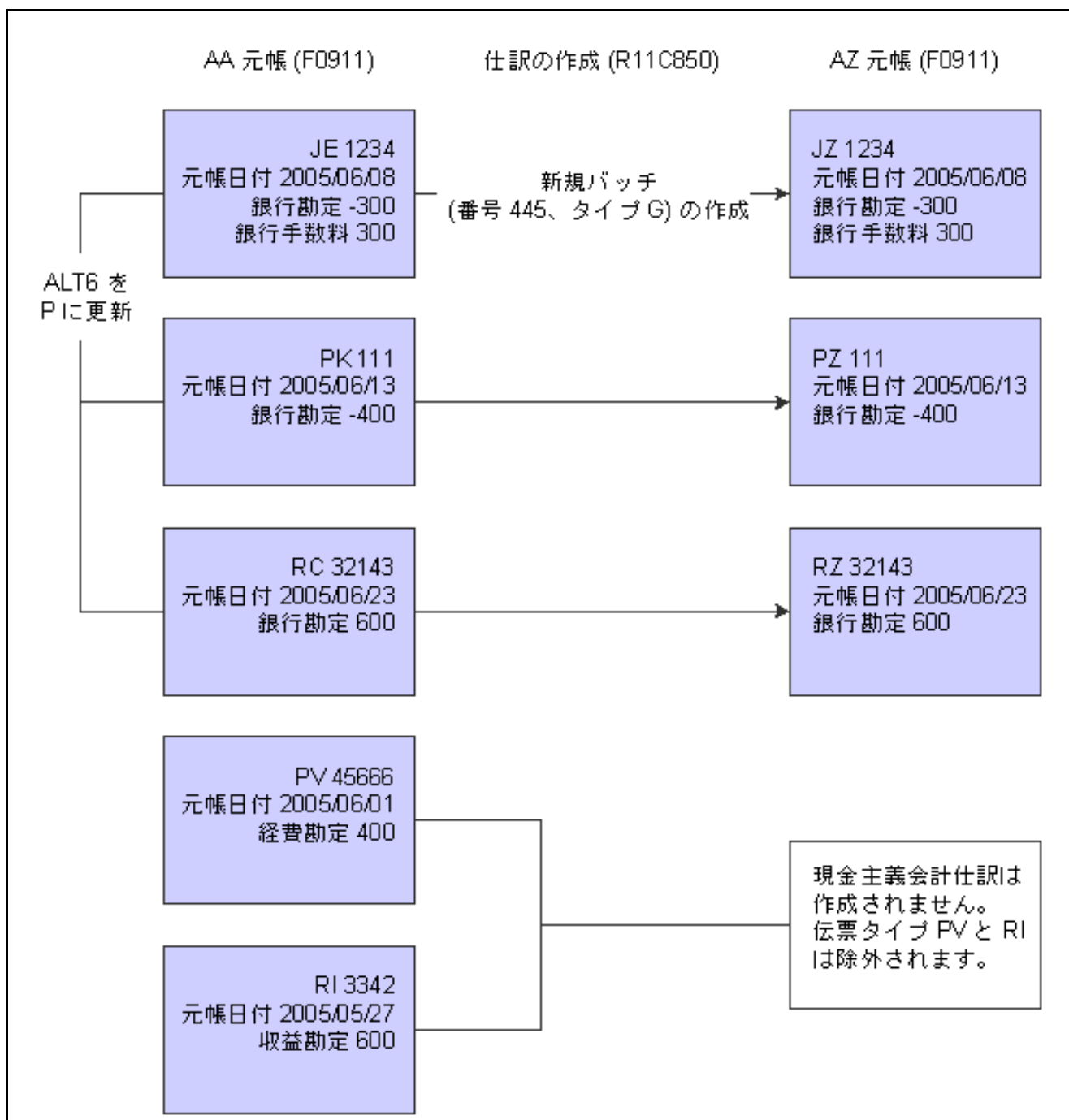
次の表は、買掛管理と売掛管理の現金主義会計仕訳の作成プログラムの違いを説明したものです。

現金主義会計仕訳の作成 - 買掛管理	現金主義会計仕訳の作成 - 売掛管理
F0414 テーブルを使用して、現金主義会計仕訳が未作成の全ての支払済み伝票が検索されます。F0413 テーブルの支払番号 (DOCM) が、現金主義会計仕訳の伝票番号として使用されます。	F03B14 テーブルを使用して、現金主義会計仕訳が未作成の全ての入金済み請求書が検索されます。総勘定元帳の伝票番号 (DOCG) が、現金主義会計仕訳の伝票番号として使用されます。
伝票番号によって F0411 テーブルの伝票が検索され、その伝票の OBJ (主科目) フィールドと SUB (補助科目) フィールドの値が経費勘定に使用されます。	請求書番号によって F03B11 テーブルの伝票が検索され、その伝票の OBJ (主科目) フィールドと SUB (補助科目) フィールドの値が収益勘定に使用されます。
OBJ フィールドと SUB フィールドがブランクの場合、F0911 のレコードから経費勘定が検索されます。	OBJ フィールドと SUB フィールドがブランクの場合、F0911 のレコードから収益勘定が検索されます。

現金主義会計仕訳の作成 - 買掛管理	現金主義会計仕訳の作成 - 売掛管理
伝票の経費勘定情報によって、F0911 のレコードがバッチで更新されます。	請求書の収益勘定情報によって、F0911 のレコードがバッチで更新されます。
F0414 テーブルの RNALT6 フィールドが P に更新されます。	F03B14 テーブルの RZALT6 フィールドが P に更新されます。

### 例:現金主義会計仕訳の作成方法

次の図は、一般会計システム、買掛管理システム、および売掛管理システムでの現金主義会計仕訳の作成方法を示しています。



一般会計、買掛管理、売掛管理システムの現金主義会計仕訳

次の図は、上記の例に基づいて作成された買掛管理と売掛管理の現金主義会計仕訳を示しています。

バッチ タイプ G、バッチ番号 445	
<div style="border: 1px solid black; background-color: #e0e0ff; padding: 10px; margin: 5px;"> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">PZ 111</div> <div style="text-align: center;">           元帳日付 2005/06/13            (R11C850) 銀行勘定 -400            (R11C854) 経費勘定 400         </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; background-color: #e0e0ff; padding: 10px; margin: 5px;"> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">RZ 32143</div> <div style="text-align: center;">           元帳日付 2005/06/23            (R11C850) 銀行勘定 600            (R11C854) 経費勘定 -600         </div> </div>

買掛管理システムと売掛管理システムの現金主義会計仕訳

## メニューからの現金主義会計プログラムの実行

このセクションでは、メニューから現金主義会計プログラムを実行するタイミングとマルチスレッド ジョブ待ち行列の概要、および以下の方法について説明します。

- メニューからの仕訳の作成プログラムの実行
- 仕訳の作成の処理オプションの設定

### メニューから現金主義会計プログラムを実行するタイミングについて

現金主義会計を初めて使用する場合は、総勘定元帳への転記プログラムからではなく、メニューから仕訳の作成プログラムを実行する必要があります。入力済みの全ての取引に対して現金主義会計処理を行う必要があるため、処理には時間がかかります。効率的に処理を行うには、業務のピーク時を避けてプログラムを実行することをお勧めします。

現金主義会計仕訳を定期的（週次、月次、四半期ごとなど）に作成する場合は、メニューから仕訳の作成プログラムを実行することにより、現金主義会計仕訳を作成するタイミングを制御できます。

### マルチスレッド ジョブ待ち行列について

マルチスレッド ジョブ待ち行列の設定がされている場合、仕訳の作成プログラムの複数のジョブを同時に実行できます。先に実行したジョブに続いて実行するジョブについては、先行と同じバージョンでも、異なるバージョンでもかまいません。複数のジョブを同時に実行することにより、大量のトランザクションを効率的に処理できます。

複数ジョブの実行時には、仕訳の作成プログラムによって各バッチの F0011 テーブルの“現金主義状況”フィールド (CBP) がチェックされ、バッチの複数回処理が避けられます。そのため、各ジョブで固有のデータ選択を行う必要はありません。

バッチの状況は、以下のいずれかになります。

- ブランク: 仕訳の作成プログラムによって、予約または処理されていません。このバッチは選択され、状況フラグが“1”にセットされます。状況フラグが“1”になると、後続のジョブからは無視されます。
- 1: 仕訳の作成プログラムによって、予約または処理されています。このバッチはスキップされ、次のバッチが処理されます。

## メニューからの仕訳の作成プログラムの実行

[現金主義会計] (G09314) の [仕訳の作成] を選択します。

## 仕訳の作成プログラム (R11C850) の処理オプションの設定

現金主義会計仕訳の作成に関する指定を行います。

### 処理

現金主義会計仕訳を転記するかどうかを指定します。

1. 総勘定元帳への転記      現金主義会計仕訳を F0911 テーブルに転記するかどうかを指定します。

### デフォルト

現金主義会計仕訳に仕訳と履歴情報のどちらを使用するかを指定します。

1. AZ 仕訳の摘要      AA 元帳レコードの仕訳の摘要を AZ 元帳の仕訳に使用するかどうかを指定します。空白にした場合、履歴情報が使用されます。

### バージョン

現金主義会計仕訳に使用する転記のバージョンを指定します。

1. 転記プログラム (R09801) のバージョン      現金主義会計仕訳を処理する総勘定元帳への転記プログラムのバージョンを指定します。空白にした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

---

## 転記プログラムからの現金主義会計プログラムの実行

このセクションでは、総勘定元帳への転記プログラムから現金主義会計プログラムを実行するタイミングの概要と、以下の方法について説明します。

- 総勘定元帳への転記プログラムからの仕訳作成プログラムの実行
- 総勘定元帳への転記プログラムの処理オプションの設定

## 転記プログラムから現金主義会計プログラムを実行するタイミングについて

現金主義会計仕訳を作成した後、総勘定元帳への転記プログラムの処理オプションを有効にすることにより、現金の入金または支払が発生したときに AZ 元帳に最新の情報を確実に反映させることができます。“現金主義会計” 処理オプションを有効にするには、実行する仕訳の作成プログラムのバージョンを指定します。

以下のタイプのバッチに対してのみ、総勘定元帳への転記プログラムの“現金主義会計” 処理オプションでバージョンを指定できます。

- G: 総勘定元帳
- K: 自動支払
- M: 支払 (伝票照合あり)

- W: 支払（伝票照合なし）
- RB 入金

## 総勘定元帳への転記プログラム（R09801）からの仕訳の作成プログラムの実行

[仕訳入力、レポート、照会] (G0911) の [総勘定元帳への転記] を選択します。

## 総勘定元帳への転記（R09801）の処理オプションの設定

このセクションでは、総勘定元帳への転記プログラムの処理オプションのうち、現金主義会計に固有のものについて説明します。

### 現金主義

- 数量元帳タイプ** 現金主義会計仕訳で使用する数量元帳タイプを指定します。元帳タイプマスターの設定プログラム (P0025) で設定された有効な元帳タイプを入力してください。ブランクにした場合、デフォルトの元帳タイプ “ZU” が使用されます。
- 現金主義会計バージョン** 実行する仕訳の作成プログラムのバージョンを指定します。ブランクにした場合、現金主義会計仕訳は作成されません。

## 例外レポートの検討

現金主義会計仕訳の作成時には、一般会計システム、買掛管理システム、売掛管理システムについて、3 つまでの例外レポートが作成可能です。現金主義会計仕訳が正しく作成された場合は、例外レポートの見出し以下に詳細情報は含まれません。エラーの例を以下に示します。

該当システム	説明
一般会計、買掛管理、売掛管理	現金主義会計仕訳の伝票タイプが未定義です。メッセージがレポートに表示されますが、現金主義会計仕訳は作成されます。
買掛管理のみ	以下のエラーの場合、現金主義会計仕訳は作成されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当初の伝票記録が見つかりません。</li> <li>• 伝票の勘定科目記録が見つかりません。</li> </ul>
売掛管理のみ	以下のエラーの場合、現金主義会計仕訳は作成されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当初の請求書記録が見つかりません。</li> <li>• 請求書の勘定科目記録が見つかりません。</li> </ul>

買掛管理や売掛管理のエラーが発生した場合、現金主義会計転記コードは更新されず、“書き込み記録はありません” というメッセージがレポートに表示されます。エラーを訂正しないと、以降の例外レポートにも引き続きエラーが表示されます。



ほとんどの場合、エラーが発生すると現金主義会計仕訳の収益勘定や経費勘定が作成されなくなりますが、銀行勘定の仕訳は作成されます。銀行勘定に仕訳が作成され、経費勘定や収益勘定には仕訳が作成されていない場合は、取引とバッチは貸借不一致になります。エラーを訂正して現金主義会計の仕訳を再度作成すると、経費勘定や収益勘定の次のバッチは、金額が同じで符号が反転した貸借不一致仕訳になります。2 つのバッチを組み合わせると貸借が一致しますが、この 2 つのバッチは個別に貸借不一致で転記する必要があります。

---

## 現金主義会計仕訳の検討

このセクションでは、未転記レポートの印刷による現金主義会計仕訳の検討方法について説明します。

### 未転記レポートのデータ選択の設定

現金主義会計のバッチのみをレポートに印刷するには、データ選択で元帳タイプを AZ に設定します。

### 未転記レポートの印刷

[現金主義会計] (G09314) の [未転記レポート] を選択します。

仕訳の作成プログラムの実行時に現金主義会計仕訳を自動的に転記していない場合には、このレポートを印刷して現金主義会計バッチの検討、改訂、承認を行ってから仕訳を転記できます。

---

## 現金主義会計仕訳の転記

現金主義会計仕訳を作成したら、F0902 テーブルに転記する必要があります。現金主義会計仕訳の転記には、以下のいずれかの方法を使用できます。

- 仕訳の作成プログラムの処理オプションを設定せずに、別のプロセスとして現金主義会計仕訳を転記します。

転記前に現金主義会計仕訳のバッチを検討する場合は、総勘定元帳への転記プログラムを実行し、最後のステップで現金主義会計バッチを転記する必要があります。現金主義会計仕訳バッチの転記は、通常の総勘定元帳バッチを転記する処理とまったく同じです。

- 仕訳の作成プログラムの処理オプションを設定して、自動的に現金主義会計仕訳を転記します。

現金主義会計仕訳の作成をメニューと転記プログラムのどちらから実行したかにかかわらず、仕訳の作成プログラムの“総勘定元帳への転記”処理オプションを設定する必要があります。この設定は、現金主義会計仕訳の作成後に総勘定元帳への転記プログラムを自動的に実行させるために必要です。また、転記プログラムのバージョンも処理オプションで指定します。

**注:** 作成された現金主義会計仕訳が貸借不一致（片側仕訳）の場合は、貸借不一致のまま転記する必要があります。

---



## 第 26 章

# 52 期間会計の使い方

52 期間会計を使用して、腐敗しやすい品目を週次の会計期間で追跡管理することができます。たとえば、食料品店では、一般的に 1 年を 52 期間として週次の財務報告書が作成されます。1 年に 52 の会計期間と、調整用の 2 期間を設定できます。

この章では、以下の処理を行う方法について説明します。

- 52 期間会計仕訳の転記
- 52 期間の年度締め
- 52 期間損益計算書の作成

---

## 52 期間会計仕訳の転記

このセクションでは、52 期間会計転記プログラムの概要と、以下の方法について説明します。

- 52 期間会計転記の処理オプションの設定
- 52 期間会計転記プログラムの実行

## 52 期間会計転記プログラムについて

52 期間会計転記プログラム (R098011) は、F0911 テーブルから取引を選択して、F0902B テーブルにレコードを作成します。総勘定元帳への転記プログラム (R09801) から、52 期間会計転記プログラムを実行できます。その際には、処理オプションの設定により、実行するバージョンを指定できます。

### マルチスレッド ジョブ待ち行列について

マルチスレッド ジョブ待ち行列の設定がされている場合、52 期間会計転記プログラムの複数のジョブを同時に実行できます。先に実行したジョブに続いて実行するジョブについては、先行と同じバージョンでも、異なるバージョンでもかまいません。複数のジョブを同時に実行することにより、大量のトランザクションを効率的に処理できます。

複数ジョブの実行時、52 期間会計転記プログラムは各バッチの F0011 テーブルの “52 期間処理済み” フィールド (52PP) をチェックして、バッチが複数回処理されないようにします。そのため、各ジョブで固有のデータ選択を行う必要はありません。

バッチの状況は、以下のいずれかになります。

- ブランク:52 期間会計転記プログラムによって、予約または処理されていません。このバッチはシステムによって選択され、状況フラグが “1” にセットされます。状況フラグが “1” になると、後続のジョブからは無視されます。
- 1: 52 期間会計転記プログラムによって、予約または処理されています。このバッチはスキップされ、次のバッチが処理されます。

## 52 期間会計転記 (R098011) の処理オプションの設定

処理オプション “バージョン” で、52 期間会計転記プログラムのバージョンを入力します。

### バージョン

実行するバージョンを指定します。バージョンを指定すると、転記プログラムの終了後にそのプログラムが実行されます。

**52 期間転記バージョン** F0902、F0902B テーブルの更新に使用する 52 期間会計転記プログラムのバージョンを指定します。ブランクにした場合、52 期間会計転記プログラムは実行されず、テーブルも更新されません。

## 52 期間会計転記プログラムの実行

[仕訳入力、レポート、照会] (G0911) の [総勘定元帳への転記] をクリックします。

52 期間会計転記プログラムの 1 つのバージョンを実行するには、総勘定元帳への転記プログラムを実行します。

---

## 52 期間の年度締め

このセクションでは、52 期間用年度締めの概要と以下の方法について説明します。

- 52 期間用年度締めのデータ選択の設定
- 52 期間用年度締めプログラムの実行

### 52 期間用年度締めプログラムについて

各会計年度末に年度締めプログラム (R098201) を実行した後、52 期間用年度締めプログラム (R09820B) を実行します。52 期間用年度締めプログラムは、F0902 テーブルの残高で F0902B テーブルを更新します。このプログラムによって、以下の金額が更新されます。

- 前年度計上額
- 前年度末累計残高
- 期首予算
- 予測差異
- 完了率
- 最終予測
- 申請済予算
- 承認済予算
- 週累計

### 事前設定

年度締めプログラムを実行して、F0902 テーブルを更新します。

参照: 第 38 章、「会計年度の締め処理」、477ページ

## 52 期間用年度締め (R09820B) のデータ選択の設定

会計年度を、締めを行う年度ではなく、次の年度に設定します。たとえば、現行会計年度が 05 (2005 年度) で、締めを行う会計年度が 04 (2004 年度) の場合、データ選択で会計年度を "05" に設定します。

52 期間用年度締めプログラムと 52 期間用再転記プログラム (R0902B) の選択基準が同じである場合、2 つのプログラムの実行結果はほとんど同じです。ただし、52 期間用再転記プログラムでは F0911 テーブルの 54 の金額カテゴリも更新される点だけが異なります。

## 52 期間用年度締めプログラムの実行

[52期間会計] (G09313) の [52期間用年度締め] をクリックします。

---

## 52 期間損益計算書の作成

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 52 期間損益計算書のデータ選択とデータ順序の設定
- 52 期間損益計算書の処理オプションの設定
- 52 期間損益計算書の作成

### 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- AAI 項目 "FSxx" が設定済みであることを確認します。これらの項目により、損益計算書で最適の中間計が計算されます。
- 52 期間財務報告日付が正しく設定されていることを確認します。

## 52 期間損益計算書のデータ選択とデータ順序の設定

データ選択で、レポートに記載する主科目を選択します。たとえば、損益勘定が主科目 5000 から始まる場合は、"主科目 >= 5000" を選択します。また、元帳タイプも指定する必要があります。元帳タイプを指定しない場合は全ての元帳タイプが結合され、その結果、期待されていた結果が得られない可能性があります。

52 期間損益計算書は、以下の順序で印刷されます。

- 会社
- ビジネスユニット レポート コード
- 勘定科目マスター レポート コード
- ビジネスユニット
- 主科目
- 補助科目

52 期間損益計算書のデータ選択とデータ順序は、12 ~ 14 期間会計の損益計算書の場合と同じです。

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書のデータ選択の設定」、376ページ

## 52 期間損益計算書 (R10252) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。会社固有の 52 期間報告日付を指定するには、プログラムのデータ順序を会社順またはビジネスユニット順に設定する必要があります。

<b>期間数</b>	レポートの基準となる期間数を入力します。空白にした場合、52 期間財務報告期間が使用されます。
<b>会計年度</b>	レポートの基準となる会計年度を入力します。空白にした場合、52 期間財務報告期間が使用されます。
<b>勘定詳細レベル</b>	詳細処理レベルのオプションがオンになっている場合は、勘定詳細レベルを入力します。

## 52 期間損益計算書の作成

[52期間会計] (G09313) の [52期間損益計算書] をクリックします。

52 期間損益計算書プログラム (R10252) を実行して損益計算書を印刷し、現行会計期間と年累計の金額を、前年度の同じ期間と比較します。

## 第 27 章

# 勘定科目の集計について

この章では、勘定科目集計の概要と方法について説明します。

---

## 勘定科目の集計

複数の残高の通貨が同じであり、全ての会社が同じ会計期間パターンを使用している場合、勘定科目の集計プログラムを使用してビジネスユニットの勘定残高をグループ化（集計）し、オンライン検討やレポート作成を行うことができます。

一般会計システムでは、以下の勘定科目集計方法が用意されています。

- オンライン集計
- バッチ集計
- 複数サイト集計

どの方法を選択するかは、ディスクの空き容量によって異なります。どの方法も、AAI 項目 GLG6（収益の開始勘定）と GLG12（損益計算書の終了勘定）を使用して、貸借対照表勘定と損益計算書勘定を区別します。累計残高を計算する場合は、前年度末累計残高に損益計算書勘定科目以外の勘定科目の年累計額を加算します。

## オンライン集計方法

オンライン集計を使用すると、特定の会社のビジネスユニット グループの予算金額と実績金額を比較したり、さまざまな予算元帳や数量元帳などを比較したりできます。

オンライン集計では、ビジネスユニットを集計して、以下の項目別に勘定残高を検討できます。

- カテゴリ コード（事業所、オフィス、地域など）
- 会社、カテゴリ コード、カテゴリ コード値  
たとえば、部署、製品タイプ、地域別に経費タイプを検討できます。
- 親/子ビジネスユニット内の組織レポート構造

ビジネスユニットをグループ化することにより、集計した試算表、貸借対照表、損益計算書を作成できます。

オンライン集計方法の利点

- 小数の会社やビジネスユニットを連結できます。
- 最新の集計情報がリアルタイムで表示されます。
- 将来の集計用に集計基準を保管できます。

- 元帳比較の計算方法を制御できます。たとえば、実績金額から予算金額を差し引いて予算差異を計算したり、予算金額を実績金額で割って予算実績比率を表示できます。使用できる計算オプションは 4 つあります。
- 元帳にアクセスして、ビジネスユニットの詳細情報を勘定科目レベルまで検討できます。
- 新規に作成されるレコード数が少ないため、バッチ方法より少ないディスク容量で実行できます。その代わりに、既存の勘定残高レコードが使用されます。
- 複数のビジネスユニット カテゴリ コードを基準に残高を集計できます。
- 組織レポート構造に作成した親子関係を使用できます。

#### オンライン集計方法の欠点

- 用意されているのは検討機能のみです。ただし、分析のために情報をスプレッドシートにエクスポートすることは可能です。
- ビジネスユニット数が増えると処理時間が長くなります。

## バッチ集計方法

バッチ集計を使用して、オンライン検討や財務報告用に残高を集計します。バッチ集計では、集計のみを目的に作成した架空会社を使用します。たとえば、架空会社を使用して自社の各地域、各部門の実績残高を集計できます。

#### バッチ集計方法の利点

- 多数の残高、会社、ビジネスユニットを連結できます。
- 結果を財務報告に使用できます。
- バッチ モードで夜間に集計処理を行うことができます。

この処理は、多数のビジネスユニットまたは勘定科目（あるいはその両方）を集計する場合に役立ちます。

#### バッチ集計方法の欠点

- 複数のプログラムがテーブルにレコードを追加して集計情報を含む新しいデータベースを作成するため、必要なディスク容量が多くなります。
- バッチ モードのため、リアルタイムのアクセスができません。
- 新しい勘定残高情報を使用して集計を更新するには、前の集計を削除してから再作成する必要があります。
- 1 集計あたり 1 つのカテゴリ コードに制限されます。

#### 例: バッチ集計

この例では、以下のビジネスユニットが West Region にグループ化されます。

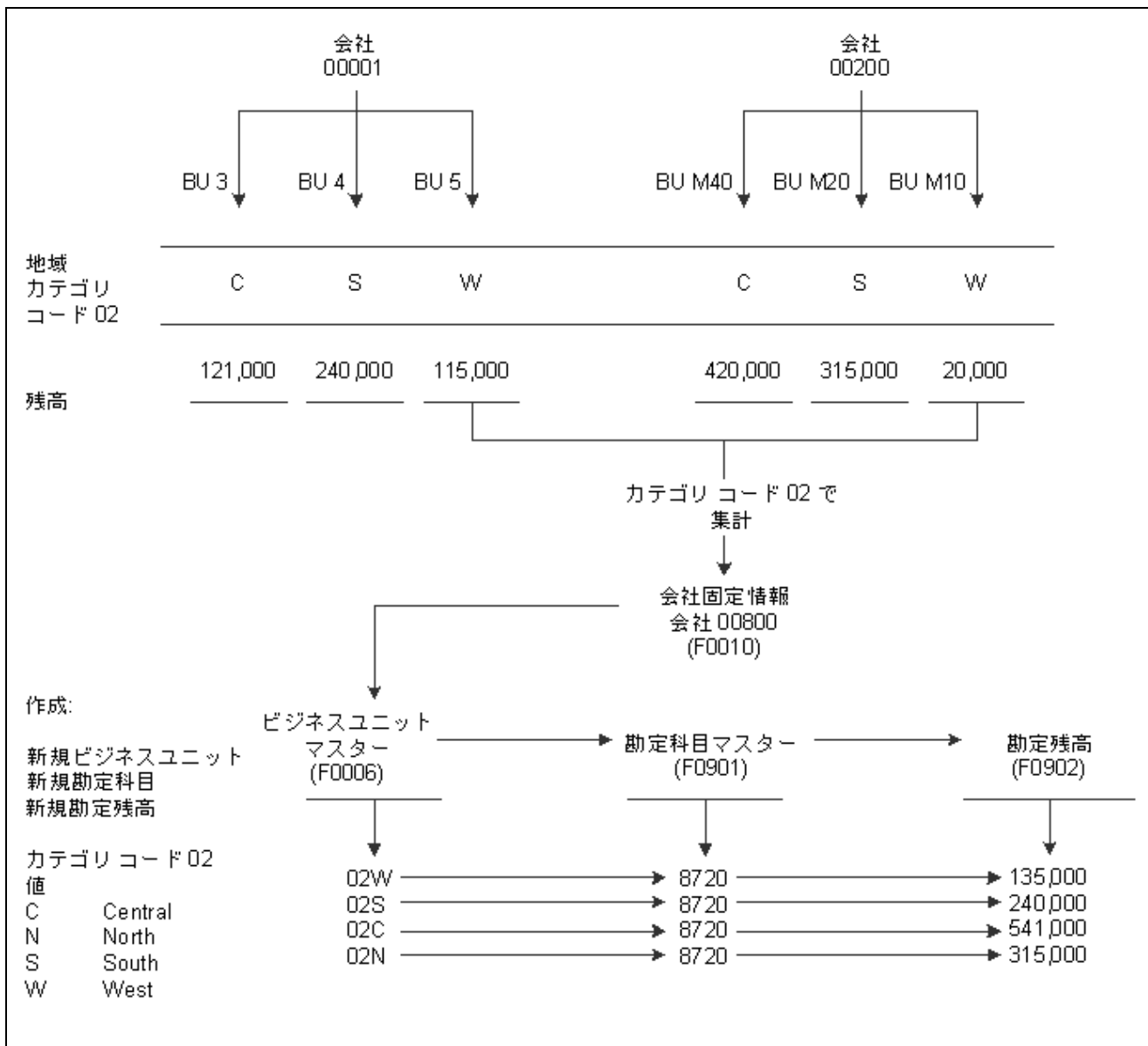
- ビジネスユニット 5 (会社 00001 に関連)
- ビジネスユニット M10 (会社 00200 に関連)

バッチ集計の際に、この 2 つのビジネスユニットは 02W という架空ビジネスユニットに集計されます。02W の意味は以下のとおりです。

- 02 = カテゴリ コード 02
- W = West Region のカテゴリ コード値



次の図は、ビジネスユニット カテゴリ コード 02 を使用して地域別にデータを集計するバッチ集計を示しています。



地域別バッチ集計

## 複数サイト集計方法

子会社や支店を持つ組織の多くが、複数のロケーションで EnterpriseOne システムを稼働しています。これらの組織のほとんどで、法定レポートや管理レポートを作成するため、本社レベルでの総勘定元帳情報の集計が行われます。多くの場合、子会社や支店の情報が集計された会社の勘定科目表で、勘定科目範囲が指定されます。子会社や支店ごとに、異なる勘定科目表が使用される場合もあります。

複数サイト集計を使用すると、複数のロケーションにある勘定残高を集計して、中央のロケーションに送信できます。中央では、作成された仕訳をバッチ仕訳処理を使用して総勘定元帳に転記します。EnterpriseOne を使用していないサイトの集計残高を処理することもできます。

EnterpriseOne の全ての標準プログラムから、中央サイトで集計された情報にアクセスすることができます。



## 第 28 章

# オンライン集計の処理

この章では、会計レポート構造の概要と、以下の方法について説明します。

- 階層型会計レポート構造の作成
- カテゴリコードを使用しない会計レポート構造の追加
- 会計レポート構造の確認と再編成
- ビジネスユニットの追加作成とレポート構造のコピー
- オンライン集計の作成
- オンライン集計の検討

**関連項目:**

第 27 章、「勘定科目の集計について」、「オンライン集計方法」、289ページ

---

## 会計レポート構造について

会計レポート構造とは、レポート作成の目的でビジネスユニットをグループ化する方法です。会計レポート構造により、オンライン集計やレポート機能の柔軟性が増し、集計から詳細までさまざまな損益計算書情報を表示できます。また、小計や積上げ合計など多様な合計情報の出力が容易になります。

### 階層型会計レポート構造

各ビジネスユニットに対しても会社全体に対しても、階層構造を作成できます。各構造には、親、子、孫関係の複数のレベルを設定できます。

レポートの目的に応じて、財務諸表や地域別または管轄別のレポートに定義した構造に基づいた親/子階層を設定できます。必要に応じて、親/子階層を簡単にも複雑にもできます。

会計レポート構造を作成するには、ビジネスユニットに親子関係を作成します。親として設定したビジネスユニットには、1 つの完全な勘定科目表を関連付ける必要があります。親ビジネスユニットを転記ビジネスユニットにする必要はありません。

会計レポート構造を使用すると、以下のことが行えます。

- 複数の親/子レベルを持つようにビジネスユニットを設定できます。  
ビジネスユニットは親および子のどちらにも設定でき、各ビジネスユニットに複数の子を持たせることができます。ただし、ビジネスユニット A を親、B を子に設定している場合、B を A の親に設定することはできません。
- 親/子構造はいつでも追加したり変更したりすることができます。  
たとえば、既存の親/子構造に別の子を新たに追加できます。

## カテゴリ コードを使用しない会計レポート構造

別の方法として、会計レポート構造を構成するビジネスユニットを直接選択することで、会計レポート構造を作成できます。この方式では、ビジネスユニットの親子関係の作成に、カテゴリ コードは使用されません。

---

## 事前設定

このセクションのタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 使用する会計レポート構造を決定します。
- ユーザー定義コード テーブル (00/TS) の構造コードを設定します。
- 各構造レベルに関連付けるビジネスユニットを決定します。
- 作成する各会計レポート構造に対し、架空の集計会社を作成し、カテゴリ コードに使用する階層を決定します。

---

## 階層型会計レポート構造の作成

このセクションでは、会計レポート構造の定義方法と作成方法の概要、および以下の方法について説明します。

- 会計レポート構造の定義
- 会計レポート構造の作成
- ビジネスユニット構造の作成の処理オプションの設定

## 会計レポート構造の定義方法と作成方法について

会計レポート構造を定義するには、組織構造の定義プログラム (P0050B) を使用してカテゴリ コードをビジネスユニットに割り当てます。割り当てたカテゴリ コードの値により、ビジネスユニットの階層内での位置が決まります。このプログラムではビジネスユニット構造作成テーブル (F0050B) が更新されます。

会計レポート構造を定義したら、組織構造の作成プログラム (R10450) を実行してレポート構造を作成します。

組織構造の作成プログラムは、テスト モードでも最終モードでも実行できます。テスト モードでは、最終モードで実行した場合に変更される箇所が表示されたレポートが印刷されます。テスト モードでは、自動的に作成されたビジネスユニットが、ビジネスユニット作成処理オプションの設定とは関係なく、カテゴリ コードを結合したものとしてレポートに表示されます。

最終モードでは、ビジネスユニット作成処理オプションの設定に応じて、自動採番を使用するか、またはカテゴリ コードを結合してビジネスユニットが自動的に作成されます。最終モードでは、組織構造マスターファイル テーブル (F0050) が更新されます。

## 階層型会計レポート構造の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[構造の処理]	W0050BB	[上級組織設定] (G094111)、[組織構造の定義]	会計レポート構造を検索します。
[構造の設定]	W0050BA	[構造の処理] で、[追加] をクリックします。	階層型会計レポート構造を定義します。

## 会計レポート構造の定義

[構造の設定] フォームにアクセスします。

**[構造タイプ]** 財務や管轄など、組織構造のタイプを識別するコードをユーザー定義コード テーブル 00/TS から選んで入力します。組織構造のタイプごとに、個別の階層を作成することができます。

**[順序]** 子ビジネスユニットが親ビジネスユニットの下に表示されるときに順序を入力します。

組織構造を設定する際、このフィールドをブランクにすると、順序番号が自動的に割り当てられます。

## 会計レポート構造の作成

[上級組織設定] (G094111) の [組織構造の作成] をクリックします。

## ビジネスユニット構造の作成 (R10450) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

- モード** 集計を処理するモードを指定します。
  - 0: テスト モード (レポートのみ)
  - 1: 最終モード (更新およびレポート)
  - 2: 最終モード (更新のみ)

### 構造名

- 構造名** ビジネスユニットの構造タイプ名を入力します。

### ビジネスユニット作成

- ビジネスユニット作成** ビジネスユニットを自動的に作成するかどうかを指定します。有効なコードは以下のとおりです。
 

ブランク: ビジネスユニットを自動的に作成しない。

1: 新しいビジネスユニットを決定するために、カテゴリ コードの値を結合してビジネスユニットを自動的に作成する。

- 2:新しいビジネスユニットを決定するために、自動採番を使用してビジネスユニットを自動的に作成する。
2. ビジネスユニット タイプ      ビジネスユニットを作成する際に使用するビジネスユニットのタイプを入力します。
3. 架空の集計会社      ビジネスユニットを作成する際に使用する架空の集計会社を入力します。

## カテゴリ コードを使用しない会計レポート構造の追加

このセクションでは、カテゴリ コードを使用しない会計レポート構造の概要とその追加方法について説明します。

### カテゴリ コードを使用しない会計レポート構造について

会計レポート構造を追加するには、構造タイプを選択し、次に、構造上に表示するビジネスユニットを選択します。構造に表示するビジネスユニットを選択すると、変更可能な表示順序が割り当てられます。この方式では、順序設定にカテゴリ コードは使用されません。そのため、組織構造の作成プログラムを実行して構造を作成する必要はありません。

組織構造の照会/改訂プログラムでは、F0050 テーブルが更新されます。

### カテゴリ コードを使用しない会計レポート構造の追加に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[親/子表示]	W0050C	[上級組織設定] (G094111)、[組織構造 の照会/改訂]	会計レポート構造を確認および再編成します。
[見出しなし詳細]	W0050B	[親/子表示] で、[追加] を クリックします。	ビジネスユニットを選択して、会計レポート構造を追加します。

### カテゴリ コードを使用しない会計レポート構造の追加

[見出しなし詳細] フォームにアクセスします。

- [表示順序]      子ビジネスユニットが親ビジネスユニットの下に表示されるときの順序を入力します。
- 組織構造を設定する際、このフィールドを空白にすると、順序番号が自動的に割り当てられます。

## 会計レポート構造の確認と再編成

このセクションでは、会計レポート構造の改訂の概要、および会計レポート構造の確認方法と再編成方法について説明します。

## 会計レポート構造の改訂について

組織構造の照会/改訂プログラムを使用して構造を確認する際には、各レベルで展開または圧縮表示できるツリー形式で組織構造が表示されます。フォルダ アイコンやドキュメント アイコンは、構造のレベルを示します。フォルダには、フォルダまたはドキュメントを入れることができます。構造の中で最も下位レベルにあるのはドキュメントです。

構造の一部を階層内の別の場所に移動して、組織構造を変更することができます。ドキュメントのアイコンを別の親の下にドラッグして、個別にビジネスユニットを移動することもできます。また、構造の上位レベルについても、親ビジネスユニットとその子を表すフォルダをドラッグして移動できます。

構造の一部を移動すると、F0050 テーブルが自動的に更新されます。

## 会計レポート構造の確認と再編成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[親/子表示]	W0050C	[上級組織設定] (G094111)、[組織構造 の照会/改訂]	会計レポート構造の確認と 再編成を行います。

## 会計レポート構造の確認と再編成

[親/子表示] フォームにアクセスします。

## ビジネスユニットの追加作成とレポート構造のコピー

組織構造を確認すると、ビジネスユニットを追加したり会計レポート構造をコピーする必要がある場合があります。組織構造の照会/改訂プログラム (P0050) を使用して、これらの作業を行い、F0050 テーブルを更新します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 組織構造の照会/改訂の処理オプションの設定
- 子ビジネスユニットの追加作成
- レポート構造のコピー

## ビジネスユニットの追加作成とレポート構造のコピーに使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[親/子表示]	W0050C	[上級組織設定] (G094111)、[組織構造 の照会/改訂]	会計レポート構造を確認お よび再編成します。
[見出しなし詳細]	W0050B	[親/子表示] フォームで、 子ビジネスユニットを追 加するビジネスユニット を選択します。	ビジネスユニットを追加 作成します。
[組織構造のコピー]	W0050F	[親/子表示] フォームで、コ ピーするビジネスユニット を選択して [コピー] をク リックします。	既存の会計レポート構造 全体または一部を新し い会計レポート構造に コピーします。

### 組織構造の照会/改訂 (P0050) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

#### 構造タイプ

1. 初期選択値      この処理オプションに値を入力すると、[見出しなし詳細] フォームの該当するフィールドにその値が事前ロードされます。

#### 管理者名

1. 管理者名を表示する      組織構造ツリーに管理者の名前を表示するかどうかを指定します。有効なコードは以下のとおりです。  
0: 管理者名を表示しない。  
1: 管理者名を表示する。





### 子ビジネスユニットの追加作成

[見出しなし詳細] フォームにアクセスします。






**組織構造の照会/改訂 - 見出しなし詳細**


OK(O) 検索(I) キャンセル(L) ツール(T)

構造タイプ  ☐ 親

親ビジネスユニット  Financial/Distribution Company

レコード 1 - 9 グリッドのカスタマイズ   

<input type="checkbox"/>		子 ビジネスユニット	記述	表示 順序
<input type="checkbox"/>		9	Corporate Administration	1.0
<input type="checkbox"/>		3	Central Branch	2.0
<input type="checkbox"/>		M30	Eastern Manufacturing Center	2.0
<input type="checkbox"/>		5100	Potomac Hotel	3.0
<input type="checkbox"/>		77	Canadian Company	6.0
<input type="checkbox"/>		4	Southern Branch	7.0
<input type="checkbox"/>		5	Western Branch	8.0
<input type="checkbox"/>		2	Other General & Administrative	9.0
<input type="checkbox"/>				

[見出しなし詳細] フォーム

子ビジネスユニットを追加すると、親と子のビジネスユニットが同じではないか自動的にチェックされ、さらに子ビジネスユニットが親になっていないか確認されます。

**[親]**

子を追加するビジネスユニットの親を確認するには、このチェック ボックスをオンにします。親ビジネスユニットが詳細グリッドに表示されます。[親] チェック ボックスを再度オフにすると、表示が元に戻って処理を続行できます。

**[子ビジネスユニット]**

子のビジネスユニットを入力します。

**[表示順序]**

子ビジネスユニットが親ビジネスユニットの下に表示されるときに順序を示す番号を入力します。

組織構造を設定する際、このフィールドをブランクにすると、順序番号が自動的に割り当てられます。

## 会計レポート構造のコピー

[組織構造のコピー] フォームにアクセスします。

**組織構造の照会/改訂 - 組織構造のコピー**

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)

コピー先構造タイプ  

コピーする構造タイプ

☒ 構造全体をコピー  
☐ 選択したツリーのみコピー

[組織構造のコピー] フォーム

コピーする会計レポート構造が、ユーザー定義コード テーブル 00/TS に設定されていて、F0050 テーブルの既存の構造ではないことを確認します。

**[コピー先構造タイプ]** ユーザー定義コード テーブル 00/TS に設定されている組織構造のタイプ（財務や管轄など）を識別するコードを指定します。組織構造のタイプごとに、個別の階層を作成することができます。

**[構造全体をコピー] または [選択したツリーのみコピー]** 会計レポート構造全体をコピーするか、または構造の一部のみをコピーするかを指定します。

[構造全体をコピー] を選択すると、[親/子表示] フォームで選択したレベルに関係なく、コピーする構造タイプの全てのレベルがコピー先構造タイプへコピーされます。

[選択したツリーのみコピー] を選択すると、コピーする構造タイプの選択された親ビジネスユニットとその子のみがコピー先構造タイプへコピーされます。

## オンライン集計の作成

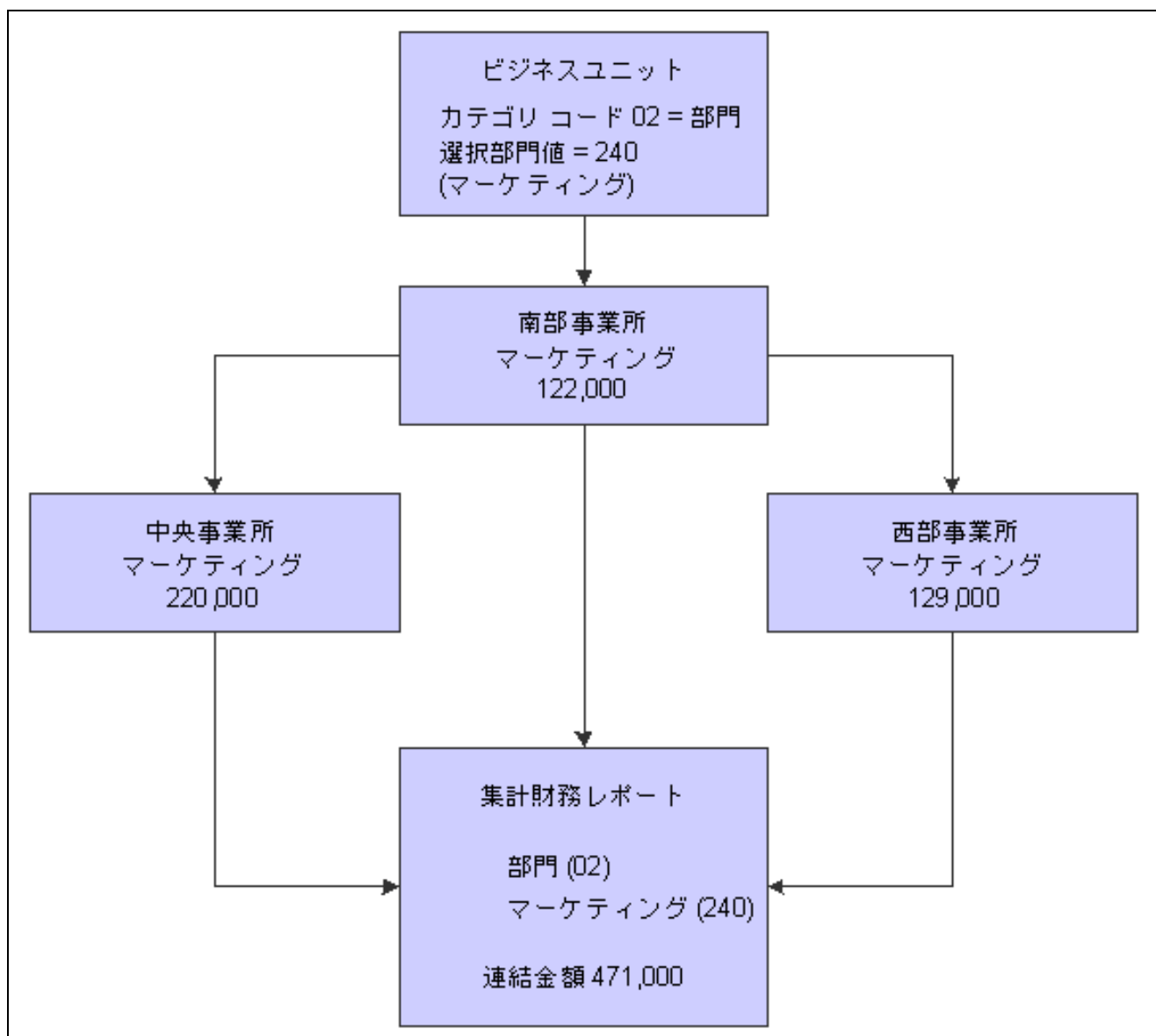
このセクションでは、オンライン集計の作成の概要と、ビジネスユニットの集計方法について説明します。

### オンライン集計の作成について

会計レポート構造を作成すると、オンライン集計を作成できます。オンライン集計は、会計レポート構造（親ビジネスユニット方式）を基に作成する方法以外に、カテゴリコード方式を使用しても作成できます。カテゴリコード方式では、会社、カテゴリコード、および値別にビジネスユニットを集計できます。ただし、この方法では構造に対して 4 つのカテゴリコードしか使用できません。

#### 例:カテゴリコード別のビジネスユニット集計

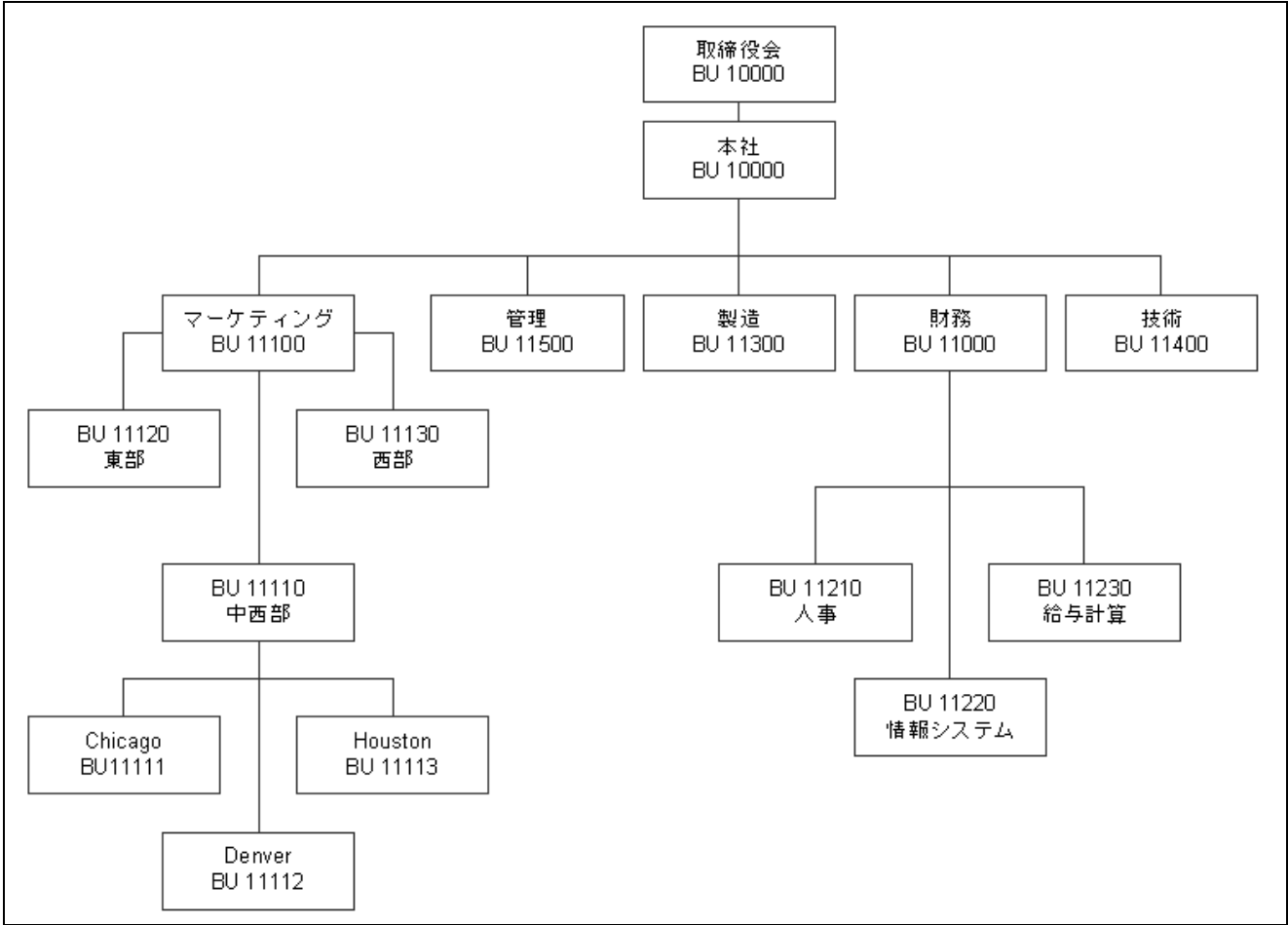
次の図に、カテゴリコード別のビジネスユニットの集計方法を示します。



カテゴリ コード別集計

### 例:会計レポート構造別のビジネスユニット集計

次の図に、会計レポート構造別のビジネスユニットの集計方法を示します。



レポート構造別の集計

オンライン集計の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[オンライン集計の処理]	W09218D	[集計](G1011)、[オンライン集計]	オンライン集計を検索および確認します。
[オンライン集計の検討]	W09218B	[オンライン集計の処理] フォームで、[追加]をクリックします。	オンライン集計を作成します。

ビジネスユニットの集計

[オンライン集計の検討] フォームにアクセスします。

オンライン集計 - オンライン集計の検討

選択(S) 検索(F) 閉じる(L) フォーム(F) ツール(T)

集計

AREA

記述

Area Rollup

会社

\*

☐ カテゴリ・コード方式

☒ 親ビジネスユニット方式

☐ マスク済みビジネスユニット方式

構造タイプ

FIN

会計横上げ

親ビジネスユニット

1

Financial/Distribution Company

レコード 1 - 16

グリッドのカスタマイズ

	レベル	ビジネス ユニット	記述	管理者	順序 No.
<input checked="" type="radio"/>			1 Financial/Distribution Company	Financial/Distribution Co	
<input type="radio"/>	1		9 Corporate Administration		1.0
<input type="radio"/>	1		3 Central Branch		2.0
<input type="radio"/>	.2		30 Eastern Distribution Center	Eastern Distribution Cer	3.0
<input type="radio"/>	.2		63 Coastal Branch		5.0
<input type="radio"/>	.2		61 Mountain Branch		12.0
<input type="radio"/>	.2		62 Valley Branch		13.0
<input type="radio"/>	1		M30 Eastern Manufacturing Center	Eastern Manufacturing F	2.0
<input type="radio"/>	1		5100 Potomac Hotel	Potomac Hotel	3.0
<input type="radio"/>	1		77 Canadian Company		6.0
<input type="radio"/>	1		4 Southern Branch		7.0
<input type="radio"/>	0		40 Southern Distribution Center	Southern Distribution Co	4.0

[オンライン集計の検討] フォーム

- [集計]

集計ビジネスユニットに対応する名前を入力します (最大 10 文字)。  
会計レポート構造別にビジネスユニットを集計するには、[構造タイプ] フィールドと [親ビジネスユニット] フィールドに値を入力します。
- [会社]、[カテゴリ・コード]

(任意) これらのフィールドに会社とカテゴリ コード (01 ~ 30) を入力して、会社別およびカテゴリ コード別にビジネスユニットを集計します。
- [構造タイプ]、[親ビジネスユニット]

ユーザー定義コード テーブル 00/TS に設定されている構造タイプと、階層の一番上のビジネスユニットを入力して、会計レポート構造別にビジネスユニットを集計します。
- [カテゴリ・コード方式]、[親ビジネスユニット方式] または [マスク済みビジネスユニット方式]

次のオプションの中から 1 つを選択します。  
カテゴリ コード方式:ビジネスユニットのカテゴリ コードに基づいて集計を行います。  
親ビジネスユニット方式:組織構造タイプと親ビジネスユニットに基づいて集計を行います。  
マスク済みビジネスユニット方式:文字位置の値が一致するビジネスユニットに基づいて集計を行います。

## メニュー選択

集計に関する指定が終わったら、[フォーム] メニューから以下のメニュー項目を選んで処理を行うことができます。

[保存]	設定した集計基準を保存します。この情報は、オンライン集計セットアップテーブル (F09218) に格納されます。
[ビジネスユニットのリフレッシュ]	勘定残高を処理します。この処理に要する時間は、集計対象のビジネスユニットおよび関連する勘定科目の数によって変わります。この情報は、F09218 テーブルに格納されます。
[オンライン財務諸表]	集計財務諸表を作成します。  参照: <a href="#">第 28 章、「オンライン集計の処理」、「オンライン集計の検討」、304ページ</a>

## オンライン集計の検討

集計を作成したら、集計基準を再作成しなくても集計情報をオンラインで検討できます。作成した集計を使用して、試算表、貸借対照表、または損益計算書の集計情報を検討できます。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- オンライン集計の処理オプションの設定
- オンライン集計財務諸表の検討

## オンライン集計の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[オンライン集計の処理]	W09218D	[集計] (G1011)、[オンライン集計]	オンライン集計を検索します。
[オンライン集計財務諸表]	W09218J	[オンライン集計の処理] フォームで、検討する集計を選択して、[ロー] メニューの [オンライン財務諸表] をクリックします。	オンライン集計財務諸表を検討します。

## オンライン集計 (P09218) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 元帳タイプ

#### 1. 元帳タイプ

次の処理オプションでデフォルトの元帳タイプを入力します。

[元帳タイプ - カラム 1] この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプ BA が使用されます。

[元帳タイプ - カラム 2] この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプ AA が使用されます。

- 2. 元帳タイプ (他のアプリケーションで使う元帳タイプ)**      他のアプリケーションにアクセスする際に使用する元帳タイプを指定します。  
 ブランクまたは 1: 元帳タイプ 1  
 2: 元帳タイプ 2

## 残高

- 1. ゼロ残高の非表示**      [ビジネスユニット詳細] チェック ボックスがオフの場合に、残高がゼロの勘定科目を表示するかどうかを指定します。有効なコードは以下のとおりです。  
 ブランクまたは N: 残高がゼロの勘定科目を表示する。  
 Y: 残高がゼロの勘定科目を表示しない。
- 2. 計算方法**      差異の計算に使用する計算方法を指定します。有効なコードは以下のとおりです。  
 A: 加算  
 ブランクまたは S: 減算  
 M: 乗算  
 D: 除算

## 追加元帳タイプ

- 1. 追加元帳タイプ**      元帳タイプ 1 と 2 の勘定残高の計算に使用する追加元帳タイプを指定します。ブランクにすると、追加元帳タイプは使用されません。

## 補助元帳

- 1. 補助元帳、補助元帳タイプ**      勘定残高の計算に使用する補助元帳および補助元帳タイプを入力します。ブランクにすると、ブランクの補助元帳と補助元帳タイプが使用されます。

## 詳細レベル

- 1. 勘定科目詳細レベル**      使用する勘定科目詳細レベル (3 ~ 9) を入力します。ブランクにすると、9 が使用されます。

## 通貨コード

- 1. 通貨コード**      勘定残高の計算に使用する通貨コードを入力します。この処理オプションをブランクにすると、全ての通貨が使用されます。  
 多通貨処理を適用する場合にのみ、この処理オプションを使用します。

## ビジネスユニット詳細

- 1. ビジネスユニット詳細**      ビジネスユニットの詳細を表示するかどうかを指定します。有効なコードは以下のとおりです。  
 ブランクまたは N: ビジネスユニットの詳細を表示しない。代わりに、ビジネスユニットをまとめて表示する。  
 Y: ビジネスユニットの詳細を表示する。

## 処理モード

- 1. 財務レポート処理モード**    集計財務レポートの処理モードを指定します。有効なコードは以下のとおりです。
- 空白または T:試算表  
B:貸借対照表  
I:損益計算書

**有効目付**

1. 指定日付許可フラグ、2. 終了期間デフォルト表示      これらは将来使用の処理オプションです。

作業原価

1. 主科目がblankのレコードを除外する
- 主科目がblankのレコードを集計の対象から除外するかどうかを指定します。有効なコードは以下のとおりです。
- blankまたは 0: 主科目がblankのレコードを集計から除外する。この値を指定すると、処理時間を短縮することができます。
- 1: 主科目がblankのレコードも集計に含める。

## オンライン集計財務諸表の検討

[オンライン集計財務諸表] フォームにアクセスします。

- [試算表]、[貸借対照表]、  
[損益計算書]
- 検討するオンライン計算書のタイプを選択して [検索] をクリックし、計算を実行します。
- 貸借対照表の場合は、AAI 項目 GLG5 に基づいて当期の利益/損失が計算され、その項目の記述がフォームに表示されます。
- 損益計算書の場合は、粗利益、営業収入などの中間計は、AAI 項目 FSxx で定義されます。
- [詳細レベル] または[ビジネスユニット詳細]
- 詳細金額または集計金額を検討したり、さまざまな詳細レベルで検討したりするには、[詳細レベル] フィールドに値を入力するか、[ビジネスユニット詳細] チェック ボックスをオンにします。[ビジネスユニット詳細] チェック ボックスをオンにすると、[ロー] メニューからその他の詳細フィールドにアクセスできます。



## 第 29 章

# バッチ集計の処理

この章では、バッチ集計の処理の概要と、以下の方法について説明します。

- 前のバッチ集計の削除
- バッチ集計の作成
- バッチ集計の検討

**関連項目:**

第 27 章、「勘定科目の集計について」、「バッチ集計方法」、290ページ

---

## バッチ集計の処理について

バッチ集計には、次の 2 つのプログラムがあります。

- 集計データの再作成プログラム (R10862)

F0006、F0901、および F0902 テーブルにレコードを作成します。これらのテーブルの勘定残高をオンラインで検討したり、レポートに印刷することができます。

- 前の集計の削除プログラム (R10861)

F0901 と F0902 テーブルから勘定残高を消去して、次の集計を行う際に前の集計の金額が残高に含まれないようにします。また、このプログラムを使用すると、仕訳が連結勘定に対して作成された場合に、F0911 テーブルから前の集計レコードが自動的に削除されます。

次のいずれかのカテゴリ コードを使用して勘定残高が集計されます。

- 組織構造別の検討には、F0006 テーブルのビジネスユニット カテゴリ コード (RP01 ~ RP30) を使用します。
- 代替勘定科目表別の検討には、F0901 テーブルの勘定科目マスター カテゴリ コード (R001 ~ R023) を使用します。

---

## 前のバッチ集計の削除

このセクションでは、前の集計の削除プログラムの概要と以下の方法について説明します。

- 前の集計の削除
- 前の集計の削除の処理オプションの設定

## 前の集計の削除プログラムについて

新しい集計を行う前に集計データベースの情報を削除しないと、残高が存在することを示すエラーメッセージが表示されるので、事前に前の集計の削除プログラム (R10861) を実行する必要があります。

前の集計の削除プログラムにより、以下のテーブルから架空会社の前の集計レコードが削除されます。

- F0901
- F0902
- F0911 (仕訳が連結勘定に対して作成された場合)

架空の会社とビジネスユニットは、集計を目的に設計されています。このため、次の項目は前の集計の削除プログラムでは削除されません。

- F0006 テーブルの架空ビジネスユニット
- F0010 テーブルの架空会社

---

**重要:** 削除するのは架空集計会社のみです。実際の会社を削除しないように注意してください。

---

## 前の集計の削除

[集計] (G1011) の [前の集計の削除] をクリックします。

このプログラムではデータ選択を使用しません。架空会社の前の集計レコードが全て削除されます。

## 前の集計の削除 (R10861) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト PO

#### 会社番号

レコードを削除する架空会社の会社番号を入力します。架空会社番号の先頭にはゼロを入力してください。たとえば、会社 1 の場合は「00001」と入力します。

これにより、F0901、F0902、および F0911 テーブルからその架空会社の前の集計レコードが全て削除されます。

#### 連結略式 ID

連結勘定科目を再作成する際に使用する次の番号を入力します。通常の勘定科目コードにならないように、大きい数字を入力してください。この処理オプションをブランクにすると、自動的に 90000000 が使用されます。

---

## バッチ集計の作成

このセクションでは、集計データの再作成プログラム、架空ビジネスユニットの構造、および同プログラムで作成されるレコードの概要と、以下の方法について説明します。

- 集計データの再作成プログラムの実行
- 集計データの再作成のデータ選択およびデータ順序の設定
- 集計データの再作成 (R10862) の処理オプションの設定

## 集計データの再作成プログラムについて

現在の残高で新しい集計を作成するには、集計データの再作成プログラム (R10862) を実行する必要があります。このプログラムを使って、このプログラムの処理オプションで指定した架空会社の架空のビジネスユニット、勘定科目、および勘定残高の追加レコードを F0902 テーブルに作成します。この架空会社はバッチ集計専用で使用されます。会計年度に関係なく、勘定科目の全ての残高がコピーされ、架空会社を集計されます。架空のビジネスユニットおよび勘定科目に関し、F0006 テーブルおよび F0901 テーブルのモデル/集計フィールドの値が C に更新され、集計の結果として架空のビジネスユニットおよび勘定科目が作成されたことが示されます。

**注:** 集計対象の勘定科目に残高がない場合は、集計データの再作成プログラムによる架空勘定科目の作成は行われません。

バッチ集計はカテゴリコードに基づいて行われます。使用できるのは、勘定科目カテゴリコードかビジネスユニットカテゴリコードのいずれかです。集計に使用する各カテゴリコードには、個別のバージョンを設定する必要があります。カテゴリコードを 1 つ使用して集計を再作成した後に、別のカテゴリコードを選択してプログラムを再度実行することができます。このプロセスでは、架空会社の追加レコードが作成されます。

複数の集計を同時に実行することもできます。その場合は、各集計に個別の架空会社を設定します。

## 架空ビジネスユニットの構造について

ビジネスユニット番号は最大 12 文字です。架空ビジネスユニット番号の構造は AABBB で、AABBB の意味は次のとおりです。

- AA は、データ選択で指定した 02 などのカテゴリコード番号を示します。
- BBB は、東部地域の 260 や西部地域の 270 など、選択したカテゴリコードのカテゴリコード値を示します。

### 例: 架空ビジネスユニット

ビジネスユニットカテゴリコード 2 (RP02) の集計を実行する際にカテゴリコード 2 の値が 210、220、230 である場合は、次の 3 つの架空ビジネスユニットが作成されます。

- 02210
- 02220
- 02230

## 集計データの再作成プログラムで作成されるレコードについて

集計データの再作成では、ユーザーによる設定に基づいてレコードが作成されます。このレコードには、以下の情報が含まれます。

- 前年度計上額 (APYN)、前年度末累計残高 (APYC)、および月次転記情報
- 集計残高を含む全ての勘定科目
- 資産などのレポート用の見出し勘定と非転記タイトル勘定

**重要:** 集計には架空会社を選択する必要があります。集計を再作成すると、会社全体について F0006、F0901、および F0902 テーブルにレコードが追加されます。集計に実際の会社を選択すると、その会社に対して集計レコードが作成されます。その場合、有効なレコードと、集計プログラムによって作成されたレコードを区別することは非常に困難です。

集計の作成後に仕訳入力プログラム (P0911) を使用して、架空勘定科目に直接、調整仕訳を作成することができます。また、会社間決済を行う場合は、除外仕訳を作成する必要があります。前の集計を削除すると、集計残高と共に調整仕訳も削除されます。

## 事前設定

このセクションのタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- プログラムにセキュリティを設定し、集計データの再作成プログラムへのアクセスを制限します。
- 実行する各集計用に個別の架空会社を設定します。
- 集計に使用するカテゴリ コードを確認します。
- 前の集計を削除します。
- コンピュータにこの処理の実行に十分なディスク スペースがあることを確認します。

## バッチ集計の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試算表/元帳比較]	W09210AA	[集計] (G1011)、[集計の検討]	バッチ集計を検討します。

## 集計データの再作成プログラムの実行

[集計] (G1011) の [集計データの再作成] をクリックします。

## 集計データの再作成のデータ選択およびデータ順序の設定

各集計に対して使用できるカテゴリ コードは 1 つだけです。カテゴリ コードのデータ選択がブランクにならないように設定します。

会社のデータ選択を使用して、その他の架空会社を集計から除外します。データ選択を設定しないと、前の集計情報も実行する集計に含められます。

使用するカテゴリ コードは、データ順序の最初の行に設定する必要があります。集計データの再作成のデータ順序は次のとおりに設定してください。

1. 選択カテゴリ コード
2. 主科目
3. 補助科目

## 集計データの再作成 (R10862) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

## デフォルト PO

- |            |  |
|------------|--|
| 1. 架空の会社   | 連結する架空会社の会社番号を入力します。   |
| 2. レポートコード | データ選択で使用するレポート カテゴリ コードを入力します。ビジネスユニットには RP で始まるコードを、勘定科目マスター カテゴリコードには RO で始まるコードを使用してください。たとえば、地域が 02 のカテゴリコードの場合は、RP02 となります。 |

## パフォーマンス

- |                  |  |
|------------------|--|
| 1. 会計年度、2. 元帳タイプ | 連結する会計年度を入力します。値を入力することにより、F0902 テーブルの処理対象のレコード数が減ります。<br><br>連結する元帳タイプを入力します。               |
| 3. 非転記勘定の処理      | 非転記勘定の勘定残高を読み込むには「1」を入力します。この処理オプションをblankにすると、集計データの再作成時に残高のない勘定残高は読み込まれないため、パフォーマンスが向上します。 |

# バッチ集計の検討

このセクションでは、バッチ集計の検討の概要と、以下の方法について説明します。

- 集計の検討の処理オプションの設定
- バッチ集計の検討

## バッチ集計の検討について

バッチ集計の作成後に、集計の検討プログラム (P09210A) を使ってバッチ集計を検討することができます。勘定残高の検討はビジネスユニット別または勘定科目コード別に行えます。また、架空会社の 2 つの元帳タイプの金額を比較できます。たとえば、予算と実績の比率について実績金額 (AA) を予算金額 (BA) と比較することができます。

## 集計の検討 (P09210A) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 1. 元帳タイプ 1、2. 元帳タイプ 2   | 2 つのデフォルト元帳タイプを指定します。たとえば、元帳タイプ AA と BA、あるいは AA と CA などのように入力します。<br><br>[元帳タイプ 1] 処理オプションをblankにすると、元帳タイプ BA が使用されます。[元帳タイプ 2] をblankにすると、元帳タイプ AA が使用されます。 |
| 3. 他のアプリケーションで使用する元帳タイプ | 他のアプリケーションを呼び出す場合、呼び出したアプリケーションで使用する元帳タイプを指定します。有効なコードは以下のとおりです。<br><br>blankまたは 1: 元帳タイプ 1<br>2: 元帳タイプ 2  |

## 表示

1. 残高がゼロの勘定科目の非表示
 

残高がゼロの転記対象勘定科目を表示するかどうかを指定します。有効なコードは以下のとおりです。

ブランクまたは N:残高がゼロの転記対象勘定科目を表示する。

Y:残高がゼロの転記対象勘定科目を表示しない。

この処理オプションは転記対象勘定科目にのみ適用されます。転記されない見出し勘定科目は、この処理オプションの設定にかかわらず [試算表/元帳比較] フォーム (P09210A) に表示されます。
2. 計算方法
 

差異の計算に適用する計算方法を指定します。有効なコードは以下のとおりです。

ブランクまたは S:減算

A:加算

M:乗算

D:除算
3. 追加元帳タイプ 1
 

元帳タイプ 1 の勘定残高の計算に使用する追加元帳タイプを指定します。たとえば、元帳タイプ AA や C を使用できます。この処理オプションをブランクにすると、追加元帳タイプは使用されません。
4. 追加元帳タイプ 2
 

元帳タイプ 2 の勘定残高の計算に使用する追加元帳タイプを指定します。たとえば、元帳タイプ AA や CA を使用できます。この処理オプションをブランクにすると、追加元帳タイプは使用されません。
5. 補助元帳、6. 補助元帳タイプ
 

勘定残高の計算に使用する補助元帳および補助元帳タイプを指定します。

補助元帳を持つ全てのトランザクションを選択するには、「\*」を入力します。[補助元帳] 処理オプションをブランクにすると、補助元帳なしのトランザクションが選択されます。

[補助元帳タイプ] 処理オプションには A や C などを入力します。この処理オプションをブランクにすると、ブランクの補助元帳タイプが使用されます。
7. 勘定科目の詳細レベル
 

勘定科目に適用する詳細レベル (3 ~ 9) を指定します。この処理オプションをブランクにすると、9 が使用されます。

## 通貨

1. 通貨コード
 

勘定残高の計算に使用する通貨コードを指定します。ブランクにした場合、全ての通貨が使用されます。

## 選択

1. 有効日付残高
 

期間終了日付を使用するか、または有効日付の残高を計算するかを指定します。有効なコードは以下のとおりです。

ブランクまたは N:期間終了日付を使用する。

Y:指定した有効日付の残高を計算する。
2. デフォルトで表示する項目
 

終了日付と終了期間のどちらを表示するか指定します。有効なコードは以下のとおりです。

ブランクまたは N:終了日付を表示する。  
Y:終了期間を表示する。

バッチ集計の検討

[試算表/元帳比較] フォームにアクセスします。

集計の検討 - 試算表/元帳比較

選択(S) 検索(F) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

一致する勘定科目 \*

1.1001

☒ 一致する勘定科目

元帳タイプ1

BA

USD

予算金額

詳細レベル

9

☐ 期間/日付

元帳タイプ2

AA

USD

実績金額

元帳タイプ1終了日付

2005/06/30

タイプ/補助元帳

\*

元帳タイプ2終了日付

2005/06/30

通貨コード

\*

レコード 1 - 3

グリッドのカスタマイズ

	勘定科目名	予算金額 当月計上額	実績金額 当月計上額	当月計上額 差異	当月計上額 差異%	予
<input type="checkbox"/>	Financial/Distribution Company					
<input type="checkbox"/>	Current Assets					
<input type="checkbox"/>	Financial/Distribution Company					

[試算表/元帳比較] フォーム

集計データの再作成では、残高のみが作成され取引は作成されません。このため、[試算表/元帳比較] フォームには、架空ビジネスユニットに直接入力された仕訳のみが表示されます。





## 第 30 章

# 複数サイトの集計処理

この章では、ターゲット サイトとソース サイトのタスク、複数集計階層、複数サイトの集計構造およびテーブルの概要と、以下の方法について説明します。

- 制御ファイル レポートの実行
- 組織構造の作成
- 勘定科目構造の作成
- 勘定科目構造の改訂と印刷
- 複数サイトの集計規則の定義
- 集計残高の作成
- 複数サイトの集計レポートの実行
- 集計状況の検討
- ターゲット会社への集計残高のバッチ送信
- ターゲット会社への集計残高のオンライン送信
- EnterpriseOne 以外のソース サイトから受信した集計残高の処理
- 受信集計の改訂
- 受信集計の除去
- 複数サイトのバッチ仕訳の生成
- 複数サイトのバッチ仕訳の処理と除去

### 関連項目:

第 27 章、「勘定科目の集計について」、「複数サイト集計方法」、291ページ

---

## ソース サイトとターゲット サイトのタスクについて

複数サイトの集計には、次の 2 種類のサイトが関連します。

- ソース  
集計勘定残高の作成元となる全てのサイト
- ターゲット  
集計勘定残高を受け取る中核サイト（本社）

## ソース サイトのタスク

各ソース サイトでの複数サイトの集計手順は次のとおりです。

1. 組織構造の定義
2. 勘定科目構造の定義
3. 複数サイトの集計規則の定義
4. 集計残高の作成
5. 整合性レポートの実行
6. ターゲット会社への集計残高の送信

集計規則は各ソース サイトで独自に定義されますが、全ての集計がターゲット サイトの要件を満たしている必要があります。

---

注: ターゲット サイトとソース サイトの通貨が異なる場合は、ターゲット サイト側が多通貨処理を使用する必要があります。

---

## ターゲット サイトのタスク

ターゲット サイトでの複数サイトの集計手順は次のとおりです。

1. 必要に応じて、外部のサイトから受け取った集計残高の処理
2. 整合性レポートの実行
3. バッチ仕訳の作成
4. バッチ仕訳の処理

---

## 複数の集計階層について

集計は、複数の階層で行うことができます。複数のソース サイトで勘定残高を集計して単一のターゲット サイトに送信すると、そのターゲット サイトおよび他のターゲット サイトで残高を集計できます。これらのサイトは、集計残高を新たなターゲット サイトに送信するソース サイトになります。

---

## 複数サイトの集計構造およびテーブルについて

勘定残高を集計するには、事前に集計の構造を定義する必要があります。複数サイトを連結する場合は、勘定科目構造とは別に組織構造も定義する必要があります。組織構造と勘定科目構造の組み合わせが、複数サイトの集計構造となります。

複数サイトの集計では、標準フォーマットの勘定科目コード（ビジネスユニット.主科目.補助科目）が使用されます。

ターゲット会社に送信する集計残高を含む次のテーブルが、勘定科目構造と組織構造を使って作成されます。

- 複数サイト集計の転送ファイル見出し (F1001)
- 複数サイト集計の転送ファイル (F1002)

- 複数サイト集計の転送ファイル – カテゴリ コード (F1003)

---

## 制御ファイル レポートの実行

このセクションでは、制御ファイル レポートの概要と、以下の方法について説明します。

- UDC 制御ファイルの作成レポートの実行
- UDC 制御ファイルの作成 (R10005) の処理オプションの設定
- 主科目/補助科目制御ファイルの作成レポートの実行
- 主科目/補助科目制御ファイルの作成の処理オプションの設定

### 制御ファイル レポートについて

通常、ターゲット会社では、勘定科目表の中でソースからの情報を集計する必要がある勘定科目範囲を指定します。ターゲットは、組織構造を作成するために各ソースが使用できるビジネスユニット カテゴリ コードを指定します。ソースが勘定科目カテゴリ コードを順序設定して勘定科目構造を定義する場合は、ターゲットでもこれらの勘定科目カテゴリ コードを指定します。ソースが主科目と補助科目を使用して勘定科目構造を定義する場合は、ターゲットではソースが使用できる有効な主科目と補助科目を指定します。

ターゲット会社では、2 種類の制御ファイル レポートを実行します。組織構造と勘定科目構造を作成する際に、各ソースが使用できる値は、次のレポートに表示される値のみです。

- UDC 制御ファイルの作成レポート (R10005)

このレポートには、複数サイトの情報を集計するときに、ソースが使用できるユーザー定義コードが示されます。組織構造と勘定科目構造を定義する際にソースが使用できるカテゴリ コードは、このレポートのカテゴリ コードのみです。通常は、ターゲット会社が有効なユーザー定義コードとその値を定義します。

- 主科目/補助科目制御ファイルの作成レポート (R10909)

このレポートには、複数サイト情報を集計するときにソースが使用できる主科目と補助科目が示されます。通常は、ターゲット会社がこれらの主科目と補助科目を定義します。

### 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- ソースとターゲットの両方で、会社名および番号プログラム (P0010) を使い、集計勘定残高用に架空会社を設定してください。
- ユーザー定義コード テーブル 00/TS に構造コードを設定します。
- 自身のビジネスユニット カテゴリ コードが割り当てられていることを確認します。
- 使用する組織構造を決定します。
- 作成するそれぞれの組織構造に対して、ビジネスユニット カテゴリ コードの順序を決定します。
- ビジネスユニットまたは勘定科目が自動的に作成されるようにする場合は、ターゲットでモデル勘定科目表が設定されていることを確認します。

### UDC 制御ファイルの作成レポートの実行

[整合性レポート] (G1022) の [UDC 制御ファイルの作成] をクリックします。

## UDC 制御ファイルの作成 (R10005) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### バージョン

1. UDC 制御ファイルバージョン 作成する UDC 制御ファイル バージョンの固有の名前を入力します。この処理オプションを空白にすると、レポート名は空白になります。

## 主科目/補助科目制御ファイルの作成レポートの実行

[整合性レポート] (G1022) の [主科目/補助科目制御ファイルの作成] をクリックします。

## 主科目/補助科目制御ファイルの作成 (R10909) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### データ選択

1. バージョン 作成する主科目/補助科目制御ファイル バージョンの固有の名前を入力します。この処理オプションを空白にすると、レポート名は空白になります。
2. ファイル データ選択 固有の主科目と補助科目を選択するには「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、固有の主科目のみが選択されます。

## 組織構造の作成

このセクションでは、組織構造の概要およびその定義方法について説明します。

### 組織構造について

組織構造とは、レポート作成や分析を目的にビジネスユニットをグループ化する方法です。複数サイトの集計用に 1 つまたは複数の組織構造を作成できます。必要に応じて、構造を単純にも複雑にもできます。また、単一サイトでの財務諸表や地域別、管轄別のレポート作成など、他の用途のために組織構造を作成することもできます。

### 組織構造の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[構造の処理]	W0050AB	[複数サイト集計の設定] (G1042)、[ビジネスユニット構造の定義]	組織のレポート構造を検索し、検討します。
[構造の設定]	W0050AA	[構造の処理] フォームで [追加] をクリックします。	組織のレポート構造を定義します。

### 組織構造の定義

[構造の設定] フォームにアクセスします。

- 【順序】**                      子ビジネスユニットが親ビジネスユニットの下に表示されるときの順序を入力します。
- 組織構造を設定する際、このフィールドをブランクにすると、順序番号が自動的に割り当てられます。

---

## 勘定科目構造の作成

このセクションでは、勘定科目構造の構成要素の概要と、以下の方法について説明します。

- 勘定科目構造の定義
- 勘定科目構造の作成
- 勘定科目構造の作成用のデータ順序設定
- 勘定科目構造の作成の処理オプションの設定

### 勘定科目構造の構成要素について

勘定科目構造を定義し、これに基づいて勘定科目集計表を作成する必要があります。たとえば、ターゲット会社へ銀行勘定残高を送信する必要がある場合、銀行および現金の積上と呼ばれる勘定科目構造を定義し、その後で勘定科目構造の作成プログラムを実行して全ての銀行勘定を含めることができます。

初期の勘定科目構造は、F0901 テーブルに基づいて作成されます。この構造は、検討および改訂することができます。

#### 勘定科目構造の定義

勘定科目構造は、23 種類の勘定科目カテゴリコードの中の最大 7 つのコードを順序設定して定義するか、または主科目と補助科目の順序で定義することができます。カテゴリコード別に順序設定する場合は、カテゴリコードの値によって階層内のどこに勘定科目が表示されるかが決定されます。順序設定する最後の 2 項目には、主科目と補助科目を設定する必要があります。

勘定科目構造の定義プログラム (P10430A) により、勘定科目構造定義テーブル (F10430A) が更新されます。

#### 勘定科目構造の作成

勘定残高を集計するには、事前に集計処理で使用される勘定科目構造を作成する必要があります。

勘定科目構造の作成プログラム (R10430) では、F0901 テーブルの情報が読み込まれ、勘定科目構造で定義した順序に基づいて勘定科目構造が作成されます。主科目と補助科目の各組み合わせに対し、構造内にレコードが 1 つずつ作成されます。

このプログラムでは、既存の勘定科目構造にレコードを追加したり、新しい勘定科目構造を作成することができます。このプログラムの処理オプションで既存の構造名を使用して新しい勘定科目を作成するように設定した場合、既存の構造は削除されます。

カテゴリコードにターゲットの主科目と補助科目の情報を入力した場合は、対応する処理オプションでコードを指定することができます。この値を使用してターゲットの主科目および補助科目の情報が作成されます。

カテゴリコードに詳細レベル情報を入力した場合は、対応する処理オプションでコードを指定できます。このコードは勘定科目構造の詳細レベルに使用されます。

勘定科目構造の作成プログラムは、テストモードと最終モードのどちらでも実行できます。勘定科目構造のレポートは、どちらのモードで実行しても作成されます。テストモードでは、最終モードで実行した場合に変更される箇所を表示したレポートが印刷されます。最終モードでは、複数サイト集計 - 勘定科目構造テーブル (F10430) が更新されます。

## 勘定科目構造の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[勘定科目構造の処理]	W10430AA	[複数サイト集計の設定] (G1042)、[勘定科目構造の定義]	勘定科目構造を検索し、検討します。
[勘定科目構造の設定]	W10430AB	[勘定科目構造の処理] フォームで[追加]をクリックします。	勘定科目構造を定義します。

## 勘定科目構造の定義

[勘定項目構造の設定] フォームにアクセスします。

勘定科目構造の定義 - 勘定科目構造の設定

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)






勘定科目構造名

CS

銀行および現金の積上

☒ 主科目/補助科目順のみ

カテゴリ・コード 1-7

カテゴリ・コード 8-15

カテゴリ・コード 16-23

カラム選択

順序

代替主科目

将来

代替補助科目

将来

カテゴリ・コード 1

カテゴリ・コード 2

カテゴリ・コード 3

カテゴリ・コード 4

カテゴリ・コード 5

カテゴリ・コード 6

カテゴリ・コード 7

[勘定科目構造の設定] フォーム

### [勘定科目構造名]

財務や管轄など、勘定科目構造のタイプを識別するコードをユーザー定義コード テーブル 00/TS から選んで入力します。構造タイプごとに、異なる階層を作成できます。

**[主科目/補助科目順のみ]** このチェック ボックスをオンにすると、勘定科目は主科目、補助科目の順で順序設定されます。この場合、カテゴリ コードで設定した順序は無視されます。

## 勘定科目構造の作成

[複数サイト集計の設定] (G1042) の [勘定科目構造の作成] をクリックします。

## 勘定科目構造の作成用のデータ順序設定

このプログラムのデータ順序は変更しないでください。

## 勘定科目構造の作成 (R10430) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定することができます。

### 処理

1. モード  
計算の処理と更新を実行するモードを入力します。有効値は以下のとおりです。  
0: テスト モードでレポート出力 (デフォルト)  
1: 最終モードでレポート出力  
2: 最終モード (レポートなし)
2. 作成タイプ  
既存の構造にレコードを追加するには「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、新規の構造が作成されます。

### 構造名

1. 構造名  
ユーザー定義コード テーブル 00/TS から、該当する構造名を表すコードを入力します。

### 主科目

1. 主科目  
ターゲット主科目のロードに使用するフィールド (フィールド 1、2、3) を入力します。複数のフィールドを使用すると、入力した全ての値が連結され、ターゲット主科目が作成されます。この処理オプションをブランクにすると、ターゲット主科目もブランクのままになります。  
有効なフィールドは OBJA (代替主科目) および R001 ~ R023 (カテゴリコード 1 ~ 23) です。

### 補助科目

1. 補助科目  
ターゲット補助科目のロードに使用するフィールド (フィールド 1、2、3) を入力します。複数のフィールドを使用すると、入力した全ての値が連結され、ターゲット補助科目が作成されます。この処理オプションをブランクにすると、補助科目もブランクになります。  
有効なフィールドは SUBA (代替補助科目) および R001 ~ R023 (カテゴリコード 1 ~ 23) です。

## LOD

### 詳細レベル

勘定科目の詳細レベルを含むフィールドを入力します。この処理オプションをブランクにすると、詳細レベル LDA が使用されます。

有効なフィールドは R001 ~ R023 (カテゴリ コード 1 ~ 23) です。

## 勘定科目構造の改訂と印刷

このセクションでは、勘定科目構造の改訂の概要と、以下の方法について説明します。

- 勘定科目構造の改訂
- 勘定科目構造レポートの印刷

### 勘定科目構造の改訂について

勘定科目構造は、作成および検討の後に改訂することができます。勘定科目構造の改訂には、構造の構成要素を階層内の別のサイトに移動したり、勘定科目構造の詳細情報を改訂したりする作業が含まれます。

構造の構成要素を階層内の別のサイトに移動する際は、個々の勘定科目または構造の上位レベルを移動することができます。構造の一部を移動すると、F10430 テーブルが自動的に更新されます。

ターゲットの勘定科目の主科目または補助科目がソースの主科目または補助科目と異なる場合は、残高を集計する前に勘定科目構造の明細情報の改訂が必要な場合があります。

構造の構成要素を再編成し、勘定科目構造の詳細情報を改訂するには、勘定科目構造の照会/改訂プログラム (P10440) を使用します。

勘定科目構造を作成または改訂した後に、構造の全階層が表示された勘定科目構造レポート (R10445) を印刷することができます。

### 勘定科目構造の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[勘定科目構造の改訂]	W10440B	[複数サイト集計の設定] (G1042)、[勘定科目構造の照会/改訂]	勘定科目構造を検索し、検討します。
[勘定科目構造の改訂 (詳細)]	W10440A	[勘定科目構造の改訂] で、改訂する勘定項目を選び、[選択] をクリックします。	勘定科目構造を改訂し、再編成します。

### 勘定科目構造の改訂

[勘定科目構造の改訂 (詳細)] フォームにアクセスします。

#### [ターゲット主科目]

ターゲットの主科目がソースの主科目と異なる場合に、複数サイト集計のマッピングに使用される主科目を入力します。

#### [ターゲット補助科目]

ターゲットの補助科目がソースの補助科目と異なる場合に、複数サイト集計のマッピングに使用される補助科目を入力します。



[主科目]	勘定科目コードの中で、原価コード（労務費、材料費、設備費など）をサブカテゴリに分類する部分を入力します。
[補助科目]	主科目のサブセットを入力します。補助科目は、取引レコードを主科目の下でさらに細分化します。
[転記編集]	集計勘定科目の [転記編集] フィールドに「N」を入力します。このように設定すると、処理中に勘定残高が検索されないため、集計処理プログラムのパフォーマンスが向上します。

## 勘定科目構造レポートの印刷

[複数サイト集計の設定] (G1042) の [勘定科目構造レポート] をクリックします。

## 勘定科目構造レポート (R10445) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 詳細レベル

1. 詳細レベル  
印刷する詳細レベル (3 ~ 9) を入力します。この処理オプションを空白にすると、9 が使用されます。

---

## 複数サイトの集計規則の定義

このセクションでは、複数サイトの集計規則および除外規則の概要と、以下の方法について説明します。

- 集計規則の定義
- 除外規則の定義

## 複数サイトの集計規則の内容について

ソース サイトで勘定科目構造と組織構造を定義した後、次の規則を定義します。

- ターゲット サイトに送る勘定残高を集計する規則
- 勘定残高を集計する際に会社間取引を除外する規則

## 集計規則について

ソース サイトで勘定残高が集計される際の規則を定義する必要があります。この規則を定義すると、たとえば、あるビジネスユニットの勘定科目をある方法で集計し、別のビジネスユニットの同じ勘定科目を別の方法で集計することができます。勘定科目別に異なる詳細レベルで集計することもできます。集計規則の定義には集計の設定プログラム (P10470) を使用します。

集計の設定プログラムを使用し、順序のレベルと値を指定して集計するサイトの中で親となるビジネスユニットを定義します。順序レベルとは、勘定残高が集計される組織構造内のレベルを示します。たとえば、組織構造の最上位レベルに勘定残高を集計する場合には、順序レベル“1”を入力します。

順序の値とは、集計レベルのビジネスユニット カテゴリ コードのことです。たとえば、地域レベルでの集計で親ビジネスユニットを中央地区とする場合には、中央地区を示すカテゴリ コードの値を入力します。

アクティブなビジネスユニット カテゴリ コード構造、または、ビジネスユニット カテゴリ コード構造の有効日付スナップショットのどちらかを使って処理を実行します。

ビジネスユニットの集計を行わないように設定することもできます。その場合、全てのビジネスユニットの勘定残高が送信されます。

集計の設定プログラムによって、集計設定テーブル (F10470) が更新されます。

## 除外規則について

ソース サイトで会社間取引を除外するための規則を定義できます。会社、ビジネスユニット、主科目、補助科目、補助元帳および補助元帳タイプの組み合わせを指定して、除外する勘定科目グループを定義します。集計時に勘定残高を除外すべきかどうかを決定する際に適用される複数の除外規則を、除外する各グループに作成することができます。除外グループ内の勘定残高は貸借が一致している（合計金額ゼロ）必要があります。

集計処理 (R10550) プログラムを実行すると、除外グループに含まれる会社間取引は自動的に集計から除外されます。または、除外する勘定科目を指定すると、集計から除外する金額が自動的に計算されます。

除外グループの勘定残高の貸借が一致しない場合に、その差異を少額消込として計上する差異勘定科目を指定する必要があります。勘定残高の一部のみを除外する場合、各除外グループに対して除外する比率を指定することもできます。

集計処理プログラムを実行すると、集計から除外された勘定科目および残高のレポートが印刷されます。残高の貸借が一致しない場合は、差異金額とその差異を計上した勘定科目もレポートに印刷されます。

除外規則と除外グループは、除外規則テーブル (F10471) に保管されます。

## 集計および除外ルールの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[集計設定の処理]	W10470C	[複数サイトの集計] (G1021)、[集計の設定]	既存の複数サイトの集計規則を検索し、検討します。
[集計設定の改訂]	W10470D	[集計設定の処理] フォームで[追加]をクリックします。	集計規則の定義や、既存の集計規則の改訂をします。
[集計除外規則の処理]	W10471A	[複数サイトの集計] (G1021)、[除外規則]	既存の除外規則を検索し、検討します。
[除外規則の設定]	W10471B	[集計除外規則の処理] フォームで[追加]をクリックします。	除外規則を追加します。

## 集計規則の定義

[集計設定の改訂] フォームにアクセスします。

集計の設定 - 集計設定の改訂

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

集計名

OPS

作業の終了

ビジネスユニット構造

勘定科目構造

追加設定

☒ ビジネスユニットの集計

構造名

OPSROLLUP

順序レベル

02

順序値

10

複数事業所用貸借対照表

☐ アクティブなビジネスユニット・マスター

☒ スナップショット・ビジネスユニット・マスター

有効日付バージョン

2004/1

HISTORY04

[集計設定の改訂] フォーム

[ビジネスユニット構造]

[ビジネスユニット構造] タブをクリックします。

[ビジネスユニットの集計]

ビジネスユニットの集計を実行するには、このチェック ボックスをオンにします。オンに設定にすると、ビジネスユニットの親子関係を作成するためのビジネスユニット構造の定義に基づいてビジネスユニットが集計されます。オフにした場合は、ビジネスユニットは集計されず、代わりに各ビジネスユニットの勘定残高が送信されます。

[集計名]

保存した集計の名称を入力します。

[順序レベル]

勘定残高が集計される際の組織構造レベルを表す番号を入力します。たとえば、01 は最上位の組織構造レベルで集計が実行されることを表し、03 は 3 番目の組織構造レベルで集計が実行されることを表します。

このフィールドは [順序値] フィールドと併せて使用されます。検索機能 (虫眼鏡ボタン) を使用して [構造名] フィールドを入力すると、[順序レベル] フィールドは自動的に入力されます。

[順序値]

集計のレベルを表すカテゴリ コードを入力します。たとえば、地域レベルでの集計で親ビジネスユニットを中央地区とする場合には、中央地区を示すカテゴリ コードの値を入力します。集計レベルで全てのカテゴリ コードに親ビジネスユニットを定義するには、「\*」を入力します。

集計レベルで空白のカテゴリ コードがある場合、親ビジネスユニットは定義されません。

このフィールドは [順序レベル] フィールドと併せて使用されます。

[アクティブなビジネスユニット・マスター]

ビジネスユニット マスター (F0006) のアクティブなビジネスユニット カテゴリ コード構造を使用するには、このオプションを選択します。

**[スナップショット・ビジネスユニット・マスター]** 有効日付ビジネスユニット マスター (F0006S) のビジネスユニット カテゴリコード構造の有効日付スナップショットを使用するには、このオプション ボタンを選択します。

**[有効日付/バージョン]** スナップショットの作成時に、ビジネスユニット カテゴリ コード構造の有効日付スナップショットに割り当てられた日付とバージョン番号を入力します。

## **[追加設定]**

**[追加設定]** タブをクリックします。

**[四捨五入する位]** 金額を四捨五入する位 (100 の位、1000 の位など) を指定するコードを入力します。有効なコードの値は以下のとおりです。

ブランク: 四捨五入しない

0: 小数点以下を四捨五入する

1: 四捨五入して 10 の位までの概数にする

2: 四捨五入して 100 の位までの概数にする

3: 四捨五入して 1000 の位までの概数にする

4: 四捨五入して 10000 の位までの概数にする

5: 四捨五入して 100000 の位までの概数にする

6: 四捨五入して 1000000 の位までの概数にする

たとえば金額が 987,654,321.91 の場合、入力するコードに対する四捨五入の結果は次のようになります。

ブランク: 987,654,321.91

0: 987,654,322.00

1: 87,654,320.00

2: 987,654,300.00

3: 987,654,000.00

4: 987,650,000.00

5: 987,700,000.00

6: 988,000,000.00

**[補助元帳明細]** 集計に補助元帳明細を反映するには、このチェック ボックスをオンにします。

**[通貨別残高]** この会社に対する F0902 テーブルのレコードを通貨別に転記する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

## **除外規則の定義**

**[除外規則の設定]** フォームにアクセスします。

除外規則 - 除外規則の設定

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

集計名 \*

FIN

会計繰上げ

レコード 1-2

グリッドのカスタマイズ

	グル ープ	会社	ビジネス ユニット	主科目	補助科目	補助 タイプ	補助元 帳	除外 勘定	勘定科
<input checked="" type="radio"/>	AC	00001	1	1291	00050	C			
<input type="radio"/>									

[除外規則の設定] フォーム

- [グループ]

互いに相殺する勘定科目をグループ化する 2 文字の値を入力します。除外グループ内の勘定残高は、貸借が一致する（合計金額ゼロ）必要があります。
- [除外勘定]

除外する勘定科目を入力します。このフィールドを空白にすると、除外処理を行っている勘定科目のみが除外されます。
- [除外補助元帳]

除外する補助元帳を入力します。補助元帳を指定する場合は、補助元帳タイプも指定する必要があります。  
このフィールドを空白にすると、除外処理を行っている補助元帳のみが除外されます。
- [除外補助元帳タイプ]

除外する補助元帳タイプを入力します。補助元帳タイプを指定する場合は、補助元帳も指定する必要があります。  
このフィールドを空白にすると、除外処理を行っている補助元帳タイプのみが除外されます。
- [少額消込勘定科目コード]

指定の除外グループに対する少額消込差異が計上される勘定科目を入力します。
- [%]

除外グループに対し、除外する比率をパーセント値で指定します。

## 集計残高の作成

このセクションでは、集計処理プログラムの概要と以下の方法について説明します。

- 集計処理
- 集計処理の処理オプションの設定

## 集計処理プログラムについて

勘定科目構造と組織構造、およびソース会社の複数サイトの集計規則を定義すると、集計残高を作成することができます。

集計処理プログラム (R10550) を実行して集計残高を作成する際に、定義した勘定科目構造と組織構造が、指定した順序で読み込まれます。次に、複数サイトの集計および除外について定義した規則と処理オプションに基づいて、これらの構造が処理されます。F0902 テーブルから勘定残高が読み込まれ、次の処理が実行されます。

- 残高ゼロ勘定の省略
- 年累計残高の集計
- 勘定残高の会計期間パターンの照合
- 基準期間後の残高の無視
- 端数処理の実行
- 指定補助元帳と通貨の詳細の保持
- 指定詳細レベルでの勘定残高の作成
- 指定限度内での差異の消込
- 会社間残高の除去

集計処理プログラムにより、次のテーブルに集計残高が書き込まれます。

- 複数サイト集計の転送ファイル見出し (F1001)
- 複数サイト集計の転送ファイル (F1002)
- 複数サイト集計の転送ファイル - カテゴリ コード (F1003)

### 集計処理プログラムで作成されるレポート

集計処理プログラムでは、集計勘定残高を表示したレポートを作成することができます。レポートの最初の部分には、複数サイト集計の転送ファイルの各テーブルに書き込まれた期間 1 から期間 6 までの集計勘定残高データが表示されます。レポートの 2 番目の部分には、期間 7 から期間 14 の間の同様の情報が表示されます。

また、集計処理プログラムでは、除外勘定残高レポートも印刷できます。このレポートには、各除外グループの除外仕訳が作成された勘定科目および残高が表示されます。残高が正味ゼロにならない場合、差異金額とその差異を計上する勘定科目もこのレポートに印刷されます。

---

**注:** 勘定科目のタイプに関係なく、常に、F0902 テーブルの繰越残高フィールドは集計処理プログラムによって更新されます。通常、損益計算書勘定の繰越残高金額は印刷されません。ただし、複数サイトの集計の開始日以降累計レポートを作成できるように、損益計算書勘定の期首残高が印刷されます。

---

## 集計処理

[複数サイトの集計] (G1021) の [集計処理] をクリックします。

### 集計処理 (R10550) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 処理

1. モード  
集計処理プログラムの実行モードを指定します。有効値は以下のとおりです。  
0: テスト モードでレポート出力 (デフォルト)

- 1: 最終モードでレポート出力  
2: 最終モード (レポートなし)
2. 架空会社  
架空の連結会社の会社番号を入力します。
3. 期間、会計年度  
集計の対象となる期間および会計年度を入力します。この処理オプションを空白にすると、処理する会社に対して設定した財務報告年度および期間が適用されます。
4. 元帳タイプ  
集計に使用するターゲットの元帳タイプを入力するか、空白にして元帳タイプ AA を使用します。
5. カテゴリコードの保存  
転送用に保存するカテゴリ コードを指定します。有効値は以下のとおりです。  
空白: カテゴリ コード値を保存しない。  
1: ビジネスユニット カテゴリ コードを保存する。  
2: 勘定カテゴリ コードを保存する。  
3: ビジネスユニットと勘定科目両方のカテゴリ コードを保存する。
6. 非転記勘定の処理  
非転記勘定に対する勘定残高を取り込むには「1」を入力します。非転記勘定は F0901 テーブルではなく、F10430 テーブルから取り込まれます。  
パフォーマンス向上のためには、この処理オプションを空白にします。勘定残高のない勘定項目は無視されます。

## ビジネスユニット作成

1. ビジネスユニット自動作成フラグ  
ビジネスユニットを自動作成する方法を指定します。有効値は以下のとおりです。  
空白: ビジネスユニットの自動作成を行わない。  
1: カテゴリ コードの値と連結してビジネスユニットを自動的に作成する。組織構造順序に会社を含めた場合は、「1」を入力する必要があります。  
2: 自動採番を使用してビジネスユニットを自動的に作成する。

## ビジネスユニット タイプ

1. ビジネスユニット タイプ  
ビジネスユニットの作成に使用するビジネスユニット タイプを入力します。

## サイト ID

1. サイト ID  
データのソースと関連するサイト ID を入力します。

## 差異

1. 集計差異規定値  
連結処理の集計に対して自動少額消込を作成するための差異規定値を入力します。作成した集計に差異があり、その差異が許容範囲内の数値の場合、少額消込が自動的に作成されます。この機能を使用しない場合は、この処理オプションを空白にしてください。

---

**注:** 差異をパーセントで入力する場合は、数字の後に “%” 記号を付けます。たとえば、3 パーセントの場合は、「3%」と入力します。

---

## 2. 主科目、補助科目

自動少額消込に使用する主科目と補助科目を入力します。

### 除外

#### 1. 除外元帳タイプ

除外仕訳に使用するターゲットの元帳タイプを入力します。会社間取引を除外する規則を作成した場合は、「1」を入力して、除外金額が記録される元帳タイプを指定する必要があります。

この処理オプションをブランクにすると、除外仕訳は作成されません。

#### 2. 除外差異規定値

除外レコードに対して自動的に少額消込を作成するための差異規定値を入力します。作成した除外仕訳に差異があり、その差異が許容範囲内の数値の場合、少額消込が自動的に作成されます。この機能を使用しない場合は、この処理オプションをブランクのままにします。

---

**注:** 差異をパーセントで入力する場合は、数字の後に “%” 記号を付けます。たとえば、3 パーセントの場合は、「3%」と入力します。

---

### 通貨

#### 通貨コード - 多通貨オフ

ターゲット サイトでは複数の通貨を使用しているが、ユーザーのソース サイトでは単一の通貨を使用している場合は、集計勘定残高の通貨コードを指定できます。通貨コードが勘定残高に割り当てられるだけで、通貨換算は一切行われません。ユーザーのサイトで多通貨処理を使用している場合は、この処理オプションは無視されます。

---

## 複数サイトの集計レポートの実行

このセクションでは、複数サイトの集計レポートとビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの概要と、以下の方法について説明します。

- 前期残高の整合性レポートの実行
- 前期残高の整合性の処理オプションの設定
- ユーザー定義コード値制御例外レポートの実行
- ユーザー定義コード値制御例外の処理オプションの設定
- 主科目/補助科目制御例外レポートの実行
- 主科目/補助科目制御例外レポートの処理オプションの設定
- ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの実行
- ビジネスユニット/勘定科目月次比較のデータ選択およびデータ順序の設定
- ビジネスユニット/勘定科目月次比較の処理オプションの設定
- 集計貸借対照表レポートの実行
- 集計貸借対照表の処理オプションの設定



- ・ 集計損益計算書レポートの実行
- ・ 集計損益計算書の処理オプションの設定

## 複数サイト集計の整合性レポートについて

集計残高を作成したら、整合性レポートを実行して情報を確認してください。整合性レポートは、組織内の残高調整手順を補足するものです。ターゲット サイトに情報を送信する前に整合性レポートを実行すると、潜在的な貸借不一致やデータの矛盾を検出することもできます。

注: 整合性レポートに加え、集計貸借対照表および集計損益計算書も作成できます。

以下は、使用可能な複数サイト集計の整合性レポートと各レポートの説明をまとめた表です。

整合性レポート	説明
前期残高の整合性 (R10700)	最後の集計の実行後に変更処理をした前期間の集計残高が全て表示されます。
ユーザー定義コード値制御例外 (R107011)	ターゲット会社によって認識されないユーザー定義コード値が集計にある場合、それらが特定されます。このレポートを実行すると、有効なユーザー定義コード値の一覧が表示され、検討することができます。
主科目/補助科目制御 (R107021)	ターゲット会社によって認識されない主科目と補助科目が集計にある場合、それらが特定されます。
ビジネスユニット/勘定科目月次比較 (R10701)	ソースのビジネスユニットと勘定科目が、ターゲットのそれらと比較されます。このレポートは集計を送信する前にソース サイトで実行するか、または集計を受信した後にターゲット サイトで実行します。
集計貸借対照表 (R10150)	ターゲット会社へ送信する連結資産、連結負債、連結資本が表示されます。
集計損益計算書 (R10250)	ターゲット会社へ送信する連結収益と連結費用が表示されます。

## ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートについて

ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートには、複数のバージョンがあります。選択するバージョンに応じて、レポートでは次のいずれかが特定されます。

- ・ ソース サイトで、現行の集計には表示されているが、前回の集計には表示されていなかったビジネスユニットと勘定科目
- ・ ターゲット サイトで、現行の集計には表示されているが、前回の集計には表示されていなかったビジネスユニットと勘定科目
- ・ ソース サイトで、前回の集計には表示されていたが、現行の集計には表示されないビジネスユニットと勘定科目
- ・ ターゲット サイトで、前回の集計には表示されていたが、現行の集計には表示されないビジネスユニットと勘定科目

ソース サイトとターゲット サイトのどちらでレポートを実行しているかを示す処理オプションを設定する必要があります。

整合性レポートの処理が失敗した場合は、以下に示す F1001 テーブルのフィールドのいずれか 1 つが更新されます。各フィールドはそれぞれ特定のエラー状態を示します。

フィールド	エラーの内容
GPIN07	該当する勘定科目が現行の集計にはありますが、前回の集計にはありません。このエラーは、前述の最初の 2 つのバージョンで表示されます。
GPIN08	該当するビジネスユニットが現行の集計にはありますが、前回の集計にはありません。このエラーは、前述の最初の 2 つのバージョンで表示されます。
GPIN05	該当する勘定科目が前回の集計にはありますが、現行の集計にはありません。このエラーは、前述の最後の 2 つのバージョンで表示されます。
GPIN06	該当するビジネスユニットが前の集計にはありますが、現行の集計にはありません。このエラーは、前述の最後の 2 つのバージョンで表示されます。

## 前期残高の整合性レポートの実行

[整合性レポート] (G1022) の [前期残高の整合性] をクリックします。

## 前期残高の整合性 (R10700) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 状況

#### 1. 整合性状況

前回の集計残高が検出されない場合に不整合と判断するには、「1」を入力します。集計を初めて作成する最初の期間では、比較対象の前回の残高データが存在しないので、この処理オプションを「1」に設定しないでください。

この処理オプションを空白にすると、前回の残高が検出されない場合はレポートにメッセージが印刷されますが、エラーや不整合の原因にはなりません。

## ユーザー定義コード値制御例外レポートの実行

[整合性レポート] (G1022) の [ユーザー定義コード値制御] をクリックします。

## ユーザー定義コード値制御例外 (R107011) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### バージョン

#### 1. UDC 制御ファイルバージョン

検証する UDC 制御ファイル バージョンの固有の名前を入力します。空白にすると、空白の名前が使用されます。

## 主科目/補助科目制御例外レポートの実行

[整合性レポート] (G1022) の [主科目/補助科目制御] をクリックします。

## 主科目/補助科目制御例外 (R107021) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### データ選択

1. 主/補助科目制御ファイル バージョン      検証する主/補助科目制御ファイル バージョンの固有の名前を入力します。ブランクのままにすると、ブランクの名前が使用されます。
2. ファイル データ選択      固有の主科目と補助科目を選択するには「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、固有の主科目のみが選択されます。

## ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポート (R10701) の実行

[整合性レポート] (G1022) の [ビジネスユニット/勘定科目月次比較] をクリックします。

### ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートのデータ選択およびデータ順序の設定

データ選択またはデータ順序は変更しないでください。レポートの各バージョンには適切なデータ選択およびデータ順序が設定されています。

## ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポート (R10701) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

1. 整合性テストを実行するサイト      整合性テストが実行されているサイトを入力します。有効値は以下のとおりです。
  - 1: ソース サイト
  - 2: ターゲット サイト
2. 整合性状況      前回の集計残高が検出されない場合に不整合と判断するには、「1」を入力します。集計を初めて作成する最初の期間では、比較対象の前回の残高データが存在しないので、この処理オプションを「1」に設定しないでください。  
  
この処理オプションをブランクにすると、前回の残高が検出されない場合はレポートにメッセージが印刷されますが、エラーや不整合の原因にはなりません。

## 集計貸借対照表レポートの実行

[整合性レポート] (G1022) の [集計貸借対照表] をクリックします。

## 集計貸借対照表 (R10150) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

## 符号

1. 符号の反転 負債勘定の金額をマイナスで印刷するには、「1」を入力します。この処理オプションをblankにすると、金額はプラスで印刷されます。

## 勘定科目

次の各処理オプションに開始主科目をそれぞれ入力してください。

1. 資本の開始勘定 (必須) 資本の開始主科目を入力します。この処理オプションを設定していないと、レポートは実行されません。
2. AAI (自動仕訳) (省略可) 以下に対する開始主科目をそれぞれ入力します。  
資産の開始勘定  
負債の開始勘定  
営業利益  
blankにすると、AAI (自動仕訳) 項目 GLG2、GLG3 および GLG に指定されている勘定科目がそれぞれ適用されます。

## 集計損益計算書レポートの実行

[整合性レポート] (G1022) の [集計損益計算書] をクリックします。

## 集計損益計算書 (R10250) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 符号

1. 符号の反転 費用および負債勘定の金額をマイナスで印刷するには、「1」を入力します。この処理オプションをblankにすると、金額はプラスで印刷されます。

## 勘定科目

1. 開始主科目 以下の開始主科目をそれぞれ入力します。  
収益の開始勘定  
売上原価の開始勘定  
営業外収益の開始勘定  
営業外費用の開始勘定  
blankにすると、AAI (自動仕訳) 項目 GLG6、GLG8、GLG11 および GLG13 に指定されている勘定科目がそれぞれ適用されます。

---

## 集計状況の検討

このセクションでは、集計コンソール プログラムの概要と集計状況の検討方法について説明します。

## 集計コンソール プログラムについて

ターゲット会社への集計の送信、またはソース会社からの集計の受信のどちらの場合でも、集計の状況をモニタリングする必要があります。集計コンソール プログラム (P10610) では、次の処理を実行できます。

- 集計データの転送状況のモニタリング
- 整合性レポートのモニタリング
- ターゲット会社への集計残高の送信
- 以前に処理された集計データの削除

ソース会社とターゲット会社の両方で、ソースからターゲットに送信された集計データと、ターゲットで処理された集計データをトラッキングする必要があります。各集計名とバッチの状況が F1001、F1002、および F1003 テーブルに保管されます。これらのテーブルは、ソースとターゲットの両方のサイトに存在します。

[ファイル転送状況] フィールドに設定できる値は次のとおりです。

ファイル転送状況	状況の説明
ブランク	未転送
P	保留。転送処理実行中
1	ソーステーブル:転送済み ターゲットテーブル:受取済み
2	処理済み
3	以前に処理済み

集計状況は次の処理の実行中に更新されます。

処理	処理内容
集計データ送信 (R10610)	ソースでは、集計レコードがターゲットにコピーされます。ソースでレコードの転送状況が“1”に変更されます。ターゲットでは状況が“1”のレコードが作成されます。
残高集計仕訳 (R10480)	ターゲットでは、仕訳作成時に集計レコードの転送状況が“2”に更新されます。また、ターゲットサイトにおいて、処理済みのレコードの状況も“2”から“3”に更新されます。

ターゲットは、バッチ処理を実行してターゲット サイトで仕訳を作成した後、ソースと連絡をとります。ソースは対応するレコードの転送状況を“1”から“2”に手作業で更新する必要があります。転送状況が“2”の対応するレコードの処理済みのバッチが存在する場合、そのバッチは転送状況“3”に更新されます。

また、集計コンソール プログラムでは、設定した処理オプションを基に、ソースおよびターゲット サイトでどの整合性レポートを実行する必要があるかが特定されます。各整合性レポートが実行されたかどうか、および整合性について合格か不合格かも表示されます。この情報は、詳細グリッドの整合性状況の各フィールドに表示されます。

整合性状況フィールドに設定できる値は次のとおりです。

整合性状況	状況の説明
ブランク	整合性未実行
0	整合性未実行
1	整合性合格
2	整合性不合格
9	一時変更。整合性状況に関係なく転送

ターゲット会社へ集計残高を送信する準備が完了したら、集計コンソール プログラムを使用して情報を送信することができます。

F1001、F1002、および F1003 テーブルの集計勘定残高は、削除しない限りテーブルに残ります。ソースまたはターゲットの両サイトで、これらのレコードを定期的に削除してください。

## 集計残高の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[集計コンソール]	W10610A	[複数サイトの集計] (G1021)、[集計コンソール]	集計状況の検討、整合性レポートのモニタリング、ターゲット会社への集計残高の送信、および処理済の集計データの削除を行います。

## 集計状況の検討

[集計コンソール] フォームにアクセスします。

[集計コンソール] フォーム

## ターゲット会社への集計残高のバッチ送信

このセクションでは、ターゲット会社への集計残高の送信処理と集計データ送信プログラムの概要、および以下の方法について説明します。

- 集計データ送信プログラムの実行
- 集計データ送信の処理オプションの設定

### ターゲット会社への集計残高の送信処理について

整合性レポートを実行して集計状況を確認することで、ターゲット会社への集計残高の送信準備が完了します。

次の 2 つのプログラムを使い、集計残高をターゲット会社にバッチ送信またはオンライン送信することができます。

- 集計データ送信バッチ プログラム (R10610)
- 集計コンソール対話型プログラム (P10610)

どちらのプログラムを使用してもソースまたはターゲットから送信を開始できます。バッチ プログラムを使用すると、一度に複数の集計を選択して送信することができます。

ターゲット会社は、集計残高を受け取るとバッチ仕訳を作成して処理します。

### 集計データ送信プログラムについて

集計データ送信プログラム (R10610) を使用して、F1001、F1002、および F1003 テーブルのファイル転送状況フィールドに表示されている集計残高をターゲット会社に送信します。一度に複数の集計を選択して送信することができます。

このプログラムには 2 つのバージョンがあります。バージョン XJDE0001 は変更しないでください。バージョン XJDE0002 は変更できます。

ソース環境名とターゲット環境名の入力が求められます。どちらの環境も、ブラウズ機能を使用して検索することができます。ソース環境を空白のままにすると、ユーザーの環境がソース環境として使用されます。ターゲット環境を空白のままにすると、ユーザーの環境がターゲット環境として使用されます。

整合性レポートに問題があった場合は、集計残高を送信できないように処理オプションを設定することもできます。

### 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- F1001、F1002、および F1003 テーブルがローカル ドライブに存在しているか、またはサーバー上のこれらのテーブルにアクセスできることを確認します。
- オブジェクト構成マネージャ プログラム (P986110) を使用して、集計データ送信プログラム (R10610) をローカル ドライブにマッピングします。

### 集計データ送信プログラムの実行

[複数サイトの集計] (G1021) の [集計データ送信] をクリックします。

## 集計データ送信 (R10610) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定することができます。

### 整合性

各処理オプションに対して指定の整合性レポートを実行しなくても、データ送信に影響はありません。

#### 前期間調整

データを伝送する前に、前期残高の整合性レポートを実行して、整合性について合格する必要があるかないかを指定します。前回の集計以降に変更された、前期間の集計残高が見つからない場合は、整合性について合格と判断されます。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

#### 貸方 = 借方

データを伝送する前に、借方と貸方が一致しているかどうか検証する整合性プロセスを実行して、整合性について合格する必要があるかないかを指定します。この整合性プロセスは、レコードが F1001 および F1002 テーブルに書き込まれる前に実行される内部プロセスです。有効値は以下のとおりです。

ブランク: データを伝送する前に、借方と貸方が一致しているかどうか検証する整合性プロセスで合格する必要はありません。

1: データを伝送する前に、借方と貸方が一致しているかどうか検証する整合性プロセスで合格する必要があります。

#### ソース UDC = ターゲット UDC

データを伝送する前に、ユーザー定義コード値制御整合性レポート (R107011) を実行して、整合性について合格する必要があるかないかを指定します。ターゲット会社が認識しないユーザー定義コード値のインスタンスが集計に含まれていない場合は、整合性について合格と判断されます。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

#### ソース主/補助科目 = ターゲット主/補助科目

データを伝送する前に、主科目/補助科目制御整合性レポートを実行して、整合性について合格する必要があるかないかを指定します。ターゲット会社が認識しない主科目/補助科目のインスタンスが集計に含まれていない場合は、整合性について合格と判断されます。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

#### 前月の勘定科目

データを伝送する前に、ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの “今月ではなく前月の勘定科目” バージョンに合格する必要があるかないかを指定します。前月の集計に表示された全ての勘定科目が今月の集計にも表示された場合、整合性について合格したと判断されます。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

#### 前月のビジネスユニット

データを伝送する前に、ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの “今月ではなく前月のビジネスユニット” バージョンに合格する必要があるかないかを指定します。前月の集計に表示された全てのビジネスユニット



が今月の集計にも表示された場合は、整合性について合格と判断されます。有効値は以下のとおりです。

空白:整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

#### 当月の勘定科目

データを伝送する前に、ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの“前月ではなく今月の勘定科目”バージョンに合格する必要があるかないかを指定します。今月の集計に表示された全ての勘定科目が前月の集計にも表示された場合、整合性について合格と判断されます。有効値は以下のとおりです。

空白:整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

#### 当月のビジネスユニット

データを伝送する前に、ビジネスユニット/勘定科目月次比較レポートの“前月ではなく今月のビジネスユニット”バージョンに合格する必要があるかないかを指定します。今月の集計に表示された全てのビジネスユニットが前月の集計にも表示された場合、整合性について合格と判断されます。有効値は以下のとおりです。

空白:整合性レポートが不合格でも、データを伝送します。

1: 整合性レポートが合格の場合のみ、データを伝送します。

## ターゲット会社への集計残高のオンライン送信

このセクションでは、ターゲット会社への集計残高の送信処理と集計コンソール プログラムの概要、および以下の方法について説明します。

- 集計コンソールの処理オプションの設定
- ターゲット会社への集計残高のオンライン送信

### ターゲット会社への集計残高の送信処理について

整合性レポートを実行して集計状況を確認することで、ターゲット会社への集計残高の送信準備が完了します。

次の 2 つのプログラムを使い、集計残高をターゲット会社にバッチ送信またはオンライン送信することができます。

- 集計データ送信バッチ プログラム (R10610)
- 集計コンソール対話型プログラム (P10610)

どちらのプログラムを使用してもソースまたはターゲットから送信を開始できます。バッチ プログラムを使用すると、一度に複数の集計を選択して送信することができます。

ターゲット会社は、集計残高を受け取るとバッチ仕訳を作成して処理します。

### 集計コンソール プログラムについて

集計コンソール プログラム (P10610) を使用して、F1001、F1002、および F1003 テーブルの集計残高をターゲット会社にオンライン送信することができます。

整合性レポートのどれかに問題があった場合に集計残高の送信を実行できないように処理オプションを設定できます。[集計コンソール] フォームに、各整合性レポートが実行されたかどうか、および整合性について合格したかどうかが表示されます。

## ターゲット会社への集計残高のオンライン送信に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[集計コンソール]	W10610A	[複数サイトの集計] (G1021)、[集計コンソール] [集計コンソール] フォーム上で、ターゲット会社へ集計残高を送信する集計を選んで、[ロー]メニューの[転送]をクリックします。	集計状況の検討、整合性レポートのモニタリング、ターゲット会社への集計残高の送信、および処理済の集計の削除を行います。

## 集計コンソール (P10610) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定することができます。

### 整合性

#### 1. 整合性

集計バッチを送信する前に、整合性について合格することを必須条件にする整合性レポートには、「1」を入力します。整合性に問題があっても、または整合性レポートを実行しなくても、データの送信に影響はありません。整合性処理オプションに対応する整合性レポートは以下のとおりです。

前期間調整

貸方 = 借方

ソース UDC = ターゲット UDC

ソース主/補助科目 = ターゲット主/補助科目

前月の勘定科目

前月のビジネスユニット

当月の勘定科目

当月のビジネスユニット

## ターゲット会社への集計残高のオンライン送信

[集計コンソール] フォームにアクセスします。

ソース環境名とターゲット環境名の入力が必要です。どちらの環境も、ブラウザ機能を使用して検索することができます。ソース環境をブランクのままにすると、ユーザーの環境がソース環境として使用されます。ターゲット環境をブランクのままにすると、ユーザーの環境がターゲット環境として使用されます。

### [ファイル転送状況]

F1001 テーブルのレコード状況を入力します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:未転送

P:保留。転送処理実行中

1: 転送済み

	2: 前回処理されたレコード
	3: 以前処理されたレコード
<b>[事業所]</b>	トランザクションのソースを入力します。有効な値は、ユーザー ID、ワークステーション、外部システムのアドレス、ネットワークのノードなどです。このフィールドは、トランザクションとそのソースの両方を識別する際に役立ちます。
<b>[環境]</b>	電子データ交換 (EDI) 処理でトランザクションに割り当てられる番号を入力します。  EDI を使用していない場合は、ユーザーがバッチ内のトランザクションを識別するための任意の番号を指定することができます。伝票番号と同じ番号を使用することもできます。
<b>[バッチ No. 範囲]</b>	送信時にバッチに割り当てられる番号を入力します。バッチ処理では、システム内で制御 (ユーザー) バッチ番号が検出されたトランザクションごとに、新しいバッチ番号が割り当てられます。

## EnterpriseOne 以外のソース サイトから受信した集計残高の処理

このセクションでは、受信複数サイト集計と受信複数サイト集計処理の概要、および以下の方法について説明します。

- 受信集計データの処理
- 受信集計データの処理の処理オプションの設定

### 受信複数サイト集計について

ターゲット サイトで、一般会計システムを使用しないソース サイトから受信した複数サイト集計を処理することができます。ソース サイトでは、指定された形式で集計情報を 2 つのテーブルに入力してターゲット サイトに送信する必要があります。この 2 つのテーブルとは、未編集の複数サイト集計インタオペラビリティ見出しテーブル (F1001Z1) と未編集の複数サイト集計インタオペラビリティ詳細テーブル (F1002Z1) です。

### 受信複数サイト集計の処理について

EnterpriseOne 以外のソース サイトから複数サイトの集計情報を EnterpriseOne のシステムにアップロードするには、適切なデータを F1001Z1 テーブルおよび F1002Z1 テーブルの各フィールドに提供するカスタム プログラムを作成する必要があります。この 2 つのテーブルは、F1001 および F1002 テーブルに集計情報を作成するために処理されます。これらのテーブルのフィールド名は、一般会計システムの対話型フォームのフィールド名に対応しています。

参照: [付録 E, 「受信複数サイト集計のフィールドのマッピング」, 553 ページ](#)

ターゲット サイトで、受信集計データの処理プログラム (R1002Z1) を実行してテーブルの処理をする際に、F1001Z と F1002Z1 テーブルの情報が読み込まれ、F1001 および F1002 テーブルにレコードが作成されます。必要に応じて、既存のトランザクションを改訂したり、新しいトランザクションを追加することができます。また、F1001Z と F1002Z1 テーブルのデータを除去することもできます。

受信集計データの処理プログラムは、テストモードと最終モードのどちらでも実行できます。テストモードで実行すると、F1001 と F1002 テーブルに書き込まれるトランザクションを表示したレポートが印刷されます。最終モードでは、レポートが印刷され、これらのテーブルにトランザクションが書き込まれます。エラーメッセージはワークセンターに書き込まれます。

受信データを処理した後で、次の整合性レポートを実行します。

- 前期残高の整合性
- ユーザー定義コード値制御
- 主科目/補助科目制御
- ビジネスユニット/勘定科目月次比較
- 集計貸借対照表
- 集計損益計算書

受信集計を処理し、必要に応じて改訂した後で、集計勘定残高の仕訳を作成し、仕訳が正確かどうか確認して処理することができます。

## 受信集計データの処理

[受信複数サイト集計データ] (G1023) の [受信集計データの処理] をクリックします。

## 受信集計データの処理 (R1002Z1) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

1. モード  
受信集計の処理の実行モードを入力します。有効値は以下のとおりです。  
1: テストモードでレポートを出力します。  
2: 最終モード。F1001Z1 テーブルのレコードは F1001 テーブルに、F1002Z1 のレコードが F1002 にそれぞれ書き込まれます。

### 仕訳処理

1. 仕訳処理  
実行する残高集計仕訳レポートのバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、このレポートは実行されません。

### データ除去

1. データ除去  
全処理過程を完了した後で F1001Z1 と F1002Z1 テーブルの全てのデータを除去するには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、これらのテーブルのデータは除去されません。

---

## 受信集計の改訂

このセクションでは、受信集計の改訂の概要と、その方法について説明します。

## 受信集計の改訂について

整合性レポートの実行後、対応する仕訳を作成する前に受信集計の改訂、または受信集計レコードの追加が必要になる場合があります。これらの場合には、受信集計データの改訂プログラム (P1002Z1) を使用して集計データを改訂します。

## 受信集計の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[複数サイト集計 (未編集トランザクション) の処理]	W1002Z1A	[受信複数サイト集計データ] (G1023)、[受信集計データの改訂]	受信複数サイト集計を検討します。
[複数サイト集計 (未編集トランザクション) の改訂]	W1002Z1B	[複数サイト集計 (未編集トランザクション) の処理] フォームで、改訂するレコードを選択します。  受信複数サイト集計のレコードを追加するには、[複数サイト集計 (未編集トランザクション) の処理] フォームで [追加] をクリックします。	受信複数サイト集計のレコードを追加し、検討します。

## 受信集計の改訂

[複数サイト集計 (未編集トランザクション) の改訂] フォームにアクセスします。

## 受信集計データの除去

このセクションでは、受信集計データの除去について説明します。

### 受信集計データの除去

[受信複数サイト集計データ] (G1023) の [受信集計データの除去] をクリックします。

処理済みの複数サイト集計は、ユーザーが除去するまで F1001Z1 および F1002Z1 テーブルに保管されます。処理が正常に完了した後、集計データを除去する必要があります。

**注:** 受信集計データの処理プログラムの処理オプションの設定により、処理完了時にテーブルを自動的に除去することができます。

## 複数サイトのバッチ仕訳の作成

このセクションでは、残高集計仕訳プログラムの概要と、以下の方法について説明します。

- 複数サイトのバッチ仕訳の作成
- 残高集計仕訳のデータ選択の設定

- 残高集計仕訳の処理オプションの設定

## 残高集計仕訳プログラムについて

ターゲット会社で複数サイトの集計データを受け取った後に、整合性レポートを実行して受け取ったデータが正確であるか確認します。その後、残高集計仕訳プログラム (R10480) を実行して、ソース サイトから受信した集計勘定残高の仕訳を作成する必要があります。これらの仕訳は、異なる集計バッチ間の相違に基づいて作成されます。

残高集計仕訳プログラムを実行すると、F1001、F1002、および F1003 テーブルの情報が読み込まれ、仕訳アップロード テーブル (F0911Z1) に仕訳が作成されます。

このバッチ プログラムは、テストまたは最終モードで実行することができます。テスト モードでは、仕訳のレポートが印刷されますが、F0911Z1 テーブルは更新されません。最終モードでは、F0911Z1 テーブルに仕訳が作成され、処理オプションの設定に基づいてレポートに印刷されます。

このレポートには、ソース会社の集計残高仕訳がソース システム ID およびバッチ番号別に印刷されます。また、バッチ合計も印刷されます。

BU (ビジネスユニット) カラムと AC (勘定科目) カラムには、自動的に作成されたビジネスユニットと勘定科目の情報が出力されます。これらのカラムに表示される値は次のとおりです。

値	説明
ブランク	ビジネスユニットまたは勘定科目が既に存在します。
1	処理中にエラーが発生したため、ビジネスユニットまたは勘定科目は自動作成されませんでした。
2	ビジネスユニットまたは勘定科目が自動作成されました。

F0911Z1 テーブルに仕訳が作成される際、各仕訳に対して次の処理が実行されます。

- 摘要フィールドに、ソース システム ID、バッチ番号、送信日付の組み合わせが入力される。
- トランザクション No. フィールドに、集計名が入力される。
- 元帳日付フィールドに、対応する会計処理期間の最終日付が入力される。
- ユーザー ID フィールドにソース システム ID が入力される。

**注:** 勘定科目の種類に関係なく、F0902 テーブルの繰越残高フィールドは常に更新されます。通常、損益計算書勘定の繰越残高金額は印刷されません。ただし、複数サイト集計の開始日以降累計レポートを作成できるように、損益計算書勘定の期首残高が印刷されます。

ビジネスユニットまたは勘定科目が、残高集計仕訳の作成プログラムにより自動的に作成された場合、最新の情報を表示したレポートが作成されます。

## 事前設定

次のレポートをターゲット会社で実行してください。

- 前期残高の整合性
- ユーザー定義コード値制御
- 主科目/補助科目制御

- ビジネスユニット/勘定科目月次比較
- 集計貸借対照表
- 集計損益計算書

## 複数サイトのバッチ仕訳の生成

[複数サイトの集計] メニュー (G1021) の [残高集計仕訳] をクリックします。

## 残高集計仕訳のデータ選択の設定

データ選択で、送信済みファイルの状況を“1”に設定します。

## 残高集計仕訳 (R10480) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

- |        |   |
|--------|---|
| 1. モード | プログラムの実行モードを指定します。<br>0: テスト モードでレポート出力 (デフォルト)<br>1: 最終モードでレポート出力<br>2: 最終モード (レポートなし) |
|--------|---|

### 会社

- |         |   |
|---------|---|
| 1. 集計会社 | 更新する集計会社の会社番号を入力します。この処理オプションを空白にすると、F1001 テーブルで定義されている会社が表示されます。 |
|---------|---|

### 元帳タイプ

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 元帳タイプ | ユーザー定義コード テーブル 09/LT から、更新する元帳タイプを入力します。この処理オプションを空白にすると、F1001 テーブルで定義されている元帳タイプが表示されます。 |
|----------|--|

### 前期間

- |                  |   |
|------------------|---|
| 1. 前期間の調整        | 調整仕訳の作成について指定します。有効値は以下のとおりです。<br>空白: 調整仕訳を作成しない。選択したレコードは処理されず、レポートにはエラーが表示されます。<br>1: 前期間と現行期間の集計差異に対する調整仕訳を前期間に作成する。<br>2: 現行期間に調整仕訳を作成する。<br>3: 前期間との差異を無視する。 |
| 2. 勘定残高テーブルの直接更新 | 前期間と現行期間の繰越残高の集計差異を F0902 テーブルに直接書き込むには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、F0902 テーブルは更新されません。  |

## ビジネスユニット

### 1. ビジネスユニット自動作成

集計テーブルには存在するが F0006 テーブルには存在しないビジネスユニットを自動的に作成するには、「1」を入力します。F1002 テーブルのビジネスユニットがターゲットに存在しない場合、ビジネスユニットは自動的に作成されます。

この処理オプションをブランクにすると、ビジネスユニットは作成されません。

### 2. ビジネスユニット タイプ

ビジネスユニットを作成する際に使うビジネスユニット タイプを入力します。

## 勘定科目コード

### 1. 勘定科目自動作成

自動作成する勘定科目を指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 勘定科目を自動作成しない。

1: 集計テーブルには存在するが F0901 テーブルには存在しない勘定科目を自動作成するには、「1」を入力します。

2: 主科目のみを編集することにより、集計テーブルには存在するが F0901 テーブルには存在しない勘定科目を自動的に作成します。主科目が勘定科目マスターにある場合、補助科目に関係なく勘定科目が作成されます。

F1002 テーブルの勘定科目がターゲットに存在しない場合、勘定科目は自動的に作成されます。

## 仕訳処理

### 1. 自動バッチ仕訳処理

バッチ仕訳の作成後、バッチ仕訳処理プログラム (R09110Z) を自動的に実行するには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、このプログラムは自動的に実行されません。

### 2. バージョン

実行するバッチ仕訳処理プログラムのバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0002 が使用されます。

---

## 複数サイト バッチ仕訳の処理および除去

このセクションでは、複数サイト バッチ仕訳の処理および除去の概要と、以下の方法について説明します。

- 複数サイト バッチ仕訳の処理
- 複数サイト バッチ仕訳の除去

## 複数サイト バッチ仕訳の処理および除去について

バッチを処理する前に、仕訳の改訂プログラム (P0911Z1) を使い、複数サイトの集計の仕訳を検討して修正することができます。F0911Z1 テーブルに作成された仕訳を個別に検討できます。仕訳の検討プログラムを使用して、仕訳を改訂することもできます。たとえば、処理する前に追加や修正が必要な場合に役立ちます。

複数サイトの集計仕訳を検討および改訂した後、バッチ仕訳処理プログラム (R09110Z) を実行して、F0911Z1 テーブルの仕訳を処理し、F0911 テーブルに書き込みます。



バッチ仕訳処理プログラムを実行後、F0902 テーブルに集計の金額が反映されるように、バッチを転記する必要があります。

処理済み仕訳は、一括して削除するまでバッチ テーブルに保管されたままになります。バッチ処理を正常に完了した後は、処理済みのバッチを除去してください。

## バッチ仕訳の処理

[複数サイトの集計] (G1021) の [バッチ仕訳処理] をクリックします。

**関連項目:**

第 12 章、「仕訳のバッチ処理」、113ページ

## 処理済みの複数サイト仕訳の除去

[複数サイトの集計] (G1021) の [処理済み仕訳の除去] をクリックします。

**関連項目:**

第 12 章、「仕訳のバッチ処理」、「処理済みバッチ仕訳の除去」、118ページ



## 第 31 章

# 勘定残高と取引明細の検討

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、オンライン照会、法定照会、試算表、取引明細と勘定残高の照会の概要、および以下の方法について説明します。

- 試算表、元帳および補助元帳の検討
- 主科目別試算表の検討
- 会社別試算表の検討
- 補助元帳別試算表の検討
- 取引明細の検討
- 主科目別取引明細の検討
- カテゴリコード別取引明細の検討
- (CHL and PER) Review ledgers by legal number.
- 月別勘定残高の検討
- 補助元帳別勘定残高の検討
- (CHL and PER) Review account balances by account and category code.
- (CHL and PER) Review debit and credit balances by month.

---

## オンライン照会について

オンライン照会プログラムを使って、総勘定元帳の最新の情報にアクセスすることができます。

通常、オンライン照会では F0902 テーブルと F0911 テーブルの情報が使われます。試算表および勘定残高の照会には F0902 テーブルの情報が使用され、取引明細の照会には F0911 テーブルの情報が使用されます。

オンライン照会の情報を表示する際は、次の 2 つの AAI (自動仕訳) が使用され、損益計算書勘定が決定されます。

- GLG6 - 収益の開始勘定
- GLG12 - 損益計算書の終了勘定

この範囲 (GLG6 ~ GLG12) にない勘定科目は、貸借対照表勘定と見なされます。これらの AAI 勘定は、試算表の残高レポートまたは照会の残高を取り込む場合にも使用されます。

オンライン照会ごとに、必要に応じて会計情報を異なる詳細レベルで集計することができます。

## 法定照会について

法定照会プログラムで、政府に対するレポートに使用する情報を得ることができます。法定情報を表示するには、以下のオンライン照会プログラムを使います。

- 勘定科目の照会（カテゴリ コード別）(P09202)
- Balance Inquiry by Account/Category Code (P76H9006).
- 代替勘定科目の照会 (P09218A)

## 試算表の照会について

各勘定科目の試算表を迅速にさまざまな順序で表示するには、試算表照会プログラムを使います。これらの照会プログラムでは、F0902 テーブルの集計情報を取り込んだり、より詳細な情報を得ることができます。

勘定科目の検討方法や取得する参照情報によって、以下の試算表の照会プログラムの中から適切なプログラムを選択します。

照会	説明
試算表と元帳の比較 (P09210A)	特定のビジネスユニットの勘定残高、または特定の勘定科目の残高が表示されます。
試算表（主科目別）(P09214)	全てのビジネスユニットの勘定残高および勘定科目コードの不一致が表示されます。このプログラムの機能を有効に利用するには、全てのビジネスユニットで勘定科目コードを統一しておく必要があります。
試算表（会社別）(P09216)	会社一社に対する全てのビジネスユニット内の勘定残高情報が表示されます。
試算表（補助元帳別）(P09215)	勘定残高情報が補助元帳別に表示されます。

上記 4 つのプログラムには、期間の終了日付のみでなく、特定の日付の勘定残高を確認できるように設定できる処理オプションもあります。

確認する勘定残高の日付を特定しない場合、プログラムは会社固定情報テーブル (F0010) から現行（オープン）期間を特定し、対応する期間の終了日付を会計期間パターン テーブル (F0008) から読み込みます。

貸借対照表勘定の累計残高には前年度の繰越残高が含まれます。損益計算書の累計残高には前年度の残高は含まれません。

## 取引明細および勘定残高の照会について

取引明細や勘定残高明細を、さまざまな形式や順序で検討する必要がある場合があります。元帳と残高のオンライン照会プログラムを使用すると、特定の勘定科目に対する情報を取得できます。これらのプログラムには、取引明細が保管されている F0911 テーブルまたは転記済み残高が保管されている F0902 テーブル、あるいはこの両方のテーブルからの情報が表示されます。検討対象や情報の表示方法によって、以下の照会プログラムの中から適切なプログラムを選択します。

照会	説明
取引明細照会 (P09200)	F0911 テーブルの取引明細が表示されます。
勘定科目の照会 (主科目別) (P09201)	全てのビジネスユニットに関し、選択した主科目を使用して F0911 テーブルの取引明細が表示されます。
勘定科目の照会 (カテゴリコード別) (P09202)	法定 (代替) 勘定科目表用に設定したカテゴリコードの 1 つを使って、F0911 テーブルから取引明細が表示されます。
(CHL and PER) Journal Entries Inquiry by Legal Number (P76H9002)	Displays the entire journal entry transaction and the internal document number associated with a legal number, or vice versa.
勘定残高 (月別) (P0902P1)	F0902 テーブルから、会計年度の各期間の月次増減金額と月累計残高が表示されます。損益計算書には転記額の合計、貸借対照表勘定には繰越残高が含まれます。
勘定残高 (補助元帳別) (P092131)	F0902 テーブルから、補助元帳および補助元帳タイプ別に、現行期間と年累計の残高および転記済金額が表示されます。
代替勘定科目の照会 (P09218A)	法定 (代替) 勘定科目表用に設定したカテゴリコードの 1 つを使って、F0902 テーブルから会社別または組織構造別に残高が表示されます。
(CHL and PER) Balance Inquiry by Account/Category Code (P76H9006)	Displays credits and debits by legal company. Debit and credit amounts are from the F76H902T table, which is updated automatically when you update the F0902 table.
(CHL and PER) Debit/Credit Inquiry by Month (P76H9007)	Displays debits and credits by account for each period and a total for each period. Amounts are from the F76H902T table.
試算表と元帳の比較 (P09210A)	F0902 テーブルの 2 つの元帳の残高が表示されます。各元帳について算出された比較結果や累計残高も取り込むことができます。このプログラムは、予算と実績金額を比較する場合に役立ちます。

## 試算表、元帳および補助元帳の検討

このセクションでは、試算表および元帳比較の概要と、以下の方法について説明します。

- 試算表と元帳の比較 (P09210A) の処理オプションの設定
- 試算表/元帳比較の検討
- 補助元帳別試算表の情報の検討

### 試算表と元帳の比較について

試算表と元帳の比較プログラム (P09210A) を使用して、特定の勘定科目の残高や、ビジネスユニット内の全ての勘定科目の残高を検討します。2 つの元帳間の勘定残高を分析することが必要な場合もあります。このプログラムは、予算金額と実際金額の比較を行う際、または予実差異を分析するときに特に役立ちます。

また、このプログラムで、情報を検討する際の詳細レベルを指定します。異なる会計年度や特定の元帳日付からの元帳タイプを比較することもできます。詳細グリッドのカラムを設定して、勘定残高の表示形式を定義することもできます。

残高と差異の計算方法については、処理オプションを使って定義します。この処理オプションで指定した元帳タイプおよび計算方式が使用され、差異が計算されます。元帳タイプまたは計算方式を変更すると、差異も変化します。

### 勘定残高、元帳および補助元帳の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試算表/元帳比較]	W09210AA	[レポートおよびオンライン照会] (G0912)、[試算表と元帳の比較]。勘定科目を検討するには、勘定科目を選択し、[ロー]メニューで[補助元帳別残高]をクリックします。	特定の勘定科目またはビジネスユニット内の全ての勘定科目、および2つの元帳に対する試算表の集計情報を検討します。
[補助元帳別勘定残高]	W092131A	[レポートおよびオンライン照会] (G0912)、[勘定残高(補助元帳別)]	勘定科目の補助元帳情報を検討します。

### 試算表と元帳の比較 (P09210A) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### デフォルト

1. **元帳タイプ 1** 元帳タイプ 1 のデフォルトとなる元帳を指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプ BA が使用されます。
2. **元帳タイプ 2** 元帳タイプ 2 のデフォルトとなる元帳を指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプ AA が使用されます。
3. **他のアプリケーションで使用する元帳タイプ** 他のプログラムにアクセスしているときに適用する元帳タイプを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランクまたは 1:元帳タイプ 1

2: 元帳タイプ 2

## 表示

### 1. 残高がゼロの勘定科目の非表示

残高がゼロの転記対象勘定科目を表示するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランクまたは N:表示する。

Y: 表示しない。

この処理オプションは転記対象勘定科目にのみ適用されます。非転記見出し勘定科目は、照会フォームに表示されません。

### 2. 計算方法

差異を計算するときに適用する計算方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランクまたは S:減算

A: 加算

M: 乗算

D: 除算

### 3. 追加元帳タイプ 1、4. 追加元帳タイプ 2

元帳タイプ 1 および 2 の勘定残高を読み込むときに使用する追加元帳タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、これら 2 つの元帳タイプの残高を読み込む際に追加元帳タイプは使用されません。

### 5. 補助元帳

勘定残高の読み込みに使用する補助元帳を指定します。補助元帳のある全ての取引を表示するには、「\*」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、補助元帳なしの取引が選択されます。

### 6. 補助元帳タイプ

ユーザー定義コード テーブル 00/ST から、勘定残高の読み込みに使用する補助元帳タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、ブランクの補助元帳タイプが使用されます。

### 7. 勘定科目の詳細レベル

勘定科目に適用する詳細レベルを指定します (3 から 9)。この処理オプションをブランクにすると、9 が適用されます。

## 通貨

### 1. 通貨コード

多通貨処理を適用する場合のみ、この処理オプションを使用します。

勘定残高の読み込みに使用する通貨コードを指定します。この処理オプションをブランクにすると、全ての通貨コードが使用されます。

## 選択

### 1. 有効日付残高

期末終了日付を使用するか、または有効日付の残高を計算するかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランクまたは N:期間終了日付を使用する

Y (画面上では "1"): 指定した有効日付の残高を計算する

### 2. デフォルトで表示する項目

終了日付と終了期間のどちらを表示するか指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランクまたは N:終了日付  
Y: 終了期間

試算表と元帳の比較の検討

[試算表/元帳比較] フォームにアクセスします。

試算表と元帳の比較 - 試算表/元帳比較

選択(S) 検索(I) 開じる(L) ロー(R) ツール(T)

一致する勘定科目 \*

2.8110

☒ 一致する勘定科目

元帳タイプ1

BA

USD

予算金額

詳細レベル

9

☒ 期間/日付

元帳タイプ2

AA

USD

実績金額

元帳タイプ1終了期間

6

タイプ/補助元帳

\*

元帳タイプ2終了期間

6

通貨コード

\*

レコード 1-3

グリッドのカスタマイズ

	勘定科目名	予算金額 当月計上額	実績金額 当月計上額	当月計上額 差異	当月計 差異%
<input type="checkbox"/>	Other General & Administrative				
<input type="checkbox"/>	Salaries and Wages				
<input type="checkbox"/>	Other General & Administrative				

[試算表/元帳比較] フォーム

- [一致する勘定科目]

特定の勘定科目の残高を確認するには、対応する勘定科目コードを入力します。ビジネスユニット内の全ての勘定科目の残高を表示するには、対応するビジネスユニット番号を入力します。
- [一致する勘定科目] チェックボックス

[一致する勘定科目] フィールドに入力した値に基づき、このチェック ボックスを以下のとおりにオンまたはオフにします。

特定の勘定科目の残高を確認するには、チェック ボックスをオンにします。

ビジネスユニット内の全ての勘定勘定科目の残高を確認するには、チェック ボックスをオフにします。
- [元帳タイプ 1]、[元帳タイプ 2]、[タイプ/補助元帳]、[詳細レベル]

必要に応じて、これらのフィールドのデフォルト情報を変更します。

勘定科目に転記した全ての補助元帳情報を表示するには、[タイプ/補助元帳] フィールドに「\*」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、補助元帳なしで転記された金額のみが表示されます。
- [期間/日付]

特定の期間の終了日付の勘定残高を確認するには、このチェック ボックスをオンにします。

期間内の特定の日付の勘定残高を確認するには、このチェック ボックスをオフにします。



[元帳タイプ 1 終了期間]、[元帳タイプ 2 終了期間] これらのフィールドの値は必要に応じて変更します。[元帳タイプ 1 終了期間] および [元帳タイプ 2 終了期間] フィールドをブランクにすると、ビジネスユニットが属する会社のシステム日付が自動的に入力されます。

期間内の特定日付の勘定科目を確認するには、[元帳タイプ 1 終了期間] と [元帳タイプ 2 終了期間] フィールドに指定する日付を入力し、[期間/日付] チェック ボックスをオフにします。

指定日付の勘定残高を確認するには、このプログラムの [有効日付残高] 処理オプションを “Y” に設定する必要があります。

**[ロー] メニューからの別のプログラムへのアクセス**

試算表と元帳の比較プログラムから別のプログラムにアクセスすることができます。[ロー] メニューからアクセスできるフォームは、以下のとおりです。

- [取引明細の処理]
- [勘定残高]
- [通貨別勘定残高]
- [補助元帳別勘定残高]
- [オーダー明細の処理]
- [コミットメント照会の処理]

**補助元帳別試算表の情報の検討**

[補助元帳別勘定残高] フォームにアクセスします。

**主科目別試算表の検討**

試算表（主科目別）プログラム（P09214）を使用して、全てのビジネスユニットの勘定残高を確認できます。また、2 つの元帳タイプの残高を同時に表示できるため、実績金額と通貨または予算金額などを並べて表示して確認できます。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 試算表（主科目別）（P09214）の処理オプションの設定
- 主科目別残高の検討

**主科目別試算表の検討に使用するフォーム**

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[主科目別試算表]	W09214A	[レポートおよびオンライン照会] (G0912)、[試算表 (主科目別)]	全てのビジネスユニットの勘定科目情報を検討します。

**試算表（主科目別）（P09214）の処理オプションの設定**

試算表（主科目別）プログラムの処理オプションは、このセクションで説明する事項以外は、試算表と元帳の比較プログラムの処理オプションと同一です。

参照: 第 31 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「試算表と元帳の比較 (P09210A) の処理オプションの設定」、352 ページ

## 選択

### 1. 有効日付残高

期間終了日付を使用するか、または指定した有効日付の残高を計算するかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランクまたは N: 期間終了日付を使用する。

[終了日付] フィールドには、期間終了日付のみ使用できます。合計金額は、F0902 テーブルから読み込まれます。

Y: 指定した有効日付の残高を計算する。

[終了日付] フィールドには、期間内であればどの日付でも入力することができ、入力する日付までの合計金額が計算されます。合計金額の計算には、F0902 テーブルではなく、F0911 テーブルが使われます。

## デフォルト

### 3. 他のアプリケーションで使用する元帳タイプ

他のプログラムにアクセスする際に使用する元帳タイプを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランクまたは 1: 元帳タイプ 1

2: 元帳タイプ 2

---

注: この処理オプションの設定が適用されるのは、勘定残高 (月別) (P0902P1) など、1 つの元帳タイプしか使用できないプログラムにアクセスする場合のみです。

取引明細照会 (P09200) のように 2 つの元帳タイプを使用できるプログラムでは、元帳タイプ 1 には呼び出した元のプログラムの元帳タイプ 1 と同じ値が常に表示され、元帳タイプ 2 はブランクになります。

---

## 表示

### 7. モデル勘定科目

モデル勘定科目を表示するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランクまたは N: 会社 00000 または \* 以外が指定された場合にモデル勘定を除外する。

Y: 会社 00000 または \* 以外が指定された場合にモデル勘定を含める。

## 主科目別残高の検討

[主科目別試算表] フォームにアクセスします。

**試算表(主科目別) - 主科目別試算表**

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

主科目/補助科目 8110 ☒ 一致する勘定科目 ☐ 期間/日付

会社 \*

元帳タイプ1 AA USD 実績金額 終了日付 2005/06/30

元帳タイプ2 BA USD 予算金額 タイプ/補助元帳 \* 通貨コード \*

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	勘定科目コード	勘定科目名	実績金額 当月計上額	予算金額 当月計上額
<input type="checkbox"/>	3.8110	Salaries and Wages	22,500.00	45,833.00
<input type="checkbox"/>	4.8110	Salaries and Wages	15,000.00	
<input type="checkbox"/>	5.8110	Salaries and Wages	12,750.00	

[主科目別試算表] フォーム

**[一致する勘定科目]**

[主科目/補助科目] フィールドの勘定科目コードのみの残高を確認するには、このチェック ボックスをオンにします。

[主科目/補助科目] フィールドに指定した勘定科目コードを持つ勘定科目、および、この勘定科目より大きいコード番号を持つ全ての勘定科目を一覧表示するには、このチェック ボックスをオフにします。

**[期間/日付]**

期間を指定するには、このチェック ボックスをオンにして、[終了期間] フィールドに期間番号を入力します。

**[終了期間]**

期間番号を入力します。このフィールドは、[期間/日付] チェック ボックスをオンにした場合にのみ表示されます。

**[終了日付]**

終了日付を指定するには、このフィールドに日付を入力します。このフィールドをブランクにすると、会社の現行期間の最終日付が自動的に入力されます。

**[ロー] メニューからの別のプログラムへのアクセス**

試算表(主科目別) プログラムから複数の別のプログラムにアクセスできます。[ロー] メニューからアクセスできるフォームは、以下のとおりです。

- [取引明細の処理]
- [勘定残高]
- [通貨別勘定残高]
- [補助元帳別勘定残高]

試算表（会社別）プログラム（P09216）を使用して、会社一社に対する全てのビジネスユニット内の特定の勘定科目の残高情報を検討します。

- ・試算表（会社別）(P09216) の処理オプションの設定
- ・会社別残高の検討

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[会社別試算表]	W09216A	[レポートおよびオンライン照会](G0912)、[試算表(会社別)]	会社一社に対する全てのビジネスユニット内の特定の勘定科目に関する勘定残高を検討します。

試算表（会社別）プログラムの処理オプションは、このセクションで説明する事項以外は、試算表と元帳の比較プログラムの処理オプションと同一です。

ユーザー定義コード テーブル (09/LT) から、レコードを表示するときに使用する元帳タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプ AA が使用されます。

試算表(会社別) - 会社別試算表

検索①

閉じる(L)

ツール(T)

会社 \*

00001

Financial/Distribution Company

☒ 期間/日付

主科目/補助科目

1411

☒ 一致する科目

終了期間

6

元帳タイプ

AA

USD

実績金額

通貨コード

\*

タイプ/補助元帳

C

21

Balance Sheet

レコードが取り込まれていません

グリッドのカスタマイズ

	勘定科目コード	勘定科目名	詳細 レベル	実績金額 当月計上額	実績金額 残高
--	---------	-------	-----------	------------	---------

参照: 第 31 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「主科目別残高の検討」、356ページ

# 補助元帳別試算表の検討

試算表（補助元帳別）プログラム (P09215) を使用して、1 つの元帳または全ての元帳の勘定残高を検討します。検討可能な残高の元帳タイプは 1 タイプのみです。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 試算表（補助元帳別）(P09215) の処理オプションの設定
- 補助元帳別試算表の検討

## 補助元帳別残高の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[補助元帳別試算表]	W09215B	[レポートおよびオンライン照会] (G0912)、[試算表 (補助元帳別)]	特定の補助元帳または全ての補助元帳の勘定残高を検討します。

## 試算表（補助元帳別）(P09215) の処理オプションの設定

試算表（補助元帳別）プログラムの処理オプションは、試算表と元帳の比較プログラムで使用される処理オプションのサブセットです。

参照: 第 31 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「試算表と元帳の比較 (P09210A) の処理オプションの設定」、352 ページ

## 補助元帳別残高の検討

[補助元帳別試算表] フォームにアクセスします。

試算表 (補助元帳別) - 補助元帳別試算表

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

タイプ/補助元帳

A

00006001

Allen, Ray

会社

\*

元帳タイプ

AA

USD

実績金額

ビジネスユニット

\*

終了日付

2005/06/30

☐ 期間/日付

主科目

\*

通貨コード

\*

レコード 1 - 21

グリッドのカスタマイズ

	勘定科目コード	勘定科目名	実績金額 当月計上額	実績金額 残高	補助元帳
<input type="checkbox"/>		主科目合計	166,240.00	166,240.00	
<input type="checkbox"/>		ビジネスユニット合計	21,111.15-	21,111.15-	
<input type="checkbox"/>	200.1411	Inventory	316,602.89-	316,602.89-	000060
<input type="checkbox"/>		主科目合計	316,602.89-	316,602.89-	
<input type="checkbox"/>		ビジネスユニット合計	316,602.89-	316,602.89-	
<input type="checkbox"/>	D30.5010	Store Sales	359,189.50-	359,189.50-	000060
<input type="checkbox"/>		主科目合計	359,189.50-	359,189.50-	

[補助元帳別試算表] フォーム

## [ロー] メニューからの別のプログラムへのアクセス

試算表 (補助元帳) プログラムから複数の別のプログラムにアクセスできます。[ロー] メニューからアクセスできるフォームは、以下のとおりです。

- [取引明細の処理]
- [勘定残高]

---

## 取引明細の検討

このセクションでは、取引明細照会の概要と、以下の方法について説明します。

- 取引明細照会 (P09200) の処理オプションの設定
- 取引明細レコードの検討

### 取引明細照会について

取引明細照会プログラム (P09200) を使用して、勘定科目の取引明細を日付範囲別、補助元帳別、元帳タイプ別に検討することができます。F0911 テーブルから転記済みと未転記の両方の取引が表示され、元帳合計 (転記済み金額と未転記金額) と未転記合計が表示されます。これらの差額が転記済み合計金額になります。

年累計期間金額が転記済み元帳合計と等しくなるのは、日付選択が次のような基準に該当する場合です。

- 開始日付が会計年度の第 1 日目である。
- 終了日付が指定月の最終日である。
- 開始日付と終了日付が同じ会計年度内に存在する。

複数の会計年度にまたがる場合や現行会計年度の一部のみを表示する場合、年累計と期間累計の金額が転記済み元帳合計と等しくならない場合があります。

損益計算書勘定では、年累計と期間累計の金額が等しくなります。このため、損益計算書勘定に期間累計金額は表示されません。

[第 2 元帳タイプ] 処理オプションの設定によっては、実績元帳と通貨再換算元帳などの 2 つの元帳タイプの取引を同時に検討することができます。第 2 元帳タイプを使うと外貨建て取引と国内通貨取引を同時に表示できるため、多通貨で取引をする場合に特に役立ちます。

## 取引明細の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[取引明細の処理]	W09200A	[レポートおよびオンライン照会](G0912)、[取引明細照会]	1つの勘定科目に対する取引明細レコードの情報を検討します。  取引明細を印刷するには、[レポート]メニューの[元帳印刷]をクリックします。
[仕訳入力]	W0911A	[取引明細の処理]フォームでソース情報を確認するレコードを選択し、[選択]をクリックするか、または[ロー]メニューの[当初仕訳元帳タイプ1]をクリックします。  元帳タイプ2のレコードのソース情報を確認するには、レコードを選択して[ロー]メニューの[当初仕訳元帳タイプ2]をクリックします。	元帳タイプ1と2の取引明細レコードのソース情報を確認します。  当初取引の種類により、使用されるフォームが異なります。たとえば、当初取引が仕訳の場合は[仕訳入力]フォームが使用され、当初取引が売掛金請求書の場合は[請求書入力]フォームが使用されます。
[取引明細の詳細]	W09200F	[取引明細の処理]フォームで、[ロー]メニューの[明細]をクリックします。	取引明細の詳細情報を確認します。
[取引明細の追加詳細]	W09200G	[取引明細の処理]フォームで、[フォーム]メニューの[追加詳細]をクリックします。	取引明細の番号、日付、およびバッチを作成したユーザーのIDを含む追加の詳細情報を確認します。

## 取引明細照会 (P09200) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、[取引明細の処理] フォームで使用するデフォルト値を設定します。

### デフォルト

1. 勘定科目コード、2. 開始日付、3. 終了日付、4. 元帳タイプ、5. 補助元帳 - 総勘定元帳、6. 補助元帳タイプ、7. 通貨コード

処理オプションごとに、照会フォームのフィールドに表示されるデフォルト値を指定します。

### 選択

#### 1. 使用する開始日付

[開始日付] フィールドをブランクにした場合、照会フォームに自動入力される日付を指定します。有効値は以下のとおりです。

- 1: 現行会計年度の開始日付をデフォルトの開始日付として使用する。
- 2: 現行期間の開始日付をデフォルトの開始日付として使用する。

## 表示

### 1. 第 2 元帳タイプ

第 2 元帳タイプを表示し、2 つの元帳タイプを同時に表示するかどうか指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:1 つの元帳タイプのみ表示する。

1: 2 つの元帳タイプを表示する。

元帳タイプ 2 の金額は、元帳タイプ 1 に基づいて計算されます。このため、照会フォームには、元帳タイプ 1 の金額があるレコードのみが表示されます。

たとえば、元帳タイプ 1 に「AA」、元帳タイプ 2 に「CA」を入力した場合、F0911 テーブルで AA 元帳タイプ 1 の金額がある全てのレコードと、CA 元帳タイプ 2 に一致する全てのレコードが表示されます。一致するレコードは、伝票番号、伝票タイプ、伝票会社、元帳日付、および仕訳行番号が同じである必要があります。AA 元帳に金額がない場合は、対応する CA 元帳の金額も存在しません。

### 2. 元帳タイプ

[元帳タイプ 2] フィールドに表示する元帳タイプを指定します。[第 2 元帳タイプ] 処理オプションで、2 つの元帳タイプを表示するように設定する必要があります。

## 処理

### 1. 伝票タイプ PK または PN の場合に起動するプログラム

ソース伝票にアクセスする際に使用するフォームを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:[手動支払入力] フォームにアクセスする。

1: [仕訳入力] フォームにアクセスする。

## 通貨

### 1. 仮定通貨

[仮定] 通貨フィールドのデフォルト値として使用する通貨コードを指定します。

[仮定] フィールドは、[取引明細の処理] フォームで [フォーム] メニューの [仮定通貨] をクリックすると表示されます。この処理オプションを設定することにより、取引の当初入力時の通貨以外の通貨で金額を表示することができます。

元帳タイプ 1 に関連する金額のみが [仮定] 通貨に換算されます。この処理オプションをブランクにすると、取引の当初入力時と同じ通貨で金額が表示されます。

### 2. 為替レート日付

仮定通貨での金額表示のための為替レートの取り込みに使用する日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、[取引明細の処理] フォームの [終了日付] フィールドの日付が使用されます。

## 取引明細レコードの検討

[取引明細の処理] フォームにアクセスします。



取引明細照会 - 取引明細の処理

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) レポート(P) ツール(T)

勘定科目 No.2.8720Office Supplies Expense

元帳タイプ 1AAUSD実績金額開始日付 \*2005/01/01終了日付 \*2005/06/30補助元帳タイプ\*通貨コード\*

☐ 転記済み☐ 未転記☒ す...年累計

レコード 1 - 5

グリッドのカスタマイズグリッド・フォーマット名1

	伝票タイプ	伝票 No.	伝票会社	元帳日付	摘要	元帳タイプ1金額	元帳タイプ1借方	転記コード	LT2 転記
<input type="checkbox"/>	JE	3030	00020	2005/06/30	Beginning Balances	37,869.22	37,869.22	P	
<input type="checkbox"/>					カラム合計	37,869.22	37,869.22		
<input type="checkbox"/>					元帳合計	37,869.22	37,869.22		
<input type="checkbox"/>					転記済み合計	37,869.22	37,869.22		
<input type="checkbox"/>					未転記合計				

[取引明細の処理] フォーム

- [元帳タイプ 1]

AA (実績金額) 元帳以外の元帳を確認するには、このフィールドの値を変更します。デフォルトの元帳タイプは、AA に設定されています。
- [元帳タイプ 2]

このフィールドの値は、必要に応じて変更します。処理オプションで 2 つの元帳タイプを表示する設定をした場合のみ、このフィールドが表示されます。

## 主科目別取引明細の検討

このセクションでは、主科目別取引明細の概要と、以下の方法について説明します。

- 勘定科目の照会 (主科目別) (P09201) の処理オプションの設定
- 主科目別元帳の検討

### 主科目別取引明細について

勘定科目の照会 (主科目別) プログラム (P09201) を使用して、全てのビジネスユニットの主科目の取引明細を検討します。F0911 テーブルから転記済みと未転記の両方の取引が表示されます。検討する取引を絞り込んで検索するには、取引明細照会プログラム (P09200) で使用可能な検索条件と同じ検索条件を使います。

[第 2 元帳] 処理オプションの設定によっては、実績元帳と予算元帳など、2 つの元帳タイプの取引を同時に検討することができます。

## 主科目別取引明細の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[主科目別取引明細]	W09201A	<p>[レポートおよびオンライン照会](G0912)、[勘定科目の照会(主科目別)]</p> <p>取引明細を印刷するには、[レポート]メニューの[元帳の印刷]をクリックします。</p>	全てのビジネスユニット内の主科目の取引明細レコードを検討します。

## 勘定科目の照会（主科目別）(P09201) の処理オプションの設定

勘定科目の照会（主科目別）プログラムの処理オプションは、このセクションで説明する事項以外は、取引明細照会プログラムの処理オプションと同一です。

参照: 第 31 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「取引明細照会 (P09200) の処理オプションの設定」、361 ページ

### デフォルト

**主科目/補助科目** [主科目別取引明細] フォームの [主/補助] フィールドに表示するデフォルト値を指定します。

## 主科目別元帳の検討

[主科目別取引明細] フォームにアクセスします。

勘定科目の照会(主科目別) - 主科目別取引明細

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) レポート(P) ツール(T)

主補助8720

元帳タイプ1AA

元帳タイプ2CA

タイプ補助元帳

転記済み

未転記

す...

☒ 会社別に小計を表示する

実績金額

外貨

会社(開始)\*

会社(終了)\*

開始日付2005/07/01

終了日付2005/07/31

通貨コード\*

レコード 1 - 13

グリッドのカスタマイズ

勘定科目名	伝票タイプ	伝票 No.	伝票会社	元帳日付	摘要	元帳タイプ1金額	元帳タイプ2借方
Office Supplies Expense	JE	1008	00001	2005/07/31	July Account Activity	2,160.00	
Office Supplies Expense	JE	1008	00001	2005/07/31	July Account Activity	1,620.00	
Office Supplies Expense	JE	1008	00001	2005/07/31	July Account Activity	1,080.00	
Office Supplies Expense	JE	1008	00001	2005/07/31	July Account Activity	2,970.00	
					会社小計00001	7,830.00	
Office Supplies Expense	PV	3107	00050	2005/07/31	Maddox Industries	1,500.00	
					会社小計00050	1,500.00	

[主科目別取引明細] フォーム

## カテゴリ コード別取引明細の検討

このセクションでは、カテゴリ コード別取引明細の概要と、以下の方法について説明します。

- 勘定科目の照会 (カテゴリ コード別) (P09202) の処理オプションの設定
- オンラインでのカテゴリ コード別取引明細の検討

### カテゴリ コード別取引明細について

勘定科目の照会 (カテゴリ コード別) プログラム (P09202) を使用して、代替 (法定) 勘定科目表用に設定したカテゴリ コードの詳細取引を検討します。このプログラムの [カテゴリ・コード] 処理オプションにカテゴリ コード (21、22、または 23) を指定します。F0911 テーブルから転記済みと未転記の両方の取引が表示されます。絞り込み検索を行うには、取引明細照会プログラムで使用可能な検索条件と同じ検索条件を使って検索します。

第 2 元帳処理オプションの設定によっては、実績元帳と予算元帳など、2 つの元帳タイプの取引を同時に検討することができます。

Copyright © 2005, Oracle. All rights reserved.

365

## カテゴリ コード別取引明細の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[カテゴリ・コード別取引明細の処理]	W09202A	[レポートおよびオンライン照会](G0912)、[勘定科目の照会(カテゴリコード別)]  勘定科目の取引明細を印刷するには、勘定科目を選択して[ロー]メニューの[元帳の印刷]をクリックします。	法定勘定科目表の取引明細レコードを検討します。

### 勘定科目の照会 (カテゴリ コード別) (P09202) の処理オプションの設定

勘定科目の照会 (カテゴリ コード別) プログラムの処理オプションは、このセクションで説明する事項以外は、取引明細照会プログラムの処理オプションと同一です。

参照: 第 31 章、「勘定残高と取引明細の検討」、「取引明細照会 (P09200) の処理オプションの設定」、361 ページ

#### カテゴリ コード

**カテゴリ コード (21 - 23)** ユーザー定義コード テーブル 09/21 ~ 23 から照会する勘定科目カテゴリコードを入力します。デフォルト値はカテゴリ 21 に設定されています。

#### デフォルト

**代替勘定** 代替勘定の番号として、カテゴリ コード (21 - 23) 処理オプションで指定したカテゴリ コードの数値を入力します。

### カテゴリ コード別元帳の検討

[カテゴリ・コード別取引明細の処理] フォームにアクセスします。

**[代替勘定科目]** ユーザー定義コード テーブル 09/21 ~ 23 のユーザー定義コードに割り当てられた勘定科目が表示されます。[カテゴリ・コード] と [代替勘定] 処理オプションで設定された値に基づいて、このフィールドに表示される値が決定されます。

**[会社別に小計を表示する]** [会社 (開始)] および [会社 (終了)] フィールドで指定した範囲に含まれる各会社の小計を表示するには、このチェック ボックスをオンにします。

---

## (CHL and PER) Reviewing Ledgers by Legal Number

This section discusses how to:

- Set processing options for Journal Entries Inquiry by Legal Number (P76H9002).
- Review ledgers by legal number.

## Form Used to Review Ledgers by Legal Number

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
Journal Entries Inquiry by Legal Number	W76H9002A	General Accounting (G76H09) or General Accounting (G76P09), Journal Entries Inquiry by Legal Number	Review journal entries by legal number.

## Setting Processing Options for Journal Entries Inquiry by Legal Number (P76H9002)

Processing options enable you to specify the default processing for programs.

### General

**Ledger Type** Specify the ledger type code to display from UDC table 76H/XX. The system uses LL (ledger types to process) as the default value.

## Reviewing Ledgers by Legal Number

Access the Journal Entries Inquiry by Legal Number form.

---

## 月別勘定残高の検討

このセクションでは、月別勘定残高の概要と以下の方法について説明します。

- 勘定残高（月別）(P0902P1) の処理オプションの設定
- 月別勘定残高の検討

### 月別勘定残高について

勘定残高（月別）プログラム (P0902P1) を使用して、次のような勘定科目の総勘定元帳の期間について残高を検討します。

- 会計年度の各期間における各勘定科目の月次計上額（転記額）と月末残高
- 損益勘定の前年度の年間転記額
- 貸借対照表勘定の前年度繰越残高

このオンライン照会では、F0902 テーブルの情報が表示されます。このプログラムは、年度締めプログラム (R098201) を実行した後に特に役立ちます。年度締めプログラムの実行後、この照会フォームで繰越残高と前年度転記額を検討し、締め処理が正しく行われたかどうかを確認できます。

月別勘定残高の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[勘定残高]	W0902P1D	[レポートおよびオンライン照会](G0912)、[勘定残高(月別)]	月別勘定残高を検討します。

勘定残高（月別）(P0902P1) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

会計年度、元帳タイプ、  
補助元帳、補助元帳タイプ、通貨コード

処理オプションごとに、[勘定残高] フォームのフィールドに表示されるデフォルト値を指定します。

月別勘定残高の検討

[勘定残高] フォームにアクセスします。

勘定残高(月別) - 勘定残高

検索 ⓘ 閉じる ⓘ ツール ⓘ

勘定科目コード1.1462Direct Ship Purchases

会計年度05

元帳タイプAAUSD

タイプ/補助元帳\*

補助元帳名

通貨コード\*

前年度計上額

繰越残高

期間

当月

累計

2005/01/31

2005/02/28

2005/03/31

2005/04/30

2005/05/31

2005/06/30

2005/07/31

2005/08/31

2005/09/30

2005/10/31

2005/11/30

2005/12/31

[勘定残高] フォーム

[繰越残高]

前年度の累計残高が表示されます。この金額は、貸借対照表の期首残高および繰越作業原価勘定科目の開始残高として使用されます。

注: この金額を、前年度の年間転記額と混同しないようにご注意ください。前年度の年間転記額には、前年度からの転記額のみが含まれます。前の年の最終残高は含まれません。前年度の年間転記額は、通常、損益計算書での比較に使用されます。

[前年度計上額] (前年度の年間転記額) 前年度の年間転記額が表示されます。この金額は、損益計算書での比較に使用されます。

## 補助元帳別勘定残高の検討

このセクションでは、補助元帳別勘定残高の概要と、補助元帳別残高の検討方法について説明します。

### 補助元帳別勘定残高について

勘定残高 (補助元帳別) プログラム (P092131) を使用して、特定の勘定科目の補助元帳別および補助元帳タイプ別の勘定残高情報を検討します。このプログラムでは、F0902 テーブルから、現行期間と年累計の転記額と残高が表示されます。このプログラムには、処理オプションはありません。

### 補助元帳別勘定残高の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[補助元帳別勘定残高]	W092131A	[レポートおよびオンライン照会] (G0912)、[勘定残高 (補助元帳別)]	特定の勘定科目の補助元帳別残高を検討します。

### 補助元帳別残高の検討

[補助元帳別勘定残高] フォームにアクセスします。

勘定残高 (補助元帳別) - 補助元帳別勘定残高

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

✓

🔍

✕

🔑

🔧

勘定科目コード \*

2.8720

終了日付

2005/07/31

☐ 期間

Office Supplies Expense

元帳タイプ

AA

USD

実額金額

通貨コード

\*

レコード 1-2

グリッドのカスタマイズ

	補助元帳タイプ	補助元帳	補助元帳名	繰越残高	当年度計上額	当月計上額	残高
<input checked="" type="radio"/>					37,869.22		37,869.22
<input type="radio"/>		合計					37,869.22

[補助元帳別勘定残高] フォーム

転記編集コードが S でない場合のみ、このフォームに補助元帳の明細情報が表示されます。

[当年度計上額] フィールドには年累計の転記額が表示され、[当月計上額] フィールドには現行期間の転記額が表示されます。

[期間] 会計期間を絞り込んで検索するには、このチェック ボックスをオンにします。  
終了日付を指定して検索するには、このチェック ボックスをオフにします。

- [終了期間]**                      **[期間]** チェック ボックスをオンにした場合は、このフィールドに会計期間を表す数字を入力します。このフィールドをブランクにすると、現行期間の終了日付が使用されます。
- [終了日付]**                      **[期間]** チェック ボックスをオフにした場合は、このフィールドに特定の終了日付を入力します。

## (CHL and PER) Reviewing Account Balances by Account and Category Code

This section discusses how to:

- Set processing options for Balance Inquiry by Account/Category Code (P76H9006).
- Review balances by account and category code.

### Form Used to Review Account Balances by Account and Category Code

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
Account Balance Inquire	W76H9006A	General Accounting (G76H09) or General Accounting (G76P09), Balance Inquiry by Account/Cat. Code	Display balances by account and subsidiary or by category code, as well as by business unit with detail or summary information.

## Setting Processing Options for Balance Inquiry by Account /Category Code (P76H9006)

Use these processing options to specify how to display cost centers, the level of detail in which to summarize balances, the process method, and so on.

### Process

- 1. Cost Center**                      Specify how to display cost centers. Values are:  
Blank: Display detail by cost center.  
1: Display all of the cost centers for a legal company and display summary information for the object and subsidiary account.
- 2. Level of Detail**                      Specify the level of detail. The system summarizes all general ledger balances by the account level of detail specified. Values are 3–9. The default value is 9.
- 3. Legal Company**                      Specify the company number in which to retrieve general ledger balances.
- 4. Process Method**                      Specify the process method. Values are:  
Blank: Display asset and liabilities according to the operation sign. Asset accounts appear with a positive sign in the Asset column and liabilities appear with a negative sign in the Liability column.



- A: Display asset accounts in the Asset column and liability accounts in the Liability column according to AAI items GLG2 (Beginning Assets) and GLG3 (Beginning Liabilities).
- 5. Business Unit** Specify the business unit in which to display object and subsidiary accounts.
- 6. Ledger Type** Specify the ledger type code from UDC table 76H/XX. The system uses LL (ledger types to process) as the default value.
- 7. Category Code** Specify the category code from UDC table 09/21–09/23 in which to group the GL accounts. The system displays the category code description instead of the GL account.
- If you leave this processing option blank, balances are grouped and displayed by object and subsidiary account.

### Print Options

- Accounts with Zero Amounts** Specify whether to display accounts with zero amounts.
- Blank: Do not display accounts with zero amounts.
- 1: Display accounts with zero amounts.
- 2: Do not display accounts with zero amounts and with the same level of detail that is specified in the Level of Detail processing option.

### Dates

- Period Number** Specify the tax period to display on the form.
- Fiscal Year** Specify the fiscal year to display on the form.

## Reviewing Balances by Account and Category Code

Access the Account Balance Inquire form.

---

## (CHL and PER) Reviewing Debit and Credit Balances by Month

This section discusses how to:

- Set processing options for Debit/Credit Inquiry by Month (P76H9007).
- Review debit and credit account monthly balances.

## Form Used to Review Debit and Credit Balances by Month

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
Account Balances	W76H9007A	General Accounting (G76H09) or General Accounting (G76P09), Debit/Credit Inquiry by Month	Display debit and credit balances by account number and month.

## Setting Processing Options for Debit/Credit Inquiry by Month (P76H9007)

Use these processing options to set default values for the Account Balances form.

### Defaults

<b>Fiscal Year</b>	Specify the fiscal year to display on the form.
<b>Ledger Type</b>	Specify the ledger type code to display from UDC table 76H/XX. The system uses LL (ledger types to process) as the default value.
<b>Subledger and Subledger Type</b>	Specify the subledger and subledger type to display. To display account balances for all subledgers, enter *.
<b>Currency Code</b>	Specify the currency code in which to display debit and credit amounts. To display accounts balances for all currency codes, enter *.

## Reviewing Debit and Credit Monthly Balances

Access the Account Balances form.

## 第 32 章

# 財務レポートの作成

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、財務レポートの概要と以下の方法について説明します。

- 損益計算書の作成
- 貸借対照表の作成
- (RUS) Generate a balance sheet
- (CHN) Generate a sample balance sheet and income statement
- (RUS) Generate the profit and loss report
- キャッシュ フロー計算書の作成
- (RUS) Generate a cash flow statement
- (RUS) Generate a changes in equity report
- 集計財務レポートの作成
- 月別損益計算書の作成
- 差異分析レポートの作成
- (RUS) Generate the Petty Cash Book report
- (ITA) Verify account balances
- (Rapid Start) Review financial reports and inquiries

---

## 財務レポートについて

ほとんどの企業の会計および経理部門では、財務レポートを定期的に作成する必要があります。通常、このようなレポートは各会計期間の期末や年度末に作成されます。(日本の商法と企業会計原則では、貸借対照表、損益計算書、利益処分計算書、付属明細表の 4 種類を財務諸表と定義しています。財務報告のための財務レポートは、財務諸表だけでなく、企業の資源、債務、収益力などを示すさまざまな情報、つまり会計システムによって提供されるあらゆるレポートを意味しています。) 現行会計期間と年累計の金額を、前年度の同じ期間の金額と比較するには、損益計算書を印刷します。会社の財務状態を評価するには、貸借対照表を印刷します。

財務レポートには、ビジネスユニット マスター (F0006)、勘定科目マスター (F0901)、勘定残高 (F0902) の各テーブルの情報が統合されます。

### 財務レポートのタイプ

次の表で、財務レポートのタイプについて説明します。

機能	説明
標準レポート	一般会計システムに用意されている標準テンプレートを使用することができます。レポートテンプレートには、ユーザーのデータ用の固定フォーマットが含まれており、カラム数、カラム順序、カラム見出しが事前に定義されています。
カスタムレポート	レポートテンプレートを使用して独自のバージョンを作成できます。1つのレポートバージョンに会社ごとの金額、または複数の会社を連結した合計金額を含めることができます。  レポート設計ツールを使用して、財務レポートをカスタマイズして新しいレポートを作成できます。
レポートに表示される詳細および集計情報	勘定科目の表示の詳細レベルを指定すると、さまざまな集計レベルの財務レポートを印刷できます。AAI(自動仕訳)を使用して、レポートに使用する勘定科目範囲と小計を割り当てることができます。

## 損益計算書と貸借対照表のデータ選択とデータ順序について

レポートに記載する主科目を選択する必要があります。また、元帳タイプも指定する必要があります。元帳タイプを指定しないと、全ての元帳タイプが結合され、正確な結果が得られない場合があります。

財務レポートは、次の順序で印刷されます。

- 会社
- 主科目
- 補助科目

会社をデータ順序項目の 1 番目として使用しない場合、会社 00000 のデータを使用して財務報告日付が決められます。

データの整合性を保ち、詳細レベルで正確な小計を計算するために、主科目、補助科目という順序にする必要があります。複数のビジネスユニットまたは会社を集計したレポートを印刷するには、主科目、補助科目のみをデータ順序に指定します。

主科目の直前にあるデータ順序項目により、全ての財務レポートのページ区切りと合計が確定されます。たとえば、データ順序が会社、主科目、補助科目の場合、会社番号が変わるところに改ページと合計が挿入されます。主科目が最初のデータ順序項目である場合は、レポートにページ区切りはなく、合計はレポートの最後に表示されます。

データ順序とレベル区切りを変更すると、小計が変わります。たとえば、レベル区切りにカテゴリコードを指定して、小計を作成できます。

次の表は、レポートのタイプ別のデータ順序を示します。

レポートのタイプ	データ順序の設定
ビジネスユニットレポート	次のデータ順序にする必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ビジネスユニット</li> <li>• 主科目</li> <li>• 補助科目</li> </ul>
ビジネスユニット集計レポート	次のデータ順序にする必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 会社</li> <li>• 主科目</li> <li>• 補助科目</li> </ul>
会社集計レポート	次のデータ順序にする必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 主科目</li> <li>• 補助科目</li> </ul>

## 損益計算書の作成

このセクションでは、損益計算書の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 損益計算書の印刷
- 損益計算書のデータ選択とデータ順序の設定
- 損益計算書 (R10211B) の処理オプションの設定

### 損益計算書について

損益計算書 (R10211B) により、特定期間の収益と費用、当期利益または当期損失をトラッキングできます。損益計算書を印刷するには、勘定科目表の損益勘定が 1 つのグループにまとまっている必要があります。損益勘定の範囲の中に貸借対照表勘定が入らないようにしてください。

AAI 項目 FSxx を使用して、最適な中間合計が計算されます。特別な中間合計の例を次に示します。

- 粗利益
- 税引前純利益
- 当期利益（損失）

### 事前設定

このセクションのタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- AAI 項目 FSxx が設定されていることを確認します。
- 財務報告期間が正しく設定されていることを確認します。

参照: [第 37 章、「会計期間とレポート期間の締め処理」](#)、「財務レポート期間の変更」、476 ページ

## 損益計算書の印刷

[財務レポート] (G10) の [損益計算書] をクリックします。

## 損益計算書のデータ選択の設定

レポートに記載する主科目を選択する必要があります。たとえば、損益勘定が主科目 5000 から始まる場合は、5000 以上の主科目を選択します。

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書と貸借対照表のデータ選択とデータ順序について」、374ページ

## 損益計算書 (R10211B) の処理オプションの設定

処理オプションで、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 日付

1. 期間、2. 年度      レポートの基準となる期間と会計年度を入力します。空白にすると、会社の財務報告日付が使用されます。

### 詳細レベル

1. 詳細レベル      レポートに印刷する勘定科目明細の最も詳細なレベルを入力します。

### 符号

1. 符号の反転      金額の印刷方法を指定します。有効値は以下のとおりです。
- 0: データ値のままで金額を印刷する。
  - 1: 全ての勘定科目タイプの符号を反転する (収益はプラス、費用はマイナスで印刷されます)。
  - 2: 収益勘定の符号だけを反転する (収益と費用がプラスで印刷されます)。

### 計算

1. 当期利益の計算      当期利益を計算するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
- 空白: 計算しない。
  - 1: 計算する。

### 見出し

1. 見出しの印刷      見出しの印刷方法を指定します。有効値は以下のとおりです。
- 空白: 最初のページにのみ見出しを印刷する。
  - 1: 各ページに、ページ番号と実行日付を含む見出しを印刷する。
  - 2: ページ番号と実行日付を除いた見出しを印刷する。
2. 日付タイトル      見出しに印刷する日付タイトルのタイプを入力します。空白にすると、日付タイトルは印刷されません。

## 貸借対照表の作成

このセクションでは、貸借対照表の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 貸借対照表の印刷
- 貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定
- 貸借対照表 (R10111B) の処理オプションの設定

### 貸借対照表について

貸借対照表 (R10111B) により、資産、負債、資本をビジネスユニット別または会社別にトラッキングできます。貸借対照表を印刷するには、勘定科目表の貸借対照表勘定が 1 つのグループにまとまっている必要があります。貸借対照表勘定の範囲の中に損益勘定が入らないようにしてください。

貸借対照表を使用して、次の項目に関する財務情報をトラッキングできます。

- 現行会計期間
- 前期間末
- 前年度末
- 期間および年度の増減額

AAI 項目 GLG2、GLG3、GLG5 を使用して、貸借対照表勘定の開始から終了までの範囲が設定されます。

### 当期利益の計算方法

当期利益の計算には、実際の収益や費用の勘定科目 (5000-9999) は使われません。その代わりに次のような数式が使用されます。

資産 - (負債 + 資本) = 当期利益

この方法で当期利益を計算すると、貸借対照表の作成にかかる処理時間が大幅に短縮されます。

### 例: 当期利益計算

以下の例は、合計額が当期利益の計算にどのように使用されているかを示しています。

資産 = 6,966,772.54

負債 + 資本 = 6,592,393.31

当期利益 = 374,379.23

この計算は、次の金額に基づいています。

資産 = 6,966,772.54

負債 + 資本:

- 流動負債 = 755,755.74
- 長期負債 = 2,027,576.49
- 普通株 = 267,500.00
- 払込資本金 = 1,535,017.77
- 利益余剰金 = 2,006,543.31

- 負債総額 + 資本 = 6,592,393.31

## 事前設定

このセクションのタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 損益計算書の当期利益（損失）額を確認します。

この金額は、貸借対照表の当期利益（損失）額です。

- AAI 項目 GLG2、GLG3、GLG5 が設定されていることを確認します。
- 財務報告期間が正しく設定されていることを確認します。

参照: 第 37 章、「会計期間とレポート期間の締め処理」、「財務レポート期間の変更」、476 ページ

- 年度末が間に入る期間のレポートについては、年度締めレポート (R098201) が正常に実行されたかどうかを確認します。

繰越残高は、締めの処理が完了しないと作成されません。

参照: 第 38 章、「会計年度の締め処理」、477 ページ

## 貸借対照表の印刷

[財務レポート] (G10) の [貸借対照表] をクリックします。

## 貸借対照表 (R10111B) の処理オプションの設定

貸借対照表の処理オプションは、このセクションで説明する項目以外は損益計算書の処理オプションと同じです。

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書 (R10211B) の処理オプションの設定」、376 ページ

### 符号

#### 符号の反転

金額の印刷方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

0 (ゼロ): データ値のままで金額を印刷する。

1: 負債勘定と資本勘定の符号を反転する。

### 計算

#### 当期利益の計算

当期利益額を計算して印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 印刷しない。

1: 印刷する。

## 貸借対照表のデータ選択の設定

レポートに記載する主科目を選択する必要があります。たとえば、損益勘定が主科目 5000 から始まる場合は、4999 以下の主科目を選択します。

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書と貸借対照表のデータ選択とデータ順序について」、374 ページ



## (RUS) Generating a Balance Sheet

This section provides an overview of the balance sheet for Russia, lists prerequisites, and discusses how to:

- Print a balance sheet.
- Set processing options for Balance Sheet.

### Understanding the Balance Sheet for Russia

The Russian government requires that you produce a balance sheet report at the end of each accounting period. PeopleSoft EnterpriseOne provides the Balance Sheet (R74R9030) to generate a report in PDF format. The system also populates the F74R9030 table when you run the Balance Sheet report.

The report can show amounts for one account, a group of accounts, or a formula based on previous rows. You determine the amounts that appear on the report when you use the G/L Report Setup program (P74R9020) to create the format for the report.

When you run the Balance Sheet report, the system reads the F0902 table and populates the first column of the report with the balance forward amount of the current year, and populates the second column with the balance for the account as of the end of the accounting period specified in the processing options.

The system accesses the values in processing options to determine whether to scale the amounts that it prints, the ledgers and subledgers to use, and whether to print the report title that was defined in the Setup G/L Reports program.

### Prerequisite

Verify that the report format, row descriptions, and other information that the system uses to print the report exist in the F74R9020, F74R9021, F74R9022, and F74R9023 tables.

### Printing a Balance Sheet

Select General Ledger (G74R09), Balance Sheet.

### Setting Processing Options for Balance Sheet (R74R9030)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

#### Defaults

- |  |   |
|--|---|
| <b>1. Fiscal Year and 2. Period Number</b> | Enter the fiscal year and period number for which to run the report. If you leave these processing options blank, the system uses the current year and period for the company that you specify in the Company Number processing option. |
| <b>3. Company Number</b>                   | Specify the number of the company for which to run the report. If you leave this processing option blank, the system uses company 00000.  |
| <b>4. Ledger Types (LT1, LT2, LT3)</b>     | Enter up to three ledger types for which to run the report. The values that you enter must exist in the UDC table 09/LT.  |

- |                          |  |
|--------------------------|--|
| <b>5. Subledger</b>      | Specify the subledger for which to run the report or enter * to run the report for all subledgers. Leave this processing option blank to suppress subledger information.   |
| <b>6. Subledger Type</b> | Specify the subledger type for which to run the report. The value that you enter must exist in the UDC table (00/ST).  |
| <b>7. Scale Factor</b>   | <p>Specify the scaling factor that the system uses when printing numerical values on the report. The value that you enter must exist in UDC table 74R/SF.</p> <p>If you choose to scale numerical values, the system divides the numerical values on the report by the scaling amount that you specify. For example, suppose that the amount for an account in the F0902 table is 23,929. If you choose to scale the amount by a factor of 1000, the system divides 23,929 by 1000, rounds to the nearest whole number, and prints 24 on the report.</p> |

### Print

- |                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| <b>1. Report Name</b>               | Specify the format that the system uses to print the report. The format that you specify must exist in the F74R9020 table. |
| <b>2. Report Title</b>              | Specify the title that prints on the report.   |
| <b>3. Report Title Continuation</b> | Specify additional text that prints with the title of the report.  |

---

## (CHN) Generating a Balance Sheet and Income Statement

This section provides an overview of a balance sheet and income statement for China, lists a prerequisite, and describes how to run the Balance Sheet or Income Statement.

### Understanding the Balance Sheet and Income Statement for China

The Balance Sheet (R75C111) and Income Statement (R75C211) reports create a sample balance sheet and a sample income statement for China. You can customize the balance sheet and income statements according to your specific needs. These reports retrieve information from the F0901, F0902, and F0006 tables.

### Prerequisite

Set up category code 21 in UDC table 09/21 with the appropriate value for each account.

### Running the Sample Balance Sheet and Income Statement

Select Financial Reports (G75C09), Balance Sheet or Income Statement.

## (RUS) Generating the Profit and Loss Report

This section provides an overview of the Profit and Loss report for Russia, lists a prerequisite, and discusses how to:

- Print the profit and loss report.
- Set processing options for Profit and Loss (R74R9010).

### Understanding the Profit and Loss Report for Russia

The Russian government requires that you produce a Profit and Loss report (R74R9010) at the end of each accounting period. The Profit and Loss report is generated in PDF format. The report shows year-to-date balances of groups of accounts as well as previous year balances.

When you run the Profit and Loss report, the system reads the F0902 table to obtain the balances to print on the report. It also reads tables F74R9020, F74R2021, F74R2022, and F74R2023 to obtain information about the report column and row names to print, as well as other information about the layout of the report. The system produces a report and writes records to the F74R9010 table.

The Profit and Loss report has two sections:

Report Section	Description
Profit and Loss Statement	The Profit and Loss Statement section of the report has two columns. The first column contains the sum of each period of the current year's balances. For example, if you run the report for the accounting period ending June, 2006, the first column shows the sums of the accounts from January, 2006 through June, 2006. The second column shows the sum of the same periods balances of the previous year.
Explanation of Incomes and Losses	The Explanation of Incomes and Losses section of the report contains four columns. There is a column for Income and a column for Expenses for the current year and for the previous year. Accounts with negative balances appear in the Expenses column. Accounts with a positive balance appear in the Income column.

The system accesses the values in processing options to determine whether to scale the amounts that it prints, the ledger and subledgers to use, and the title to print on the report.

### Prerequisite

Verify that the report format, row descriptions, and other information that the system uses to print the report exist in tables F74R9020, F74R9021, F74R9022, and F74R9023.

### Printing the Profit and Loss Report

Select General Accounting (G74R09), Profit and Loss.

### Setting Processing Options for Profit and Loss (R74R9010)

The processing options for this report are the same as those for the Balance Sheet (R74R9030).

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「Setting Processing Options for Balance Sheet (R74R9030)」、379 ページ

## キャッシュ フロー計算書の作成

このセクションでは、キャッシュ フロー計算書の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- キャッシュ フロー計算書の印刷
- キャッシュ フロー計算書レポートのデータ選択の設定
- キャッシュ フロー計算書レポート (R10521) の処理オプションの設定

### 関連項目:

第 8 章、「キャッシュ フロー計算書の設定」、69 ページ

## キャッシュ フロー計算書について

キャッシュ フロー計算書レポート (R10521) には、会計報告を行う組織のキャッシュ フローが出力されます。このレポートは、国際会計基準 (IAS) が定める会計報告要件に準拠しています。キャッシュ フロー計算書は、営業活動、投資活動、財務活動の区分に分けられ、現金および現金同等物の流出入に関する情報を提供します。

キャッシュ フロー計算書には、以下のテーブルの情報が取得されます。

- キャッシュ フロー計算書の規則 (F10520)

このテーブルには、レポートに表示される記述、それぞれの記述に関連付けられた勘定科目、勘定科目が通常借方/貸方残高のどちらであるかを示すマークが格納されています。

このテーブルには、小計の記述は含まれません。小計の記述は、国際会計基準 (IAS) 7 に準拠しており、キャッシュ フロー計算書レポートにハード コード化されています。

- 勘定残高 (F0902)

このテーブルには、F10520 テーブルの勘定科目の勘定残高が格納されています。F0902 テーブルおよび処理オプションで指定された会計期間に基づいて、対象期間の年累計転記額が自動的に計算されます。

キャッシュ フロー計算書レポートには、以下に示すように、“増加” または “減少” という文字が勘定科目記述に自動的に追加されます。

- F10520 テーブルで指定されたとおり、その記述に関連付けられている勘定科目が通常借方残高で、F0902 テーブルの残高がプラス (0 以上) の場合は、記述に “増加” が追加されます。残高がマイナス (0 未満) の場合は、“減少” が追加されます。
- F10520 テーブルで指定されたとおり、その記述に関連付けられている勘定科目が通常貸方残高で、F0902 テーブルの残高がプラスの場合は、記述の前に “減少” が挿入されます。残高がマイナスの場合は、“増加” が挿入されます。

キャッシュ フロー計算書レポートの金額に貸借不一致がある場合は、レポートの最後にエラー メッセージが表示されます。期首と期末の現金および現金同等物の差額が、現金および現金同等物の正味増加分または正味減少分と異なる場合に、貸借が不一致になります。

### 例:キャッシュ フロー計算書

以下の例は、キャッシュ フロー計算書の内容を示しています。左端のカラムには、レポートに表示される記述がそのまま表示され、中央のカラムには、左端のカラムの記述に対応する活動コードと行項目、右端のカラムには金額（通常は小計額）が表示されます。

活動コード 20 ～ 70（ユーザー定義コードテーブル 10/CF）の行項目を指定し、勘定科目を各行項目に割り当てます。これらの勘定科目コードを使用して、レポートに表示される金額が計算されます。ほとんどの活動コードで、行項目の金額の小計が計算されます。たとえば、活動コード 20 の小計の記述は“流動資本変更前営業利益”で、小計額は 100 です。

活動コード 10 には、勘定科目を割り当てません。代わりに、AAI 項目 FSxx を割り当て、税引前純利益に使用します。該当金額は自動的に取得されます。この金額は、キャッシュ フロー計算書レポートを実行したときに生成された、損益計算書 (R10211B) の値です。

減価償却の行項目の場合、減価償却累計額勘定科目（貸方勘定）を使用して、レポートで逆仕訳されるときに、金額が税引前純利益行の項目に追加されるようにします。

会社名  
キャッシュフロー計算書  
期間終了日/月/年

## 業務活動のキャッシュフロー

税引前純利益	活動コード 10	1,000
調整:		
減価償却	活動コード 20、行 1	50
固定資産売却損益	活動コード 20、行 2	100
支払利息の減少分	活動コード 20、行 3	-25
その他費用の減少分	活動コード 20、行 4	-25
流動資本変更前の営業利益	活動コード 20、行 1 ～ 4 の小計	100
棚卸資産の減少分	活動コード 30、行 1	25
売掛金の増加分	活動コード 30、行 2	-25
買掛金の減少分	活動コード 30、行 3	-25
営業収入	活動コード 30、行 1 ～ 3 の小計	-25
支払税額の増加分	活動コード 40、行 1	25
配当金支払額の増加分	活動コード 40、行 2	25
その他非営業収入の増加分	活動コード 40、行 3	-50
その他非営業経費の増加分	活動コード 40、行 4	50
営業活動によるネット キャッシュ フロー	活動コード 10、 20、 30 および 活動コード 40 の行 1 ～ 4 の小計	1,125
固定資産購入の増加分	活動コード 50、行 1	-50
固定資産の売却の減少分	活動コード 50、行 2	25
その他の資産購入の増加分	活動コード 50、行 3	-25
投資活動によるネット キャッシュ フロー	活動コード 50、行 1 ～ 3 の小計	-50
長期債権の減少分	活動コード 60、行 1	-50
資本金 (利益剰余金以外) の増加分	活動コード 60、行 2	-50
財務活動によるネット キャッシュ フロー	活動コード 60、行 1 ～ 2 の小計	-100
現金および現金等価物の正味増加分/減少分		**975
現金および現金等価物 (期首残高)		350
現金および現金等価物 (最終残高)		1,325

キャッシュフロー計算書

\*\* この金額は、現金および現金等価物の期首残高と最終残高の差額と同額になります。

## 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 会計期間の財務諸表が全て作成されていることを確認します。
- 財務レポートシステム (システム コード 10) のプログラムにアクセスできることを確認します。

## キャッシュ フロー計算書の印刷

[キャッシュ・フロー計算書] (G1031) の [キャッシュ・フロー計算書レポート] をクリックします。

## キャッシュ フロー計算書レポートのデータ選択の設定

複数の会社を含むキャッシュ フロー計算書レポートを作成する際は、データ選択で指定した会社に共通の通貨、会計期間パターン、勘定科目構造を使用する必要があります。

## キャッシュ フロー計算書レポート (R10521) の処理オプションの設定

処理オプションで、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

- 1. 会計期間パターンの会社**    どの会社の会計期間パターンを使用して、レポートに日付を印刷するかを指定します。この処理オプションをブランクにすると、会社 00000 の現行期間を使用して該当する日付が印刷されます。
- 2. 終了期間、3. 会計年度**    キャッシュ フロー計算書レポートを実行する終了期間と会計年度を指定します。ブランクにすると、会計期間パターンの会社処理オプションで指定した会社の現行期間と現行会計年度が使用されます。会計期間パターンの会社処理オプションもブランクの場合、会社 00000 の現行期間と現行会計年度が使用されます。
- 4. 元帳タイプ**    キャッシュ フロー計算書レポートに使用する元帳タイプを指定します。ブランクにすると、元帳タイプ AA が使用されます。多通貨環境で作業している場合は、元帳タイプの通貨はレポートの会社の通貨と同じである必要があります。

### 表示

- 1. スケール (金額表示単位)**    レポートに表示する金額の単位を指定します。有効な値は、1、10、100、1000、10000、100000、1000000、10000000、100000000、1000000000 です。金額を計測する際に、四捨五入が行われます。ブランクにすると、金額は特定の単位では表示されません。

---

## (RUS) Generating a Cash Flow Statement

This section provides an overview of the Cash Flow report, lists prerequisites, and discusses how to:

- Print the cash flow statement.
- Set processing options for Cash Flow (R74R9050).

## Understanding the Cash Flow Report

The Russian government requires that you produce a cash flow report at the end of each accounting period. The Cash Flow statement (R74R9050) shows the starting balances of a group of accounts as well as the activity in the correspondence accounts. When you generate the Cash Flow statement, the system prints a report in PDF format and populates the F74R9050 table.

The report can show amounts for one account, a group of accounts, or a formula based on previous rows. You determine the amounts that appear on the report when you use the G/L Report Setup program (P74R9020) to create the format for the report. If, when you create the report format, you define a row type as ACC (Accounts Only) or as AGR (Accounts Group), the system writes balances from the F0902 table to populate the starting balances on the report. The first column of the report shows the amount for the current fiscal year, and the second column shows the amount of the previous fiscal year. If you define a row type as AC2 (Correspondence – Account), the system populates the report with Period activity amounts (Periods 01 through 12) from the F74R9002 table.

The system accesses the values in processing options to determine whether to scale the amounts that it prints, the ledger and subledgers to use, and whether to print the report title the was defined in the Setup G/L Reports program.

## Prerequisite

Verify that the report format, row descriptions, and other information that the system uses to print the report exist in tables F74R9020, F74R9021, F74R9022, and F74R9023.

## Printing the Cash Flow Statement

Select General Ledger (G74R09), Cash Flow.

## Setting Processing Options for Cash Flow (R74R9050)

The processing options for this report are the same as those for the Balance Sheet (R74R9030).

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「Setting Processing Options for Balance Sheet (R74R9030)」、379 ページ

---

## (RUS) Generating the Changes in Equity Report

This section provides an overview of the Changes in Equity report, lists prerequisites, and discusses how to:

- Print the Changes in Equity report.
- Set processing options for Changes in Equity (R74R9040).

## Understanding the Changes in Equity Report

The Russian government requires that you produce a changes in equity report at the end of each accounting period. The Changes in Equity report (R74R9040) shows the progress of several equity accounts. The report shows the balance, period activity, year-end adjustments as shown in accounting periods 13 and 14, and the starting balances for current and previous year.



When you generate the Changes in Equity report, the system prints a report in PDF format and populates the F74R9040 table.

## Prerequisite

Verify that the report format, row descriptions, and other information exists in the F74R9020, F74R9021, F74R9022, and F74R9023 tables.

## Printing the Changes in Equity Report

Select General Ledger (G74R09), Changes in Equity.

## Setting Processing Options for Changes in Equity (R74R9040)

The processing options for this report are the same as those for the Balance Sheet (R74R9030).

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「Setting Processing Options for Balance Sheet (R74R9030)」、[379 ページ](#)

---

# 集計財務レポートの作成

このセクションでは、集計財務レポートの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 集計損益計算書 – 7 桁式の印刷
- 集計損益計算書 – 7 桁式のデータ選択とデータ順序の設定
- 集計損益計算書 – 7 桁式 (R103121A) の処理オプションの設定
- 集計貸借対照表の印刷
- 集計貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定
- 集計貸借対照表 (R10311A) の処理オプションの設定

## 集計財務レポートについて

各会計期間末に、ほとんどの企業で財務諸表を作成します。複数の会社またはビジネスユニットの損益計算書または貸借対照表の情報を連結するには、集計財務レポートを印刷します。集計財務レポートには、F0006、F0901、F0902 の各テーブルに格納されているデータが使用されます。

一般会計システムには、集計財務レポートのサンプル バージョンが複数用意されています。印刷する前に、まずレポートの各カラムに表示するカラム見出しとデータを指定する必要があります。次の情報は、集計財務レポートにも当てはまります。

- 各レポートに集計カラムが含まれます。  
集計カラムは、他のカラムの金額に基づいて計算されます。
- レポートの金額は、整数の通貨金額として表示されます。  
小数点以下は省略されます。
- 印刷できる範囲内であれば、必要な数だけカラムを設定できます。

## 事前設定

集計財務レポートのカラムに表示するカラム見出しとデータを指定します。

参照: 『PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Workflow Tools』の「Report Design Aid」

参照: 『PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Development Tools: Report Printing』

## 集計損益計算書 - 7 桁式の印刷

[財務レポート] (G10) の [集計損益計算書 - 7 桁式] をクリックします。

複数の会社またはビジネスユニットを連結した損益 (利益および損失) の情報を参照するには、集計損益計算書 - 7 桁式 (R103121A) を印刷します。集計損益計算書の金額の上限は、区切り付きで 9 億 9900 万まで、区切りなしで 9990 億までです。現行会計期間または年累計の情報を含めることができます。

集計損益計算書 - 7 桁式の XJDE バージョンでは、特定の会社向けにカラムが事前に定義されています。XJDE バージョンで定義されている以外のレポートを作成するには、レポート設計ツールを使用して、データ選択とカラム タイトルを設定する必要があります。

参照: 『PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Development Tools: Report Design Aid』

参照: 『PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Development Tools: Report Printing Administration Technologies』

## 集計損益計算書 - 7 桁式のデータ選択とデータ順序の設定

最初のデータ選択は、損益勘定の主科目範囲である必要があります。

主科目の次に補助科目という順序で設定してください。順序が違う場合、カラム データが複数のページに分散されます。

## 集計損益計算書 - 7 桁式 (R103121A) の処理オプションの設定

集計損益計算書 - 7 桁式の処理オプションは、このセクションで説明する項目以外は損益計算書の処理オプションと同じです。

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書 (R10211B) の処理オプションの設定」、376ページ

### 金額

#### 期間/年累計

レポートに表示する勘定残高を指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 年累計の勘定残高を印刷する。

1: 単一期間の勘定残高を印刷する。

### 計算

#### 当期利益の計算

当期利益を計算するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 計算しない。

AAI 小計計算を行うバージョンでは、ブランクにします。自動的に当期利益が計算および印刷されます。

1: 計算する。

## 集計貸借対照表の印刷

[財務レポート] (G10) の [集計貸借対照表] をクリックします。

複数の会社またはビジネスユニットの集計結果の貸借を比較するには、現行会計期間または年累計の集計貸借対照表 (R10311A) を印刷します。集計貸借対照表では最大 7 つまでの会計組織を連結できます。

集計貸借対照表の XJDE バージョンでは、特定の向けにカラムが事前に定義されています。XJDE バージョンで定義されている以外のレポートを作成するには、レポート設計ツールを使用して、データ選択とカラム タイトルを設定する必要があります。

参照: 『PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Development Tools: Report Design Aid』

参照: 『PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Development Tools: Report Printing Administration Technologies』

## 集計貸借対照表のデータ選択とデータ順序の設定

最初のデータ選択は、貸借対照表勘定の主科目範囲である必要があります。

主科目の次に補助科目という順序で設定してください。順序が違う場合、カラム データが複数のページに分散されます。

## 集計貸借対照表 (R10311A) の処理オプションの設定

集計貸借対照表の処理オプションは、以下の項目以外は損益計算書の処理オプションと同じです。

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書 (R10211B) の処理オプションの設定」、376 ページ

### 計算

#### 当期利益の計算

当期利益を計算するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
ブランク: 計算しない。

1: 計算する。

### 符号

#### 符号の反転

金額の印刷方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

0: データ値のまま金額を印刷する。

1: 負債勘定と資本勘定の符号を反転する。

---

## 月別損益計算書の作成

このセクションでは、月別損益計算書の概要、事前設定、および以下の項目について説明します。

- 月別損益計算書の印刷
- 月別損益計算書 (R10412A) の処理オプションの設定

## 月別損益計算書について

会社の財務活動の動向を検討するには、月別損益計算書 (R10412A) を印刷します。年累計以外に期間累計の実績金額と予算金額を分析できます。また、現行会計期間の金額と将来の会計期間の予算金額を並べて参照することもできます。

月別損益計算書では、金額が 1000 の位に端数処理されます。たとえば、金額が 2700 の場合、3000 に端数処理され 3 が印刷されます。別の端数処理方法を指定するには、レポート設計ツールを使用して独自の処理方法を設定します。

月別損益計算書には、F0902 テーブルに格納されているデータが使用されます。

---

注: バージョンは XJDE0006 を使用し、AAI 小計をレポートに表示する場合は、このバージョンのコピーを作成する必要があります。XJDE0006 に AAI 小計のイベント ルールが追加されるため、バージョンを追加したり希望の項目をレポートに表示したりすることはできません。

---

## 事前設定

財務報告期間が正しく設定されていることを確認します。

参照: 第 37 章、「会計期間とレポート期間の締め処理」、「財務レポート期間の変更」、476ページ

## 月別損益計算書の印刷

[財務レポート] (G10) の [月別損益計算書] をクリックします。

## 月別損益計算書 (R10412A) の処理オプションの設定

このレポートの処理オプションは、このセクションで説明する項目以外は、損益計算書の処理オプションと同じです。

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「損益計算書 (R10211B) の処理オプションの設定」、376ページ

### 符号

#### 1. 符号の反転

金額の印刷方法を指定します。有効値は以下のとおりです。

0: データ値のままで金額を印刷する。

1: 損益計算書勘定の符号を反転する (収益はプラス、費用はマイナスで印刷されます)。

2: 負債勘定と資本勘定の符号を反転する。

3: 収益勘定の符号だけを反転する (収益と費用がプラスで印刷されます)。

### 計算

#### 1. 当期利益の計算

計算する当期利益のタイプを指定します。有効値は以下のとおりです。

1: 貸借対照表の当期利益を計算する。

2: 損益計算書の当期利益を計算する。

3: 当期利益を計算しない。(デフォルト)

## カラム形式

- |            |   |
|------------|---|
| 1. カラム形式   | 損益計算書に印刷する 12 のカラムの形式を、次のいずれかに指定します。                                    |
|            | 1: 過去 12 か月の実績 (デフォルト)  |
|            | 2: 年度累計実績   |
|            | 3: 年度累計実績と残りの予算   |
| 2. 予算元帳タイプ | カラム形式処理オプションを 3 に設定した場合は、残りの予算の元帳タイプを入力します。ブランクにすると、元帳タイプ "BA" が使用されます。 |
| 3. 元帳タイプ   | 損益計算書の基準となる元帳タイプを入力します。ブランクにすると、元帳タイプ "AA" が使用されます。                     |

## 差異分析レポートの作成

実績金額と予算金額を比較して現行会計期間と年累計の差額を計算するには、差異分析レポートを使用します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- 差異分析レポートの印刷
- 差異分析 (R10212A) の処理オプションの設定
- 差異分析 (5 か月分) レポートの印刷
- 差異分析 (5 か月分) (R10411A) の処理オプションの設定

### 差異分析レポートの印刷

[財務レポート] (G10) の [差異分析] をクリックします。

差異分析レポート (R10212A) には、予算金額と実績金額の一覧と、2 つの金額の差額 (差異) が表示されます。さらに、各行の項目に関連付けられているパーセント値には、収益率が反映されます。各行の項目に関連付けられている予算の割合は、差異を現行期間または年累計の予算で除算した数値と等しくなります。

### 差異分析 (R10212A) の処理オプションの設定

このレポートの処理オプションは、このセクションで説明する処理オプション以外は、月別損益計算書と同じです。

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「月別損益計算書 (R10412A) の処理オプションの設定」、390 ページ

#### 日付

#### 期間、年度

レポートの基準とする期間と会計年度を入力します。ブランクにすると、会社の財務報告日付が使用されます。報告日付を会社固有の日付にするには、データ順序を会社別に設定する必要があります。

## 差異分析 (5 か月分) の印刷

[財務レポート] (G10) の [差異分析 (5 か月分)] をクリックします。

差異分析 (5 か月分) レポート (R10411A) には、年間および年累計の予算金額、年累計実績金額、年累計差異が表示されます。このレポートには、処理オプションに指定されている期間と、その直前の 4 期間の実績金額も表示されます。

## 差異分析 (5 か月分) (R10411A) の処理オプションの設定

このレポートの処理オプションは、差異分析レポートの処理オプションと同じです。

参照: 第 32 章、「財務レポートの作成」、「差異分析 (R10212A) の処理オプションの設定」、391 ページ

---

## (RUS) Generating the Petty Cash Book Report

This section provides an overview of the Petty Cash Book report and discusses how to:

- Run the Petty Cash Book report.
- Set processing options for Petty Cash Book (R74R5001).

## Understanding the Petty Cash Book Report

Many transactions in Russia, including payroll and reimbursement for expenses, are paid in cash. Because of the transitory nature of cash, the Russian government requires additional steps to assure accurate accounting of cash transactions.

The Petty Cash Book report (R74R5001) contains one or more pages for each day of the year in which petty cash transactions take place. The pages list the transactions for the day. All pages are numbered consecutively by date; there cannot be any skipped numbers. This report satisfies the legal need for printing Russian Petty Cash Book. Transactions which are posted to the General Ledger and transactions for which you have printed a cash issue note or a cash receipt note appear on the Petty Cash Book report.

When you run the Petty Cash Book report, the system reads records in F74R0100, F0901, and F0911 tables and summarizes the data by the GL date of the records.

The Petty Cash Book report lists:

- Document number of the cash issue and cash receipt documents.
- Name of person who received or issued the cash.
- Corresponding account.
- Issue amount.
- Beginning and ending balance of the account.
- Cash payroll transaction.

You use the Cash Book report to reconcile the Petty Cash Issue and Petty Cash Receipt documents against petty cash accounts.

## Running the Petty Cash Book Report

Select Cash Desk Transactions (G74RCASH), Cash Book Report.

## Setting Processing Options for Petty Cash Book (R74R5001)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

### Selection

<b>Company</b>	Specify the company for which to run the report. If you leave this processing option blank, the system searches records for company 00000.
<b>Business Unit</b>	Specify the business unit for which to run the report. If you leave this processing option blank, the system selects records for all business units associated with the company that you specify in the Company processing option.
<b>Start Date and Through Date</b>	Specify the beginning and ending of the date range that the system uses to select records to process.

### Accounting

<b>Petty Cash Account Number</b>	Specify the account number of petty cash transactions.
<b>Russian Account Analysis Category</b>	Specify the petty cash account.
<b>Petty Cash Book Document Type</b>	Specify the document type of the outbound petty cash transactions that you want to process. The value that you enter must exist in the UDC table 74R/CD.
<b>Detail Lines per Page</b>	Specify the number of detail lines that print on each page. The maximum number of lines that you can use is determined by the page size. For example, for a standard letter size page, you can print up to 47 lines.
<b>Ledger Type</b>	Specify the ledger type that the system uses to select recordsUDC table 00/LT.

### Print Fields

<b>Cashier Full Name and Accountant Full Name</b>	Specify the name of the cashier and the name of the accountant responsible for the Cash Book.
<b>Print Header Page</b>	Specify whether the system prints a header page. Values are: Blank or N: Do not print the header page. Y: Print the header page.
<b>Print Footer Page</b>	Specify whether the system prints a footer page. Values are: Blank or N: Do not print the footer page. Y:Print the footer page.

<b>Number Leaf for Month</b>	Specify the month that prints in the footer of the report if you set the Print Footer Page processing option to Y.
<b>Start Page Number</b>	Specify the starting page number that the system prints on the report.
<b>Report Name</b>	<p>Specify the title that the system prints on the report.</p> <p>Leave this processing option blank to append the text that you enter to the text "Petty Cash for." For example, if you enter March 31, 2007, the system prints Petty Cash for March 31, 2007 on the report.</p> <p>Enter 1 to print the text "Loose Leaf of Cash Book" on the report.</p>
<b>Foreign Currency</b>	<p>Specify the currency in which to print the report. Values are:</p> <p>Blank or N: Print the report in the domestic currency.</p> <p>Y: Print foreign currency specified for the account in the F0901 table.</p>
<b>Print Voided Documents</b>	<p>Specify whether to print voided documents on the report. Values are:</p> <p>Blank or N: Exclude voided documents.</p> <p>Y: Include voided documents.</p>
<b>Language</b>	
<b>Report Language Preference</b>	Specify the language in which the system prints the report. The value that you enter must exist in UDC table 01/LP.

## (ITA) Verifying Account Balances

This table lists the standard procedures that companies in Italy should perform before month-end reporting is completed.

Procedure	Report	Description	Frequency
Verify that document numbers are in sequence.	Sequential Number Report (R74099A, R74099B, R74099C, and R74099D)	This report shows any interruption in the document number sequence and in the registration date sequence.	Daily
Print a list of all unposted batches.	Unposted Batches Integrity Test (R007011)	This report shows any unposted batches. Post all batches before you verify balances.	Weekly
Verify that the batch detail and batch header information match.	Transactions to Batch Headers Integrity Test (R007021)	This report shows mismatches between batch headers and the individual transactions within the batch. Mismatches might include transactions for which no batch header or posted transactions exist.	Weekly



Procedure	Report	Description	Frequency
Balance the AR and GL ledgers.	A/R to G/L by Batch Integrity Test (R03B701)	<p>This report checks the balance between the F03B11 and F0911 tables by batch number.</p> <p>If the F03B11 and F0911 ledgers are out of balance, use the Supplier/Customer Totals by Account report (R09450) as an additional verification tool.</p> <p>The report also shows anomalous situations regarding the payment status.</p>	Weekly
Balance the AR and GL ledgers by accounting class.	A/R to G/L by Accounting Class Integrity Test (R03B7001A)	This report matches the F03B11 to the F0902 table by accounting class.	Weekly
Balance the AP and GL ledgers.	A/P Original Documents to G/L by Batch Integrity Test (R04701)	<p>This report checks the balance between the F0411 and F0911 tables by batch number.</p> <p>If the F0411 and F0911 tables are out of balance, use the Supplier/Customer Totals by Account report (R09450) as an additional verification tool.</p> <p>The report also shows anomalous situations regarding the payment status.</p> <p><b>注:</b> If the Bolle Doganali are entered as prepaid documents, the ledger and the Customs debit account might be out of balance.</p>	Weekly
Balance the AP and GL ledgers by accounting class.	A/P Originals to G/L by Batch Integrity Test (R047001A)	This report matches the F0411 and F0902 tables by offset account.	Weekly
Print trial balance reports.	<p>Trial Balance by Object and Subsidiary (R7409C3)</p> <p>Trial Balance by category code 21, 22, 23 (R70472)</p>	These trial balance reports print by object.subsidiary and by category codes 21, 22, and 23.	Monthly
Print monthly VAT reports.	A/R – A/P IVA Tax Report – Italy (R004051)	Print a version of this report for EU VAT purchases to show the currency amounts of your invoices. Print other versions of the report to show the rest of the VAT ledgers.	Per tax regulations

## (Rapid Start) Reviewing Financial Reports and Inquiries

This section discusses:

- How to review financial reports and inquiries.
- Preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200).
- Preconfigured processing options for Trial Balance by Object (P09214).
- Preconfigured processing options for Trial Balance by Subledger (P09215).
- Preconfigured processing options for Trial Balance by Company (P09216).
- Preconfigured processing options for Trial Balance / Ledger Comparison (P09210A).
- Preconfigured processing options for Trial Balance by Business Unit (R09410).
- Preconfigured processing options for Trial Balance by Object (R094121).
- (AUZ and NZL) Preconfigured processing options for Australia and New Zealand Trial Balance by Category Code (R09472).
- Preconfigured processing options for Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr Format) (R09473).
- Preconfigured processing options for General Ledger by Business Unit (R09420).
- Preconfigured processing options for General Ledger by Object Account (R09421).
- Preconfigured processing options for General Ledger with Subledger Totals (R09422).
- (AUS and NZL) Preconfigured processing options for Australia and New Zealand General Ledger by Category Code (R09470).
- Preconfigured processing options for Transaction Journal (R09321).
- Preconfigured processing options for Transaction by Subsidiary (R09424).
- Preconfigured processing options for Transaction by Object (R09423).
- Preconfigured processing options for Income Statement – Company 00001 (R10211B).
- Preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B).
- Preconfigured processing options for Variance Analysis – Company 00001 (R10212A).
- Preconfigured processing options for Variance Analysis 5 Months Actual – Company 00001 (R10411A).

## Reviewing Financial Reports and Inquiries

This table lists the tasks for reviewing financial reports and inquiries:

Task	Navigation	Program and Version
Review financial reporting period names.	Organization Setup Financial Reporting Period Names	P83110/no version
Review transactions online.	Financial Inquiries Account Ledger Inquiry	P09200/RIS0001
Review trial balance by object account.	Financial Inquiries Trial Balance by Object Account	P09214/RIS0001
Review trial balance by subledger.	Financial Inquiries Trial Balance by Subledger	P09215/RIS0001

Task	Navigation	Program and Version
Review trial balance by company.	Financial Inquiries Trial Balance by Company	P09216/RIS0001
Review trial balances.	Financial Inquiries Account Balance Comparison	P09210A/RIS0001
Print trial balance by business unit.	General Ledger Reports Trial Balance by Business Unit	R09410/RIS0001
Print trial balance by object account.	General Ledger Reports Trial Balance by Object Account	R094121/RIS0001
(AUS and NZL) Print trial balance by category code.	General Ledger Reports Debit/Credit Trial Balance by Category Code	R09472/RIS0001
Print debit/credit trial balance by object.	General Ledger Reports Debit/Credit Trial Balance by Object	R09473/RIS0001
Print transactions by object account within a business unit.	General Ledger Reports General Ledger by Business Unit	R09420/RIS0001
Print transactions by account.	General Ledger Reports General Ledger by Object Account	R09421/RIS0001
Print transaction totals by subledger.	General Ledger Reports General Ledger by Subledger	R09422/RIS0001
(AUS and NZL) Print transactions by category codes.	General Ledger Reports General Ledger by Category Code	R09470/RIS0001
Print debit and credit amounts.	General Ledger Reports Transaction Journal	R09321/RIS0001
Print transactions by object accounts and subsidiary for a selected period.	General Ledger Reports Transaction by Subsidiary	R09424/RIS0001
Print transactions by company for a selected period.	General Ledger Reports Transactions by Object	R09423/RIS0001
Print an income statement.	Financial Reports Simple Income Statement	R10211B/RIS0001

Task	Navigation	Program and Version
Print a balance sheet.	General Ledger Reports Simple Balance Sheet	R10111B/RIS0001
Print a variance analysis report.	Financial Reports Variance Analysis	R10212A/RIS0001
Print a variance analysis report.	Financial Reports Variance Analysis – 5 Month Actual	R10411A/RIS0001
Print a monthly spreadsheet.	Financial Reports Monthly Spreadsheet	R10412A/RIS0001

Data reports provide additional information about data that has been preconfigured for Rapid Start.

## Preconfigured Processing Options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Defaults

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Number	blank
2. From Date	blank
3. Through Date	blank
4. Ledger Type	AA
5. Subledger – G/L	*
6. Subledger Type	blank
7. Currency Code	*

### Select

Processing Option Description	Value or Status
1. From Date Method	2

**Display**

Processing Option Description	Value or Status
1. Second Ledger Type	blank
2. Ledger Type	blank

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Exit for PK or PN document type	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency	blank
2. Exchange Rate Date	blank

**Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Object (P09214)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Default**

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type 1	AA
2. Ledger Type 2	blank
3. Exit Ledger Type Blank or	blank

**Display**

Processing Option Description	Value or Status
1. Display Zero Balances Blank or	Y
2. Calculation Method Blank or	blank
3. Additional Ledger Type 1	blank
4. Additional Ledger Type 2	blank
5. Subledger	*

Processing Option Description	Value or Status
6. Subledger Type	blank
7. Model Accounts Blank or	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. Currency Code	*

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Date Effective Balances Blank or	blank
2. Display Thru Dates/Periods Blank or	blank

**Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Subledger (P09215)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Display**

Processing Option Description	Value or Status
1. Date Effective Balances	blank
2. Default Thru Period	blank
3. Ledger Type	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. Currency Code	blank

**Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Company (P09216)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Display**

Processing Option Description	Value or Status
1. Date Effective Balances	blank
2. Thru Period	blank

Processing Option Description	Value or Status
3. Ledger Type	blank
4. Suppress Zero Balances	Y
5. Subledger	blank
6. Subledger Type	blank

### Currency

Processing Option Description	Value or Status
1. Currency Code	blank

## Preconfigured Processing Options for Trial Balance / Ledger Comparison (P09210A)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Default

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type 1	AA
2. Ledger Type 2	BA
3. Exit with Ledger Type Blank or	blank

### Display

Processing Option Description	Value or Status
1. Suppress Zero Balances Blank or	N
2. Calculation Method Blank or	S
3. Additional Ledger Type 1	blank
4. Additional Ledger Type 2	blank
5. Subledger	*
6. Subledger Type	blank
7. Account Level Of Detail	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. Currency Code	*

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Date Effective Balances Blank or	blank
2. Default Thru Period Display Blank or	blank

## Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Business Unit (R09410)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Period**

Processing Option Description	Value or Status
1. Period	blank
Fiscal Year	blank
Period Number	0

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Number Format	blank
1	
2. Accounts with Zero Balances	blank
1	
3. Page Breaks	blank
1	



**LOD**

Processing Option Description	Value or Status
1. Lowest Level of Detail	blank
A specific level of detail	6

**Ledger**

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type	blank
A specific ledger type	AA

**Subledger**

Processing Option Description	Value or Status
1. Subledger	blank
A specific subledger	*
2. Subledger Type	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. Currency Code	blank
A specific currency code	*

**Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Object (R094121)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fiscal Year	blank
2. Period	blank
2. Period	blank
3. Ledger Type	blank
4. Subledger	blank

Processing Option Description	Value or Status
5. Subledger Type	blank
6. Non Posting Account	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Zero Balances	blank
2. Account Number Format	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. Currency Code	blank

**Summarize**

Processing Option Description	Value or Status
1. Beginning Range Object Account Summarization	blank
2. Ending Range Object Account Summarization	blank

## (AUZ and NZL) Preconfigured Processing Options for Australia and New Zealand Trial Balance by Category Code (R09472)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fiscal Year	blank
2. Period	0
3. Ledger Type	blank
3. Ledger Type	blank
4. Account Category Code (21–43) R0xx where	0

## Preconfigured Processing Options for Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr Format) (R09473)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Reporting Date	blank
Period Number	blank
Fiscal Year	5
2. Ledger Type	blank
Ledger Type 1	blank
Ledger Type 2	blank
Ledger Type 3	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Accounts with Zero Balances	blank
2. Balance and Difference Columns	blank
3. Summarize Subsidiary Accounts	blank
4. Total by GLG AAI Account Ranges	blank
5. Class Total Level	blank

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Mode	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency	blank
2. As-Of Date	blank

## Preconfigured Processing Options for General Ledger by Business Unit (R09420)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. From Period	1
2. From Date	blank
3. Thru Fiscal Year	blank
4. Thru Period Number:	0
5. Thru Date	blank
6. Ledger Type	blank
7. Document Type	blank
8. Posted Transactions	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Number Format	blank
2. Units	1
3. Page Breaks	blank
4. Accounts with Zero Balances	blank
5. Subledger	blank
6. Subledger Type	blank
7. Print Subledger	blank
8. Date Order	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. Currency Code	blank

**Summarize**

Processing Option Description	Value or Status
1. Business Unit Types	blank

Processing Option Description	Value or Status
2. Beginning Range Object Account Summarization	8000
3. Ending Range Object Account Summarization	9000

## Preconfigured Processing Options for General Ledger by Object Account (R09421)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Select

Processing Option Description	Value or Status
1. From Period	1
2. From Date	blank
3. Thru Fiscal Year	blank
4. Period Number	0
5. Thru Date	blank
6. Subledger	blank
7. Subledger Type	blank
8. Ledger Type	blank
9. Document Type	blank

### Print

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Number Format	1
2. Units	blank
3. Accounts with zero balance	1
4. Posted Transactions	blank

### Summarize

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter the object account range for account summarization.	blank

Processing Option Description	Value or Status
Beginning:	blank
Ending:	blank

### Currency

Processing Option Description	Value or Status
1. Currency Code	*
2. Currency Code From	blank
3. As-of-date	blank

## Preconfigured Processing Options for General Ledger with Subledger Totals (R09422)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Display

Processing Option Description	Value or Status
1. Report Content	1
2. Fiscal Year	blank
3. Period	0
4. Ledger Type	blank
5. Document Type	blank
6. Transaction Status	blank

### Print

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Number Format	1
2. Print Units	blank
3. Zero Balances	1

**Summarization**

Processing Option Description	Value or Status
1. Business Unit Type	blank
2. Subledger Summarization Beginning Object	blank
3. Subledger Summarization Ending Object	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. Currency Code	blank

**(AUS and NZL) Preconfigured Processing Options for Australia and New Zealand General Ledger by Category Code (R09470)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. From Period 0 or	1
From Date	blank
2. Thru Fiscal Year	blank
Thru Period -OR-	0
Thru Date	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type	blank
2. Document Type	blank
3. Transaction Type	1
4. Account Category Code (1-43)	0
5. Units	blank
6. Zero Balances	blank
7. Date Order	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency Code	blank
2. Exchange Rate Date	blank

**Preconfigured Processing Options for Transaction Journal (R09321)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Display**

Processing Option Description	Value or Status
1. Date From	blank
2. Date Thru	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. GLR3 Reference Number	blank
2. Category Code 21–23	blank

**Preconfigured Processing Options for Transaction by Subsidiary (R09424)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Period**

Processing Option Description	Value or Status
1. Period From	0
2. Period To	0
3. Fiscal Year Required	5

**Ledger**

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type	blank



**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Suppress Zero Amounts 1	blank
2. Suppress Print Total 1	blank

**Preconfigured Processing Options for Transaction by Object (R09423)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Period**

Processing Option Description	Value or Status
1. Period From	0
2. Period To	0
3. Fiscal Year Required	5

**Ledger**

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Type	AA

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Suppress Zero Amounts 1	blank
2. Suppress Print Total 1	blank

**Preconfigured Processing Options for Income Statement  
– Company 00001 (R10211B)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Date**

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter the period number and fiscal year the report should be based upon. If left blank, the financial reporting date will be used.	blank
Period Number	blank
Fiscal Year	blank

**LOD**

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter the lowest level of account level of detail to print on the report.	blank
Account Level Of Detail	9

**Signs**

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a zero to print amounts in their original debit and credit format. Enter a 1 to reverse the sign for all account types (revenues will print as positive and expenses as negative). Enter a 2 to reverse the sign of revenue accounts only (revenues and expenses will print as positive).	blank
Reverse Sign	2

**Calculations**

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a 1 to have net income calculated. If left blank, no calculation will occur.	blank
Calculate Net Income	1

**Headings**

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a 1 to print headings with page number and run date on each page. Enter a 2 to print headings without page number and run date on each page. If left blank, headings will print on the first page only.	blank
Print Headings	1
2. Enter the date title type to print in the page header. If left blank, no date title will print.	blank
Date Title Type	P

**Preconfigured Processing Options for Balance Sheet (R10111B)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Date**

Processing Option Description	Value or Status
Enter the period number and fiscal year the report should be based upon. If left blank, the financial reporting date will be used.	blank

Processing Option Description	Value or Status
Period Number	blank
Fiscal Year	blank

## LOD

Processing Option Description	Value or Status
Enter the lowest level of account level of detail to print on the report.	blank
Account Level Of Detail	5

## Signs

Processing Option Description	Value or Status
Enter a zero to print amounts in their original debit and credit format. Enter a 1 to reverse the sign on liability and equity accounts.	blank
Reverse Sign	1

## Computations

Processing Option Description	Value or Status
Enter a 1 to print YTD Net Income. If left blank, no YTD Income amounts will print.	blank
Calculate YTD Net Income	1

## Headings

Processing Option Description	Value or Status
Enter a 1 to print headings with page number and run date on each page. Enter a 2 to print headings without page number and run date on each page. If left blank, headings will print on the first page only.	blank
Print Headings	1
Enter the date title type to print in the heading. If left blank, no date title will print.	blank
Date Title Type	B

## Preconfigured Processing Options for Variance Analysis – Company 00001 (R10212A)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Date**

Processing Option Description	Value or Status
Enter the period number and fiscal year the report should be based upon. If left blank, the current period from the financial reporting date will be used.	blank
Period Number	blank
Fiscal Year	blank

**LOD**

Processing Option Description	Value or Status
Enter the lowest Account Level of Detail (3–9) to be printed on the report.	blank
Account Level Of Detail	6

**Signs**

Processing Option Description	Value or Status
Enter a zero to print amounts in their original debit and credit format. Enter a 1 to reverse the signs for income statement accounts (revenues will print as positive and expenses will print as negative). Enter a 2 to reverse the signs on liability and equity accounts. Enter a 3 to reverse the si	blank
Reverse Signs	3

**Calculations**

Processing Option Description	Value or Status
Enter a 1 to calculate Balance Sheet Net Income. Enter a 2 to calculate P/L Net Income. If left blank, no calculation will be performed.	blank
Calculate Net Income	2

**Headings**

Processing Option Description	Value or Status
Enter a 1 to print headings with page number and run date on each page. Enter a 2 to print headings without page number and run date on each page. If left blank, headings will print on the first page only.	blank
Print Headings	1
Enter the date title type to print in the page header. If left blank, no date title will print.	blank
Date Title Type	P

## Ledgers

Processing Option Description	Value or Status
Enter the Actual and Budget Ledger Types to base the report on. If left blank, Ledger Type AA will be used for Actual amounts and Ledger Type BA will be used for Budget amounts.	blank
Actual Ledger Type	AA
Budget Ledger Type	BA

## Preconfigured Processing Options for Variance Analysis 5 Months Actual – Company 00001 (R10411A)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Date

Processing Option Description	Value or Status
Enter the fiscal year and period. If left blank, the financial reporting date will be used. For the reporting date to be company specific you must sequence by company.	blank
Period Number	blank
Fiscal Year	blank

### LOD

Processing Option Description	Value or Status
Enter the lowest account level of detail to print on the report (3–9). If left blank, an account level of detail of 9 will be used.	blank
Account Level Of Detail	6

### Signs

Processing Option Description	Value or Status
Enter a zero to print amounts in their original debit and credit format. Enter a 1 to reverse the signs for income statement accounts (revenues will print as positive and expenses will print as negative). Enter a 2 to reverse the signs on liability and equity accounts. Enter a 3 to reverse the si	blank
Reverse Sign	3

## Calculations

Processing Option Description	Value or Status
Enter a 1 to calculate Balance Sheet Net Income. Enter a 2 to calculate P/L Net Income. If left blank, no calculation will be performed.	blank
Calculate Net Income	2

## Headings

Processing Option Description	Value or Status
Enter a 1 to print page headings with page number and run date on each page. Enter a 2 to print page headings without page number and run date on each page. If left blank, page headings will print on the first page only.	blank
Print Headings	1
Enter the date title type to print in the page header. If left blank, no date title will print.	blank
Date Title Type	P

## Ledgers

Processing Option Description	Value or Status
Enter the Ledger Types to be used for Actual and Budget amounts. If left blank, Ledger Type AA will be used for Actual Amounts and Ledger Type BA will be used for Budget Amounts.	blank
Actual Ledger Type	AA
Budget Ledger Type	BA

## 第 33 章

# 一般会計のデータ整合性の検証

この章では、一般会計の整合性レポートの概要と、以下の方法について説明します。

- 取引とバッチ見出しの整合性レポートの実行
- バッチと取引明細の整合性レポートの実行
- 未転記バッチ レポートの実行
- 貸借不一致のバッチ レポートの実行
- バッチ別貸借不一致の会社レポートの実行
- 貸借一致の会社レポートの実行
- 貸借一致の会社間勘定科目レポートの実行
- 勘定残高と取引の整合性レポートの実行
- ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの実行
- 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの実行
- 勘定科目マスターなしの取引レポートの実行

---

## 一般会計の整合性レポートについて

整合性レポートを使用すると、貸借一致処理を補足したり、潜在的な貸借不一致問題やデータの不整合を特定できます。

整合性レポートは、一般会計システムの管理処理の一環として機能します。整合性レポートを実行すると、システムが正常に機能し、テーブル間の整合性が取れていることを確認できます。迅速に効率よく問題を修正することもできます。

整合性レポートは以下のタイミングで実行します。

- 新しいソフトウェアをインストール中
- データ変換中
- 毎日（必要に応じて）
- 月末
- 会計年度末

整合性レポートを頻繁に実行しておく、問題がいつ発生したかを判断しやすくなります。整合レポートには、テーブル間の不整合のみを出力する例外レポートがあります。

一般会計システムには 3 種類の総勘定元帳整合性レポートがあります。

## バッチ見出しのレポート

バッチ見出しレポートを使って、バッチ制御テーブル (F0011) と取引明細テーブル (F0911) の間の不整合を識別します。バッチ見出しレポートは以下の順序で実行します。

1. 取引とバッチ見出しの整合性
2. バッチと取引明細の整合性
3. 未転記バッチ

## 貸借不一致のレポート

貸借不一致のレポートを使って、以下のことを確認します。

- 社内での取引の貸借が一致しているかどうか。
- 期間ごとの勘定残高の整合性が保たれているかどうか。
- 会社間決済勘定の貸借が一致しているかどうか。

バッチ見出しの改訂プログラム (P0011) でバッチに対して整合性レポートからのバッチの除外オプションが選択されている場合、そのバッチは貸借不一致の入力があっても貸借不一致のバッチレポートとバッチ別貸借不一致の会社レポートに表示されません。この 2 つの整合性レポートを実行する場合は、データ選択で整合性レポート バッチ組込み (IBOI) フラグが N と等しくないことを確認します。

## 勘定科目表のレポート

勘定科目表のレポートを使って、F0901 テーブルの会社番号が、ビジネスユニット マスター (F0006)、F0902 テーブル、および F0911 テーブルの会社番号と一致しているかどうかを確認します。また、1 つまたは複数のビジネスユニットを別の会社に移動する場合にも、このレポートを実行する必要があります。

最終モードでは、勘定科目表のレポートを次の順序で実行します。

1. ビジネスユニットなしの勘定科目  
F0006 テーブルの会社番号で F0901 テーブルの会社番号が更新されます。
2. 勘定科目マスターなしの勘定残高  
F0901 テーブルの会社番号で F0902 テーブルの会社番号が更新されます。
3. 勘定科目マスターなしの取引  
F0901 テーブルの会社番号で F0911 テーブルの会社番号が更新されます。

この順序で実行することにより、常に F0006 テーブルの会社番号が最初に使用されます。また、ビジネスユニットなしの勘定科目レポートを最初に実行することにより、他の 2 つの整合性レポートで F0902 テーブルと F0911 テーブルが F0901 テーブルの会社情報を使って更新されます。

## 一般会計の整合性レポートの一覧

どの整合性レポートを実行するかを決定する際に、次のレポートと説明の一覧を参照してください。



レポート	説明
取引とバッチ見出しの整合性 (R007021)	<p>以下のような取引レベルの情報をレポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• F0011 テーブルにバッチ見出しレコードが存在しない未転記および転記済みの取引</li> <li>• バッチ状況が D (転記済み) になっている未転記取引</li> </ul> <p>最終モードで実行すると、不足している F0011 テーブルのバッチ見出しレコードが再作成されます。</p>
バッチと取引明細の整合性 (R007031)	<p>バッチレベルの情報をレポートし、自動的に以下の処理を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 売掛金元帳、買掛金元帳、または取引明細の詳細レコードのないバッチ見出しレコードを削除する。</li> <li>• F0911 テーブルの詳細レコードが転記されていて、見出しレコードが未転記である場合、F0011 テーブルのバッチ見出しレコードのバッチ状況を D (転記済み) に更新する。</li> <li>• F03B11 と F0411 テーブルの詳細レコードが転記されていて、見出しレコードが未転記である場合、処理オプションの設定に基づいて F0011 テーブルのバッチ見出しレコードのバッチ状況を D (転記済み) に更新する。</li> </ul>
未転記バッチ (R007011)	F0011 テーブルのバッチ制御レコードに基づいて未転記バッチのリストを出力します。
貸借不一致のバッチ (R007032)	借方金額と貸方金額が一致しないバッチを検出します。
バッチ別貸借不一致の会社 (R09706)	各バッチ内の貸借不一致の金額を会社別に検出します。
貸借一致の会社 (R097001)	<p>会社と会計年度別に金額の差額を出力し、以下を特定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 勘定科目の繰越残高に金額が反映されていない前年度への修正転記</li> <li>• 締め日後に転記された金額</li> <li>• 会社間決済の入力漏れ</li> </ul>
貸借一致の会社間勘定科目 (R097011)	対応する会社間勘定の貸借不一致を検出します。
勘定残高と取引の整合性 (R09705)	F0902 テーブルと F0911 テーブルの間で期間ごとの貸借不一致を検出します。
ビジネスユニットなしの勘定科目 (R097041)	F0006 テーブルと F0911 テーブルの間で不整合が生じているビジネスユニットと会社を検索します。詳細レベルを含まない勘定科目も検索します。
勘定科目マスターなしの勘定残高 (R097031)	F0901 テーブルと F0902 テーブルの間で不整合が生じている会社と勘定科目を検出します。
勘定科目マスターなしの取引 (R097021)	F0911 テーブルと F0901 テーブルの間で不整合が生じている会社と勘定科目を検出します。

- ・取引とバッチ見出しの整合性レポートの印刷
- ・取引とバッチ見出しの整合性処理オプションの設定
- ・取引とバッチ見出しの不整合の修正

- |                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| 1. 日付範囲、開始日付、および終了日付                 | <p>日付範囲の開始日と終了日を指定して、処理対象として選択されるレコードを絞り込みます。</p> <p>この処理オプションをブランクにすると、[何日前までのレコードを対象とするかを指定してください] 処理オプションに値を入力しない限り、全てのレコードが選択されます。</p>  |
| 2. 何日前までのレコードを対象とするかを指定してください。       | <p>処理するレコードを選択するために使用する、現行日付に先立つ日数を指定します。これによって算出された日付から現行日付までのバッチ日付を持つレコードが選択されます。たとえば、この処理オプションに 30 を指定すると、30 日前から本日までのレコードが選択されます。</p> <p>この処理オプションをブランクにすると、[開始日付] と [終了日付] 処理オプションで指定した日付範囲が対象となります。</p> |
| 3. バッチ タイプ範囲、開始バッチ タイプ、および終了バッチ タイプ  | <p>処理するレコードを選択するのに使用する、バッチ タイプの範囲の始まりと終りを指定します。ユーザー定義コード テーブル (98/IT) の有効な値を入力してください。この処理オプションをブランクにすると、全てのバッチ タイプが選択されます。</p>  |
| 4. バッチ番号範囲、開始バッチ番号、および終了バッチ番号        | <p>処理するレコードを選択するのに使用する、バッチ番号の範囲の始まりと終りを指定します。この処理オプションをブランクにすると、全てのバッチ番号が選択されます。</p>  |
| 5. ユーザー ID 範囲、開始ユーザー ID、および終了ユーザー ID | <p>処理するレコードを選択するのに使用する、ユーザー ID 範囲の始まりと終りを指定します。この処理オプションをブランクにすると、全てのユーザー ID が選択されます。</p>   |

## 総勘定元帳

バッチ処理オプションでバッチ タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この [総勘定元帳] の処理オプションを 1 に指定した場合は、そのバッチが特定され、該当するレコードが F0911 テーブルと F0011 テーブルの間で比較されます。

バッチ処理オプションでバッチ タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この [総勘定元帳] の処理オプションをブランクにした場合、F0911 テーブルと F0011 テーブルの間の不整合はチェックされません。

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 1. G/L 整合性チェックフラグ | <p>F0911 テーブルのレコードを、F0011 テーブルのバッチ制御レコードと比較する対象に含めるかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。</p> <p>ブランク:F0911 のレコードを含めない。</p> <p>1: F0911 のレコードを含める。[売掛管理システム] または [買掛管理システム] の処理オプションを 1 に指定した場合は、F0911 テーブルの全てのバッチ タイプが整合性チェックの対象として選択されます。</p> |
|-------------------|---|

## 売掛管理システム

この処理オプションの有効値は以下のとおりです。

- ブランク:指定したテーブルのレコードを、F0011 テーブルのバッチ制御レコードと比較する対象に含めない。
- 1: 指定したテーブルのレコードを、F0011 テーブルのバッチ制御レコードと比較する対象に含める。

バッチ処理オプションでバッチ タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この [売掛管理システム] のいずれかのバッチ処理オプションを 1 に指定した場合は、それらのバッチが特定され、該当するレコードが売掛金テーブルと F0011 テーブルの間で比較されます。

バッチ処理オプションでバッチ タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この「売掛管理システム」の処理オプションを空白にした場合、そのテーブルと F0011 テーブルの間の不整合はチェックされません。

たとえば、処理オプションでバッチ タイプ範囲を IB から RB と指定したとします。さらに、「総勘定元帳」と「買掛管理システム」の処理オプションで 1 を指定し、「売掛管理システム」の処理オプションは空白のままとします。この場合、F0911 テーブルに存在する IB から RB のバッチが整合性チェックの対象となり、F0011 テーブルと比較されます。

1. **売掛金元帳 (F03B11) 整合性チェックフラグ** F03B11 テーブルの売掛金元帳レコードを含めるかどうかを指定します。
2. **入金見出し (F03B13) 整合性チェックフラグ** F03B13 テーブルの入金見出しレコードを含めるかどうかを指定します。
3. **入金見出し/入金明細比較フラグ** F03B13 テーブルの入金見出しレコードと F03B14 テーブルの入金明細レコードを含めるかどうかを指定します。

## 買掛管理システム

この処理オプションの有効値は以下のとおりです。

空白: 指定したテーブルのレコードを、F0011 テーブルのバッチ制御レコードと比較する対象に含めない。

- 1: 指定したテーブルのレコードを、F0011 テーブルのバッチ制御レコードと比較する対象に含める。

バッチ処理オプションでバッチ タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この「買掛管理システム」のいずれかのバッチ処理オプションを 1 に指定した場合は、それらのバッチが特定され、該当するレコードが買掛金テーブルと F0011 テーブルの間で比較されます。

バッチ処理オプションでバッチ タイプ範囲またはバッチ番号範囲を指定して、この「買掛管理システム」の処理オプションを空白にした場合、そのテーブルと F0011 テーブルの間の不整合はチェックされません。

1. **買掛金元帳 (F0411) 整合性チェックフラグ** F0411 テーブルの買掛金元帳レコードを含めるかどうかを指定します。
2. **A/P マッチングドキュメントファイル (F0413) フラグ** F0413 テーブルの照合伝票レコードを含めるかどうかを指定します。
3. **A/P 見出し/支払明細フラグ** F0413 の買掛金照合伝票レコードと F0414 テーブルの買掛金照合伝票詳細レコードを含めるかどうかを指定します。

## オプション

1. **不足しているバッチ見出し (F0011) の再作成フラグ** F0011 テーブルの不足しているバッチ見出しレコードを再作成するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
 空白: 不足しているバッチ見出しレコードを再作成しない。バッチ見出しレコードがないというメッセージがレポートに表示されます。  
 1: 不足しているバッチ見出しレコードを再作成する。不足しているバッチ見出しレコードが追加されたというメッセージがレポートに表示されます。
2. **管理者承認フラグ** 不足している F0011 テーブルのバッチ見出しレコードを再作成する際の管理者承認を必須にするかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 不足しているバッチ見出しレコードを再作成する際の管理者承認を不要にする。バッチ状況は A (承認済み) に設定されます。

1: 不足しているバッチ見出しレコードを再作成する際の管理者承認を必須にする。バッチ状況が P (保留) に設定されます。

## 取引とバッチ見出しの不整合の修正

取引とバッチ見出しの整合性レポートの実行後、F0011 テーブルの不足しているバッチ見出しレコードを再作成する処理オプションを設定して、全ての不整合を修正する必要があります。取引とバッチ見出しの不整合レポートで検出された不整合を修正した後で、バッチと取引明細の整合性レポートを実行してください。

将来不整合が起きないようにするために、バッチの改訂は 1 人のユーザーが担当することをお勧めします。

### バッチ見出しレコードが見つからない

このエラーがレポートに表示される理由には、以下のようなものがあります。

- コンピュータの不具合。
- 変換またはインターフェイス プログラムで正しくないバッチ見出しが作成された。
- ユーザーが正しくないバッチ見出しを作成した。
- ユーザーがバッチ見出しの改訂フォームに実際の伝票数を入力しなかった。

### 転記済みバッチ見出しレコードに転記済み詳細がない

ユーザーがバッチ見出しレコードの状況を過って転記済みにすると、このエラーが取引とバッチ見出しの整合性レポートに表示されます。

この不整合を修正するには、バッチ見出しの改訂フォームでバッチ見出しレコードの状況を A (承認済み) に変更し、バッチを転記します。

### 関連項目:

第 34 章、「バッチ見出しの管理」、「バッチ見出しの追加と改訂」、444 ページ

---

## バッチと取引明細の整合性レポートの実行

このセクションでは、バッチと取引明細の整合性レポートの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- バッチと取引明細の整合性レポートの印刷
- バッチと取引明細の整合性の処理オプションの設定

## バッチと取引明細の整合性レポートについて

バッチと取引明細の整合性レポート (R007031) により、F0011 テーブルのバッチ見出しレコードの状況と以下のテーブルの対応する取引の状況が比較されます。

- F0911

- F0411、F0413、および F0414
- F03B11、F03B13、および F03B14

以下の処理のいずれかが実行されます。

- バッチの対応する全ての取引レコードが転記済みとマークされている場合は、F0011 テーブルのバッチ見出し状況は D に更新されます。

たとえば、F0911 内のバッチ タイプ G の全てのレコードが転記済みで、F0011 テーブルのバッチのバッチ見出しレコードが転記されていない場合、F0011 レコードの状況は D (転記済み) に更新されます。

- 以下のいずれかの状況に当てはまる場合に、バッチ見出しが削除され、バッチが削除されたことを示すメッセージがレポートに出力されます。
  - F0911 テーブルにバッチ タイプ G のレコードが存在しない。
  - F03B11 テーブルにも、F03B13 テーブルと F03B14 テーブルにもレコードが存在せず、[売掛金整合性チェック・フラグ] 処理オプションが 1 に設定されている。
  - F0411 テーブルにも、F0413 テーブルと F0414 テーブルにもレコードが存在せず、[買掛金整合性チェック・フラグ] 処理オプションが 1 に設定されている。

---

注: [売掛金整合性チェック・フラグ] または [買掛金整合性チェック・フラグ] 処理オプションが空白の場合は、売掛金テーブルまたは買掛金テーブルに未転記のレコードが存在しているかどうかにかかわらずバッチは無視されます。処理オプションが空白の場合、バッチは整合性チェックの対象外となります。

---

## 事前設定

バッチと取引明細の整合性レポートを実行する前に、取引とバッチ見出しの整合性レポートで検出された不整合を修正してください。

## バッチと取引明細の整合性レポートの印刷

[整合性レポートおよび更新] メニュー (G0922) から、[バッチと取引明細の整合性] を選択します。

## バッチと取引明細の整合性 (R007031) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 日付範囲

バッチ レベルのレポートであるため、総勘定元帳の取引日付ではなくバッチ日付を使ってレコードが選択されます。

1. 開始日付、2. 終了日付      日付範囲の開始日と終了日を指定して、処理対象として選択されるレコードを絞り込みます。この処理オプションを空白にすると、[猶予日数] 処理オプションに値を入力しない限り、全てのレコードが選択されます。
3. 猶予日数      処理するレコードを選択するために使用する、現行日付に先立つ日数を指定します。バッチ日付がこの値によって算出された日付から現行日付までの範囲にあるレコードが選択されます。たとえば、この処理オプションに 30 を指定すると、30 日前から本日までのレコードが選択されます。  
この処理オプションを空白にすると、[開始日付] 処理オプションと [終了日付] オプションで指定した日付範囲が対象となります。

## 売掛金

### 1. 売掛金整合性チェック フラグ

整合性チェックの対象にするテーブルを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 整合性チェックの対象を F0011 テーブルのバッチ制御レコードと F0911 テーブルの元帳レコードのみに絞り込みます。

この処理オプションがブランクで F0911 テーブルにレコードがない場合、売掛管理システムのテーブルは整合性チェックの対象にならないため F0011 テーブルのバッチ見出しレコードは削除されません。このため、バッチはレポートに表示されません。

1: 整合性チェックの対象を F03B11、F03B13、F03B14、および F03B11Z1 のテーブルに拡大します。

この処理オプションが 1 で、F0911 テーブルにも売掛管理システムのテーブルにもレコードがない場合、バッチ見出しレコードは削除され、レポートには削除されたことを示すメッセージが出力されます。転記済みの明細レコードが売掛管理システムのテーブルにあり、対応する F0911 のレコードがない場合、バッチは無視されレポートに表示されません。

## 買掛金

### 1. 買掛金整合性チェック フラグ

整合性チェックの対象にするテーブルを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 整合性チェックの対象を F0011 テーブルのバッチ制御レコードと F0911 テーブルの元帳レコードのみに絞り込みます。

この処理オプションがブランクで F0911 テーブルにレコードがない場合、買掛管理システムのテーブルは整合性チェックの対象にならないため F0011 テーブルのバッチ見出しレコードは削除されません。このため、バッチはレポートに表示されません。

1: 整合性チェックの対象を F0411、F0413、および F0414 のテーブルに拡大します。

この処理オプションが 1 で、F0911 テーブルにも買掛管理システムのテーブルにもレコードがない場合、バッチ見出しレコードは削除され、レポートには削除されたことを示すメッセージが出力されます。転記済みの明細レコードが買掛管理システムのテーブルにあり、対応するレコードが F0911 テーブルにない場合、バッチは無視されレポートに表示されません。

## バッチ

### 1. バッチ タイプ

整合性チェックの対象にするバッチ タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、全てのバッチ タイプが表示されます。

### 2. バッチ番号範囲 (開始) 3. バッチ番号範囲 (終了)

整合性チェック対象に含めるバッチ番号の範囲の始まりと終わりを指定します。

[バッチ番号範囲 (開始)] 処理オプションをブランクにすると、[バッチ番号範囲 (終了)] 処理オプションで指定したバッチ番号より前の全てのバッチ番号が対象となります。

[バッチ番号範囲 (終了)] の処理オプションをブランクにすると、[バッチ番号範囲 (開始)] の処理オプションで指定したバッチ番号より後の全てのバッチ番号が対象となります。

両方の処理オプションを空白にすると、全てのバッチ番号が対象となります。

---

## 未転記バッチ レポートの印刷

このセクションでは、未転記バッチ レポートの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

### 未転記バッチ レポートについて

未転記バッチ レポート (R007011) を使うと、全ての未転記バッチ取引のリストを行う際に参照できます。このレポートは以下の処理を行う際に参照できます。

- 承認済み状況のバッチを転記する。
- 保留状況のバッチを検討および承認する。
- エラーのあるバッチを調査する。

未転記バッチ レポートには、F0011 テーブルから取得されたバッチ制御情報のみが出力されます。未転記バッチ取引に対してバッチ見出しが存在しない場合、そのバッチはレポートに表示されません。

このレポートでは、バッチ タイプ別、次にバッチ番号別に情報がソートされます。

### 事前設定

未転記バッチレポートを実行する前に、バッチと取引明細の整合性レポートで検出された不整合を修正してください。

### 未転記バッチ レポートの印刷

[整合性レポートおよび更新] メニュー (G0922) から、[未転記バッチ] を選択します。

このレポートに処理オプションはありません。

---

## 貸借不一致のバッチ レポートの実行

このセクションでは、貸借不一致のバッチ レポートの概要と、以下の方法について説明します。

- 貸借不一致のバッチ レポートの印刷
- 貸借不一致のバッチのデータ選択の設定
- 貸借不一致のバッチの処理オプションの設定
- 貸借不一致のバッチ レポートの不整合の修正

### 貸借不一致のバッチ レポートについて

貸借が一致しないバッチは、調査する必要があります。意図的に貸借不一致のバッチを転記したり、システム上の問題により貸借不一致のバッチが転記されることもあります。



貸借不一致のバッチ レポート (R007032) では、各バッチの残高が検討されます。残高がゼロでない場合、バッチの合計金額ではなく差額がレポートに出力されます。残高がゼロの場合、バッチの貸借は一致しているためレポートに出力されません。

#### 関連項目:

付録 G、「EnterpriseOne 一般会計レポート」、「R09301 - 仕訳帳 (未転記)、仕訳帳 (バッチ別)、現金主義会計未転記レポート」、570 ページ

## 貸借不一致のバッチ レポートの印刷

[整合性レポートおよび更新] メニュー (G0922) から、[貸借不一致のバッチ] を選択します。

## 貸借不一致のバッチのデータ選択の設定

レポートの処理時間を短縮するために、データ選択の設定でバッチ番号、バッチ タイプ、および会社番号を入力することをお勧めします。

## 貸借不一致のバッチ (R007032) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 日付範囲

バッチ レベルのレポートであるため、総勘定元帳の取引日付ではなくバッチ日付を使ってレコードが選択されます。

1. 開始日付、2. 終了日付      日付範囲の開始日と終了日を指定して、処理対象として選択されるレコードを絞り込みます。  
この処理オプションをブランクにすると、[猶予日数] 処理オプションに値を入力しない限り、全てのレコードが選択されます。
3. 猶予日数      処理するレコードを選択するために使用する、現行日付に先立つ日数を指定します。バッチ日付がこの値によって算出された日付から現行日付までの範囲にあるレコードが選択されます。たとえば、この処理オプションに 30 を指定すると、30 日前から本日までのレコードが選択されます。この処理オプションをブランクにすると、[開始日付] 処理オプションと [終了日付] 処理オプションで指定した日付範囲が対象となります。

### 元帳タイプ

1. 元帳タイプ      整合性チェックの対象に追加する元帳タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプが AA のレコードのみが選択されます。

## 貸借不一致のバッチ レポートの不整合の修正

貸借不一致のバッチ レポートを実行したら、検出された不整合を修正してください。バッチの詳細レコードを分析するには、仕訳帳 (バッチ別) レポート (R09301) を実行します。

将来貸借不一致が発生するのを防ぐために、以下のことを考慮してください。

- 誤って変更が行われないように [バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン] フォームへのセキュリティを割り当てる。

- 貸借不一致仕訳の転記を 1 人のユーザーが担当するようにする。

### 貸借不一致の転記済みバッチ

レポートにこのエラーが表示される理由には、以下のようなものがあります。

- 意図的にバッチが貸借不一致のまま転記された。  
レポートからこのバッチを削除するには、[バッチの一時変更] フォームの [整合性レポートからバッチを除外] チェック ボックスをオンにします。このバッチの伝票は保管しておいてください。
- 会社間決済固定情報が“\*”に設定されている。  
このエラーを修正するには、以下の作業を行います。
  - 会社間決済が必要な場合は、仕訳を手入力し、このバッチを転記する。
  - 会社間決済が自動的に作成されるように、会社間決済固定情報を 1 または 2 へ変更する。

### バッチが部分的に転記された

レポートにこのエラーが表示される理由としては、コンピュータの不具合またはジョブの取り消しがあります。このエラーを修正するには、以下の作業を行います。

- [バッチの一時変更] フォームの [貸借不一致バッチの転記を許可] チェック ボックスをオンにして、部分的に転記済みのバッチを再転記する。
- 会社間決済が必要な場合は、仕訳を手入力する。

---

注: 特定のバッチ タイプの空のバッチ見出しが削除されないようにするには、ユーザー定義コード テーブル (98/IT) でバッチ タイプの記述 02 フィールドに「x」を入力してください。

---

## バッチ別貸借不一致の会社レポートの実行

このセクションでは、バッチ別貸借不一致の会社レポートの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- バッチ別貸借不一致の会社レポートの印刷
- バッチ別貸借不一致の会社の処理オプションの設定
- バッチ別貸借不一致の会社レポートの不整合の修正

### バッチ別貸借不一致の会社レポートについて

バッチ別貸借不一致の会社レポート (R09706) では、F0911 テーブルの転記済み取引のみが検討されます。このレポートでは、バッチ別に F0911 テーブルの全ての転記済み取引が集計され、各バッチの合計金額が F0011 テーブルのバッチ見出しレコードと比較されます。貸借が一致しない全てのバッチと以下の情報が出力されます。

- バッチの貸借不一致金額
- 貸借不一致バッチがある会社番号と、その会社の貸借不一致金額

このレポートは例外レポートです。不整合がない場合、レポートはブランクになります。

## 事前設定

正確さを期すために、バッチ別貸借不一致の会社レポートは、他のユーザーがこのシステムにアクセスしていないときに実行するようにしてください。

### バッチ別貸借不一致の会社レポートの印刷

[整合性レポートおよび更新] メニュー (G0922) から、[バッチ別貸借不一致の会社] を選択します。

### バッチ別貸借不一致の会社 (R09706) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 追加元帳

##### 元帳タイプ

整合性チェックの対象に追加する元帳を指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプが AA のレコードのみが選択されます。

### バッチ別貸借不一致の会社レポートの不整合の修正

整合性レポートを実行した後、検出された不整合を修正してください。

#### バッチ内会社別貸借不一致

レポートにこのエラーが表示される理由には、以下のようなものがあります。

- 一般会計固定情報の設定に従ってバッチが貸借不一致のまま転記されたか、または [バッチの一時変更] フォームで貸借不一致の転記を許可するように設定されている。
- コンピュータの不具合が発生したか、またはジョブが取り消された。

このエラーを修正するには、以下の作業を行います。

- [バッチの一時変更] フォームの [貸借不一致バッチの転記を許可] チェック ボックスをオンにして、一般会計固定情報の [会社間決済] フィールドの値を "\*" に変更する。
- 会社間決済が自動的に作成されるように、会社間決済フィールドの値を 1 または 2 へ戻す。

---

## 貸借一致の会社レポートの実行

このセクションでは、貸借一致の会社レポートの概要と、以下の方法について説明します。

- 貸借一致の会社レポートの印刷
- 貸借不一致の特定
- 貸借一致の会社レポートの不整合の修正

### 貸借一致の会社レポートについて

各会社の取引残高はゼロである必要があります。貸借一致の会社レポート (R097001) では、F0902 の情報を使用して、会社の貸借が一致しているかどうか判断されます。

このレポートによって、前年度への修正転記のうち勘定科目の繰越残高に反映されなかったもの、締め日後に転記した金額、および会社間決済の入力漏れを特定できます。会社間決済を行う場合は、貸借一致の会社レポートを実行した後すぐに貸借一致の会社間勘定科レポート (R097011) を実行して、会社間勘定の貸借が一致していることを確認してください。

注: 一般会計固定情報の [会社間決済] フィールドによって、会社間仕訳の自動作成が制御されます。会社間仕訳が自動的に作成されるようにするには、この固定情報を "1" または "2" に設定する必要があります。

貸借一致の会社レポートには 3 つのカラムが含まれます。会社の貸借が一致している場合、これらのカラムはブランクで表示されます。会社の貸借が不一致の場合、次の表に示すように集計金額がカラムに表示されます。

カラム	説明
年度	<p>以下のガイドラインに沿って、貸借不一致の会計年度が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>貸借不一致が 1 つの年度のみの場合は、それ以降の全ての会計年度に同額の不一致が表示されます。これは、貸借不一致金額は修正されるまで後続年度に持ち越されるためです。後続年度に貸借一致する年度があっても、全ての後続年度に不一致が表示されます。</li> <li>複数の年度に不一致がある場合、不一致額は会計年度ごとに異なります。最も古い年度の不一致が最初の不一致状況になります。</li> </ul>
前年度	<p>会社の不一致額が表示されます。このフィールドは累計フィールドです。たとえば、2006 年度が不一致の場合、その不一致額は 2007 年度の額に追加されます。</p>
PACO (未来期間)	<p>貸借が不一致で、将来の会計期間または年度に転記されている場合に、金額が表示されます。</p>

## 貸借一致の会社レポートの印刷

[整合性レポートおよび更新] メニュー (G0922) から、[貸借一致の会社] を選択します。

このレポートに処理オプションはありません。

## 貸借不一致の会社の特定

貸借一致の会社レポートを実行し検討した後に、以下の方法で貸借不一致の会社を特定することができます。

- 以下のいずれかのレポートを実行する。
  - バッチと取引明細の整合性 (R007031)
  - 勘定残高と取引の整合性 (R09705)
  - 貸借一致の会社間勘定科目 (R097011)
- 仕訳の検討プログラム (P0011) でバッチまたはバッチ タイプを検討する。
- 試算表レポート (R09410) を実行して、各会社のどの期間で貸借不一致が発生しているかを判断する。集計レポートの詳細レベルとして 5 を選択してください。
- F0911 テーブルのデータが正しいことを確認する。

レポートのみを印刷するように処理オプションを設定して、取引明細の再転記プログラム (R099102) を実行します。レポートに不整合が表示された場合は、取引明細の再転記プログラムを最終モードで実行して不整合を修正してください。

参照: 第 35 章、「取引明細の再転記と会計年度の再計算」、「取引明細の再転記」、448 ページ

## 貸借一致の会社レポートの不整合の修正

貸借不一致の会社を特定した後に、検出された不整合を修正してください。

将来貸借不一致が発生するのを防ぐために、以下のことを考慮してください。

- 誤って変更が行われないように、[バッチの処理] フォームと一般会計固定情報にセキュリティを設定する。
- 貸借不一致の修正を 1 人のユーザーが担当するようにする。

### 会社の年累計カラムが不一致

レポートにこのエラーが表示される理由には、以下のようなものがあります。

- バッチが貸借不一致のまま転記された。

貸借不一致バッチを特定して修正するには、バッチと取引明細の整合性レポートおよびバッチ別貸借不一致の会社レポートを実行します。さらに、勘定残高と取引の整合性レポートを実行して、貸借不一致の勘定と期間を判断します。当初の仕訳を修正するために貸借不一致の仕訳を作成します。

- F0902 テーブルに F0911 テーブルの取引と異なる誤ったデータが含まれている。

貸借不一致の仕訳を作成します。必要に応じて、F0902 テーブルが更新されるように処理オプションを設定して、取引明細の再転記プログラムを実行し、F0902 テーブルが F0911 テーブルの転記済み合計金額レコードと等しくなるようにします。

### 2 つの会社で、貸借不一致が同じ年累計カラムの金額で発生している

会社間決済の設定に誤りがあり、転記時に会社間決済仕訳が作成されなかったバッチがある場合、このエラーがレポートに表示されます。以下のことを確認してください。

- 会社間決済を制御する自動仕訳 (AAI) を調べ、必要に応じて修正する。
- 会社間勘定を自動仕訳 (転記編集コード M) に制限する。
- 一般会計固定情報の [会社間決済] フィールドが、1 または 2 に設定されていることを確認する。

このエラーを特定するには、以下の作業を行います。

- 貸借一致の会社間勘定科目レポート (R097011) を実行して、貸借不一致を特定する。
- 主科目別試算表レポートを実行するか、または主科目別試算表の処理フォームを使用して、貸借不一致が発生している会計期間を確定する。

エラーを修正するには、貸借を一致させる会社間仕訳を作成し、一般会計固定情報の [会社間決済] フィールドを "\*" に設定して転記します。このフィールドが "\*" に設定されていない場合、バッチにより各会社の取引残高がゼロになるように会社間決済が作成されるため、貸借不一致は解消されません。処理が完了したら、このフィールドを当初の設定に戻してください。

### PACO (未来期間) カラムに金額がある

このエラーがレポートに表示されるのは、将来の会計期間または年度に仕訳が転記され、貸借が一致しない場合です。このエラーを修正するには、以下の作業を行います。

- 将来の会計期間および会計年度に対して試算表レポート (R09410) を実行し、仕訳を特定する。  
レポートのデータを調査して、2 つの片側仕訳を入力し、金額を適切な期間に移動する必要があるかどうかを決定します。これらの仕訳は貸借不一致で転記します。
- バッチ別貸借不一致の会社レポート (R09706) を実行して、PACO (未来期間) 金額を持つ会社について貸借不一致の転記を行ったバッチを特定する。  
当初の仕訳を修正するために貸借不一致の仕訳を作成します。これらの仕訳は貸借不一致で転記します。

### 会社の前年度合計が貸借不一致

レポートにこのエラーが表示される理由には、以下のようなものがあります。

- 貸借対照表勘定と損益計算書勘定の金額を再分類するために前年度の仕訳を入力したが、前年度の再度の締めが行われなかった。
- 前年度のバッチが貸借不一致のまま転記された。
- 前年度から F0902 テーブルに、F0911 テーブルの取引と異なる誤ったデータが含まれている。

このエラーを修正するには、以下の作業を行います。

- 前年度の仕訳が貸借対照表勘定と損益計算書勘定との振替仕訳である場合は、年度の締めプログラム (R098201) をもう一度実行して、繰越利益を再計算する。
- AAI 項目 GLG4 (繰越利益) が正確かどうか確認する。
- 前年度に貸借不一致状況が存在する場合は、バッチと取引明細の整合性レポートおよびバッチ別貸借不一致の会社レポートを実行して貸借不一致バッチを特定する。  
さらに、勘定残高と取引の整合性レポートを実行して、貸借不一致の勘定と期間を判断します。当初の仕訳を訂正するために前年度に対して貸借不一致の仕訳を作成し、年度の締めプログラムを実行して繰越利益を再計算します。
- F0902 テーブルに前年度の、F0911 テーブルの取引と異なる誤ったデータが含まれている場合は、当初の仕訳を訂正するために貸借不一致の仕訳を作成する。  
必要に応じて、F0902 テーブルを更新するように処理オプションを設定して、取引明細の再転記プログラムを実行します。F0902 テーブルは F0911 テーブルの転記済み合計金額レコードと等しくなります。

### 会社が見つからない

仕訳の転記後に会社が削除された場合、このエラーがレポートに表示されます。このエラーを修正するには、以下の作業を行います。

- 会社名および番号プログラム (P0010) を使って、その会社を再入力する。
- 別の会社にも金額を振り替える。

---

## 貸借一致の会社間勘定科目レポートの実行

このセクションでは、貸借一致の会社間勘定科目レポートの概要と、以下の方法について説明します。

- 貸借一致の会社間勘定科目レポートの印刷
- 貸借一致の会社間勘定科目の処理オプションの設定
- 貸借不一致の会社間勘定科目の特定

- 貸借一致の会社間勘定科目の不整合の修正

## 貸借一致の会社間勘定科目レポートについて

ハブまたは詳細の会社間決済に設定されている会社が複数ある場合は、全ての会社間勘定の貸借が一致しているかどうかを確認する必要があります。貸借一致の会社間勘定科目レポート (R097011) では、下記の処理が行われます。

- F0902 テーブルの情報を使用して、会社のさまざまな会社間決済勘定間の残高が比較される。
- AAI 項目および関連する会社間勘定が正しく設定されているかどうかを確認される。
- 現行年度、前年度、次年度の全ての期間が対象となる。

このレポートでは、特定の会計期間は使用されません。

会社の会社間勘定残高は一致している必要があります。一致していない場合は、貸借一致の会社間勘定科目レポートに会社間勘定科目、その残高、および各勘定の残高を一致させるのに必要な金額の一覧が表示されます。

会社間決済コードが “\*” に設定された状態で転記された取引は、このレポートには表示されません。このコードは、バッチが貸借不一致で転記されたときに自動的に使用されます。会社間決済が入力されていないために生じた貸借不一致を特定するには、貸借一致の会社レポートを印刷します。

以下の場合にのみ、貸借一致の会社間勘定科目レポートにメッセージが表示されます。

- 全ての会社間勘定の残高が一致している。
- AAI で会社間勘定が設定されていない。

---

注: 基本通貨の異なる複数の会社が対象の場合は、この整合性レポートを実行しないでください。その代わりに、貸借一致の会社レポートを実行してください。

---

## 貸借一致の会社間勘定科目レポートの印刷

[整合性レポートおよび更新] メニュー (G0922) から、[貸借一致の会社間勘定科目] を選択します。

## 貸借一致の会社間勘定科目 (R097011) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 元帳タイプ

#### 元帳タイプ

処理する元帳タイプを入力してください。ブランクの場合は、全ての元帳タイプが処理されます。

## 貸借不一致の会社間勘定科目の特定

貸借一致の会社間勘定科目レポートを検討した後に、以下のいずれかの方法を選択して貸借不一致の会社間勘定科目を特定します。

- バッチと取引明細の整合性レポートを実行する。
- 貸借一致の会社レポートを実行する。
- 仕訳の検討プログラムを使って、バッチまたはバッチ タイプを検討する。

- ・ 月別損益計算書レポート (R10412A) または主科目別試算表レポート (R094121) を実行して、貸借不一致の期間を判断する。

## 貸借一致の会社間勘定科目の不整合の修正

貸借一致の会社間勘定科目レポートを実行したら、検出された不整合を修正してください。

将来貸借不一致が発生するのを防ぐために、転記編集コード M を会社間勘定に割り当て、システム生成の取引のみを許可するようにします。

### 会社間勘定残高が不一致

レポートにこのエラーが表示される理由には、以下のようなものがあります。

- ・ 会社間 AAI 項目が正しく設定されなかった。
- ・ 自動仕訳しか許可しない勘定科目に手入力の仕訳が誤って転記された。
- ・ 会社間仕訳を手入力で転記できるように設定している場合に、会社間仕訳の相手勘定科目が指定されていなかった。

このエラーを修正するには、以下の作業を行います。

- ・ AAI 項目の ICH と ICCG が正しく設定されていない場合は修正する。
- ・ 会社間決済勘定の誤った仕訳を無効にするか修正する。

---

## 勘定残高と取引の整合性レポートの実行

このセクションでは、勘定残高と取引の整合性レポートの概要と、以下の方法について説明します。

- ・ 勘定残高と取引の整合性レポートの印刷
- ・ 勘定残高と取引の処理オプションの設定
- ・ 勘定残高と取引の整合性レポートの不整合の修正

### 勘定残高と取引の整合性レポートについて

勘定残高と取引の整合性レポートでは、F0902 テーブルの残高が検討され、その残高が F0911 テーブルの転記済み取引に対して検証され、期間別に貸借不一致が印刷されます。この整合性レポートで F0902 レコードと同じ勘定科目コード、期間番号、会計年度、および元帳タイプを持つ F0911 レコードが検出されない場合は、以下の条件に当てはまる限り、その無効な期間の残高は F0902 テーブルから削除されます。

- ・ 無効な期間残高を削除するように処理オプションが設定されている。
- ・ 元帳タイプ マスターの設定プログラム (P0025) で、影響を受ける元帳タイプの [残高を直接更新しない] チェック ボックスがオンになっている。

勘定残高と取引の整合性レポートによって対応する F0902 レコードを持つ F0911 レコードが検出された場合は、処理オプションと元帳タイプ マスターの設定にかかわらず、F0902 テーブルから無効な期間残高は削除されません。



**関連項目:**

第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプ規則の設定」、24 ページ

**勘定残高と取引の整合性レポートの印刷**

[整合性レポートおよび更新] メニュー (G0922) から、[勘定残高と取引の整合性] を選択します。

**勘定残高と取引の整合性 (R09705) の処理オプションの設定**

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

**選択**

1. 会社 F0902 テーブルからレコードを選択する際に使用する会社番号を指定します。この処理オプションをブランクにすると、全ての会社を選択されます。
2. 元帳タイプ F0902 テーブルからレコードを選択する際に使用する元帳タイプ (UDC テーブル 09/LT) を指定します。  
この処理オプションをブランクにすると、F0902 テーブルの全ての金額元帳タイプが選択され、同じテーブルの全ての数量元帳タイプは除外されます。  
数量元帳タイプのレコードを処理するには、各数量元帳タイプのレポートを個別に実行します。この処理オプションに具体的な数量元帳タイプを入力して、関連する金額元帳タイプを [金額元帳タイプ] 処理オプションに入力します。たとえば、AU 元帳の数量元帳タイプレコードを処理する必要がある、関連する金額元帳が AA 元帳である場合は、[元帳タイプ] 処理オプションに AU を、[金額元帳タイプ] 処理オプションに AA を指定します。
3. 会計年度 F0902 テーブルからレコードを選択する際に使用する会計年度を指定します。会計年度の下 2 桁を入力してください。たとえば、2006 年の場合は「06」と入力します。この処理オプションをブランクにすると、全ての会計年度が選択されます。
4. 開始期間、5. 終了期間 F0902 テーブルからレコードを選択する際に使用する開始期間と終了期間を指定します。  
[開始期間] 処理オプションをブランクにすると、[終了期間] 処理オプションで指定した期間よりも前の期間のレコードが全て選択されます。  
[終了期間] 処理オプションをブランクにすると、[開始期間] 処理オプションで指定した期間よりも後の期間のレコードが全て選択されます。  
両方の処理オプションをブランクにすると、全てのバッチ番号が選択されます。
6. ビジネスユニット F0902 テーブルからレコードを選択する際に使用するビジネスユニットを指定します。この処理オプションをブランクにすると、[会社] 処理オプションで指定した会社の全てのビジネスユニットが選択されます。
7. 開始主科目、8. 終了主科目 F0902 テーブルからレコードを選択する際に使用する、勘定科目範囲の開始主科目と終了主科目を指定します。  
[開始主科目] 処理オプションをブランクにすると、[終了主科目] 処理オプションで指定した勘定科目よりも前の主科目を持つレコードが全て選択されます。

[終了主科目] 処理オプションをブランクにすると、[開始主科目] 処理オプションで指定した勘定科目よりも後の主科目を持つレコードが全て選択されます。

両方の処理オプションをブランクにすると、全ての主科目が選択されます。

## オプション

### 1. 不正な期間残高をクリア

F0911 テーブルに対応するレコードがない場合に、F0902 テーブルの期間残高を削除するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:F0902 テーブルの無効なレコードの期間金額を削除せず、無効なレコードをレポートに出力する。

1: F0902 テーブルの無効なレコードの期間金額を削除し、レポートに無効なレコードを出力する。F0911 テーブルにレコードが存在せず、元帳タイプマスターの設定プログラム (P0025) で対応する元帳タイプの [残高を直接更新しない] チェック ボックスがオンになっている場合のみ、無効な期間金額は削除されます。

例:F0902 テーブルに残高 600 の勘定科目があり、その元帳タイプは AA で、会計年度 2007、期間は 6 であるとして。これと同じ会計年度、期間、元帳タイプを持つ勘定科目のレコードが F0911 テーブルにないとき、元帳タイプの AA の [残高を直接更新しない] チェック ボックスがオンの場合のみ、F0902 の金額が削除されます。F0902 から残高金額が削除された場合は、貸借不一致の金額と “決済残高” というメッセージが出力されます。

例: F0902 テーブルに残高 600 の勘定科目があり、その元帳タイプは AA で、会計年度 2007、期間は 6 であるとして。F0911 テーブルにも残高 400 の同じ勘定科目があり、その会計年度、期間、元帳タイプも F0902 と同じであるとして。この場合は、同じ会計年度および期間の勘定科目の残高が F0911 テーブルに存在するため、[残高を直接更新しない] チェック ボックスがオンであるかどうかにかかわらず、F0902 テーブルの金額は削除されません。

### 2. 無効な勘定科目を除外

F0902 テーブルの期間残高を F0911 テーブルの対応するレコードと比較する際に、使用していない勘定科目を除外するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:無効な勘定科目を含める。

1: 無効な勘定科目を除外する。

## 数量

### 1. 金額元帳タイプ

[元帳タイプ] 処理オプションと共に使用して、F0902 テーブルからレコードを選択する際に使用する金額元帳タイプを指定します。[元帳タイプ] 処理オプションで指定する数量元帳タイプに関連する、金額元帳タイプ (ユーザー定義コード テーブル 09/LT) を指定します。

この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプ AA が使用されます。

## 勘定残高と取引の整合性レポートの不整合の修正

勘定残高と取引の整合性レポートを実行したら、検出された不整合を修正してください。

将来貸借不一致が発生するのを防ぐために、以下のことを考慮してください。

- 誤って変更が行われように、[バッチ処理] フォームにセキュリティを設定する。
- 貸借不一致の転記を 1 人のユーザーが担当するようにする。
- 入力の無効、変更、削除は 1 人のユーザーのみに許可する。

---

**重要:** F0902 テーブルのレコードが間違っって削除されるのを防ぐために、F0902 テーブルへのデータの直接入力を許可しない元帳タイプのみ、元帳タイプ マスターの設定プログラムの [残高を直接更新しない] チェック ボックスをオンにしてください。F0902 テーブルを直接更新することが可能な元帳タイプもあります (BA 元帳やその他の予算元帳タイプなど)。

---

### 勘定残高カラムと明細カラムの残高が不一致

レポートにこのエラーが表示される理由には、以下のようなものがあります。

- 誤って無効または改訂処理を行ったため、入力データが破損した。  
F0911 テーブルのデータが壊れている場合は、データ ユーティリティ プログラムを実行します。F0902 テーブルのデータが壊れている場合は、取引明細の再転記プログラム (R099102) を実行します。
- 変換/インターフェイス プログラムによって作成された入力が正しくない。  
エラーを調べ、不足しているレコードを追加します。F0911 のレコードの妥当性を確認し、変換/インターフェイス プログラムを訂正します。

### 残高カラムに勘定科目が存在せず、明細カラムに勘定科目が存在しない

このエラーが表示されるのは、F0902 テーブルにデータの直接入力された場合です。このエラーを修正するには、元帳タイプ マスターの設定プログラムで、F0902 テーブルへのデータが直接入力を許可しない全ての元帳タイプの [残高を直接更新しない] チェック ボックスをオンにします。それから、[不正な期間残高をクリア] 処理オプションで 1 を選択して勘定残高と取引の整合性レポートを実行し、F0902 テーブルから無効な残高を削除します。

### 期間パターンが不正確

このエラーが表示されるのは、仕訳の入力後に、会計期間パターンに変更が加えられた場合です。前の会社の期間パターンが新しい会社のものと異なる場合、処理オプションをレポートの印刷のみに設定して、取引明細の再転記プログラムを実行してください。レポートを検討したら、処理オプションを再計算に設定して取引明細の再転記プログラムを実行し、会計期間と会計年度の残高を修正します。

---

## ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの実行

このセクションでは、ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの概要と、以下の方法について説明します。

- ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの印刷
- ビジネスユニットなしの勘定科目の処理オプションの設定

## ビジネスユニットなしの勘定科目レポートについて

ビジネスユニットなしの勘定科目レポート (R097041) により、F0901 テーブルの各レコードに、ビジネスユニットと有効な会社番号が存在するかどうかを確認できます。このレポートでは、F0901 テーブルとビジネスユニット マスター (F0006) が比較され、F0901 テーブルの勘定マスター レコードに、F0006 テーブルと対応するビジネスユニットが存在しない場合、その不整合が表示されます。対応するビジネスユニットが見つからない場合、そのビジネスユニットは、このレポートの無効な MCU カラムに "\*" によって示されます。このレポートには、F0901 テーブルと F0902 テーブルの間で不整合が生じている会社番号も表示されます。

更新モードで実行した場合、F0901 テーブルの会社番号は F0006 テーブルの会社番号で更新されます。

ビジネスユニットなしの勘定科目レポートでは、詳細レベルの割り当てがない勘定科目も識別されます。勘定科目には、詳細レベル 3 - 9 を割り当てる必要があります。詳細レベルがブランクの勘定科目は、このレポートの無効な LOD カラムに "\*" によって示されます。勘定科目に詳細レベルが割り当てられていない場合に詳細レベルをフォームに表示したりレポートに印刷すると、不正確な金額が表示される可能性があります。

---

**注:** 勘定科目表を EnterpriseOne 一般会計システムに移行してから間もない場合は、このレポートを実行して、詳細レベルの情報が欠如している勘定科目を検出して修正してください。

---

ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの不整合を修正してから、勘定科目マスターなしの勘定残高レポートを実行してください。

## ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの印刷

[整合性レポートおよび更新] メニュー (G0922) から [ビジネスユニットなしの勘定科目] を選択します。

## ビジネスユニットなしの勘定科目 (R097041) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 更新オプション

- |                        |  |
|------------------------|--|
| <b>1. 会社番号の更新オプション</b> | 会社番号を更新するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。<br>1: レポートのみを印刷する。<br>2: レポートを印刷し、会社番号を更新する。 |
|------------------------|--|

---

## 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの実行

このセクションでは、勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの概要と、以下の方法について説明します。

- 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの印刷
- 勘定科目マスターなしの勘定残高の処理オプション
- 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの不整合の修正

## 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートについて

勘定科目マスターなしの勘定残高プログラム (R097031) により、F0902 テーブルの各取引に、勘定科目マスター番号または有効な会社番号が存在するかどうかを確認できます。勘定科目マスターまたは会社番号が存在しない場合は、勘定残高情報が出力されます。

更新モードで実行した場合、F0902 テーブルの会社番号は F0901 テーブルの会社番号で更新されます。

---

注: このレポートと勘定科目マスターなしの取引レポートを更新モードで実行する代わりに、標準勘定科目の仕訳への反映プログラム (R09806) を実行することもできます。標準勘定科目の仕訳への反映プログラムでは、F0911 テーブルに加えて F0902 テーブルのレコードも自動的に更新されます。

---

## 事前設定

勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの実行前に、ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの不整合を修正してください。

## 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの印刷

[整合性レポートおよび更新] メニュー (G0922) から [勘定科目マスターなしの勘定残高] を選択します。

## 勘定科目マスターなしの勘定残高 (R097031) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 更新オプション

1. 会社更新オプション      会社番号を更新するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
  - 1: レポートのみを印刷する。
  - 2: レポートを印刷し、会社番号を更新する。

## 勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの不整合の修正

勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの実行後に、検出された不整合を修正してください。

### 勘定科目マスター会社カラムがブランクになっている

勘定科目が設定されていない場合、このエラーがレポートに表示されます。このエラーを修正するには、勘定科目の検討と改訂プログラム (P0901) を使用してレポートの略式勘定科目 ID を入力し、勘定科目を追加します。

### 会社番号が勘定残高テーブルに存在しない

F0902 テーブルに会社番号がない場合、このエラーがレポートに表示されます。このエラーを修正するには、F0901 テーブルの会社番号で F0902 テーブルの会社番号が更新されるようにこのレポートの処理オプションを設定します。この処理オプションは、勘定科目マスター レコードの会社番号を変更し、F0902 テーブルを一括更新する場合に役立ちます。

## 勘定科目マスターなしの取引レポートの実行

このセクションでは、勘定科目マスターなしの取引レポートの概要と、以下の方法について説明します。

- 勘定科目マスターなしの取引レポートの印刷
- 勘定科目マスターなしの取引の処理オプション
- 勘定科目マスターなしの取引レポートの不整合の修正

### 勘定科目マスターなしの取引レポートについて

勘定科目マスターなしの取引プログラム (R097021) では、F0911 テーブルの各レコードに関して、F0901 テーブルに勘定科目マスター番号または有効な会社番号が存在するかどうかを確認できます。勘定科目マスター情報または会社番号が F0901 テーブルない場合、レポートには F0911 テーブルの取引が全て出力されます。

更新モードで実行した場合、F0911 テーブルの会社番号は F0901 テーブルの会社番号で更新されます。

### 事前設定

勘定科目マスターなしの取引レポートの実行前に、勘定科目マスターなしの勘定残高レポートの不整合を修正してください。

### 勘定科目マスターなしの取引レポートの印刷

[整合性レポートおよび更新] メニュー (G0922) から [定科目マスターなしの取引] を選択します。

### 勘定科目マスターなしの取引 (R097021) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 更新オプション

1. 会社番号オプション      会社番号を更新するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
  - 1: レポートのみを印刷する。
  - 2: レポートを印刷し、会社番号を更新する。

### 勘定科目マスターなしの取引レポートの不整合の修正

勘定科目マスターなしの取引レポートの実行後に、検出された不整合を修正してください。

#### 会社番号が取引明細テーブルに存在しない

F0911 テーブルに会社番号がない場合、このエラーがレポートに表示されます。このエラーを修正するには、F0901 テーブルの会社番号で F0911 テーブルの会社番号が更新されるように処理オプションを設定します。この処理オプションは、F0901 レコードの会社番号を変更し、F0911 テーブルを一括更新する場合に役立ちます。

## 第 34 章

# バッチ見出しの管理

この章では、バッチ見出しの改訂の概要、事前設定、およびバッチ見出しの処理方法について説明します。

---

## バッチ見出しの改訂について

通常は、破損したバッチ見出しレコードを修復したり正しくないバッチ見出しレコードを修正する必要がある場合にバッチを改訂します。バッチの改訂には、バッチ見出しレコードの削除、貸借不一致バッチの転記の許可、整合性レポートからのバッチの除外、バッチの処理状況の変更が含まれます。バッチ見出しの改訂プログラム (P0011) を使って、バッチ見出しレコードを改訂、追加、および削除します。F0011 テーブルは更新されます。

---

**重要:** バッチ見出しの改訂プログラムを使ってバッチ見出しレコードを改訂する場合は、監査証跡に影響する可能性があることに注意してください。このプログラムによりバッチ見出しレコードの全てのフィールドを改訂できますが、一般ユーザーを対象に設計されていないので、バッチ状況を更新する目的で通常使用しないでください。

---

[バッチ見出しの作成/改訂] フォームを使用してバッチ状況を変更できます。改訂内容によっては、改訂後にバッチを転記する必要がある場合もあります。たとえば、転記レポート プログラム (R09801) が正常に完了せず、バッチ見出し状況が“使用中”のままとなります。この問題を訂正するには、バッチ状況を“保留”に変更してバッチ詳細にアクセスするか、“承認済み”に変更してバッチを転記します。

また、[バッチ見出しの作成/改訂] フォームにより、詳細再換算バッチ、52 期間バッチ、および現金主義バッチの処理状況が表示されます。いずれかのバッチ タイプで既に処理済み (状況 1) の場合にそのバッチに入力を追加すると、処理状況はブランクに再設定されます。その後、そのバッチを再転記すると、詳細再換算プログラム (R11411)、52 期間会計転記プログラム (R098011)、または現金主義入力作成プログラム (R11C850) で詳細レコードのみが転記の対象になります。

[バッチの一時変更] フォームを使用して、バッチを改訂して貸借不一致で転記したり (または転記しなかったり)、必要に応じてバッチを整合性レポートから除くことができます。たとえば、整合性レポートを修正するために貸借不一致でバッチを転記する必要がある場合があります。以下の例は、貸借不一致バッチの転記が必要になる他の状況です。

- 入力時または転記中に電源の問題が発生した場合
- システム導入時に移行したデータの残高を修正するための有効な調整仕訳が入力された場合

取引とバッチ見出しの整合性レポートによって、1 つまたは複数のバッチにバッチ見出しがないことが示された場合は、バッチ見出しレコードを追加する必要があります。

通常は、バッチと取引明細の整合性レポートを実行して、全ての空のバッチ見出しを削除します。ただし、手動でもバッチ見出しを削除できます。空のバッチ見出しを削除する前に、バッチにデータが入力されていないことを確認してください。

---

## 事前設定

権限のないユーザーによる変更を防ぐために、このプログラムへのアクセスを制限してください。

---

## バッチ見出しの処理

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- バッチ見出しの検討
- バッチ見出しの追加と改訂
- 貸借不一致バッチの改訂



## バッチ見出しの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[バッチの処理]	W0011A	[一般会計の上級/技術的操作]メニュー (G0931)、[バッチ見出しの改訂]	集計仕訳を伝票番号別に検討します。仕訳バッチを承認し転記します。F0011 テーブルに保存された詳細再換算バッチ、52 期間バッチ、および現金主義バッチのバッチ処理状況を検討します。
[バッチの承認]	W0011C	[バッチの処理] フォームで、[ロー]メニューから [バッチ承認] を選択します。  バッチを転記するには、[ロー]メニューから [バッチ別の転記] を選択し、[バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン] にアクセスします。	バッチ状況を承認済みまたは保留に変更します。  バッチを転記します。
[バッチ見出しの作成/改訂]	W0011D	バッチ見出しを作成するには、[バッチ見出しの処理] フォームで、[フォーム] メニューの [作成] を選択します。  バッチ見出しを改訂するには、[バッチの処理] フォームで、[ロー]メニューの [改訂] を選択します。  バッチを削除するには、[バッチ見出しの作成/改訂] フォームで、[フォーム] メニューの [削除] を選択します。削除を確認します。	新規のバッチ見出しを追加し、既存のバッチ見出しの改訂と削除を行います。
[バッチの一時変更]	W0011E	[バッチ見出しの作成/改訂] フォームで、[フォーム] メニューの [一時変更] を選択します。	貸借不一致のバッチを転記するかどうかを指定し、整合性レポートからバッチを除外するかどうかを指定します。

## バッチ見出しの検討

[バッチの処理] フォームにアクセスします。

[バッチの処理] フォームは複数のシステムにより使用されます。そのため、以下のフィールドは作成されたバッチ タイプに適用されない場合もあります。

### [差異金額]

バッチ制御機能を使用すると、バッチの実際の入力合計が予想合計と異なる場合に、差額がこのフィールドに表示されます。以下に例を示します。

予想合計 = 10,052

入力合計 = 10,000

差異 = 52

バッチ制御機能を使用しない場合または予想合計を入力しなかった場合には、入力した取引の合計額とゼロが比較され、差異がこのフィールドにマイナスで表示されます。

### [差異伝票]

バッチ制御機能を使用する場合は、バッチに入力された取引数が表示されます。バッチ制御機能を使用しない場合は、取引数がマイナスで表示されます。

## バッチ見出しの追加と改訂

[バッチ見出しの作成/改訂] フォームにアクセスします。

バッチ見出しの改訂 - バッチ見出しの作成/改訂			
OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)			
バッチ・タイプ *	G	一般会計	
バッチNo.	3401		
バッチ状況	A	承認済み	再換算状況詳細
バッチ日付	2005/07/01	52期間状況	
ユーザーID	MT5961687	現金主義状況	
	金額	伝票数	
予想合計			
実際の入力合計	478	2	
差異	478-	2-	

[バッチ見出しの作成/改訂] フォーム

[バッチ見出しの作成/改訂] フォームは複数のシステムにより使用されます。そのため、以下のフィールドは作成されたバッチ タイプに適用されないこともあります。

### [再換算状況詳細]、[52期間状況]、[現金主義状況]

フィールドの値を変更して、バッチの処理状況を変更します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: バッチが予約されていないか、または特定のプログラムによって処理されていない。

ブランクにする必要があるのは、バッチが正常に入力されず、そのバッチを再処理する場合のみです。処理済みのバッチにデータを追加すると、処理状況は自動的にブランクに再設定されます。

1: バッチが予約されているか、または特定のプログラムによって処理されている。

次のフィールドは金額と伝票数に適用されます。

### [実際の入力合計]

バッチ制御機能を使用する場合、入力合計は予想合計と一致する必要があります。これは金額と伝票数の両方に適用されます。

## 貸借不一致バッチの改訂

[バッチの一時変更] フォームにアクセスします。

**[貸借不一致バッチの転記を許可]**

バッチを貸借不一致のまま転記できるかどうかを指定します。バッチを貸借一致で転記する必要がない場合は、整合性レポートからそのバッチを除外していることを確認してください。

**[整合性レポートからバッチを除外]**

整合性レポートから貸借不一致のバッチを除外するかどうかを指定します。



## 第 35 章

# 取引明細の再転記と会計年度の再計算

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、再転記プログラムの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 取引明細の再転記
- (CHL and PER) Repost the Account Ledger Tag file
- (POL) Repost the Account Ledger Tag file
- 会計年度と期間の再計算

---

## 再転記プログラムについて

一般会計システムには、以下の 4 つの再転記プログラムがあります。

再転記プログラム	内容
取引明細の再転記 (R099102)	<p>このプログラムを使用して、以下の処理を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• F0902 テーブルの壊れた勘定残高レコードを修正します。</li></ul> <p>勘定残高を F0911 テーブルの転記済み金額で更新する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 通貨別に転記をすることが業務で必要になった場合に再転記します。</li></ul> <p>F0902 テーブルを更新して、通貨情報を反映する必要があります。</p>
(CHL and PER) Localization Account Repost (R76H9102)	<p>Use this program to update records in the localized F76H902T table based on records in the F0911 table. This repost program supplements the standard integrity reports.</p>

再転記プログラム	内容
(POL) Repost Account Ledger Tag File (R749102)	Use this program to populate the F74902T table if you have never run the trial balance reports or if data in the F74902T table becomes corrupted.
会計年度および期間の計算 (R099103)	<p>このプログラムを使用して、勘定残高を新しい会計年度や期間に対して再計算します。会計期間パターンテーブル (F0008) に指定された変更後の会計期間パターンを使って、F0911 テーブルの会計年度と期間が再計算されます。また、このプログラムでは、勘定残高を新しい期間や会計年度に振り替える取引明細の監査証跡が記録されます。</p> <p>また、このプログラムを実行したら、取引明細の再転記プログラムを実行して F0902 テーブルを更新する必要があります。</p>

## 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 再転記プログラムにセキュリティを設定します。
- 自動仕訳が誤った期間で作成されないように、全ての取引を転記します。
- 必要に応じて会社の会計期間パターンを更新します。
- F0901 テーブル、F0902 テーブル、F0911 テーブルをバックアップします。

## 取引明細の再転記

このセクションでは、取引明細の再転記のタイミングの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 取引明細の再転記プログラムの実行
- 取引明細の再転記のデータ選択とデータ順序の設定
- 取引明細の再転記の処理オプションの設定

### 取引明細の再転記のタイミングについて

このセクションの以下の例では、取引明細の再転記プログラム (R099102) を実行する必要がある状況について説明します。各状況に対して解決方法を示します。

#### 例: F0911 テーブルと F0902 テーブルの貸借が不一致

全ての取引明細を転記しました。F0911 テーブルの金額に間違いはありません。F0911 テーブルの金額と F0902 テーブルの金額を比較した結果、貸借が一致していないことがわかりました。

解決方法:

1. レポートのみを印刷するように処理オプションを設定して、取引明細の再転記プログラムを実行します。
2. レポートで旧残高カラム (F0902) と明細金額カラム (F0911) の金額を比較して、F0911 テーブルの金額が正しいことを確認します。
3. 取引明細の再転記プログラムを更新モードで実行し、レポートを印刷して、F0902 テーブルを F0911 テーブルの金額で更新します。

### 例: バッチが部分的に転記された

転記プログラムが異常終了し、バッチの一部のみが転記されました。

解決方法:

1. 該当する貸借不一致バッチを転記します。
2. 仕訳帳 (バッチ別) レポート (R09301) を実行して、転記プログラムで作成された自動仕訳を検出します。
3. [一般会計固定情報] フォームの [会社間決済] フィールドを \* に変更して、手動による会社間決済を可能にします。  
以下のステップが完了したら、[会社間決済] フィールドを当初の設定に忘れずに戻してください。
4. 仕訳入力プログラム (P0911) を使って、このバッチの貸借を一致させるのに必要な仕訳を手動で作成します。
5. 手動で作成した仕訳のバッチを転記します (このバッチの貸借も一致していません)。
6. 取引明細の再転記プログラムを実行して、レポートのみを印刷します。
7. レポートで、旧残高カラムと明細金額カラムの金額を比較して、F0911 テーブルの金額が正しいことを確認します。
8. 必要に応じて、取引明細の再転記プログラムを更新モードで実行し、レポートを印刷して、F0902 テーブルを F0911 テーブルの金額で更新します。

### 例: 会計年度と期間の再計算後

会計年度および期間の計算プログラム (R099103) を実行して会計年度と期間を再計算した後は、取引明細の再転記プログラムを実行して以下の処理を行う必要があります。

- 勘定残高を F0911 テーブルの転記済み金額で更新します。
- 勘定残高を新しい期間や会計年度に振り替える取引明細の監査証跡を記録します。

1 年または複数の年度の取引明細を除去する場合は、処理オプションを使って期首残高を新しい期間パターンの最初の会計年度に繰り越すことができます。

## 事前設定

取引明細の再転記プログラムは比較的処理時間を要するので、ユーザーがシステムにアクセスしない業務時間外に実行してください。

## 取引明細の再転記プログラムの実行

[一括更新] (G09316) メニューから [取引明細の再転記] を選択します。

## 取引明細の再転記のデータ選択と順序の設定

会計年度と期間を再計算した場合は、会計年度および期間の計算プログラムを実行したときと同じデータ選択を使用する必要があります。

再転記の必要がある期間が 1 つのみの場合には、その期間を指定するのではなく、データ選択で会計年度全体を指定してください。そうしないと、その期間の情報だけが F0902 テーブル内に存在することになり、他の期間の情報は全て消去されてしまいます。

F0911 テーブルには予算金額のレコードがないため、元帳タイプ BA の取引は再転記されません。この他に取引明細テーブルにレコードのない元帳タイプを定義した場合は、これらの元帳が処理されないようにデータ選択を設定してください。

数量元帳は金額情報と共に自動的に再転記されます。たとえば、実績金額 (AA) 元帳を数量 (AU) と共に転記する場合は、データ選択で元帳タイプ AA を入力してください。金額と数量の両方の元帳が再転記されます。

データ順序は変更しないでください。

## 取引明細の再転記 (R099102) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

#### 1. 処理モード

処理モードを指定します。有効値は以下のとおりです。

1: レポートを印刷する。

更新モードで実行した場合の F0911 テーブルの変更内容を示すレポートが印刷されます。

2: レポートの印刷と更新を行う。

F0911 テーブルの変更内容を示すレポートが印刷されて、F0902 テーブルは F0911 テーブルと等しくなるように更新されます。

---

## (CHL and PER) Reposting the Account Ledger Tag File

This section discusses how to:

- Run the Localization Account Repost program.
- Set processing options for Localization Account Repost.

### Running the Localization Account Repost Program

Select General Accounting (G76H09 or G76P09), Localization Account Repost.

### Setting Processing Options for Localization Account Repost (R76H9102)

Use these processing options to specify the processing mode as well as comparison between tables.



**Mode**

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| <b>1. Process Mode</b>  | <p>Specify the processing mode. Values are:</p> <p>1: Proof mode.</p> <p>Prints the report and shows the differences between the F0911 and F76H902T tables.</p> <p>2: Final mode.</p> <p>Prints the report and updates the F0902 table. Shows the differences between the F0911 and F76H902T tables and updates the F76H902T table.</p> |
| <b>2. F0902 Balance</b> | <p>Specify whether to compare the balances in the F76H902T table to the F0902 table:</p> <p>Blank: Do not compare the balances.</p> <p>1: Compare the balances.</p>   |
| <b>3. F0911 Entries</b> | <p>Specify whether to check for records that are in the F76H0902T table and are missing in the F0911 table:</p> <p>Blank: Do not check for missing entries.</p> <p>1: Check for missing entries.</p>  |

---

## (POL) Reposting the Account Ledger Tag File

This section provides an overview of the Repost Account Ledger Tag File program and discusses how to:

- Run the Repost Account Ledger Tag File program.
- Set processing options for Repost Account Ledger Tag File.

### Understanding the Repost Account Ledger Tag File Program

If you have never run trial balance reports or if the data in the F74902T table becomes corrupted, run the Repost Account Ledger Tag File program (R749102) to populate the F74902T table. The F74902T table stores information about the debit and credit amounts in the F0911 table.

After you run the Repost Account Ledger Tag File program for the first time, the system updates the values in the F74902T table when it updates the F0902 table.

### Running the Repost Account Ledger Tag File Program

Select General Ledger (G74P09), Repost Account Ledger Tag File.

### Setting Processing Options for Repost Account Ledger Tag File (R749102)

Processing options enable you to specify the default processing for programs and reports.

**Mode**

- |                     |  |
|---------------------|--|
| <b>Process Mode</b> | Specify the processing mode. Values are: |
|---------------------|--|

	1: Proof mode.
	2: Final mode. The system updates the F74902T table.
<b>Check F0902 Balance</b>	Specify whether to validate balances. Values are: Blank: Suppress validation. 1: Validate the existence of balances in the F0902 table before writing balances to the F74902T table.
<b>Check F0911 Missing Entries</b>	Specify whether to validate transactions. Values are: Blank: Suppress validation Enter 1 to validate the existence of entries in the F0911 table.

## 会計年度と期間の再計算

このセクションでは、会計年度と期間の再計算のタイミングの概要と、以下の方法について説明します。

- 会計年度および期間の計算プログラムの実行
- 会計年度および期間の計算のデータ選択とデータ順序の設定
- 会計年度および期間の計算 (R099103) の処理オプションの設定

### 会計年度と期間の再計算のタイミングについて

以下は、会計年度および期間の計算 (R099103) プログラムを実行する必要がある状況の例です。各状況に対する解決方法を説明します。

#### 例: 会計期間パターンをカレンダー期間パターンに変更

現在は 7 月から翌年 6 月の会計期間パターンで処理されています。会社合併のため、1 月から 12 月のカレンダー期間パターンに変更する必要があります。

現行の会計年度は 2006 年度で、会計期間パターンは 2006 年 7 月から 2007 年 6 月です。次のカレンダー年は、2008 年 1 月から 12 月です。

解決方法:

1. 2007 年 7 月から 2007 年 12 月の新しい会計期間パターンとパターン コードを設定します。
2. ステップ 1 の新しい会計期間パターンとパターン コードを使用して、2008 年の 1 月から 12 月の新しい会計期間パターンとパターン コードを設定します。
3. 会計年度および期間の計算プログラムを実行して、レポートのみを印刷します。
4. レポートで新旧の CT (西暦)、FQ (四半期)、FY (会計年度)、PN (期間) の各カラムが正しいかどうかを行ごとに確認します。
5. 会計年度および期間の計算プログラムを実行して F0911 テーブルを更新し、新しい会計期間パターンを反映させます。

F0902 テーブルの繰越残高を新たに計算するには、繰越残高タブの処理オプションを設定してください。

6. 取引明細の再転記プログラムを実行して勘定残高を再計算し、新しい会計期間パターンを反映させます。

このタスクにより、先に F0911 レコードに割り当てられた新しい期間番号と会計年度に基づく金額で F0902 テーブルが更新されます。会計年度および期間の計算プログラムを実行したときに使用したのと同じデータ選択を使用してください。

7. 年度締めプログラムを実行して 2006 年の年度締めを行うか、繰越残高処理オプションを設定して繰越残高を再計算します。
8. 年度の締めプログラムを実行して 2007 年の年度締めを行うか、繰越残高処理オプションを設定して繰越残高を再計算します。

---

**重要:** 2006 年度については、現行の会計期間パターンは 2006 年 7 月から 2007 年 6 月です。2007 年度については、現行の会計期間パターンは 2007 年 7 月から 2007 年 12 月です。2008 年度は、カレンダー年の 2008 年 1 月から 12 月です。異なる会計年度の期間 1 の金額を比較する際は、異なる月の金額を比べることになりますので注意してください。

---

### 例: カレンダー期間パターンを会計期間パターンに変更

これまで 12 月決算を行っていた会社が、11 月から翌年 10 月を会計年度とする 10 月決算に変更することになりました。

会計年度は 2006 年です。現行のカレンダー年は 2006 年 1 月から 12 月です。新しい会計年度のパターンは 2006 年 11 月から 2007 年 10 月です。

解決方法:

1. 全ての既存の年度に対して 11 月から 10 月のパターンで再計算が行われるように新しい会計期間パターンとパターンコードを設定します。
2. 会計年度および期間の計算プログラムを実行して、レポートのみを印刷します。
3. レポートで新旧の CT (西暦)、FQ (四半期)、FY (会計年度)、PN (期間) の各カラムが正しいかどうかを行ごとに確認します。

- 会計年度および期間の計算プログラムを実行して F0911 テーブルを更新し、新しい会計期間パターンを反映させます。
- 取引明細の再転記プログラムを実行して勘定残高を再計算し、新しい会計期間パターンを反映させます。

このタスクにより、先に F0911 レコードに割り当てられた新しい期間番号と会計年度に基づいた金額で F0902 テーブルが更新されます。会計年度および期間の計算プログラムを実行したときに使用したのと同じデータ選択を使います。

---

**注:** 古い会計期間パターンで処理されたレポートは、再計算された年度のレポートの情報とは一致しません。

---

**関連項目:**

第 38 章、「会計年度の締め処理」、477 ページ

## 会計年度および期間の計算プログラムの実行

会計年度および期間の計算プログラムを更新モードで使用すると、新しい会計年度および期間の勘定残高を再計算できます。この場合、F0008 テーブルの改訂後の会計期間パターンが使用され、F0901 テーブルの会計年度と期間が再計算されます。

[一括変更] (G09316) メニューから [会計年度および期間の計算] を選択します。

## 会計年度および期間の計算のデータ選択とデータ順序の設定

データ選択では、会社、元帳タイプ、および会計年度、またはこの 3 つを組み合わせ入力します。会計期間を変更する場合、会計年度は指定しないでください。

データ順序は変更しないでください。

## 会計年度および期間の計算 (R099103) の処理オプションの設定

処理オプションの設定によって、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

#### 1. 処理モード

処理モードを指定します。有効値は以下のとおりです。

1: レポートを印刷する。

更新モードで実行した場合の F0911 テーブルの更新内容を示すレポートが印刷されます。

2: レポートの印刷と更新を行う。

F0911 テーブルが更新され、監査証跡用に F0911 テーブルの更新内容を示すレポートが印刷されます。また、取引明細の再転記プログラムを実行して、F0902 テーブルを更新する必要があります。

#### 2. R099102 のバージョン

取引明細の再転記プログラムを実行するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 実行しない。

XJDE0001: 印刷する。

更新モードで実行した場合の F0902 テーブルの更新内容を示すレポートが印刷されます。

XJDE0002: 印刷と更新を行う。

F0902 テーブルが更新され、監査証跡用に F0902 テーブルの更新内容を示すレポートが印刷されます。

## 第 36 章

# 組織の改訂

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、組織の改訂、勘定科目構造の改訂、および勘定科目構造の改訂により影響を受けるテーブルの各概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 複数勘定科目のビジネスユニットの変更
- 勘定科目の主科目の変更
- 勘定科目の補助科目の変更
- F0911 テーブルと F0902 テーブルの更新
- ビジネスユニットの会社番号の変更
- 勘定科目情報の変更
- モデル/集計フィールドの更新
- ビジネスユニットのカテゴリ コードの更新
- (Rapid Start) Manage accounting structure.

---

## 組織の改訂について

事業の拡大や会社の合併などにより、勘定科目表の構造を変更することが必要になる場合があります。

勘定科目表を変更する場合、手動で仕訳を作成しなくても取引や残高を新しい勘定科目表に移行することができます。新しい勘定科目には自動的に固有の勘定科目 ID が割り当てられます。この勘定科目 ID を使って、勘定科目変更前の取引明細と残高の監査証跡が記録されます。

ビジネスユニット、主科目、および補助科目は変更できますが、勘定科目 ID は変更できません。

勘定科目の構造の変更に加えて、以下を変更するプログラムも実行できます。

- 会計情報  
勘定科目情報の変更プログラム (R09813) を実行して、勘定科目名や転記編集コードなどの情報を複数の勘定科目に対して一度に変更します。
- モデル/集計フィールド  
ビジネスユニットのモデル/集計フィールドの値を変更する場合は、モデル/集計フィールドの更新プログラム (R0006QD) を実行します。このプログラムにより、ビジネスユニット内の全ての勘定科目のモデル/集計フィールドが、ビジネスユニットのフィールド値に合わせて更新されます。
- カテゴリ コード

カテゴリコードの更新 F0101 → F0006 (R098021) プログラムを実行して、F0101 テーブルのビジネスユニットのカテゴリコード情報がビジネスユニット マスター (F0006) のビジネスユニットのカテゴリコード情報と一致するようにします。

---

## 勘定科目構造の改訂について

特定の勘定科目での取引の増加、会社の合併、財務諸表体系の変更などによって、勘定科目表の変更が必要になる場合があります。このタスクには以下の処理が含まれる場合があります。

- 新しいビジネスユニットを作成して、既存の勘定科目の明細と残高をその新しいビジネスユニットに移行します。
- 新しいビジネスユニットや既存のビジネスユニットの下に新しい勘定科目（主科目または主科目補助科目）を作成して、既存の勘定科目の明細と残高をその新しい勘定科目に移行します。
- 既存のビジネスユニットを別の会社に移行します。

会社の勘定科目を変更する場合は、新しいビジネスユニットを設定するか、現行のビジネスユニットを変更する必要があります。勘定科目を再構築するときは、以下のいずれかの方法でビジネスユニット、主科目、または補助科目を変更できます。

- 1 つのビジネスユニットに属する 1 つの勘定科目を変更できます。たとえば、1 つの勘定科目を変更する場合は、主科目と補助科目のみを変更できます。ビジネスユニット フィールドと勘定科目フィールドを使って目的の情報を検索できます。
- 主科目別に 1 つの勘定科目を変更できます。たとえば、全てのビジネスユニットで主科目 5010 を 5015 に変更するとします。主科目を新しい主科目または主科目補助科目に変更できます。また、1 つまたは複数のビジネスユニット、主科目、または補助科目のビジネスユニット、主科目、または補助科目を一度に変更することもできます。
- 1 つの勘定科目コードを変更する場合は、ビジネスユニット、主科目、補助科目を一度に変更できます。

以下の情報の一括変換も可能です。

- ビジネスユニット。1 つのビジネスユニットを別のビジネスユニットに変更できます。
- 主科目。1 つの主科目を別の主科目に変更できます。
- 補助科目。1 つの補助科目を別の補助科目に変更できます。

---

## 勘定科目構造の改訂により影響を受けるテーブルについて

以下の 3 つのテーブルは勘定科目コードの変更により影響を受けます。

- 勘定科目マスター (F0901)
- 勘定残高 (F0902)
- 取引明細 (F0911)

勘定科目 ID が 3 つのテーブルのキーとなります。この 3 つのテーブルの全てに以下のフィールドがあります。

- 勘定科目 ID

- ビジネスユニット
- 主科目
- 補助科目

ビジネスユニット マスター (F0006) も影響を受ける場合があります。

勘定科目 ID ごとに、以下の項目が順番に F0902 テーブルに転記されます。

- 勘定科目 ID
- 会計年度
- 元帳タイプ
- 補助元帳
- 補助元帳タイプ
- 通貨コード (指定)

---

## 事前設定

F0901 テーブル、F0902 テーブル、F0911 テーブルをバックアップしてください。

---

## 複数の勘定科目のビジネスユニットの変更

このセクションでは、ビジネスユニットの変更の概要、事前設定、および複数勘定科目のビジネスユニットの変更方法について説明します。

### ビジネスユニットの変更について

ビジネスユニットの一括変換により、複数の勘定科目のビジネスユニット部分を一度に変更することができます。たとえば、全ての勘定科目（主科目または主科目.補助科目）のビジネスユニットを 3 から 4 に変更できます。

複数の勘定科目でビジネスユニットを変更するには、現行のビジネスユニットと変更後のビジネスユニットが F0006 テーブルに存在し、同じ会社に属している必要があります。そうでない場合は、旧ビジネスユニットの会社と新しいビジネスユニットの会社はそれぞれ表示されますが、更新はされません。

重複する勘定科目ができないように、新しいビジネスユニットを有する勘定科目が既に存在する場合、その勘定科目のビジネスユニットは新しいビジネスユニット番号に更新されません。たとえば、ビジネスユニット 1 を 10 に変更するとき、勘定科目 10.1110.BEAR が F0901 テーブルに既に存在している場合には、勘定科目 1.1110.BEAR のビジネスユニット部分は 10 には更新されません。

ビジネスユニットの変更プログラム (P09812) により、F0901 テーブルの各勘定科目が更新されます。

---

**重要:** 標準勘定科目の仕訳への反映プログラム (R09806) を実行する前に、F0006 テーブルから旧ビジネスユニットを削除しないでください。旧ビジネスユニットが F0006 テーブルにないと、その旧ビジネスユニット番号を含むレコードは更新されません。

---

事前設定

新しいビジネスユニットが必要な場合は、あらかじめ作成してください。

参照: 第 38 章、「会計年度の締め処理」、477ページ

複数勘定科目のビジネスユニットの変更に使用するフォーム




フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[ビジネスユニットの一括更新]	W09812A	[一括更新] (G09316)、[ビジネスユニットの変更]	複数の勘定科目のビジネスユニットを変更します。

複数勘定科目のビジネスユニットの変更

[ビジネスユニットの一括更新] フォームにアクセスします。

ビジネスユニットの変更 -ビジネスユニットの一括更新

OK(O) キャンセル(L) ツール(T)



レコード 1-2    グリッドのカスタマイズ

	旧 ビジネスユニット	新 ビジネスユニット
<input type="radio"/>	3	4
<input type="radio"/>		

[ビジネスユニットの一括更新] フォーム

このタスクが完了したら、F0911 テーブルと F0902 テーブルの更新に必要な処理を実行してください。

[旧ビジネスユニット]、[新  
ビジネスユニット]      変更する旧ビジネスユニットと新ビジネスユニットの番号を入力します。新  
ビジネスユニットは、F0006 テーブルに存在していなければなりません。

勘定科目の主科目の変更

このセクションでは、勘定科目の主科目の変更の概要と、勘定科目の主科目の変更方法について説明します。

勘定科目の主科目の変更について

主科目は一括で変更できます。たとえば、会社 1 に属する全てのビジネスユニットについて主科目 1131 を 1132 に変更できます。主科目番号を一括変更する場合、旧主科目にはシステム内に存在する主科目を指定し、新しい主科目にはシステム内に存在しない主科目を指定する必要があります。



主科目の変更プログラム (P09803) を実行して、1 つまたは全ての会社の主科目を変更します。全ての会社ではなく特定の複数の会社の主科目を変更する場合は、各会社に対して主科目の変更プログラムを実行する必要があります。

主科目の変更プログラムにより、F0901 テーブルが更新されます。このプログラムにより、レポートは作成されません。

## 勘定科目の主科目の変更に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[勘定科目コードの一括更新]	W09803A	[一括更新] (G09316)、[主科目の変更]	勘定科目の主科目を変更します。

## 勘定科目の主科目の変更

[勘定科目コードの一括更新] フォームにアクセスします。

このタスクが完了したら、F0911 テーブルと F0902 テーブルの更新に必要な作業を実行してください。

**[会社]、[補助科目]** 全ての会社と補助科目を更新するには、この 2 つのフィールドを空白にします。

これらのフィールドで会社または補助科目を指定しない場合は、勘定科目表の旧主科目は全て新主科目に変更されます。

会社か補助科目、またはその両方を指定した場合は、指定した会社か補助科目、またはその両方の主科目のみが変更されます。

**[主科目(旧)]、[主科目(新)]** 変更する旧主科目の番号と、新しい主科目の番号を入力します。新しい主科目には、F0006 テーブルに存在しない主科目を指定してください。

## 勘定科目の補助科目の変更

このセクションでは、勘定科目の補助科目の変更の概要と、勘定科目の補助科目の変更方法について説明します。

### 勘定科目の補助科目の変更について

補助科目は一括で変更できます。たとえば、データ入力の効率を上げるために勘定科目 1.1110.BEAR の補助科目部分を 2220 に変更することができます。この一括変更により、主科目 1110 を持つ全ての会社が影響を受けます。

勘定科目の構造を変更する場合は、会社か主科目範囲、またはその両方を指定して補助科目を変更できます。指定した会社や主科目範囲に対して変更を行う場合は、各会社または各主科目範囲の補助科目を変更する必要があります。

補助科目を一括変更する場合、旧補助科目にはシステム内に存在する補助科目を指定し、新しい補助科目にはシステム内に存在しない補助科目を指定する必要があります。

補助科目の変更プログラム (P09805) により、F0901 テーブルが更新されます。

## 勘定科目の補助科目の変更に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[補助科目の一括更新]	W09805A	[一括更新](G09316)、[補助科目の変更]	勘定科目の補助科目を変更します。

### 補助科目の変更

[補助科目の一括更新] フォームにアクセスします。

このタスクが完了したら、F0911 テーブルと F0902 テーブルの更新に必要な処理を実行してください。

**[会社] [開始主科目]、  
[終了主科目]** 全ての会社と主科目を更新するには、これらのフィールドを空白にします。

勘定科目範囲を指定して補助科目を変更するには、その勘定科目範囲の最初の主科目と最後の主科目を入力します。

会社または主科目の範囲をこれらのフィールドで指定しない場合は、勘定科目表の旧補助科目は全て新しい補助科目に変更されます。

会社か主科目の範囲、または両方を指定した場合、指定した会社か主科目の範囲、または両方の補助科目のみが変更されます。

**[補助科目(旧)]** 変更する旧補助科目と新しい補助科目の番号を入力します。新しい補助科目には、F0006 テーブルに存在しない補助科目を指定してください。

## F0911 テーブルと F0902 テーブルの更新

このセクションでは、F0911 テーブルと F0902 テーブルの更新処理の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行
- 標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行後の処理

### F0911 テーブルと F0902 テーブルの更新処理について

ビジネスユニット、主科目、または補助科目を変更したら、改訂情報で F0911 テーブルと F0902 テーブルを更新する必要があります。この作業のために、標準勘定科目の仕訳への反映プログラム (R09806) を実行します。このプログラムでは、F0911 テーブルと F0902 テーブルの各勘定科目 ID に関してビジネスユニット、主科目、および補助科目が F0901 テーブルの勘定科目マスター レコードと比較され、F0901 テーブルと一致するように F0911 テーブルと F0902 テーブルが更新されます。

### 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 勘定科目コードが正しいかどうかを確認します。
- 業務時間外にこのプログラムを実行します。

## 標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行

[一括更新] メニュー (G09316) から [標準勘定科目の仕訳への反映] を選択します。

このプログラムを選択すると、直ちに処理が開始されます。

## 標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行後の処理

標準勘定科目の仕訳への反映プログラムの実行後に、以下の作業を行ってください。

1. 以下の整合性レポートを実行します。
  - ビジネスユニットなしの勘定科目 (R097041)
  - 勘定科目マスターなしの勘定残高 (R097031)
  - 勘定科目マスターなしの取引 (R097021)
2. AAI 項目を更新して、ビジネスユニット、主科目、補助科目の変更を反映させます。
3. ビジネスユニット情報を検討します。

新しいビジネスユニットを作成した場合は、旧ビジネスユニット情報を変更できます。旧ビジネスユニットを非アクティブに変更したり、削除することが可能です。旧ビジネスユニット変更後の新しいビジネスユニット番号を参照として入力することもできます。[ビジネスユニットの改訂] フォームの [詳細] タブにある [プロジェクトNo.] フィールドにこの番号を入力します。

4. 必要に応じてレポート作成プログラムのバージョンや配賦、モデル仕訳を更新して、勘定科目表の変更を反映させます。

---

## ビジネスユニットの会社番号の変更

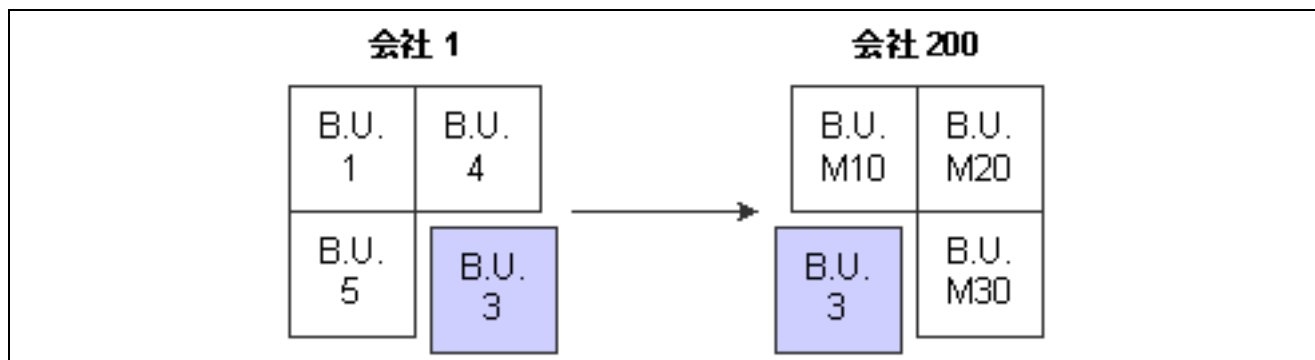
このセクションでは、ビジネスユニットの会社番号の変更の概要と、ビジネスユニットを別の会社に移動する方法について説明します。

### ビジネスユニットの会社番号の変更について

会社の組織変更や買収に伴って、既存のビジネスユニットを別の会社に移動する必要がある場合があります。ビジネスユニットを移動するには、ビジネスユニットの会社番号を変更し、F0901 テーブル、F0911 テーブル、および F0902 テーブルを新しい会社番号で更新します。

#### 例: ビジネスユニットの移動

次の図は、会社 1 から会社 200 へのビジネスユニット 3 の移動を示しています。



ビジネスユニットの移動

## 別の会社へのビジネスユニットの移動

1 つまたは複数のビジネスユニットの会社番号を変更するには、以下の作業を行います。

1. 以下の整合性レポートをこの順序で実行し、各会社の貸借が一致しているかどうかを確認します。

- 貸借一致の会社 (R097001)

参照: 第 33 章、「一般会計のデータ整合性の検証」、「貸借一致の会社レポートの実行」、429 ページ

- 勘定残高と取引の整合性 (R09705)

参照: 第 33 章、「一般会計のデータ整合性の検証」、「勘定残高と取引の整合性レポートの実行」、434 ページ

- 貸借一致の会社間勘定科目 (R097011)

参照: 第 33 章、「一般会計のデータ整合性の検証」、「貸借一致の会社間勘定科目レポートの実行」、432 ページ

2. ビジネスユニット マスターの会社番号を変更します。

3. 処理オプションを更新モードに設定して、ビジネスユニットなしの勘定科目整合性レポート (R097041) を実行します。

このプログラムにより、F0901 テーブルの会社番号が更新されます。

参照: 第 33 章、「一般会計のデータ整合性の検証」、「ビジネスユニットなしの勘定科目レポートの印刷」、438 ページ

4. 標準勘定科目の仕訳への反映プログラム (R09806) を実行します。

このプログラムにより、対象となるビジネスユニットに関する全ての取引について F0911 テーブルと F0902 テーブルの会社番号が更新されます。

または、以下の整合性レポートを更新モードでこの順序で実行します。

- 勘定科目マスターなしの勘定残高 (R097031)

- 勘定科目マスターなしの取引 (R097021)

5. 全ての必要な AAI 項目を更新します。

6. ビジネスユニット セキュリティで、ローのセキュリティを確認します。

7. 貸借一致の会社整合性レポートと貸借一致の会社間勘定科目整合性レポートを再度実行して、入力する会社間取引を決定します。

8. 全ての必要な会社間取引を入力します。

9. 必要に応じて、会社間取引を転記します。

取引が自動的に会社間決済勘定に転記されるようにするには、一般会計固定情報で [会社間決済] フィールドに \* を設定する必要があります。

10. 前のステップで [会社間決済] フィールドを変更した場合は、元の値に戻します。

---

## 勘定科目情報の変更

このセクションでは、勘定科目情報の変更の概要と、以下の方法について説明します。

- 勘定科目情報の変更プログラムの実行
- 勘定科目情報の変更のデータ選択の設定
- 勘定科目情報の変更の処理オプションの設定

### 勘定科目情報の変更について

特定のビジネスユニットに関連付けられている勘定科目の情報を更新する場合は、他のビジネスユニットに関連付けられている同じ勘定科目の情報も更新する必要があります。全てのビジネスユニットや会社の勘定科目情報を一括して更新できます。

勘定科目情報の変更プログラム (R09813) は、テスト モードまたは最終モードで実行できます。テスト モードの場合は、レポートが印刷されるだけで情報は更新されません。最終モードでは、F0901 テーブルの情報が更新され、必要に応じて、変更内容を示すレポートも印刷されます。

このプログラムを最終モードで実行すると、同じ種類の全ての勘定科目の選択したフィールドが更新されます。勘定科目情報処理オプションを設定して、以下のフィールドを更新します。

- 勘定科目名
- 代替記述
- 転記編集コード
- 詳細レベル
- 請求対象
- 予算パターン コード
- 単位
- 代替主科目/補助科目
- 勘定科目カテゴリ コード 1 から 23
- モデル勘定科目

---

**重要:** 処理オプションで選択された全てのフィールドが更新されます。法定勘定科目表などを表すカテゴリコード 21 から 23 などのフィールドを更新対象から除外する場合は、そのフィールドが処理オプションで選択されていないことを確認します。この処理オプションへのアクセスを規制して、法定勘定科目表が不注意に変更されるのを防ぐようにしてください。

---

主科目/補助科目フィールドは更新されません。このフィールドを更新するには、主科目または補助科目を変更するか、標準勘定科目の仕訳への反映プログラムを実行します。

## 勘定科目情報の変更プログラムの実行

[一括更新] (G09316) メニューから [勘定科目情報の変更] を選択します。

## 勘定科目情報変更のデータ選択の設定

変更するビジネスユニットのみを選択してください。

## 勘定科目情報の変更 (R09813) の処理オプションの設定

処理オプションを使って、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 一括更新

1. 開始ビジネスユニット      コピー元のビジネスユニット番号を指定します。F0006 テーブルの有効なビジネスユニットを入力してください。

勘定科目情報の変更プログラムを実行すると、指定したビジネスユニット内の勘定科目の値が、他のビジネスユニット内の同じ勘定科目にコピーされます。

---

**注:** この処理オプションへの入力必須です。

---

2. 処理モード      勘定科目の変更プログラムを実行する場合のモードを指定します。有効値は以下のとおりです。  
 ブランクまたは 0: テスト モード。  
 レポートは作成されますが、F0901 テーブルは更新されません。  
 1: 最終モード。  
 レポートが作成されて、F0901 テーブルが更新されます。  
 2: 最終モード。  
 F0901 テーブルは更新されますが、レポートは作成されません。

### 勘定科目情報

1. 一括更新に含めるフィールド      更新するフィールドを選択します。次のフィールドを選択できます。勘定科目名、転記編集コード、詳細レベル、請求可能、予算パターン コード、計量単位、代替主科目/補助科目、モデル勘定科目、勘定科目カテゴリ コード 1 から 23。

### ACA

1. 一括更新に含める収益性分析 (管理会計) システムのフィールド      更新するフィールドを選択します。次のフィールドを選択できます。コスト オブジェクト検証コード 1 から 4、品目検証コード。

### 代替記述

1. 代替記述の更新      代替言語で翻訳されている勘定科目マスター - 代替記述テーブル (F0901D) の勘定科目記述の自動更新を行うかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:代替言語勘定科目記述を更新しない。

1: 代替言語勘定科目記述を更新する。

[開始ビジネスユニット] 処理オプションで指定したビジネスユニット内の勘定科目について、使用言語に対応する F0901D テーブルの代替言語勘定科目記述が、F0901D テーブルの他のビジネスユニット内の同じ勘定科目にコピーされます。

## 2. 代替記述言語コード

F0901D テーブルに代替言語勘定科目記述をコピーする場合に使用される代替記述言語コードを指定します。

特定の言語コードを更新するには、この処理オプションに UDC テーブル 01/LP のコードを入力して、[代替記述の更新] 処理オプションに「1」を入力します。

全ての言語コードを更新するには、この処理オプションをブランクにして、[代替記述の更新] 処理オプションに「1」を入力します。

## 3. レポートに代替記述を含める

F0901D テーブルにコピーされた代替言語勘定科目記述の明細をレポートに出力するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:明細を出力しない。

1: 明細を出力する。

# モデル/集計フィールドの更新

このセクションでは、モデル/集計フィールドの更新の概要と、モデル/集計フィールドの更新プログラムの実行方法について説明します。

## モデル/集計フィールドの更新について

ビジネスユニットがモデルの場合、そのビジネスユニットに属する全ての勘定科目について、F0901 テーブルのモデル/集計フィールドの値は、M になります。ビジネスユニットがモデルでない場合、モデル/集計フィールドはブランクになります。

モデル ビジネスユニットをモデル ビジネスユニットではないビジネスユニットに変更する場合は、モデル/集計フィールドの更新プログラム (R0006QD) を実行して F0901 テーブルを更新する必要があります。そのビジネスユニット内の全ての勘定科目のモデル/集計フィールドはブランクに変更されます。

同様に、モデルではないビジネスユニットをモデル ビジネスユニットに変更する場合は、モデル/集計フィールドの更新プログラムを実行して F0901 テーブルを更新する必要があります。そのビジネスユニット内の全ての勘定科目のモデル/集計フィールドは M に変更されます。

**注:** F0911 テーブルまたは F0902 テーブル、あるいはその両方にビジネスユニットのレコードが存在する場合は、モデルではないビジネスユニットをモデル ビジネスユニットに変更することはできません。

モデル/集計フィールドの更新プログラムでは、勘定科目が複数のビジネスユニットに属する場合、F0901 テーブルのモデル/集計フィールドは更新されません。代わりに、集計データの再作成プログラム (R10862) によって、これらの勘定科目のモデル/集計フィールドは C に更新されます。

## モデル/集計フィールドの更新プログラムの実行

[一括更新] メニュー (G09316) から [モデル/集計フィールドの更新] を選択します。

このプログラムには処理オプションはありません。

#### 関連項目:

第 29 章、「バッチ集計の処理」、「集計データの再作成プログラムについて」、309ページ

---

## ビジネスユニットのカテゴリ コードの更新

このセクションでは、カテゴリ コードの更新の概要、事前設定、およびカテゴリ コードの更新 F0101>F0006 プログラムの実行方法について説明します。

### カテゴリ コードの更新について

ビジネスユニットを住所録でも管理する必要がある場合は、F0006 テーブルのカテゴリ コード情報と住所録の情報を一致させることができます。F0006 テーブルのカテゴリ コード情報を再入力する手間を省くには、カテゴリ コードの更新 F0101 -> F0006 プログラム (R098021) を実行して、カテゴリ コード情報を更新します。このプログラムでは、ビジネスユニットの全てのカテゴリ コード値が一括更新されます。

カテゴリ コードの更新 F0101 -> F0006 プログラムを実行すると、F0006 テーブルと F0101 テーブルのビジネスユニット情報が比較されます。情報が一致していると、F0101 テーブルから F0006 テーブルにその情報がコピーされます。

- カテゴリ コード 1 から 4
- 名称フィールドから記述行 1 フィールド
- 圧縮記述（スペースなしの名称）

F0006 テーブルのビジネスユニット フィールドは 12 文字ですが、住所番号は 8 文字です。このため更新されるのは 8 文字以下の数値のビジネスユニットのみです。9 文字以上のビジネスユニットは更新されません。

### 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- 住所録の改訂プログラム (P01012) を使用して、数値のビジネスユニットを住所録番号として設定します。
- F0006 テーブルをバックアップします。

### カテゴリ コードの更新 F0101 -> F0006 プログラムの実行

[一括更新] メニュー (G09316) から [カテゴリ・コードの更新 F0101 -> F0006] を選択します。

このプログラムを選択すると、処理は自動的に実行されて、レポートが完了すると更新も完了しています。更新の出力は印刷されません。

このプログラムには処理オプションやデータ選択はありません。



## (Rapid Start) Managing Accounting Structure

This section discusses:

- How to manage accounting structures.
- Preconfigured processing options for Address Book (no customer or supplier master) (P01012).
- Preconfigured processing options for Account Revisions (P0901).
- Preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P).
- Preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS).

### Managing the Accounting Structure

This table lists the tasks to manage the accounting structure:

Task	Navigation	Program and Version
Add a company address book record.	Organization Setup and Maintenance Enter, Review, and Revise Address Book Records	P01012/RIS0004
Add a fiscal date pattern.	Organization Setup and Maintenance Setup Company Access Date Patterns from the form menu	P0010/No version
Add a company.	Organization Setup and Maintenance Setup Company	P0010/No version
Add a business unit.	Organization Setup and Maintenance Add, Review, and Revise Business Units	P0006/No version
Print a business unit report.	Organization Setup and Maintenance Add, Review, and Revise Business Units Select BU Print from Report menu.	R0006P/Select version.
Copy accounts.	Organization Setup and Maintenance Copy Accounts to Business Units	P09804/No version
Add accounts.	Organization Setup and Maintenance Add, Review, and Revise Accounts	P0901/RIS0001

Task	Navigation	Program and Version
Print account master.	Organization Setup and Maintenance Add, Review, and Revise Accounts Select Account Master from Report menu.	R09205P/Select version
Update account word search.	Organization Setup and Maintenance Build Account Description Word Search	R0901WS/RIS0001
Update online chart of accounts.	Organization Setup and Maintenance Refresh Online Chart of Accounts	R0909P/RIS0001
Review online chart of accounts.	Organization Setup and Maintenance Online Chart of Accounts	P09091/No version

Data reports provide additional information about data that has been preconfigured for Rapid Start.

## Preconfigured Processing Options for Rapid Start Address Book (no customer or supplier master) (P01012)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0004.

### Entry

Processing Option Description	Value or Status
1. Supplier Master	blank
2. Customer Master	blank
3. S/WM	blank
4. Tax ID	blank

### Defaults

Processing Option Description	Value or Status
1. Search Type	blank
2. Type Code	blank

## Versions

Processing Option Description	Value or Status
1. Address Book MBF (P0100041) Version	RIS0001
2. Customer Master (P03013) Version	RIS0001
3. Supplier Master (P04012) Version	RIS0001

## Process

Processing Option Description	Value or Status
1. Self Service	blank
2. Postal Code Editing	blank
3. Postal Code Address Retrieval	blank

## Preconfigured Processing Options for Account Revisions (P0901)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

## Security

Processing Option Description	Value or Status
Please enter a value of '1' in the corresponding field to protect the value of field(s) which contain the Legal Account information	blank
Object:	blank
Subsidiary	blank
Category Code 21	blank
Category Code 22	blank
Category Code 23	blank

## Preconfigured Processing Options for Account Master by Company (R09205P)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

## PrintControl

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a '1' to print the Unstructured Account number.	blank

Processing Option Description	Value or Status
ANS Flag	blank
2. Enter a '1' to print the business unit description when the business unit changes.	blank
B.U. Description Flag	1

## Preconfigured Processing Options for Account Master Word Search Build (R0901WS)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

### Mode

Processing Option Description	Value or Status
Process Mode: 0 Update Only (default) 1 Delete table prior to updating	0

## 第 37 章

# 会計期間とレポート期間の締め処理

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、期末締めタスクの概要と以下の方法について説明します。

- (ESP, FRA, and ITA) Run Sequential Number reports
- (FRA and ITA) Run Trial Balance reports
- 会計期間の締め処理
- 財務レポート期間の変更
- (Rapid Start CAN and USA) Close an accounting period

---

## 期末締めタスクについて

会計期間の締め処理は会社によって異なります。会社は、自社の締めタスクの詳細手順をまとめて文書化しておく必要があります。

以下に、ほとんどの会社に通な会計期間の締め処理を挙げます。

- 未払費用、未収収益などの入力
- 全てのバッチの検討と転記
- 整合性レポートの実行とエラーの修正

全ての会社が、このタスクを期末締め処理に含める必要があります。整合性レポートによって、残高を最終的に確定する前にデータの不整合を発見することができます。各期間の締め前に限らず、期間や年度の途中にこのレポートを印刷することにより、問題の発見、修正をタイムリーかつ効果的に行うことができます。会計データの正確さを期すためには、整合性レポートを定期的に行います。

- 総勘定元帳と銀行残高の調整
- 買掛管理システム、売掛管理システム、および一般会計システムの会計期間の締め処理
- 財務レポートの実行
- 財務レポート期間の変更

---

## (ESP, FRA, and ITA) Running Sequential Number Reports

This section discusses how to run the sequential number reports.

## Running the Sequential Number Reports

This table includes a description of additional reports that Spanish, French, and Italian companies should run before they close an accounting period:

Task	Report	Description
Verify that document numbers are in sequence.	Sequential Number Report – VAT (R74099A)  Sequential Number Report – AP (R74099B)  Sequential Number Report – AR (R74099C and R74099D)	Identifies any interruption in the document number sequence and general accounting registration date sequence.

---

## (FRA and ITA) Running Trial Balance Reports

This section discusses how to run the trial balance reports.

### Running the Trial Balance Reports

This table includes a description of additional reports that French and Italian companies should run before they close an accounting period:

Task	Report	Description
Verify the accuracy of transactions in account ledgers.	T/B by Object and Subsidiary (R7409C3) and T/B by Category Code (R70472)	R7409C3 prints trial balances by object.subsidiary and R70472 prints trial balances by category code 21, 22, or 23.

---

## 会計期間の締め処理

このセクションでは、会計期間の締め処理および会計期間の締めによる影響の概要と、以下の方法について説明します。

- 1 つの会社の会計期間の締め処理
- 1 つの会社の会計期間と年度の締め処理
- 複数の会社の会計期間の締め処理

### 会計期間の締め処理について

会計期間の締めには、特別な処理は必要ありません。[会社の設定] フォームで、売掛管理システム、買掛管理システム、および一般会計システムの現行期間を 1 増やすだけです。

会計期間の締め処理には、以下の規則が適用されます。

- 売掛管理システムと買掛管理システムは、一般会計システムとは別に締めることができます。これにより、各システムで異なる期間を現行期間として使用できます。

売掛管理システムと買掛管理システムの現行期間を、一般会計システムの現行会計期間以後とすることは可能ですが、それ以前にはできません。

- 3 つのシステムの会計期間が一致している場合には、一般会計システムのみ締めれば、3 つ全てのシステムの締め処理が行われます。
- 売掛管理システムと買掛管理システムの期間を再オープンせずに、一般会計システムの期間を再オープンできます。

たとえば、一般会計固定情報で前期間への入力を不可に設定している場合に、前期間に入力する必要が生じたときなどに期間を再オープンします。一般会計システムの期間を再オープンするには、[会社の設定] フォームで現行期間を変更します。

システムの締めは通常以下の順序で行いますが、必ずしもこの順序で行う必要はありません。

- 買掛管理
- 売掛管理
- 一般会計

財務レポートの完了後に、会計期間の締め処理の最終ステップとして財務レポート期間を新しい会計期間へ変更します。

## 会計期間の締めによる影響について

会計期間を締めると、会社固定情報テーブル (F0010) が新しい会計期間で更新され、日付チェックのために使われていた日付がリセットされます。現行期間以外の日付で入力すると、以下のいずれかの警告またはエラーが表示されます。

エラー/警告	内容
PBCO (過去期間)	既に締めた期間への入力です。
PACO (未来期間)	将来の期間への入力です。
WACO (次年度以降)	将来の年度への入力です。
PYEB (前年度以前)	既に締めた年度への入力です。

一般会計固定情報により、PBCO (過去期間) への入力の転記を可能にするかどうかを指定します。

F0010 テーブルはキャッシュされるので、会計期間を締めた後に EnterpriseOne システムを終了し、WebSphere サーバーを再起動してキャッシュをリセットする必要があります。新しい期間は、EnterpriseOne システムの再起動後に有効化されます。

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[会社の処理]	W0010C	[定期および年次処理] (G0924)、[会計期間の締め]	会社情報を検討します。
[会社の設定]	W0010B	[会社の処理]フォームで、 会計期間を締める会社 を選択します。	会計期間の締め、前回の 会計期間および年度の締め、 財務レポート期間の変更 を行います。
[一括期間締め]	W0010D	[会社の処理]フォームで、 複数の会社を選択し、[一 括]メニューから[一括締め] を選択します。	複数の会社に対して、会計 期間の締め、前回の会計 期間および年度の締め、 財務レポート期間の変更 を行います。各会社の現行 期間と会計期間は同じで ある必要があります。

[会社の設定] フォームにアクセスします。

## 「会社の設定」フォーム

**[現行期間]**

Copyright © 2005, Oracle. All rights reserved.



**[買掛管理]****[現行期間]**

一般会計システムと売掛管理システムを締めずに買掛管理システムを締めるには、このフィールドの値を 1 増やします。

買掛管理システムと売掛管理システムを個別に締める場合は、その期間の最終入力が行われるまで一般会計システムの締めは行わないままにしておきます。

**[売掛管理]****[現行期間]**

一般会計システムと買掛管理システムを締めずに売掛管理システムを締めるには、このフィールドの値を 1 増やします。

売掛管理システムと買掛管理システムを個別に締める場合は、その期間の最終入力が行われるまで一般会計システムの締めは行わないままにしておきます。

**1 つの会社の会計期間と年度の締め処理**

[会社の設定] フォームにアクセスします。

年度締めプログラムを実行して会計年度を締める前に、[会社の設定] フォームで会計期間と会計年度を締める必要があります。そのためには、[一般会計] の [現行期間] フィールドの値を 01 に変更して、[年度開始日付] フィールドに新しい会計年度を入力します。[OK] をクリックすると、新しい期間と年度が [買掛管理] と [売掛管理] に自動的に適用されます。たとえば、2006 年のカレンダー会計年度を締めるには、現行期間を 01、年度開始日付を 2007/01/01 に変更します。

**複数の会社の会計期間の締め処理**

[一括期間締め] フォームにアクセスします。

期間の締め(複数会社) - 一括期間締め		
OK(O) キャンセル(L) ツール(T)		
更新するシステムやレポートの 年度と期間を指定してください。		
	現行 期間	会計 年度
一般会計	6	05
財務レポート		
買掛管理	6	05
売掛管理	6	05

[一括期間締め] フォーム

このフォームの機能は、複数の会社の会計期間と会計年度（必要に応じて）を締める点を除けば、[会社の設定] フォームの機能と同じです。この機能を実行するには、各会社の現行期間と会計年度が同じである必要があります。

**[現行期間]**

[一般会計]、[買掛管理]、および [売掛管理] の各フィールドの値を 1 増やします。

---

## 財務レポート期間の変更

このセクションでは、財務報告日付の概要と、財務レポートの期間の変更方法を説明します。

### 財務報告日付について

買掛管理システム、売掛管理システム、および一般買会計システムの会計期間を締めて、会計期間の全ての財務レポートを実行した後に、会計期間の締め処理の最終ステップとして財務レポート期間を変更します。[会社の設定] フォームで財務レポート期間を次の期間に変更して、新しいデフォルトの財務レポート期間を指定します。財務報告日付は、全ての財務レポートに使用され、固定情報テーブル (F0010) の会社レコードに保管されます。

前期のレポートを作成する場合は、[会社の設定] フォームでレポート期間の値を減らすことで、財務レポート期間を再オープンできます。たとえば、現行期間が 6 の場合に、財務レポートの期間を 5 に変更します。その他の方法としては、処理オプションを使って、レポートを実行する際に F0010 テーブルの財務報告日付を変更することもできます。

会社 00000 の財務報告日付は、全ての会社を使用する現行期間と年度と同じである必要があります。以下の財務レポートでは、データ順序の最初のフィールドが会社またはビジネスユニットの場合を除いて、会社 00000 のレポート期間と年度が使用されます。

- 損益計算書 (R10211B)
- 貸借対照表 (R10111B)

### 財務レポート期間の変更

[会社の設定] フォームにアクセスします。

#### [財務レポート]

[レポート期間]、[報告年度] [レポート期間] フィールドの値を 1 増やして、財務レポートの新しいデフォルトの期間を指定します。会計年度を締めるには、同様に [報告年度] フィールドの値を 1 増やします。

[レポート期間] フィールドの値を 1 以上減らすと、実際の会計期間とは異なるデフォルトの財務報告日付を指定できます。これは期間の再オープンと呼ばれ、過去のどの期間についても財務諸表の作成が可能になります。

---

注: 現行期間と会計年度が同じ複数の会社の財務レポート期間と、必要に応じて会計年度を変更する場合は、[一括期間締め] フォームを使用します。

---

## 第 38 章

# 会計年度の締め処理

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この章では、会計年度の締め処理の概要、設定要件と一般的タスクの概要、および以下の方法について説明します。

- 会計年度の締め処理
- 予算用会計年度の締め処理
- (ITA) Close a fiscal year
- (FRA) Close a fiscal year
- (Rapid Start) Close the ledger

---

## 会計年度の締め処理について

年度末処理の一環として、会計年度の財務諸表を締め、年度締めプログラム実行する必要があります。財務諸表を締めるには、[会社の設定] フォームで以下のシステムを締めます。

- 総勘定元帳の年度末残高を調整する場合は買掛管理システムと売掛管理システム
- 繰越利益の計算をする場合は一般会計システム

これらのシステムの会計年度を締めたら、年度締めプログラム (R098201) を実行する必要があります。このプログラムの実行中や実行後にその年度への転記が行われることのないように、上述の順序で処理することをお勧めします。この順序を変更した場合は、貸借不一致などの整合性の問題が生じることがあります。

年度締めプログラムによって、以下の処理が実行されます。

- 元帳タイプ AA の繰越利益が計算および転記されます。  
繰越利益勘定へ転記した仕訳が最終の繰越利益額へ組み入れられます。
- AA 元帳タイプと予算元帳タイプに対して、F0902 テーブルに新会計年度の勘定科目レコードが作成されます。
- F0902 テーブルの繰越残高フィールドと前年度末合計転記額フィールドが更新されます。  
勘定科目の種類にかかわらず、F0902 テーブルの繰越残高フィールドは常に更新されます。ただし、AAI 項目 GLG6 および GLG12 を使用するオンライン照会またはレポートでは損益勘定の繰越残高は表示されません。F0902 テーブルの繰越残高フィールドの値が更新されると、作業原価システムで一般的に使用される開始日以降累計レポートの作成が可能になります。
- 年度締めレポート (R098201) が印刷されます。

同じ会計年度の締めは必要に応じて何回でも行うことができます。監査調整や予期しえない調整に対応するために、締めを複数回行う必要がある場合がよくあります。会計年度の締めプログラムを複数回実行しても、残高が倍増することはなく、常に正しい残高が計算および転記されます。たとえばプログラムを 2 回実行しても、残高が倍になることはありません。

---

**注:** 年度締め処理を行わずに、新年度の最初の期間のレポートを作成できます。年度締めプログラムを実行して、F0902 テーブルの全勘定の繰越残高フィールドを更新します。これにより、レポート用に繰越残高が新年度の最初の期間に繰り込まれます。

---

## 繰越利益

繰越利益勘定に調整が必要な場合は、調整仕訳を入力しないでください。問題が生じることがあります。その代わりに、繰越利益勘定と同じビジネスユニットと主科目、および新しい補助科目を使用して、新しい勘定科目を作成してください。

1 つの繰越利益に対して、複数の会社を締めることができます。この処理は、会社内の各部門をそれぞれ会社として設定している場合に必要となります。1 つの繰越利益勘定に対してこれらの部門を締め、法律上の会社の連結財務諸表を作成します。

## 貸借対照表勘定の仕訳

会計年度を締めた後に、その年度に対して貸借対照表勘定の仕訳の作成が必要になる場合があります。その場合は、その年度を再オープンして（つまり、現行期間を前年度の最終期間に変更して）、年度締めプログラムを実行する必要はありません。その代わりに、仕訳入力プログラム (P0911) を使用して、伝票タイプ ## (前年度取引) の仕訳を作成します。警告メッセージが表示されますが、取引は入力できます。通常どおり取引を転記してください。影響を受けた貸借対照表勘定に対して、F0902 テーブルの繰越利益が自動的に更新されます。この仕訳は貸借対照表勘定の仕訳なので、利益勘定に影響はありません。そのため、会計期間と年度を再オープンして年度締めプログラムを実行する必要はありません。

## 会社間決済

年度締めプログラムを実行した後に、会社の貸借を一致させるために会社間決済仕訳の作成が必要になる場合があります。年度締めプログラムでは、繰越利益が繰越利益勘定に転記されますが、会社間決済の自動仕訳は作成されません。

## 事前設定

会計年度の締め処理を実行する前に、以下の作業を行う必要があります。

- 会計監査用の全環境をバックアップしてください。  
情報システムの税監査の際に、電子データ ファイルの他にレポートの再作成が必要になることがあります。
- 年度締めプログラムを実行する際は、F0902 テーブルにアクセスしているユーザーがいらないどうかを確認してください。

F0902 テーブルにユーザーがアクセスしていると、繰越利益の計算時にレコードが正しく取りこまれない場合があります。

## 設定要件と一般タスクについて

このセクションでは、年度末の締め処理のための会計年度の設定要件および一般タスクの概要を説明します。

### 会計年度の設定要件について

次の表は、年度締め処理を行うために設定する必要がある項目を示しています。

設定	内容
勘定科目表	以下の勘定科目を設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 損益勘定</li> <li>・ 開始貸借対照表</li> <li>・ 終了貸借対照表</li> </ul>
AAI(自動仕訳)	以下の AAI 項目を設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GLG4:繰越利益</li> <li>・ GLG6:開始収益勘定</li> <li>・ GLG12:終了損益勘定</li> </ul> <p>繰越利益勘定の AAI 項目 GLG4 のみが、会社固有の GLG 項目です。</p> <p><b>重要:</b> 年度を締めた後に AAI 項目を変更して再び締め処理を行うと、異なる結果が生じる場合があります。</p>
元帳タイプ	元帳タイプ AA と予算元帳タイプが、ユーザー定義コード 09/LT と [元帳タイプ規則の設定] フォームで設定されている必要があります。AA 元帳については、[元帳タイプ規則の設定] フォームの以下のチェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [繰越利益の計算]</li> <li>・ [元帳の貸借一致必須]</li> </ul> <p>予算元帳タイプについては、[当初予算の次年度繰越] チェックボックスをオンにします。</p>

### 年度末の締め処理の一般タスクについて

会計年度の締め処理は会社によって異なります。会社の締め処理の詳細手順をまとめて文書化しておく必要があります。

以下に、ほとんどの会社に通な会計年度の締め処理のタスクを示します。

- ・ 全バッチの検討と転記
- ・ 整合性レポートの実行とエラーの訂正

これは、締め処理で全ての会社が行う必要のあるタスクの 1 つです。整合性レポートによって、残高を最終的に確定する前にデータの不整合を発見することができます。

- ・ 監査調整の入力と転記

多くの会社で監査調整のための会計期間を設けています。また、多くの会社で年度末入力用に特定の伝票タイプ (ユーザー定義コード 00/DT) を使用しています。

2008 年度の監査調整を入力および転記して、調整仕訳を記録するとします。[会社の設定] フォームで会計年度が 2008 年になっていることを確認します。会計年度が 2009 年になっている場合は、一般会計のみについて開始日付（たとえば、2008/1/1）を入力して 2008 年度を再オープンし、現行期間を 2008 年度の最終期間に変更します。

- 買掛管理、売掛管理、および一般会計の会計期間と年度締め
- 年度末の財務諸表、試算表、その他必要なレポートの実行
- 財務レポートの会計期間と年度締め
- 年度締めプログラムの実行

## 会計年度の締め処理

このセクションでは、年度締めプログラムの概要と以下の方法について説明します。

- 年度締めプログラムの実行
- 年度締めのデータ選択とデータ順序の設定
- 年度締めの処理オプションの設定

### 年度締めプログラムについて

年度締めプログラムを実行して会計年度を締めると、締めた会社と繰越利益勘定/金額が記載されたレポートが作成されます。このレポートで、会社の締め処理が正常に行われたかどうかを確認してください。

処理オプションを設定して、繰越利益の計算に使われた勘定科目とその残高の明細リスを印刷することもできます。これは、繰越利益の誤りを調べる際に役立ちます。繰越利益の明細リストは、長くなる場合があります。繰越利益の計算を調査する必要がない限りは、印刷しないことをお勧めします。

### 年度締めレポートのエラー メッセージ

何らかのエラーにより会社の締め処理が行われなかった場合は、レポートにそのエラーが記載されます。エラーには、以下のようなものがあります。

エラー メッセージ	解決方法
繰越利益勘定が勘定科目マスター (F0901) で設定されていません	AAI 項目 GLG4 に繰越利益勘定を設定してください。
締めプログラムで AAI 項目 GLG6 が見つかりませんでした	AAI 項目 GLG6 を設定して開始収益勘定を定義してください。

AAI 項目 GLG12 が設定されていなくても、年度締めレポートにはエラー メッセージは記載されません。デフォルトの勘定科目として 999999.99999999 が使用されます。

### 年度締めプログラムの実行

[定期および年次処理] (G0924) メニューから [年度締め] を選択します。

## 年度締めのデータ選択とデータ順序の設定

同時に 2 つ以上の年度を締めることはできません。1 年度ずつ順番に締めてください。締め処理を正しく行うために、データ選択と順序に関する以下の規則に従ってください。

- データ選択で、会社と会計年度を入力します。これ以外のデータ選択を指定しないでください。
- 1 つの繰越利益勘定に対して複数の会社を締める場合は、以下の規則に従ってください。
  - 同時に締める会社の会計期間パターンは全て同じである必要があります。
  - 1 つのバージョンを使って、同時に締める全ての会社を選択する必要があります。
- 会計年度、会社、元帳タイプというデータ順序を使用します。この順序は変更しないでください。

## 年度締め (R098201) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 損失/利益

#### 損失/利益

今年度の転記金額がゼロの場合に、次年度の損益勘定レコードを作成するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: 損益勘定レコードを作成する。

1: 損益勘定レコードを作成する。

### 当初予算

#### 当初予算

次年度レコードがあるかないかにかかわらず、当初予算を変更するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: 当初予算を変更しない。

1: 当初予算を変更する。

---

**注:** 作業原価勘定を使用して当初予算を入力し、変更オーダーを使用して変更を行います。たとえば、2008 年度に予算化された作業が 2010 年度に完了予定であるとします。2008 年度で予算情報を当初予算に追加します。当初予算を新しい情報で変更するには、この処理オプションに「1」を入力します。

---

### 印刷

#### 印刷

繰越利益の計算明細を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: 計算明細を印刷しない。

1: 計算明細を印刷する。

繰越利益の明細リストは長くなる場合があるため、繰越利益の計算を調査する必要がない限りは、印刷しないことをお勧めします。

---

## 予算用会計年度の締め処理

このセクションでは、予算元帳タイプの年度締めの概要を説明します。

### 予算元帳タイプの会計年度の締めについて

会計年度を締めるときに、以下のような予算元帳タイプについては F0902 テーブルの当初予算金額を次年度に繰り越せます。

- BA (予算金額)
- JA (作業原価予算金額) と JU (作業原価予算数量)
- PA (金額の作業原価コミットメント) と PU (数量の作業原価コミットメント)

当初予算金額をどのように処理するかは、[元帳タイプ規則の設定] フォームや年度締めプログラムの処理オプションを使って制御します。年度締めプログラムを実行すると、次年度のレコードが F0902 テーブルにあるかどうか自動的に確認され、以下の処理のいずれかが実行されます。

- レコードがある場合は、処理オプションの設定に従って、当初予算金額が更新されます。
- レコードがない場合は、予算元帳タイプ規則によって当初予算金額が繰り越されるかどうか決定されます。

---

## (FRA) Closing a Fiscal Year

This section provides an overview of the tasks necessary to close a fiscal year in France.

### Understanding Tasks for Closing a Fiscal Year

In France, in addition to performing the tasks to close a fiscal year, businesses must run the General Journal report in final mode to perform a final annual close. In final mode, the system includes records that have been flagged by the Trial Balance report to indicate that they have been printed in final mode. Flagging the records prevents the records from being printed again in final mode. An error message is printed on the report if any records have been printed in a previous final mode report. The word Final is printed on every page of a report that is run in final mode.

#### 関連項目:

付録 G、「EnterpriseOne 一般会計レポート」、「試算表レポート」、561ページ

付録 G、「EnterpriseOne 一般会計レポート」、「仕訳帳レポート」、561ページ

---

## (ITA) Closing a Fiscal Year

This section provides an overview of the tasks and the preparation necessary to close a fiscal year in Italy.



## Understanding Tasks for Closing a Fiscal Year

In Italy, businesses must complete these tasks at the close of the fiscal year to prepare the year-end balance sheet:

- Adjust and integrate journal entries.
- Close profit and loss accounts for revenues and expenses that were recorded during the year without carrying over the balance.
- Calculate retained earnings.
- Close balance sheet accounts on a summary account ending balance sheet and reopen the same balance sheet accounts for the next fiscal year.

During the close of the fiscal year and the preparation of the balance sheet, Italian businesses must run these control reports:

- Trial Balance by Object report (R7409C3) or T/B by Category Code (R70472)
- G/L Registration Report – Italy (R09404)
- G/L by Object and Subsidiary (R7409C1)
- G/L by Category Code (R70470)

You must run the Trial Balance report in final mode to perform a final annual close as well as to prevent users from entering transactions after a year-end close. In final mode, the records included in the report are flagged in the F0911 table to indicate that they have been printed in final mode. This prevents the records from being printed in final mode again. An error message is printed on the report if any records have been printed in a previous final mode report. New transactions are visible on the report because they are not flagged with the same date as older transactions, which have the date when the report was run in final mode for the closed year. The word Final is printed on every page of a report that is run in final mode.

---

**注:** Because running the Trial Balance report in final mode flags the records as having been printed, you should run the Trial Balance report before the GL reports. Businesses print the GL reports at least once a year for all accounts, typically at the end of the fiscal year.

---

### 関連項目:

付録 G、「EnterpriseOne 一般会計レポート」、「試算表レポート」、561ページ

付録 G、「EnterpriseOne 一般会計レポート」、「仕訳帳レポート」、561ページ

## Understanding Additional AAI Setup Requirements

In addition to the standard AAI items, these AAI items must be set up in preparation for the annual close in Italy:

AAI Item	Description
GLG2	Beginning asset account.
GLG3	Beginning liability account.
GLG5	Ending balance sheet account. This account is a non-posting account.

参照: 第 38 章、「会計年度の締め処理」、「設定要件と一般タスクについて」、479ページ

---

## (Rapid Start) Closing the Ledger

This section lists prerequisites, and discusses:

- How to close the ledger.
- Preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031).
- Preconfigured processing options for Transactions to Batch Header – GL Only (R007021).
- Preconfigured processing options for Australia and New Zealand Companies by Batch Out of Balance (R09706).
- Preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032).
- Preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041).
- Preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031).
- Preconfigured processing options for Transactions Without Account Master (R097021).
- Preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705).
- Preconfigured processing options for Great Britain Monetary Account Valuation – EUR (R09415).
- Preconfigured processing options for France Journal Des Achats (R7409C5).
- Preconfigured processing options for France Journal Des Ventes (R7409C5).
- Preconfigured processing options for France Journal Des Operations Diverses (R7409C5).
- Preconfigured processing options for France Journal Des Decaissements (R7409C5).
- Preconfigured processing options for France Journal Des Encaissements (R7409C5).
- Preconfigured processing options for France Journal Des Effets A Recevoir (R7409C5).
- Preconfigured processing options for France Journal Des Mouvements De Stocks (R7409C5).
- Preconfigured processing options for France Balance De Comptabilite Generale (R70472).
- Preconfigured processing options for France Grand Livre General Des Comptes (R70470).
- Preconfigured processing options for France TVA Collectee Sur Les Debits (R0018P1).
- Preconfigured processing options for France TVA Deductible Sur Les Debits (R0018P1).
- Preconfigured processing options for France TVA Deductible Intracommunautaire (R0018P1).
- Preconfigured processing options for France TVA Sur Encaissement Aide A La Declaration (R7400CSM).
- Preconfigured processing options for Rapid Start Annual Close (R098201).

### Prerequisites

Run AP integrity reports.

参照: JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理 8.11 SP1 PeopleBook、「買掛管理データの整合性検証」、「(Rapid Start) Processing Accounts Payable Period End and Closing the AP Ledger」

Run AR integrity reports.

参照: JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 8.11 SP 1 PeopleBook、「売掛管理データの整合性の確認」、「(Rapid Start) Processing Accounts Receivable Period End」

## Closing the Ledger

This table lists the tasks for closing the fiscal year:

Task	Navigation	Program and Version	Preconfigured Data Selection	Preconfigured Data
Verify the integrity between batch headers and transactions.	General Accounting Integrity Reports Batch Header to Transaction	R007031 /RIS0004	Data selection is set to include only batch type G.	None.
Verify the integrity between transactions and batch headers.	General Accounting Integrity Reports Transaction to Batch Header	R007021 /RIS0004	Data selection is set to include only GL batches (batch type G).	None.
Locate unposted batches.	General Accounting Integrity Reports Unposted Batches	R007011 /RIS0004	Data selection is set to include only batch type G.	None.
(Rapid Start AUS and NZL) Locate out-of-balance amounts by company within each batch.	General Accounting Integrity Reports Company by Batch Out of Balance	R09706/RIS3001	None.	None.
Verify that the batches balance.	General Accounting Integrity Reports Batches Out of Balance	R007032 /RIS0004	Data selection is set to include only batch type G.	None.
(Rapid Start AUS and NZL) Verify that batches within a company balance.	General Accounting Integrity Reports Companies in Balance	R097001 /RIS0001	None.	None.
Identify missing intercompany settlements or adjustments.	General Accounting Integrity Reports Intercompany Accounts	R097011 /RIS3001	None.	None.
Locate company and business unit discrepancies.	General Accounting Integrity Reports Accounts without Business Units	R097041 /RIS0001	None.	None.
Locate company and account discrepancies.	General Accounting Integrity Reports Accounts Balance without Account Master	R097031 /RIS0001	None.	None.

Task	Navigation	Program and Version	Preconfigured Data Selection	Preconfigured Data
Locate company and account discrepancies.	General Accounting Integrity Reports  Account Ledger without Account Master	R097021 /RIS0001	None.	None.
Locate imbalances on a period by period basis.	General Accounting Integrity Reports  Account Balance to Transaction	R09705/RIS0001	None.	None.
(Rapid Start GBR) Calculate unrealized gains and losses on monetary accounts..	General Accounting Integrity Reports  Monetary Account Valuation	R09415/RIS1001	Data selection is set for EUR.	None.
Close period.	Close Financial Period/Year and Annual Processes  Change Accounting Period or Year	P0010/No version	None.	None.
(Rapid Start FRA) Print journals with category code 21.	Financial Reports Statutory Invoice Journal	R7409C5 /RIS2002	Data selection is set to company 0001.	None.
(Rapid Start FRA) Print journals with category code 21.	Financial Reports Statutory General Ledger Journal	R7409C5 /RIS2003	Data selection is set to company 0001	None.
(Rapid Start FRA) Print journals with category code 21.	Financial Reports Statutory Payment Journal	R7409C5 /RIS2004	Data selection is set to company 0001.	None.
(Rapid Start FRA) Print journals with category code 21.	Financial Reports Statutory Receipt Journal	R7409C5 /RIS2005	Data selection is set to company 0001.	None.
(Rapid Start FRA) Print journals with category code 21.	Financial Reports Statutory Draft Journal	R7409C5 /RIS2006	Data selection is set to company 0001.	None.
(Rapid Start FRA) Print journals with category code 21.	Financial Reports Statutory Inventory Movement Journal	R7409C5 /RIS2007	Data selection is set to company 0001.	None.

Task	Navigation	Program and Version	Preconfigured Data Selection	Preconfigured Data
(Rapid Start FRA) Print balance with category code 21.	Financial Reports Statutory Balance	R70472/RIS2001	Data selection is set to company 0001.	None.
(Rapid Start FRA) Print general ledger with category code 21.	Financial Reports Statutory General Ledger	R70470/RIS2001	Data selection is set to company 0001.	None.
(Rapid Start FRA) Print collected VAT on debit report.	Tax Reports Collected VAT on Debit Report	R0018P1 /RIS2001	None.	None.
(Rapid Start FRA) Print deductible VAT on debit report.	Tax Reports Deductible VAT on Debit Report	R0018P1 /RIS2002	None.	None.
(Rapid Start FRA) Print EU VAT report.	Tax Reports EU VAT Report	R0018P1 /RIS2003	None.	None.
(Rapid Start FRA) Print VAT on payment report.	Tax Reports VAT on Payment Report	R7400CSM /RIS2001	None.	None.
Close the fiscal year.	Close Financial Period/Year and Annual Processes  Close the Fiscal Year	R098201 /RIS0001	Data selection is set for company 00001 and fiscal year 05.	Ledger type rules: <ul style="list-style-type: none"> <li>• AA is preconfigured to close to the retained earnings account.</li> <li>• BA is preconfigured to roll the budget to the next fiscal year.</li> </ul>
Change the beginning date of the fiscal year for Accounts Payable, Accounts Receivable, General Accounting, and Financial Reporting.	Close Financial Period/Year and Annual Processes  Change Accounting Period or Year	P0010/No version	None.	None.

Data reports provide additional information about data that has been preconfigured for Rapid Start.

#### 関連項目:

第 33 章、「一般会計のデータ整合性の検証」、417ページ

第 37 章、「会計期間とレポート期間の締め処理」、471ページ

## Preconfigured Processing Options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0004.

### Date Range

Processing Option Description	Value or Status
1. From Date	blank
2. Thru Date	blank
3. Prior Days	0

### A/R

Processing Option Description	Value or Status
1. A/R Integrity Check Flag	blank
NOTE: A default of blank will only evaluate Batch Header (F0011) to Detail(F0911) records.	blank

### A/P

Processing Option Description	Value or Status
1. A/P Integrity Check Flag	blank
NOTE: A default of blank will only evaluate Batch Header (F0011) to Detail (F0911) records.	blank

### Batch

Processing Option Description	Value or Status
1. Batch Type	blank
2. Starting Range Of Batch Numbers	0
3. Ending Range Of Batch Numbers	0

## Preconfigured Processing Options for Transactions to Batch Header – GL Only (R007021)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0004.

**Post/Unposted**

Processing Option Description	Value or Status
1. Posted/Unposted Transactions	blank

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Date Range	blank
From Date:	blank
Thru Date :	blank
2. Prior Days	60
3. Batch Type Range	blank
From Batch Type:	blank
Thru Batch Type:	blank
4. Batch Number Range	blank
From Batch Number:	0
Thru Batch Number:	0
5. User ID Range	blank
From User ID:	blank
Thru User ID:	blank

**G/L**

Processing Option Description	Value or Status
1. G/L Integrity check Flag	1

**A/R**

Processing Option Description	Value or Status
1. A/R Ledger File F03B11 Flag	blank
2. A/R Receipts Header File F03B13 Flag	blank
3. Compare Receipts Header and Detail Flag	blank

**A/P**

Processing Option Description	Value or Status
1. A/P Ledger File F0411 Flag	blank
2. A/P Matching Document File F0413 Flag	blank
3. Compare A/P Header and Detail Flag	blank

**Options**

Processing Option Description	Value or Status
1. Rebuild Missing Batch Header F0011 Flag	1
2. Manager Approval Flag	blank

## Preconfigured Processing Options for Australia and New Zealand Companies by Batch Out of Balance (R09706)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS3001.

**Add. Ledger**

Processing Option Description	Value or Status
Enter additional ledger to edit batch and company within batch in balance condition. Default of blank will edit ledger type "AA" only.	blank
Ledger Type	AA

## Preconfigured Processing Options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0004.

**Date Range**

Processing Option Description	Value or Status
1. From Date	blank
2. Thru Date	blank
3. Prior Days	0



**Ledger Type**

Processing Option Description	Value or Status
1. Ledger Types	blank

**Preconfigured Processing Options for Accounts Without Business Units (R097041)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Update Option**

Processing Option Description	Value or Status
1. Company number update option:	blank

**Preconfigured Processing Options for Account Balance without Account Master Report (R097031)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Update Option**

Processing Option Description	Value or Status
1. Company Update Option:	blank

**Preconfigured Processing Options for Transactions Without Account Master (R097021)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Update Option**

Processing Option Description	Value or Status
1. Company number update option:	blank

**Preconfigured Processing Options for Account Balance to Transaction Report (R09705)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
Exclusive Data Selection Values:	blank
1. Company	blank
2. Ledger Type	blank
3. Fiscal Year	blank
4. Beginning Period Number	0
5. Ending Period Number	0
6. Business Unit	blank
7. Beginning Object Account	blank
8. Ending Object Account	blank

**Options**

Processing Option Description	Value or Status
1. Clear invalid period balances.	blank
2. Exclude inactive accounts.	blank

**Units**

Processing Option Description	Value or Status
1. Amount Ledger Type	blank

## Preconfigured Processing Options for Great Britain Monetary Account Valuation – EUR (R09415)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS1001.

**LOD**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Level of Detail	9

**Period**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fiscal Year	blank
2. Period Number	0

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Number Format	0
2. Suppress Zero Balances	blank

**Subledger**

Processing Option Description	Value or Status
1. Subledger Subledger	*
2. Subledger Type	blank

**As Of**

Processing Option Description	Value or Status
1. As Of	blank

**Journal Entries**

Processing Option Description	Value or Status
1. Gains/Losses	1
2. Reversing Entries	blank
3. G/L Date	blank
4. Approve Batches	blank

**Errors**

Processing Option Description	Value or Status
1. Print Errors	blank

## Preconfigured Processing Options for France Journal Des Achats (R7409C5)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2001.

### Select

Processing Option Description	Value or Status
1. Fiscal Dates	blank
Beginning Period Number	blank
Beginning Fiscal Year	9
Ending Period Number	4
Ending Fiscal Year	9
2. Calendar Dates	blank
Beginning Date	blank
Ending Date	blank
3. Ledger Type 1	blank
4. Ledger Type 2	blank
5. Ledger Type 3	blank

### Print

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Category Code	21
2. Model Business Unit	blank
3. Multiple Account Summarization	blank
4. Business Unit	Y
5. Subledger/Type	Y

### Process

Processing Option Description	Value or Status
1. Mode	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency	blank
2. As-Of Date	blank

## Preconfigured Processing Options for France Journal Des Ventes (R7409C5)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2002.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fiscal Dates	blank
Beginning Period Number	blank
Beginning Fiscal Year	9
Ending Period Number	4
Ending Fiscal Year	9
2. Calendar Dates	blank
Beginning Date	blank
Ending Date	blank
3. Ledger Type 1	blank
4. Ledger Type 2	blank
5. Ledger Type 3	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Category Code	21
2. Model Business Unit	blank
3. Multiple Account Summarization	blank
4. Business Unit	Y
5. Subledger/Type	Y

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Mode	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency	blank
2. As-Of Date	blank

## Preconfigured Processing Options for France Journal Des Operations Diverses (R7409C5)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2003.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fiscal Dates	blank
Beginning Period Number	blank
Beginning Fiscal Year	9
Ending Period Number	4
Ending Fiscal Year	9
2. Calendar Dates	blank
Beginning Date	blank
Ending Date	blank
3. Ledger Type 1	blank
4. Ledger Type 2	blank
5. Ledger Type 3	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Category Code	21
2. Model Business Unit	blank

Processing Option Description	Value or Status
3. Multiple Account Summarization	blank
4. Business Unit	Y
5. Subledger/Type	Y

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Mode	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency	blank
2. As-Of Date	blank

## Preconfigured Processing Options for France Journal Des Decaissements (R7409C5)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2004.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fiscal Dates	blank
Beginning Period Number	blank
Beginning Fiscal Year	9
Ending Period Number	4
Ending Fiscal Year	9
2. Calendar Dates	blank
Beginning Date	blank
Ending Date	blank
3. Ledger Type 1	blank
4. Ledger Type 2	blank
5. Ledger Type 3	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Category Code	21
2. Model Business Unit	blank
3. Multiple Account Summarization	blank
4. Business Unit	Y
5. Subledger/Type	Y

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Mode	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency	blank
2. As-Of Date	blank

## Preconfigured Processing Options for France Journal Des Encaissements (R7409C5)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2005.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fiscal Dates	blank
Beginning Period Number	blank
Beginning Fiscal Year	9
Ending Period Number	4
Ending Fiscal Year	9
2. Calendar Dates	blank
Beginning Date	blank
Ending Date	blank



Processing Option Description	Value or Status
3. Ledger Type 1	blank
4. Ledger Type 2	blank
5. Ledger Type 3	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Category Code	21
2. Model Business Unit	blank
3. Multiple Account Summarization	blank
4. Business Unit	Y
5. Subledger/Type	Y

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Mode	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency	blank
2. As-Of Date	blank

**Preconfigured Processing Options for Journal France Des Effets A Recevoir (R7409C5)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2006.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fiscal Dates	blank
Beginning Period Number	blank
Beginning Fiscal Year	9
Ending Period Number	4

Processing Option Description	Value or Status
Ending Fiscal Year	9
2. Calendar Dates	blank
Beginning Date	blank
Ending Date	blank
3. Ledger Type 1	blank
4. Ledger Type 2	blank
5. Ledger Type 3	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Category Code	21
2. Model Business Unit	blank
3. Multiple Account Summarization	blank
4. Business Unit	Y
5. Subledger/Type	Y

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Mode	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency	blank
2. As-Of Date	blank

## Preconfigured Processing Options for France Journal Des Mouvements De Stocks (R7409C5)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2007.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fiscal Dates	blank
Beginning Period Number	blank
Beginning Fiscal Year	9
Ending Period Number	4
Ending Fiscal Year	9
2. Calendar Dates	blank
Beginning Date	blank
Ending Date	blank
3. Ledger Type 1	blank
4. Ledger Type 2	blank
5. Ledger Type 3	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Category Code	21
2. Model Business Unit	blank
3. Multiple Account Summarization	blank
4. Business Unit	Y
5. Subledger/Type	Y

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Mode	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency	blank
2. As-Of Date	blank

## Preconfigured Processing Options for France Balance De Comptabilite Generale (R70472)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2001.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Period Number	blank
2. Fiscal Year	5
3. Ledger Type 1	blank
4. Ledger Type 2	blank
5. Ledger Type 3	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Category Code (21–43)	R021
2. Accounts with Zero Balances	1
3. Class Total Level	3
4. Last Balance Sheet Account	599999

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Mode	blank

## Preconfigured Processing Options for France Grand Livre General Des Comptes (R70470)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2001.

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Fiscal Dates	blank
Beginning Period Number	blank
Beginning Fiscal Year	5
Ending Period Number	1
Ending Fiscal Year	5
2. Ledger Types	blank
Ledger Type 1	blank
Ledger Type 2	blank
Ledger Type 3	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
1. Account Category Code (21–43) R0xx where	R021
2. Subledger/Subledger Type Columns	1
3. Business Unit Column	1
4. Accounts with Zero Balances	blank
5. Unposted Transactions	1
6. Totals for Posted and Unposted Transactions	1
7. First Profit and Loss Account	600000
8. Column Format	blank
9. Report Sequence	1

**Process**

Processing Option Description	Value or Status
1. Mode	blank

## Preconfigured Processing Options for France TVA Collectee Sur Les Debits (R0018P1)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2001.

### Tax Report

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a '1' to flag the detail records as having been read:	blank

## Preconfigured Processing Options for France TVA Deductible Sur Les Debits (R0018P1)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2002.

### Tax Report

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a '1' to flag the detail records as having been read:	blank

## Preconfigured Processing Options for France TVA Deductible Intracommunautaire (R0018P1)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2003.

### Tax Report

Processing Option Description	Value or Status
1. Enter a '1' to flag the detail records as having been read:	blank

## Preconfigured Processing Options for France TVA Sur Encaissement Aide A La Declaration (R7400CSM)

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS2001.

### Process

Processing Option Description	Value or Status
1. Running Mode	1
2. Selection Date	blank
3. Print Summary	1

**Select**

Processing Option Description	Value or Status
1. Beginning Process Date (Required)	1/1/2005
2. Ending Process Date (Required)	12/31/2005
3. Company Number (Required)	1

**Receipts**

Processing Option Description	Value or Status
1. Bypass Accounts Receivables process.	blank
2. System Code	blank
3. Record Type	blank
4. R7400CAR Version	blank

**Payments**

Processing Option Description	Value or Status
1. Bypass Accounts Payables process.	blank
2. System Code	blank
3. Record Type	blank
4. R7400CAP Version	blank

**Currency**

Processing Option Description	Value or Status
1. As-If Currency Code. (Optional)	blank
2. As-Of Date. (Optional)	1/1/2005

**Preconfigured Processing Options for Annual Close (R098201)**

These processing options show the values that are preconfigured for version RIS0001.

**Profit/Loss**

Processing Option Description	Value or Status
This option allows you to choose if you wish to create next year Profit/Loss account records when the net posting for this year has a zero balance.	blank
Enter a 1 to create zero bal. Profit/Loss records.	1

**Orig Budget**

Processing Option Description	Value or Status
This option allows you to choose to override the original budget regardless of whether next year's record already exists.	blank
Enter a 1 to override Original Budget.	blank

**Print**

Processing Option Description	Value or Status
This option allows you to choose to see the detail supporting the Retained Earnings calculation.	blank
Enter a 1 to print supporting detail.	1



## 第 39 章

# レコードの集計と除去

この章では、レコードの集計、削除、および除去の概要と、以下の方法について説明します。

- 取引明細レコードの集計
- 前年度レコードの除去
- 前年度の勘定残高の除去
- 勘定科目マスター レコードの削除
- ビジネスユニットと会社の削除

---

## 集計、削除、および除去について

ディスクの空き容量を増やすには、レコードの集計、削除、および除去を行います。

レコード集計プログラムでは、単一の集計レコードを作成して、多数の明細レコードをそのレコードに置き換えます。レコード削除プログラムでは、システムから情報を削除します。レコード除去プログラムでは、プログラムに応じて以下の処理のいずれかを実行します。

- 除去テーブルへのレコードのコピー  
元のレコードは除去済みに設定され、システムから削除されます。
- システムからの情報の削除

---

## 取引明細レコードの集計

このセクションでは、取引の集計プログラムの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 取引の集計
- 取引の集計プログラムの処理オプションの設定

## 取引の集計プログラムについて

以下のレコードを除去する前に、取引の集計プログラム (R09811) を実行します。

- 現行年度のレコード  
集計レコードは、F0902 テーブルを使用する場合に必要です。前年度の仕訳を除去する際に、現行年度の未集計レコードは無視されます。前年度のレコードの集計は任意です。
- 前年度のレコード

除去された前年度レコードが未集計のまま残されている場合は、取引明細の再転記プログラム (R099102) を使用して勘定残高をゼロに設定できます。

取引の集計プログラム (R09811) を使用すると、仕訳を集計して、多数の明細レコードを 1 つの集計レコードに置き換えることができます。取引の集計プログラムでは、以下の処理が行われます。

- 会計期間、元帳タイプ、補助元帳、補助元帳タイプ別に集計レコードを作成する。集計レコードには、以下の情報が含まれます。
  - 伝票タイプ (BF)
  - 伝票番号 (取引集計時のシステム日付 (ユリウス暦))
  - 元帳日付 (期間終了日付)
- F0911 テーブルの集計済みの明細レコードに、“Y” (集計済み) またはブランク (未集計) のフラグを設定する。

以下の 3 つの AAI (自動仕訳) 項目によって、集計対象および対象外の勘定科目範囲が指定されます。

- GLRCxx: 集計する前に残高を調整する必要がある勘定科目の範囲を定義します。  
調整済みフィールドには、集計を許可する UDC テーブル (09/RC) の値を入力する必要があります。
- GLSMxx: 集計しない勘定科目の範囲を定義します。
- GLPRxx: 除去しない勘定科目の範囲を定義します。

集計レコードが作成されたら、以下の作業を実行できます。

- 前年度のレコードの再計算 (必要な場合)
- F0911 テーブルからの前年度レコードの削除または除去

集計によりレコードが追加されます。使用可能なディスク容量を増やすには、レコードの除去と再構築を行う必要があります。

集計レポートの作成では、取引を集計する必要はありません。処理オプションで特定の主科目範囲を含むように設定すると、総勘定元帳を集計できます。

取引の集計プログラムでは、データ選択はできません。集計対象の取引を指定するには、処理オプションと AAI 項目 (GLSMxx、GLRCxx、および GLPRxx) を指定します。

## 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- F0911 テーブルをバックアップします。
- 集計対象の会計年度、会社、元帳タイプを指定します。
- 十分な処理時間を確保するために、取引の集計は業務時間外に行います。
- 集計する各元帳タイプについて、元帳タイプ規則の設定プログラム (P0025) の元帳タイプの集計オプションが有効になっていることを確認します。

参照: 第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプの設定」、22 ページ

- 必要に応じて、勘定を残高調整します。

## 取引の集計

[データの集計および除去] (G09317) の [取引の集計] をクリックします。

## 取引の集計 (R09811) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| <b>1. 保持する期間数</b>        | <p>明細を保持する期間数を指定します。</p> <p>「01」を入力すると、現行期間のみが保持されます。</p> <p>F0902 テーブルの 14 期間の転記額を基に、どの期間のデータを保持するかを決定します。</p> <p>1 会計年度に 12 期間ある場合は、保持する期間数を 2 つ追加すると、前の会計年度からの情報を保持できます。たとえば、現在が会計年度の第 3 期間であり、前の会計年度の最後の 2 期間の情報を保持するとします。この場合、この処理オプションには保持する期間数として「05」を入力します。</p> <p>現行会計年度の情報だけを保持する場合は、期間数を 2 つ追加する必要はありません。たとえば、現在が会計年度の第 4 期間であり、現行会計年度の期間 2、3、4 の情報を保持するとします。この場合、この処理オプションには保持する期間数として「03」を入力します。</p> |
| <b>2. 会社</b>             | <p>集計するレコードの会社番号を指定します。F0010 テーブルの有効な会社番号を入力してください。</p>   |
| <b>3. ビジネスユニット</b>       | <p>集計するレコードのビジネスユニットを指定します。F0006 テーブルの有効なビジネスユニットを入力してください。</p>   |
| <b>4. 勘定科目範囲の開始略式 ID</b> | <p>集計する勘定科目範囲の開始略式 ID を指定します。F0902 テーブルの有効な略式 ID を入力してください。</p>   |
| <b>5. 勘定科目範囲の終了略式 ID</b> | <p>集計する勘定科目範囲の終了略式 ID を指定します。F0901 テーブルの有効な略式 ID を入力してください。</p>   |
| <b>6. 補助元帳</b>           | <p>集計するレコードの補助元帳を指定します。</p>   |
| <b>7. 補助元帳タイプ</b>        | <p>集計するレコードの補助元帳タイプを指定します。UDC テーブル (00/ST) の有効な補助元帳タイプを入力してください。</p>  |
| <b>8. 元帳タイプ</b>          | <p>集計するレコードの元帳タイプを指定します。F0025 テーブルの有効な元帳タイプを入力してください。</p>   |

---

## 前年度レコードの除去

このセクションでは、前年度仕訳の除去の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 前年度レコードの除去
- 前年度仕訳の除去のデータ選択の設定
- 前年度仕訳の除去の処理オプションの設定

## 前年度仕訳の除去プログラムについて

集計レコードを作成する場合やディスクの空き容量を増やす場合に、前年度仕訳の除去プログラム (R09911) で仕訳を除去できます。このプログラムでは、次の処理を実行します。

- F0911 テーブルの前年度の仕訳を除去テーブル (F0911P) にコピーする。
- F0911 テーブルのコピー済みレコードを除去済みに設定する。
- 一定の条件を満たす場合に F0911 テーブルから除去済みレコードを削除する。
- 除去されたレコード数を会社別に出力するレポートを印刷する。

前年度仕訳の除去プログラムでは、以下の取引のみを除去します。

- 前年度の取引
- 現行年度の集計取引
- 前年度の集計取引

これらの取引は、一度に 1 年分しか除去できません。

前年度仕訳の除去プログラムを実行する場合、前年度の取引に対して 4 つの処理 (除去して削除する、除去するが削除は行わない、削除する、完全に無視する) を選択できます。

システムがレコードを除去対象として認識するには、レコードが以下の全ての条件を満たす必要があります。条件が満たされていないとレコードは削除されません。

- 勘定科目コードが AAI 項目 GLPRxx (除去対象外) の範囲外である。
- AAI 項目 GLRCxx (残高調整対象) の範囲内にある勘定の場合、調整済みコードがブランク以外の値である。
- レコードの支払番号フィールドが “\*” (部分支払、留保または割引) ではない。
- サービス請求クライアントで勘定科目が請求可能な場合、取引の請求コードが “X” (直接配賦または請求) または “Y” (手入力配賦および請求) である。

集計レコード (伝票タイプ BF) は、F0902 テーブルに保持しておく必要がなくなった場合を除き、除去しないでください。

以下の 3 つの AAI (自動仕訳) 項目によって、除去対象および対象外の勘定科目範囲が指定されます。

- GLSMxx: 集計しない勘定科目の範囲を定義します。

現行年度の取引を F0911 テーブルから削除するには、集計コードが “Y” になっている必要があります。この範囲の前年度取引は、集計コードに関係なく削除できます。

- GLRCxx: 削除する前に残高調整する必要がある勘定科目の範囲を定義します。

削除するには、調整済みフィールドの値が UDC テーブル (09/RC) の値になっている必要があります。

- GLPRxx: 削除しない勘定科目の範囲を定義します。

これらの勘定科目は、除去コードを “Y” に設定すると除去テーブルに書き込まれますが、削除は行われません。

除去処理が完了したら、F0911P テーブルを別の媒体にコピーします。このテーブルをシステムに保存したまま再度除去を行うと、新たに除去されたレコードが F0911P テーブルに追加されるため、ディスクの空き容量が減ります。

F0911 テーブルのデフラグメンテーションを行って、テーブルのインデックスを再作成することもできます。この処理についての詳細は、データベース管理者に問い合わせてください。

**注:** 前年度仕訳の除去プログラムでは、F0911 テーブルのレコードのみが除去されます。買掛管理や売掛管理など、他のシステムの対応するレコードは除去されません。一般会計システムと他のシステムとの整合性の問題を回避するには、システム管理者に相談してこれらのレコードを除去するようにしてください。

## 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- F0911 テーブルをバックアップします。
- AAI の除去パラメータを設定します。

参照: 第 3 章、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの AAI の設定」、27 ページ

- 取引を集計します。

## 前年度レコードの除去

[データの集計および除去] (G09317) の [前年度仕訳の除去] をクリックします。

## 前年度仕訳の除去のデータ選択の設定

除去するレコードの会計年度を入力します。

## 前年度仕訳の除去 (R09911) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 削除オプション

#### 1. 除去および削除

取引 1099 で会計年度が 3 年 (現行年度と過去 2 年の会計年度) を超える取引を除去および削除するには、「1」を入力します。部分支払を行う場合は、取引 1099 で年度別に支払を行うように指定できます。このような取引は、支払番号フィールドの値 “\*” で識別できます。この処理オプションを “1” に設定すると、会計年度が 3 年を超える場合にのみ、年度別に支払を行う取引は除去および削除されます。

この処理オプションをブランクにすると、取引 1099 は除去されますが、問題のある取引は削除されません。

#### 2. 請求可能取引の削除および除去

この処理オプションは、サービス請求クライアント用です。

有効な請求コードがある請求可能取引を除去および削除するには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、請求コードが “X” または “Y” 以外の取引は除去されますが、削除は行われません。請求コードが “X” と “Y” の請求可能取引は全て除去および削除されます。

## 前年度の勘定残高の除去

このセクションでは、前年度勘定残高の除去プログラムの概要、事前設定、および前年度の勘定残高の除去について説明します。

## 前年度勘定残高の除去プログラムについて

ディスクの空き容量を増やすには、前年度勘定残高の除去プログラム (R09912) で勘定残高レコードを除去します。このプログラムでは、以下の処理を実行します。

- 現行会計年度より前の日付が付いたレコードを F0902 テーブルから除去テーブル (F0902P) にコピーする。
- 現行会計年度より前の日付が付いたレコードを削除する。
- 除去されたレコード数を会社別、F0902P テーブルが作成された日時順に出力するレポートを印刷する。

除去できるレコードは、一度に 1 年分のみです。除去処理が完了したら、F0902P テーブルを別の媒体にコピーします。このテーブルをシステムに保存したまま再度除去を行うと、新たに除去したレコードが F0902P テーブルに追加されるため、ディスクの空き容量が減ります。

F0902 テーブルのデフラグメンテーションを行って、テーブルのインデックスを再作成することもできます。この処理についての詳細は、データベース管理者に問い合わせてください。

## 事前設定

F0902 テーブルをバックアップします。

## 前年度の勘定残高の除去

[データの集計および除去] (G09317) の [前年度勘定残高の除去] をクリックします。

---

## 勘定科目マスター レコードの削除

このセクションでは、勘定科目マスター レコードの削除プログラムの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 勘定科目マスター レコードの削除プログラムの実行
- 勘定科目マスター レコードの削除の処理オプションの設定

## 勘定科目マスター レコードの削除について

ディスクの空き容量を増やすには、勘定科目マスター レコードの削除プログラム (R09814) を実行して、取引のない勘定レコードを削除します。このプログラムでは、各勘定科目の取引データが保存されているテーブルが検索されます。取引が見つからない場合、その勘定科目は除去テーブルにコピーされません。代わりに、F0901 テーブルから削除されます。

このプログラムでは、以下のテーブルの取引データを検索します。

- 売掛金元帳 (F03B11)
- 買掛金元帳 (F0411)
- 従業員トランザクション履歴 (F0618)
- 従業員給与規定 (F06106)
- 間接費配賦 (F0724)
- 勘定科目マスター - 代替記述 (F0901D)

- 勘定残高 (F0902)
- 取引明細 (F0911)
- 費用配賦/予算作成 (F0912)
- 資産勘定残高 (F1202)
- 購買明細 (F4311)
- 分割融資実行レポート マスター (F51911)

勘定科目マスター レコードの削除プログラムは、テスト モードと最終モードのどちらでも実行できます。

## 事前設定

F0901 テーブルをバックアップします。

## 勘定科目マスター レコードの削除プログラムの実行

[データの集計および除去] (G09317) の [勘定科目マスター・レコードの削除] をクリックします。

## 勘定科目マスター レコードの削除 (R09814) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 勘定科目の削除

#### モード

勘定科目マスター レコードを削除する場合の処理モードを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: テスト モード。削除される勘定科目を出力するレポートが印刷されますが、実際の削除は行われません。

1: 最終モード。勘定科目データが削除され、削除された勘定科目を出力するレポートが印刷されます。

---

## ビジネスユニットと会社の削除

このセクションでは、ビジネスユニット/会社の削除プログラムの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- ビジネスユニット/会社の削除プログラムの実行
- ビジネスユニット/会社の削除の処理オプションの設定

## ビジネスユニット/会社の削除プログラムについて

組織構造が変更されると、不要なビジネスユニットや会社が発生することがあります。また、テスト環境で使用したビジネスユニットや会社が不要になることもあります。このような場合は、ビジネスユニット/会社の削除プログラム (R09925) で、不要になったビジネスユニットや会社のレコードを削除できます。このプログラムでは、1 つのビジネスユニットのレコード、または 1 つの会社のビジネスユニットの全てのレコードを削除できます。

処理オプションで会社を指定すると、その会社内の全てのビジネスユニットのレコードが削除されます。ビジネスユニットを指定すると、そのビジネスユニットのレコードが削除されます。ビジネスユニットと会社の両方を指定すると、そのビジネスユニットのレコードのみが削除されます。

ビジネスユニットまたは会社のレコードを削除する場合、その情報は除去テーブルにはコピーされず、未決済残高も検索されません。この場合、未決済残高が存在するかどうかに関係なく、ビジネスユニットまたは会社のレコードが削除されます。

ビジネスユニット/会社の削除プログラムでは、以下のテーブルからレコードが削除されます。

- F0006
- F0901
- F0901D
- F0902
- F0911

レポートは印刷されません。

処理が完了したら、以下の作業を行います。

- [会社の処理] フォームで、会社データを削除します。
- [住所の処理] フォームで、ビジネスユニットまたは会社のデータを削除します。

---

**重要:** テスト環境と稼働環境など、2つの環境にサインインしている場合は、両方の環境のレコードが削除されます。

---

## 事前設定

このセクションで説明されているタスクを実行するには、事前に以下の作業を行う必要があります。

- F0006、F0901、F0901D、F0902、F0911 の各テーブルをバックアップします。
- 削除するビジネスユニットまたは会社に、取引が存在しないことを確認します。

## ビジネスユニット/会社の削除プログラムの実行

[データの集計および除去] (G09317) の [ビジネスユニット/会社の削除] をクリックします。

## ビジネスユニット/会社の削除 (R09925) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### レコードの削除

#### 1. 削除する会社/ビジネスユニット

ビジネスユニットを削除する会社または削除するビジネスユニットを入力します。

処理オプションで会社を指定すると、その会社内の全てのビジネスユニットのレコードが削除されます。

ビジネスユニットを指定すると、そのビジネスユニットのレコードが削除されます。

ビジネスユニットと会社の両方を指定すると、そのビジネスユニットのレコードのみが削除されます。



## 付録 A

# 一般会計のテーブル

一般会計システムでは、以下のタイプのテーブルを使用します。

- 基本テーブル
- 補足テーブル

## 基本テーブル

一般会計システムで使用する基本テーブルを以下の表に示します。

テーブル名 (番号)	説明
勘定科目マスター (F0901)	勘定科目コードや勘定科目名など、勘定科目の定義が保管されています。1つの勘定科目あたり1件のレコードがあります。
勘定残高 (F0902)	各期間の転記額や前年度の(正味および累計)残高などの勘定残高が保管されています。勘定科目、元帳タイプ、補助元帳、補助元帳タイプ、会計年度、取引通貨(通貨別に転記する場合)ごとに1つのレコードがあります。
取引明細 (F0911)	総勘定元帳の取引明細が保管されています。1件の取引あたり1件のレコードがあります。複数の通貨を使用する場合は、取引あたり2件のレコードが保管されます。

## 補足テーブル

一般会計システムで使用する補足テーブルを以下の表に示します。

テーブル名 (番号)	説明
自動採番 (F0002)	バッチ番号や取引番号など、システムで自動的に割り当てられている全ての番号について、次に割り当てることができる番号が保管されます。
ユーザー定義コード (F0005)	ユーザー定義コードとその記述が保管されています。

テーブル名 (番号)	説明
ビジネスユニット マスター (F0006)	名称、番号、会社、カテゴリコードなどのビジネスユニットの定義が保管されています。
有効日付ビジネスユニット マスター (F0006S)	名称、番号、会社、カテゴリコードなどのビジネスユニットの定義が有効日付別に保管されています。
会計期間パターン (F0008)	各会社の会計期間パターンが保管されています。
一般会計固定情報 (F0009)	勘定科目のコーディング、バッチ制御、バッチ承認、日付検証、会社間決済、バッチ貸借一致などシステム全体の機能を制御する規則が保管されています。
会社固定情報 (F0010)	番号、名称、会計期間パターン、現行会計期間などの会社の定義が保管されています。
バッチ制御 (F0011)	各バッチを識別する見出しレコードが保管されています。
AAI マスター (F0012)	自動貸借一致仕訳、特定のレポートで必要となる中間合計、および勘定科目表に関する一般情報の作成方法を制御する規則が保管されています。
税 (F0018)	課税対象となる各項目の取引明細が保管されています。
税調整リポジトリ (F0018R)	税情報が勘定科目別に保管されています。
元帳タイプ マスター ファイル (F0025)	以下のような特定の元帳タイプに対する規則が保管されています。 添付する数量元帳タイプ 元帳の貸借一致が必須かどうかなどの会計規則 元帳比較用のカラム タイトル
組織構造 マスター ファイル (F0050)	ビジネスユニットの親子関係が組織構造タイプ別に保存されています。
構造定義ファイル (F0050A)	カテゴリコード別にビジネスユニットをグループ化するために定義した組織構造が保管されています。
補足データベース データタイプ (F00091)	ビジネスユニットに関する追加情報のトラッキングに使用するデータタイプ定義が保管されています。
補足データ (F00092)	ビジネスユニットについての追加情報が、データタイプごとに分類され保管されています。
住所録マスター (F0101)	会社、仕入先、顧客などの住所録情報が保管されています。

テーブル名 (番号)	説明
WF - 取引明細調整 (F0911R)	未調整取引明細が保管されています。このワークテーブルの内容は、残高調整のたびに更新されます。
費用配賦/予算作成 (F0912)	定期仕訳(配賦)に関する情報が保管されています。
インデックス配賦入力ファイル (F0912A)	インデックス付きの配賦に関する情報が保管されています。
変数配賦ファイル (F0912B)	変数配賦についての情報が保管されています。
銀行残高照合表見出し (F0916)	銀行残高照合表の見出し情報が保管されています。
銀行残高照合表明細 (F0917)	銀行残高照合表上の取引に関する明細情報が保管されています。
会社間/社内勘定科目関係 (F09190)	会社間決済用の構成ハブに関する情報が保管されています。



## 付録 B

# バッチ仕訳処理のフィールドのマッピング

この付録では、以下の項目について説明します。

- F0911Z1 テーブルのフィールドのマッピング
- 収益性分析に対する F0911Z1 テーブルのフィールドのマッピング
- システム外で調整した取引に対する F0911Z1 テーブルのフィールドのマッピング

## F0911Z1 テーブルのフィールドのマッピング

このセクションでは、仕訳アップロード テーブル (F0911Z1) のフィールドを一覧に示します。仕訳のバッチ処理プログラム (R09110Z) の実行に必要なフィールドもあれば、必要でないフィールドもあります。フィールドによっては、0 (ゼロ) またはブランクは有効な値ですが、NULL は無効な値です。全てのフィールドが一般会計のフォームに表示されたり、一般会計システムで使用されたりするわけではありません。

### 必須フィールド

次の表に、F0911Z1 テーブルの必須フィールドを示します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	VNEDUS	文字	10	プロセスを実行する人、または従業員待ち行列マネージャプログラム (P012501) でメッセージを受け取る人のユーザーIDを入力します。VNEDTN、VNEDBT、および VNEDLN と組み合わせて、仕訳を一意に識別します。
EDI-トランザクション番号	VNEDTN	文字	22	VNEDLN と組み合わせて、各トランザクションを識別する値を入力します。新しいトランザクション番号はそれぞれ新しい仕訳を示します。VNEDLN が異なる場合を除き、1つのバッチに同じ番号のトランザクションを置くことはできません。このフィールドには通常、トランザクションを直ちに識別できるようにソースシステムの伝票番号が含まれます。
EDI-行番号	VNEDLN	数字	7	VNEDTN と組み合わせて、仕訳の各行を識別する値を入力します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-処理済み	VNEDSP	文字	1	レコードの処理が適切に行われたどうかを示す値を入力します。デフォルト値は0にします。レコードが正常に処理されると、このフィールドは値1で更新されます。エラーが発生すると、このフィールドは0のままになります。このフィールドはブランクにしないでください。
EDI-トランザクションアクション	VNEDTC	文字	1	トランザクションが処理されるように、「A」を入力します。その他の値は無効です。
EDI-トランザクションタイプ	VNEDTR	文字	1	仕訳の場合、「J」を入力します。このフィールドはブランクにはできません。
EDI-バッチ番号	VNEDBT	文字	15	VNEDTN、VNEDUS、およびVNEDLNと組み合わせて、バッチ内のトランザクションを一意に識別する値を入力します。また、このフィールドはレベル区切りとしても使用されます。この値が変わるごとに新しいバッチ番号が割り当てられます。一度に処理するトランザクショングループ別にバッチ番号を割り当てると、パフォーマンスが向上します。
元帳日付	VNDGJ	日付	6	<p>取引の日付を示す値を入力します。このフィールドは仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できるのは、1つの値だけです。</p> <p>データベースと同じ日付形式で元帳日付を入力します。データベースによって、グレゴリオ暦の日付形式(mmdyy)が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式(cyyddd、この場合cは世紀)による入力が必要な場合があります。</p> <p>日付が20世紀の場合は「0」(ゼロ)、21世紀の場合は「1」を入力します。たとえば、1999年6月1日はユリウス暦では099152になります。2008年6月1日は108153になります(2008年はうるう年で2月29日があるため)。</p> <p>別の方法として、このフィールドをブランクにして、VNDGM(mm)、VNDGD(dd)、VNDGY(yy)、VNDG#に月/日/年/西暦上2桁の形式で値を入力することもできます。VNDG#には年度の上2桁を入力します。たとえば、2007年の場合は「20」を入力します。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
勘定科目コード	VNANI	文字	29	<p>取引を処理する際に更新する勘定科目コードを示す値を入力します。VNANIとVNAIDのどちらか、またはVNMCU、VNOBJおよびVNSUBを入力して、勘定科目コードを指定します。</p> <p>VNANIフィールドの最初の文字は、F0009テーブルの勘定科目コード識別記号に対応している必要があります。たとえば、略式IDの識別記号が*の場合、VNANIに略式IDを入力するには、先頭に*を付ける必要があります。VNANIをブランクにして、VNAIDに略式IDを入力することもできます。</p> <p>フィールドをブランクにすると、入力した勘定科目情報に基づいて値が自動的に入力されます。たとえば、ビジネスユニット、主科目、および補助科目の各フィールドに値を入力した場合は、取引を処理する際に略式IDフィールドと勘定科目コードフィールドが更新されます。逆に、勘定科目コードフィールドに値を入力した場合は、取引を処理する際にビジネスユニット、主科目、および補助科目の各フィールドと略式IDフィールドが更新されます。</p>
略式ID	VNAID	文字	8	<p>取引を処理する際に更新する勘定科目の識別子を示す値を入力します。VNANIとVNAIDのどちらか、またはVNMCU、VNOBJおよびVNSUBを入力して、勘定科目コードを指定します。</p>
ビジネスユニット	VNMCU	文字	12	<p>取引を処理する際に更新する勘定科目コードの識別に使用する値を入力します。VNANIとVNAIDのどちらか、またはVNMCU、VNOBJ、およびVNSUBを入力して、勘定科目コードを指定します。</p>
主科目	VNOBJ	文字	6	<p>取引を処理する際に更新する勘定科目コードの識別に使用する値を入力します。VNANIとVNAIDのどちらか、またはVNMCU、VNOBJおよびVNSUBを入力して、勘定科目コードを指定します。</p>
税額	VNSTAM	数字	15	<p>税付き仕訳の場合、税額を入力します。入力した金額は、税計算プログラムで読み込まれ、検証と計算が行われます。税率/税域フィールドと税目コードフィールドに値を入力しなかった場合、このフィールドは無視されます。</p>
総額	VNAG	数字	15	<p>税付き仕訳の場合、総額を入力します。入力した金額は、税計算プログラムで読み込まれ、検証と計算が行われます。税率/税域フィールドと税目コードフィールドに値を入力しなかった場合、このフィールドは無視されます。</p>
税トラッキングフラグ	VNTKTX	文字	1	<p>F0911の税勘定の税情報を更新するかどうかを指定します。1を指定すると、税目コード、税率/税域、税項目が更新されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
配賦行番号	VNDLNID	数字	6	F0911 テーブルの GLDLNID フィールドの値を入力します。このフィールドの値については、検証もフォーマットも行われません。
小切手/入金番号	VNCKNU	文字列	25	F0911 テーブルの GLCKNU フィールドの値を入力します。このフィールドの値については、検証もフォーマットも行われません。
補助科目	VNSUB	文字	8	取引を処理する際に更新する勘定科目コードの識別に使用する値を入力します。VNANI と VNAID のどちらか、または VNMCU、VNOBJ および VNSUB を入力して、勘定科目コードを指定します。
勘定科目モード	VNAM	文字	1	勘定科目コードの検索時に読み取るフィールドを指定する値を入力します。有効値は以下のとおりです。 1: VNAID フィールドの値を使用する。 2: VNANI フィールドの値を使用する。 3: VNANI フィールドの値を使用するが、この値は一般会計固定情報で定義されている第 3 勘定科目コードである必要がある。 4: VNMCU、VNOBJ、VNSUB に割り当てられている値を使用する。 7: VNANI フィールドの値を使用するが、一般会計固定情報で定義されているとおりに、VNANI フィールドの最初の文字を使用して勘定科目コードが入力されたフォーマットを識別する。たとえば、VNANI の値が #123 の場合は、一般会計固定情報において # で表される勘定科目コード形式が使用されます。
金額	VNAA	数字	15	取引の額を示す値を入力します。データベースと同じ形式で金額を入力します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。外貨金額を入力する場合は、このフィールドをブランクにして VNACR に値を入力します。
摘要	VNEXA	文字	30	取引の説明を入力します。  このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は 1 つだけです。
会社	VNCO	文字	5	取引を処理する会社の番号を入力します。多通貨処理では、このフィールドは必須です。



## 収益性分析に対する F0911Z1 テーブルのフィールドのマッピング

このセクションでは、F0911Z1 テーブルのフィールドを収益性分析システムにマッピングする方法について説明します。

### 収益性分析システムの必須フィールド

収益性分析システムを使用する場合に必須となる F0911Z1 テーブルのフィールドを次に示します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	情報
コストオブジェクトタイプ 1 ~ 4	VNABT1 VNABT2 VNABT3 VNABT4	文字	1	最大で4つまでのコストオブジェクトタイプを入力します。これらのフィールドを使用して、対応するVNABR1 ~ VNABR4に入力された値が編集されます。このフィールドのどれか1つに値を入力した場合は、対応するコストオブジェクトフィールドにも値を入力する必要があります。  このフィールドには、F1620テーブルにある値を入力する必要があります。
コストオブジェクト 1 ~ 4	VNABR1 VNABR2 VNABR3 VNABR4	文字	12	最大で4つまでのコストオブジェクトを入力します。各フィールドの値は、対応するVNABT1 ~ VNABT4の編集ルールに従う必要があります。
転記コード 1 ~ 10	VNPM01 ~ VNPM10	文字	1	これらのフィールドはブランクにします。
品目番号	VNITM	数字	8	入力した値は、F4101テーブルに存在するかどうかを検証されます。

### 任意フィールド

任意フィールドを使用して、仕訳に関する情報を追加することができます。次の表に、F0911Z1 テーブルの任意フィールドを示します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 処理済み明細行数	VNEDDL	数字	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数を入力します。ユーザー検証専用のフィールドです。
EDI - トランザクションタイプ	VNEDTR	文字	1	仕訳を示す「J」を入力するか、またはブランクにします。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
伝票会社	VNKCO	文字	5	<p>取引を行った会社を識別するコードを入力します。このフィールドは、トランザクション番号を会社別に区別する場合にのみ使用します。ブランクにすると、最初の仕訳行のビジネスユニットに関連付けられている会社によって値が決定されます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合、F0010 テーブルに設定されている値を入力する必要があります。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
伝票タイプ	VNDCT	文字	2	<p>取引タイプを識別するコードを入力します。ブランクにすると、JE が使用されます。</p> <p>入力する値は、ユーザー定義コードテーブル 00/DT に設定されている必要があります。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
伝票番号	VNDOC	数字	8	<p>F0911 テーブルの取引を識別する番号を入力します。このフィールドをブランクにすると、システム 09 の自動採番を使用して伝票番号が自動的に割り当てられます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合、F0911 テーブルにある元帳日付および伝票タイプの値は入力できません。取引が重複していると見なされ、処理されません。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
仕訳行番号	VNJELN	数字	7	<p>仕訳の行番号のトラッキングに使用する値を入力します。ブランクにすると、取引を処理する際に更新されます。1つの取引に設定できる最大仕訳行番号は 9999 です。</p>
行拡張コード	VNEXTL	文字	2	<p>行拡張を示すコードを入力します。このフィールドをブランクにすると、多通貨の会社間決済が存在する場合に、仕訳の転記プログラム (R09801) によって更新されます。</p>
転記コード	VNPOST	文字	1	<p>取引が転記されているかどうかを示す値を入力します。ブランクにすると、仕訳の転記プログラムによって更新されます。取引がモデル仕訳を示している場合は、「M」を入力します。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
バッチ番号	VNICU	数字	8	<p>同時に処理する仕訳をグループ化するために使用する番号を入力します。このフィールドをblankにすると、システム 00 の自動採番を使用してバッチ番号が生成されます。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
バッチタイプ	VNICUT	文字	2	<p>処理中の取引のタイプを示すコード(請求書、伝票など)を入力します。このフィールドに値を入力する場合、ユーザー定義コードテーブル 98/IT に設定されている値を入力する必要があります。blankにすると、仕訳を処理する際にフィールドに「G」が自動的に入力されます。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
バッチ日付	VNDICJ	日付	6	<p>バッチの日付を入力します。このフィールドをblankにすると、バッチプログラムが実行された日付が使用されます。値を入力する場合は、データベースと同じ日付形式で入力します。詳細については、VNDGJ のフィールド定義を参照してください。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
バッチシステム日付	VNDSYJ	日付	6	<p>バッチがシステムに入力された日付を入力します。このフィールドをblankにすると、バッチプログラムが処理された日付が使用されます。値を入力する場合は、データベースと同じ日付形式で入力します。詳細については、VNDGJ のフィールド定義を参照してください。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
バッチ時間	VNTICU	数字	6	<p>バッチがシステムに入力された時刻を入力します。blankにすると、バッチプログラムが処理された時刻が使用されます。</p> <p>このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。</p>
補助元帳	VNSBL	文字	8	<p>取引の補助勘定を識別するコードを入力します。このフィールドに入力する場合は、VNSBLT の値も入力する必要があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
補助元帳タイプ	VNSBLT	文字	1	補助元帳のカテゴリを識別するコードを入力します。このフィールドに入力する場合は、ユーザー定義コードテーブル 00/ST に設定されている値を入力する必要があります。
元帳タイプ	VNLT	文字	2	元帳タイプを識別するコードを入力します。このフィールドは空白にすることも、AA またはユーザー定義コードテーブル 09/LT に設定されている CA 以外の有効な元帳タイプを入力することもできます。このフィールドには CA は入力しないでください。  このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は 1 つだけです。
期間	VNPN	数字	2	会計期間を示すコードです。このフィールドは、空白にしておくことをお勧めします。元帳日付と会社に基づいて自動的に値が入力されます。
西暦上 2 桁	VNCTRY	数字	2	取引が行われた年の西暦上 2 桁を入力します。空白にすると、元帳日付と会社に基づいて自動的に値が入力されます。
会計年度	VNFY	数字	2	取引が行われた年度を入力します。空白にすると、元帳日付と会社に基づいて自動的に値が入力されます。
実績為替レート	VNHCRR	数字	15	前回の為替レートを入力します。このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。  このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は 1 つだけです。
実績日付 - ユリウス暦	VNHDGJ	日付	6	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。  値を入力する場合は、データベースと同じ日付形式で入力します。詳細については、VNDGJ のフィールド定義を参照してください。  このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は 1 つだけです。
数量	VNU	数字	15	取引の数量を入力します。値を入力すると、仕訳の転記プログラム (R09801) の実行時に、金額フィールドが AU 元帳の値に更新されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
計量単位	VNUM	文字	2	入力された単位のタイプを記述する値を入力します。このフィールドに値を入力する場合、ユーザー定義コードテーブル 00/UM に設定されている値を入力する必要があります。このフィールドをブランクにすると、計量単位が F0901 テーブルの勘定科目データに割り当てられている場合は、その計量単位に更新されます。
元帳クラス	VNGLC	文字	4	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
逆仕訳/無効 (R/V)	VNRE	文字	1	見越し仕訳を逆仕訳するかどうかを示す値を入力します。このフィールドに「R」(逆仕訳)を入力すると、仕訳の転記時に、次の期間の最初の日の元帳日付を持つ仕訳がもう 1 つ作成されます。取引金額は当初仕訳から逆仕訳されます。  取引の無効化はこの処理の対象外です。仕訳を無効にするには、仕訳入力プログラム (P0911) を使用する必要があります。  このフィールドは、仕訳のヘッダー セクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は 1 つだけです。
摘要	VNEXR	文字	30	特定の仕訳行の説明を入力します。
参照 1	VNR1	文字	8	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。  このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は 1 つだけです。
参照 2	VNR2	文字	8	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
伝票支払項目	VNSFX	文字	3	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
当初伝票	VNODOC	数字	8	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
伝票会社 (購買オーダー)	VNPKCO	文字	5	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
伝票会社 (当初オーダー)	VNOKCO	文字	5	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
伝票タイプ (購買オーダー)	VNPDCT	文字	2	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所番号	VNAN8	数字	8	伝票または請求書取引に関連付けられている顧客または仕入先の住所番号を入力します。このフィールドに値を入力する場合、F0101 テーブルに設定されている値を入力する必要があります。
支払番号	VNCN	文字	8	取引の支払番号を入力します。
小切手日付	VNDKJ	日付	6	支払番号に関連付けられている支払日付を入力します。データベースと同じ形式で指定します。詳細については、VNDGJ のフィールド定義を参照してください。
小切手決済日	VNDKC	日付	6	銀行で支払が決済された日付を入力します。データベースと同じ形式で指定します。詳細については、VNDGJ のフィールド定義を参照してください。
シリアル番号	VNASID	文字	25	固定資産に関連付けられている資産 ID です。このフィールドの値が F1201 テーブルにあるかどうかを検証されます。
固定資産転記コード	VNBRE	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
調整済みコード	VNRCND	文字	1	レコードが調整済みかどうかを示す値を入力します。レコードが調整済みであることを示すには、「R」を入力します。  このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
集計コード	VNSUMM	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
除去コード	VNPRGE	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
1099 処理	VNTNN	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード - 代替 1	VNALT1	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード - 代替 2	VNALT2	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード - 代替 3	VNALT3	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード - 代替 4	VNALT4	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード - 代替 5	VNALT5	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
転記コード－現金主義会計	VNALT6	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
コミットメントリリースフラグ	VNALT7	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
請求制御	VNALT8	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
通貨更新	VNALT9	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
転記コード－代替 0	VNALT0	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。  このフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。
消費税相互参照	VNALT X	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
削除禁止	VNDLNA	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
自由形式ユーザー用フォーム－代替 1	VNCFF1	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
自由形式ユーザー用フォーム－代替 2	VNCFF2	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
リース費用転記済コード	VNASM	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
請求コード	VNBC	文字	1	このフィールドに値を入力する場合、ユーザー定義コードテーブル 98/BC に設定されている値を入力する必要があります。
仕入先請求書番号	VNVINV	文字	25	取引に対する請求書番号を入力します。  このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。  このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は 1 つだけです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
請求書日付	VNIVD	日付	6	取引に対する請求書日付を入力します。データベースと同じ形式で指定します。詳細については、VNDGJのフィールド定義を参照してください。  このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。
カテゴリ - 作業オーダー 01	VNWR01	文字	4	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
購買オーダー	VNPO	文字	8	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
購買オーダーサフィックス	VNPSFX	文字	3	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
オーダータイプ	VNDCTO	文字	2	このフィールドに値を入力する場合、ユーザー定義コードテーブル 00/DT に設定されている値を入力する必要があります。
行番号	VNLNID	数字	6	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
会計年度(週次)	VNWWY	数字	2	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
会計期間(週次)	VNWN	数字	2	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
決済済み	VNFNLP	文字	1	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
作業順序番号	VNOPSQ	数字	5	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
職務タイプ(技能)コード	VNJBCD	文字	6	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
職階	VNJBST	文字	4	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
所属ビジネスユニット	VNHMCU	文字	12	取引のビジネスユニットを示す値を入力します。入力した値は、F0006 テーブルに存在するかどうかを検証されます。  このフィールドは、仕訳の見出しセクションの一部です。そのため、各伝票に入力できる値は1つだけです。
利息区分	VNDOI	数字	2	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。



フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
第 3 者リース /油井 ID	VNALID	文字	25	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
識別タイプ	VNALTY	文字	2	このフィールドには、任意の値を入力できます。システムによる検証は行われません。
サービス/税 日付	VNDSVJ	日付	6	取引のサービス/税日付を入力します。データベースと同じ形式で指定します。このフィールドをブランクにすると、VNDGJ の値が使用されます。詳細については、VNDGJ のフィールド定義を参照してください。

### 無視されるフィールド

無視されるフィールドの値は使用されません。次の表に示すフィールドは無視されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
レコードタイプ	VNEDTY	文字	1
レコード順序	VNEDSQ	数字	2
EDI-伝票タイプ	VNEDCT	文字	2
EDI-トランザクション セット番号	VNEDTS	文字	6
EDI-変換フォーマット	VNEDFT	文字	10
EDI-アップロード日付	VNEDDT	日付	6
EDI-送受信インジケータ	VNEDER	文字	1
バッチファイル-取引明 細レコード作成	VNEDGL	文字	1
ユーザー住所番号	VNEDAN	数字	8
会計四半期(旧)	VNFQ	数字	2
参照番号 3-勘定科目 調整	VNR3	文字	8
当初伝票タイプ	VNODCT	文字	2
当初伝票支払項目	VNOSFX	文字	3
転記コード-代替 T	VNALTT	文字	1
転記コード-代替 U	VNALTU	文字	1

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
在庫品目の引当	VNALTV	文字	1
転記コード - 代替 W	VNALTW	文字	1
転記コード - 代替 Z	VNALTZ	文字	1
登録番号	VNREG#	数字	8
支払 ID	VNPYID	数字	15
入力者	VNTORG	文字	10
ユーザー ID	VNUSER	文字	10
プログラム ID	VNPID	文字	10
ワークステーション ID	VNJOB#	文字	10
更新日付	VNUPMJ	日付	6
最終更新時刻	VNUPMT	数字	6

## システム外で調整した取引に対する F0911Z1 テーブルのフィールドのマッピング

銀行残高照合表の調整用に、送信インタオペラビリティを使用して銀行口座情報をサードパーティソフトウェア パッケージにエクスポートすると、残高調整情報を一般会計システムにインポートして残高調整処理を行うことができます。

### 必須フィールド

一般会計システムの取引情報を更新する場合は、該当する取引の F0911Z1 テーブルの次のフィールドに値を入力する必要があります。

- VNEDUS (EDI - ユーザー ID)
- VNEDBT (EDI - バッチ番号)
- VNEDTN (EDI - トランザクション番号)
- VNEDLN (EDI - 行番号)
- VNEDSP (EDI - 処理済み) - このフィールドの値は 2 にする必要があります。
- VNDOC (伝票番号)

これらのフィールドの値は、F0911 テーブルで更新するレコードと一致する必要があります。

- VNDCT (伝票タイプ)
- VNKCO (伝票会社)

- VNDGJ (元帳日付)
- VNJELN (仕訳行番号)
- VNEXTL (行拡張コード)
- VNRCND (調整済みコード)
- VNDKC (小切手決済日)

F0911Z1 テーブルの必須フィールドに値を入力したら、システム外で調整した取引の更新プログラムを実行して、F0911Z1 テーブルの取引を一般会計システムに反映させます。

## EnterpriseOne のシステム外で調整した取引について

[バッチ仕訳処理] (G09311) の [システム外で調整した取引の更新] をクリックします。

システム外で調整した取引の更新プログラムを実行して、調整データを F0911Z1 テーブルから一般会計システムに反映させます。また、このプログラムでは、システム外で調整した取引の更新プログラムまたは仕訳バッチ処理プログラム (R09110Z) によって取引が再度処理されないように、各取引の F0911Z1 テーブルの EDI - 処理済みフィールド (VNEDSP) が 1 (処理済み) に更新されます。



## 付録 C

# 自動銀行残高照合表処理の変換フローによるフィールドのマッピング

この付録では、変換フローにより、銀行フラット ファイルから EnterpriseOne の経由保管場所テーブルにデータがどのようにマッピングされるかについて説明します。この付録で説明する変換フローは、以下のとおりです。

- F09610 テーブルから F09611 テーブルへの BAI2 フィールドのマッピング
- F09610 テーブルから F09611 テーブルへの SWIFT フィールドのマッピング

### 関連項目:

第 20 章、「銀行残高照合表の自動処理」、185ページ

---

## F09610 テーブルから F09611 テーブルへの BAI2 フィールドのマッピング

このセクションでは、変換フロー (BAI2\_to\_E1\_BankStatementStaging) により、BAI2 銀行フォーマットのフィールドが銀行フラット ファイルから EnterpriseOne 銀行残高照合表の経由保管場所見出しテーブル (F09610) と経由保管場所明細テーブル (F09611) にどのようにマッピングされるかについて説明します。

BAI2 銀行フォーマットには、以下の規則が適用されます。

- レコード内のフィールドは、カンマ (,) で区切ります。
- スラッシュ (/) は論理レコードの終了を示します (レコード 16 を除く)。
- カンマとスラッシュは、レコード 16 のテキスト以外のフィールドでは使用できません。
- 隣接する区切り文字 (,) は、デフォルトまたは未指定のフィールド値を表します。
- 金額フィールドには小数は含まれません。  
小数点以下の桁数は通貨コードに基づいて設定されます。
- デフォルトの通貨コードは USD (小数点以下 2 桁) です。

### レコード

BAI2 銀行フラット ファイルの情報は、レコード別にグループ化されます。このセクションで説明する表は、レコード別に構成されています。各表には、BAI2 要件に従ってフィールドが必須 (R) であるか任意 (O) であるかの情報や、変換フローによりレコード内のフィールドが EnterpriseOne フィールドにマッピングされるかどうかなどの情報が記載されています。

### 例: BAI2 テキスト ファイル

以下は BAI2 テキスト ファイルの例です。

```

01,122099999,123456789,860621,0200,1,65,,2/
02,031001234,122099999,1,860620,2359,,2/
03,0123456789,,010,+4350011,,,040,2830000,,/
88,072,1020000,,,074,500000,,/
16,115,450011,S,100000,200000,150000,,,/
49,9150000,4/
03,9876543210,,010,-500011,,,100,1000000,,,400,2000000,,,190/
88,500000,,,110,1000000,,,072,500000,,,074,500000,,,040/
88,-1500000,,/
16,115,500011,S,,200000,300000,,,LOCK BOX NO. 68751
49,4000000,5/
98,13150000,2,11/
02,053003456,122099999,1,860620,2359,,2/
03,4589761203,,010,10000011,,,040,5000000,,,074,4000000,,/
88,400,50000000,,,100,60000000,,,110,20000000,,,072,1000000,,/
16,218,2000011,V,860622,,SP4738,YRC065321/
88,PROCEEDS OF LETTER OF CREDIT FROM THE ARAMCO OIL CO
16,195,1000011,1,,,/
49,180000000,6/
98,180000000,1,8/
02,071207890,122099999,1,860620,2359,,2/
03,0975312468,,010,500011,,,190,70000000,4,0,110/
88,70000000,15,D,3,0,20000000,1,30000000,3,20000000/
49,140500000,3/
98,140500000,1,5/
02,071207890,122099999,3,860620,2359,,2/
03,7890654321,,010,800011,,,040,6000000,,,110,5000000/
88,4,/
49,118000000,3/
98,118000000,1,5/
99,345450000,4,31/

```

BAI2 の例

## レコード 01

レコード 01 はテーブルの開始を示す見出しレコードです。レコード 01 は送信者と受信者を表し、テーブル構造を記述します。レコード 01 はファイル監査証跡レコード (99) で終了します。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールドタイプおよびフィールド長	説明
必須	レコードコード	1	該当なし	数値 2	このフィールドの値は常に 01 です。
必須	送信者 ID	2	F09610.SGBSSID	文字列 9	フラットファイルを送信する会社または銀行。
必須	受信者 ID	3	F09610.SGBSRID	文字列 9	フラットファイルを受信する会社または銀行。
必須	ファイル作成日付	4	F09610.SGSTMD F09611.BGSTMD	数値 6	銀行残高照合表の日付 (YYMMDD 形式)。
必須	ファイル作成時刻	5	該当なし	数値 4	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールドタイプおよびフィールド長	説明
必須	ファイル ID 番号	6	F09610.SGBSTN F09611.BGBSTN	数値 15	銀行残高照合表の番号。同じ作成日付のフラットファイルの銀行残高照合表の番号は、それぞれ異なっている必要があります。
任意	物理レコード長	7	該当なし	数値 5	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	ブロックサイズ	8	該当なし	数値 5	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
必須	バージョン番号	9	該当なし	数値 1	このフィールドの値は常に 2 です。

## レコード 02

レコード 02 はグループ見出しレコードです。レコード 02 は、同じ基準日と基準時刻の銀行残高照合表のグループを表します。レコード 02 はグループ監査証跡レコード (98) で終了します。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールドタイプおよびフィールド長	説明
必須	レコードコード	1	該当なし	数値 2	このフィールドの値は常に 02 です。
任意	最終受信者 ID	2	該当なし	文字列 9	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
必須	入力者 ID	3	該当なし	文字列 9	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
必須	グループ状況	4	該当なし	数値 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
必須	基準日	5	F09611 BGVLDT	数値 6	取引の日付 (YYMMDD 形式)。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールド タイプおよびフィールド長	説明
任意	基準時刻	6	該当なし	数値 4	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	通貨コード	7	F09610 SGOCRC	文字列 3	レコード 03 の金額の通貨。通貨コードは F0013 テーブルに設定されている必要があります。
任意	基準日修飾子	8	該当なし	数値 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。

## レコード 03

レコード 03 は口座 ID と集計状況です。レコード 03 は口座番号を表し、取引活動と取引状況を示します。レコード 03 は口座監査証跡レコード (49) で終了します。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールド タイプおよびフィールド長	説明
必須	レコードコード	1	該当なし	数値 2	このフィールドの値は常に 03 です。
必須	顧客口座番号	2	F09610 SGBAN F09611 BGBAN	文字列 29	商用口座番号。この番号には、先頭にゼロを付ける必要があります。
任意	通貨コード	3	該当なし	文字列 3	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	タイプコード	4	該当なし	文字列 3	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 集計	5	F09610 SGOPBAA	数値 15、2	開始残高および終了残高。集計金額は正の値で符号は付けません。
任意	項目数	6	該当なし	数値 5	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。



必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよび フィールド	フィールドタイプおよび フィールド長	説明
任意	資金タイプ	7	該当なし	文字 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	決済日付	8A	該当なし	数値 6	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	決済時刻	9A	該当なし	数値 4	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 即時利用可能	8B	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 1 日後に利用可能	8B	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 2 日後以降に利用可能	10B	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	配賦数	8C	該当なし	数値 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能日数 1	9C	該当なし	数値 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額 1	10C	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能日数 2	11C	該当なし	数値 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額 2	12C	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能日数 3	13C	該当なし	数値 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額 3	14C	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。

## レコード 16

レコード 16 には、関連するテキストと参照番号が付いた取引明細が含まれます。レコード 16 の全てのタイプは、レコード 03 の口座番号に対応します。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールドタイプおよびフィールド長	説明
必須	レコードコード	1	該当なし	数値 2	このフィールドの値は常に 16 です。
必須	タイプコード	2	F09611 BGTRANT	数値 3	取引明細のタイプコード。このフィールドの値は UDC テーブル 09/BA に設定されている必要があります。
任意	金額 - 取引明細	3	F09611 BGAA	数値 15、2	符号なし。取引金額のタイプコードは、金額が借方であるか貸方であることを示します。
任意	資金タイプ	4	該当なし	文字 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	決済日付	5A	該当なし	数値 6	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	決済時刻	6A	該当なし	数値 4	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 即時利用可能	5B	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 1 日後に利用可能	6B	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	金額 - 2 日後以降に利用可能	7B	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールド タイプおよびフィールド長	説明
任意	配賦数	5C	該当なし	数値 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能日数 1	6C	該当なし	数値 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額 1	7C	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能日数 2	8C	該当なし	数値 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額 2	9C	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能日数 3	10C	該当なし	数値 1	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	利用可能金額 3	11C	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	銀行参照番号	5	F09611 BGBANKREF	文字列 16	銀行で定義した番号。この番号にはカンマまたはスラッシュを含めることはできません。
任意	顧客参照番号	6	F09611 BGCUSTREF	文字列 16	銀行で定義した番号。通常は、保証書番号または支払番号になります。
任意	テキスト	7	F09611BGINFO1	文字列 360	参照目的のみに使用される情報フィールドです。

## レコード 88

レコード 88 はレコード 16 の継続レコードです。レコード 16 のデータが最大物理レコード長を超えた場合や、何らかの理由でレコードを分割する必要がある場合、レコード 88 により、同じ形式でデータを継続できます。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールド タイプおよびフィールド長	説明
必須	レコードコード	1	該当なし	数値 2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
必須	継続レコードタイプの形式	2	該当なし	該当なし	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。

## レコード 49

レコード 49 は口座監査証跡レコードです。レコード 49 は口座レベルの照合合計を表します。レコード 49 には、レコード タイプ 03 の全ての金額フィールドの集計と、レコード 16 とレコード 88 の口座に関連したレコードの合計数が含まれます。レコード 49 はレコード 03 のレコードごとに設定されます。レコード 49 のフィールドは EnterpriseOne フィールドにマッピングされませんが、レコード内の情報は口座の取引の終了と残高の照合に使用されます。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールド タイプおよびフィールド長	説明
必須	レコードコード	1	該当なし	数値 2	このフィールドの値は常に 49 です。
必須	口座レベルの照合合計	2	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
必須	レコード数	3	該当なし	数値 5	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。

## レコード 98

レコード 98 はグループ監査証跡レコードです。レコード 98 はグループレベルの照合合計を表し、レコード タイプ 02 のグループ見出しに対応します。レコード 98 のフィールドは EnterpriseOne フィールドにマッピングされませんが、レコード内の情報は銀行残高照合表の終了の識別に使用されます。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよび フィールド	フィールド タイプ およびフィールド 長	説明
必須	レコードコード	1	該当なし	数値 2	このフィールドの値は常に 98 です。
必須	グループレベル の照合合計	2	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブル にマッピングしません。
必須	口座数	3	該当なし	数値 5	このフィールドは EnterpriseOne テーブル にマッピングしません。
必須	レコード数	4	該当なし	数値 5	このフィールドは EnterpriseOne テーブル にマッピングしません。

## レコード 99

レコード 99 はファイル監査証跡レコードです。レコード 99 はファイル レベルの照合合計を表し、レコード タイプ 01 のファイル見出しに対応します。レコード 99 のフィールドは EnterpriseOne フィールドにマッピングされませんが、レコード内の情報はテキスト ファイルの終了の識別に使用されます。各テキスト ファイルにはレコード 99 とレコード 01 が 1 つずつ含まれます。レコード 01 はこのテキスト ファイルの開始を表します。

必須/任意	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよび フィールド	フィールド タイプお よびフィールド長	説明
必須	レコードコード	1	該当なし	数値 2	このフィールドの値は常に 99 です。
必須	ファイルレベル の照合合計	2	該当なし	数値 15、2	このフィールドは EnterpriseOne テーブ ルにマッピングしません。
必須	グループ数	3	該当なし	数値 5	このフィールドは EnterpriseOne テーブ ルにマッピングしません。
必須	レコード数	4	該当なし	数値 5	このフィールドは EnterpriseOne テーブ ルにマッピングしません。

## F09610 テーブルから F09611 テーブルへの SWIFT フィールドのマッピング

このセクションでは、変換フロー (Swift\_To\_E1\_BankStatementStaging) により、国際銀行間通信協会 (SWIFT) 銀行フォーマットのフィールドが銀行フラット ファイルから EnterpriseOne 銀行残高照合表の経由保管場所見出しテーブル (F09610) と経由保管場所明細テーブル (F09611) にどのようにマッピングされるかについて説明します。

SWIFT 銀行フォーマットには、以下の規則が適用されます。

- ブロックの開始は “{” で区切り、ブロックの終了は “-}” で区切ります。
- ブロック内の各フィールドは “:” で囲みます。
- 各フィールドはスラッシュ (/) で区切ります。
- 小数点の代わりにカンマ (,) を使用します。
- 金額は銀行口座の通貨にします。

### ブロック

SWIFT 銀行フラット ファイルに含まれるデータはブロック単位でグループ化されます。このセクションでは、ブロック 2 とブロック 4 について説明します。ブロック 1 (基本見出し)、ブロック 3 (ユーザー見出し)、およびブロック 5 (監査証跡) のフィールドは EnterpriseOne フィールドにマッピングされないため、これらのブロックの説明は省略します。

このセクションで説明する表は、ブロック別に構成されています。各表には、SWIFT 要件に従ってフィールドが必須 (R) であるか任意 (O) であるかの情報や、変換フローによりレコード内のフィールドが EnterpriseOne フィールドにマッピングされるかどうかなどの情報が記載されています。

フィールドは SWIFT 要件によって任意になる場合があるため、このセクションの各表に記載されているフィールド位置は、テキスト ファイルの実際のフィールド位置を反映しない場合があります。たとえば、フィールド位置 1 ~ 6、11 および 12 が必須で、フィールド位置 7 ~ 10 が任意とします。ブランクのテキスト ファイルにフィールド位置 7 ~ 10 の値が含まれていない場合、フィールド位置 11 と 12 はフィールド位置 7 と 8 になり、後続のフィールド位置も同様に調整されます。

### 例: SWIFT テキスト ファイル

以下は SWIFT テキスト ファイルの例です。

```
{HD:WIRE 200303120945390000030010100000003001 0
{1:FZY5026NL95 3683031043}{2:09401003980401PEOPLESOFTX4307897219804011003N}{4:
:20:8EUTDEFFLXXX
:25:0502664959
:28C:00001/001
:60F:C980122EUR1000,00
:61:980123DR50,00NMSCNONREF
:86:TESTLINE1
:86:083?00BAR?109301/108?20EUR UMSATZ?21EUR KTO 0139 17.01 KARTE 8
:86:ENDTESTLINE1
:61:980123D60,00NMSCNONREF
:86:TESTLINE2
:86:083?00BAR?109301/108?20EC-AUTOMAT 23.1 KONSTANZ?2169070032 0139 17.00 KARTE 8?22 50 CHF KURS 124,150
:86:ENDTESTLINE2
:61:980123D30,00NMSCNONREF
:86:TESTLINE3
:86:TestLine3
:86:ENDTESTLINE3
:62F:C980126EUR860,00
:64:C980126EUR860,00
-}
```

SWIFT の例

## ブロック 2

ブロック 2 には、メッセージと銀行残高照合表の情報が含まれます。

SWIFT	フィールド記述	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよび フィールド	フィールドタイプ およびフィールド 長	説明
必須	ファイル入力/出力	1	F09610 SGFIO	文字 1	このフィールドの値は常に 2 です。
必須	メッセージタイプ	2-4	F09610 SGMESST	文字列 4	メッセージタイプ 940 のみが処理されます。
必須	メッセージの時刻	5-8	該当なし	数値 4、0	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
必須	銀行残高照合表日付	9-14	F09610 SGSTMD F09611 BGSTMD	日付 6	銀行残高照合表の日付。
必須	記述	15-60	F09610 SGDESC04	文字列 46	銀行情報の記述。

## ブロック 4

ブロック 4 には開始残高、取引金額、日付、終了残高、および予測金額が含まれます。フィールド 61 とフィールド 86 は繰り返すことができますが、フィールド 62 の前に置かれる必要があります。

SWIFT	フィールド記述	フィールド	フィールド位置	EnterpriseOne テーブル およびフィールド	フィールドタイプ およびフィールド長	説明
必須	取引参照番号	20	1-16	F09610 SGETRN	文字列 16	電子銀行残高照合表の参照番号。
必須	口座 ID	25	1-35	F09610 SGBAN	文字列 35	口座番号。
必須	残高照合表番号	28C	1-5	F09610 SGBSTN F09611 BGBSTN	数値 15	銀行残高照合表の番号。

SWIFT	フィールド記述	フィールド	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールドタイプおよびフィールド長	説明
任意	区切り文字	28C	/	該当なし	文字 1	このフィールドは順序番号がある場合のみ必須です。  このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	順序番号	28C	7-11	F09610 SGBSSEQ F09611 BGBSSEQ	数値 5	各取引の順序番号。
必須	開始残高借方/ 貸方インジケータ	60m または 60f	1	F09610 SGOBDBCR	文字 1	開始残高の借方 (D) または貸方 (C) のインジケータ。
必須	開始記帳日付	60m または 60f	2-7	F09610 SGOLVDT	日付 6	開始残高の決済日付 (YYMMDD 形式)。
必須	開始残高通貨コード	60m または 60f	8-10	F09610 SGOCRCD F09611 BGTCRCD	文字列 3	開始残高に関連付けられた 3 文字の ISO 通貨コード。
必須	開始残高金額	60m または 60f	11-25	F09610 SGOPBAA	数値 15、2	開始残高の金額。
必須	決済日付	61	1-6	F09611 BGVLDT	日付 6	銀行で取引が決済される日付 (YYMMDD 形式)。
任意	記帳日付	61	7-10	該当なし	日付 4	このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
必須	明細借方/貸方 インジケータ	61	11-12	F09611 BGDDBCR	文字列 2	借方 (D)、貸方 (C)、貸方の逆仕訳 (RC) または借方の逆仕訳 (RD) のインジケータ。



SWIFT	フィールド記述	フィールド	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールドタイプおよびフィールド長	説明
任意	通貨のタイプ	61	13	F09611 BGCURRT	文字 1	ISO 通貨コードの 3 番目の文字。
必須	取引金額	61	14–28	F09611 BGAA	数値 15、2	取引の金額。
必須	取引タイプ	61	29–32	F09611 BGTRANT	文字列 4	取引タイプの ID コード。
任意	参照	61	33–48	F09611 BGCUSTREF	文字列 16	支払や入金などの顧客参照。
必須	区切り文字	61	49–50	該当なし	/	外部銀行参照が存在する場合、このフィールドは必須です。  このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	外部銀行参照	61	51–66	F09611 BGBANKREF	文字列 16	口座管理機関の参照。
必須	区切り文字	61	67–70	該当なし	/	明細フィールド(フィールド位置 71 ~ 102)が存在する場合、このフィールドは必須です。  このフィールドは EnterpriseOne テーブルにマッピングしません。
任意	明細	61	71–102	F09611 BGSUBF9	文字列 34	補足の明細。
必須	情報行	86	全て	F09611 BGINFO1	文字列 390	情報行(65 文字使用可能)。情報行は 6 行です。
必須	終了残高借方/ 貸方インジケータ	62m または 62f	1	F09610 SGCBDBCR	文字 1	終了残高の借方(D)または貸方(C)のインジケータ。

SWIFT	フィールド記述	フィールド	フィールド位置	EnterpriseOne テーブルおよびフィールド	フィールドタイプおよびフィールド長	説明
必須	終了記帳日付	62m または 62f	2-7	F09610 SGCBDBCR	日付 6	終了残高の日付 (YYMMDD 形式)。
必須	終了通貨コード	62m または 62f	8-10	F09610 SGCCRCD	文字列 3	終了残高の 3 文字の ISO 通貨コード。
必須	終了残高金額	62m または 62f	11-25	F09610 SGCLBAA	数値 15、2	終了残高の金額。
必須	終了使用可能残高借方/貸方インジケータ	64	1	F09610 SGCADBCR	文字 1	フィールド 64 は任意ですが、使用する場合、下位フィールドは全て必須です。
必須	終了使用可能決済日付	64	2-7	F09610 SGCAVLDT	日付 6	終了使用可能残高の決済日付 (YYMMDD 形式)。
必須	終了使用可能通貨コード	64	8-10	F09610 SGCACRCD	文字列 3	終了使用可能残高の 3 文字の ISO 通貨コード。
必須	終了使用可能残高	64	11-25	F09610 SGCAVAA	数値 15、2	終了使用可能残高の金額。
必須	繰越可能残高借方/貸方インジケータ	65	1	F09610 SGFADBCR	文字 1	フィールド 65 は任意ですが、使用する場合、下位フィールドは全て必須です。
必須	繰越可能決済日付	65	2-7	F09610 SGFVLDT	日付 6	繰越可能残高の決済日付 (YYMMDD 形式)。
必須	繰越可能通貨コード	65	8-10	F09610 SGFACRCD	文字列 3	繰越可能残高の 3 文字の ISO 通貨コード。
必須	繰越可能残高	65	11-25	F09610 SGFAVAA	数値 15、2	繰越可能残高の金額。

## 付録 D

# 予算データのインポートのフィールドのマッピング

この付録では、勘定残高 - バッチ テーブル (F0902Z1) のフィールドをマッピングする方法について説明します。

## F0902Z1 テーブルのフィールドのマッピング

このセクションには、F0902Z1 テーブルのフィールドの一覧が記載されています。フィールドは以下のように分類されます。

- スプレッドシートで更新されるフィールド
- システムで更新されるフィールド

### スプレッドシートで更新されるフィールド

スプレッドシートのフィールドについて、以下の点を検討します。

- スプレッドシートの各フィールドは、前の表で指定されている文字数を超えないようにします。指定された文字数より少なくてもかまいません。
- 金額フィールドには、小数点以下の数値を含めることができます。
- マイナスで入力する場合は、一番左端の数字の前に付けます。

次の表は、[F0902Z1へのアップロード] フォームの詳細グリッドの各フィールドと、スプレッドシートの対応するセルへの入力方法を示しています。

F0902Z1 フィールド	スプレッドシートの対応するセルへの入力方法
[略式 ID] (AID)	アップロード/変換の改訂プログラム (P0902Z1) の [勘定科目コード] 処理オプションで「1」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。システムによって割り当てられた 8 桁の略式 ID を入力します。必要な場合は先頭にゼロを補って、必ず 8 桁で入力してください。
[自由形式勘定科目] (ANS)	アップロード/変換の改訂プログラムの [勘定科目コード] 処理オプションで「2」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。自由形式勘定科目は第 3 勘定科目コードと呼ばれ、通常は旧システムからの勘定科目コードの入力に使用されません。使用できる文字に制限はありません。
[勘定科目コード] (ANI)	ビジネスユニット、主科目、および補助科目 (必要な場合) を含む完全な勘定科目コードを入力します。アップロード/変換の改訂プログラムの [勘定科目コード] 処理オプションで「3」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。

F0902Z1 フィールド	スプレッドシートの対応するセルへの入力方法
[ビジネスユニット](MCU)	ビジネスユニットの番号を入力します。アップロード/変換の改訂プログラムの[勘定科目コード]処理オプションで「4」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。このフィールドは、[主科目]フィールドと[補助科目]フィールドと組み合わせて使用します。
[主科目](OBJ)	主科目コードを入力します。アップロード/変換の改訂プログラムの[勘定科目コード]処理オプションで「4」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。このフィールドは、[ビジネスユニット]フィールドと[補助科目]フィールドと組み合わせて使用します。
[補助科目]	勘定科目の補助科目を入力します。アップロード/変換の改訂プログラムの[勘定科目コード]処理オプションで「4」を入力した場合のみ、このフィールドに値を入力します。このフィールドは、[ビジネスユニット]フィールドと[主科目]フィールドと組み合わせて使用します。
[補助元帳](SBL)	勘定科目の補助元帳の値を入力します。この値は、英数字 8 文字です。
[補助タイプ](SBLT)	勘定科目の補助元帳タイプの値を入力します。この値は、英数字 1 文字です。
[転記額 01](AN01) ~ [転記額 14](AN14)	期間 1 ~ 14 の予算金額を入力します。これらのフィールドは期間別の予算のインポートに使用します。この値は、15 桁の数字です。
[当初/開始予算額](BORG)	年間予算のインポートに使用します。この値は、15 桁の数字です。
[前年度転記額](APYN)	この勘定科目に前年度の転記を入力する場合に使用します。この値は、15 桁の数字です。
[週累計転記額](AWTD)	52 期間会計を使用する場合、このフィールドに値を入力します。この値は、15 桁の数字です。
[承認予算](BAPR)	承認済みの年間予算のインポートに使用します。この値は、15 桁の数字です。
[申請予算](BREQ)	申請済みの年間予算のインポートに使用します。この値は、15 桁の数字です。
[期首残高/前年繰越](APYC)	この勘定科目の期首残高の入力に使用します。この値は、15 桁の数字です。

## システムで更新されるフィールド

以下のフィールドは自動的に入力されるため、スプレッドシートに設定する必要はありません。

- [西暦上 2 桁](CTRY)
- [会計年度](FY)

アップロード/変換プログラム (R14110) を実行すると、[西暦上 2 桁] フィールドと [会計年度] フィールドには、このプログラムの西暦上 2 桁処理オプションと会計年度処理オプションで入力した値に基づいて自動的に値が入力されます。

予算データを複数年分ロードするには、ロードする各年度のフィールドに値を入力します。次に、アップロード/変換プログラムの西暦上 2 桁処理オプションと会計年度処理オプションを設定してデータを選択し、一度に 1 年度ずつアップロードします。

たとえば、2006 年度と 2007 年度の予算データをアップロードする場合、アップロード/変換プログラムの西暦上 2 桁処理オプションを “20” に設定し、データ選択で西暦上 2 桁と会計年度をそれぞれ “20” と “06” に設定してプログラムを実行します。次に、データ選択で 2007 年度用に設定して、アップロード/変換プログラムを再度実行します。

データ選択を使用しない場合は、処理オプションの値によりスプレッドシートの会計年度と西暦上 2 桁が上書きされます。

- [会社] (CO)
- [更新日付] (UPMJ)
- [予算メモ変更] (POU)
- [予算調整] (TKER)
- [完了 %] (PC)

---

注: [表示通貨] フィールド (CROX) には、勘定科目を使用する会社の通貨が入力されます。[当初通貨] フィールド (CROD) は通常、予算元帳では空白です。

---



## 付録 E

# 受信複数サイト集計のフィールドのマッピング

この付録では、以下の受信複数サイト集計テーブルのフィールドをマッピングする方法について説明します。

- 未編集の複数サイト集計インタオペラビリティ見出しテーブル (F1001Z1)
- 未編集の複数サイト集計インタオペラビリティ詳細テーブル (F1002Z1)

## F1001Z1 テーブルのフィールドのマッピング

このセクションには、F1001Z1 テーブルのフィールドの一覧が記載されています。これらのフィールドは、必須フィールド、任意フィールド、および無視されるフィールド別にグループ化されています。

### F1001Z1 の必須フィールド

これらのフィールドは F1001Z1 で必須です。一部のフィールドでは、ブランクが値になります。

これらのフィールドの一部は、F1001Z1 テーブルから複数サイト集計の転送ファイル見出しテーブル (F1001) への集計情報の転送を識別または制御するために使用されます。その他のフィールドの値は、F1001 テーブルに書き込まれます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザー ID	IAEDUS	文字	10	プロセスを実行しているユーザーのユーザー ID、または転送に関するワークフローメッセージの受信者のユーザー IDを入力します。このフィールドは、IAEDBT および IAEDTN と組み合わせて、特定のトランザクションを一意に識別します。
EDI-バッチ番号	IAEDBT	文字	15	処理するトランザクションをグループ化する番号を入力します。このフィールドは、IAEDUS および IAEDTN と組み合わせて、特定のトランザクションを一意に識別します。
EDI-トランザクション番号	IAEDTN	文字	22	トランザクションを識別する番号を入力します。このフィールドは、F1002Z1 の SZRC5 と組み合わせて、トランザクションの特定の行を一意に識別します。また、IAEDUS および IAEDBT と組み合わせて、特定のトランザクションを一意に識別します。
送受信インジケータ	IADRIN	文字	1	外部システムによってレコードが書き込まれたことを示す値を入力します。受信トランザクションでは、このフィールドの値は "1" です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション アクション	IATNAC	文字	1	トランザクションが処理されるように、「A」を入力します。その他の値は無効です。
EDI-処理済み	IAEDSP	文字	1	このフィールドには自動的に値が入力されるため、ブランクにします。“N”は、トランザクションが処理されずにエラーが発生したことを示します。トランザクションが正常に処理されると、このフィールドの値は“Y”に変更されます。
集計名	IACNAM	文字	3	集計の名前を入力します。この値はUDCテーブルに設定されている必要があります。
会計期間-総勘定元帳	IAPN	数字	2	総勘定元帳に取引が記録された期間を入力します。
会計年度	IAFY	数字	2	会計年度の下2桁を入力します。
西暦上2桁	IACTRY	数字	2	会計年度の最初の2桁を入力します。
元帳タイプ	IALT	文字	2	取引の元帳タイプを入力します。この元帳タイプはUDC 09/LTに設定されている必要があります。このフィールドをブランクにすると、元帳タイプAAが使用されます。
伝票会社	IACO	文字	5	取引会社を入力します。入力する会社はF0010テーブルに設定されている必要があります。

### F1001Z1 の任意フィールド

これらのフィールドは、F1001Z1 テーブルで任意です。これらのフィールドは、複数サイトの集計処理に必須ではありません。これらのフィールドの値は、F1001 テーブルに書き込まれますが、複数サイトの集計プログラムによって使用されることはありません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
カテゴリコード ファイル送信済み	IACCSE	文字	1	この集計で複数サイト集計の転送ファイル-カテゴリコードテーブル (F1003) が作成されたかどうかを示す値を入力します。有効な値は以下のとおりです。 ブランクまたは 0: テーブルは作成されていません。 1: テーブルが作成されています。
EDI-行番号	IAEDLN	数字	7	集計処理には使用されません。
EDI-伝票タイプ	IAEDCT	文字	2	集計処理には使用されません。
トランザクション タイプ	IATYTN	文字	8	集計処理には使用されません。
EDI-変換フォーマット	IAEDFT	文字	10	集計処理には使用されません。



フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 転送日付	IAEDDT	日付	6	集計処理には使用されません。
EDI - 処理済み 明細行数	IAEDDL	数字	5	集計処理には使用されません。
取引先 ID	IAPNID	文字	15	集計処理には使用されません。
ファイル転送状 況	IATRFG	文字	1	集計処理には使用されません。
転送済みレコー ド数	IATRSE	数字	15	集計処理には使用されません。
日付 - 送信	IADTSE	日付	6	集計処理には使用されません。
受信レコード数	IATRRRC	数字	15	集計処理には使用されません。
日付 - 受信	IADTRI	日付	6	集計処理には使用されません。
前期間調整	IAIN01	文字	1	集計処理には使用されません。
借方 = 貸方	IAIN02	文字	1	集計処理には使用されません。
ソース UDC = ターゲット UDC	IAIN03	文字	1	集計処理には使用されません。
ソース主科目/ 補助科目 = ター ゲット主科目/補 助科目	IAIN04	文字	1	集計処理には使用されません。
今月ではなく前 月の勘定科目	IAIN05	文字	1	集計処理には使用されません。
今月ではなく前 月のビジネスユ ニット	IAIN06	文字	1	集計処理には使用されません。
前月ではなく今 月の勘定科目	IAIN07	文字	1	集計処理には使用されません。
前月ではなく今 月のビジネスユ ニット	IAIN08	文字	1	集計処理には使用されません。
整合性制御状況 9	IAIN09	文字	1	集計処理には使用されません。
整合性制御状況 10	IAIN10	文字	1	集計処理には使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
整合性制御状況 11	IAIN11	文字	1	集計処理には使用されません。
整合性制御状況 12	IAIN12	文字	1	集計処理には使用されません。

### F1001Z1 の無視されるフィールド

次の表に示すフィールドは無視されます。これらのフィールドの値は使用されません。また、F1001 テーブルに書き込まれません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
ユーザー用参照欄	IAURRF	文字	15
ユーザー用確保コード	IAURCD	文字	2
ユーザー用確保コード	IAURC1	文字	3
ユーザー用確保コード	IAURC2	文字	10
ユーザー予約金額	IAURAT	数字	15
ユーザー予約番号	IAURAB	数字	8
トランザクション入力者	IATORG	文字	10

## F1002Z1 テーブルのフィールドのマッピング

このセクションには、F1001Z1 テーブルのフィールドの一覧が記載されています。これらのフィールドは、必須フィールド、任意フィールド、および無視されるフィールド別にグループ化されています。

### F1002Z1 の必須フィールド

これらのフィールドは、F1002Z1 テーブルで必須です。一部のフィールドでは、ブランクが値になります。これらのフィールドの一部は、F1002Z1 テーブルから F1002 テーブルへの集計情報の転送を識別または制御するために使用されます。その他のフィールドの値は、F1002 テーブルに書き込まれます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザー ID	SZEDUS	文字	10	プロセスを実行しているユーザーのユーザー ID、または転送に関するワークフローメッセージの受信者のユーザー IDを入力します。このフィールドは、SZEDBT および SZEDTN と組み合わせて、特定のトランザクションを一意に識別します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI- バッチ 番号	SZEDBT	文字	15	処理するトランザクションをグループ化する番号を入力します。このフィールドは、SZEDUS および SZEDTN と組み合わせ、特定のトランザクションを一意に識別します。
EDI- トラン ザクション番 号	SZEDTN	文字	22	トランザクションを識別する番号を入力します。このフィールドは、SZRC5 と組み合わせ、各トランザクションを区別します。また、SZEDUS および SZEDBT と組み合わせ、特定のトランザクションを一意に識別します。
ファイル行 ID	SZRC5	数字	5	SZEDTN と組み合わせ各トランザクションの行番号を識別する値を入力します。
送受信インジ ケータ	SZDRIN	文字	1	外部システムによってレコードが書き込まれたこと示す値を入力します。受信トランザクションの場合は、「1」を入力します。
アクション コード	SZTNAC	文字	1	トランザクションが処理されるように、「A」を入力します。その他の値は無効です。
EDI- 処理済 み	SZEDSP	文字	1	このフィールドには自動的に値が入力されるため、ブランクにします。“0” は、トランザクションが処理されずにエラーが発生したことを示します。トランザクションが正常に処理されると、このフィールドの値は“1”に変更されます。
ビジネスユ ニット	SZMCU	文字	12	取引のビジネスユニットを入力します。この値は、勘定科目構造で定義されている形式で入力する必要があります。
主科目	SZOBJ	文字	6	取引の主科目を入力します。この値は、勘定科目構造で定義されている形式で入力する必要があります。
補助科目	SZSUB	文字	8	取引の補助科目を入力します。この値は、勘定科目構造で定義されている形式で入力する必要があります。
記述	SZDL01	文字	30	勘定科目の記述を入力します。

### F1002Z1 の任意フィールド

これらのフィールドは、F1002Z1 テーブルで任意です。これらのフィールドは、複数サイトの集計の処理に必須ではありません。これらのフィールドの値は、F1002 テーブルに書き込まれますが、複数サイトの集計プログラムによって使用されることはありません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
補助元帳	SZSBL	文字	8	取引の補助元帳を示す値を入力します。このフィールドに入力する場合は、補助元帳タイプ (SZSBLT) の値も入力する必要があります。
補助元帳タ イプ	SZSBLT	文字	1	取引の補助元帳タイプを示す値を入力します。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 00/ST に設定されている必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
通貨コード(開始)	SZCRCD	文字	3	取引の通貨を識別するコードを入力します。このフィールドの値は、F0013 テーブルに設定されている必要があります。
通貨コード(指定)	SZCRCX	文字	3	取引の通貨を示すコードを入力します。このフィールドの値は、F0013 テーブルに設定されている必要があります。
金額 - 期首 残高/前年繰 越	SZAPYC	数字	15	前年度以前の累積残高を入力します。この金額は、貸借対照表の期首残高および作業原価勘定の期首残高として使用されます。
金額 - 転記 額 01 ~ 金額 - 転記 額 14	SZAN01 - SZAN14	数字	15	指定会計期間中に転記された正味金額を入力します。これらのフィールドは、会計期間 01 ~ 14 を表し、F0010 テーブルの会計期間が使用されます。各期間の転記額は、期間の開始日付から終了日付までの借方金額と貸方金額の合計です。
金額 - 前年 度転記額	SZAPYN	数字	15	前年度からの転記額を入力します。この値は、損益計算書での比較に使用されます。
金額 - 過累 計	SZAWTD	数字	15	集計処理には使用されません。
金額 - 当初/ 開始予算額	SZBORG	数字	15	集計処理には使用されません。
申請予算	SZBREQ	数字	15	集計処理には使用されません。
承認予算	SZBAPR	数字	15	集計処理には使用されません。

## F1002Z1 の無視されるフィールド

次の表に示すフィールドは無視されます。これらのフィールドの値は使用されません。また、F1002 テーブルに書き込まれません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
ユーザー用参照欄	SZURRF	文字	15
ユーザー用確保コード	SZURCD	文字	2
ユーザー用確保コード	SZURC1	文字	3
ユーザー用確保コード	SZURC2	文字	10
ユーザー予約金額	SZURAT	数字	15
ユーザー予約番号	SZURAB	数字	8
トランザクション入力者	SZTORG	文字	10

## 付録 F

# EnterpriseOne 一般会計の標準ワークフロー

この付録では、EnterpriseOne 一般会計の標準ワークフローについて説明します。

### 関連項目:

PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Workflow Tools

---

## EnterpriseOne 一般会計の標準ワークフロー

このセクションでは、EnterpriseOne 一般会計の標準ワークフローについて説明します。

### 仕訳のバッチ承認

このセクションでは、仕訳のバッチ承認ワークフローについて説明します。

#### 説明

ワークフローの概要	入力権限を付与されているユーザーが仕訳を作成すると、指定されたバッチ承認者にワークフローメッセージが送信されます。承認者がバッチ状況をA(承認済み)に変更しないとバッチ状況はP(保留)のままで、バッチを転記することができません。
ワークフロートリガ	入力権限を付与されているユーザーによる仕訳バッチの作成。
ワークフローアクション	承認者はワークフローメッセージを受け取り、バッチを承認します。承認者がワークセンターでメッセージを選択すると、[バッチの処理]フォームが表示されます。承認者はバッチを確認し、[ロー]メニューの[バッチ承認]をクリックしてバッチを承認します。

#### ワークフロー オブジェクト

システム	09
ワークフロー オブジェクト名	JDEBCHAPPR
オブジェクトID	W0911A
イベント記述/関数名	Post ボタンがクリックされました。
順序/行番号	140

## 経費精算書の承認経路

このセクションでは、経費精算書の承認経路のワークフローについて説明します。

### 説明

ワークフローの概要	ユーザーが経費精算書を提出すると、監査人または管理者にワークフローメッセージが送信されます。この監査人または管理者は、経費精算書の承認経路設定規則で指定された承認者です。
ワークフロートリガ	ユーザーによる経費精算書の提出。
ワークフローアクション	承認者はワークフローメッセージを受け取り、経費精算書を承認します。承認者がワークセンターでメッセージを選択すると、経費精算書の承認フォームが表示されます。承認者は、このフォームで経費精算書の検討と承認を行います。

### ワークフロー オブジェクト

システム	09
ワークフロー オブジェクト名	EXPROUTING
オブジェクトID	N09E0008
イベント記述/関数名	StartWorkflowProcess
順序/行番号	61

## 付録 G

# EnterpriseOne 一般会計レポート

(注: 日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています)

この付録では、一般会計レポートの概要について説明し、以下の情報を提供します。

- 一般会計の全レポートの一覧表
- 一般会計レポートの詳細

---

## 一般会計レポート

このセクションでは、以下のレポート カテゴリの概要を説明します。

- 仕訳帳レポート
- 試算表レポート
- カテゴリ コード レポート
- 総勘定元帳レポート

この付録で説明する一般会計レポートのほとんどは、上記のレポート カテゴリのいずれかに分類されます。

### 仕訳帳レポート

通常、仕訳の検討はオンラインで行います。ただし、詳細な分析が必要な場合は、仕訳帳を印刷した方が作業しやすくなります。特に、貸借不一致状況の解決には、印刷した仕訳帳レポートが有効です。未転記仕訳のみ、または転記済み仕訳と未転記仕訳が混在する仕訳帳を印刷することができます。全ての仕訳帳は、F0911 テーブルから取引を印刷します。

多通貨を使用している場合、外貨建て取引に対して CA の外貨建て金額と AA の国内金額の両方が印刷されます。

仕訳帳レポートの処理時間は、F0911 テーブルのレコード数によって異なります。

### 試算表レポート

試算表レポートは、個別の勘定科目残高や元帳全体の正確性を検証する必要がある場合に役立ちます。貸借不一致がある場合、このレポートを検討して問題を特定することが可能です。たとえば、試算表レポートを使用して貸借不一致が発生している期間を調べることができます。また、試算表の借方合計と貸方合計を分析することもできます。試算表レポートは、F0902 テーブルの情報を 사용합니다。

試算表レポートを使用して、累計残高の情報を検討することができます。借方/貸方形式の試算表では、借方と貸方の合計を検討できます。どのレポートも、現行会計期間や、勘定残高テーブルに保存されている過去の会計年度や会計期間に関する情報を印刷できます。

## カテゴリ コード レポート

勘定科目表で勘定科目にカテゴリコード 21 ～ 43 を割り当てている場合、特定のカテゴリコードに関連する全ての勘定科目のデータを印刷することができます。

ヨーロッパや中国では、事業で使用するべき勘定科目コードのガイドラインが政府により定められています。このガイドラインに対応するため、1 つ以上の代替勘定科目コードをカテゴリコード 21 ～ 23 に割り当てることができます。コード（この場合は法定勘定科目コード）は 10 文字までと規定されているため、これらのカテゴリコードが使用されます。必要に応じて、同じカテゴリコードを複数の勘定科目に割り当てることもできます。

レポートでは、カテゴリコードは法定勘定科目コード、カテゴリコード記述は勘定科目名を表します。同じ法定勘定科目コードに関連付けられた複数の勘定科目を集計し、法定勘定科目番号と法定勘定科目名を一覧表示できます。

## 総勘定元帳レポート

総勘定元帳レポートには、勘定取引に関する詳細な情報が印刷されます。個別の勘定科目内の取引の検討、問題の調査、勘定科目の正確性の検証などが必要な場合に、これらのレポートを使用します。

総勘定元帳レポートでは、AAI（自動仕訳）項目 GLG6 と GLG12 を使用して、損益計算書勘定の勘定科目範囲（開始勘定科目と終了勘定科目）を決定します。

総勘定元帳レポートでは、印刷する金額を年累計と現行期間合計から選択できます。また、特定の伝票タイプ（買掛伝票や仕訳入力など）をレポートに含めることもできます。

## 一般会計の全レポート

次の表は、一般会計の全レポートの一覧です。

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション
R00650 ビジネスユニット別補足データ	ビジネスユニットに設定されている補足データを印刷します。	[ビジネスユニット補足データ] (G09312)、[ビジネスユニット別データ]
R09205P 勘定科目マスターレポートのカテゴリコード 01-23	勘定科目表の勘定科目でカテゴリコード 01-23 に関連するものを印刷します。	[財務レポート] (G75C09)、[勘定科目マスターレポートのカテゴリコード 01-23]
R09206 勘定科目マスターレポートのカテゴリコード 24-33	勘定科目表の勘定科目でカテゴリコード 24-33 に関連するものを印刷します。	[財務レポート] (G75C09)、[勘定科目マスターレポートのカテゴリコード 24-33]



レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション
R09207 勘定科目マスターレポートのカテゴリコード 34-43	勘定科目表の勘定科目でカテゴリコード 34-43に関連するものを印刷します。	[財務レポート](G75C09)、[勘定科目マスターレポートのカテゴリコード 34-43]
R09301 仕訳帳(未転記) 現金主義会計未転記レポート	未転記取引を印刷します。	[仕訳入力、レポート、照会](G0911)、 [仕訳帳(未転記)]  [現金主義会計](G09314)、[未転記レポート]
R09301 仕訳帳(バッチ別)	転記済み仕訳と未転記仕訳をバッチ番号順に印刷します。	[仕訳入力、レポート、照会](G0911)、 [仕訳帳(バッチ別)]
R09311 仕訳帳(勘定科目別)	転記済み取引と未転記取引を勘定科目別に印刷します。勘定科目コード別の合計も計算します。	[仕訳入力、レポート、照会](G0911)、 [仕訳帳(勘定科目別)]
R09321 取引仕訳	元帳日付範囲内の取引を印刷します。請求書と買掛伝票の貸借一致仕訳となる借方金額と貸方金額を印刷します。	[レポートおよびオンライン照会](G0912)、[取引仕訳]
R09410 試算表	ビジネスユニット別に勘定残高を印刷します。ビジネスユニット別に勘定残高を分析し、ビジネスユニットの合計を取得する場合に使用します。このレポートには詳細レベル集計用の処理オプションがあります。	[レポートおよびオンライン照会](G0912)、[試算表]
R094121 試算表(主科目別)	全てのビジネスユニットの勘定残高を印刷します。このレポートを使用して、全ての現金勘定など類似する主科目を検討し、各主科目グループの合計を取得します。	[レポートおよびオンライン照会](G0912)、[試算表(主科目別)]
R09420 総勘定元帳(ビジネスユニット別)	特定のビジネスユニット内の取引を主科目別に印刷します。	[レポートおよびオンライン照会](G0912)、[総勘定元帳(ビジネスユニット別)]
R09421 総勘定元帳(主科目別)	全てまたは複数のビジネスユニットの取引を印刷します。  このレポートでは、取引が勘定科目別に一覧表示されます。このレポートを使用して、全てまたは複数のビジネスユニットの特定の勘定科目を検討したり、各グループの勘定科目合計を取得します。	[レポートおよびオンライン照会](G0912)、[総勘定元帳(主科目別)]
R09422 総勘定元帳(補助元帳合計)	取引合計を補助元帳別に印刷します。オンラインで試算表(補助元帳別)プログラムを実行すると、同じ情報が表示されます。	[レポートおよびオンライン照会](G0912)、[総勘定元帳(補助元帳合計)]

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション
R09423 主科目別取引	指定した会社の各主科目について選択した期間全体の勘定残高と転記済み取引を印刷します。	[レポートおよびオンライン照会] (G0912)、[主科目別取引]
R09424 補助科目別取引	全ての主科目と補助科目について選択した期間全体の勘定残高と転記済み取引を印刷します。	[レポートおよびオンライン照会] (G0912)、[補助科目別取引]
R09451 勘定科目合計(仕入先/顧客別)	顧客や仕入先ごとの残高を主科目別に印刷します。	[レポートおよびオンライン照会] (G0912)、[勘定科目合計(仕入先/顧客別)]
R09470 総勘定元帳(カテゴリコード別)	カテゴリコード 21 ~ 43 に割り当てられた勘定科目の勘定残高を印刷します。	[レポートおよびオンライン照会] (G0912)、[総勘定元帳(カテゴリコード別)]
R09472 カテゴリコード別試算表(借方/貸方形式)	カテゴリコード 21 ~ 43 に割り当てられた勘定科目の勘定残高を含む試算表を印刷します。このレポートを使用して、貸方と借方の合計を確認したり、多国籍企業や法定会計のレポートに使用する勘定科目表を補足します。	[レポートおよびオンライン照会] (G0912)、[試算表(カテゴリ・コード別) - 借方/貸方形式]
R09473 主科目別試算表(借方/貸方形式)	特定の元帳の各勘定科目について借方合計と貸方合計の金額を印刷します。  損益計算書勘定の現行残高には、前年度の残高は含まれません。損益計算書勘定の開始日以降累計額を計算するには、現行残高に過去の全ての年度末残高を加算します。	[レポートおよびオンライン照会] (G0912)、[試算表(主科目別) - 借方/貸方形式]
R11C750 現金主義会計整合性レポート	指定した期間の現金主義会計仕訳を印刷します。貸借不一致の勘定科目を示す例外レポートが作成されます。元帳 AA と AZ の間では、現金勘定のみが貸借一致になります。	[現金主義会計](G09314)、[整合性テスト]
R11C760 現金主義会計監査レポート	取引レベルでの現金主義会計仕訳に関する情報を印刷します。このレポートは、伝票の転記状況や貸借一致状況を判断する際の強力な検索ツールになります。貸借が一致しない現金主義会計仕訳は、“貸借不一致”というメッセージで識別されます。	[現金主義会計](G09314)、[監査レポート]

## Localizations Reports

This table includes a summary of the General Accounting reports for localizations:

Report ID and Report Name	Description	Navigation
R09404 (ITA) G/L Registration Report	Prints a list of the general ledger transactions for each month in chronological and sequential order	Italian Reports (G093152), G/L Registration Report
R09473 (FRA, ITA, USA) Debit/Credit T/B by Object	Verifies the accuracy of transactions in individual account ledgers. When all of the transactions are accurate, the totals in this report equal the totals in the G/L reports and the G/L Registration report (R09404).	Accounting Reports & Inquiries (G0912), Debit/Credit T/B by Object  French Reports (G093151), T/B by Object and Subsidiary  Italian Reports (G093152), T/B by Object & Subsidiary.
R70470 (ESP, FRA, ITA) G/L by Category Code	Validates information in legal reports and can be used as the basis for internal auditing. You can also use the report as a basis for external auditing by a third-party, such as a fiscal authority or auditing firm.	Spanish Reports (G74S09), G/L by Category Code  French Reports (G093151), G/L by Category Code  Italian Reports (G093152), G/L by Category Code
R70472 (FRA, ITA) T/B by Category Code	Verifies the accuracy of transactions in individual account ledgers. When all of the transactions are accurate, the totals in this report equal the totals in the General Ledger report and the General Ledger Registration report.	French Reports (G093151), T/B by Category Code  Italian Reports (G093152), T/B by Category Code
R7409C1 (ESP, FRA, ITA) G/L by Object and Subsidiary	Validates information in legal reports and can be used as the basis for internal auditing. You can also use this report as a basis for external auditing by a third-party, such as a fiscal authority or auditing firm.	Spanish Reports (G74S09), G/L by Object and Subsidiary  French Reports (G093151), G/L by Object and Subsidiary.  Italian Reports (G093152), G/L by Object and Subsidiary.
R7409C3 (FRA, ITA) T/B by Object and Subsidiary	Verifies the accuracy of transactions in individual account ledgers. When all of the transactions are accurate, the totals in this report equal the totals in the General Ledger report and the General Ledger Registration report.	French Reports (G093151), T/B by Object and Subsidiary.  Italian Reports (G093152), T/B by Object and Subsidiary.

Report ID and Report Name	Description	Navigation
R7409C5 (FRA) General Journal	<p>Prints transactions chronologically by the date when the entries were posted to the general ledger. Within the same date, the entries are ordered by:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Time when the entries are entered or posted</li> <li>• Type of transaction, such as purchase, sale, and miscellaneous expense</li> <li>• Account number order</li> </ul>	French Reports (G093151), General Journal.
R74P9010 (POL) GL Trial Balance by Object	Lists information about transaction posted to the general ledger.	General Ledger (G74P09), GL Trial Balance by Obj
R74P9015 (POL) GL Trial Balance by Category Code	Prints the same information as the General Ledger by Object report, but it presents information by category code instead of object account.	General Accounting (G74P09), GL Trial Balance by Category Code
R74P9020 (POL) Transaction Journal	Lists all journal entries and assigns a register number to them by company and fiscal year.	General Ledger (G74P09), GL Transaction Journal
R74P9030 (POL) Bank Register	Lists bank transactions.	General Ledger (G74P09), Bank Register
R74S490 (ESP) G/J by Obj. Account or Cat. Code – Spain	Prints a general journal of all transactions to submit to the Mercantile Registration at the close of each fiscal year. The transactions are marked with a register number and are reported chronologically. The summarized report includes credit and debit totals for each object and subledger account and period. The detail report includes credit and debit amounts for each transaction.	Spanish Reports (G74S09), G/J by Obj. Account or Cat. Code – Spain
R74S560 (ESP) G/L by Obj. Account – Spain	<p>Prints detailed information about account transactions. You can use the report to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Review transactions within individual accounts.</li> <li>• Research accounts that are out of balance.</li> <li>• Verify account accuracy.</li> </ul>	G/L Reports – Spain (G74S09), G/L by Obj. Account – Spain

Report ID and Report Name	Description	Navigation
R74S570 (ESP) T/B by Obj. Account	Prints total debit and credit amounts for each account in any given ledger.	Spanish Reports (G74S09), T/B by Obj. Account
R74U0137 (GBR) End of Year Return CIS36	Generates an annual report that summarizes payments and deductions made during the tax year to all CIS subcontractors, regardless of the card or certificate that they hold. You can use the data selection to select subcontractors who hold specific cards or certificates, or you can select all subcontractors.	Periodic Processing (G74U0220), End of Year Return CIS36
R74U137A (GBR) End of Year Return CIS36 – CIS4	Generates an annual report that summarizes payments and deductions made during the tax year to CIS subcontractors who hold CIS4 registration cards.	Periodic Processing (G74U0220), End of Year Return CIS36 – CIS4
R74U0137B (GBR) End of Year Return CIS36 – CIS5	Generates an annual report that summarizes payments and deductions made during the tax year to CIS subcontractors who hold CIS5 construction tax certificates.	Periodic Processing (G74U0220), End of Year Return CIS36 – CIS5
R74U0137C (GBR) End of Year Return CIS36 – CIS6	Generates an annual report that summarizes payments and deductions made during the tax year to CIS subcontractors who hold CIS6 subcontractor tax certificates.	Periodic Processing (G74U0220), End of Year Return CIS36 – CIS6
R76321B (BRA) Transaction Journal	Lists and totals all of the journal entries in the Journal Entry Book by company, day, and accounting period. The system prints an ending balance for each page and carries that balance forward to the next page so that each page of the journal can stand alone.	G/L Report – Brazil (G76B09), Transaction Journal
R76B09410 (BRA) Four Columns Trial Balance	Prints a trial balance report that shows total debits and credits for each account.	G/L Reports – Brazil (G76B09), Four Columns Trial Balance
R76B420 (BRA) General Ledger	Lists all transactions by company and general ledger account for a specific accounting period. The report includes all general ledger accounts with a post edit code, even if the amount for the account is zero.	G/L Reports – Brazil (G76B09), General Ledger

Report ID and Report Name	Description	Navigation
R76C0911 (COL) General Journal by Category Code 21, 22, 23	Prints balance information for category 21, 22, or 23. This report is useful for statutory accounting.	Fiscal Books by Category Code (G76C15), General Journal by Category Code 21, General Journal by Category Code 22, or General Journal by Category Code 23
R76C0911A (COL) General Ledger by with Total by Object Account	Prints a daily book that has been developed according to the DIAN reports requirements.	Fiscal Books without Category Code (G76C152), G/L with Total by Object Account
R76C094 (COL) Inventory and Balance Sheet by Category Code	Generates the inventory and balance fiscal book by category code.	Fiscal Books by Category Code (G76C15), Inventory and Balance by Category Code
R76C094B (COL) Inventory and Balance Sheet by Object Account	Generates the inventory and balance fiscal book by account.	Fiscal Books without Category Code (G76C152), Inventory and Balance by Object Account
R76C0941 (COL) Trial Balance by Category Code	Prints a report if the PUC is assigned category code 21, 22, or 23 in the chart of accounts.	Fiscal Books by Category Code (G76C15), Trial Balance by Category Code
R76C09411 (COL) Debits and Credits T/B by Object Account	Prints a general ledger report by account and has been developed according to DIAN reports requirements.	Fiscal Books without Category Code (G76C152), Debits and Credits T/B by Object Account
R76C094211 (COL) G/L with Subledger Totals	Prints only subledgers with activity during the specified period.	Fiscal Books by Category Code (G76C15), G/L with Subledger Totals
R76C9415B (COL) Daily Book by Complete Document	Prints a general ledger report with debit and credit amounts. Print this report to satisfy the DIAN (Direccion de Impuestos y Aduanas Nacionales de Colombia) requirements of producing a report showing all accounting transactions with matching documents.	Fiscal Books without Category Code (G76C152), Daily Book by Complete Document
R76C9422 (COL) G/L by Object Account with Subledger Total	Prints a general ledger report with subledger totals and has been developed according to the DIAN reports requirements.	Fiscal Books without Category Code (G76C152), G/L by Object Account with Subledger Total
R76H9001 (CHL and PER) Account Balance by Object Account	Lists all accumulated balances for a fiscal period by object account.	General Accounting (G76H09) or General Accounting (G76P09), Account Balance by Object Account

Report ID and Report Name	Description	Navigation
R76H9003 (CHL and PER) Print G/L Journal and Assign Legal Number	Lists all journal entries for a specific period and assigns the legal number to each entry.	General Accounting (G76H09) or General Accounting (G76P09), General Journal
R76H9005 (CHL and PER) Print Number (folio) Blank Pages	Prints legal company information, report heading titles, and page numbers, based on processing option settings.	General Accounting (G76H09) or General Accounting (G76P09), Print Number (folio) Blank Pages
R76H9421 (CHL and PER) Account Ledger by Object Account	Lists all transactions for a specific period by object account.	General Ledger (G76H09) or General Accounting (G76P09), Account Ledger by Object Account
R76P9470 (CHL and PER) Account Ledger by Category Code	Lists all transactions for a specific period by category code.	General Ledger (G76H09) or General Accounting (G76P09), Account Ledger by Category Code

## 一般会計レポートの詳細

一部のレポートについて、処理オプションの情報などをより詳細に説明します。この付録では、レポート ID 順に説明します。

### R00650 – ビジネスユニット別データ

ビジネスユニットに設定されている補足データを印刷します。

### ビジネスユニット別データ (R00650) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 汎用テキスト

##### 汎用テキスト オプション

レポートに汎用テキストを印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: テキストを印刷します。

1: テキストを印刷しません。

#### 補足データベース

##### 補足データベース コード

レコードを印刷する補足データベース コードを入力します。ブランクにした場合、ビジネスユニットのレコードが印刷されます。

### R09205P、R09206、R09207 – 勘定科目マスター レポート

勘定科目が適切なカテゴリ コードに関連付けられているかどうかの判断に使用します。

- R09205P - 勘定科目マスター レポートのカテゴリ コード 01-23
- R09206 - 勘定科目マスター レポートのカテゴリ コード 24-33
- R09207 - 勘定科目マスター レポートのカテゴリ コード 34-43

## 勘定科目マスター レポート (R09205P、R09206、R09207) の処理オプション

勘定科目マスター レポート カテゴリ コード 01-23 (R09205P)、24-33 (R09206)、34-43 (R09207) の処理オプションは同じです。

### 印刷制御

情報の印刷方法を指定します。

- 1. 第 3 勘定科目コード**  
レポートに第 3 勘定科目コード (データ項目 ANS) を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
ブランク: 第 3 勘定科目コード (自由形式勘定科目コード) を印刷しません。  
1: 第 3 勘定科目コードを印刷します。
- 2. ビジネスユニット名**  
勘定科目印刷対象のビジネスユニットを変更する際に、勘定科目に関連するビジネスユニットの記述を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。  
ブランク: ビジネスユニット名を印刷しません。  
1: ビジネスユニット名を印刷します。

## R09301 - 仕訳帳 (未転記)、仕訳帳 (バッチ別)、現金主義会計未転記レポート

仕訳帳 (未転記)、仕訳帳 (バッチ別)、および現金主義会計未転記レポートは、総勘定元帳に転記する前に仕訳入力取引を分析するための仕訳帳レポートを印刷します。転記済み取引と未転記取引の両方をバッチ別に印刷できます。各バッチの伝票番号別および伝票タイプ別に合計が印刷されます。

### 現金主義会計未転記レポート

仕訳帳: 現金主義会計仕訳のデモ バージョンを実行します。このバージョンでは、データ選択は “元帳タイプ = AZ”、“転記コード = ブランク” に設定されています。

現金主義会計未転記レポートの処理時間は、未転記バッチの量によって異なります。現金主義取引をオンラインで検討することもできます。オンラインでは、短時間でより柔軟な検討が可能です。ただし、検証用の監査証跡が必要な場合や貸借不一致がある場合に詳細な分析を行うには、レポートが有効です。

### 現金主義会計未転記レポートのデータ選択とデータ順序

データ選択は追加できますが、データ順序を変更することはできません。データ順序を変更すると、レポートの合計金額が正しく計算されない可能性があります。

## 仕訳帳 (未転記) と現金主義会計未転記レポート (R09301) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。



## 勘定科目形式

勘定科目	勘定科目を印刷する形式を指定します。有効値は以下のとおりです。
	1: 勘定科目コード
	2: 略式 ID
	3: 第 3 勘定科目
	4: 入力したコード

## 数量

数量	数量を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。
	ブランク: 数量を印刷しません。
	1: 数量を印刷します。

## R09311 – 仕訳帳（勘定科目別）

転記済み取引と未転記取引の両方を勘定科目別に印刷できます。合計が勘定科目コード別に印刷されます。

## 仕訳帳（勘定科目別）(R09311) の処理オプション

勘定科目別仕訳帳の処理オプションは、未転記仕訳帳の処理オプションと同じです。

参照: 付録 G、「EnterpriseOne 一般会計レポート」、「仕訳帳（未転記）と現金主義会計未転記レポート (R09301) の処理オプション」、570ページ

## R09321 – 取引仕訳

元帳日付範囲内の取引を検討するには、取引仕訳を印刷します。請求書と買掛伝票の貸借一致仕訳となる借方金額と貸方金額が印刷されます。このレポートは、転記プログラムのロジックを使用して、売掛管理や買掛管理、税金などの当初仕訳と相手科目を印刷します。

売掛管理と買掛管理の固定情報で集計方式に “S”（支払項目別）を設定した場合のように、取引仕訳レポートでは 1 つの仕訳に対する複数の相手科目の金額を 1 つに集計して表示します。このレポートには AA 元帳金額のみが記載され、会社間決済は含まれません。

## 取引仕訳 (R09321) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 1. 開始日付、2. 終了日付 | レポートに印刷するレコードを F0911 から選択する際に使用する元帳日付範囲の開始日付と終了日付を指定します。 |
|-----------------|--|

### 印刷

- |              |  |
|--------------|--|
| 1. GLR3 参照番号 | 参照 3 (GLR3) フィールドをレポートに印刷するかどうかを指定します。GLR3 フィールドには、手動の銀行残高調整プロセスで割り当てられる調整番号 |
|--------------|--|

か、銀行残高照合プロセスで割り当てられる銀行残高照合表番号のいずれかが入ります。有効値は以下のとおりです。

ブランク:GLR3 フィールドをレポートに印刷しません。

1: GLR3 フィールドをレポートに印刷します。

- 2. カテゴリ コード 21 ~ 23** 勘定科目コードの印刷に使用する代替勘定科目表を指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:“ビジネスユニット.主科目.補助科目”の勘定科目形式を印刷します。

21: カテゴリ コード 21 を使用して代替勘定科目表を印刷します。

22: カテゴリ コード 22 を使用して代替勘定科目表を印刷します。

23: カテゴリ コード 23 を使用して代替勘定科目表を印刷します。

## R09404 – (ITA) G/L Registration Report

Businesses in Italy are required to print a general journal report that lists all of the general ledger transactions for each month in chronological and sequential order. To do this task, you can print the G/L Registration Report–Italy.

You can print the G/L Registration Report–Italy in proof or final mode. You can reprint the G/L Registration Report in proof mode to review transactions for which registration numbers are already assigned. When you select final mode, the system assigns a chronological and sequential registration number to each general ledger transaction in the F0911 table. The system stores the registration number for each transaction in a dedicated field (REG#). You can use a processing option to control whether the system assigns registration numbers to journal entries or to each individual journal entry line.

To ensure that the registration number for each transaction is sequential by date, run the G/L Registration Report program in final mode only after you perform these tasks:

- Enter all of the transactions for the month.
- Review the G/L Registration report generated in proof mode.

---

**注:** If your company implements PeopleSoft EnterpriseOne software in the middle of a fiscal year, you need to indicate the continuing registration number from your previous numbering system (manual or automated). To do this task, access the Revise G/L Registration File form.

---

You can also print the G/L Registration report for multicompny environments where general ledger transactions are entered for different document companies that belong to the same legal entity. To do this task, set the processing options so that you can enter the legal company that you want to print on the header of the report. Then use data selection to identify the document companies that belong to the legal company.

To number the pages of the report progressively by calendar year, specify the year and number for the first page in the processing options. The pages are numbered on the report by using the year and beginning with the number that you specify. For example, if you print two 1000–page reports during the year 2007, the pages should be numbered as follows:

- First report of 1000 pages – First page number 2007/1 and last page number 2007/1000
- Second report of 1000 pages – First page number 2007/1001 and last page number 2007/2000

In this example, you would specify a year of 07 and a first page number of 1 when you print the first report, and a year of 07 and a first page number of 1001 when you print the second report.

### Registration Numbers for Adjusting Journal Entries

After the year end, you might need to enter general ledger transactions to record adjustments for the previous fiscal year. You can enter these adjusting journal entries with a special document type (##) and the general ledger date for the end of the fiscal year, such as January 31, 2007.

Italian law requires that the date on which you actually enter the adjustment also be included in the journal entry record. To satisfy this requirement, the system records both the general ledger date that you specify for the end of the fiscal year and the actual date when you enter the adjusting entry. You can use a processing option to control the actual date of the adjustment entry that prints on the G/L Registration report. In addition, adjusting entries must include a chronological and sequential registration number, as would any other general ledger transaction.

Print the G/L Registration Report to assign registration numbers to adjusting journal entries for the previous fiscal year. You can specify registration numbers for adjusting journal entries, based on these numbering patterns:

- Start with the next available number for the previous fiscal year.
- Start with the next available number for the current fiscal year.

---

**重要:** The practice of numbering adjustments by using the next available number for the previous fiscal year can be disputed by the Italian fiscal authority. The option of using the next available number for the current fiscal year is legally acceptable and should be adopted by all Italian customers. To select a numbering pattern, use the corresponding processing option on the Adjustments tab for the G/L Registration Report.

---

When you print the G/L Registration Report for the adjusting entries in final mode, the system:

- Updates the Adjustments Registration Date with the date that you specify in the processing option for adjusting entries
- Assigns chronological and sequential registration numbers to each transaction

### 関連項目:

第 38 章、「会計年度の締め処理」、「(ITA) Closing a Fiscal Year」、482 ページ

## Processing Options for G/L Registration Report–Italy (R09404)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

### Default

- |                               |  |
|-------------------------------|--|
| <b>1. Processing Mode</b>     | Specify the mode in which you want to run the report. Values are:<br>Blank: Run the report in proof mode.<br>1: Run the report in final mode without headings and titles.<br>2: Run the report in final mode with headings and titles. |
| <b>2. Registration Number</b> | Specify how the system assigns registration numbers. Values are:<br>Blank: Assign a registration number to each document.  |

**3. Adjustment Registration Date**

1: Assign a registration number to each individual journal entry line.

Specify the adjustment registration date. Enter any specific registration date. If you leave this processing option blank, the system assigns the general ledger date of the adjustment.

**4. Next Available Registration Number for Adjustments**

Specify how the system assigns the next available registration number for adjustments entered in the prior year. Values are:

Blank: Use the next available registration number from the current fiscal year.

1: Use the next available registration number from the fiscal year of the adjustment general ledger date, which would be for the previous fiscal year. This option is not recommended.

**Select****1. From Date and 2. Thru Date**

Specify the beginning date and ending date for the system to use when selecting records for the report.

**3. Enter the company number to be used to store and retrieve G/L balance values**

Specify the company number for which the report is printed. If you leave this processing option blank, the system prints the report for company 00000.

**Print****1. Enter the Year that should be printed with the page numbers of the report**

Enter the year that you want to print on the page numbers of the report. If you leave this processing blank, runtime page numbers are printed in proof mode and no page numbers are printed in final mode.

**2. Enter the Number to be used as the first page number of the report**

Specify the number from which you want to start the page numbering for the report. If you leave this processing option blank, runtime page numbers are generated in proof mode and no page numbers are generated in final mode.

**3. Enter the Account Number to print on the report**

Specify whether the system includes account numbers from the alternate chart of accounts on the report. Enter the category code that contains the alternate chart of accounts. Values are:

Blank: Do not include account numbers from the alternate chart of accounts. Use the regular account number (BU.Obj.Sub).

21: Include account numbers from the chart of accounts in category code 21.

22: Include account numbers from the chart of accounts in category code 22.

23: Include account numbers from the chart of accounts in category code 23.

**Currency****1. Enter the Currency Code for as-if currency reporting.**

Specify the currency for as if currency reporting. This processing option allows amounts to print in a currency other than the currency in which they were originally entered. Enter a currency code from F0013 table. If you leave

this processing option blank, the system prints amounts in the currency in which they were originally entered.

- 2. Enter the As-Of date for processing the exchange rate for the as-if currency.** Specify the effective date for processing the exchange rate for the as if currency. If you leave this processing option blank, the system uses the exchange rate associated with the system date.

## R09410 - 試算表

ビジネスユニットの残高を検討するには、試算表を印刷します。詳細レベルを指定して集計を実行できます。指定したレベルより下位の詳細情報は印刷されません。このレポートでは、全ての上位レベルでの小計、総計、および会社に対する報告が印刷されます。

**注:** レポートは会社ごとに改ページされます。このページ区切りは削除しないでください。削除するとレポートが読みづらくなります。

## 試算表 (R09410) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 期間

#### 年度、期間

試算表を印刷する会計年度と期間の下 2 桁を指定します。たとえば、2007 年の場合は「07」と入力します。

この処理オプションのいずれかに値を入力した場合は、もう一方の処理オプションにも入力する必要があります。ブランクにした場合、一般会計システムの会社の設定フォームで定義した F0010 テーブルの会計年度と現行期間が使用されます。

### 印刷

#### 1. 勘定科目コード形式

印刷する勘定科目コードの形式を指定します。有効値は以下のとおりです。  
ブランク:標準勘定科目コード。

1: 標準勘定科目コード。デフォルトは、“ビジネスユニット.主科目.補助科目”です。

2: システムによって割り当てられた略式 ID。

3: 第 3 勘定科目。この番号は、勘定科目設定の際に割り当てます。

#### 2. 残高 0 の勘定科目

指定期間における残高が 0 の勘定科目を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク:残高が 0 の勘定科目を印刷します。

1: 残高が 0 の勘定科目を印刷しません。

**注:** 転記編集コード “N” が割り当てられた勘定科目は、この処理オプションを “1” に設定した場合も印刷されます。転記編集コードが “N” の勘定科目は見出し勘定科目のため、残高はありません。

#### 3. 改ページ

ビジネスユニット番号が変わるときに改ページする場合は、「1」を入力します。改ページ処理をしない場合は、ブランクにします。

## 詳細レベル

詳細レベルの小計を上位レベルの合計に正しく反映させるには、勘定科目表の設定時に詳細レベルを省略しないでください。詳細レベルを省略すると、合計が正しく計算されません。

### 1. 詳細レベル

レポートに印刷する詳細レベルの最低値を指定します。3 ~ 9 の値が入力可能です。たとえば、詳細レベルの最低値に "7" を指定します。勘定科目表にレベル 8 とレベル 9 が設定されている場合、レベル 7 にはレベル 8 とレベル 9 の勘定科目の合計は含まれますが、これらの詳細は印刷されません。

ブランクにした場合、全ての詳細レベルがレポートに印刷されます。

## 元帳

### 1. 元帳タイプ

レポートが使用する元帳タイプを指定します。UDC テーブル (09/LT) に設定されている値を指定する必要があります。ブランクにした場合、元帳タイプ "AA" (実績金額) の金額が印刷されます。

---

注: 指定した元帳タイプが "CA" (外貨) で、CA 元帳タイプに多通貨の金額が含まれている場合、合計が正しく計算されない可能性があります。

---

## 補助元帳

### 1. 補助元帳

補助元帳のある勘定科目の金額を印刷するかどうかを指定します。有効な値は以下のとおりです。

特定の補助元帳番号を入力します。このフィールドに値を入力した場合は、"補助元帳タイプ" にも値を入力する必要があります。

全ての補助元帳を含めるには、「\*」を入力します。

補助元帳のない勘定科目のみを含める場合は、ブランクにします。

### 2. 補助元帳タイプ

補助元帳番号を含むテーブルを識別する UDC テーブル (00/ST) のコードを指定します。たとえば、住所録補助元帳の補助元帳タイプ "A" は、F0101 テーブルを識別します。

このフィールドに値を入力した場合は、"補助元帳" にも値を入力する必要があります。

## 通貨

勘定残高を通貨別に転記する場合にのみ適用されます。

### 1. 通貨コード

レポートが合計する金額を特定の通貨コードに限定するため、通貨を指定します。F0013 テーブルに設定されているコードを入力する必要があります。全ての通貨の金額を含めるには、「\*」(アスタリスク) を入力します。通貨別転記を行わない場合は、ブランクにします。

---

注: "元帳タイプ" で指定した元帳タイプが "CA" で、CA 元帳タイプに多通貨の金額が含まれている場合、ここで通貨コードを指定しないと合計が正しく計算されない可能性があります。

---

## R094121 - 試算表（主科目別）

全てのビジネスユニットの残高を主科目別に検討するには、試算表（主科目別）を印刷します。主科目別、会社別、またはその両方で合計を検討できます。レポートには総計が含まれます。

### 試算表（主科目別）(R094121) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 選択

1. 会計年度、2. 期間  
レポートの印刷時に使用する会計年度と会計期間を指定します。空白にした場合、会社名および番号プログラム (P0010) で指定した報告年度が使用されます。
3. 元帳タイプ  
レポートの印刷時に使用する元帳タイプを指定します。元帳タイプ マスターの設定プログラム (P0025) から、有効な元帳タイプを入力してください。空白にした場合、元帳タイプ "AA" が使用されます。
4. 補助元帳  
レポートの印刷時に使用する補助元帳を指定します。全ての補助元帳を指定する場合は、「\*」を入力します。
5. 補助元帳タイプ  
レポートの印刷時に使用する補助元帳タイプを指定します。“補助元帳” に値を入力した場合は、この処理オプションにも値を入力する必要があります。
6. 非転記勘定  
レポートに F0902 テーブルの非転記勘定を含めるかどうかを指定します。有効な値は以下のとおりです。  
空白:非転記勘定を含めません。  
1: 非転記勘定を含めます。転記勘定を非転記勘定に変更した場合でも、この勘定科目にまだ残高があれば、その残高はレポートに含まれます。

#### 印刷

1. 残高が 0 の勘定科目  
残高が 0 の勘定科目を印刷するかどうかを指定します。有効な値は以下のとおりです。  
空白:残高が 0 の勘定科目を印刷します。  
1: 残高が 0 の勘定科目を印刷しません。
2. 勘定科目コード形式  
勘定科目コードを印刷する形式を指定します。有効な値は以下のとおりです。  
1: “ビジネスユニット.主科目.補助科目” の形式で勘定科目コードを印刷します。  
2: 略式 ID を印刷します。  
3: 第 3 (自由形式) 勘定科目コードを印刷します。

#### 通貨

1. 通貨コード  
処理対象のレコードの選択に使用する通貨コードを指定します。全ての通貨コードを選択する場合は、「\*」を入力します。

## 集計

### 1. 主科目を集計する範囲の開始科目、2. 主科目を集計する範囲の終了科目

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する勘定科目範囲の開始主科目と終了主科目を入力します。集計レポートには、指定範囲内の勘定科目ごとに 1 件の集計残高として、明細取引が表示されます。ブランクにした場合、勘定科目表の全ての勘定科目に対して詳細レポートが印刷されます。

## R09421 - 総勘定元帳（主科目別）

全てまたは複数のビジネスユニットの取引を検討するには、総勘定元帳（主科目別）レポートを実行します。このレポートは、F0911 テーブルと F0902 テーブルの情報を一覧表示します。

勘定科目の照会（主科目別）プログラム（P09201）を使用すると、同じ情報を短時間でより柔軟に検討できます。

## 総勘定元帳（主科目別）(R09421) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

#### 1. 開始期間

レポートに含める残高を指定します。有効値は以下のとおりです。

0: 開始期間として現行会計年度の最初の期間を使用します（デフォルト）。全ての勘定科目に対する現行年度取引と、現行会計年度の期間別の借方合計、貸方合計が印刷されます。貸借対照表勘定科目の繰越残高合計は、開始日から前会計年度の終了日までが対象となります。

1: 開始期間として現行期間を使用します。各勘定科目について、現行会計年度の前回取引の繰越残高合計と現行期間の取引のみが印刷されます。年間の取引活動の中には、印刷されないものもあります。損益計算書勘定の場合、繰越残高合計には前期間終了日までの年累計金額が反映されます。貸借対照表勘定の場合、前期間終了日までの開始日以降累計が反映されます。

2: 開始期間として、一般会計システムの使用を開始した最初の会計年度の最初の期間を使用します。一般会計処理を開始した日から現行期間までの取引情報が印刷されます。このレポートは、データの量によっては非常に長くなる場合があります。

#### 2. 開始日付

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する日付範囲の開始日付を指定します。ブランクにした場合、“開始期間”で指定した値が使用されます。

#### 3. 終了会計年度

レポートに印刷するレコードの選択に使用する年範囲の終了会計年度を指定します。会計年度の下 2 桁を入力します。たとえば、2007 年の場合は「07」と入力します。

“開始期間”で“0”（年累計残高）を入力し、この処理オプションで年度を入力した場合、この年度は会社名および番号プログラム（P0010）の年度開始日付フィールドで指定した年と同じである必要があります。同じでない場合、繰越残高金額に対する行項目はレポートに含まれません。

#### 4. 期間

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する期間番号を指定します。

#### 5. 終了日付

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する日付範囲の終了日付を指定します。ブランクにした場合、“開始期間”で指定した値が使用されます。



## 6. 補助元帳

レポートに印刷するレコードの選択に使用する補助元帳を指定します。特定の補助元帳か、次の値のいずれかを入力します。

ブランク: 補助元帳を使用せずにレコードを処理します。

\*: ブランクの補助元帳を含む全ての補助元帳のレコードを処理します。

## 7. 補助元帳タイプ

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する補助元帳タイプを指定します。UDC テーブル (00/ST) の有効な補助元帳タイプを入力してください。“補助元帳” で値を指定した場合は、ここで補助元帳タイプを入力する必要があります。

## 8. 元帳タイプ

レポートに印刷するレコードの選択に使用する元帳タイプを指定します。UDC テーブル (09/LT) のコードを入力してください。ブランクにした場合、元帳タイプ “AA” が使用されます。

## 9. 伝票タイプ

レポートに印刷するレコードの選択時に “元帳タイプ” と共に使用する伝票タイプを指定します。UDC テーブル (00/DT) の伝票タイプ コードを入力してください。ブランクにした場合、全ての伝票タイプが選択されます。

“元帳タイプ” で値を指定していない場合、ここで指定した値は無視されず。

## 印刷

### 1. 勘定科目コード形式

勘定科目コードを印刷する形式を指定します。有効値は以下のとおりです。

1: “ビジネスユニット.主科目.補助科目” の形式で勘定科目コードを印刷します。

2: 略式 ID を印刷します。

3: 第 3 (自由形式) 勘定科目コードを印刷します。

### 2. 数量

金額のみを印刷するか、金額と数量を印刷するかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 金額のみを印刷します。

1: 金額と数量を印刷します。

### 3. 残高 0 の勘定科目

残高が 0 の勘定科目を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 残高が 0 の勘定科目を印刷します。

1: 残高が 0 の勘定科目を印刷しません。

### 4. 転記済み取引

転記済み取引と未転記取引の両方を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 転記済み取引のみを印刷します。

1: 転記済み取引と未転記取引の両方を印刷します。

## 集計

### 開始、終了

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する勘定科目範囲の開始主科目と終了主科目を入力します。集計レポートには、指定範囲内の勘定科目ごとに、1 件の集計残高として、明細取引が表示されます。ブランクに

した場合は、勘定科目表の全ての勘定科目に対して詳細レポートが印刷されます。

「\*」を入力して全ての主科目を集計することはできません。代わりにこの処理オプションで、開始主科目と終了主科目を勘定科目表からそれぞれ入力してください。

## 通貨

- 1. 通貨コード**

このレポートの処理に使用する通貨コードを指定します。特定の通貨コードを入力するか、「\*」を入力して全ての通貨コードを指定します。
- 2. 通貨コード範囲の最初の通貨**

仮定通貨の使用によるレポート作成のための通貨コードを指定します。この処理オプションを設定すると、システムに初期入力されている通貨以外で金額を印刷することができます。F0013 テーブルの有効な通貨を入力してください。ブランクにした場合、初期入力されている通貨で金額が印刷されます。
- 3. 基準日**

仮定通貨の現行為替レートの処理時に使用する基準日を指定します。ブランクにした場合、“終了日付”で指定した日付が使用されます。

## R09422 – 総勘定元帳（補助元帳合計）

取引合計を補助元帳別に検討するには、総勘定元帳（補助元帳合計）レポートを実行します。このレポートでは、F0911 テーブルと F0902 テーブルの情報が一覧表示されます。ビジネスユニット、主科目、補助科目の順に情報が表示されます。また、期間、補助元帳、勘定科目、ビジネスユニット、会社別に合計が計算されます。

## 総勘定元帳（補助元帳合計）(R09422) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

- 1. レポートの内容**

レポートに含める残高を指定します。有効値は以下のとおりです。

  - 0: 開始期間として現行会計年度の最初の期間を使用します（デフォルト）。全ての勘定科目について、現行年度取引と現行会計年度の期間別の借方合計、貸方合計が印刷されます。貸借対照表勘定科目の繰越残高合計は、開始日から前会計年度の終了日までが対象となります。
  - 1: 開始期間として現行期間を使用します。各勘定科目について、現行会計年度の前回取引の繰越残高合計と現行期間の取引のみが印刷されます。年間の取引活動の中には、印刷されないものもあります。損益計算書勘定の場合、繰越残高合計には前期間終了日までの年累計金額が反映されます。貸借対照表勘定の場合、前期間終了日までの開始日以降累計が反映されます。
  - 2: 開始期間として、一般会計システムの使用を開始した最初の会計年度の最初の期間を使用します。一般会計処理を開始した日から現行期間までの取引情報が印刷されます。このレポートは、データの量によっては非常に長くなる場合があります。
- 2. 会計年度**

レポート処理を行う会計年度を入力します。

“レポートの内容”で“0”(年累計残高)を入力し、この処理オプションで年度を入力した場合、この年度は会社名および番号プログラム(P0010)の年度開始日付フィールドで指定した年と同じである必要があります。同じでない場合は、繰越残高に対する行項目の金額はレポートに含まれません。

### 3. 期間

レポート処理を行う期間を入力します。空白にした場合、財務報告期間が使用されます。

### 4. 元帳タイプ

レポートに印刷するレコードの選択に使用する元帳タイプを指定します。UDC テーブル (09/LT) のコードを入力してください。空白にした場合、元帳タイプ “AA” が使用されます。

### 5. 伝票タイプ

レポートに印刷するレコードの選択時に“元帳タイプ”と共に使用する伝票タイプを指定します。UDC テーブル (00/DT) のコードを入力してください。空白にした場合、全ての伝票タイプのレコードが選択されます。

“元帳タイプ”で値を入力していない場合、ここで入力した値は無視されません。

### 6. 取引状況

転記済み取引と未転記取引の両方を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: 転記済み取引のみを印刷します。

1: 転記済み取引と未転記取引の両方を印刷します。

## 印刷

### 1. 勘定科目コード形式

勘定科目コードを印刷する形式を指定します。有効値は以下のとおりです。  
空白または 1: 標準勘定科目コード (“ビジネスユニット.主科目.補助科目”)

2: 略式 ID

3: 第 3 勘定科目

### 2. 数量の印刷

金額のみを印刷するか、金額と数量を印刷するかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: 金額のみを印刷します。

1: 金額と数量を印刷します。

### 3. 残高が 0 の勘定科目

残高が 0 の勘定科目を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: 残高が 0 の勘定科目を印刷します。

1: 残高が 0 の勘定科目を印刷しません。

## 集計

### 1. ビジネスユニット タイプ

補助元帳を集計するビジネスユニット タイプを指定します。特定のビジネスユニット タイプか、以下のいずれかの値を入力してください。

+: 全てのビジネスユニット タイプが含まれます。

\*: 空白以外の全てのビジネスユニット タイプが含まれます。

- 2. 補助元帳を集計する範囲の最初の主科目、3. 補助元帳を集計する範囲の最後の主科目**      補助元帳を集計する勘定科目範囲の最初と最後の主科目を指定します。

## 通貨

- 1. 通貨コード**      レポート印刷時に使用する通貨コードを指定します。F0013 テーブルの有効な通貨コードを入力するか、「\*」を入力して全ての通貨コードを指定します。

## 主科目別取引 (R09423)

主科目別取引レポートでは、指定した会社の選択した期間内の各主科目の勘定残高や転記済み取引が表示されます。各勘定科目の全ての転記済み取引と勘定残高が、借方/貸方形式で表示されます。

期間内の全ての転記済み取引と選択した主科目が、借方、貸方、および合計のカラムに印刷されます。選択した期間に勘定科目に取引が転記されていない場合は、勘定科目合計のみが印刷されます。

主科目別取引レポートの最後に印刷される各合計金額の内容は、以下のとおりです。

- 取引合計: 現行期間の全ての取引の合計
- 前期間取引合計: 会計年度内の前期間から現行期間までの全ての取引の合計
- カラム合計: 取引合計と前期間取引合計の合計
- 前年度末残高: 前年度の主科目の残高
- 前期末残高: 前期間の全ての取引と前年度末残高の合計
- 最終残高: 前年度末残高とカラム合計残高の合計

---

注: 元帳タイプ "CA" を使用している場合は通貨が混在しているため、小計と合計の値が意味をなさないことがあります。その場合、合計には "N/A" と示されます。

---

## 主科目別取引のデータ選択

このレポートでは、特定のビジネスユニットに対するデータ選択は無視されます。

## 主科目別取引 (R09423) と補助科目別取引 (R09424) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 期間

- 1. 開始期間、2. 終了期間**      レポート用取引を取得する期間の最初と最後を指定します。  
"開始期間" をブランクにした場合、データ選択で指定した会社の現行期間が使用されます。  
"終了期間" をブランクにした場合、"開始期間" で指定した値が使用されます。
- 3. 会計年度**      レポート印刷対象の会計年度の下 2 桁を入力します。たとえば、2007 年のレポートを印刷する場合は「07」と入力します。

## 元帳

### 1. 元帳タイプ

レポートの元帳タイプを指定します。ブランクにした場合、元帳タイプ “AA” が使用されます。

注: 元帳タイプに “CA” を指定すると、小計と合計が意味をなさない場合があります。

## 印刷

### 1. 金額が 0 の勘定科目を印刷しない

金額が 0 の取引を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 金額が 0 の取引を印刷します。

1: 金額が 0 の取引を印刷しません。

### 2. レポートに合計を印刷しない

期間合計を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 期間合計を印刷します。

1: 期間合計を印刷しません。

## R09424 – 補助科目別取引

補助科目別取引レポートでは、選択した期間の全ての主科目と補助科目について勘定残高と転記済み取引が表示されます。各勘定科目と補助科目の全ての転記済み取引が借方/貸方形式で表示されます。

期間内の全ての転記済み取引および選択した主科目と補助科目が、借方、貸方、および合計のカラムに印刷されます。選択した期間に勘定科目と補助科目に取引が転記されていない場合は、勘定科目と補助科目の合計のみが印刷されます。

補助科目別取引レポートの最後に印刷される各合計金額の内容は、以下のとおりです。

- 取引合計: 現行期間の全ての取引の合計
- 前期間取引合計: 会計年度内の前期間から現行期間までの全ての取引の合計
- カラム合計: 取引合計と F0902 テーブルの前期間取引合計の合計
- 前年度末残高: F0902 テーブルの前年度の主科目の残高
- 前期末残高: 前期間の全ての取引と前年度末残高の合計
- 最終残高: 前年度末残高とカラム合計残高の合計

## 補助科目別取引のデータ選択

このレポートでは、特定のビジネスユニットに対するデータ選択は無視されます。

## 補助科目別取引 (R09424) の処理オプション

補助科目別取引レポートの処理オプションは、主科目別取引レポートの処理オプションと同じです。

参照: 付録 G、「EnterpriseOne 一般会計レポート」、「主科目別取引 (R09423) と補助科目別取引 (R09424) の処理オプション」、582 ページ

## R09451 - 勘定科目合計（仕入先/顧客別）

勘定科目合計（仕入先/顧客別）レポートでは、各顧客または仕入先の残高が主科目別に表示されます。各顧客または仕入先の全ての勘定残高合計と共に、顧客または仕入先との取引がある各勘定科目の残高が一覧表示されます。転記済み取引のみ、または転記済み取引と未転記取引の両方を表示できます。

### 勘定科目合計（仕入先/顧客別）(R09451) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

#### レポート明細

- |                   |                                      |
|-------------------|--------------------------------------|
| 1. 開始期間または開始日付    | レポートを開始する期間または日付を入力します。              |
| 2. 会計年度と期間または終了日付 | レポートを終了する会計年度（下 2 桁）と期間、または日付を入力します。 |

#### 伝票

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 元帳タイプ | 元帳タイプを指定します。ブランクにした場合、元帳タイプ "AA" が使用されます。  |
| 2. 伝票タイプ | 伝票タイプを指定します。ブランクにした場合、全ての伝票タイプが使用されます。   |
| 3. 未転記取引 | 転記済み取引のみを印刷するか、未転記取引も印刷するかを指定します。有効値は以下のとおりです。<br>ブランク: 転記済み取引のみを印刷します。<br>1: 転記済み取引と未転記取引の両方を印刷します。 |

#### 仮定通貨

- |         |  |
|---------|--|
| 1. 仮定通貨 | 仮定通貨金額の印刷に使用する通貨コードを入力します。ブランクにした場合、会社の基本通貨が使用されます。      |
| 2. 基準日  | 仮定通貨の為替レートを取り込む日付を入力します。ブランクにした場合、"終了日付" で指定した日付が使用されます。 |

## R09470 - 総勘定元帳（カテゴリコード別）

"ビジネスユニット.主科目.補助科目" の代わりに法定勘定科目コードを使用するには、総勘定元帳（カテゴリコード別）レポートを印刷します。カテゴリコードは勘定科目コード、カテゴリコード記述は勘定科目名を表します。

このレポートは、法定会計に役立つ残高情報を出力するものであり、F0901、F0911、F0902、F0006 テーブルの情報を使用します。

### 総勘定元帳（カテゴリコード別）(R09470) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

## 選択

### 1. 開始期間

レポートに記載する勘定残高の選択時に使用する開始会計期間を指定します。有効値は以下のとおりです。

0: 年累計。開始期間として現行会計年度の最初の期間を使用します。全ての勘定科目について、現行年度取引と現行会計年度の期間別の借方合計、貸方合計が印刷されます。貸借対照表勘定科目の繰越残高合計は、開始日から前会計年度の終了日までが対象となります。

1: 現行期間。開始期間として現行期間を使用します。各勘定科目について、現行会計年度の繰越残高合計と現行期間の取引が印刷されます。年間の取引活動の中には、印刷されないものもあります。損益計算書勘定の場合、繰越残高合計には前期間終了日までの年累計金額が反映されます。貸借対照表勘定の場合、前期間終了日までの開始日以降累計が反映されます。

2: 開始日以降累計。開始期間として、一般会計システムの使用を開始した最初の会計年度の最初の期間を使用します。一般会計システムの使用を開始した日から現行期間までの取引情報が印刷されます。このレポートは、データの量によっては非常に長くなる場合があります。

### 2. 開始日付

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する元帳日付範囲の開始日付を指定します。空白にした場合、“開始期間”で指定した値が使用されます。

### 3. 会計年度

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する終了会計年度を指定します。会計年度の下 2 桁 (2007 年の場合は “07”) を入力してください。

### 4. 期間

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する期間を指定します。

### 5. 終了日付

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する元帳日付範囲の終了日付を指定します。空白にした場合、“開始期間”で指定した値が使用されます。

## 印刷

### 1. 元帳タイプ

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する元帳タイプを指定します。F0025 テーブルの有効な元帳タイプを入力してください。空白にした場合、元帳タイプ “AA” が使用されます。

### 2. 伝票タイプ

レポートに印刷するレコードの選択時に “元帳タイプ” と共に使用する伝票タイプを指定します。UDC テーブル (00/DT) の伝票タイプ コードを入力してください。空白にした場合、全ての伝票タイプが選択されます。

注: “元帳タイプ” に値を入力していない場合、この処理オプションの値は無視されます。

### 3. 取引タイプ

転記済み取引のみを印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: 転記済み取引のみを印刷します。

1: 転記済み取引と未転記取引の両方を印刷します。

### 4. 勘定科目カテゴリ コード (1 ~ 23)

レポートに印刷される勘定科目カテゴリ コード (1 ~ 23) を指定します。空白にした場合、カテゴリ コード 21 が印刷されます。

ここで入力した値は、カテゴリ コードをレポートに印刷する場合にのみ使用されます。データ選択には使用されません。

## 5. 数量

金額と共に数量も印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 金額のみを印刷します。

1: 金額と数量の両方を印刷します。

## 6. 残高が 0 の勘定科目

残高が 0 の勘定科目を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 残高が 0 の勘定科目を印刷します。

1: 残高が 0 の勘定科目は印刷しません。

## 7. 日付順

情報を印刷する際の日付順序（昇順または降順）を指定します。有効値は以下のとおりです。

ブランク: 日付の降順で情報を印刷します。

1: 日付の昇順で情報を印刷します。

## 通貨

### 1. 仮定通貨コード

レポートに金額を印刷する際の仮定通貨コードを指定します。この処理オプションを設定すると、システムに保存されている通貨以外の通貨で金額を検討できます。元帳タイプ "AA" に関連する金額のみが仮定通貨に換算されます。ブランクにした場合、金額は仮定通貨では表示されません。

### 2. 為替レート日付

F0015 テーブルから仮定通貨の為替レートを取得する日付を指定します。仮定通貨コードのフィールドに値を入力してこの処理オプションをブランクにした場合、"終了日付" で指定した日付が為替レートに使用されます。

## R09472 - 試算表 (カテゴリ コード別) - 借方/貸方形式

試算表 (カテゴリ コード別) - 借方/貸方形式レポートを使用して、"ビジネスユニット.主科目.補助科目" という勘定科目コード形式の代わりに法定勘定科目 (カテゴリ コード値) を試算表に印刷します。カテゴリ コードは勘定科目コード、カテゴリ コード記述は勘定科目名を表します。

## 試算表 (カテゴリ コード別) - 借方/貸方形式 (R09472) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

#### 1. 会計年度

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する会計年度を指定します。ブランクにした場合、現行会計年度が使用されます。

#### 2. 期間

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する期間番号を指定します。ブランクにした場合、現行期間番号が使用されます。

#### 3. 元帳タイプ

レポートに印刷するレコードの選択時に使用する元帳タイプを指定します。F0025 テーブルの有効な元帳タイプを入力してください。ブランクにした場合、元帳タイプ "AA" が使用されます。



- 4. カテゴリコード (21 ~ 43)** レポートに印刷する勘定科目カテゴリコード (21 ~ 43) を指定します。ブランクにした場合、カテゴリコード 21 が印刷されます。

ここで入力した値は、カテゴリコードをレポートに印刷する場合にのみ使用されます。データ選択には使用されません。

## R09473 – (FRA, ITA, USA) Debit/Credit T/B by Object

Use the Debit/Credit T/B by Object report to verify the accuracy of transactions in individual account ledgers. When all of the transactions are accurate, the totals for this report equal the totals in the general ledger reports and the G/L Registration report.

Businesses often print the Debit/Credit T/B by Object report to facilitate internal audits by verifying one or more accounts. Businesses also use this report for external audits, as required by a fiscal authority or auditing firm.

You can print the Debit/Credit T/B by Object report to review the total debit and credit amounts for each account in any given ledger. You can also find errors that cause the general ledger to be out of balance. Possible errors include incorrect entries or missing transactions.

The report provides the current balances from the F0902 table and compares these totals with the YTD transaction information from the F0911 table.

You can also total groups of accounts, such as assets, liabilities, year-to-date income, revenues, cost of goods sold, other income, or other expenses, depending on the account ranges that you set up in your AAI's.

## Processing Options for Debit/Credit T/B by Object (R09473)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

### Select

<b>Period Number</b>	Specify the period for which the trial balance prints. If you complete this processing option, you must also specify the fiscal year for the period in the Fiscal Year processing option. If you leave this processing option blank, the program uses the current period defined on the Set Up Company form and recorded in the F0010 table.
<b>Fiscal Year</b>	Specify the last two digits of the fiscal year for which the trial balance prints, for example, enter 07 for 2007. If you complete this processing option, you must also complete the Period Number processing option.  If you leave this processing option blank, the program uses the current fiscal year defined for the General Accounting system and recorded in the F0010 table.
<b>Ledger Type 1, Ledger Type 2, and Ledger Type 3</b>	Specify the first, second, and third ledger type on which you want to report. Enter a value from UDC table 09/LT.

### Print

<b>1. Accounts with Zero Balances</b>	Specify whether to include accounts with zero balances in the selected period.
---------------------------------------	--

**2. Balance and Difference Columns**

Specify if you want a Balance and a Difference column print on the report. The Balance column prints the account's current balance, calculated from the table. This Balance column is then compared to the Cumulative YTD Total column on the report, which is calculated from the F0911 table. Any differences found between the Cumulative YTD Total column and the Balance column are printed in the Difference column on the report.

**3. Summarize Subsidiary Accounts**

Specify whether the system summarizes all subsidiary accounts into one object account.

**4. Total by GLG AAI Account Ranges**

Specify if you want totals for the GLGx AAI ranges to print on the report. These totals print after the appropriate object account, according to the account ranges set up for the default company (company 00000) in AAI item GLGx. Totals are printed for these account ranges:

GLG2 – GLG3: Assets.

GLG3 – GLG5: Liabilities.

GLG5: YTD Income.

GLG6 – GLG7: Revenues.

GLG8 – GLG9: Cost of Goods Sold (COGS).

GLG11 – GLG13: Other Income.

GLG13 – GLG12: Other Expenses.

**5. Class Total Level**

Specify how the system classifies accounts for purposes of subtotaling. The report classifies accounts by account number. You can classify by one, two, three, or four digits of the account number. The report includes a class total for each classification.

For example, if you classify accounts by two digits, the report includes a class total for accounts 1000 through 1099, another class total for accounts 1100 through 1199, and so on. If you classify accounts by three digits, the report includes a class total for accounts 1100 through 1110, another class total for accounts 1111 through 1119, and so on.

If you classify accounts by all four digits, each object account has its own class total; subsidiary accounts to a single object are included in the class total.

The system includes class totals at the level that you specify and at lower levels. For example, if you classify accounts by two digits, the report includes a class total for accounts 1000 through 1999, in addition to the class totals for accounts 1000 through 1099, 1100 through 1199, and so on.

**Process****1. Mode**

Specify the mode in which you want to run this report.

---

**注:** You can run this report in final mode only once for the selected period and fiscal year. The transactions that are printed in final mode do not appear if you run the report again.

---

## Currency

### 1. As-If Currency

Specify an as if currency code in which to print amounts for this report. This processing option allows you to review amounts in a currency other than the currency in which they are stored. Only amounts associated with the AA ledger type are converted to the as if currency. If you leave this processing option blank, amounts do not print in an as if currency.

If you leave this processing option blank, the As If Currency column does not appear on the report.

### 2. As-Of Date

Specify the date on which to retrieve the exchange rate for the as if currency from the F0015 table. If you enter a value for the As If Currency Code processing option and leave this processing option blank, the system uses the date specified in the Thru Date processing option for the exchange rate.

## R11C750 – 現金主義会計整合性テスト

現金主義会計整合性テストでは、指定期間における現金主義会計の全仕訳を検討し、貸借不一致の勘定科目を示す例外レポートを作成します。元帳 AA と AZ の間では、現金勘定のみが貸借一致になります。

このレポートには集計情報または明細情報が印刷されます。取引明細を含む整合性テストは、処理時間が長くなる場合があります。最初に集計情報を印刷して、指定した範囲内に貸借不一致の勘定科目が何件あるか確認することをお勧めします。

処理オプションで取引明細を指定した場合は、AA 元帳と AZ 元帳の全ての転記済みレコードが、貸借不一致がある各期間の元帳残高の上に表示されます。集計情報を印刷するよう指定すると、貸借不一致のある各期間について、AA 元帳と AZ 元帳の残高が並んで表示されます。

情報は新しい日付から順に表示されます。処理オプションで指定した基準日を起点にして、データ選択で指定した全期間にさかのぼって表示されます。

現金主義会計整合性テストは、F0911 と F0902 テーブルの取引を表示します。

## 現金主義会計整合性レポートのデータ選択とデータ順序

表示する過去の会計年度を入力します。元帳タイプ “AA” を指定する必要があります。整合性テスト/レポートは、会社別に実行するとより効率的です。

## 現金主義会計整合性テスト (R11C750) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

#### 1. 基準日

整合性テストを実行する基準日を指定します。空白にした場合、現行日付が使用されます。

### 処理

#### 1. 取引明細

取引明細を印刷するかどうかを指定します。有効値は以下のとおりです。

空白: 集計情報を印刷します。

1: 取引明細を印刷します。

## R11C760 - 現金主義会計監査レポート

現金主義会計監査レポート (R11C760) を使用して、取引レベルでの現金主義会計仕訳に関する情報を出力できます。このレポートは、伝票の転記状況や貸借一致状況を判断する際の強力な検索ツールになります。貸借が一致しない現金主義会計仕訳は、“貸借不一致”というメッセージで識別されます。

このレポートには、3 つのデモ バージョン（売掛管理、買掛管理、元帳仕訳）があります。

現金主義会計監査レポートは、F0911 テーブルの情報を 사용합니다。

## 現金主義会計監査レポートのデータ選択とデータ順序

データ選択の“元帳タイプ＝AZ(現金主義会計)”は変更しないでください。データ選択を追加して、転記済みレコード、特定のバッチ、元帳日付を選択できます。

データ順序は変更しないでください。データ順序を変更すると、レポートの合計金額が正しく計算されない場合があります。

## 現金主義会計監査レポート (R11C760) の処理オプション

処理オプションの設定により、レポートのデフォルト処理を指定できます。

表示

1. 勘定科目コード
- レポートに印刷する勘定科目コード形式を指定します。有効値は以下のとおりです。
- ブランク: データ入力で指定した勘定科目コード
- 1: 標準勘定科目コード
  - 2: 略式 ID
  - 3: 第 3 勘定科目コード

## R70470 - (ESP, FRA, ITA) G/L by Category Code

You can use the G/L by Category Code report as a basis for internal auditing to validate information in legal reports. You can also use this report as a basis for external auditing by a third-party, such as a fiscal authority or auditing firm.

The G/L by Category Code report includes detailed information about account transactions. You can use the report to:

- Review transactions within individual accounts.
- Research accounts that are out-of-balance.
- Verify account accuracy.
- Open and audit accounts with the same control totals as the journal report.

The report includes this information:

- All of the transactions that are printed on the General Journal report (R7409C5).
- A period debit and credit total for each account.
- A total balance in debit and credit format.

- Beginning and ending balances for each account.
- A balance forward for each account.
- Accumulation of amounts from different ledger types for the same account.
- Transactions that are based on a period selection or a date range selection.
- General ledger registration numbers for each transaction.
- Currency codes for each transaction.
- Company codes and names on the header of the report.
- Business units (optional).
- Accounts with zero balances (optional).

You can print the G/L by category report by object and subsidiary, or by category code, depending on whether accounts are defined in the F0901 table by object and subsidiary, or in category codes 21, 22, or 23.

---

**注:** If you print this report by object and subsidiary, you can review the accumulation of up to three ledger types for the same account. You specify which ledger types to include on the report in the processing options. The Ledger Type processing option replaces the code from UDC table 74/LT.

---

## Processing Options for G/L by Category Code (R70470)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

### Select

- |   |  |
|---|--|
| <b>1. Fiscal Dates</b>  | Specify the fiscal dates in which to print the report in four processing options.  |
| <b>Beginning Period Number, Beginning Fiscal Year, Ending Period Number, and Ending Fiscal Year</b> | Use these processing options to specify:<br><br>The first period and the fiscal year of the first period in which to print the report.<br><br>The last period and the fiscal year of the last period in which to print the report. |
| <b>2. Ledger Types</b>  | Specify the ledger types to include on the report in three processing options.   |
| <b>Ledger Type 1, Ledger Type 2, and Ledger Type 3</b>  | Specify the first, second, and third ledger type to include in the report. Enter valid ledger types from UDC table 09/LT.  |

### Print

- |   |  |
|---|--|
| <b>1. Account Category Code (21–43)</b> | Use this processing option to include account numbers from an alternate chart of accounts on the report. Enter the category code that contains the alternate chart of accounts as R0xx, where xx is the category code number. If you leave this processing option blank, the system uses R021. |
| <b>2. Subledger/Type</b>                | Specify whether you want to print the Subledger and Subledger Type columns on the report.  |
| <b>3. Business Unit</b>                 | Specify whether you want the report to include a column that lists the business unit for each account.   |

- |  |   |
|--|---|
| <b>4. Accounts with Zero Balances</b>                | Specify whether to include accounts with zero balances in the selected period. Values are:<br><br>Blank: Do not include accounts with zero balances.<br><br>1: Include accounts with zero balances.   |
| <b>5. Unposted Transactions</b>                      | Specify whether to print unposted transactions on the report.   |
| <b>6. Total for Posted and Unposted Transactions</b> | Specify whether separate totals for posted and unposted transactions should print on the report.<br><br>You can print totals for posted and unposted transactions only if you have set the Unposted Transactions processing option accordingly.   |
| <b>7. First Profit and Loss Account</b>              | Specify where the balance sheet accounts end and the profit and loss accounts begin in the alternate chart of accounts.<br><br>If you complete this processing option, the report includes subtotals for balance sheet and profit and loss accounts.  |
| <b>8. Column Format</b>                              | Specify which optional columns to include on the report.  |
| <b>9. Report Sequence</b>                            | Specify the data sequencing for the system to use when processing this report. All options include category code as the first item of sequencing. Values are:<br><br>Blank: Sequence by next number. Records are sorted in order of general ledger date and assigned a next number for each Account ID. Period totals do not print on the report.<br><br>1: Sequence by period. Records are printed on the report in ascending order by general ledger date. Period totals and period end balances print on the report. |

## Process

- |                |   |
|----------------|---|
| <b>1. Mode</b> | Specify the mode in which you want to run the report.<br><br>When you run this report in final mode, only those records that have been printed in final mode on a trial balance report (R7409C3 or R70472) print. |
|----------------|---|

## R70472 – (FRA, ITA) T/B by Category Code

Use the T/B by Category Code report to verify the accuracy of transactions in individual account ledgers. When all of the transactions are accurate, the totals in this report equal the totals in the G/L by Category Code and G/L Registration reports.

Businesses often print the trial balance report to facilitate internal audits by verifying one or more accounts. Businesses also use the T/B by Category Code report for external audits, as required by a fiscal authority or auditing firm.

You can print this report to review the total debit and credit amounts for each account in any given ledger. You can also find errors that cause the general ledger to be out of balance. Possible errors might include incorrect entries or missing transactions.

The format and contents of the localized trial balance report differs from the base software trial balance reports for system 09. For example, the localized trial balance reports include this information that the base trial balance reports do not include:

- A total for each account and subtotals for account classes.
- Transaction detail in debit and credit format.
- Accumulation of different ledger types for the same account.
- Information that is specific to a period (month and year) selection.

---

**注:** The T/B by Category Code report (R70472) includes balance forward amounts only for balance sheet accounts, not for profit and loss accounts.

---

You can print the French T/B by Category Code report by object and subsidiary, or by category code, depending on whether accounts are defined in the object.subsidiary or in category codes 21, 22, or 23.

---

**注:** If you print the T/B by Category Code report by object and subsidiary, you can review the accumulation of up to three ledger types for the same account. To do this review, specify which ledger types to include on the report in the processing options. The Ledger Type processing option replaces the code in UDC table 74/LT.

---

## Processing Options for T/B by Category Code (R70472)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

### Select

- |   |  |
|---|--|
| <b>1. Period Number and 2. Fiscal Year</b>                      | Specify the period and the two-digit fiscal year for which to print the trial balance.<br><br>If you leave these processing option blanks, the program uses the current period and current fiscal year that is defined for the General Accounting system on the Set Up Company form and recorded in the F0010 table. |
| <b>3. Ledger Type 1, 4. Ledger Type 2, and 5. Ledger Type 3</b> | Specify the first, second, and third ledger type to include in the report. Enter a valid code from UDC table 09/LT. If you leave all three of the ledger types blank, the system includes only ledger type AA.   |

### Print

- |                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| <b>1. Account Category Code</b>       | Use this processing option to include account numbers from an alternate chart of accounts. Specify the category code that contains the alternate chart of accounts. Values are:<br><br>R021: Category code 21.<br>R022: Category code 22.<br>R023: Category code 23.                    |
| <b>2. Accounts with Zero Balances</b> | Specify whether to include accounts with zero balances. Values are:<br><br>Blank: Include accounts with zero balances.<br>1: Do not include accounts with zero balances.  |
| <b>3. Class Total Level</b>           | Specify how the system should classify accounts for purposes of subtotaling. The report classifies accounts by account number.<br><br>Enter a number that corresponds to the number of account number digits you want to use to classify accounts. You can classify by one, two, three, |

or four digits of the account number. The report includes a class total for each classification. Values are:

- 1: Classify by the first digit of the account number.
- 2: Classify by the first two digits of the account number.
- 3: Classify by the first three digits of the account number.
- 4: Classify by all four digits of the account number.

If you leave this processing option blank, the report will not include any class totals.

You can use this processing option in conjunction with the Last Balance Sheet Account processing option to include subtotals for balance sheet and profit-and-loss accounts. If you do not specify a Class Total Level, the report will not include subtotals for balance sheet and profit-and-loss accounts.

For example, if you classify accounts by two digits, the report will include a class total for accounts 1000 through 1099, and another class total for accounts 1100 through 1199, and so on. If you classify accounts by three digits, the report will include a class total for accounts 1100 through 1110, and another class total for accounts 1111 through 1119, and so on. If you classify accounts by all four digits, each object account will have its own class total; subsidiary accounts to a single object will be included in the class total.

The system includes class totals at the level you specify and at lower levels.

For example, if you classify accounts by two digits, the report will include a class total for accounts 1000 through 1999 in addition to the class totals for accounts 1000 through 1099, 1100 through 1199, and so on.

#### **4. Last Balance Sheet Account**

Specify where the balance sheet accounts end and the profit and loss accounts begin in the alternate chart of accounts.

This processing option works in conjunction with the Class Total Level processing option. The system ends the balance sheet accounts and begins the profit and loss accounts at the end of the class that contains the account number you specify. For example, if you specify account number 622000 with Class Total Level 1, the system ends the balance sheet accounts with class 6 (the first digit of 622000). If you specify account number 622000 with Class Total Level 2, the system ends the balance sheet accounts with class 62 (the first two digits of 622000).

If you do not specify a Class Total Level the report will not include subtotals for balance sheet and profit-and-loss accounts.

### **Process**

#### **1. Mode**

Specify the mode in which to run this report. Values are:

- 0: Proof mode.
- 1: Final mode.



---

**注:** You can run this report in final mode only once for the selected period and fiscal year. The transactions that are printed in final mode will not print appear if you run the report again.

---

## R7409C1 – (ESP, FRA, ITA) G/L by Object and Subsidiary

You can use the G/L by Object and Subsidiary report as a basis for internal auditing to validate information in legal reports. You can also use this report as a basis for external auditing by a third-party, such as a fiscal authority or auditing firm.

The G/L by Object and Subsidiary report includes detailed information about account transactions. You can use the report to:

- Review transactions within individual accounts.
- Research accounts that are out-of-balance.
- Verify account accuracy.
- Open and audit accounts with the same control totals as the journal report.

The report includes this information:

- All of the transactions that are printed on the General Journal report (R7409C5).
- A period debit and credit total for each account.
- A total balance in debit and credit format.
- Beginning and ending balances for each account.
- A balance forward for each account.
- Accumulation of amounts from different ledger types for the same account.
- Transactions that are based on a period selection or a date range selection.
- General ledger registration numbers for each transaction.
- Currency codes for each transaction.
- Company codes and names on the header of the report.
- Business units (optional).
- Accounts with zero balances (optional).

You can print the G/L by Object and Subsidiary report by object and subsidiary, or by category code, depending on whether accounts are defined in the F0901 table by object and subsidiary, or in category codes 21, 22, or 23. If you print this report by object and subsidiary, you can review the accumulation of up to three ledger types for the same account. You specify which ledger types to include on the report in the processing options. The Ledger Type processing option replaces the code from the UDC table 74/LT.

## Processing Options for G/L by Object and Subsidiary (R7409C1)

The processing options for the G/L by Object and Subsidiary report are the same as those for the G/L by Category Code report, except for those described in this section.

参照: 付録 G、「EnterpriseOne 一般会計レポート」、「総勘定元帳(カテゴリコード別)(R09470)の処理オプション」、584ページ

## Print

- 3. Level Break on Business Unit** Specify whether to begin a new business unit on a new page.
- 4. Model Business Unit** Specify the model business unit that contains the account descriptions you want to use. If you leave this processing option blank, the transaction account descriptions will be used.
- 5. Accounts with Zero Balances** Specify whether the system should include accounts with zero balances. Values are:  
Blank: Include accounts with zero balances.  
1: Do not include accounts with zero balances.

## Versions

- 1. Version** Specify either the French or Italian version of the G/L by Object and Subsidiary report. Values are:  
Blank: French version. Lists the batch number and batch type for each transaction.  
1: Omits the batch number and batch type columns and instead lists the general ledger registration number and currency code for each transaction.

## Process

- 1. Mode** Specify the mode in which to run the report. Values are:  
Blank: Proof mode.  
1: Final mode.

---

**注:** When you run this report in final mode, only those records that have been printed in final mode on a trial balance report (R7409C3 or R70472) will be printed.

---

## Currency

- 1. As-If Currency** Specify an as if currency code in which to print amounts for this report. This processing option allows you to review amounts in a currency other than the currency in which they are stored. Only amounts associated with the AA ledger type are converted to the as if currency. If you leave this processing option blank, amounts do not print in an as if currency.  
If you leave this processing option blank, the As If Currency column does not appear on the report.
- 2. As-Of Date** Specify the date on which to retrieve the exchange rate for the as if currency from the F0015 table. If you enter a value for the As If Currency Code processing option and leave this processing option blank, the system uses the system date.

## R7409C3 – (FRA, ITA) T/B by Object and Subsidiary

Use the T/B by Object and Subsidiary report to verify the accuracy of transactions in individual account ledgers. When all of the transactions are accurate, the totals in this report equal the totals in the G/L by Category Code and the G/L Registration report.

Businesses often print the trial balance report to facilitate internal audits by verifying one or more accounts. Businesses also use this report for external audits, as required by a fiscal authority or auditing firm.

You can print the T/B by Object and Subsidiary report to review the total debit and credit amounts for each account in any given ledger. You can also find errors that cause the general ledger to be out of balance. Possible errors might include incorrect entries or missing transactions.

The format and contents of the localized trial balance report differs from the base trial balance reports in system 09. For example, the localized trial balance reports include this information that the base trial balance reports do not include:

- A total for each account and subtotals for account classes.
- Transaction detail in debit and credit format.
- Accumulation of different ledger types for the same account.
- Information that is specific to a period (month and year) selection.

---

**注:** The T/B by Category Code report includes balance forward amounts only for balance sheet accounts, not for profit and loss accounts.

---

You can run the French T/B by Object and Subsidiary report by object and subsidiary, or by category code, depending on whether accounts are defined in the object.subsidiary or in category codes 21, 22, or 23. If you print Trial Balance reports by object and subsidiary, you can review the accumulation of up to three ledger types for the same account. To do this review, specify which ledger types to include on the report in the processing options. The Ledger Type processing option replaces the code in UDC table 74/LT.

## Processing Options for T/B by Object and Subsidiary (R7409C3)

The processing options for T/B by Object and Subsidiary are the same as those for T/B by Category Code, except for those described in this section

### Print

- |   |  |
|---|--|
| <b>1. Model Business Unit</b>           | Specify the model business unit that contains the account descriptions you want to use. If you leave this processing option blank, the transaction account descriptions will be used.  |
| <b>3. Summarize Subsidiary Accounts</b> | <p>Specify whether to summarize all subsidiary accounts into one object account. Values are:</p> <p>Blank: Do not summarize subsidiary accounts.</p> <p>1: Summarize subsidiary accounts.</p>  |
| <b>4. Class Total Level</b>             | <p>Specify how the system should classify accounts for purposes of subtotaling. The report classifies accounts by account number.</p> <p>Enter a number that corresponds to the number of account number digits you want to use to classify accounts. You can classify by one, two, three,</p> |

or four digits of the account number. The report includes a class total for each classification. Values are:

- 1: Classify by the first digit of the account number.
- 2: Classify by the first two digits of the account number.
- 3: Classify by the first three digits of the account number.
- 4: Classify by all four digits of the account number.

If you leave this processing option blank, the report will not include any class totals.

You can use this processing option in conjunction with the Last Balance Sheet Account processing option to include subtotals for balance sheet and profit-and-loss accounts. If you do not specify a Class Total Level, the report will not include subtotals for balance sheet and profit-and-loss accounts.

For example, if you classify accounts by two digits, the report will include a class total for accounts 1000 through 1099, and another class total for accounts 1100 through 1199, and so on. If you classify accounts by three digits, the report will include a class total for accounts 1100 through 1110, and another class total for accounts 1111 through 1119, and so on. If you classify accounts by all four digits, each object account will have its own class total; subsidiary accounts to a single object will be included in the class total.

The system includes class totals at the level you specify and at lower levels.

For example, if you classify accounts by two digits, the report will include a class total for accounts 1000 through 1999 in addition to the class totals for accounts 1000 through 1099, 1100 through 1199, and so on.

## Currency

### 1. As-If Currency

Specify an as if currency code in which to print amounts for this report. This processing option allows you to review amounts in a currency other than the currency in which they are stored. Only amounts associated with the AA ledger type are converted to the as if currency. If you leave this processing option blank, amounts do not print in an as if currency.

If you leave this processing option blank, the As If Currency column does not appear on the report.

### 2. As-Of Date

Specify the date on which to retrieve the exchange rate for the as if currency from the F0015 table. If you enter a value for the As If Currency Code processing option and leave this processing option blank, the system uses the system date.

## R7409C5 – (FRA) General Journal

According to commercial law and the French 1982 Chart of Accounts, businesses in France are required to maintain a record of all accounting entries in the General Journal. These entries must be recorded in the General Journal chronologically by the date when the entries are posted to the general ledger. Within the same date, the entries must be ordered by:

- Time when the entries are entered or posted.

- Type of transaction, such as purchase, sale, and miscellaneous expense.
- Account number order.

Businesses also have the option to use the General Journal to centralize all of the accounting entries that are recorded in auxiliary journals. In this case, the entries in the General Journal are a monthly summary of the detailed entries in the auxiliary journals. The requirement for recording accounting entries in the auxiliary journals is the same as for the General Journal, that is, all entries must be chronological. The General Journal can be divided into as many auxiliary journals as the business requires. You define auxiliary journals according to data selection on batch type and document type. For example:

- Purchases Auxiliary Journal (journal des achats)
- Sales Auxiliary Journal (journal des ventes)
- Cash Auxiliary Journal (journal de banque)

Based on the legislation of the General Chart of Accounts, the summary of the General Journal program should be presented in debit and credit format, and not on a cumulative balance. In addition, businesses can summarize the journal under the condition that all documents which are required to verify the daily entries are kept on file.

The format of the General Journal has not been completely defined by the law. However, for an information system, the General Journal should be in the form of electronic documents that are printed on a report. The electronic documents should offer all of the guarantees in terms of disallowing the modification or deletion of the accounting entries once the entries have been validated. The General Journal must be kept in French.

When you run the General Journal program, the system:

- Prints a report of all the entries in the F0911 table in chronological order.  
The entries are the same entries that are printed on the General Ledger report, but they are sorted by general ledger date rather than by account.
- Prints the entries in detail, with one line for each account, and one line for each document number and type.

Additional features of the General Journal report include:

- Option to print by period and fiscal year, or by date range.
- Ability to accumulate multiple ledger types.
- Inclusion of the company in the header.
- Option to print by object and subsidiary, or category code.
- User-defined report totals, including:
  - General total
  - Total by company
  - Total by period
  - Total by batch type
- User-defined date sequencing, including:
  - Sequence by G/L date, document number, and document type.
  - Sequence by batch, document number, and document type.

## Processing Options for General Journal (R7409C5)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

### Select

**Beginning Period Number,  
Beginning Fiscal Year,  
Ending Period Number, and  
Ending Fiscal Year**

Specify the first period and the fiscal year of the first period in which to print the general journal.

Specify the last period and the fiscal year of the last period in which to print the general journal.

You can leave these processing options blank and complete the Beginning Date and Ending Date processing options instead.

**Beginning Date and Ending  
Date**

Specify the beginning date and ending date of the time period in which to print the general journal.

You can leave these processing options blank and complete the four processing options for fiscal dates instead.

**3. Ledger Type 1, 4. Ledger  
Type 2, and 5. Ledger  
Type 3**

Specify the first, second, and third ledger type to include in the report. Enter a valid code from UDC table 09/LT. If you leave all three of the ledger types blank, the system includes only ledger type AA.

### Print

**1. Account Category Code**

Specify whether to print account numbers from an alternate chart of accounts on the report. Enter the number of the category code that contains the alternate chart of accounts. The system uses the account descriptions from the category code table.

Leave this processing option blank to use default account numbers. You can specify a model business unit that contains the account descriptions you want to appear on the report.

**2. Model Business Unit**

If you use default account numbers, use this processing option to specify the model business unit that contains the account descriptions to print on the report. If you use default account numbers and you leave this processing option blank, the transaction account descriptions will print.

If you use an alternate chart of accounts, you do not have to complete this processing option. The system uses the account descriptions from the category code table.

**3. Multiple Account  
Summarization**

Specify whether to summarize entries to the same account in multiple business units. Regardless of whether you summarize accounts, debits and credits will not be summarized. Values are:

Blank: Print entries in detail.

Y: Summarize entries to the same account in multiple business units.

**4. Business Unit**

Specify whether the report includes a column that lists the business unit for each account. Values are:

Blank: Do not include the Business Unit column.

Y: Include the Business Unit column.

- 5. Subledger/Type** Specify whether to print the Subledger and Subledger Type columns on the report. Values are:
- Blank: Do not print the columns.
- Y: Print the columns.

## Process

- 1. Mode** Specify the mode in which you want to run the report. Values are:
- 0: Proof mode.
- 1: Final mode. Only those records that have been printed in final mode on the Trial Balance report (R7409C3 or R7409C4) will be printed.

## Currency

- 1. As-If Currency** Specify an as if currency code in which to print amounts for this report. This processing option allows you to review amounts in a currency other than the currency in which they are stored. Only amounts associated with the AA ledger type are converted to the as if currency. If you leave this processing option blank, amounts do not print in an as if currency.
- If you leave this processing option blank, the As If Currency column does not appear on the report.
- 2. As-Of Date** Specify the date on which to retrieve the exchange rate for the as if currency from the F0015 table. If you enter a value for the As If Currency Code processing option and leave this processing option blank, the system uses the system date.

## R74P9010 – (POL) Trial Balance by Object

The GL Trial Balance by Object report (R74P9010) lists information about transaction posted to the general ledger. This report reads the F0901 table, the F0911 table, and the F0006 table, and prints the transactions for the specified reporting period by object account.

The GL Trial Balance by Object report contains:

- Account transactions (detail).
- Account balances (summary).
- Account numbers and names.
- Columns for open balances, period and year-to-date turnover, and period closing balance.
- Totals for each open balance, period and year-to-date turnover, and period closing balance.

## Processing Options for GL Trial Balance by Obj (R74P9010)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

### Select

- 1. From Period** Specify how the system determines the balances included in the report.

Enter 0 or leave this option blank to use the first period of the current fiscal year as the beginning period for balances. The system prints all current year transactions for all accounts plus debit and credit totals by period for the current fiscal year. The balance forward totals for balance sheet accounts are from inception through the end of the previous fiscal year.

Enter 1 to use the current period as the beginning period. The system prints a balance forward total of the previous activity for the current fiscal year and transactions for the current period only for each account. The report does not print all account activity for the year. The balance forward total reflects the year-to-date amounts through the end of the previous period for profit-and-loss accounts. For balance sheet accounts, the report reflects the inception-to-date amounts through the end of the previous period.

## 2. From Date

Specify the beginning date in a range of dates that the system uses to select records to process. If you leave this processing option blank, the system uses the date of the period specified in the From Period processing option.

## 3. Thru Fiscal Year

Specify the ending fiscal year in a range of years. The system uses the range to select records for the report. Enter the last two digits of the fiscal year, for example, enter 07 for the year 2007.

If you enter 0 for the From Period processing option, the year that you enter for this processing option must be the same as the year specified for the Beginning of Fiscal Year field in the Company Names & Numbers program (P0010). If the year you specify is not the same, the report does not include a line item for balance forward amounts.

## 4. Period Number

Specify the period number that the system uses to select records to process.

## 5. Thru Date

Specify the end date in a range of dates that the system uses to select records to process. If you leave this processing option blank, the system uses the date of the period specified in the From Period processing option.

## 6. Subledger

Specify the subledger for which the system processes records. Enter a specific subledger, or enter \* to processes records for all subledgers. Leave this processing option blank to process records that do not have subledgers.

## 7. Subledger Type

Specify the subledger type that the system uses when selecting records to process. The value that you enter must exist in UDC table 00/ST. You must complete this processing option if you entered a specific subledger in the Subledger processing option.

## 8. Ledger Type

Specify the ledger type that the system uses to select records to process. The value that you enter must exist in UDC table 09/LT. If you leave this processing option blank, the system selects records with a ledger type of AA.

## Print

### 1. Account Number Format

Specify the format in which the system prints account numbers on the report. Values are:

- 1: Account number.
- 2: Short account ID.



3: Unstructured account.

## 2. Accounts with Zero Balances

Leave this processing option blank to print information for all accounts. Enter 1 to omit accounts with a zero balance.

## Currency

### 1. Currency Code

Specify the currency code of the records that the system selects for processing. Enter a specific currency codes to select only records with the specified currency code. Leave this processing option blank to select records for all currency codes.

### 2. Currency Code From

Specify an as if currency code. The currency code must exist in the F0013 table. The system prints amounts on the report in the currency you specify, instead of the currency in which the records are stored.

Leave this processing option blank to print amounts in the currency in which they are stored.

### 3. As-of Date

Specify the date that the system uses when processing records in an as-if currency. If you leave this processing option blank, the system uses the date in the Thru Date processing option.

## Localization

### 1. Report Title

Enter a title that the system prints on the report. You can enter as many as 60 characters. If you leave this processing option blank, the system does not print a title.

### 2. Report Title Continuation

Enter additional text for the title of the report. You can enter as many as 60 characters.

### 3. Company Number

Specify a company number to print the company name and number on the report.

### 4. Accounts Detail

Leave this processing option blank to print all detail lines for the account. Enter 1 to print a summary with a total for the account.

## R74P9015 – (POL) GL Trial Balance by Category Code

The General Ledger by Category Code report includes the same information as the General Ledger by Object report, but it presents the information by category code instead of by object account. For example, the General Ledger by Category Code report has three level breaks (one for each category code) instead of one level break like the General Ledger by Object report.

The system prints the information for account category codes 21, 22, and 23, as applicable.

## Processing Options for GL Trial Balance by Category Code (R74P9015)

The processing options for the GL Trial Balance by Category Code report are the same as those for GL Trial Balance by Object Report, with one additional processing option.

参照: 付録 G、「EnterpriseOne 一般会計レポート」、「R74P9010 – (POL) Trial Balance by Object」、601 ページ

## Localization

**5. Category Code for Trial Balance** Specify the category code that the system uses to select records to process. Values are 21, 22, or 23.

## R74P9020 – (POL) Transaction Journal

The Transaction Journal lists all journal entries and assigns a register number to them by company and fiscal year. It consolidates all of the information for a company. The report includes:

- Report name.
- Company name.
- Code and name of the transaction ledger.
- Name of the program producing the report.
- Reporting period.
- Date and time report was printed.
- User who printed the report.

## Processing Options for Transaction Journal (R74P9020)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

### Default

<b>Processing Mode</b>	Leave this processing option blank to run the report in proof mode. Enter 1 to run the report in final mode without titles and headers. Enter 2 to run the report in final mode and print titles and headers.
<b>Registration Number</b>	Enter 1 to have the system assign a registration number to each individual line entry. Leave this processing option blank to have the system assign a registration number to each document.
<b>Adjustment Registration Date</b>	Specify the adjustment registration date. If you leave this processing option blank, the system assigns the GL date of the adjustment.
<b>Next Available Registration Number</b>	Specify how the system assigns the next available registration number for adjustments entered in the prior year. Enter 1 to use the next available registration number from the fiscal year of the general ledger adjustment date, which is the next available registration number from the previous year.

---

**注:** You should not use this processing option. Instead, leave this processing option blank to use the next available registration number from the current year.

---

### Select

<b>From Date</b>	Specify the first date of a range of dates that the system uses to select records for the report.
<b>Thru Date</b>	Specify the end date for a range of dates that the system uses to select records for the report.

<b>Company Number</b>	Specify the company for which the system retrieves general ledger records. If you leave this processing option blank, the system uses company 00000.
<b>Print</b>	
<b>Account Number</b>	Specify whether the system includes account numbers from an alternate chart of accounts on the report. Values are:  Blank: Use account numbers from the standard chart of accounts and prints them in the BU.OBJ.SUB format.  21: Use account numbers from the chart of accounts set up in category code 21.  22: Use account numbers from the chart of accounts set up in category code 22.  23: Use account numbers from the chart of accounts set up in category code 23.
<b>Currency</b>	
<b>Currency Code</b>	Specify a currency code for as if processing. Enter a valid currency code from the F0013 table. The system processes all records in the currency you specify instead of in the currency in which the records are stored.  If you leave this processing option blank, the system uses the currency code in which the records are stored.
<b>As-of Date</b>	Specify the date that the system uses to retrieve the exchange rate for as if processing. If you leave this processing option blank, the system uses the date in the Thru Date processing option.
<b>Localization</b>	
<b>Report Title</b>	Enter the title that you want the system to print on the report. The maximum number of characters you can enter is 60. If you need additional characters, complete the Report Title (continuation) processing option.
<b>Report Title (continuation)</b>	Enter additional text for the report title. You can enter as many as 60 characters.
<b>Ledger Type</b>	Specify a ledger type that the system uses to select records. Enter a valid code from UDC table 09/LT. If you leave this processing option blank, the system uses the AA ledger type.

## R74P9030 – (POL) Bank Register

The Bank Register program produces a report that lists the bank transactions for a specified time period.

### Processing Options for Bank Register (R74P9030)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

## Select

### 1. From Period

Specify the balances that the system includes in the report.

0: Use the first period of the current fiscal year as the beginning period. This is the default value. The report prints all current year transactions for all accounts plus debit and credit totals by period for the current fiscal year. The balance forward totals for balance sheet accounts are from inception through the end of the previous fiscal year.

1: Use the current period as the beginning period. The report prints a balance forward total of the previous activity for the current fiscal year and transactions for the current period only for each account. The report does not print all account activity for the year. The balance forward total reflects the year-to-date amounts through the end of the previous period for profit and loss accounts. For balance sheet accounts, the report reflects the inception-to-date amounts through the end of the previous period.

2: Use the first period of the first fiscal year (when General Accounting processing began) as the beginning period. If you enter 2, the report prints transaction information from the date when General Accounting processing began through the current period.

### 2. From Date

Specify a beginning date in a range of dates for the system to use when selecting records to print on this report. If you leave this processing option blank, the system uses the value specified in the From Period processing option.

### 3. Thru Fiscal Year

Specify the ending fiscal year in a range of years that the system uses to select records for this report. Enter the last two digits of the fiscal year. For example, enter 07 for the year 2007.

If you enter 0 (for year-to-date balances) for the From Period processing option and you enter a year for this processing option, the year must be the same as the year specified in the Beginning of Fiscal Year field in the Company Names & Numbers program (P0010). Otherwise, the report does not include a line item for balance forward amounts.

### 4. Period Number

Specify a period number for the system to use to select records for this report.

### 5. Thru Date

Specify an ending date in a range of dates for the system to use to select records to print on this report. If you leave this processing option blank, the system uses the value specified in the From Period processing option.

### 6. Subledger and 7. Subledger Type

Specify the subledger for which the system processes records. Enter a specific subledger or enter \* to process records for all subledgers, including blank subledgers. Leave this processing option blank to process records that do not have subledgers.

Specify a subledger type from UDC table 00/ST. If you specify a value in the Subledger processing option, you must enter a subledger type for this processing option.

### 8. Ledger Type

Specify a ledger type from UDC table 09/LT. If you leave this processing option blank, the system uses ledger type AA.

**9. Document Type**

Complete this processing option in conjunction with the Ledger Type processing option to specify a document type from UDC table 00/DT. If you leave this processing option blank, the system selects all document types.

If you do not specify a ledger type for the Ledger Type processing option, the system ignores the value in this processing option.

**Print****1. Account Number Format**

Specify the format in which the system prints the account number. Values are:

- 1: Print the account number in business unit.object.subsidiary format.
- 2: Print the short account ID.
- 3: Print the third (unstructured) account number.

**2. Accounts with zero balance**

Leave this processing option blank to print information for all accounts. Enter 1 to suppress printing for accounts with a zero balance.

**3. Posted Transactions**

Leave this processing option blank to print posted transactions only. Enter 1 to print both posted and unposted transactions.

**Currency****1. Currency Code**

Specify the currency code of the records that the system selects for processing. Enter a specific currency codes to select only records with the specified currency code. Leave this processing option blank to select records for all currency codes.

**2. Currency Code From**

Specify an as if currency code. The system prints amounts on the report in the currency you specify, instead of the currency in which the records are stored. Leave this processing option blank to print amounts in the currency in which they are stored.

**3. As-of date**

Specify the date that the system uses when processing records in an as if currency. If you leave this processing option blank, the system uses the date in the Thru Date processing option.

**Localization Options****1. Report Title**

Enter a title that the system prints on the report. You can enter as many as 60 characters. If you leave this processing option blank, the system does not print a title.

**2. Report Title (continuation)**

Enter additional text for the title of the report. You can enter as many as 60 characters.

**3. Bank Register Number**

Specify the bank register number that the system prints in the header area of the report. If you leave this processing option blank, the system does not print a register number.

## R74S490 – (ESP) G/J by Cat. Code – Spain

Businesses in Spain must submit a general journal of all transactions to the Mercantile Registration at the close of each fiscal year. The transactions must be marked with a register number and must be reported chronologically. Businesses can report individual transactions or transactions summarized by account for each month. The summarized report includes credit and debit totals for each object and subledger account and period. The detail report includes credit and debit amounts for each transaction.

You can run the G/J by Cat. Code by object and subsidiary, or by category code, depending on whether accounts are defined in the object and subsidiary or in category code 21, 22, or 23.

This information is included on the general journal report:

- Register number.
- General ledger date.
- Object account and subsidiary.
- Account description.
- Transaction description.
- Credit and debit totals for each period.
- At the end of each page, debit and credit totals for the page.
- At the beginning of each page except the first page, debit and credit totals from the preceding pages.

For the G/J by Cat. Code report, these features apply:

- You can use processing options to specify which general ledger date the system uses.

If the processing option is set to print summarized transactions, the general ledger date is the end date of the period. If the processing option is set to print detail transactions, the general ledger date is the general ledger date of the transaction.

- Accounts with the same object account and subsidiary, but with different business units, appear as the same account.
- You can display information for multiple accounting periods.
- Every record on the general journal is numbered sequentially.

You use the processing options to enter a specific starting number.

The sequence of information on the general journal report depends on whether the report is run in detail or summary mode, and whether the report is run by object account or by category code. To meet statutory requirements, information on the general journal is sequenced as follows:

General Journal	Report Sequence
Detail mode, by object account	Report sequence: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Company</li> <li>• Period</li> <li>• G/L date</li> <li>• Object and subsidiary</li> </ul>

Detail mode, by category code	Report sequence: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Company</li> <li>• Period</li> <li>• General ledger date</li> <li>• Category code value</li> </ul>
Summary mode, by object account	Report sequence: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Company</li> <li>• Period</li> <li>• Object and subsidiary</li> </ul>
Summary mode, by category code	Report sequence: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Company</li> <li>• Period</li> <li>• Category code value</li> </ul>

## Processing Options for G/J by Obj. Account or Cat. Code – Spain (R74S490)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

### Report Detail

- 1. From Number** Enter the from number to begin numbering the lines of the report. If you leave this processing option blank, the numbering will begin with 1.
- 2. From and To Fiscal Period/Year** Specify the from period and fiscal year and the to period and fiscal year in which to show account balances in detail.
- 3. Summarized Transactions** Specify whether to print summarized transaction. Values are:  
Blank: Print detail transactions.  
1: Print summarized transactions.

### Category Code

- 1. Category Code** Specify the category code that contains the alternate chart of accounts. The report prints the corresponding accounts. Valid category codes are 21–23. If you leave this processing option blank, the accounts that print on the report are based on the object.account.subsidiary values.

### Currency

- 1. As-If Currency** Specify an as if currency code in which to print amounts for this report. This processing option allows you to review amounts in a currency other than the currency in which they are stored. Only amounts associated with the AA ledger type are converted to the as if currency. If you enter an as

if currency code, the decimal point for the journal entry currency must be the same as the decimal point for the as if currency.

If you leave this processing option blank, use the data selection to select only ledger types that use the same currency. Amounts do not print in an as if currency and the As If Currency column does not appear on the report.

## 2. As-Of Date

Specify the date on which to retrieve the exchange rate for the as if currency from the F0015 table. If you enter a value for the As If Currency Code processing option and leave this processing option blank, the system uses the current date.

## R74S560 – (ESP) G/L by Obj. Account – Spain

The G/L by Obj. Account – Spain report includes detailed information about account transactions. You can use the report to:

- Review transactions within individual accounts.
- Research accounts that are out of balance.
- Verify account accuracy.

You also use this report to open and audit accounts with the same control totals as the journal report. The accounts and the totals are the basis of the trial balance.

In Spain, businesses use the G/L by Obj. Account – Spain report as a basis for:

- Internal auditing, as a control of account accuracy.
- External auditing by a third-party, such as a fiscal authority or auditing firm.

The report includes this information:

- Beginning and ending balances for each account.
- Transactions that are based on a period selection or a date range selection.
- Prior year-end balance or previous-period balance, depending on the transaction types that you select.
- Balance forward amount printed at the bottom of the page when a page break occurs within an account.
- Previous balance amount printed after a page break within an account.
- Option to omit account with zero balances.
- Option to print posted and unposted transactions.
- Detail information by subsidiary or by object account only.
- Totals by period and by account.

Accounts with the same object account but different business units are recognized as the same account for the report.

Businesses print the G/L by Obj. Account – Spain report at least once a year for all accounts, typically, at the end of the fiscal year. The total debits and credits that print on the report should equal the total debits and credits of the Trial Balance and G/L Registration reports.

## Processing Options for G/L by Obj. Account – Spain (R74S560)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.



## Report Detail

- 1. From Period or Date** Specify a from period or enter a from date to show account balances. For the from period, values are:
- Blank: Year to date
- 1: Current period
- 2: Inception to date.
- 2. Thru Period Number/Fiscal Year or Date** Specify a through period and fiscal year or enter or a through date.

## Print

- 3. Units** Enter 1 to print units or leave this processing option blank to print amounts only.
- 4. Balances** Enter 1 to omit accounts without balances or leave this processing option blank to include accounts with balances.
- 5. Detail Information** Enter 1 to show detail information by subsidiary or leave this processing option blank to show detail information by object account only.
- 6. Totals** Enter 1 to create totals by company or leave this processing option to not create totals by company.
- 7. Model Business Unit** Enter the model business unit to use for descriptions of the accounts. If you leave this processing option blank, the system uses the descriptions of the first account found.

## Document

- 8. Ledger Type** Enter a ledger type code or leave this processing option blank to specify ledger type AA (actual amounts).
- 9. Document Type** Enter a document type to use if you entered a specific ledger type code or leave this processing option blank to include all document types.
- 10. Transactions** Enter 1 to print posted and unposted transactions or leave this processing option blank to print only posted transactions.

## Subledger

- 11. Subledger** Enter a specific subledger or enter \* to include all subledgers.
- 12. Subledger Type** Enter a subledger type if you entered a specific subledger in the Subledger processing option.

## Currency

- 13. Currency Code** Enter a specific currency code or enter \* for all currency codes.
- Alternatively, specify an as if currency code in which to print amounts for this report. This processing option allows you to review amounts in a currency other than the currency in which they are stored. Only amounts associated with the AA ledger type are converted to the as if currency. Specify the

date on which to retrieve the exchange rate for the as if currency from the F0015 table. If you enter a value for the As If Currency Code processing option and leave this processing option blank, the system uses the current date.

## R74S570 – (ESP) T/B by Obj. Account

Businesses in Spain are required to submit a trial balance to the Spanish tax authority. The statutory trial balance must be organized and summarized by object account. Businesses often print the T/B by Obj. Account report to facilitate:

- Internal audits and verify one or more accounts.
- External audits as required by a fiscal authority or auditing firm.

You can print the T/B by Obj. Account report to review the total debit and credit amounts for each account in any given ledger. You can also find errors that cause the general ledger to be out of balance. Possible errors might include incorrect entries or missing transactions.

The T/B by Obj. Account report for Spain includes these features:

- Recognition of accounts with the same object account but different business units as the same account in the report.
- Information selection by a specific period and fiscal year, and for a specific level of detail.
- Ledger type selection.
- Selection of a specific business unit to retrieve the account descriptions.
- Optional totals by company.
- Option to include accounts with zero balances.

## Processing Options for T/B by Obj. Account (R74S570)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

### Report Period

- |   |  |
|---|--|
| <b>1. Accounting Period and Fiscal Year</b> | Enter the accounting period and the fiscal year. If you leave these processing options blank, the system uses the period and fiscal year of the financial reporting date of the company. |
|---|--|

### Ledger Type

- |                       |  |
|-----------------------|--|
| <b>1. Ledger Type</b> | Enter up to three ledger types. If you leave all three processing options blank, the system uses ledger type AA. |
|-----------------------|--|

### Business Unit

- |                               |   |
|-------------------------------|---|
| <b>1. Model Business Unit</b> | Enter the model business unit to be use for the account descriptions. If you leave this processing option blank, the transaction descriptions are used. |
|-------------------------------|---|

## Zero Balance

### 1. Zero Balance

Enter 1 to print accounts with zero balances or leave this processing option to not print them.

## Totaling Level

### Totaling Level

Enter the 1–4 character totaling level for the account. For example, Totaling Level 2 = Class Total (1) and Sub-class Total (10).

If you leave this processing option blank, the system uses totaling level 2.

## Mode

### 1. Report Mode

Enter 1 to run the report in final mode or leave this processing option to run it in proof mode.

---

**注:** You can run this report in final mode only once for the selected period and fiscal year. If you run the report again in final mode, the transactions will not appear.

---

## Summarization

### 1. Summarization

Enter 1 to summarize all subsidiary accounts into one object account. If you leave this processing option blank, subsidiary accounts are not summarized.

## Currency

### 1. As-If Currency

Specify an as if currency code in which to print amounts for this report. This processing option allows you to review amounts in a currency other than the currency in which they are stored.

If you leave this processing option blank, the company or transaction currency is used.

### 2. As-Of Date

Specify the date on which to retrieve the exchange rate for the as if currency from the F0015 table. If you enter a value for the As If Currency Code processing option and leave this processing option blank, the system uses the current date.

## R74U0137 – (GBR) End of Year Return CIS36

The End of Year Return CIS36 program generates an annual report that summarizes payments and deductions made during the tax year to all CIS subcontractors, regardless of the card or certificate that they hold. You can use the data selection to select subcontractors who hold specific cards or certificates, or you can select all subcontractors.

## R74U137A – (GBR) End of Year Return CIS36 – CIS4

The End of Year Return CIS36 – CIS4 program generates an annual report that summarizes payments and deductions made during the tax year to CIS subcontractors who hold CIS4 registration cards.

## R74U0137B – (GBR) End of Year Return CIS36 – CIS5

The End of Year Return CIS36 – CIS5 program generates an annual report that summarizes payments and deductions made during the tax year to CIS subcontractors who hold CIS5 construction tax certificates.

## R74U0137C – (GBR) End of Year Return CIS36 – CIS6

The End of Year Return CIS36 – CIS6 program generates an annual report that summarizes payments and deductions made during the tax year to CIS subcontractors who hold CIS6 subcontractor tax certificates.

## Processing Options for End of Year Return CIS36 (R74U0137, R74U0137A, R74U0137B, and R74U0137C)

Processing options enable you to specify the default processing for programs and reports.

### Dates

- |  |   |
|--|---|
| <b>1. Date – From and 2. Date – Thru</b> | Enter the beginning and ending dates in which to include data for the report in these processing options. |
|--|---|

### Process

- |                              |  |
|------------------------------|--|
| <b>1. Mode</b>               | Enter 1 to print the report in final mode or leave this processing option blank to print it in proof mode. |
| <b>2. CIS Voucher Status</b> | Enter the CIS voucher status.  |

## R76321B – (BRA) Transaction Journal

To comply with specific Brazilian legal requirements and business practices, companies must keep detailed records of all transactions. The Brazilian government can audit companies at any time to verify that commercial transactions are being performed within legal requirements.

The General Ledger (Livro Razo) and the Transaction Journal (Dirio Geral da Contabilidade) are two of the basic elements that companies are required to maintain and submit for auditing.

You print the Brazilian Transaction Journal to list and total all of the journal entries in the Journal Entry Book by company, day, and accounting period. The system prints an ending balance for each page and carries that balance forward to the next page so that each page of the journal can stand alone.

The Brazilian Transaction Journal report includes an opening statement (Termo de Abertura) for the first page and a closing statement (Termo de Encerramento) for the last page. The opening and closing statements include this company information:

- Purpose of the book.
- Number of the book.
- Number of pages.
- Business to which the book pertains.
- Business name.
- Business address.
- Number assigned to the business by the Junta Comercial.

- Taxpayer identification number.
- Company administrator and accountant authorization of the closing of the accounting period.

The statements also include information about the journal, such as the fiscal book number and the total number of pages.

## Processing Options for Transaction Journal (R76321B)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

### Print Options

- |   |   |
|---|---|
| <b>1. Mode</b>                          | Enter 1 to run the report in final mode. The system updates the next number of the fiscal book that is based on the next numbers which you have set up for the company.<br><br>If you leave this processing option blank, the report does not update the page number. |
| <b>2. Opening and Closing Statement</b> | Enter 1 to print Opening Statement and Closing Statement on the report. If you are running the report in final mode, you must enter 1 for this processing option.   |
| <b>3. Subledgers</b>                    | Enter 1 to print subledgers on the report.  |
| <b>4. JE Explanation</b>                | Specify one of these values:<br>1: Print JE explanation 1<br>2: Print JE explanation 2<br><br>If you leave this processing option blank, both explanation 1 and explanation 2 print on the report.  |
| <b>5. Pages</b>                         | Enter the number of pages to include between the last page and Closing Statement.   |
| <b>6. Statement Codes</b>               | Enter statement codes in the Opening and Closing processing options. Values are:<br>A: Opening statement codes (default).<br>E: Closing statement codes.  |

### Dates

- |   |   |
|---|---|
| <b>1. Report Date</b>                           | Enter the report (issue) date. If you leave this processing option blank, the system date is used. This date will be updated in the next numbers table if you run the report in final mode. |
| <b>2. Beginning Date and 3. Ending Date</b>     | Enter the beginning and ending date to use for the transactions.  |
| <b>4. Reference Month and 5. Reference Year</b> | Enter the reference month and year to print in the report header.   |
| <b>6. Suppress Printing</b>                     | Enter 1 to not print the transaction date in the report header or leave this processing option blank to print the transaction date.   |

## Company

- 1. Company** Enter the company to print in the report header. This processing option is required.

## Book Code

- 1. Book Code** Enter the book code or leave this processing option blank for DG.

## R76B09410 – (BRA) Four Columns Trial Balance

The Four Column Trial Balance report is a balance report that prints debit and credit total amounts for each account. The debit/credit format is a legal requirement in Brazil and allows accountants and auditors to quickly locate the source of any discrepancies within a company's accounts.

The Four Column Trial Balance report uses information from the F0902 table, which includes fields for Amount Net Debit Posting 01 – Amount Net Debit Posting 14. The report includes these columns:

- Beginning Balance
- Total Debits
- Total Credits
- Actual Balance

You cannot change the data sequencing for this program.

---

**注:** If you recently installed PeopleSoft EnterpriseOne 8.11 and you have not yet run the Four Column Trial Balance report, run the Repost Account Ledger program (R099102) to copy the existing debit amounts from the F0911 table to the F0902 table.

---

## Processing Options for the Four Columns Trial Balance Report (R76B09410)

The processing options for the Four Column Trial Balance report are similar to those for other trial balance reports.

### Period

- 1. Fiscal Year and Period Number** For the fiscal year, specify the last two digits of the fiscal year, for example, enter 07 for 2007. If you complete the Fiscal Year processing option, you must also complete the Period Number processing option.
- For the period number, specify the period. If you complete the Period Number processing option, you must also complete the Fiscal Year processing option.

### Print

- Print** Specify whether to include accounts with zero balances for the specified period. Values are:
- Blank. Include accounts with zero balances.
- 1: Do not include accounts with zero balances.

Accounts that are assigned a posting edit code N print even when you set this processing option to 1. Accounts that are assigned a posting edit code N are header accounts, which do not have balances.

## LOD

### Level of Detail

Specify the lowest level of detail (3–9) to print on the report. For example, if you specify level 7 as the lowest level and your chart of accounts includes levels 8 and 9, level 7 will include the totals for accounts with level 8 and 9 amounts, but the system will not print the detail for levels 8 and 9. If your chart of accounts skips levels, the system might produce inaccurate results when it rolls up detail levels.

Alternatively, you can leave this processing option blank to print all levels of detail on the report.

## Ledger

### Ledger Type

Specify the type of ledger. Enter a value from UDC table 09/LT. If you do not complete this processing option, the system prints amounts for ledger type AA.

If you specify the CA ledger type and the CA ledger type includes amounts for multiple currencies, the totals will be meaningless.

## Currency

### Currency Code

Specify the currency that the system includes in the report when you post account balances by currency. To limit the report to amounts for a specific currency code, enter the code for the currency. The value that you enter must exist in the F0013 table. To include amounts for all currencies, enter \*.

Leave this processing option blank if you do not post balances by currency.

## R76B420 – (BRA) General Ledger

To comply with specific Brazilian legal requirements and business practices, companies must keep detailed records of all transactions. The Brazilian government can audit companies at any time to verify that commercial transactions are being performed within legal requirements.

The General Ledger (Livro Razo) and the Transaction Journal (Dirio Geral da Contabilidade) are two of the basic elements that companies are required to maintain and submit for auditing.

You can print the General Ledger report to list all transactions by company and general ledger account for a specific accounting period. The report includes all general ledger accounts with a posting edit code, even if the amount for the account is zero. In addition, the report includes totals by transaction, period, account, and company. If the list of transactions for an account is interrupted by a page break, the system prints an ending balance on the page and continues on the next page with a balance carried forward amount.

## Processing Options for G/L by Business Unit (R76B420)

Processing options enable you to specify the default processing for reports.

## From/Thru Date

- |  |   |
|--|---|
| <b>1. From Period/Date</b>                     | Specify a from period or enter a from date in which to begin printing account balances in detail. For a from period, values are:<br>0: Year to date.<br>1: Current period.<br>2: Inception to date. |
| <b>2. Thru Fiscal Year/Period or Thru Date</b> | Specify a through fiscal year and fiscal period or enter a through date in which to print account balances in detail. for which the account balances are to be shown in detail.                     |

## Print

- |                                |   |
|--------------------------------|---|
| <b>1. Account Number</b>       | Specify one of these account formats to use to print account numbers on the report:<br>1: Account number (default).<br>2: Short account ID.<br>3: Unstructured account. |
| <b>2. Print Units (FUTURE)</b> | Reserved for future use.  |
| <b>3. New Page</b>             | Enter 1 to skip to a new page when a new business unit is printed or leave this processing option blank to print without page breaks.                                   |
| <b>4. Omit Accounts</b>        | Enter 1 omit accounts that have no balance or detail for the selected period to print on the report.  |

## Document

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| <b>1. Ledger Type</b>            | Enter a ledger type code from UDC table 09/LT or leave this processing option blank to include ledger type AA.                  |
| <b>2. Document Type (FUTURE)</b> | Reserved for future use.  |
| <b>3. Posted/Unposted</b>        | Enter 1 to print both posted and unposted transactions or leave this processing option blank to print only posted transactions. |

## Subledger

- |   |   |
|---|---|
| <b>1. Subledger and 2. Subledger Type</b> | Enter a specific subledger or enter * to print include all subledgers. If you enter a specific subledger, you must also enter a subledger type. |
| <b>3. Print Subledger</b>                 | Enter 1 to print the subledger on the report or leave this processing option blank if you do not want subledger to print.                       |

## Currency

- |                                  |                          |
|----------------------------------|--------------------------|
| <b>1. Currency Code (FUTURE)</b> | Reserved for future use. |
|----------------------------------|--------------------------|



## Summary

1. **Summary** Specify a specific business unit type for object range summarization or enter + to include all types or \* to include all non-blank types.
2. **Business Unit Type** Enter a beginning and an ending object for the object account range for account summarization.

## Date Order

1. **Date Order** Enter 1 to print detail information in ascending date order or leave this processing option blank to print in descending date order.

## Company

1. **Company Number** Enter a company number to print for each page heading.

## R76C0911 – (COL) General Journal by Category Code 21, 22, 23

These reports print balance information for category 21, 22, and 23, which are useful for statutory accounting.

### Processing Options for General Journal by Category Code 21, 22, 23 (R76C0911)

Set the processing options for the General Journal by Category Code 21, General Journal by Category Code 22, or General Journal by Category Code 23.

#### Dates

**Dates From and Dates To** Enter the date range in which to print transactions.

#### Cat. Code

**Category Code** Enter the category code 21, 22, or 23 in which the PUC is specified.

## R76C0911A – (COL) General Ledger with Total by Object Account

This report prints a daily book that has been developed according to the DIAN reports requirements.

### Processing Options for General Ledger with Total by Object Account (R76C0911A)

Set these processing options for the General Ledger with Total by Object Account.

#### Dates

**Dates From and Dates To** Enter the date range in which to print transactions.

## R76C094 – (COL) Inventory and Balance Sheet by Category Code

To ensure that accounts without balances do not print on the Inventory and Balance Sheet by Object Account report, enter N(inactive PUC accounts) in the Description 02 field of the code in UDC tables 09/21, 09/22, and 09/23.

Before you run this report, run these required programs from Fiscal Books by Category Code (G76C151):

- Update Level in Category Code program (R76C0907) from Fiscal Books by Category Code (G76C151).

This program updates the detail level of the accounts in category code 13 from UDC table 09/13 to generate reports by category code. Running the update program makes the Inventory and Balance Sheet by Object Account report process faster. This update program might take several hours to process records.

- Data File Generation A/P program (R04901A).

In the processing options, enter the as of date in which you will run the Inventory and Balance Sheet by Object Account report.

- Data File Generation A/R program (R76C03B11).

In the processing options, enter the as of date in which you will run the Inventory and Balance Sheet by Object Account report.

## Processing Options for Inventory and Balance Sheet by Category Code (R76C094)

Set these processing options for the Inventory and Balance Sheet by Object Account report.

### Period

- |                  |  |
|------------------|--|
| <b>1. Period</b> | Enter the fiscal year and period number to generate the report. These dates must match the dates entered for the Data File Generation A/R and Data File Generation A/P programs. |
|------------------|--|

### Print Options

- |   |  |
|---|--|
| <b>1. Zero Accounts</b>                                     | Leave this processing option blank to include active accounts with zero amounts in the report. Enter 1 to suppress printing of accounts with zero amounts.                               |
| <b>2. A/P Third Party</b><br>(accounts payable third party) | Leave this processing option blank to include detailed balances by accounts payable subledger. Enter 1 to suppress printing of detailed balances.  |
| <b>3. A/R Third Party</b>                                   | Leave this processing option blank to include detailed balances by accounts receivable subledger. Enter 1 to suppress the printing of detailed balances.                                 |
| <b>4. Other Third Party</b>                                 | Leave this processing option blank to include detailed balances for accounts different from accounts payable and accounts receivable. Enter 1 to suppress printing of detailed balances. |

**Level****1. Level of Detail**

Enter the detail level for category code 21 for which inventory and balance report generation is required. If you leave this processing option blank, the system prints all levels.

**Ledger****1. Ledger Type**

Enter the ledger type from UDC table 09/LT in which to generate the report. If you generate more than one ledger type (book), separate the ledgers with a comma.

If you leave this processing option blank, the system uses ledger type AA.

**Cat Code****PUC Category Code – Colombia**

Enter the category code (21) from which information is retrieved for the report.

**Category Code used for PUC levels – Colombia**

Enter 13 for this processing option. This value is required. It corresponds to category code 09/13 and contains PUC level accounts, which are updated by the Update Level in Category Code programs.

**R76C094B – (COL) Inventory and Balance Sheet by Object Account**

This report generates the inventory and balance fiscal book by object account.

**Processing Options for Inventory and Balance Sheet by Object Account (R76C094B)**

The processing options for this report are the same as those for the Inventory and Balance Sheet by Category Code report.

参照: 付録 G、「EnterpriseOne 一般会計レポート」、「Processing Options for Inventory and Balance Sheet by Category Code (R76C094)」、620ページ

**R76C0941 – (COL) Trial Balance by Category Code**

This report prints if the PUC is assigned category code 21, 22, or 23 in the chart of accounts.

**Processing Options for Trial Balance by Category Code (R76C0941)**

Set these processing options for the Trial Balance by Category Code report.

**Period****1. Fiscal Year and Period Number**

Enter the fiscal year and period number in which to generate the report.

**1. Level****Printing Level**

Specify the account level of detail for category code 21. Ensure that you associate a level to the category code to print header and total lines.

If you leave this processing option blank, the system prints all levels.

## Ledger

### 1. Ledger Types

Enter the ledger type from UDC table 09/LT in which to generate the report. If you generate more than one ledger type (book), separate the ledgers with a comma.

If you leave this processing option blank, the system uses ledger type AA.

## Cat Code

### PUC Category Code – Colombia

Enter the category code (21) from which information is retrieved for the report.

### Category Code used for PUC levels – Colombia

Enter 13 for this processing option. This value is required. It corresponds to category code 09/13 and contains PUC level accounts, which are updated by the Update Level in Category Code programs.

## R76C09411 – (COL) Debits and Credits T/B by Object Account

This general ledger report is organized by object account and has been developed according to DIAN reports requirements. The PUC is specified in the object account.

Review the data selection for this report to ensure that it corresponds to the processing options that you set for the report. For the process number, specify the next number from UDC table 76C/02.

## Processing Options for Debits and Credits T/B by Object Account (R76C09411)

The processing options for this report are the same as those for the Trial Balance Report (R09410), except for the additional processing options described in this section.

参照: 付録 G、「EnterpriseOne 一般会計レポート」、「試算表 (R09410) の処理オプション」、575ページ

## Process

### 1. Regenerate F76C0902

Enter 1 to regenerate the F76C0902 table and print the report with a new data selection. If you enter any other value, the report does not regenerate the table.

### 2. Company

Specify the company in which to generate the report. If you leave this processing option blank, the report includes all companies (consolidation).

### 3. Purge Files

Specify whether to purge tables for the company specified in the Company processing option. Values are:

Blank: Do not purge tables

1: Purge tables.

## Group

### 1. Group

Specify how to group the report. Values are:

1: Group by business unit

- 2: Group by company
- 3: Group all companies

## Title

- 1. Optional Report Title** Enter a title for the report in the processing options for Line 1 and Line 2.

## Version

- 1. Version** Enter the version for the R76C0902A

## R76C094211 – (COL) G/L with Subledger Totals

This report prints only subledgers with activity during the period you specify in the processing options.

### Processing Options for G/L with Subledger Totals (R76C094211)

Set these processing options for the G/L with Subledger Totals report.

#### Ledger Type

- Ledger Type I, Ledger Type II, Ledger Type III, and Ledger Type IV** Specify a ledger type from UDC table 09/LT. You can specify up to four ledger types.

#### Subledger

- Subledger** Specify the general ledger subledger. If you leave this processing option blank, the system uses \* for all subledgers.

## R76C9415B – (COL) Daily Books by Complete Document Report

This report prints a general ledger that includes all accounting transactions with matching documents.

When you run this report, the system stores the selected data from the F0911 table to a temporary table (F76C9415), then sorts the data by company, document type, batch type, and account number. The system uses these fields as level breaks in the report. The report includes three columns: Account Number and Description, Debits, and Credits.

---

**注:** Use Data Selection to limit the records selected from the F0911 table. For example, you might specify the dates of the records to select. If you do not use limit the data selection, the processing time might be excessive.

---

## R76C9422 – (COL) G/L by Object Account with Subledger Total

This report prints a general ledger with subledger totals for active subledgers for the period specified in the processing options. The report includes previous balances by subledger. The report has been developed according to the DIAN reports requirements.

## Processing Options for G/L by Object Account with Subledger Total (R76C9422)

Set these processing options for the G/L by Object Account with Subledger Total report.

### Content

- 1. Report Content** Specify the transactions to show in detail (not summarized as a balance forward). Values are:
- 0: Year to date.
  - 1: Current period.
  - 2: Inception to date.
  - 3: Period Range. (You must enter dates in the second processing on the Dates tab.

### Dates

- 1. Fiscal Year and Period** Enter the fiscal year and period for which the general ledger is to be prepared. If you leave this processing option blank, the system uses the financial reporting year and period for the company.
- 2. Fiscal Year and Period** Enter the fiscal year and period number if the Report Content processing option is 3.

### Print

- 1. Account Format** Specify the account number to print.
- 1: Account number.
  - 2: Short account ID.
  - 3: Unstructured account.
- 2. Print Units** Specify whether to print units. Values are:
- Blank: Do not print units. (Print amounts only.)
  - 1: Print units.
- 3. Omit Zero Balance** Specify whether to include accounts that have no balance and no detail for the specified period. Values are:
- Blank: Include accounts.
  - 1: Omit accounts.

### Document

- 1. Document Type** Specify whether to include a document type if a specific ledger is used. If you leave this processing option blank, all document types are included.
- 2. Subledger** Enter a specific subledger or enter \* for all subledgers.
- 3. Subledger Type** Enter the subledger type if you entered a specific subledger in the Subledger processing option.

## Currency

- 1. Currency Code** Enter a specific currency code or enter \* for all currency codes.

## Ledger Type

- 1. Ledger Types** Enter the ledger types to print on the report. If you leave the first processing option blank, the system uses ledger type AA.
- Enter values for the three remaining Ledger Type processing options, if applicable.

## R76H9003 – (CHL and PER) Print G/L Journal and Assign Legal Number

Before you print this report, you can access the information online. Select General Accounting (G76H09) or General Accounting (G76P09), Journal Entries Inquiry by Legal. Number.

This form displays the initial legal number for the company by fiscal year. When you run the Print G/L Journal and Assign Legal Number report, this number appears on the report. The Debit and Credit balances that appear on the form are the accumulated balances for the corresponding period. When you run the Print G/L Journal and Assign Legal Number report, these amounts appear on the report. You can modify them manually on the form, if necessary.

## Processing Options for Print G/L Journal and Assign Legal Number (R76H9003)

Use these processing options to specify the processing mode, the document type to use for page numbers on the report, and so on.

### Mode

- Mode** Specify the processing mode in which to run the report. Values are:
- Blank: Proof mode. The system starts the page numbering with 1.
- 1: Final mode. The system uses the next number of the company and document type for the page number

### Print Options

- 1. Document Type** Specify the document type to use to retrieve the next number by company. The document type must exist in UDC table 00/DT. The system uses next numbers by company and document type to assign the page number on the report.
- If you leave this processing option blank, no page number is assigned.
- 2. Print Report Title** Specify whether to print the report title.
- Blank: Print the report title. The system uses the titles from the Report Title and Report Title Continuation processing options.
- 1: Do not print the report title.
- 3. Report Title** Enter the report title that you want to appear in the report heading.
- 4. Report Title Continuation** Enter the remainder of the report title, if applicable.

## Dates

- 1. From Date and 2. Thru Date** Specify the beginning and ending dates in which to print detailed journal entries for this report.

## Company

- 1. Legal Company** Specify the company number in which to retrieve general ledger balances. If you leave this processing option blank, the system uses company 00000.
- 2. Ledger Type** Specify the ledger type code from the UDC table 76H/XX (76H is the product code, and XX is the user-defined code). The system uses LL (Ledger types to process) as the default value.

## Options

- 1. Account Number Category Code** Specify the account number category code to print on the report. Values are 21, 22, and 23.
- If you leave this processing option blank, the system prints the account number.

## Adjustments

- 1. Adjustment Registration Date** Specify a registration date to use for the report. If you leave this processing option blank, the system uses the general ledger date of the adjustment.
- 2. Registration Entry** Specify how the system determines the next available registration number for adjustments. Values are:
- Blank: Use the fiscal year from the registration date in the Adjustment Registration Date processing option.
- 1: Use the fiscal year from the general ledger date of the adjustment. This value is not recommended.

## Currency

- 1. As if Currency** Specify the currency code to use for as if currency reporting. Use this processing option to convert and print amounts in a currency different from the currency in which they were originally entered. If you leave this processing option blank, amounts print in the domestic currency of the company.
- 2. As if Date** Enter the as if date to use to retrieve the exchange rate for the currency specified in the As if Currency processing option.
- If you leave this processing option blank, the system uses the system date to retrieve the exchange rate.

## R76H9001 – (CHL and PER) Balance by Object Account

This report shows debit and credit balances from the F76H902T table. Information in this table is updated when you update the F0902 table.



## Processing Options for Balance by Object Account (R76H9001)

Use these processing options to specify how to print cost centers, the level of detail in which to summarize balances, the process method, and so on.

### Process

1. **Cost Center** Specify how to print cost centers. Values are:  
Blank: Print detail by cost center.  
1: Print all of the cost centers for a legal company and print summary information for the object and subsidiary account.
2. **Level of Detail** Specify the level of detail. The system summarizes all general ledger balances by the account level of detail specified. Values are 3–9. The default value is 9.
3. **Legal Company** Specify the company number in which to retrieve general ledger balances.
4. **Process Method** Specify the process method. Values are:  
Blank: Print asset and liabilities according to the operation sign. Asset accounts appear with a positive sign in the Asset column and liabilities appear with a negative sign in the Liability column.  
A: Print asset accounts in the Asset column and liability accounts in the Liability column according to AAI items GLG2 (Beginning Assets) and GLG3 (Beginning Liabilities).
5. **Mode** Specify the processing mode in which to run the report. Values are:  
Blank: Proof (trial) mode.  
1: Final mode.
6. **Business Unit** Specify the business unit in which to print object and subsidiary accounts.
- Ledger Type** Specify the ledger type code from the UDC table 76H/XX (76H is the product code, and XX is the user-defined code). The system uses LL (ledger types to process) as the default value.
- Category Code** Specify the category code (UDC table 09/21–09/23) in which to group the general ledger accounts. The category code description appears on the report instead of the general ledger account.  
  
If you leave this processing option blank, balances are grouped by object and subsidiary account.

### Print Options

- Document Type** Specify the document type to use to retrieve the next number by company. The document type must exist in UDC table 00/DT. The system uses next numbers by company and document type to assign the page number on the report.  
  
If you leave this processing option blank, no page number is assigned.
- Print Report Title** Specify whether to print the report title.

Blank: Print the report title. The system uses the titles from the Report Title and Report Title Continuation processing options.

1: Do not print the report title.

**Report Title**

Enter the report title that you want to appear in the report heading.

**Report Title Continuation**

Enter the remainder of the report title, if applicable.

**Legal Company Information**

Specify whether to print legal company information.

Blank: Print the legal company information on the report. The system uses the legal company information from the Address Book system, which includes registered name, address, company's line of business, agents, and representatives.

1: Do not print the legal company information on the report.

**Accounts with Zero Amounts**

Specify whether to print accounts with zero amounts.

Blank: Do not print accounts with zero amounts.

1: Print accounts with zero amounts.

2: Do not print accounts with zero amounts and with the same level of detail that is specified in the Level of Detail processing option.

**Dates**

**Period Number**

Specify the tax period to print on the report.

**Fiscal Year**

Specify the fiscal year to print on the report.

## R76H9005 – (CHL and PER) Print Number (folio) Blank Pages

The decimal position for amounts that appear on this general ledger legal report are defined for each currency in the Designate Currency Codes program (P0013). You can print unique page numbers for all reports or unique page numbers for individual reports and, if necessary, you can print page numbers on blank pages. Do not enter data selection.

## Processing Options for Print Number (folio) Blank Pages (R76H9005)

Use these processing options to specify information such as company, from where to retrieve the initial page number, and information to include in the report heading.

**General**

**1. Legal Company**

Specify the company number in which to retrieve the transactions.

**2. Document Type**

Specify the document type to use to retrieve the next number by company. The document type must exist in UDC table 00/DT. The system uses next numbers by company and document type to assign the page number on the report.

If you leave this processing option blank, the number specified in the Initial Number processing option is used as the initial page number.

**3. Initial Number**

Enter the initial page number to use. Ensure that the Document Type processing option is blank.

If you leave this processing option blank, the system uses next numbers by company for the document type specified in the Document Type processing option.

## Printing

1. **Pages Quantity** Specify the number of pages to print.
2. **Titles** Specify whether to print the report title.  
  
Blank: Print the report title. The system uses the titles from the Legal Company Information and Report Title processing options.  
1: Do not print the report title.
3. **Legal Company Information** Specify whether to print legal company information.  
  
Blank: Print the legal company information on the report. The system uses the legal company information from the Address Book system, which includes registered name, address, company's line of business, agents, and representatives.  
1: Do not print the legal company information on the report.
4. **Report Title** Enter the report title to appear in the report heading.
5. **Report Title Continuation** Enter the remainder of the report title, if applicable.

## R76H9421 – (CHL and PER) Account Ledger by Object Account

This report uses the standard processing options available for the General Ledger by Object Account report as well as specific processing options for localization. Versions exist for each category code (21–23).

### Data Selection and Sequence for Account Ledger by Object Account (R76H9421)

Data selection is by general ledger accounts with the category code specified in the version. Data sequence is by legal company, category code, and general ledger account ID.

### Processing Options for Account Ledger by Object Account (R76H9421)

These processing options are specific for localizations.

#### Localization options

1. **Document Type** Specify the document type to use to retrieve the next number by company. The document type must exist in UDC table 00/DT. The system uses next numbers by company and document type to assign the page number on the report.  
  
If you leave this processing option blank, no page number is assigned.
2. **Print Report Title** Specify whether to print the report title.  
  
Blank: Print the report title. The system uses the titles from the Report Title and Report Title Continuation processing options.  
1: Do not print the report title.

- 3. Report Title** Enter the report title that you want to appear in the report heading.
- 4. Report Title Continuation** Enter the remainder of the report title, if applicable.
- 5. Legal Company Information** Specify whether to print the legal company information in the heading of the report.
- Blank: Print the legal company information in the heading of the report. The system uses the legal company information from the Address Book system, which includes registered name, address, company's line of business, agents, and representatives.
- 1: Do not print the legal company information in the heading on the report.
- Legal Company** Specify the company number in which to retrieve the transactions.
- Mode** Specify the processing mode in which to run the report. Values are:
- Blank: Proof mode. The system starts the page numbering with 1.
- 1: Final mode. The system uses the next number of the company and document type for the page number

## R76P9470 – (CHL and PER) Account Ledger by Category Code

This report uses the standard processing options available for the General Ledger by Object Account report as well as specific processing options for localization.

### Processing Options for Account Ledger by Category Code (R76P9470)

These processing options are specific for localizations.

#### Localization

- 1. Document Type** Specify the document type to use to retrieve the next number by company. The document type must exist in UDC table 00/DT. The system uses next numbers by company and document type to assign the page number on the report.
- If you leave this processing option blank, no page number is assigned.
- 2. Print Report Title** Specify whether to print the report title.
- Blank: Print the report title. The system uses the titles from the Report Title and Report Title Continuation processing options.
- 1: Do not print the report title.
- 3. Report Title** Enter the report title that you want to appear in the report heading.
- 4. Report Title Continuation** Enter the remainder of the report title, if applicable.
- 5. Legal Company Information** Enter the legal company.
- 6. Legal Company** Specify whether to print the legal company information in the heading of the report.
- Blank: Print the legal company information in the heading of the report. The system uses the legal company information from the Address Book system,

which includes registered name, address, company's line of business, agents, and representatives.

1: Do not print the legal company information in the heading on the report.



# EnterpriseOne 用語集

DNT - 変換なし	BLOB データの制約のため、iSeries サーバーに必要なデータソースのタイプです。
EnterpriseOne オブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネスビュー、イベントルール、バージョン、データ構造体、メディアオブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne プロセス	EnterpriseOne クライアントと EnterpriseOne サーバーでのプロセスリクエストの処理とトランザクションの実行のためのソフトウェア プロセスです。クライアントでは 1 つのプロセスが実行され、サーバーでは 1 つのプロセスの複数のインスタンスを処理することができます。EnterpriseOne プロセスをワークフロー メッセージやデータレプリケーションなどの特定のタスク専用指定することで、サーバーが大量のタスクを処理する場合でも重要なプロセスの実行を確保することができます。
FTP サーバー	ファイル転送プロトコルを通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
IServer サービス	JD Edwards 独自のサービスです。このインターネット サーバー サービスは Web サーバーに常駐し、データベースからクライアントへの Java クラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
Java アプリケーション サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネントベースのサーバーです。このサーバーは、データアクセスや永続性と共に、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータアクセスを行うためのデータベースドライバです。
JDEBASE データベースミドルウェア	クライアント/サーバー間のアクセスとプラットフォーム非依存型の API を提供する JD Edwards 独自のデータベースミドルウェア パッケージです。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すための API です。
JD Edwards EnterpriseOne データベース	“JDEBASE データベースミドルウェア”を参照してください。
jde.ini	EnterpriseOne の初期設定に必要なランタイム設定を提供する JD Edwards EnterpriseOne のファイル (または iSeries 用のメンバー) です。EnterpriseOne を実行する各マシンには、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーが含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミングツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制限、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	EnterpriseOne の主要な診断ログ ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルートディレクトリに置かれ、EnterpriseOne の起動時からの状況とエラー メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards 独自の通信ミドルウェア パッケージです。このパッケージは、ピアツーピア、メッセージベース、ソケットベースのマルチプロセス通信ミドルウェアソリューションです。EnterpriseOne の全てのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のために全ての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う “Nota Fiscal” です。

	Nota Fiscal の説明も参照してください。
<b>QBE</b>	Query by Example (例示照会) の略語です。EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
<b>wchar_t</b>	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。
<b>Web アプリケーション サーバー</b>	Web アプリケーションと、バックエンドシステムおよび電子商取引に使用されているデータベースとの間のデータ交換を可能にする Web サーバーです。
<b>Web サーバー</b>	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IP プロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Web サーバーでは、ブラウザからのリクエストへの対応以外にも、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理することができます。どのようなコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Web サーバーとして使用できます。
<b>Windows ターミナル サーバー</b>	マルチ ユーザー機能を持つサーバーであり、このサーバーに接続することで、それ自体では Windows ソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも Windows アプリケーションを使用することができます。全てのクライアント処理は、Windows ターミナル サーバーで集中的に実行され、画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみがネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル サーバー間で転送されます。
<b>XAPI イベント</b>	システム呼び出しを使用して EnterpriseOne のトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムを呼び出すサービスです。
<b>XML CallObject</b>	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
<b>XML サービス</b>	EnterpriseOne システムからイベントをリクエストし、別の EnterpriseOne システムから応答を受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
<b>XML ディスパッチ</b>	EnterpriseOne で受信する全ての XML ドキュメントへの応答のための、単一のエン트리 ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
<b>XML トランザクション</b>	事前定義済みのトランザクション タイプを使用して EnterpriseOne にデータをリクエストしたり、EnterpriseOne からデータを受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。XML トランザクションではインターフェイステーブル機能が使用されます。
<b>XML トランザクション サービス (XTS)</b>	EnterpriseOne のフォーマットではない XML ドキュメントを EnterpriseOne で処理可能なフォーマットに変換するサービスです。このサービスでは、応答時に、変換されたドキュメントが元の (発信側の) XML フォーマットに戻されます。
<b>XML リスト</b>	EnterpriseOne データベース情報のチャンク単位でのリクエスト/受信を可能にするインタオペラビリティ機能です。
<b>Z イベント</b>	インターフェイス テーブル機能を使用して EnterpriseOne トランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムに通知を提供するサービスです。
<b>Z テーブル</b>	EnterpriseOne 以外のデータを保存し、EnterpriseOne 用に変換することができるワークテーブルです。EnterpriseOne データの取得にも Z テーブルを使用できます。Z テーブルはインターフェイス テーブルとも呼ばれます。
<b>Z トランザクション</b>	EnterpriseOne データベースへの更新のためにインターフェイス テーブルで正しくフォーマットされたサードパーティのデータです。
<b>アクティビティ ルール</b>	フロー内でオブジェクトがあるポイントから次のポイントに進むための条件です。



アプリケーション一時変更	代替的なデータ辞書項目の記述であり、現在のオブジェクトのシステムコードに基づいて EnterpriseOne や World で表示されます。
アプリケーション サーバー	ネットワーククライアントに共有されるアプリケーションを含む、ローカル エリア ネットワーク内のサーバーです。
イベントルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行される操作に基づく処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
イベントルールビジネス関数 (NER)	C 言語ではなく、イベントルールを使用して作成され、カプセル化された再利用可能なビジネスロジックです。イベントルールビジネス関数は、“NER” とも呼ばれます。NER は、複数のプログラムの複数の場所で再利用することができます。このモジュラー性の高さによって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
インターフェイス テーブル	“Z テーブル” を参照してください。
インタオペラビリティ モデル	サードパーティシステムから EnterpriseOne への接続やアクセスを行うための機能です。
インテグレーション サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、各種のオペレーティングシステムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
埋め込みイベントルール	特定のテーブルやアプリケーションのためのイベントルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。“イベントルールビジネス関数”とは機能的に対照を成すルールです。
エスカレーション モニター	処理待ちのリクエストや活動を監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過すると、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチプロセスです。
エラー表示の有効化	EnterpriseOne におけるフォームレベルのプロパティであり、有効時にはアプリケーション エラーのエラー メッセージがフォーム上に表示されます。
エンタープライズ サーバー	EnterpriseOne や World のデータベースとロジックを格納するサーバーです。
オープン データ アクセス (ODA)	データの集計とレポートの作成のために、SQL ステートメントを使用して EnterpriseOne のデータを抽出することができるインタオペラビリティ モデルです。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	EnterpriseOne では、ランタイム環境のオブジェクトリクエストブローカーおよび制御センターとして機能します。OCM によって、ビジネス関数、データ、バッチアプリケーションのランタイム ロケーションを追跡します。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCM では、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセス先が指定されます。
オブジェクトライブラリアン	アプリケーションのビルドに再利用可能な全てのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクトライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、EnterpriseOne オブジェクトの作成、変更、使用の制御も行われます。オブジェクトライブラリアンは複数の環境(生産環境や開発環境など)に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動することができます。
オブジェクトライブラリアン マージ	前のリリースでオブジェクトライブラリアンに加えられた全ての変更を新規リリースのオブジェクトライブラリアンに統合するプロセスです。
オフライン機能	サーバーと接続されていないユーザーがトランザクションを入力し、後にサーバーに接続してそれらのトランザクションをアップロードすることができる処理モードです。

拡張プランニング エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読み込みに使用できる EnterpriseOne のツールです。APAg は、リレーショナル データベース、フラットファイル フォーマットおよび XML のような他のデータまたはメッセージ エンコーディング形式によるデータソースへのアクセスをサポートしています。
活動	EnterpriseOne の Form Design Aid で使用される、スケジュール機能をもつエンティティであり、カレンダー上で指定した時間の量を表します。
仮定処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で入力されたように、取引の金額を表示することができる処理です。
環境ワークベンチ	インストール ワークベンチ プロセスの実行時に、各環境の環境情報とオブジェクト構成マネージャテーブルを、プランナ データソースからシステム リリース番号のデータソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準の会計処理と 52 期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、日付を指定して EnterpriseOne の各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や金額を確認することができます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画することが合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
原価要素	EnterpriseOne 製造管理において、特定の品目（資材費、人件費、間接費など）の原価の一要素を表します。
コスト割当	EnterpriseOne 収益性分析のプロセスであり、リソースのトレースや、活動やコストオブジェクトへの配賦に使用されます。
コネクタ	EnterpriseOne とサードパーティアプリケーションの間でのロジックとデータの共有を可能にするコンポーネントベースのインタオペラビリティ（相互運用）モデルです。EnterpriseOne コネクタアーキテクチャには Java コネクタと COM コネクタが含まれています。
コントロール テーブル マージ	顧客が変更したコントロール テーブルを新規リリースのデータに統合するプロセスです。
コントロール テーブル ワークベンチ	インストール ワークベンチの処理中に、プランで指定したデータ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー時変更テーブルを更新するバッチアプリケーションを実行するアプリケーションです。
サーバー ワークベンチ	インストール ワークベンチ プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ データソースからシステム リリース番号データソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
差異	<p>キャピタル アセット マネジメントでは、1 つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した原価の差を意味します。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne プロジェクト原価管理と JD Edwards EnterpriseOne 製造管理では、同じ品目に対する 2 つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差は設計差異です。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。</p>
最終モード	データレコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードのレポート処理モードの 1 つです。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne 製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。稼働可能な日数に基づいて構成部品と作業指示のスケジュールを設定

	できるように、このカレンダーには作業日のみが連続的に表示されます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
<b>差し込み印刷ワークベンチ</b>	業務文書を自動的に印刷するために、Microsoft Word 6.0(またはそれ以上のバージョン)の文書と EnterpriseOne のレコードをマージするアプリケーションです。雇用の証明に関する書式などの文書の印刷に、差し込み印刷ワークベンチを使用することができます。
<b>サブスクリバテーブル</b>	F98DRSUB テーブルを指しています。このテーブルは F98DRPUB テーブルと共にパブリッシャサーバーに置かれ、各パブリッシュ済みテーブルの全てのサブスクリバマシンの識別に使用されます。
<b>3 方向伝票突合せ</b>	EnterpriseOne 調達管理および外注管理で、入荷情報と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。3 方向突合せでは、入荷レコードを使用して伝票を作成します。
<b>施設</b>	原価のトラッキング対象となる業務の単位の 1 つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワークセンター、事業所などがあります。施設は、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
<b>指定通貨</b>	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
<b>従業員ワークセンター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含む全ての EnterpriseOne メッセージを送受信するための中心のロケーションです。各ユーザーには、アクティブ メッセージなど、ワークフローやその他のメッセージを含むメールボックスが割り当てられます。
<b>出力ストリーム アクセス (OSA)</b>	EnterpriseOne のインターフェイスを設定し、別のソフトウェア パッケージ (Microsoft Excel など) にデータを渡して処理を実行することができるインタオペラビリティ モデルです。
<b>処理オプション</b>	このデータ構造によって、ユーザーはバッチ プログラムやレポートの実行を制御するパラメータを指定することができます。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などができます。
<b>スペック</b>	EnterpriseOne オブジェクトの完全な説明です。各オブジェクトには固有の仕様またはアプリケーションのビルドに使用される名称があります。
<b>スペックテーブル マージ ワークベンチ</b>	インストール ワークベンチ プロセスの実行時に、スペックテーブルを更新するバッチ アプリケーションを実行するアプリケーションです。
<b>スペック マージ</b>	オブジェクトライブラリアン マージ、バージョンリスト マージ、およびセントラル オブジェクト マージで構成されるマージ機能です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合することができます。
<b>スポットレート</b>	トランザクションレベルで入力される為替レートです。このレートは、2 つの通貨の間に設定されている為替レートより優先されます。
<b>3 ステップ処理</b>	EnterpriseOne でのバッチトランザクションの入力、検討と承認、転記のタスクを指します。
<b>整合性テスト</b>	社内の貸借一致手順を補足するために使用するプロセスであり、問題のある残高情報やデータ不整合の特定とレポート作成を行うことができます。
<b>セグメント間編集</b>	コンフィギュレーション品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能のコンフィギュレーションのオーダーを防ぐことができます。
<b>選択</b>	メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して Enter キーを押します。

セントラルオブジェクト マージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、次の（新規の）リリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル サーバー	クライアントマシンに配布されるソフトウェアの、最初にインストールされたバージョン（セントラルオブジェクト）の格納用に指定されたサーバーです。EnterpriseOne の典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン（セントラルサーバー）にロードされます。次に、セントラルサーバーにつながっている各種のワークステーションに向けてソフトウェアのコピーがプッシュアウトされます（またはワークステーションからダウンロードされます）。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損した場合には、常にセントラルサーバー上にある変更前のオブジェクトのセット（セントラルオブジェクト）にアクセスすることができます。
相殺/仮勘定	EnterpriseOne Financial Management の一般会計勘定科目であり、仕訳入力 of 相殺（貸借一致）処理に使用されます。たとえば、相殺/仮勘定を使用して、EnterpriseOne 一般会計の配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行うことができます。
即時バッチオブワン	処理をクライアントワークステーション上で実行してから、後続の処理のために全てを一度にサーバーアプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアントアプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。 “ダイレクト接続”と“オフライン処理”も参照してください。
ターミナル サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク、ホストコンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続することができます。
代替通貨	取引通貨（国内のみの取引の場合は国内通貨）として指定した通貨と異なる通貨です。 EnterpriseOne Financial Management では、代替通貨を使用して、領収書や支払の入力を発行時と異なる通貨で行うことができます。
ダイレクト接続	クライアントアプリケーションとサーバーアプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “即時バッチオブワン”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
チャート	EnterpriseOne の情報の表形式の表示であり、ソフトウェアのフォームに表示されます。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にはレポートに使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、さまざまな通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応することができます。
突き合わせ伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、EnterpriseOne Financial Management では、入金請求書の突き合わせ伝票であり、支払が支払伝票の突き合わせ伝票です。
データソースワークベンチ	インストールワークベンチの処理中に、インストールプランに定義された全てのデータソースを、プランナのデータソースに含まれるデータソースマスターとテーブル/データソースサイジングテーブルから、システムのリリース番号のデータソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データソースプラン詳細レコードも更新されます。
データベース サーバー	データベースの管理やクライアントマシンの検索を実行するローカルエリアネットワーク内のサーバーです。

<b>テーブルアクセス管理 (TAM)</b>	ユーザー定義データの保存と取得を処理する EnterpriseOne コンポーネントです。TAM には、データ辞書定義、アプリケーション/レポート仕様、イベントルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
<b>テーブルイベントルール</b>	データベーストリガに添付されるロジックであり、トリガに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。EnterpriseOne では、イベントルールをアプリケーションイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有です。テーブルイベントルールでは、テーブルレベルでの埋め込みロジックを提供します。
<b>テーブル変換</b>	EnterpriseOne と、EnterpriseOne 以外のテーブルを使用するサードパーティシステムとの間でデータ交換を行うためのインタオペラビリティモデルです。
<b>テーブル変換ワークベンチ</b>	EnterpriseOne と、EnterpriseOne 以外のテーブルを使用するサードパーティシステムとの間でデータ交換を行うためのインタオペラビリティモデルです。
<b>デプロイメントサーバー</b>	複数のエンタープライズサーバーとクライアントマシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
<b>電子データ交換 (EDI)</b>	EnterpriseOne システムとサードパーティシステムの間で、コンピュータ間の業務トランザクションデータの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティモデルです。EDI を使用する会社は、EDI 標準フォーマットからその会社のシステムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
<b>トランザクション処理 (TP) モニター</b>	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、TP モニターによって、分散環境でのデータの整合性が守られます。TP モニターには、データの検証と端末画面のフォーマットのプログラムが含まれる場合もあります。
<b>トランザクションセット</b>	複数のセグメントで構成されている電子的ビジネストランザクション (電子データ交換標準ドキュメント) です。
<b>トリガ</b>	データ辞書項目に固有の複数のイベントの 1 つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるデータ辞書項目にロジックを添付することができます。
<b>トリガ イベント</b>	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済みの、特定のワークフローイベントです。
<b>2 重価格設定</b>	商品やサービスに 2 つの通貨で価格を設定するプロセスです。
<b>2 方向伝票突合せ</b>	EnterpriseOne 調達管理および外注管理で、購買明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録しません。
<b>バックツール バックプロセス</b>	EnterpriseOne ワークフロー管理で使用されるプロセスであり、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれています。
<b>パッケージ</b>	EnterpriseOne オブジェクトは、デプロイメントサーバーからのパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージは、部品表やキットに例えることができ、ワークステーションに必要なオブジェクトと、インストールプログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようにデプロイメントサーバー上の位置情報を含んでいます。パッケージは、デプロイメントサーバー上のセントラルオブジェクトの特定時点のスナップショットでもあります。
<b>パッケージビルド</b>	ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの既存ユーザーへの反映を容易に行うことができるソフトウェアアプリケーションです。また、EnterpriseOne では、パッケージビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済みバージョンを指す場合もあります。たとえば、使用中の ERP ソフトウェアのアップグレード時に、パッケージビルドの実行を指示されたとします。

	<p>“パッケージビルド”という用語について、以下のコンテキストを検討してください。“パッケージビルド時に実行されるビジネス関数のグローバルビルドでは新規の関数が自動的に含められるため、配布の準備が整うまでビジネス関数を本稼働用パスコードに転送しないでください。”このように、パッケージビルドを作成するプロセスが“パッケージビルド”と呼ばれる場合もあります。</p>
パッケージ ロケーション	<p>パッケージとそのパッケージのレプリケート(複製)オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、¥¥deployment server¥release¥path_code¥package¥package name に置かれます。このパスの下サブディレクトリに、パッケージ用のレプリケートオブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。</p>
パッケージ ワークベンチ	<p>インストール ワークベンチプロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ データソースからシステム リリース番号データソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージプラン詳細レコードも更新されます。</p>
バッチ サーバー	<p>バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチサーバーにデータベースは格納されず、対話型アプリケーションも実行されません。</p>
バッチ処理	<p>サードパーティシステムから EnterpriseOne にレコードを転送する処理です。</p> <p>EnterpriseOne Financial Management では、バッチ処理を使用して、EnterpriseOne 以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータを EnterpriseOne 売掛管理や EnterpriseOne 買掛管理のシステムに転送することができます。また、顧客レコードや仕入先レコードを含む住所録情報を EnterpriseOne に転送することも可能です。</p>
パブリッシャ	<p>パブリッシュされたテーブルを受け持つサーバーです。F98DRPUB テーブルでは、企業内の全てのパブリッシュ済みテーブルとそれらに関連付けられたパブリッシャの識別が行われます。</p>
パブリッシュされたテーブル	<p>マスターテーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシャマシンに格納される F98DRPUB テーブルにより、企業内の全てのパブリッシュされたテーブルとそれらに関連付けられたパブリッシャが識別されます。</p>
バージョン リスト マージ	<p>バージョンリストマージを実行すると、新規リリースにおいて有効なオブジェクトとそれらの処理オプションデータの、非 XJDE および非 ZJDE バージョンの仕様が維持されます。</p>
ビジネス関数	<p>ユーザーによって作成される命名済みの再利用可能なビジネス ルールとログのセットであり、イベントルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数では、トランザクションやそのサブセット(在庫チェック、作業オーダーの発行など)を実行することができます。また、ビジネス関数には API も含まれているため、フォーム、データベーストリガ、または EnterpriseOne 以外のアプリケーションからも呼び出すことができます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベントルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成することができます。ビジネス関数の作成には、イベントルール、または C などの第 3 世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、Credit Check (与信チェック) や Item Availability (在庫照会) が挙げられます。</p>
ビジネスビュー	<p>アプリケーションやレポートでデータが使用されている複数の EnterpriseOne テーブルから特定の列を選択するための手段として使用される機能です。ビジネスビュー自体には特定の行を選択する機能はありません。また、ビジネスビューには実際のデータは含まれていません。ビジネスビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作することができます。</p>
ビジュアル アシスト	<p>ユーザーがコントロールに属するデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。</p>

ファイル サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。ユーザーにはリモート ディスクドライブとして表示されるディスクサーバーと異なり、ファイル サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、保存しているファイルを管理し、要求をユーザー リクエスト ファイルとして維持して、それらのファイルの更新も行う高度な機能が備えられています。
プリスティン環境	EnterpriseOne のデモ データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用する EnterpriseOne 環境です。研修環境にも使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要です。
プリント サーバー	ネットワークとプリンタの間のインターフェイスであり、ネットワーククライアントはこれを利用してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信することができます。コンピュータ、独立したハードウェア デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアでもプリンタサーバーとして使用することができます。
プルレプリケーション	データを個別のワークステーションにレプリケートする方法の 1 つです。プルレプリケーションのレプリケーション先のマシンは、EnterpriseOne のデータレプリケーション ツールを使用して、プル サブスクライバとしてセットアップされます。プル サブスクライバに変更、更新、削除が通知されるのは、その情報を要求した場合のみです。要求は、通常は起動時に、プル サブスクライバから F98DRPCN テーブルが置かれているサーバーにメッセージの形式で送信されます。
プロキシサーバー	企業などがセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。
プログラム一時修正 (PTF)	磁気テープやディスクで提供される、JD Edwards ソフトウェアの変更です。
プロジェクト	EnterpriseOne で使用される、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナです。
プロモーション パス	ワークフロー内でオブジェクトやプロジェクトが進む、指定された工程です。標準的なプロモーション サイクル (パス) は以下のとおりです。 11>21>26>28>38>01 このパスでは、11 は検討待ちの新規プロジェクト、21 はプログラミング、26 は品質管理テスト/検討、28 は品質管理テスト/検討の完了、38 は本稼働、01 はサイクルの完了を表します。標準的なプロジェクト プロモーション サイクルの工程内で、開発者は、開発パスコードからオブジェクトをチェックアウトし、チェックインしてから、それらのオブジェクトをプロトタイプ パスコードにプロモートします。次に、オブジェクトは、工程の完了の前に、本稼働用のパスコードに移されます。
編集コード	レポートやフォームの特定の値がどのように表示/フォーマットされるかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザー入力を事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
補足データ	マスターで管理されない全ての情報のタイプを指す用語です。補足データは、通常、従業員、応募者、購買要求、作業 (従業員の技能、取得学位、語学力など) に関する追加情報です。補足データを使用して、組織が要求するあらゆる情報を追跡管理することができます。 たとえば、標準のマスター (住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター) とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理することができます。このような汎用データベースを使用すると、EnterpriseOne システム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。
本稼働用環境	ユーザーが EnterpriseOne ソフトウェアを実務使用する EnterpriseOne 環境です。

本稼働レベル ファイル サーバー	通常はユーザー サポート サービスと共に提供される、品質保証付きの商品化されたファイル サーバーです。
マスター テーブル	“パブリッシュされたテーブル”を参照してください。
マスター ビジネス関数 (MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新のための中心のロケーションとして機能する対話型のマスター ファイルです。マスター ビジネス関数によって、データ入力フォームとテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター 関数によって、全ての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セットが、関連するプログラムに提供されます。MBF には、データベースの情報の追加、更新、削除の整合性を確保するロジックが含まれています。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、後続のレコード グループの制御情報が識別または提供されます。
見積オーダー	EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストであり、そこから購買オーダーを作成できます。  EnterpriseOne 受注管理では、受注オーダーに対してまだ引当を行っていない顧客の品目情報と価格情報を指します。
明細情報	たとえば、伝票支払品目や受注オーダー明細行など、EnterpriseOne のトランザクションの個別の行に関連する情報です。
メッセージアダプタ	サードパーティ システムから EnterpriseOne に接続し、メッセージング キューを使用したデータの交換を行うためのインタオペラビリティ モデルです。
メッセージ センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含む全ての EnterpriseOne メッセージを送受信するための中心のロケーションです。
メッセージング サーバー	メッセージング API を使用して、他のプログラムで使用するために送信されるメッセージを処理するサーバーです。メッセージング サーバーには、通常、関数を実行するためにミドルウェア プログラムが配備されます。
メディア ストレージ オブジェクト	テーブル フォーマットにまとめられていない、Gxxx、xxxGT、または GTxxx のいずれかの命名規則を使用するファイルです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを顧客のユーザー事変更テーブルに追加するプロセスです。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
用語一時変更	特定の EnterpriseOne または World のフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的な説明です。
リアルタイム イベント	システム呼び出しを使用して EnterpriseOne のトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティ ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムに通知を提供するサービスです。
リフレッシュ	EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を、新規リリースや PTF/Cum アップデートリリース (B73.2 や B73.2.1 など) に正しく対応させるための変更機能です。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド プロンプト機能です。
レプリケーション サーバー	セントラル オブジェクトのクライアント マシンへのレプリケーションを受け持つサーバーです。



ロケーションワークベンチ	インストールワークベンチプロセスの実行時に、インストールプランに定義された全てのロケーションを、プランナデータソースの保管場所マスターからシステムデータソースにコピーするアプリケーションです。
ロジックサーバー	アプリケーションプログラムにビジネスロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティンオブジェクトは、セントラルサーバーからロジックサーバーに複製されます。EnterpriseOneやWorldソフトウェアの実行時に、ロジックサーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
ワークグループサーバー	マスターネットワークサーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループサーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
ワークフロー	ビジネスプロセスの一部または全体の自動化を意味する用語です。自動化されたプロセス(ワークフロー)の実行時には、ドキュメント、情報、タスクは、手順規則に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対する1つのエントリポイントからのアクセスを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne 支払サイクルワークベンチ(P07210)を使用して、給与計算、支払レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用される全てのプログラムにアクセスすることができます。EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ(P90CD020)、ラインスケジューリングワークベンチ(P3153)、計画ワークベンチ(P13700)、監査人ワークベンチ(P09E115)、支払サイクルワークベンチなどが用意されています。



# 索引

## 数字/記号

- 52 期間会計
  - 会計期間パターン 79
  - 会社への報告日付の割り当て 80
  - 概要 285
  - 再転記 81
  - 仕訳の転記 285
  - 損益計算書の作成 288
  - 年度締め 286
  - 変更 81
  - 報告日付の設定 80
  - マルチスレッド ジョブ待ち行列 285
- 52 期間会計転記 (R098011) 285
  - 処理オプション 286
- 52 期間損益計算書 (R10252) 288
  - 処理オプション 288
- 52 期間用年度締め (R09820B) 286
- AAI
  - 一般目的 27
  - 概要 27
  - 勘定残高調整 35
  - 勘定集計 31
  - 繰越利益 28
  - 現金主義会計 77
  - 財務諸表合計 30
  - スピードコード 31
  - 前年度の勘定科目の除去 32
  - 調整可能範囲 32
- Australia
  - Rapid Start
    - Business Processes for General Accounting 4
    - Closing the Ledger 485
    - entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231
    - entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105
    - managing accounting structure 467
    - manual bank account reconciliation 152
    - Manual Bank Account Reconciliation 153

- preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491
- preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491
- preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398
- preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200) 236
- preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P) 469
- preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470
- preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469
- preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491
- preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468
- preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412
- preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237
- preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505
- preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488
- preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236
- preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049) 235
- preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113) 238

- preconfigured processing options  
for Companies by Batch Out of  
Balance (R09706) 490
- preconfigured processing options for  
Default Journal Entry MBF Options  
(P0900049) 106
- preconfigured processing options  
for Detailed Budget by Account  
(P14101) 234
- preconfigured processing options  
for General Journal by Batch  
(R09301) 109
- preconfigured processing options for  
General Journal by Object Account  
(R09311) 109
- preconfigured processing options  
for General Journal Post  
(R09801) 110
- preconfigured processing options for  
General Ledger by Business Unit  
(R09420) 405
- preconfigured processing options for  
General Ledger by Category Code  
(R09470) 409
- preconfigured processing options for  
General Ledger by Object Account  
(R09421) 407
- preconfigured processing options  
for General Ledger with Subledger  
Totals (R09422) 408
- preconfigured processing options  
for G/L Budget Checking Report  
(R14115) 239
- preconfigured processing options  
for Income Statement – Company  
00001 (R10211B) 411
- preconfigured processing options  
for Journal Entries– Budgeting  
(P0911) 234
- preconfigured processing options for  
Journal Entries (P0911) 106
- preconfigured processing options for  
Journal Entries with Debit/Credit  
Format (P0911) 107
- preconfigured processing options  
for Refresh Reconciliations File  
(R09130) 153
- preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14102) 233
- preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14103) 233
- preconfigured processing options for  
Spread Annual Budget to Periods  
(R14801) 234
- preconfigured processing options  
for Transaction by Object  
(R09423) 411
- preconfigured processing options  
for Transaction by Subsidiary  
(R09424) 410
- preconfigured processing options for  
Transaction Journal (R09321) 410
- preconfigured processing options for  
Transactions to Batch Header – GL  
Only (R007021) 488
- preconfigured processing options  
for Transactions Without Account  
Master (R097021) 491
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Business Unit  
(R09410) 402
- preconfigured processing options for  
Trial Balance by Category Code  
(R09472) 404
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Company  
(P09216) 400
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Object  
(P09214) 399
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Object  
(R094121) 403
- preconfigured processing options for  
Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr  
Format) (R09473) 404
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Subledger  
(P09215) 400
- preconfigured processing options for  
Trial Balance / Ledger Comparison  
(P09210A) 401
- preconfigured processing options for  
Variance Analysis 5 Months Actual  
– Company 00001 (R10411A) 415
- preconfigured processing options  
for Variance Analysis – Company  
00001 (R10212A) 413

- Reviewing Financial Reports and Inquiries 395
- Balance Inquiry by Account/Category Code (P76H9006)
  - processing options 370
- Balance Sheet (R74R9030) 379
- Balance Sheet (R75C111) 380
- Brazil
  - general ledger reports 617
- Britain
  - end of year reports 613, 614
  - transaction journals 614
- Canada
  - Rapid Start
    - Business Processes for General Accounting 4
    - Closing the Ledger 485
    - entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231
    - entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105
    - managing accounting structure 467
    - manual bank account reconciliation 152
  - Manual Bank Account Reconciliation 153
  - preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491
  - preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491
  - preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398
  - preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200) 236
  - preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P) 469
  - preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470
  - preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469
  - preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491
  - preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468
  - preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412
  - preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237
  - preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505
  - preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488
  - preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236
  - preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049) 235
  - preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113) 238
  - preconfigured processing options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049) 106
  - preconfigured processing options for Detailed Budget by Account (P14101) 234
  - preconfigured processing options for General Journal by Batch (R09301) 109
  - preconfigured processing options for General Journal by Object Account (R09311) 109
  - preconfigured processing options for General Journal Post (R09801) 110
  - preconfigured processing options for General Ledger by Business Unit (R09420) 405
  - preconfigured processing options for General Ledger by Object Account (R09421) 407
  - preconfigured processing options for General Ledger with Subledger Totals (R09422) 408
  - preconfigured processing options for Income Statement – Company 00001 (R10211B) 411

- preconfigured processing options for Journal Entries– Budgeting (P0911) 234
- preconfigured processing options for Journal Entries (P0911) 106
- preconfigured processing options for Journal Entries with Debit/Credit Format (P0911) 107
- preconfigured processing options for Refresh Reconciliations File (R09130) 153
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14102) 233
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14103) 233
- preconfigured processing options for Spread Annual Budget to Periods (R14801) 234
- preconfigured processing options for Transaction by Object (R09423) 411
- preconfigured processing options for Transaction by Subsidiary (R09424) 410
- preconfigured processing options for Transaction Journal (R09321) 410
- preconfigured processing options for Transactions to Batch Header – GL Only (R007021) 488
- preconfigured processing options for Transactions Without Account Master (R097021) 491
- preconfigured processing options for Trial Balance by Business Unit (R09410) 402
- preconfigured processing options for Trial Balance by Company (P09216) 400
- preconfigured processing options for Trial Balance by Object (P09214) 399
- preconfigured processing options for Trial Balance by Object (R094121) 403
- preconfigured processing options for Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr Format) (R09473) 404
- preconfigured processing options for Trial Balance by Subledger (P09215) 400
- preconfigured processing options for Trial Balance / Ledger Comparison (P09210A) 401
- preconfigured processing options for Variance Analysis 5 Months Actual – Company 00001 (R10411A) 415
- preconfigured processing options for Variance Analysis – Company 00001 (R10212A) 413
- Reviewing Financial Reports and Inquiries 395
- Cash Flow (R74R9050)
  - processing options 386
- category codes
  - (FRA) reports 592
  - (ITA) reports 592
- Changes in Equity (R74R9040) 386
  - processing options 387
- Chile
  - repost 447, 450
- China
  - balance sheets 380
  - income statements 380
- (CHL and PER) Journal Entries Inquiry by Legal Number (P76H9002)
  - processing options 367
- Customer Connection Web サイト xxxviii
- Debit/Credit Inquiry by Month (P76H9007)
  - processing options 372
- Debit/Credit T/B by Object (R09473) 587
- Debit/Credit T/B by Object Report (R09473)
  - processing options 587
- End of Year Return CIS36 – CIS4 (R74U0137A)
  - processing options 614
- End of Year Return CIS36 – CIS4 (R74U137A) 613
- End of Year Return CIS36 – CIS5 (R74U0137B) 614
  - processing options 614
- End of Year Return CIS36 – CIS6 (R74U0137C) 614
  - processing options 614
- End of Year Return CIS36 (R74U0137) 613
  - processing options 614
- fiscal year
  - (FRA) closing 482

- (ITA) closing 483
- (ITA) preparation for closing 483
- Four Columns Trial Balance (R76B09410)
  - processing options 616
- France
  - category code report 592
  - closing a fiscal year 482
  - general ledger reports 595
  - G/L by Category Code (R70470) 590
  - Rapid Start
    - Business Processes for General Accounting 4
    - entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231
    - entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105
    - managing accounting structure 467
    - manual bank account reconciliation 152
    - Manual Bank Account Reconciliation 153
    - preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491
    - preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491
    - preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398
    - preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200) 236
    - preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P) 469
    - preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470
    - preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469
    - preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491
    - preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468
    - preconfigured processing options for Balance De Comptabilite Generale (R70472) 502
    - preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412
    - preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237
    - preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505
    - preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488
    - preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236
    - preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049) 235
    - preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113) 238
    - preconfigured processing options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049) 106
    - preconfigured processing options for Detailed Budget by Account (P14101) 234
    - preconfigured processing options for General Journal by Batch (R09301) 109
    - preconfigured processing options for General Journal by Object Account (R09311) 109
    - preconfigured processing options for General Journal Post (R09801) 110
    - preconfigured processing options for General Ledger by Business Unit (R09420) 405
    - preconfigured processing options for General Ledger by Object Account (R09421) 407
    - preconfigured processing options for General Ledger with Subledger Totals (R09422) 408
    - preconfigured processing options for Grand Livre General Des Comptes (R70470) 502

- preconfigured processing options  
for Income Statement – Company  
00001 (R10211B) 411
- preconfigured processing options  
for Journal Des Achats  
(R7409C5) 494
- preconfigured processing options  
for Journal Des Decaissements  
(R7409C5) 497
- preconfigured processing options  
for Journal Des Effets A Recevoir  
(R7409C5) 499
- preconfigured processing options  
for Journal Des Encaissements  
(R7409C5) 498
- preconfigured processing options  
for Journal Des Mouvements De  
Stocks (R7409C5) 500
- preconfigured processing options for  
Journal Des Operations Diverses  
(R7409C5) 496
- preconfigured processing options  
for Journal Des Ventes  
(R7409C5) 495
- preconfigured processing options  
for Journal Entries– Budgeting  
(P0911) 234
- preconfigured processing options for  
Journal Entries (P0911) 106
- preconfigured processing options for  
Journal Entries with Debit/Credit  
Format (P0911) 107
- preconfigured processing options  
for Journal Entry with VAT  
(P09106) 108
- preconfigured processing options  
for Refresh Reconciliations File  
(R09130) 153
- preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14102) 233
- preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14103) 233
- preconfigured processing options for  
Spread Annual Budget to Periods  
(R14801) 234
- preconfigured processing options  
for Transaction by Object  
(R09423) 411
- preconfigured processing options  
for Transaction by Subsidiary  
(R09424) 410
- preconfigured processing options for  
Transaction Journal (R09321) 410
- preconfigured processing options for  
Transactions to Batch Header – GL  
Only (R007021) 488
- preconfigured processing options  
for Transactions Without Account  
Master (R097021) 491
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Business Unit  
(R09410) 402
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Company  
(P09216) 400
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Object  
(P09214) 399
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Object  
(R094121) 403
- preconfigured processing options for  
Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr  
Format) (R09473) 404
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Subledger  
(P09215) 400
- preconfigured processing options for  
Trial Balance / Ledger Comparison  
(P09210A) 401
- preconfigured processing options  
for TVA Collectee Sur Les Debits  
(R0018P1) 504
- preconfigured processing options for  
TVA Deductible Intracommunautaire  
(R0018P1) 504
- preconfigured processing options for  
TVA Deductible Sur Les Debits  
(R0018P1) 504
- preconfigured processing options for  
TVA Sur Encaissement Aide A La  
Declaration (R7400CSM) 504
- preconfigured processing options for  
Variance Analysis 5 Months Actual  
– Company 00001 (R10411A) 415
- preconfigured processing options  
for Variance Analysis – Company  
00001 (R10212A) 413



- Reviewing Financial Reports and Inquiries 395
- general journal
  - (FRA) reports 598
- General Journal (R7409C5) 598
  - processing options 600
- general ledger
  - (BRA) reports 617
  - (ESP) reports 610
- General Ledger by Object and Subsidiary (R7409C1)
  - processing options 595
- General Ledger (R76B420) 617
- G/J by Cat. Code – Spain (R74S490) 608
- G/J by Obj. Account or Cat. Code – Spain (R74S490)
  - processing options 609
- G/L by Category Code (R70470) 590
  - processing options 591
- G/L by Obj. Account – Spain (R74S560) 610
- G/L by Object and Subsidiary (R7409C1) 595
- G/L Registration Report (R09404) 572
- GL Trial Balance by Category Code (R74P9015) 603
- G/L 予算チェックレポート (R14115) 226
  - 処理オプション 227
- Great Britain
  - Rapid Start
    - Business Processes for General Accounting 4
    - Closing the Ledger 485
    - entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231
    - entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105
    - managing accounting structure 467
    - manual bank account reconciliation 152
    - Manual Bank Account Reconciliation 153
    - preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491
    - preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491
    - preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398
    - preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200) 236
    - preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P) 469
    - preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470
    - preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469
    - preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491
    - preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468
    - preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412
    - preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237
    - preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505
    - preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488
    - preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236
    - preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049) 235
    - preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113) 238
    - preconfigured processing options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049) 106
    - preconfigured processing options for Detailed Budget by Account (P14101) 234
    - preconfigured processing options for General Journal by Batch (R09301) 109

preconfigured processing options for  
General Journal by Object Account  
(R09311) 109

preconfigured processing options  
for General Journal Post  
(R09801) 110

preconfigured processing options for  
General Ledger by Business Unit  
(R09420) 405

preconfigured processing options for  
General Ledger by Object Account  
(R09421) 407

preconfigured processing options  
for General Ledger with Subledger  
Totals (R09422) 408

preconfigured processing options for  
Great Britain Load Spreadsheet  
Budgets (P0902Z1) 236

preconfigured processing options  
for Income Statement – Company  
00001 (R10211B) 411

preconfigured processing options  
for Journal Entries– Budgeting  
(P0911) 234

preconfigured processing options for  
Journal Entries (P0911) 106

preconfigured processing options for  
Journal Entries with Debit/Credit  
Format (P0911) 107

preconfigured processing options  
for Journal Entry with VAT  
(P09106) 108

preconfigured processing options for  
Monetary Account Valuation – EUR  
(R09415) 492

preconfigured processing options  
for Refresh Reconciliations File  
(R09130) 153

preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14102) 233

preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14103) 233

preconfigured processing options for  
Spread Annual Budget to Periods  
(R14801) 234

preconfigured processing options  
for Transaction by Object  
(R09423) 411

preconfigured processing options  
for Transaction by Subsidiary  
(R09424) 410

preconfigured processing options for  
Transaction Journal (R09321) 410

preconfigured processing options for  
Transactions to Batch Header – GL  
Only (R007021) 488

preconfigured processing options  
for Transactions Without Account  
Master (R097021) 491

preconfigured processing options  
for Trial Balance by Business Unit  
(R09410) 402

preconfigured processing options  
for Trial Balance by Company  
(P09216) 400

preconfigured processing options  
for Trial Balance by Object  
(P09214) 399

preconfigured processing options  
for Trial Balance by Object  
(R094121) 403

preconfigured processing options for  
Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr  
Format) (R09473) 404

preconfigured processing options  
for Trial Balance by Subledger  
(P09215) 400

preconfigured processing options for  
Trial Balance / Ledger Comparison  
(P09210A) 401

preconfigured processing options for  
Variance Analysis 5 Months Actual  
– Company 00001 (R10411A) 415

preconfigured processing options  
for Variance Analysis – Company  
00001 (R10212A) 413

Reviewing Financial Reports and  
Inquiries 395

Income Statement (R75C211) 380

Italy

category code report 592

closing a fiscal year 483

general ledger reports 595

G/L by Category Code (R70470) 590

G/L Registration Report  
(R09404) 572

verifying account balances 394

JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 xxxvii  
 Localization Account Repost (R76H9102) 447, 450  
     processing options 450  
 MMA Partners xxxviii  
 New Zealand  
     Rapid Start  
         Business Processes for General Accounting 4  
         Closing the Ledger 485  
         entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231  
         entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105  
         managing accounting structure 467  
         manual bank account reconciliation 152  
         Manual Bank Account Reconciliation 153  
         preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491  
         preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491  
         preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398  
         preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200) 236  
         preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P) 469  
         preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470  
         preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469  
         preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491  
         preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468  
         preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412

preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237  
 preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505  
 preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488  
 preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236  
 preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049) 235  
 preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113) 238  
 preconfigured processing options for Companies by Batch Out of Balance (R09706) 490  
 preconfigured processing options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049) 106  
 preconfigured processing options for Detailed Budget by Account (P14101) 234  
 preconfigured processing options for General Journal by Batch (R09301) 109  
 preconfigured processing options for General Journal by Object Account (R09311) 109  
 preconfigured processing options for General Journal Post (R09801) 110  
 preconfigured processing options for General Ledger by Business Unit (R09420) 405  
 preconfigured processing options for General Ledger by Category Code (R09470) 409  
 preconfigured processing options for General Ledger by Object Account (R09421) 407  
 preconfigured processing options for General Ledger with Subledger Totals (R09422) 408  
 preconfigured processing options for G/L Budget Checking Report (R14115) 239

- preconfigured processing options  
for Income Statement – Company  
00001 (R10211B) 411
- preconfigured processing options  
for Journal Entries– Budgeting  
(P0911) 234
- preconfigured processing options for  
Journal Entries (P0911) 106
- preconfigured processing options for  
Journal Entries with Debit/Credit  
Format (P0911) 107
- preconfigured processing options  
for Refresh Reconciliations File  
(R09130) 153
- preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14102) 233
- preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14103) 233
- preconfigured processing options for  
Spread Annual Budget to Periods  
(R14801) 234
- preconfigured processing options  
for Transaction by Object  
(R09423) 411
- preconfigured processing options  
for Transaction by Subsidiary  
(R09424) 410
- preconfigured processing options for  
Transaction Journal (R09321) 410
- preconfigured processing options for  
Transactions to Batch Header – GL  
Only (R007021) 488
- preconfigured processing options  
for Transactions Without Account  
Master (R097021) 491
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Business Unit  
(R09410) 402
- preconfigured processing options for  
Trial Balance by Category Code  
(R09472) 404
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Company  
(P09216) 400
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Object  
(P09214) 399
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Object  
(R094121) 403
- preconfigured processing options for  
Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr  
Format) (R09473) 404
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Subledger  
(P09215) 400
- preconfigured processing options for  
Trial Balance / Ledger Comparison  
(P09210A) 401
- preconfigured processing options for  
Variance Analysis 5 Months Actual  
– Company 00001 (R10411A) 415
- preconfigured processing options  
for Variance Analysis – Company  
00001 (R10212A) 413
- Reviewing Financial Reports and  
Inquiries 395
- online inquiries  
(CHL and PER) Balance Inquiry  
by Account/Category Code  
(P76H9006) 351  
(CHL and PER) Debit/Credit Inquiry by  
Month (P76H9007) 351  
Journal Entries Inquiry by Legal Number  
(P76H9002) 351
- PC 予算アップロード  
F0902Z1 テーブルのフィールドのマッ  
ピング 549  
フィールド マッピング 245  
レコードの除去 251
- PeopleBook  
注文 xxxviii
- PeopleCode の表記規則 xl
- Peru  
repost 447, 450
- Petty Cash Book (R74R5001)  
processing options 393
- Poland  
repost 451
- processing options  
Balance Inquiry by Account/Category  
Code (P76H9006) 370  
Cash Flow (R74R9050) 386  
Changes in Equity (R74R9040) 387  
(CHL and PER) Journal Entries Inquiry  
by Legal Number (P76H9002) 367  
Debit/Credit Inquiry by Month  
(P76H9007) 372  
Debit/Credit T/B by Object Report  
(R09473) 587

- End of Year Return CIS36 – CIS4 (R74U0137A) 614
- End of Year Return CIS36 – CIS5 (R74U0137B) 614
- End of Year Return CIS36 – CIS6 (R74U0137C) 614
- End of Year Return CIS36 (R74U0137) 614
- Four Columns Trial Balance (R76B09410) 616
- General Journal (R7409C5) 600
- G/J by Obj. Account or Cat. Code – Spain (R74S490) 609
- G/L by Category Code (R70470) 591
- G/L by Object and Subsidiary (R7409C1) 595
- Localization Account Repost (R76H9102) 450
- Petty Cash Book (R74R5001) 393
- Repost Account Ledger Tag File (R749102) 451
- (RUS) Balance Sheet (R74R9030) 379
- T/B by Category Code (R70472) 593
- T/B by Object and Subsidiary (R7409C3) 597
- Transaction Journal (R74P9020) 604
- Transaction Journal (R76321BI) 615
- profit and loss
  - (RUS) generating 381
- Rapid Start
  - Australia
    - Business Processes for General Accounting 4
    - Closing the Ledger 485
    - entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231
    - entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105
    - managing accounting structure 467
    - manual bank account reconciliation 152
    - Manual Bank Account Reconciliation 153
    - preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491
    - preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491
    - preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398
    - preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200) 236
    - preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P) 469
    - preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470
    - preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469
    - preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491
    - preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468
    - preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412
    - preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237
    - preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505
    - preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488
    - preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236
    - preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049) 235
    - preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113) 238
    - preconfigured processing options for Companies by Batch Out of Balance (R09706) 490
    - preconfigured processing options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049) 106
    - preconfigured processing options for Detailed Budget by Account (P14101) 234

- preconfigured processing options for General Journal by Batch (R09301) 109
- preconfigured processing options for General Journal by Object Account (R09311) 109
- preconfigured processing options for General Journal Post (R09801) 110
- preconfigured processing options for General Ledger by Business Unit (R09420) 405
- preconfigured processing options for General Ledger by Category Code (R09470) 409
- preconfigured processing options for General Ledger by Object Account (R09421) 407
- preconfigured processing options for General Ledger with Subledger Totals (R09422) 408
- preconfigured processing options for G/L Budget Checking Report (R14115) 239
- preconfigured processing options for Income Statement – Company 00001 (R10211B) 411
- preconfigured processing options for Journal Entries– Budgeting (P0911) 234
- preconfigured processing options for Journal Entries (P0911) 106
- preconfigured processing options for Journal Entries with Debit/Credit Format (P0911) 107
- preconfigured processing options for Refresh Reconciliations File (R09130) 153
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14102) 233
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14103) 233
- preconfigured processing options for Spread Annual Budget to Periods (R14801) 234
- preconfigured processing options for Transaction by Object (R09423) 411
- preconfigured processing options for Transaction by Subsidiary (R09424) 410
- preconfigured processing options for Transaction Journal (R09321) 410
- preconfigured processing options for Transactions to Batch Header – GL Only (R007021) 488
- preconfigured processing options for Transactions Without Account Master (R097021) 491
- preconfigured processing options for Trial Balance by Business Unit (R09410) 402
- preconfigured processing options for Trial Balance by Category Code (R09472) 404
- preconfigured processing options for Trial Balance by Company (P09216) 400
- preconfigured processing options for Trial Balance by Object (P09214) 399
- preconfigured processing options for Trial Balance by Object (R094121) 403
- preconfigured processing options for Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr Format) (R09473) 404
- preconfigured processing options for Trial Balance by Subledger (P09215) 400
- preconfigured processing options for Trial Balance / Ledger Comparison (P09210A) 401
- preconfigured processing options for Variance Analysis 5 Months Actual – Company 00001 (R10411A) 415
- preconfigured processing options for Variance Analysis – Company 00001 (R10212A) 413
- Reviewing Financial Reports and Inquiries 395
- Canada
  - Business Processes for General Accounting 4
  - Closing the Ledger 485
  - entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized

- budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231
- entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105
- managing accounting structure 467
- manual bank account reconciliation 152
- Manual Bank Account Reconciliation 153
- preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491
- preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491
- preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398
- preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200) 236
- preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P) 469
- preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470
- preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469
- preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491
- preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468
- preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412
- preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237
- preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505
- preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488
- preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236
- preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049) 235
- preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113) 238
- preconfigured processing options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049) 106
- preconfigured processing options for Detailed Budget by Account (P14101) 234
- preconfigured processing options for General Journal by Batch (R09301) 109
- preconfigured processing options for General Journal by Object Account (R09311) 109
- preconfigured processing options for General Journal Post (R09801) 110
- preconfigured processing options for General Ledger by Business Unit (R09420) 405
- preconfigured processing options for General Ledger by Object Account (R09421) 407
- preconfigured processing options for General Ledger with Subledger Totals (R09422) 408
- preconfigured processing options for Income Statement – Company 00001 (R10211B) 411
- preconfigured processing options for Journal Entries– Budgeting (P0911) 234
- preconfigured processing options for Journal Entries (P0911) 106
- preconfigured processing options for Journal Entries with Debit/Credit Format (P0911) 107
- preconfigured processing options for Refresh Reconciliations File (R09130) 153
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14102) 233
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14103) 233
- preconfigured processing options for Spread Annual Budget to Periods (R14801) 234

- preconfigured processing options
  - for Transaction by Object (R09423) 411
- preconfigured processing options
  - for Transaction by Subsidiary (R09424) 410
- preconfigured processing options for Transaction Journal (R09321) 410
- preconfigured processing options for Transactions to Batch Header – GL Only (R007021) 488
- preconfigured processing options
  - for Transactions Without Account Master (R097021) 491
- preconfigured processing options
  - for Trial Balance by Business Unit (R09410) 402
- preconfigured processing options
  - for Trial Balance by Company (P09216) 400
- preconfigured processing options
  - for Trial Balance by Object (P09214) 399
- preconfigured processing options
  - for Trial Balance by Object (R094121) 403
- preconfigured processing options for Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr Format) (R09473) 404
- preconfigured processing options
  - for Trial Balance by Subledger (P09215) 400
- preconfigured processing options for Trial Balance / Ledger Comparison (P09210A) 401
- preconfigured processing options for Variance Analysis 5 Months Actual – Company 00001 (R10411A) 415
- preconfigured processing options
  - for Variance Analysis – Company 00001 (R10212A) 413
- Reviewing Financial Reports and Inquiries 395
- France
  - Business Processes for General Accounting 4
  - entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231
  - entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105
  - managing accounting structure 467
  - manual bank account
    - reconciliation 152
  - Manual Bank Account
    - Reconciliation 153
  - preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491
  - preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491
  - preconfigured processing options
    - for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398
  - preconfigured processing options
    - for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200) 236
  - preconfigured processing options
    - for Account Master by Company (R09205P) 469
  - preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470
  - preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469
  - preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491
  - preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468
  - preconfigured processing options for Balance De Comptabilite Generale (R70472) 502
  - preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412
  - preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237
  - preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505
  - preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488
  - preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236



- preconfigured processing options  
for Budget Journal Entry  
(P0900049) 235
- preconfigured processing options for  
Budget Worksheet (R14113) 238
- preconfigured processing options for  
Default Journal Entry MBF Options  
(P0900049) 106
- preconfigured processing options  
for Detailed Budget by Account  
(P14101) 234
- preconfigured processing options  
for General Journal by Batch  
(R09301) 109
- preconfigured processing options for  
General Journal by Object Account  
(R09311) 109
- preconfigured processing options  
for General Journal Post  
(R09801) 110
- preconfigured processing options for  
General Ledger by Business Unit  
(R09420) 405
- preconfigured processing options for  
General Ledger by Object Account  
(R09421) 407
- preconfigured processing options  
for General Ledger with Subledger  
Totals (R09422) 408
- preconfigured processing options for  
Grand Livre General Des Comptes  
(R70470) 502
- preconfigured processing options  
for Income Statement – Company  
00001 (R10211B) 411
- preconfigured processing options  
for Journal Des Achats  
(R7409C5) 494
- preconfigured processing options  
for Journal Des Decaissements  
(R7409C5) 497
- preconfigured processing options  
for Journal Des Effets A Recevoir  
(R7409C5) 499
- preconfigured processing options  
for Journal Des Encaissements  
(R7409C5) 498
- preconfigured processing options  
for Journal Des Mouvements De  
Stocks (R7409C5) 500
- preconfigured processing options for  
Journal Des Operations Diverses  
(R7409C5) 496
- preconfigured processing options  
for Journal Des Ventes  
(R7409C5) 495
- preconfigured processing options  
for Journal Entries– Budgeting  
(P0911) 234
- preconfigured processing options for  
Journal Entries (P0911) 106
- preconfigured processing options for  
Journal Entries with Debit/Credit  
Format (P0911) 107
- preconfigured processing options  
for Journal Entry with VAT  
(P09106) 108
- preconfigured processing options  
for Refresh Reconciliations File  
(R09130) 153
- preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14102) 233
- preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14103) 233
- preconfigured processing options for  
Spread Annual Budget to Periods  
(R14801) 234
- preconfigured processing options  
for Transaction by Object  
(R09423) 411
- preconfigured processing options  
for Transaction by Subsidiary  
(R09424) 410
- preconfigured processing options for  
Transaction Journal (R09321) 410
- preconfigured processing options for  
Transactions to Batch Header – GL  
Only (R007021) 488
- preconfigured processing options  
for Transactions Without Account  
Master (R097021) 491
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Business Unit  
(R09410) 402
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Company  
(P09216) 400
- preconfigured processing options  
for Trial Balance by Object  
(P09214) 399

- preconfigured processing options for Trial Balance by Object (R094121) 403
- preconfigured processing options for Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr Format) (R09473) 404
- preconfigured processing options for Trial Balance by Subledger (P09215) 400
- preconfigured processing options for Trial Balance / Ledger Comparison (P09210A) 401
- preconfigured processing options for TVA Collectee Sur Les Debits (R0018P1) 504
- preconfigured processing options for TVA Deductible Intracommunautaire (R0018P1) 504
- preconfigured processing options for TVA Deductible Sur Les Debits (R0018P1) 504
- preconfigured processing options for TVA Sur Encaissement Aide A La Declaration (R7400CSM) 504
- preconfigured processing options for Variance Analysis 5 Months Actual – Company 00001 (R10411A) 415
- preconfigured processing options for Variance Analysis – Company 00001 (R10212A) 413
- Reviewing Financial Reports and Inquiries 395
- Great Britain
  - Business Processes for General Accounting 4
  - Closing the Ledger 485
  - entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231
  - entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105
  - managing accounting structure 467
  - manual bank account reconciliation 152
  - Manual Bank Account Reconciliation 153
- preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491
- preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491
- preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398
- preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200) 236
- preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P) 469
- preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470
- preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469
- preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491
- preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468
- preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412
- preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237
- preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505
- preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488
- preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236
- preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049) 235
- preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113) 238
- preconfigured processing options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049) 106
- preconfigured processing options for Detailed Budget by Account (P14101) 234

- preconfigured processing options
  - for General Journal by Batch (R09301) 109
- preconfigured processing options for General Journal by Object Account (R09311) 109
- preconfigured processing options
  - for General Journal Post (R09801) 110
- preconfigured processing options for General Ledger by Business Unit (R09420) 405
- preconfigured processing options for General Ledger by Object Account (R09421) 407
- preconfigured processing options
  - for General Ledger with Subledger Totals (R09422) 408
- preconfigured processing options for Great Britain Load Spreadsheet Budgets (P0902Z1) 236
- preconfigured processing options
  - for Income Statement – Company 00001 (R10211B) 411
- preconfigured processing options
  - for Journal Entries– Budgeting (P0911) 234
- preconfigured processing options for Journal Entries (P0911) 106
- preconfigured processing options for Journal Entries with Debit/Credit Format (P0911) 107
- preconfigured processing options
  - for Journal Entry with VAT (P09106) 108
- preconfigured processing options for Monetary Account Valuation – EUR (R09415) 492
- preconfigured processing options
  - for Refresh Reconciliations File (R09130) 153
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14102) 233
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14103) 233
- preconfigured processing options for Spread Annual Budget to Periods (R14801) 234
- preconfigured processing options
  - for Transaction by Object (R09423) 411
- preconfigured processing options
  - for Transaction by Subsidiary (R09424) 410
- preconfigured processing options for Transaction Journal (R09321) 410
- preconfigured processing options for Transactions to Batch Header – GL Only (R007021) 488
- preconfigured processing options
  - for Transactions Without Account Master (R097021) 491
- preconfigured processing options
  - for Trial Balance by Business Unit (R09410) 402
- preconfigured processing options
  - for Trial Balance by Company (P09216) 400
- preconfigured processing options
  - for Trial Balance by Object (P09214) 399
- preconfigured processing options
  - for Trial Balance by Object (R094121) 403
- preconfigured processing options for Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr Format) (R09473) 404
- preconfigured processing options
  - for Trial Balance by Subledger (P09215) 400
- preconfigured processing options for Trial Balance / Ledger Comparison (P09210A) 401
- preconfigured processing options for Variance Analysis 5 Months Actual – Company 00001 (R10411A) 415
- preconfigured processing options
  - for Variance Analysis – Company 00001 (R10212A) 413
- Reviewing Financial Reports and Inquiries 395
- New Zealand
  - Business Processes for General Accounting 4
  - Closing the Ledger 485
  - entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized

- budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231
- entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105
- managing accounting structure 467
- manual bank account reconciliation 152
- Manual Bank Account Reconciliation 153
- preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491
- preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491
- preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398
- preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200) 236
- preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P) 469
- preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470
- preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469
- preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491
- preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468
- preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412
- preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237
- preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505
- preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488
- preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236
- preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049) 235
- preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113) 238
- preconfigured processing options for Companies by Batch Out of Balance (R09706) 490
- preconfigured processing options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049) 106
- preconfigured processing options for Detailed Budget by Account (P14101) 234
- preconfigured processing options for General Journal by Batch (R09301) 109
- preconfigured processing options for General Journal by Object Account (R09311) 109
- preconfigured processing options for General Journal Post (R09801) 110
- preconfigured processing options for General Ledger by Business Unit (R09420) 405
- preconfigured processing options for General Ledger by Category Code (R09470) 409
- preconfigured processing options for General Ledger by Object Account (R09421) 407
- preconfigured processing options for General Ledger with Subledger Totals (R09422) 408
- preconfigured processing options for G/L Budget Checking Report (R14115) 239
- preconfigured processing options for Income Statement – Company 00001 (R10211B) 411
- preconfigured processing options for Journal Entries– Budgeting (P0911) 234
- preconfigured processing options for Journal Entries (P0911) 106
- preconfigured processing options for Journal Entries with Debit/Credit Format (P0911) 107

- preconfigured processing options for Refresh Reconciliations File (R09130) 153
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14102) 233
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14103) 233
- preconfigured processing options for Spread Annual Budget to Periods (R14801) 234
- preconfigured processing options for Transaction by Object (R09423) 411
- preconfigured processing options for Transaction by Subsidiary (R09424) 410
- preconfigured processing options for Transaction Journal (R09321) 410
- preconfigured processing options for Transactions to Batch Header – GL Only (R007021) 488
- preconfigured processing options for Transactions Without Account Master (R097021) 491
- preconfigured processing options for Trial Balance by Business Unit (R09410) 402
- preconfigured processing options for Trial Balance by Category Code (R09472) 404
- preconfigured processing options for Trial Balance by Company (P09216) 400
- preconfigured processing options for Trial Balance by Object (P09214) 399
- preconfigured processing options for Trial Balance by Object (R094121) 403
- preconfigured processing options for Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr Format) (R09473) 404
- preconfigured processing options for Trial Balance by Subledger (P09215) 400
- preconfigured processing options for Trial Balance / Ledger Comparison (P09210A) 401
- preconfigured processing options for Variance Analysis 5 Months Actual – Company 00001 (R10411A) 415
- preconfigured processing options for Variance Analysis – Company 00001 (R10212A) 413
- Reviewing Financial Reports and Inquiries 395
- United States
  - Business Processes for General Accounting 4
  - Closing the Ledger 485
  - entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231
  - entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105
  - managing accounting structure 467
  - manual bank account reconciliation 152
  - Manual Bank Account Reconciliation 153
  - preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491
  - preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491
  - preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398
  - preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – BA Ledger (P09200) 236
  - preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P) 469
  - preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470
  - preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469
  - preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491
  - preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468

- preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412
- preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237
- preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505
- preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488
- preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236
- preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049) 235
- preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113) 238
- preconfigured processing options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049) 106
- preconfigured processing options for Detailed Budget by Account (P14101) 234
- preconfigured processing options for General Journal by Batch (R09301) 109
- preconfigured processing options for General Journal by Object Account (R09311) 109
- preconfigured processing options for General Journal Post (R09801) 110
- preconfigured processing options for General Ledger by Business Unit (R09420) 405
- preconfigured processing options for General Ledger by Object Account (R09421) 407
- preconfigured processing options for General Ledger with Subledger Totals (R09422) 408
- preconfigured processing options for Income Statement – Company 00001 (R10211B) 411
- preconfigured processing options for Journal Entries– Budgeting (P0911) 234
- preconfigured processing options for Journal Entries (P0911) 106
- preconfigured processing options for Journal Entries with Debit/Credit Format (P0911) 107
- preconfigured processing options for Refresh Reconciliations File (R09130) 153
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14102) 233
- preconfigured processing options for Requested Budgets (P14103) 233
- preconfigured processing options for Spread Annual Budget to Periods (R14801) 234
- preconfigured processing options for Transaction by Object (R09423) 411
- preconfigured processing options for Transaction by Subsidiary (R09424) 410
- preconfigured processing options for Transaction Journal (R09321) 410
- preconfigured processing options for Transactions to Batch Header – GL Only (R007021) 488
- preconfigured processing options for Transactions Without Account Master (R097021) 491
- preconfigured processing options for Trial Balance by Business Unit (R09410) 402
- preconfigured processing options for Trial Balance by Company (P09216) 400
- preconfigured processing options for Trial Balance by Object (P09214) 399
- preconfigured processing options for Trial Balance by Object (R094121) 403
- preconfigured processing options for Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr Format) (R09473) 404
- preconfigured processing options for Trial Balance by Subledger (P09215) 400
- preconfigured processing options for Trial Balance / Ledger Comparison (P09210A) 401

- preconfigured processing options for  
Variance Analysis 5 Months Actual  
– Company 00001 (R10411A) 415
- preconfigured processing options  
for Variance Analysis – Company  
00001 (R10212A) 413
- Reviewing Financial Reports and  
Inquiries 395
- reports
  - Changes in Equity (R74R9040) 386
  - (CHN) Balance Sheet (R75C111) 380
  - (CHN) Income Statement (R75C211)  
380
  - Debit/Credit T/B by Object  
(R09473) 587
  - End of Year Return CIS36 – CIS4  
(R74U137A) 613
  - End of Year Return CIS36 – CIS5  
(R74U0137B) 614
  - End of Year Return CIS36 – CIS6  
(R74U0137C) 614
  - End of Year Return CIS36  
(R74U0137) 613
  - (ESP) G/L by Object and Subsidiary  
(R7409C1) 595
  - (FRA) G/L by Object and Subsidiary  
(R7409C1) 595
  - General Journal (R7409C5) 598
  - General Ledger (R76B420) 617
  - G/J by Cat. Code – Spain  
(R74S490) 608
  - G/L by Category Code (R70470) 590
  - G/L by Obj. Account – Spain  
(R74S560) 610
  - G/L Registration Report  
(R09404) 572
  - GL Trial Balance by Category  
Code 603
  - (ITA) G/L by Object and Subsidiary  
(R7409C1) 595
  - (RUS) Balance Sheet (R74R9030)  
379
  - (RUS) Petty Cash Book  
(R74R5001) 392
  - (RUS) Profit and Loss  
(R74R9010) 381
  - T/B by Category Code (R70472) 592
  - T/B by Obj. Account (R74S570) 612
  - Transaction Journal (R76321B) 614
- repost
  - Chile 447
  - Peru 447
- Repost Account Ledger Tag File  
(R749102) 451
  - processing options 451
- (RUS) Balance Sheet (R74R9030)
  - processing options 379
- (RUS) petty cash book
  - overview 392
  - running the report 393
- Russia
  - balance sheets 379
  - changes in equity report 386
  - petty cash book 392
  - profit and loss 381
  - user-defined codes 19
- Spain
  - general journals 608
  - general ledger reports 595, 610
  - G/L by Category Code (R70470) 590
  - trial balance reports 612
- T/B by Category Code (R70472) 592
  - processing options 593
- T/B by Obj. Account (R74S570) 612
- T/B by Object and Subsidiary (R7409C3)
  - processing options 597
- Transaction Journal (R74P9020)
  - processing options 604
- Transaction Journal (R76321B) 614
- Transaction Journal (R76321BI)
  - processing options 615
- trial balance
  - (ESP) reports 612
  - (FRA) reports 597
  - (ITA) reports 597
- UDC
  - account type (RUS) 20
  - amount correspondences (RUS) 20
  - amount difference document type  
(RUS) 20
  - (CHL and PER) ledger types 24
  - code type (RUS) 21
  - correspondence batch status  
(RUS) 20
  - correspondence methods (RUS) 21
  - correspondence print options  
(RUS) 21
  - correspondence result code (RUS) 21
  - factor row (RUS) 21
  - formula type (RUS) 21

- record type (RUS) 22
- scale factor (RUS) 22
- section number (RUS) 22
- setting up (RUS) 19
- visible row (RUS) 22
- 概要 18
- 勘定科目カテゴリコード 18
- キャッシュフロー活動コード 70
- キャッシュフロー規則 71
- 残高調整コード 19, 36
- 資金タイプコード 59
- 自動銀行残高照合表 38
- 通常残高コード 70
- 伝票タイプ 19
- 取引コード 19
- ビジネスユニット カテゴリコード 18
- 補助元帳タイプ 19
- 元帳タイプ 22
- UDC 制御ファイルの作成 (R10005) 317
- 処理オプション 318
- United Kingdom, 参照: Great Britain
- United States
  - Rapid Start
    - Business Processes for General Accounting 4
    - Closing the Ledger 485
    - Entering and Reviewing Budgets 236
    - entering annual budgets, entering detail budgets, entering journalized budgets, processing PC upload and reviewing budgets 231
    - entering, reviewing, and approving journal entries and posting journal entries 105
    - managing accounting structure 467
    - manual bank account reconciliation 152
    - Manual Bank Account Reconciliation 153
    - preconfigured processing options for Account Balance to Transaction Report (R09705) 491
    - preconfigured processing options for Account Balance without Account Master Report (R097031) 491
    - preconfigured processing options for Account Ledger Inquiry – AA Ledger (P09200) 398
    - preconfigured processing options for Account Master by Company (R09205P) 469
    - preconfigured processing options for Account Master Word Search Build (R0901WS) 470
    - preconfigured processing options for Account Revisions (P0901) 469
    - preconfigured processing options for Accounts Without Business Units (R097041) 491
    - preconfigured processing options for Address Book (P01012) 468
    - preconfigured processing options for Balance Sheet (R10111B) 412
    - preconfigured processing options for BA Ledger (P0902P1) 237
    - preconfigured processing options for Batches Out of Balance – GL Only (R007032) 490, 505
    - preconfigured processing options for Batch Header to Transaction – GL Only (R007031) 488
    - preconfigured processing options for Batch Version for General Acctg Journals (P0011) 109, 236
    - preconfigured processing options for Budget Journal Entry (P0900049) 235
    - preconfigured processing options for Budget Worksheet (R14113) 238
    - preconfigured processing options for Default Journal Entry MBF Options (P0900049) 106
    - preconfigured processing options for Detailed Budget by Account (P14101) 234
    - preconfigured processing options for General Journal by Batch (R09301) 109
    - preconfigured processing options for General Journal by Object Account (R09311) 109
    - preconfigured processing options for General Journal Post (R09801) 110
    - preconfigured processing options for General Ledger by Business Unit (R09420) 405



preconfigured processing options for  
General Ledger by Object Account  
(R09421) 407

preconfigured processing options  
for General Ledger with Subledger  
Totals (R09422) 408

preconfigured processing options  
for Income Statement – Company  
00001 (R10211B) 411

preconfigured processing options  
for Journal Entries– Budgeting  
(P0911) 234

preconfigured processing options for  
Journal Entries (P0911) 106

preconfigured processing options for  
Journal Entries with Debit/Credit  
Format (P0911) 107

preconfigured processing options  
for Refresh Reconciliations File  
(R09130) 153

preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14102) 233

preconfigured processing options for  
Requested Budgets (P14103) 233

preconfigured processing options for  
Spread Annual Budget to Periods  
(R14801) 234

preconfigured processing options  
for Transaction by Object  
(R09423) 411

preconfigured processing options  
for Transaction by Subsidiary  
(R09424) 410

preconfigured processing options for  
Transaction Journal (R09321) 410

preconfigured processing options for  
Transactions to Batch Header – GL  
Only (R007021) 488

preconfigured processing options  
for Transactions Without Account  
Master (R097021) 491

preconfigured processing options  
for Trial Balance by Business Unit  
(R09410) 402

preconfigured processing options  
for Trial Balance by Company  
(P09216) 400

preconfigured processing options  
for Trial Balance by Object  
(P09214) 399

preconfigured processing options  
for Trial Balance by Object  
(R094121) 403

preconfigured processing options for  
Trial Balance by Obj Sub (Dr/Cr  
Format) (R09473) 404

preconfigured processing options  
for Trial Balance by Subledger  
(P09215) 400

preconfigured processing options for  
Trial Balance / Ledger Comparison  
(P09210A) 401

preconfigured processing options for  
Variance Analysis 5 Months Actual  
– Company 00001 (R10411A) 415

preconfigured processing options  
for Variance Analysis – Company  
00001 (R10212A) 413

Reviewing Financial Reports and  
Inquiries 395

Vertex

売上税 33

## あ

アップロード/変換の改訂  
(P0902Z1) 242, 249

処理オプション 242

アップロード/変換 (R14110) 249

処理オプション 249

アプリケーションの基礎 xxxvii

## い

一般会計  
インテグレーション 2

機能 9

システム セットアップ 13

テーブル 515

標準ワークフロー 559

一般会計の資金予測データの抽出  
(R09522) 268

印刷・製本されたドキュメンテーショ  
ン xxxviii

インテグレーション オプション 37

インデックス計算および印刷  
(R093021) 134

処理オプション 137

## う

売掛管理の資金予測データの抽出  
(R03B522) 268

## お

## オフライン処理

概要 119  
処理済み仕訳の除去 124  
仕訳のアップロード 122  
仕訳の作成 121  
仕訳の追加 121  
取引制御レコードの更新 124  
バッチ処理 122  
バッチ処理の実行 123  
マスター テーブルのダウンロード 119, 120

## オフライン仕訳の処理 (P0911Z1)

処理オプション 117

## オフライン仕訳バッチ処理 (R09110ZS)

処理オプション 123

## オンライン集計

オンライン財務諸表の検討 306  
会計レポート構造 293  
会計レポート構造の作成 294  
概要 289  
カテゴリ コード別のビジネスユニット  
集計 300  
検討 304  
作成 300  
ビジネスユニットの集計 302  
ビジネスユニットの追加作成 297, 298  
レポート構造の確認 297  
レポート構造のコピー 297, 299  
レポート構造の再編成 297  
レポート構造の作成 295  
レポート構造の追加 296  
レポート構造の定義 294, 295  
レポート構造別のビジネスユニットの  
集計 301

## オンライン集計 (P09218)

処理オプション 304

## オンライン照会

概要 349  
勘定科目の照会 (カテゴリ コード別)  
(P09202) 351, 365, 366  
勘定科目の照会 (主科目別)  
(P09201) 351, 363, 364  
勘定残高 (月別) (P0902P1) 351, 367,  
368

勘定残高 (補助元帳別)

(P092131) 351, 369

試算表 350

試算表 (会社別) (P09216) 350, 358

試算表 (主科目別) (P09214) 350,  
355, 356

試算表と元帳の比較 (P09210A) 350,  
351, 352, 354

試算表 (補助元帳別) (P09215) 350,  
359

代替勘定科目の照会 (P09218A) 351

取引明細照会 (P09200) 351, 360,  
362

オンライン予算比較 (P09210A) 223

処理オプション 224

## か

## 買掛管理の資金予測データの抽出

(R04522) 268

## 会計期間

再計算 452

締め処理 471, 472, 474, 475

## 会計期間パターン

再計算 452

変更 452

## 会計年度

再計算 452

締め処理 477, 479, 480

締め処理の準備 479

年度締めレポートのエラー メッセージ 480

予算用締め処理 482

## 会計年度と期間の計算 (R099103)

処理オプション 454

## 架空ビジネスユニット 309

## カスタム再フォーマット UBE

(R09501) 161

処理オプション 161

## カテゴリ コード

レポート 562, 586

## カテゴリコードの更新 F0101 -&gt; F0006 プ

ログラム (R098021) 466

## 借方/貸方の調整 (P09131) 155

## 借方と貸方の調整 156

手動残高調整 156

プロセス 155

## 仮勘定 167

## カレンダー期間パターン

再計算 452

変更 453

勘定科目  
 一括更新 464  
 残高 433  
 変更 463  
 勘定科目合計（仕入先/顧客別）  
 （R09451） 584  
 処理オプション 584  
 勘定科目構造  
 改訂 456  
 勘定科目構造の作成（R10430） 319  
 処理オプション 321  
 勘定科目構造の照会/改訂  
 （P10440） 322  
 勘定科目構造の定義（P10430A） 319  
 勘定科目構造レポート（R10445） 322  
 処理オプション 323  
 勘定科目情報の変更（R09813） 463  
 処理オプション 464  
 勘定科目の照会（カテゴリ コード別）  
 （P09202） 365  
 処理オプション 366  
 勘定科目の照会（主科目別）（P09201）  
 処理オプション 364  
 勘定科目表  
 改訂 455  
 勘定科目別申請済み予算（P14103）  
 処理オプション 214  
 勘定科目別予算明細（P14101） 228  
 勘定科目マスターなしの勘定残高  
 （R097031）  
 処理オプション 439  
 勘定科目マスターなしの取引  
 （R097021） 440  
 処理オプション 440  
 勘定科目マスター レコードの削除  
 （R09814） 512, 513  
 処理オプション 513  
 勘定残高（月別）（P0902P1） 367  
 処理オプション 368  
 勘定残高と取引の整合性（R09705） 436  
 処理オプション 435  
 勘定残高（補助元帳別）（P092131） 369  
 関連ドキュメンテーション xxxviii

## き

期末, 参照: 会計期間  
 キャッシュフロー計算書, 参照: キャッ  
 シュフロー計算書  
 概要 69, 382  
 キャッシュフロー活動コード 70

キャッシュフロー規則 71  
 キャッシュフロー規則の設定 72  
 作成 385  
 通常残高コード 70  
 例 383  
 キャッシュフロー計算書レポート  
 （R10521） 382  
 処理オプション 385  
 共通フィールド xlii  
 銀行勘定科目 145  
 関連項目: 銀行勘定科目の残高調整  
 相互参照の設定 45  
 銀行勘定科目の残高調整  
 銀行勘定の手動残高調整 148  
 手動残高調整 149  
 調整済み取引の未調整への変  
 更 151  
 調整ワークファイルの再作成 146,  
 147  
 無効な支払の残高調整 145  
 無効入金の残高調整 145  
 レポート 148  
 銀行残高照合表, 参照: 自動銀行残高  
 照合表  
 概要 165  
 仮勘定 167  
 銀行残高照合表取引の入力 168  
 銀行残高照合表の処理 176  
 調整レポート 179  
 調整ワークファイルの再作成 174  
 取引コード 166  
 取引の入力 172  
 入金バッチの処理 179  
 銀行残高照合表の入力（P09160）  
 処理オプション 169  
 銀行残高照合表のロード（R09612） 191  
 処理オプション 192  
 銀行テープの残高調整  
 概要 159  
 勘定科目の残高調整情報の更  
 新 162  
 銀行テープの再フォーマット 161  
 決済済みの取引の調整 162  
 検証 163  
 レポート 163  
 銀行取引明細処理（R09170）  
 処理オプション 177  
 銀行取引明細処理プログラム  
 （R09170） 176

## け

警告 xli  
 経由保管場所テーブルの除去 (R09610)  
   処理オプション 204  
 現金主義会計  
   AAI 77  
   AA 元帳への伝票タイプの割り当て 77  
   売掛管理の仕訳 276, 277  
   買掛管理の仕訳 276, 277  
   概要 75, 275  
   現金主義会計仕訳 276  
   現金主義会計仕訳の検討 283  
   残高調整勘定の AAI の設定 78  
   仕訳の転記 283  
   数量の仕訳 276  
   伝票タイプ 75  
   伝票タイプの設定 76  
   発生主義会計の仕訳 275  
   マルチスレッド ジョブ待ち行列 280  
   未充当入金 AAI の設定 77  
   元帳への入力 276  
   例外レポート 282  
   例外レポートに表示されるエラー 282

## こ

ご意見 xlii  
 固定情報  
   概要 14  
   設定 16  
 ご要望 xlii

## さ

再転記  
   再転記の実行状況 448  
   プログラム 447, 449  
 差異分析 (5 か月分) (R10411A)  
   処理オプション 392  
 差異分析 (R10212A) 391  
   処理オプション 391  
 債務 227  
 財務レポート  
   概要 373  
   集計レポート 387  
   貸借対照表 377  
   報告日付の変更 476  
   関連項目: 財務報告日付  
 作業オーダー  
   スピード勘定科目入力 86

残高集計仕訳 (R10480) 344  
   処理オプション 345  
 残高調整 (P09131)  
   処理オプション 149  
 残高調整グループ  
   グループの銀行残高照合表勘定への割り当て 52  
   自動銀行残高照合表 48  
 残高調整テーブルの再作成 (R09130) 146, 162, 174  
   処理オプション 147  
 残高調整ルール  
   自動銀行残高照合表 47  
   設定 48  
   ルールのグループへの割り当て 51  
 残高調整レポートの印刷 (R09132P) 148

## し

資金タイプ規則  
   設定 61, 63  
 資金予測  
   概要 59  
   資金タイプ規則 60  
   資金タイプ規則の設定 61, 63  
   資金タイプコード 59  
   情報の分析 270, 272  
   データの除去 273, 274  
   データのリフレッシュ 267, 269  
   プロセス 267  
   レポート構造 65  
   レポート構造の定義 66  
 資金予測データの除去 (R09522B) 273  
   処理オプション 274  
 資金予測データのリフレッシュ (R00522) 267  
   処理オプション 269  
 資金予測分析 (P09522) 267, 270  
   処理オプション 271  
 資金予測レポート (R095221) 270  
 資金予測レポート構造の設定 (P09523)  
   処理オプション 66  
 試算表  
   オンライン照会 350  
   会社別残高の検討 358  
   主科目別残高の検討 355, 356  
   照会 350  
   補助元帳別残高の検討 359  
   元帳比較の検討 352, 354  
   レポート 561  
 試算表 (会社別) (P09216) 358

- 処理オプション 358
- 試算表 (カテゴリコード別) - 借方/貸方形式 (R09472) 586
- 試算表 (主科目別) (P09214) 355
  - 処理オプション 355
- 試算表 (主科目別) (R094121) 577
- 試算表と元帳の比較 (P09210A) 352
  - 処理オプション 352
- 試算表 (補助元帳別) (P09215) 359
  - 処理オプション 359
- システム セットアップ
  - 概要 13
- 自動銀行残高照合表 37
  - BAI2 変換フロー 187
  - SWIFT 変換フロー 187
  - UDC 38
  - 概要 185
  - 銀行勘定残高調整 47
  - 銀行口座相互参照 44
  - 銀行残高照合表テーブルへのデータのロード 191
  - 銀行残高照合表変換フローの実行 187
  - グループの銀行残高照合表勘定への割り当て 52
  - 経由保管場所テーブル 188
  - 顧客番号のない取引の改訂 195
  - 残高調整グループ 48
  - 残高調整ルール 47, 48
  - 残高調整ルールの割り当て 51
  - 処理 196
  - 相互参照の設定 45
  - 電子銀行残高照合表の改訂 189
  - データの改訂 192, 194
  - テーブルの除去 204
  - 日付パターンのインテグレーション オプションの設定 38
  - プロセス 186
  - 変換フローのインテグレーション オプションの設定 37
  - 変換フロー 187
  - 変換フローのフィールドのマッピング 535
  - 未調整取引の調整 199, 200
  - 未調整メッセージ 197
  - レポート 197
- 自動銀行残高照合表テーブルの除去 (R09615)
  - 処理オプション 205
- 自動銀行残高照合表の改訂 (P09616)
  - 処理オプション 193
- 自動銀行残高照合表の処理 (R09616) 196
  - 処理オプション 198
- 自動仕訳 (AAI)
  - 貸借対照表 378
- 締め処理
  - 会計期間 471, 472, 474, 475
  - 会計年度 477
- 集計, 参照: オンライン集計, 複数サイトの集計, バッチ集計
- 集計規則 323
- 集計コンソール (P10610) 335, 339
  - 処理オプション 340
- 集計処理 (R10550) 327, 328
  - 処理オプション 328
- 集計損益計算書 - 7 桁式 (R103121A)
  - 処理オプション 388
- 集計損益計算書 (R10250)
  - 処理オプション 334
- 集計貸借対照表 (R10150)
  - 処理オプション 333
- 集計貸借対照表 (R10311A) 389
  - 処理オプション 389
- 集計データ送信 (R10610) 337
  - 処理オプション 338
- 集計データの再作成 (R10862) 307, 309
  - 処理オプション 310
- 集計の検討 (P09210A) 311
  - 処理オプション 311
- 集計の仕様 (P10470) 323
- 主科目
  - 一括更新 458, 460
- 主科目別取引 (R09423) 582
- 主科目/補助科目制御ファイルの作成 (R10909) 317
  - 処理オプション 318
- 主科目/補助科目制御例外 (R107021)
  - 処理オプション 333
- 受信集計データの改訂 (P1002Z1) 343
- 受信集計データの処理 (R1002Z1) 341
  - 処理オプション 342
- 手動銀行残高照合表の残高調整 (P09631) 199
  - 処理オプション 200
- 除外規則 324
- 除去
  - 前年度勘定残高 512
  - 前年度レコード 510
- 処理オプション 156, 288

- 52 期間会計転記 (R098011) 286  
 G/L 予算チェック レポート  
 (R14115) 227  
 UDC 制御ファイルの作成  
 (R10005) 318  
 アップロード/変換の改訂  
 (P0902Z1) 242  
 アップロード/変換 (R14110) 249  
 インデックス計算および印刷  
 (R093021) 137  
 オフライン仕訳の処理 (P0911Z1) 117  
 オフライン仕訳バッチ処理  
 (R09110ZS) 123  
 オンライン集計 (P09218) 304  
 オンライン予算比較 (P09210A) 224  
 会計年度および期間の計算  
 (R099103) 454  
 カスタム再フォーマット UBE  
 (R09501) 161  
 勘定科目合計 (仕入先/顧客別)  
 (R09451) 584  
 勘定科目構造の作成 (R10430) 321  
 勘定科目構造レポート (R10445) 323  
 勘定科目情報の変更 (R09813) 464  
 勘定科目の照会 (主科目別)  
 (P09201) 364  
 勘定科目別申請済み予算  
 (P14103) 214  
 勘定科目マスターなしの勘定残高  
 (R097031) 439  
 勘定科目マスターなしの取引  
 (R097021) 440  
 勘定科目マスター レコードの削除  
 (R09814) 513  
 勘定残高 (月別) (P0902P1) 368  
 勘定残高と取引の整合性  
 (R09705) 435  
 キャッシュ フロー計算書レポート  
 (R10521) 385  
 銀行残高照合表の入力 (P09160) 169  
 銀行残高照合表のロード  
 (R09612) 192  
 銀行取引明細処理 (R09170) 177  
 経由保管場所テーブルの除去  
 (R09610) 204  
 差異分析 (5 か月分) (R10411A) 392  
 差異分析 (R10212A) 391  
 残高集計仕訳 (R10480) 345  
 残高調整 (P09131) 149  
 残高調整テーブルの再作成  
 (R09130) 147  
 資金予測データの除去  
 (R09522B) 274  
 資金予測データのリフレッシュ  
 (R00522) 269  
 資金予測分析 (P09522) 271  
 資金予測レポート構造の設定  
 (P09523) 66  
 試算表 (会社別) (P09216) 358  
 試算表 (主科目別) (P09214) 355  
 試算表と元帳の比較 (P09210A) 352  
 試算表 (補助元帳別) (P09215) 359  
 自動銀行残高照合表テーブルの除  
 去 (R09615) 205  
 自動銀行残高照合表の改訂  
 (P09616) 193  
 自動銀行残高照合表の処理  
 (R09616) 198  
 集計コンソール (P10610) 340  
 集計処理 (R10550) 328  
 集計損益計算書 - 7 析式  
 (R103121A) 388  
 集計損益計算書 (R10250) 334  
 集計貸借対照表 (R10150) 333  
 集計貸借対照表 (R10311A) 389  
 集計データ送信 (R10610) 338  
 集計データの再作成 (R10862) 310  
 集計の検討 (P09210A) 311  
 主科目/補助科目制御ファイルの作  
 成 (R10909) 318  
 主科目/補助科目制御例外  
 (R107021) 333  
 受信集計データの処理  
 (R1002Z1) 342  
 手動銀行残高照合表の残高調整  
 (P09631) 200  
 仕訳の検討 (P0011) 97  
 仕訳の作成プログラム (R11C850) 281  
 仕訳のバッチ処理 (R09110Z) 115  
 前期残高の整合性 (R10700) 332  
 前年度仕訳の除去 (R09911) 511  
 総勘定元帳への転記 (R09801) 99  
 組織構造の照会/改訂 (P0050) 298  
 損益計算書 (R10211B) 376  
 貸借一致の会社間勘定科目  
 (R097011) 433  
 貸借対照表 (R10111B) 378  
 貸借不一致のバッチ (R007032) 427  
 月別損益計算書 (R10412A) 390

定期仕訳の計算および印刷  
 (R09302) 132  
 テープ ファイルと残高調整テーブルの  
 一致 (R09510) 163  
 取引とバッチ見出しの整合性  
 (R007021) 420  
 取引の集計 (R09811) 509  
 取引明細照会 (P09200) 361  
 取引明細の再転記 (R099102) 450  
 年間予算の期間配賦 (R14801) 220  
 年度締め (R098201) 481  
 バッチと取引明細の整合性  
 (R007031) 424  
 バッチ別貸借不一致の会社  
 (R09706) 429  
 ビジネスユニット/会社の削除  
 (R09925) 514  
 ビジネスユニット/勘定科目月次比較  
 (R10701) レポート 333  
 ビジネスユニット構造の作成  
 (R10450) 295  
 ビジネスユニットなしの勘定科目  
 (R097041) 438  
 ビジネスユニット別申請済み予算  
 (P14102) 214  
 変数配賦計算および印刷  
 (R093022) 142  
 補助科目別取引 (R09424) 583  
 前の集計の削除 (R10861) 308  
 ユーザー定義コード値制御例外  
 (R107011) 332  
 予算インポートフィールドのマッピング  
 (R14110M) 246  
 予算への予測の適用 (R1407) 264  
 予算ワークシート (R14113) 222  
 予測基準の自動作成 (R1403) 257  
 予測結果の自動作成 (R1404) 261  
 仕訳 114, 119  
 関連項目: オフライン処理; バッチ処理  
 エラー メッセージ 91  
 概要 83  
 勘定科目コード セグメントのコピー 86  
 基本 85  
 基本入力 90  
 逆 85, 94, 103  
 逆仕訳の確認 94  
 逆の入力 94  
 検討 98  
 コピー 93

作業オーダー用仕訳のスピード勘定  
 科目入力 86  
 作成 84  
 種類 85  
 転記 98, 102  
 転記処理 98  
 転記済み逆仕訳の無効 103, 105  
 転記済みの改訂 103, 104  
 転記済みの無効化 104  
 添付の追加 91  
 バッチ処理 113  
 パーセント 85  
 パーセントの入力 92  
 未転記の改訂 93  
 未転記の削除 94  
 未転記を逆仕訳に変更 95  
 未登録勘定科目コードの許可 87  
 無効化 103  
 モデル 85, 95  
 モデル仕訳のコピー 96  
 モデル仕訳の作成 96  
 モデルの選択 97  
 仕訳帳  
 レポート 561  
 仕訳帳 (勘定科目別) (R09311) 571  
 仕訳入力マスター ビジネス関数  
 (P0900049) 89  
 仕訳の検討 (P0011)  
 処理オプション 97  
 仕訳の作成 (R11C850) 275, 280, 281  
 仕訳の作成プログラム (R11C850)  
 処理オプション 281  
 仕訳のバッチ処理 (R09110Z) 114  
 処理オプション 115

## す

スピード コード  
 AAI 31  
 例 31  
 スプレッドシート  
 月別損益計算書の印刷 390  
 月別損益計算書の概要 390

## せ

整合性 331  
 関連項目: レポート  
 エラー メッセージ 428, 429, 431, 432,  
 434, 437, 439  
 概要 417

不一致状態 430, 433  
 レポート 418, 420, 423, 426, 428, 430, 438, 439  
 政府に対するレポート 350  
 前期残高の整合性 (R10700)  
   処理オプション 332  
 前提知識 xxxvii  
 前年度勘定残高の除去 (R09912) 512  
 前年度仕訳の除去 (R09911) 510, 511  
   処理オプション 511

## そ

総勘定元帳  
 レポート 562  
 総勘定元帳 (カテゴリ コード別)  
   (R09470) 584  
 総勘定元帳 (主科目別) (R09421) 578  
 総勘定元帳への転記 (R09801)  
   処理オプション 99  
 総勘定元帳 (補助元帳合計)  
   (R09422) 580  
 相互参照 xli  
 組織構造の照会/改訂 (P0050) 297  
   処理オプション 298  
 組織構造の定義 (P0050B) 294  
 損益計算書 375  
   損益計算書の作成 388  
 損益計算書 (R10211B)  
   処理オプション 376

## た

貸借一致の会社間勘定科目  
   (R097011) 433, 434  
   処理オプション 433  
 貸借対照表 377  
   作成 378  
   集計貸借対照表の作成 389  
   当期利益計算 377  
 貸借対照表 (R10111B)  
   処理オプション 378  
 貸借一致の会社 (R097001) 430  
 貸借不一致のバッチ (R007032) 426  
   処理オプション 427  
 貸借不一致のバッチ レポート  
   (R09706) 428

## ち

注 xl  
 注意事項 xl

調整, 参照: 銀行テープの残高調整, 借方と貸方の調整, 銀行勘定科目の残高調整

## つ

追加ドキュメンテーション xxxviii  
 月別損益計算書 (R10412A) 390  
   処理オプション 390

## て

定期仕訳の計算および印刷  
   (R09302) 129  
   処理オプション 132  
 転記  
   総勘定元帳 98  
 電子銀行残高照合表の改訂  
   (P09610) 188  
 添付  
   仕訳に追加 91  
 テープ ファイルと残高調整テーブルの一致 (R09510)  
   処理オプション 163  
 テープ ファイルと残高調整テーブルの照合 (R09510) 162

## と

導入  
   一般会計 5  
 ドキュメンテーション  
   印刷・製本 xxxviii  
   関連 xxxviii  
 取引仕訳 (R09321) 571  
 取引とバッチ見出しの整合性  
   (R007021) 441  
   処理オプション 420  
 取引の集計 (R09811) 507, 509  
   処理オプション 509  
 取引明細照会 (P09200)  
   処理オプション 361  
 取引明細の再転記 (R099102) 447  
   処理オプション 450

## ね

年間金額の各期間への配賦  
   予算入力時 218  
 年間予算の期間配賦 (R14801)  
   処理オプション 220  
 年度締め (R098201) 480  
   処理オプション 481



## は

## 配賦

- インデックス配賦 132, 135, 136
- インデックス配賦例 133
- 概要 125
- タイプ 125
- 多階層 127
- 定期仕訳 129, 130, 131
- プロセス 126
- 変数配賦 138, 139, 140, 142
- 変数配賦例 139

## バッチ集計

- 概要 290, 307
- 架空ビジネスユニット 309
- 検討 311, 313
- 作成 309, 310
- 前の集計の削除 308
- 例 290

## バッチ処理

- エラー 114
- システム外で調整した取引のフィールドのマッピング 532
- 収益性分析システムの必須フィールド 523
- 処理済みバッチ仕訳の転記 117
- 処理済みレコードの除去 118
- 仕訳のアップロード 114
- 仕訳のフィールドのマッピング 519
- 任意フィールド 523
- バッチ処理の実行 115
- バッチ仕訳処理 116
- バッチ仕訳の処理 113
- 必須フィールド 519
- 無視されるフィールド 531
- バッチ仕訳処理 (R09110Z) 346
- バッチと取引明細の整合性 (R007031) 441
  - 処理オプション 424
- バッチ別貸借不一致の会社 (R09706)
  - 処理オプション 429
- バッチ見出し
  - 貸借不一致の転記 445
  - 転記済み詳細 423
  - 未作成 423
  - レコードの改訂 441, 444
  - レコードの検討 443
  - レコードの追加 444
- バッチ見出しの改訂 (P0011) 441

## ひ

## ビジネスユニット

- 一括更新 460
- 会社番号の変更 461
- 削除 513
- 複数勘定科目の変更 457, 458
- 補足データ 32
- ビジネスユニット/会社の削除 (R09925) 513, 514
  - 処理オプション 514
- ビジネスユニット/勘定科目月次比較 (R10701) レポート
  - 処理オプション 333
- ビジネスユニット構造の作成 (R10450)
  - 処理オプション 295
- ビジネスユニットなしの勘定科目 (R097041) 438
  - 処理オプション 438
- ビジネスユニットの変更 (P09812) 457
- ビジネスユニット別申請済み予算 (P14102)
  - 処理オプション 214
- 表記規則 xl
- 標準勘定科目の仕訳への反映 (R09806) 460, 461

## ふ

## フォーム

- [元帳タイプ規則の設定] 24
- 複数サイトの集計
  - F1001Z1 テーブルの任意フィールドのマッピング 554
  - F1001Z1 テーブルの必須フィールド 553
  - F1001Z1 テーブルの無視されるフィールド 556
  - F1002Z1 テーブルの任意フィールドのマッピング 557
  - F1002Z1 テーブルの必須フィールド 556
  - F1002Z1 テーブルのフィールドのマッピング 556
  - F1002Z1 テーブルの無視されるフィールド 558
- 概要 291
- 勘定科目構造 319
- 勘定科目構造の印刷 322
- 勘定科目構造の改訂 322
- 勘定科目構造の作成 319, 321

勘定科目構造の定義 319, 320  
 構造の定義 316  
 集計規則の定義 323, 324  
 集計残高の作成 327  
 集計残高の送信 337, 339, 340  
 集計状況 335  
 集計のアップロード 341  
 受信集計の改訂 343  
 受信集計の除去 343  
 受信集計の処理 342  
 受信複数サイト集計のフィールドの  
   マッピング 553  
 状況の検討 336  
 除外規則 324  
 除外規則の定義 326  
 除去 346, 347  
 処理 328, 346  
 制御ファイル レポート 317  
 送信プログラム 337  
 組織構造 318  
 ソース サイト 315, 316  
 ターゲット サイト 315, 316  
 バッチ仕訳の処理 347  
 バッチ仕訳の生成 345  
 複数階層 316  
 複数サイトのバッチ仕訳の生成 344  
 プロセス 315  
 レポート 330, 331  
 レポートに表示されるエラー 332

## へ

変数配賦計算および印刷 (R093022)  
 処理オプション 142

## ほ

法定プログラム 350  
 補助科目  
   一括更新 459, 460  
 補助科目の変更 (P09805) 459  
 補助科目別取引 (R09424) 583  
   処理オプション 583  
 補足データ  
   ビジネスユニットの設定 32

## ま

前の集計の削除 (R10861) 307, 308  
   処理オプション 308  
 マスター ビジネス関数 89  
 マルチスレッド ジョブ待ち行列

52 期間会計 285  
 現金主義会計 280

## み

未転記バッチ 426  
 未転記バッチ (R007011) 426  
 未転記レポート (R09301) 283  
 未登録勘定科目コード 87

## も

モデル/集計フィールドの更新  
 (R0006QD) 465  
 元帳タイプ  
   規則の設定 24  
   設定 22

## ゆ

ユーザー定義コード値制御例外  
 (R107011)  
   処理オプション 332

## よ

予算 253  
   関連項目: 予算の予測と計画  
   インポートされたデータの F0902 テー  
   ブルへのアップロード 249  
   インポートされたデータのアップロー  
   ド 249  
   インポートされたデータの改訂 247  
   オンラインでの予算/実績比較 225  
   オンライン予算検討 223  
   概要 207  
   勘定科目別の年間予算金額の入  
   力 217  
   勘定科目別予算明細 228  
   勘定科目別予算明細金額の入  
   力 229  
   金額と債務 227  
   サイクル 213  
   処理済みレコードの除去 252  
   スプレッドシートからのデータのイン  
   ポート 242, 243  
   スプレッドシートのガイドライン 242  
   年間金額の配賦 220  
   年間予算 213  
   年間予算の配賦 218, 219  
   ビジネスユニット別の年間予算金額  
   の入力 215  
   変数配賦の使用 138

方法 208  
 予算/実績のオンライン比較 225  
 予算仕訳 208, 230  
 予算仕訳の入力 230  
 予算チェック計算 226  
 予算超過の管理 226  
 予算パターン 208  
 予算パターン コードの作成 210  
 予算パターン コードの変更 211  
 ワークシート 220, 221  
 予算インポート フィールドのマッピング  
 (R14110M) 244, 245  
 処理オプション 246  
 予算実績差異分析 (5 か月分)  
 (R10411A) 392  
 予算のインポート  
 F0902Z1 テーブルへのデータ変  
 換 244  
 予算の予測と計画  
 勘定科目定義 255  
 勘定科目と基準金額の改訂 258  
 勘定科目と基準金額の自動作  
 成 255, 257  
 基準金額 255  
 手作業による勘定科目の定義と基準  
 金額の取り込み 255, 256  
 プロセス 254  
 予算予測の改訂 261, 262  
 予測金額の作成 260, 261  
 予測の更新 264  
 予測の除去 265  
 予測レコードの更新 264  
 予算への予測の適用 (R1407) 264  
 処理オプション 264  
 予算ワークシート (R14113) 220  
 処理オプション 222  
 予測基準の改訂 (P1403) 255  
 予測基準の自動作成 (R1403) 255  
 処理オプション 257  
 予測結果の自動作成 (R1404) 260  
 処理オプション 261  
 予測と計画 258  
 関連項目: 予算の予測と計画

## れ

レポート  
 G/L 予算チェック レポート  
 (R14115) 226  
 UDC 制御ファイルの作成  
 (R10005) 317

カテゴリ コード 562  
 勘定科目合計 (仕入先/顧客別)  
 (R09451) 584  
 勘定科目構造レポート (R10445) 322  
 勘定科目マスターなしの勘定残高  
 (R097031) 419, 439  
 勘定科目マスターなしの取引  
 (R097021) 419, 440  
 勘定残高と取引の整合性  
 (R09705) 419, 436  
 キャッシュ フロー計算書レポート  
 (R10521) 382  
 差異分析 (R10212A) 391  
 残高調整レポートの印刷  
 (R09132P) 148  
 資金予測レポート (R095221) 270  
 試算表 561  
 試算表 (カテゴリ コード別) - 借方/貸  
 方形式 (R09472) 586  
 試算表 (主科目別) (R094121) 577  
 自動銀行残高照合表処理  
 (R09616) 197  
 集計損益計算書 (R10250) 331, 334  
 集計貸借対照表 (R10150) 331, 333  
 主科目別取引 (R09423) 582  
 主科目/補助科目制御 (R107021) 331,  
 332  
 主科目/補助科目制御ファイルの作  
 成 (R10909) 317  
 仕訳帳 561  
 仕訳帳 (勘定科目別) (R09311) 571  
 前期残高の整合性 (R10700) 332  
 総勘定元帳 562  
 総勘定元帳 (カテゴリ コード別)  
 (R09470) 584  
 総勘定元帳 (主科目別) (R09421) 578  
 総勘定元帳 (補助元帳合計)  
 (R09422) 580  
 損益計算書 (R10211B) 375  
 貸借一致の会社間勘定科目  
 (R097011) 433  
 貸借一致の会社 (R097001) 419, 430  
 貸借一致の会社間勘定レポート  
 (R097011) 419  
 貸借不一致のバッチ (R007032) 419,  
 426  
 貸借不一致のバッチ (R09706) 428  
 月別損益計算書 (R10412A) 390  
 取引仕訳 (R09321) 571

取引とバッチ見出しの整合性  
(R007021) 419, 420  
バッチと取引明細の整合性  
(R007031) 419, 423  
バッチ別貸借不一致の会社  
(R09706) 419  
ビジネスユニット/勘定科目月次比較  
(R10701) 331, 333  
ビジネスユニットなしの勘定科目  
(R097041) 419, 438  
補助科目別取引 (R09424) 583  
未転記バッチ (R007011) 419, 426  
未転記レポート (R09301) 283  
ユーザー定義コード値制御  
(R107011) 332  
ユーザー定義コード値制御例外  
(R107011) 331  
予算実績差異分析 (5 か月分)  
(R10411A) 392  
連絡先 xlii